

居徳遺跡群 V

四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2003.12

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

居徳遺跡群 V

四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2003.12

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

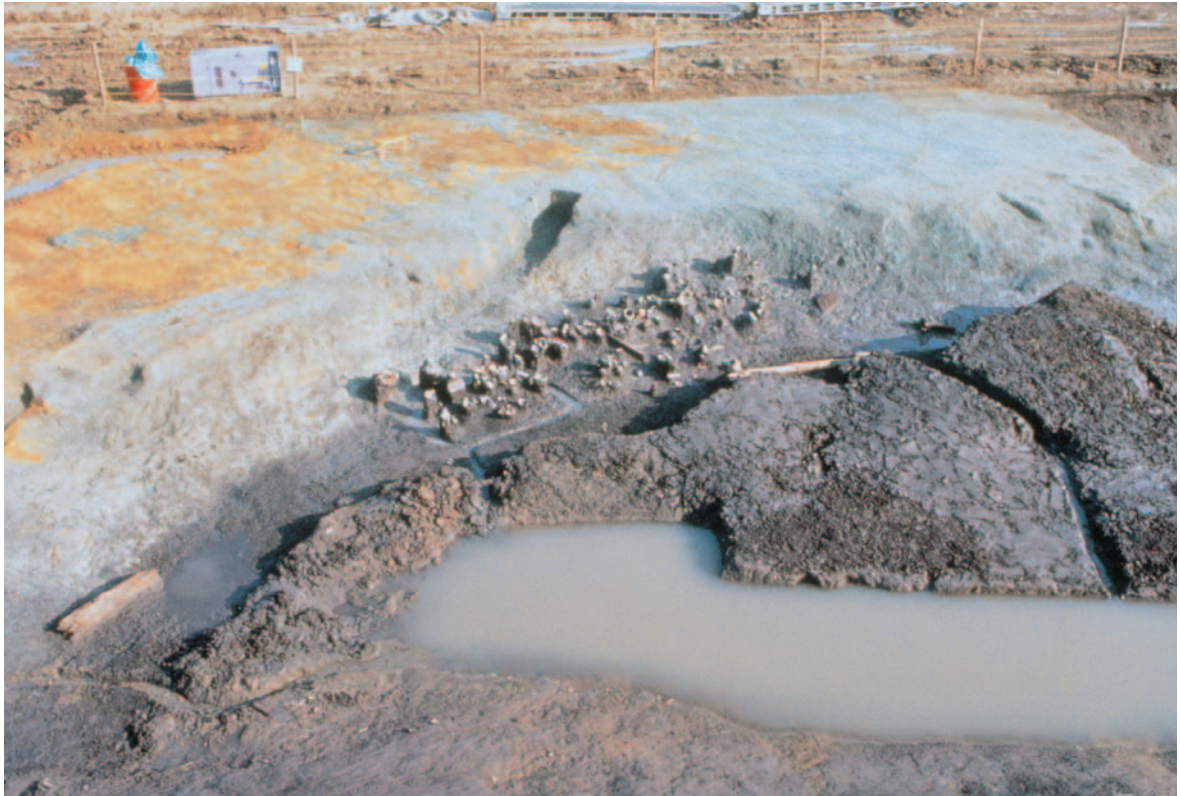


4 A区・4 B区完掘状態の空撮（東から）



4 A区・4 B区完掘状態の空撮（南から）

巻頭図版2



4 A区遺物出土状態（西から）



4 A区遺物出土状態（南東から）



4 A区遺物出土状態（南から）



4 A区遺物出土状態（北から）

巻頭図版4



4 A区木根周辺の出土状態（東から）



4 A区木根周辺の出土状態（西から）



4 A区遺物出土狀態

卷頭図版6



4 A区出土木製品



4 B 区遺物出土状態

巻頭図版8



4 B区SK1出土状態



4 A区・4 B区調査区遠景（北西から）

例 言

1. 本書は四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設に伴う、居徳遺跡群の発掘調査報告書第5集である。本書には調査4A区、4B区の調査成果、ならびに関連の付編を所収する。

2. 居徳遺跡群の所在地は、高知県土佐市高岡町乙居徳他である。

3. 調査期間ならびに発掘調査面積は次のとおりである。

	(調査期間)	(調査面積)
4A区	平成10年1月30日～平成10年3月18日	1,753㎡
4B区	平成10年5月27日～平成10年10月10日	1,863㎡

4. 発掘調査及び整理作業は、高知県教育委員会が日本道路公団四国支社と委託契約を締結し、財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターがこれを実施した。調査体制は以下のとおりである。

調査総括	古谷 硯志 (財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター)	・ 所長)	
同	津野 州夫 (同 上	・ 次長兼総務課長)
同	西川 裕 (同 上	・ 調査課長)
同	山本 哲也 (同 上	・ 調査第1班長)
同	出原 恵三 (同 上	・ 調査第3班長)
調査事務	吉岡 利一 (同 上	・ 総務課主幹)
同	大原 裕幸 (同 上	・ 総務課主幹)
同	石川 馨 (同 上	・ 総務課主幹)
同	田坂 京子 (同 上	・ 専門調査員)
同	大野 佳代子 (同 上	・ 専門調査員)
同	佐竹 寛 (同 上	・ 専門調査員)
同	曾我 貴行 (同 上	・ 調査員)
同	藤方 正治 (同 上	・ 調査員)
同	下村 裕 (同 上	・ 調査員)
技術補助員	小倉 功		
測量補助員	土居 寿美子		
同	中岡 きよ		
同	岩原 明美		

5. 本書の編集・執筆は藤方が行った。尚、付編1から3の執筆は松葉礼子、汐見 真、岡田文男、大澤正巳、鈴木瑞穂の各氏によるものである。

6. 遺構等の名称については、SK（土坑）、SR（自然流路）、SX（性格不明遺構）、P（柱穴及びピット状遺構）等の略号を使用する。それぞれの番号は各調査区における通し番号である。
7. 遺物実測図の縮尺は土器・土製品、石器・石製品が1/2と1/3、木器・木製品が1/1から1/4である。遺物番号は各調査区での通し番号であり、挿図及び写真図版中の番号と遺物番号は一致している。
8. 土層ならびに出土遺物の色調については『新版標準土色帖1996年版』の名称を使用した。
9. 遺跡の測量は、国土座標第IV系に則っておこなった。挿図中の北は原則として座標北である。また、挿図中の標高は海拔高を示す。
10. 発掘調査に際しては、地元高岡町清滝・東灘・西灘地区をはじめとした周辺地域にお住まいの方々の全面的な御理解と御協力、ならびに暖かい御支援を賜り、調査を円滑に進めることができました。記して衷心より謝意を表します。
11. 4B区出土の砂鉄については村上恭通氏（愛媛大学）、大澤正巳氏（九州テクノリサーチ）から御教授・御指導を賜った。記して衷心より謝意を表します。
12. 発掘調査に際しては、土佐市都市計画課、高知県土木部高速道路推進課の御協力を得た。また、発掘調査及び報告書作成に際しては、高知県立歴史民俗博物館、高知県教育委員会、財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターの諸氏から御助言・御協力を得た。衷心より謝意を表します。
13. 発掘調査にかかる掘削作業は工事請負方式とし、大豊建設株式会社（平成9年度）、不動建設株式会社（平成10年度）と委託契約を締結して実施し、工事の施行管理は社団法人高知県建設技術公社に委託した。工事に従事して頂いた多くの方々の御尽力により、調査を完遂することができた。記して衷心より謝意を表します。
14. 発掘調査に伴う測量基準点設置、航空写真撮影ならびに航空写真測量は、アジア航測株式会社に委託して実施した。
15. 自然遺物等の分析及び樹種同定は、株式会社パレオ・ラボに委託して実施した。
16. 木器・木製品の保存処理及び樹種同定は、株式会社吉田生物研究所に委託して実施した。
17. 砂鉄の分析は、株式会社九州テクノリサーチに委託して実施した。

18. 付編1から3には委託して行った分析等の結果、そのうち今回の報告に係わるものを掲載した。

19. 整理作業に際しては、次の方々に御尽力頂いた。御芳名を記して衷心より謝意を表します。

矢野 雅 宮本幸子 中西純子 小松経子 岩貞泰代 楠瀬憲子 前田玲子
高橋千代 久万公子 川井由香 内村富紀 元吉ゆみ子 岸ゆかり 岡宗真紀
入野三千子 橋田美紀 土居江里子

20. 遺跡の略号は下記のとおりとし、出土遺物の注記にはこれを使用した。

4 A区・・・「97-8 I T 4 A」

4 B区・・・「98-8 I T 4 B」

21. 出土遺物は財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターで保管している。

本文目次

第 I 章 調査の成果

(1) 4 A 区	3
(2) 4 B 区	125

付編 1 居徳遺跡群から出土した木製品と木材片の樹種同定	233
- 1 A 区, 4 A 区, 4 C 区出土の遺物 -	
	株式会社 パレオ・ラボ

付編 2 居徳遺跡群出土木製品の樹種調査結果	237
- 4 A 区, 4 B 区出土の遺物 -	
	株式会社 吉田生物研究所

付編 3 居徳遺跡群出土鉢入砂鉄の金属学的調査	241
- 4 B 区出土の遺物 -	
	株式会社 九州テクノリサーチ

挿図目次

Fig. 1	居徳遺跡群調査区配置図 (S : 1/2,000)	1~2
Fig. 2	4 A 区の位置 (S : 1/5,000)	3
Fig. 3	4 A 区全体図 (S : 1/200)	5~6
Fig. 4	4 A 区南壁セクション図 (S : 1/40)	8~10
Fig. 5	4 A 区SK1遺構平面図 (S : 1/40)	11
Fig. 6	4 A 区P 1・P 2遺構平面図 (S : 1/40)	11
Fig. 7	4 A 区中央ベルトセクション図 (S : 1/40)	12~13
Fig. 8	4 A 区Ⅲ e 層・Ⅲ c 層遺物分布図 (S : 1/40)	14
Fig. 9	4 A 区Ⅲ d 層遺物出土状態 1 (S : 1/30)	16
Fig.10	4 A 区Ⅲ d 層遺物出土状態 2 (S : 1/30)	17
Fig.11	4 A 区出土遺物 1 SK 1 (S : 1/3)	18
Fig.12	4 A 区出土遺物 2 Ⅲ e 層 (S : 1/3)	19
Fig.13	4 A 区出土遺物 3 Ⅲ e 層 (S : 1/3)	20
Fig.14	4 A 区出土遺物 4 Ⅲ e 層 (S : 1/3)	21
Fig.15	4 A 区出土遺物 5 Ⅲ c 層 (S : 1/3)	22
Fig.16	4 A 区出土遺物 6 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	23
Fig.17	4 A 区出土遺物 7 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	24
Fig.18	4 A 区出土遺物 8 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	25
Fig.19	4 A 区出土遺物 9 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	26
Fig.20	4 A 区出土遺物10 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	27
Fig.21	4 A 区出土遺物11 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	28
Fig.22	4 A 区出土遺物12 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	29
Fig.23	4 A 区出土遺物13 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	30
Fig.24	4 A 区出土遺物14 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	31
Fig.25	4 A 区出土遺物15 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	32
Fig.26	4 A 区出土遺物16 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	33
Fig.27	4 A 区出土遺物17 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	34
Fig.28	4 A 区出土遺物18 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	35
Fig.29	4 A 区出土遺物19 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	36
Fig.30	4 A 区出土遺物20 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	37
Fig.31	4 A 区出土遺物21 Ⅲ d 層 (S : 1/2, 1/3)	38
Fig.32	4 A 区出土遺物22 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	39
Fig.33	4 A 区出土遺物23 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	40
Fig.34	4 A 区出土遺物24 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	41
Fig.35	4 A 区出土遺物25 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	42
Fig.36	4 A 区出土遺物26 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	43
Fig.37	4 A 区出土遺物27 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	44
Fig.38	4 A 区出土遺物28 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	45
Fig.39	4 A 区出土遺物29 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	46
Fig.40	4 A 区出土遺物30 Ⅲ d 層 (S : 1/3)	47

Fig.41	4 A区出土遺物31	Ⅲ d層 (S : 1/3)	48
Fig.42	4 A区出土遺物32	Ⅲ d層 (S : 1/3)	49
Fig.43	4 A区出土遺物33	Ⅲ d層 (S : 1/3)	50
Fig.44	4 A区出土遺物34	Ⅲ d層 (S : 1/3)	51
Fig.45	4 A区出土遺物35	Ⅲ d層 (S : 1/3)	52
Fig.46	4 A区出土遺物36	Ⅲ d層 (S : 1/3)	53
Fig.47	4 A区出土遺物37	Ⅲ d層 (S : 1/3)	54
Fig.48	4 A区出土遺物38	Ⅲ d層 (S : 1/3)	55
Fig.49	4 A区出土遺物39	Ⅲ d層 (S : 1/3)	56
Fig.50	4 A区出土遺物40	Ⅲ d層 (S : 1/3)	57
Fig.51	4 A区出土遺物41	Ⅲ d層 (S : 1/3)	58
Fig.52	4 A区出土遺物42	Ⅲ d層 (S : 1/3)	59
Fig.53	4 A区出土遺物43	Ⅲ d層 (S : 1/3)	60
Fig.54	4 A区出土遺物44	Ⅲ d層 (S : 1/3)	61
Fig.55	4 A区出土遺物45	Ⅲ d層 (S : 1/3)	62
Fig.56	4 A区出土遺物46	Ⅲ d層 (S : 1/3)	63
Fig.57	4 A区出土遺物47	Ⅲ d層 (S : 1/3)	64
Fig.58	4 A区出土遺物48	Ⅲ d層 (S : 1/3)	65
Fig.59	4 A区出土遺物49	Ⅲ d層 (S : 1/3)	66
Fig.60	4 A区出土遺物50	Ⅲ d層 (S : 1/3)	67
Fig.61	4 A区出土遺物51	Ⅲ d層 (S : 1/3)	68
Fig.62	4 A区出土遺物52	Ⅲ d層 (S : 1/3)	69
Fig.63	4 A区出土遺物53	Ⅲ d層 (S : 1/3)	70
Fig.64	4 A区出土遺物54	Ⅲ d層 (S : 1/3)	71
Fig.65	4 A区出土遺物55	Ⅲ d層 (S : 1/2, 1/3)	72
Fig.66	4 A区出土遺物56	Ⅲ d層土製勾玉 (S : 1/2)	72
Fig.67	4 A区出土遺物57	Ⅲ b層 (S : 1/3)	75
Fig.68	4 A区出土遺物58	Ⅲ b層 (S : 1/3)	76
Fig.69	4 A区出土遺物59	Ⅲ b層 (S : 1/3)	77
Fig.70	4 A区出土遺物60	Ⅲ b層 (S : 1/3)	78
Fig.71	4 A区出土遺物61	Ⅲ b層土製勾玉 (S : 1/2)	78
Fig.72	4 A区出土遺物62	Ⅲ層群 (S : 1/3)	79
Fig.73	4 A区出土遺物63	その他の包含層 (S : 1/2, 1/3)	80
Fig.74	4 A区出土遺物64	Ⅲ e層・Ⅲ c層 (S : 1/3)	81
Fig.75	4 A区出土遺物65	Ⅲ d層 (S : 1/2, 1/3)	82
Fig.76	4 A区出土遺物66	Ⅲ d層 (S : 1/3)	83
Fig.77	4 A区出土遺物67	Ⅲ d層 (S : 1/3)	84
Fig.78	4 A区出土遺物68	Ⅲ d層 (S : 1/3)	85
Fig.79	4 A区出土遺物69	Ⅲ層群 (S : 1/3)	86
Fig.80	4 A区出土遺物70	Ⅲ d層 (S : 1/3)	87~88
Fig.81	4 A区出土遺物71	Ⅲ d層 (S : 1/2, 1/3)	89
Fig.82	4 A区出土遺物72	Ⅲ b層・Ⅲ層群 (S : 1/2, 1/3)	90

Fig.83	4 A区出土遺物73	Ⅲb層・Ⅲ層群 (S : 1/3, 1/4)	91~92
Fig.84	4 B区の位置	(S : 1/5,000)	125
Fig.85	4 B区全体図 (下層)	(S : 1/200)	127~128
Fig.86	4 B区全体図 (上層)	(S : 1/200)	129~130
Fig.87	4 B区南西壁セクション図	(S : 1/40)	132~134
Fig.88	4 B区西壁セクション図	(S : 1/40)	136~138
Fig.89	4 B区西壁セクション図 (下層)	(S : 1/40)	139
Fig.90	4 B区SK1遺構平面図	(S : 1/20)	140
Fig.91	4 B区SK2遺構平面図	(S : 1/20)	141
Fig.92	4 B区SK6・7遺構平面図	(S : 1/40)	141
Fig.93	4 B区SK3遺構平面図	(S : 1/20)	142
Fig.94	4 B区SK5遺構平面図	(S : 1/20)	143
Fig.95	4 B区南北ベルトセクション図	(S : 1/40)	144~146
Fig.96	4 B区遺物出土状態1	L6-1グリッド (S : 1/20)	148
Fig.97	4 B区遺物出土状態2	L6-1・2グリッド (S : 1/20)	149
Fig.98	4 B区遺物出土状態3	L6-2グリッド (S : 1/20)	150
Fig.99	4 B区出土遺物1	ⅢE層 (S : 1/3)	151
Fig.100	4 B区出土遺物2	ⅢC層群 (S : 1/3)	152
Fig.101	4 B区出土遺物3	ⅢC層群 (S : 1/3)	153
Fig.102	4 B区出土遺物4	ⅢC層群 (S : 1/3)	154
Fig.103	4 B区出土遺物5	ⅢC層群 (S : 1/3)	155
Fig.104	4 B区出土遺物6	ⅢC層群 (S : 1/3)	156
Fig.105	4 B区出土遺物7	ⅢC層群 (S : 1/3)	157
Fig.106	4 B区出土遺物8	ⅢD層群 (S : 1/3)	159
Fig.107	4 B区出土遺物9	ⅢD層群 (S : 1/3)	160
Fig.108	4 B区出土遺物10	ⅢD層群 (S : 1/3)	161
Fig.109	4 B区出土遺物11	ⅢD層群 (S : 1/3)	162
Fig.110	4 B区出土遺物12	ⅢD層群 (S : 1/3)	163
Fig.111	4 B区出土遺物13	ⅢD層群 (S : 1/3)	164
Fig.112	4 B区出土遺物14	ⅢD層群 (S : 1/3)	165
Fig.113	4 B区出土遺物15	ⅢD層群 (S : 1/3)	166
Fig.114	4 B区出土遺物16	ⅢD層群 (S : 1/3)	167
Fig.115	4 B区出土遺物17	ⅢD層群 (S : 1/3)	168
Fig.116	4 B区出土遺物18	ⅢD層群 (S : 1/3)	169
Fig.117	4 B区出土遺物19	ⅢD層群 (S : 1/3)	170
Fig.118	4 B区出土遺物20	ⅢD層群 (S : 1/3)	172
Fig.119	4 B区出土遺物21	ⅢD層群 (S : 1/3)	173
Fig.120	4 B区出土遺物22	ⅢD層群 (S : 1/3)	174
Fig.121	4 B区出土遺物23	ⅢD層群 (S : 1/3)	175
Fig.122	4 B区出土遺物24	ⅢD層群 (S : 1/3)	176
Fig.123	4 B区出土遺物25	ⅢD層群 (S : 1/3)	177
Fig.124	4 B区出土遺物26	ⅢD層群 (S : 1/3)	178

Fig.125	4 B区出土遺物27	ⅢD層群 (S : 1/3)	179
Fig.126	4 B区出土遺物28	ⅢD層群 (S : 1/3)	180
Fig.127	4 B区出土遺物29	ⅢD層群 (S : 1/3)	181
Fig.128	4 B区出土遺物30	ⅢD層群 (S : 1/3)	182
Fig.129	4 B区出土遺物31	ⅢD層群 (S : 1/3)	183
Fig.130	4 B区出土遺物32	ⅢD層群 (S : 1/3)	184
Fig.131	4 B区出土遺物33	ⅢD層群 (S : 1/3)	185
Fig.132	4 B区出土遺物34	ⅢD層群 (S : 1/3)	186
Fig.133	4 B区出土遺物35	ⅢD層群 (S : 1/3)	187
Fig.134	4 B区出土遺物36	ⅢD層群 (S : 1/3)	188
Fig.135	4 B区出土遺物37	ⅢD層群土製勾玉 (S : 1/2)	188
Fig.136	4 B区出土遺物38	ⅢD層群砂鉄入鉢 (S : 1/3)	188
Fig.137	4 B区出土遺物39	ⅢB層群 (S : 1/3)	189
Fig.138	4 B区出土遺物40	ⅢB層群 (S : 1/3)	190
Fig.139	4 B区出土遺物41	ⅢB層群 (S : 1/3)	191
Fig.140	4 B区出土遺物42	その他の包含層 (S : 1/3)	192
Fig.141	4 B区出土遺物43	その他の包含層 (S : 1/3)	193
Fig.142	4 B区出土遺物44	ⅢE層・ⅢC層群 (S : 1/3)	194
Fig.143	4 B区出土遺物45	ⅢD層群 (S : 1/2, 1/3)	195
Fig.144	4 B区出土遺物46	ⅢD層群 (S : 1/3)	196
Fig.145	4 B区出土遺物47	ⅢB層群 (S : 1/2, 1/3)	197
Fig.146	4 B区出土遺物48	ⅢB層群 (S : 1/3)	198
Fig.147	4 B区出土遺物49	ⅢC層群・ⅢD層群 (S : 1/2, 1/3)	199
Fig.148	4 B区出土遺物50	ⅢD層群 (S : 1/3)	200
Fig.149	4 B区出土遺物51	ⅢD層群 (S : 1/3)	201
Fig.150	4 B区出土遺物52	ⅢD層群 (S : 1/3)	202
Fig.151	4 B区出土遺物53	ⅢD層群 (S : 1/3)	203~204
Fig.152	4 B区出土遺物54	ⅢB層群・ⅢD層群 (S : 1/3)	205~206
Fig.153	4 B区出土遺物55	ⅢD層群 (S : 1/3)	207
Fig.154	4 B区出土遺物56	ⅢB層群 (S : 1/2, 1/3)	208
Fig.155	4 B区出土遺物57	ⅢB層群 (S : 1/3)	209~210
Fig.156	4 B区出土遺物58	ⅢB層群 (S : 1/4)	211~212

付図1 4 A区出土遺物分布 Ⅲd層 (S : 1/80)

付図2 4 B区出土遺物分布 ⅢD層群 (S : 1/80)

表 目 次

表 1	4 A区南壁セクション層序表	8
表 2	4 A区中央ベルトセクション層序表	13
表 3	4 A区遺物観察表1	93
表 4	4 A区遺物観察表2	94
表 5	4 A区遺物観察表3	95
表 6	4 A区遺物観察表4	96
表 7	4 A区遺物観察表5	97
表 8	4 A区遺物観察表6	98
表 9	4 A区遺物観察表7	99
表10	4 A区遺物観察表8	100
表11	4 A区遺物観察表9	101
表12	4 A区遺物観察表10	102
表13	4 A区遺物観察表11	103
表14	4 A区遺物観察表12	104
表15	4 A区遺物観察表13	105
表16	4 A区遺物観察表14	106
表17	4 A区遺物観察表15	107
表18	4 A区遺物観察表16	108
表19	4 A区遺物観察表17	109
表20	4 A区遺物観察表18	110
表21	4 A区遺物観察表19	111
表22	4 A区遺物観察表20	112
表23	4 A区遺物観察表21	113
表24	4 A区遺物観察表22	114
表25	4 A区遺物観察表23	115
表26	4 A区遺物観察表24	116
表27	4 A区遺物観察表25	117
表28	4 A区遺物観察表26	118
表29	4 A区遺物観察表27	119
表30	4 A区遺物観察表28	120
表31	4 A区遺物観察表29	121
表32	4 A区遺物観察表30	122
表33	4 A区遺物観察表31	123
表34	4 A区遺物観察表32	124

表35	4 B区南西壁セクション層序表	132
表36	4 B区西壁セクション層序表	135
表37	4 B区南北ベルトセクション層序表	144
表38	4 B区遺物観察表1	213
表39	4 B区遺物観察表2	214
表40	4 B区遺物観察表3	215
表41	4 B区遺物観察表4	216
表42	4 B区遺物観察表5	217
表43	4 B区遺物観察表6	218
表44	4 B区遺物観察表7	219
表45	4 B区遺物観察表8	220
表46	4 B区遺物観察表9	221
表47	4 B区遺物観察表10	222
表48	4 B区遺物観察表11	223
表49	4 B区遺物観察表12	224
表50	4 B区遺物観察表13	225
表51	4 B区遺物観察表14	226
表52	4 B区遺物観察表15	227
表53	4 B区遺物観察表16	228
表54	4 B区遺物観察表17	229
表55	4 B区遺物観察表18	230
表56	4 B区遺物観察表19	231
表57	4 B区遺物観察表20	232

写真図版目次

- 巻頭図版1 上；4 A区・4 B区完掘状態の空撮（東から）
下；4 A区・4 B区完掘状態の空撮（南から）
- 巻頭図版2 上；4 A区遺物出土状態（西から）
下；4 A区遺物出土状態（南東から）
- 巻頭図版3 上；4 A区遺物出土状態（南から）
下；4 A区遺物出土状態（北から）
- 巻頭図版4 上；4 A区木根周辺の出土状態（東から）
下；4 A区木根周辺の出土状態（西から）
- 巻頭図版5 4 A区遺物出土状態
- 巻頭図版6 4 A区出土木製品
- 巻頭図版7 4 B区遺物出土状態
- 巻頭図版8 上；4 B区SK1出土状態
下；4 A区・4 B区調査区遠景（北西から）
- P L. 1 上；4 A区SK1完掘状態
下；4 A区SK1埋積状態
- P L. 2 上；4 A区P1完掘状態
下；4 A区P2完掘状態
- P L. 3 上；4 A区P3完掘状態
下；4 A区P4完掘状態
- P L. 4 上；4 A区遺物出土状態
下；4 A区遺物出土状態
- P L. 5 上；4 A区遺物出土状態
下；4 A区遺物出土状態
- P L. 6 上；4 A区木根周辺の遺物出土状態
下； 同上
- P L. 7 上；4 A区木根周辺の遺物出土状態
下；4 A区L6-21・22グリッドⅢd層遺物出土状態
- P L. 8 上；4 A区L6-17グリッドⅢd層遺物出土状態
下；4 A区調査風景
- P L. 9 4 A区Ⅲc層・Ⅲd層遺物出土状態
- P L. 10 4 A区Ⅲd層群遺物出土状態1
- P L. 11 4 A区Ⅲd層群遺物出土状態2
- P L. 12 4 A区Ⅲb層・Ⅲd層群遺物出土状態
- P L. 13 4 A区出土遺物1

- P L. 14 4 A区出土遺物 2
 P L. 15 4 A区出土遺物 3
 P L. 16 4 A区出土遺物 4
 P L. 17 4 A区出土遺物 5
 P L. 18 4 A区出土遺物 6
 P L. 19 4 A区出土遺物 7
 P L. 20 4 A区出土遺物 8
 P L. 21 上；4 B区完掘状態（南東から）
 下；4 B区完掘状態（南から）
 P L. 22 上；4 B区西完掘状態（手前）・4 A区（奥）
 下；中央ベルトセクション（西から）
 P L. 23 上；4 B区S K 1 完掘状態
 下；4 B区S K 1 堅果類出土状態
 P L. 24 上；4 B区S K 1 出土状態
 下；4 B区S K 1 網籠状遺物出土状態
 P L. 25 上；4 B区S K 2 堅果類出土状態
 下；4 B区S K 5 完掘状態
 P L. 26 上；4 B区S K 6 出土状態
 下；4 B区S K 6 検出状態
 P L. 27 上；4 B区L5-22・L6-1グリッド遺物出土状態
 下；4 B区K5-19グリッド遺物出土状態
 P L. 28 上；4 B区表土掘削状態
 下；4 B区調査風景
 P L. 29 4 B区ⅢC層・ⅢD層群遺物出土状態
 P L. 30 4 B区ⅢD層群遺物出土状態
 P L. 31 4 B区木製品・自然遺物出土状態
 P L. 32 4 B区出土遺物 1
 P L. 33 4 B区出土遺物 2
 P L. 34 4 B区出土遺物 3
 P L. 35 4 B区出土遺物 4
 P L. 36 4 B区出土遺物 5
 P L. 37 4 B区出土遺物 6
 P L. 38 4 B区出土遺物 7
 P L. 39 4 B区出土遺物 8
 P L. 40 4 B区出土遺物 9

居徳遺跡群 通巻目次

『居徳遺跡群 I』(本文編)

第I章 調査に至る経過

第II章 遺跡の位置と環境

第III章 調査の概要

第IV章 調査の成果

(1) 1B区

(2) 1C区(その1)

(3) 1D区

第V章 考察

1C区第IV層群出土土器について

『居徳遺跡群 II』(写真図版編)

1B区

1C区(その1)

1D区

『居徳遺跡群 III』

第I章 調査の成果

(1) 確認調査(1)

(2) 1A区

(3) 1C区(その2)

(4) 1DN区

(5) 1F区

付編1 居徳遺跡群の自然科学分析

－漆塗り土器・赤彩土器の塗布材料と胎土材料－

付編2 高知県居徳遺跡群出土木製品の樹種調査結果

－確認調査(1)・1C区・1DN区出土木製品について－

『居徳遺跡群 IV』

第I章 調査の成果

(1) 確認調査(2)

(2) 確認調査(3)

(3) 1E区

(4) 2A区

- (5) 3B区
- (6) 4C区

第Ⅱ章 考察

2A区検出の流路群について

- 付編1 居徳遺跡群から出土した大型植物化石
 - 1D区、1E区、1F区、4C区出土の遺物-
- 付編2 居徳遺跡群出土土器の内容物
 - 4C区出土の遺物-
- 付編3 居徳遺跡群出土木製品の樹種調査結果
 - 2A区の出土遺物-

『居徳遺跡群 V』

第Ⅰ章 調査の成果

- (1) 4A区
- (2) 4B区
- 付編1 居徳遺跡群から出土した木製品と木材片の樹種同定
 - 1A区, 4A区, 4C区出土の遺物-
- 付編2 居徳遺跡群出土木製品の樹種調査結果
 - 4A区, 4B区出土の遺物-
- 付編3 居徳遺跡出土鉢入砂鉄の金属学的調査
 - 4B区の出土遺物-

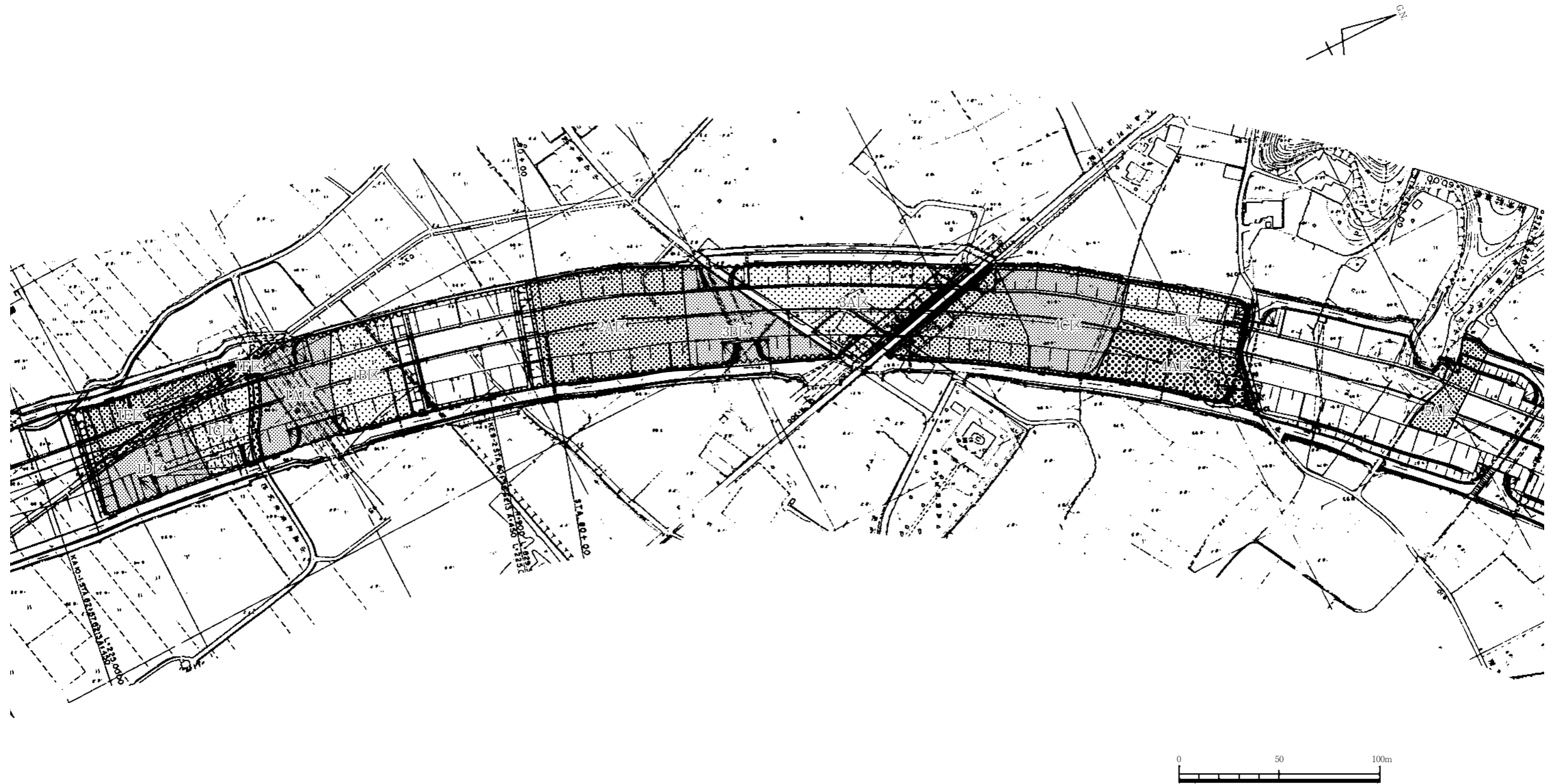


Fig. 1 居徳遺跡群調査区配置図 (S : 1/2,000)

第 I 章 調査の成果

(1) 4 A 区

1. 4 A 区の概要

4 区の殆どを包括する谷の東端に位置する調査区である。清滝山系から延びる小さな尾根はこの辺りでは標高を下げ、調査区の南側に至っては沖積地に埋没される。4 A 区の東半は尾根の西側斜面に相当し、西半は現況平滑な水田面である。この尾根は北に隣接して設定された 4 B 区に連なり、西に開いた大きな弧を描く。嘗て比高差を残していたであろうこの尾根は調査時点で既に深く削平改変されており、西側は畠地、東側は道路となって当時の面影を留めていない。

調査は水田面下に残存していた遺物包含層を中心としてすすめられ、主に尾根から延びるなだらかな斜面で進められた。出土遺物は縄文晩期から古墳時代、古代・中世の土器・土製品、石器・石製品、木器・木製品などである。縄文晩期から弥生前期の遺物はさほど多くはないが、包含層の最下層で発見されたものである。隣接する調査区、4 C 区東端で検出された流路跡の一部機能時期と重なるものと考えられる。古墳前期から中期にかけては遺物の出土点数も多く、残存状態も良好であった。斜面部に残された土師器の多くは完形または完形に近いものであり、鉢、甕、高坏を中心として小型丸底土器やミニチュア土器などの祭祀遺物が出土している。この中には、斜面に残された木の根 (Fig.10) 周辺に多くの土器が発見されており、一つの祭祀単位を形成していたものと考えられる。木器・木製品の出土も古墳時代以降多く認められ、この調査区周辺が洪水時に冠水する環境にあったことを物語るものであろう。

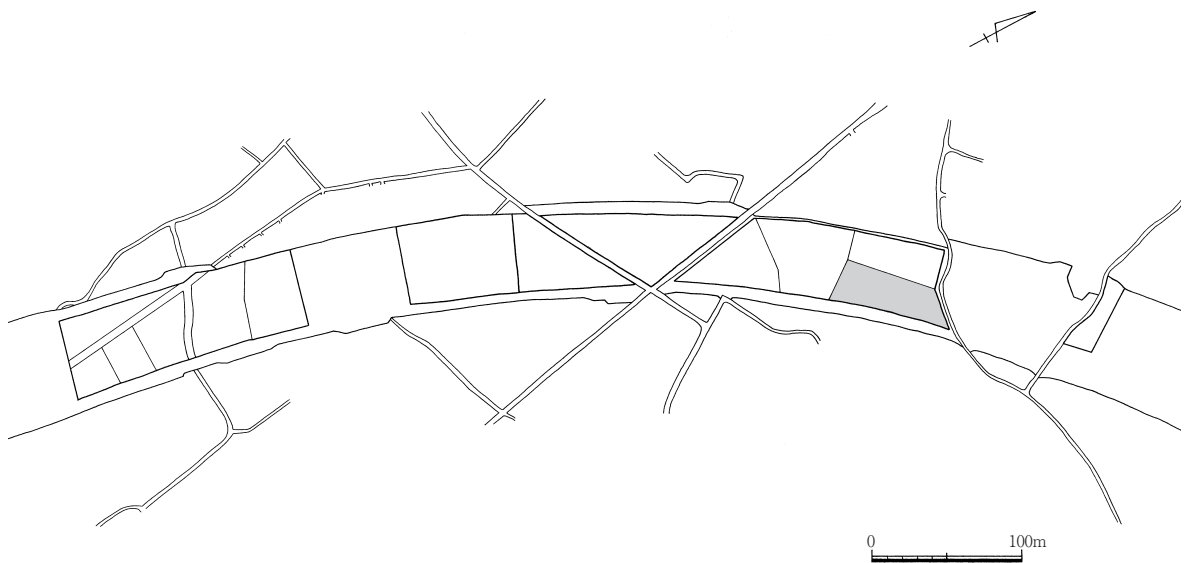


Fig.2 4 A 区的位置 (S : 1/5,000)

2. 調査の方法

4 A 区の調査は平成10年1月から行われた。まず、機械掘削を平成10年1月26日から開始した。調査区の東半は尾根状の高位に相当し遺構の残存が期待されたが、表土下に地山面（黄褐色礫層）が存在しており、耕作（畠、水田）により強く削平を受けたものと考えられる。遺構の発見は一部が旧斜面付近（沖積層との境界付近）で可能であった。次に、機械包含層掘削を平成10年1月28日から開始した。西半の沖積層（粘性土層）部分が掘削の対象であり、遺物の包含が比較的薄い堆積層を掘削した結果、南西方向への緩やかな傾斜面が以下の遺物密度が濃い堆積層として残存し、これについては人力による精査を行うこととした。最後に、各包含層の人力掘削は平成10年1月30日から開始した。掘削は平面的には第IV系公共座標に則った4 m×4 mのグリッドを単位として行い、調査区全体の堆積状態は西壁セクションを精査することで凡その掘削の目安とし、遺物密度が高い斜面部では各グリッドの境界壁と中央部の斜面に設けたセクションで堆積土層を確認して行った。遺物の取り上げは、遺構名・グリッド名と層名を記入することで行い、保存状態の良いものについては出土状態を写真撮影の上、図化または先述の公共座標を記録することで行った。遺構等の平面図作成については先の座標系を用いて1/10, 1/20等の縮尺で適宜行い、掘削後の航空測量に因っても行った。包含層の多くは粘土または粘質土層であり、斜面からは規模は小さい湧水が絶えず掘削作業の効率を低下させていた。また激しい降雨に際しては調査区に周辺に降った雨水が集中して数回に渡って冠水した。平成10年3月9日に掘削を終了し、3月18日に航空写真撮影、3月21日（土）に現地説明会を1区の成果と合わせて一般に行った。

3. 層序

調査区の堆積状況は西南壁セクションに示されているとおり基本的には緩やかな洪水性の粘土乃至粘性土層の堆積であり、流路等の直接的な影響はなかったものと考えられる。

(1) 基本層序 (Fig.4)

I 層・II 層は耕作土、旧耕作土ならびに耕作に伴う層である。一部には地山崩壊角礫が含まれており、北又は東の尾根斜面の崩壊か削平が行われたものと考えられる。これらの土層を排除した時点で調査区の東半では黄褐色砂礫層（地山）が確認されており、西半では各堆積層が水平に削平され縞状を呈して確認された。

III 層は調査の主体となった層群であり、縄文晩期から古代・中世の遺物包含層群と考えられる。上位から III b 層、III d 層、III c 層、III e 層の各層が存在し、これらの層は更に細分され III b - 0 から III b - 3 層、III d から III d - 3 層、III c 層、III e 層の各々に分けられる。III b 層は腐植、植物遺体と木器・木製品を多く含んだやや湿潤な堆積環境にあったものと考えられる。時期的には古墳時代後期から古代のものであろう。III d 層の各層を西南壁では判別することができなかった。斜面部分を中心とした堆積であり、斜面部分の崩壊に伴う一時的な堆積の可能性も考えられる。後述する 4 B 区の III D 層と共通する状況を示すものであるが、地山崩壊角礫を多く

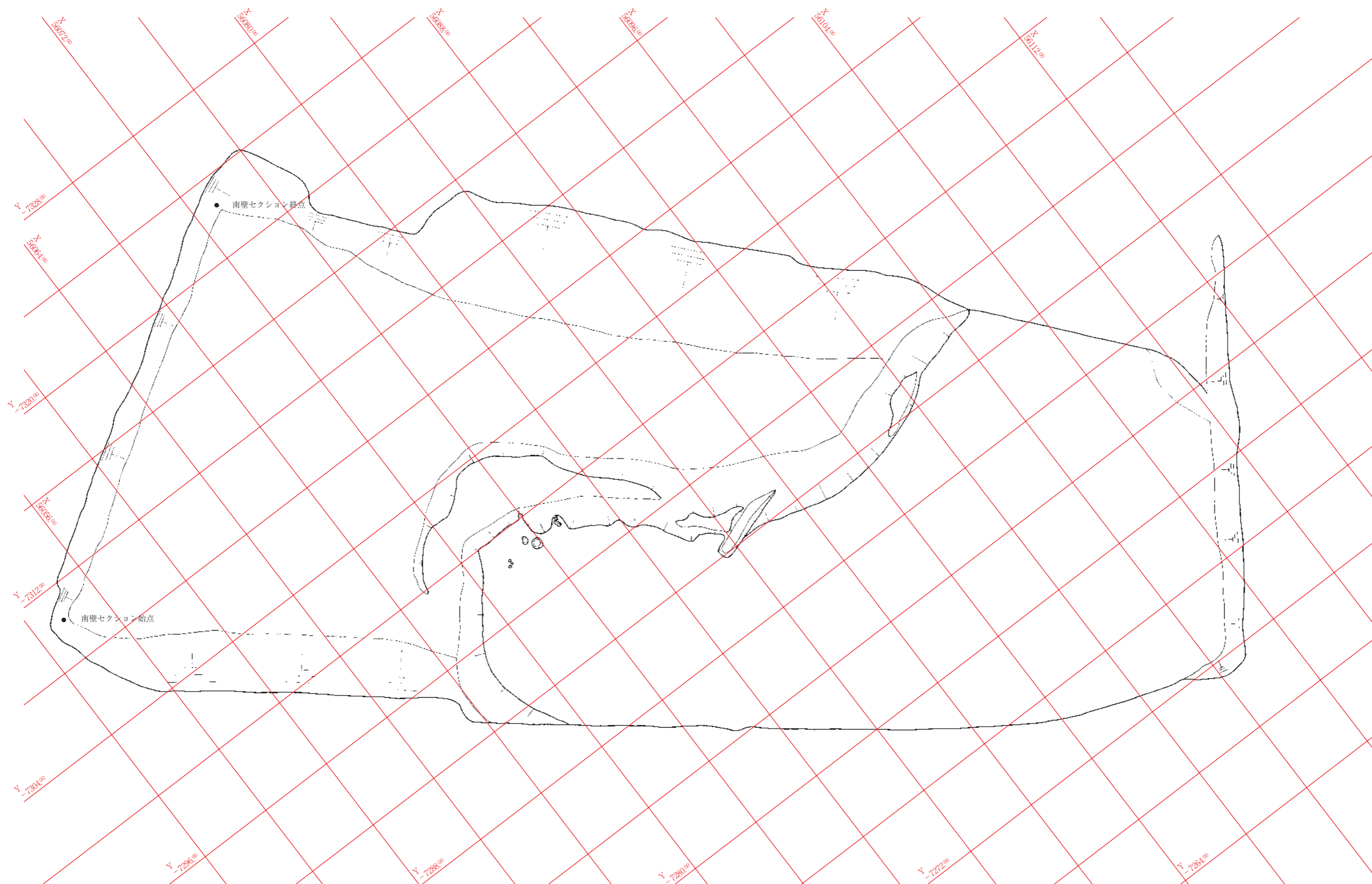


Fig.3 4A区全体図 (S : 1/200)

含む点でやや様相が異なるか。時期的には弥生後期末から古墳時代中期のものであろう。Ⅲ c 層は地山崩壊角礫を含むやや明色がかった色調であり、遺物の包含は破片を中心として薄い。時期的には弥生前期を中心としたものか。Ⅲ e 層は淡色の粘土層であり、地山部分から南西側の谷底に向かってなだらかに下る堆積層である。地山部分からの小規模な湧水はⅢ e 層を掘削する段階で顕著であり、本層を構成する粘土は水分を含んで力学的な平衡状態を失うと容易く崩壊することをくり返した。ここでは既報告の4 C区S D 2に係わる出土遺物が見られる。出土は散発的であり、縄文晩期土器が出土している。

(2) 中央ベルト (Fig.7)

調査区の中央部で地山検出面から西側に下る斜面に設定したベルトである。斜面部の堆積状況は上位に腐植を多く含んだⅢ b 層が厚く覆う。Ⅲ b 層は暗褐色の粘性土層であり、木製品の出土も多く見られた。調査区全体に渡って緩やかな傾斜を有して堆積したことが窺える。古墳時代後期以降古代にかけての遺物は本層出自のものと考えられる。Ⅲ d 層は祭祀に係わる遺物群が出土した層であり、ここで見る限り斜面にのみに存在したと考えられる。遺物の出土状態は現位置を留める可能性が強く、埋積等の痕跡は認められないが意図的なものの可能性が高い。このうち立ち木の根元周辺に置かれた（または木の根が遺物を取込んだ）。遺物群が出土したのはⅢ d 層の上位部分である。掘削に際しては明確な区分が行なえず、下位部分では遺物の出土が希薄であり、土器も破片での出土が多かった。

4. 遺構

遺構は、全て地山上で確認または地山上に掘削されたものである。多くは上部を既に削平されており、遺構の底部が辛うじて残ったものが多かった。

①土坑

S K 1 (Fig.5)

S K 1 は調査区の中央部、地山面（黄褐色礫層）から斜面部にかけて検出され土坑であり、L6-18・19グリッドに位置する。平面形態は推定隅丸長方形を呈し、残存規模は長辺3.40m、短辺80cm、地山面からの深さは60cmを測る。遺構埋土は上位で灰色粘土であり、3層の整然とした堆積が認められる。長軸方向は北北西である。底面は比較的平らであり、残された壁面も概ね急または直立して立上がる。斜面部に開いていたと考えられ、開口部付近は時期的には異なるが、丁度Ⅲ d 層の中で祭祀遺物が纏まって出土した部分に相当する。

出土遺物は弥生土器の甕底部1点であり、1を図示した。(Fig.11)

②ピット状遺構

P 1 (Fig.6)

調査区の中央部やや南寄りのL7-7グリッドに位置する。緩やかに彎曲する尾根の西側斜面の

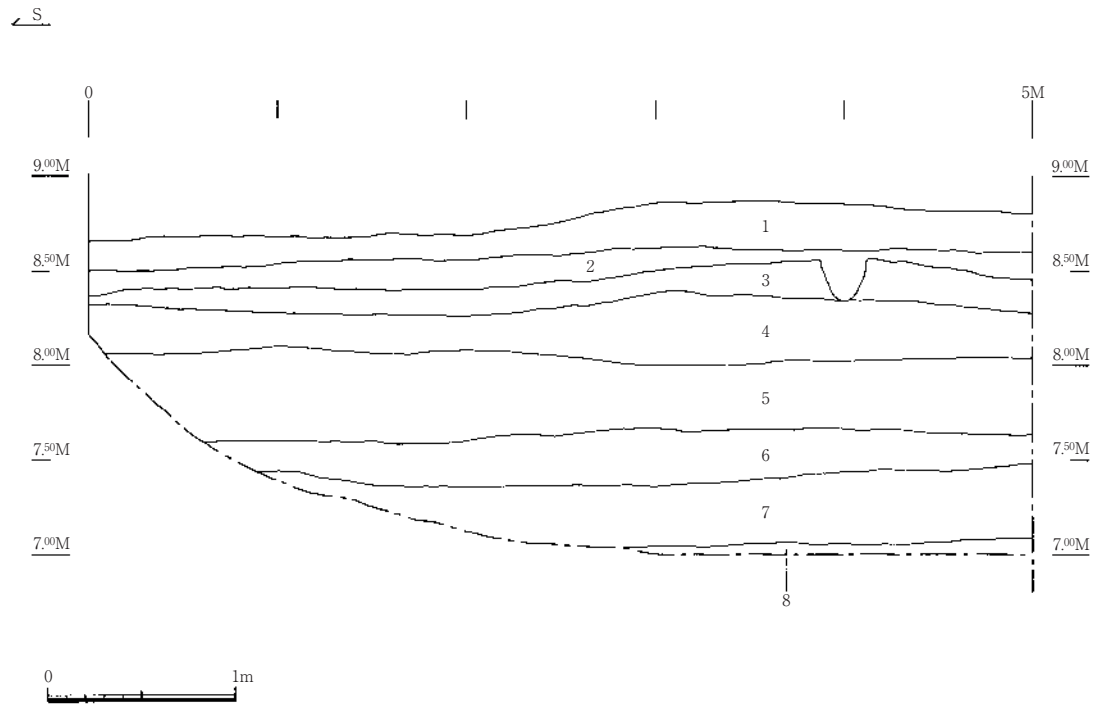
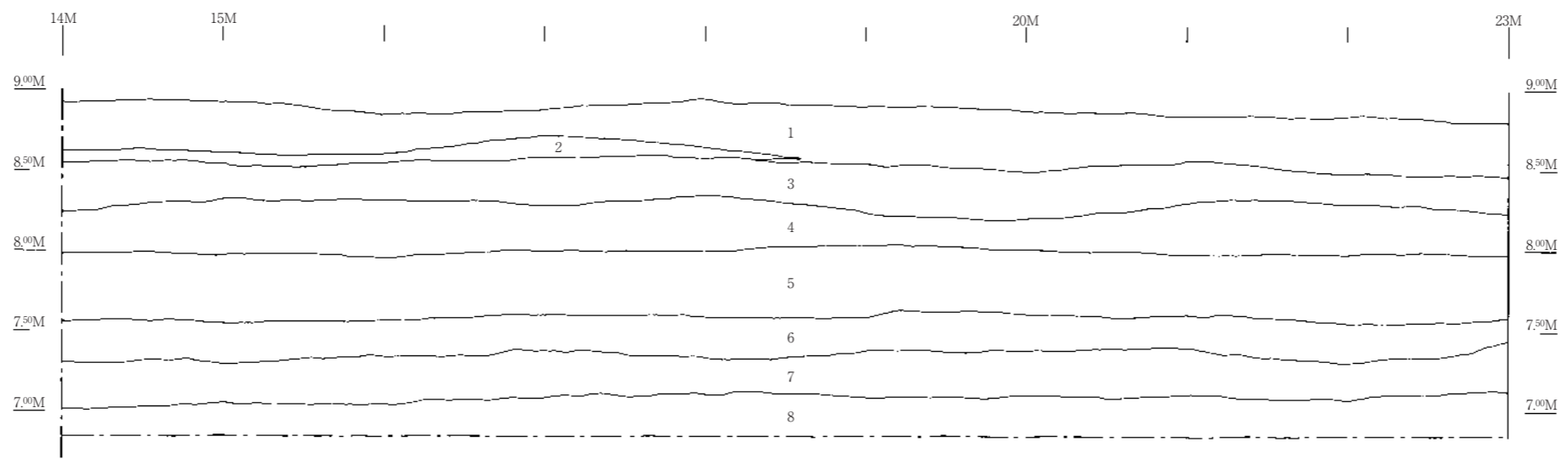
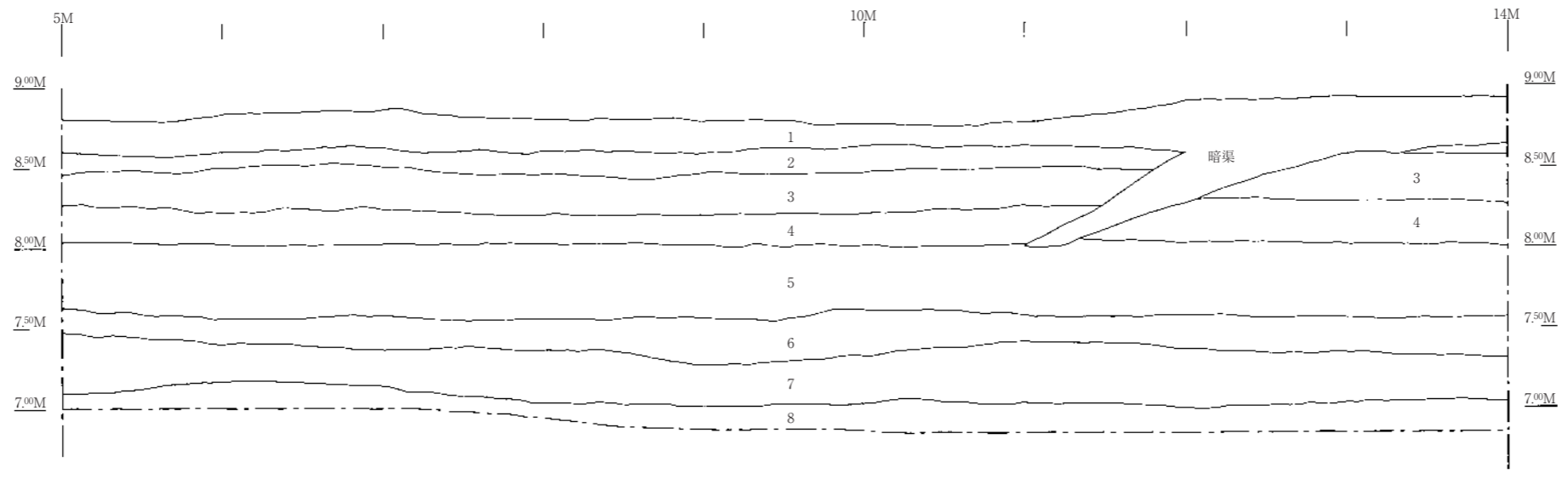


表1. 4A区南壁セクション層序表

層	内容	その他
1	粘性あり、締まりあり。褐色(10YR4/6)、青灰色粘土(5B5/1)を含む。	耕作土
2	粘性あり、締まりあり。褐色(10YR5/1)土、小石を多く含む。	
3	粘性あり、締まりあり。灰黄色(10YR4/2)、炭化物、地山崩壊礫を含む。	旧耕作土
4	粘性あり、締まりあり。小型の植物遺体を含む。黒色土(N5/10)、暗赤褐色(5YR3/6)	
5	粘性あり、締まりあり。小型の植物遺体を含む。褐灰色(10YR5/1)、にぶい褐色(7.5YR5/3)	
6	粘性あり、締まりあり。褐灰色(7.5YR4/1)	
7	粘土。締まりあり。植物遺体を多少含む。灰色(7.5Y5/1)	
8	粘土。締まりあり。青灰色(5B6/1)	Ⅲc層

Fig.4 4A区南壁セクション図(S:1/40)



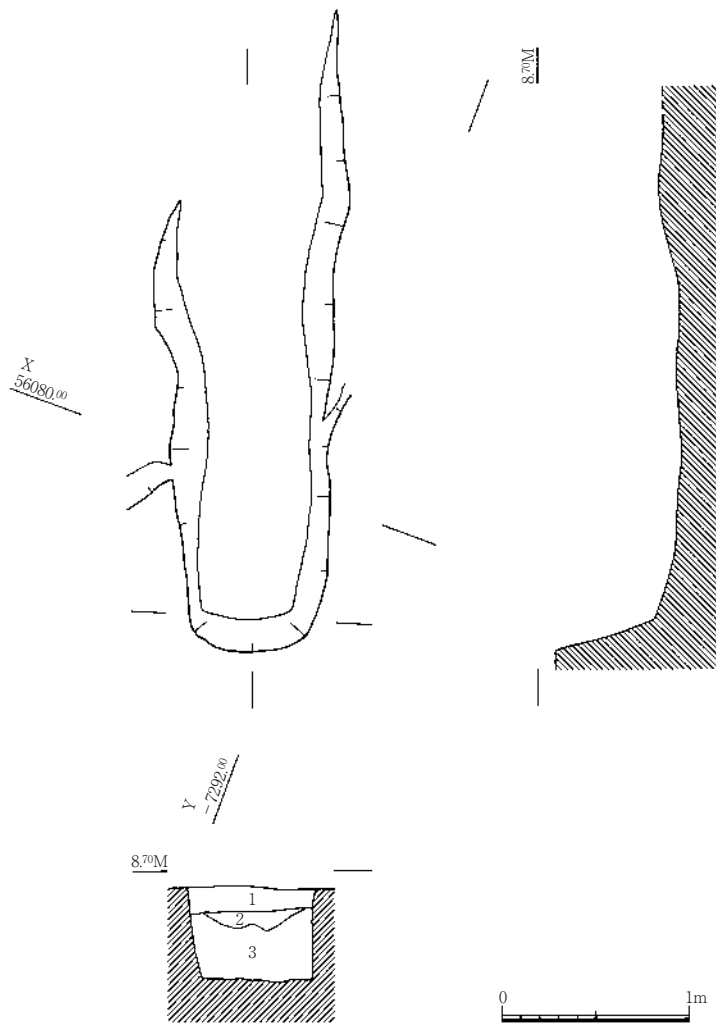


Fig.5 4 A区 S K 1 遺構平面図 (S : 1/40)

先端部で南西側に張出した箇所に対応する。斜面際に近い地山の削平部分で検出された遺構であり、底部が辛うじて残されていたものである。平面形態は不整円形を呈し、規模は長径42cm、短径40cm、地山面からの深さは10cmを測る。遺構埋土は暗灰色土の単層である。

出土遺物は弥生後期末から古墳前期の土器破片である。

P 2 (Fig.6)

P 1に近い地山削平面でP 1よりも斜面部に寄ったL7-2・7グリッドに位置する。P 1と同じく遺構上位は削平により破壊されたものと考えられる。平面形態は円形であり、規模は直径約50cm、地山面からの深さは18cmを測る。遺構埋土は暗灰色土である。

出土遺物は無い。時期は弥生後期末から古墳前期か。

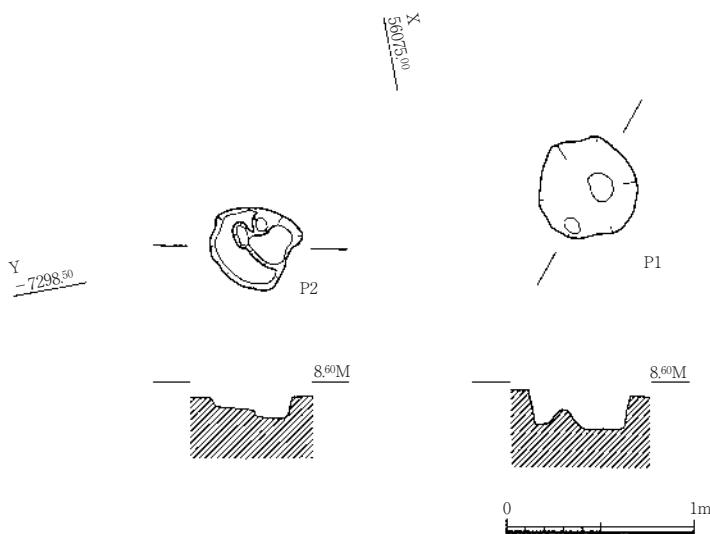


Fig.6 4 A区 P 1・P 2 遺構平面図 (S : 1/40)

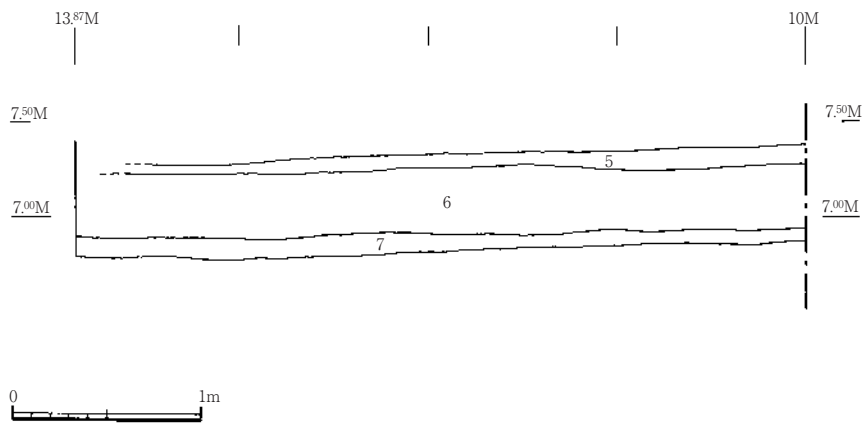
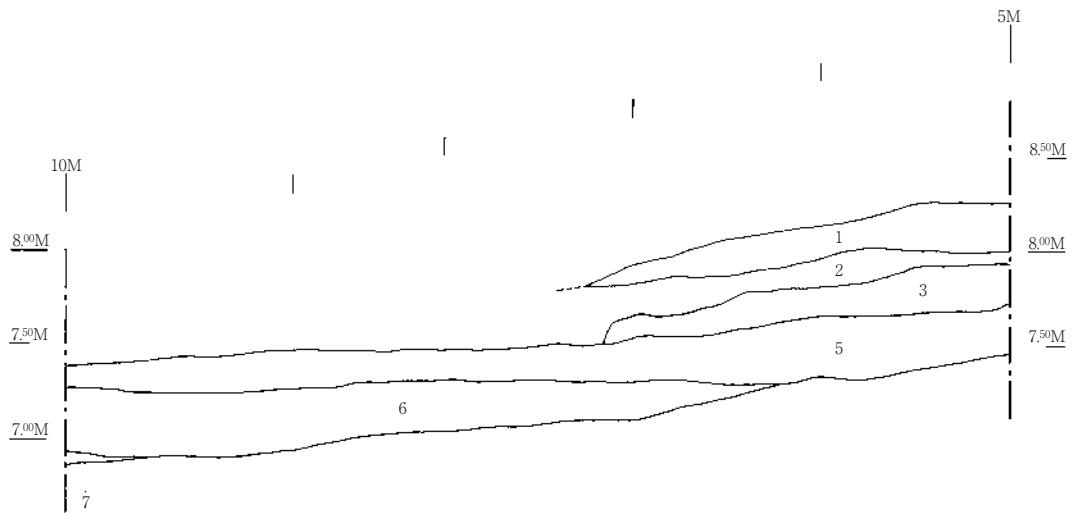


Fig.7 4A区中央ベルトセクション図 (S : 1/40)

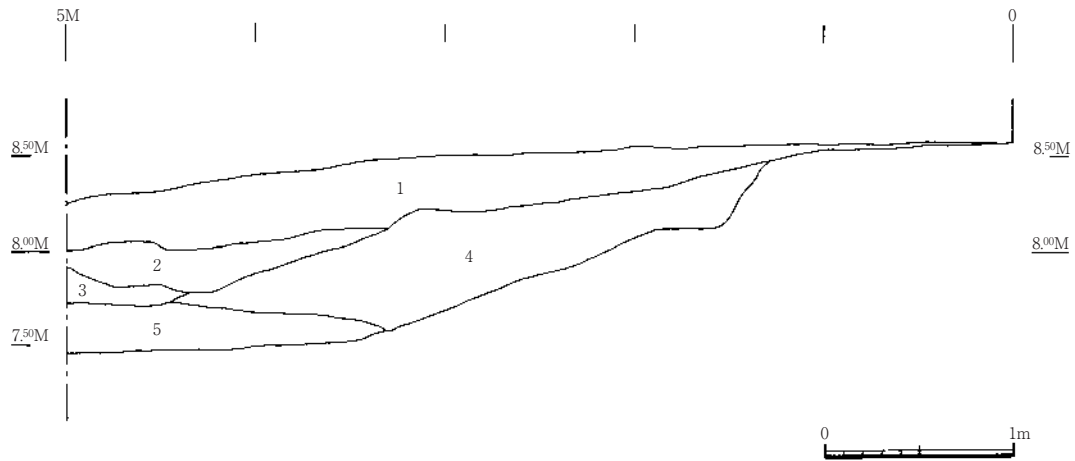


表2. 4 A区中央ベルトセクション層序表

層	内容	その他
1	粘性あり、締まりややあり。腐植を含む。褐色土	Ⅲ b 層
2	粘性あり、締まりややあり。青色地山崩壊角礫を含む。灰褐色土	
3	粘性あり、締まりややあり。暗褐色土	
4	粘性あり、締まりあり。青色地山崩壊角礫を含む。灰色粘土	Ⅲ d 層
5	粘性あり、締まりややあり。腐植を含む。黄褐色土	Ⅲ d - 3層
6	粘性あり、締まりあり。青色地山崩壊角礫を含む。青灰色粘土	Ⅲ c 層
7	粘性あり、締まりあり。淡灰色粘土	Ⅲ e 層

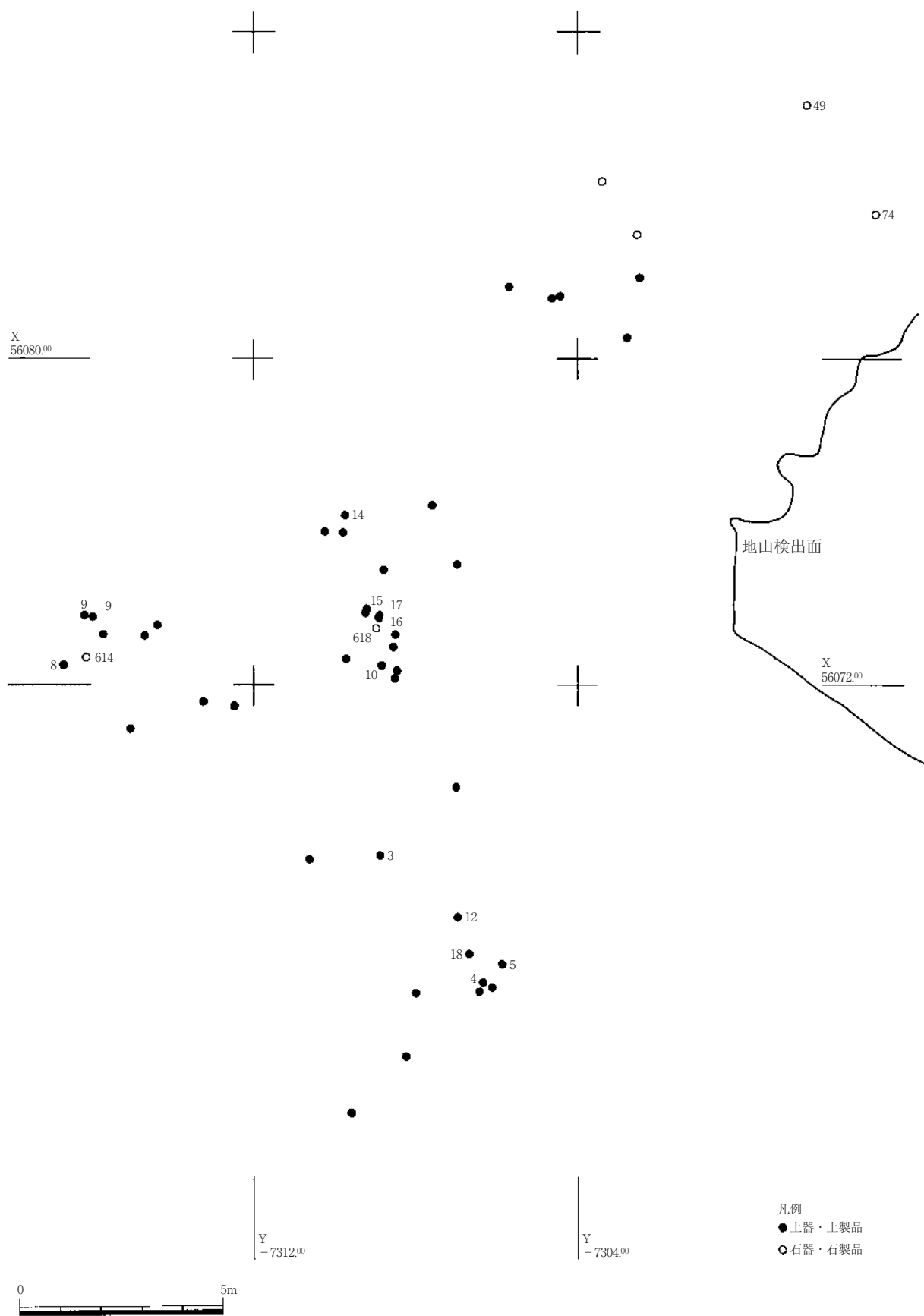


Fig.8 4 A区Ⅲe層・Ⅲc層遺物分布図 (S : 1/140)

5. 遺物

遺物は地山上で確認された各遺構とⅢe層、Ⅲc層、Ⅲd層群、Ⅲb層の各層から出土した。

(1) 遺構出土遺物

①地山上検出遺構

S K 1 出土遺物 (Fig.11)

弥生土器が2点出土している。このうち図示できるものは平底の甕底部1である。また、他1点は甕の胴部破片であり、何れも弥生後期土器と考えられる。

P 1 出土遺物

土師器の甕と高坏の破片が各々3点と細片が出土している。図示できるものは無い。

(2) 包含層出土遺物

①土器・土製品

Ⅲe層出土土器・土製品 (Fig.12~14)

出土土器・土製品の総点数は、144点であり、このうち縄文土器は116点、弥生土器は25点である。

縄文土器のうち浅鉢は25点、深鉢は90点、壺は1点である。弥生土器のうち壺は11点、甕は8点、鉢は1点である。

図示したものは2から19の18点である。2は浅鉢である。内彎気味に外斜め上方に立上がる口縁の内面にLRによる縄文と沈線1条を施す。体部の内面はヘラミガキで仕上げられる。3から10は深鉢の口縁である。3は口縁の外面に突帯を貼付し、押圧による刻みを施す。4は内傾する口縁に口唇は平らな面を成す。外面は条痕が施される。5は口唇が丸味を持った面を成す。外面には条痕が施される。6は口唇の平らな面に斜位の刻みが施される。7は口縁が直立する。内外面には条痕が施され、外面はのちナデ消す。8は口縁が内彎気味に立上がる。口縁下で屈曲するか。9は器面に粘土紐接合による凹凸が残される。10は口縁が波状を成し、内外面には凹凸が残される。11は体部の破片である。端部が結束しない区画沈線と磨消縄文が施される。縄文後期後葉の土器か。12は壺の胴部である。外面はハケのちミガキが施され、一部に赤色顔料が残る。13は深鉢の底部であり、平底である。14・15は深鉢である。14は口縁が内彎気味に立ち上がり、内外面はナデで仕上げられる。15は口縁が緩く外反する。16は外面に縦位のヘラミガキが施される。浅鉢か。17から19は深鉢の体部である。外面には条痕が残る。

Ⅲc層出土土器・土製品 (Fig.15)

出土土器・土製品の総点数は241点であり、縄文土器は98点、弥生土器は73点、土師器は70点である。

縄文土器のうち浅鉢は2点、深鉢は96点である。弥生土器のうち壺は24点、甕は49点である。土師器のうち甕は67点、高坏は1点、壺は1点、ミニチュア土器は1点である。縄文土器としたものの中には諸属性の違いは認められるものの、外見上は区別し難い深鉢形のものも縄文系

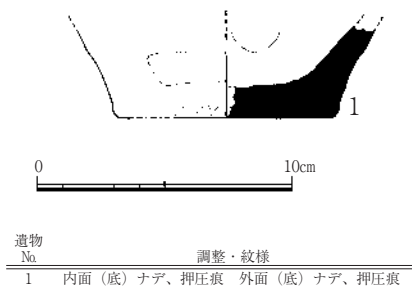


Fig.11 4 A区出土遺物1 SK 1 (S : 1/3)

土器として扱った。出土した弥生土器の中には前期を出自とするものが多く含まれる。

図示したものは20から25の6点である。20は壺である。口縁は波状を成し、外面に2条の円形浮紋列と櫛描沈線を施す。21は壺の口縁か。口唇は外傾する面を成し、外側に肥厚する。22・25は鉢の口縁か。口唇は丸味を持って修め、内外面にはナデを施す。23・24は甕または壺の底部である。24は外底面に溝状の窪みが廻る。

Ⅲd層出土土器・土製品 (Fig.16~66)

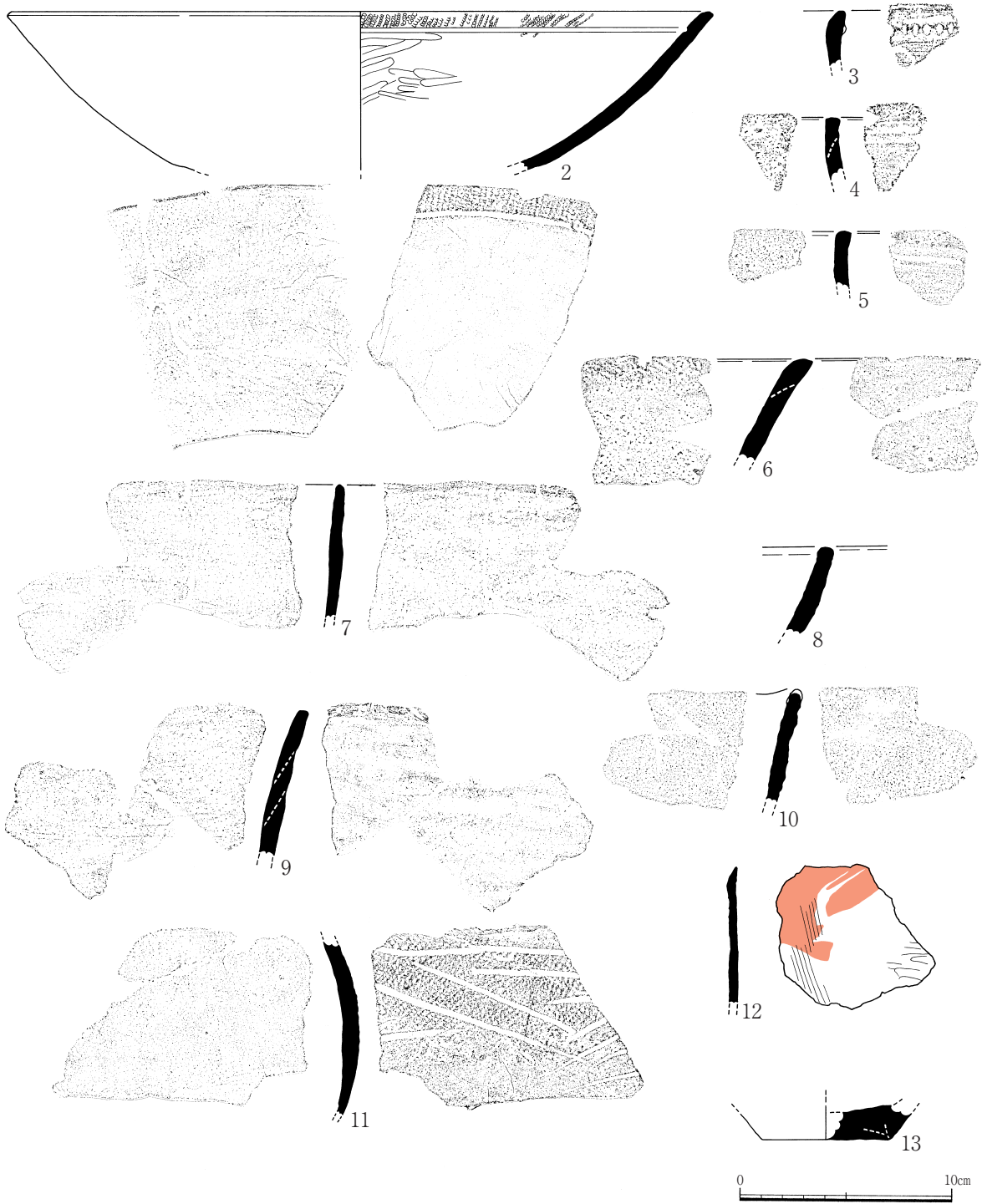
出土土器・土製品の総点数は7,671点である。そのうち縄文土器は13点、弥生土器は237点、土師器5,032点、須恵器7点である。縄文土器や弥生土器の時期的に古いものは崩壊等に伴う混入や斜面部調査による下層への掘削によるものと考えられる。

縄文土器のうち浅鉢は1点、深鉢は12点である。弥生土器のうち甕は143点、壺は53点、鉢は13点、高坏は3点である。土師器のうち甕は4,379点、高坏は380点、鉢は147点、壺は90点、ミニチュア土器は29点、器台は6点である。

図示したものは26から561の536点である。

高坏 (Fig.16~21)

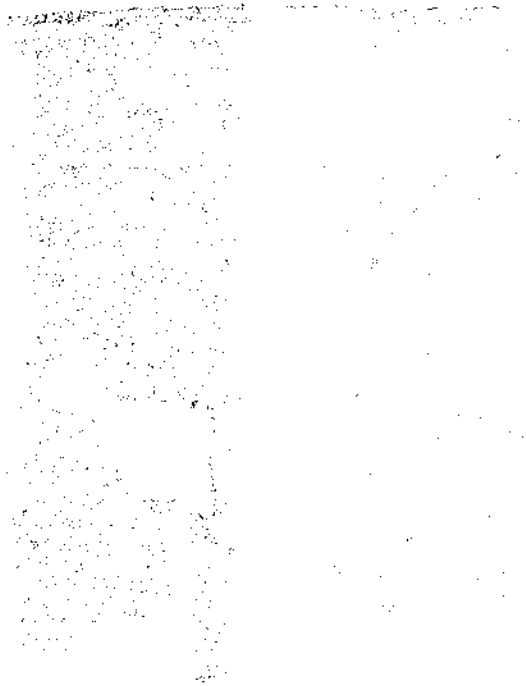
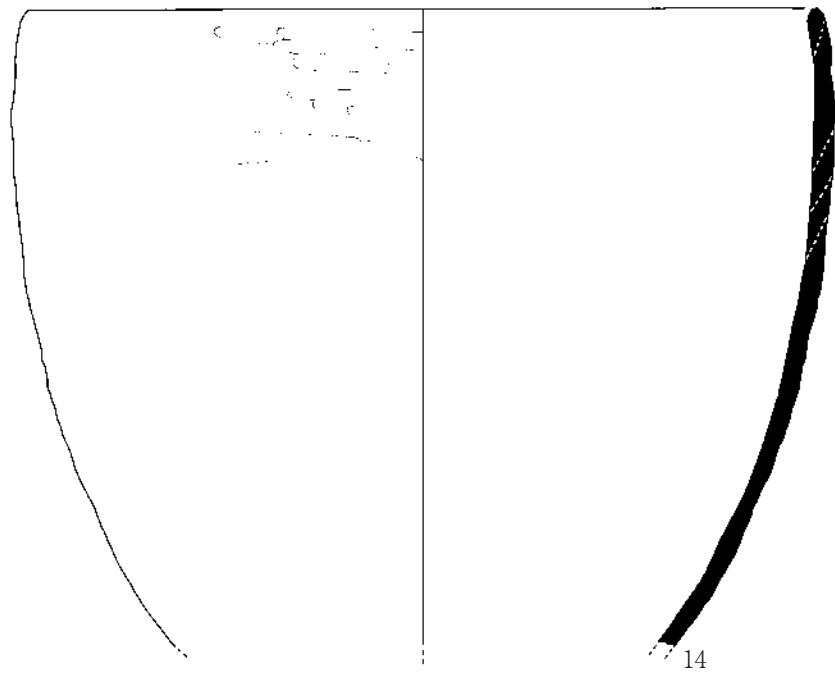
図示したのは26から107の82点である。26は坏部口縁は屈曲の後に内彎気味に立上がる。脚部は屈曲の後に直線的に開く。27は口縁が屈曲の後に内彎気味に立上がる。脚部は屈曲の後に直線的に開く。28は口縁が弱い屈曲の後に内彎気味に立上がる。脚部は下位で外反して開く。29は口縁が屈曲の後に直線的に立上がる。脚部は屈曲の後にやや外反して開く。30は口縁が屈曲の後に直線的に立上がる。脚部は屈曲の後に外反して開く。31は口縁が弱い屈曲の後にやや外反して立上がる。脚部は屈曲の後に外反して開く。32は坏部が椀形を呈する。口縁は屈曲の後に内彎気味に立上がる。脚部は屈曲の後に外反して開く。33は口縁が屈曲の後にやや外反して立上がる。34は口縁が弱い屈曲の後に内彎して立上がる。脚部は屈曲の後に内彎して開く。35は脚部がやや浅い椀形を呈する。坏部は口縁で短く外反する。脚部は連続的に外反する。36は坏部に段を有する。坏部は口縁で短く外反する。脚部は連続的に外反する。37は坏部に段を有する。口縁は緩く外反して立上がる。脚部は弱い屈曲の後やや外反して開く。38は坏部に段を有する。坏部は口縁で外反する。脚部は屈曲の後に内彎して開く。39は坏部に段を有する。口縁は外反して立上がる。脚部は連続的に外反して開く。40は坏部に段を有する。口縁はやや外反して立上がる。脚部は屈曲の後に直線的に開く。41は坏部が椀形を呈する。口縁は内彎して立上がる。脚部は連続的に外反して開く。坏部の内外面には丁寧なナデが施される。42は坏部が椀形を呈する。口縁は直線的に立上がる。脚部は連続的に外反して開く。43から46は坏部が



遺物 No	調整・紋様
2	内面(口)縄文(LR)施紋、1条紋様帯区画沈線(体)ヘラミガキ 外面ナデ
3	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ
4	内面(口)ナデ 外面(口)条痕
5	内面(口)ナデ? 外面(口)条痕
6	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ
7	内面条痕 外面条痕のちナデ
8	内面ナデ 外面ナデ

遺物 No	調整・紋様
9	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ、凹凸面
10	内面(口)ナデ、浅い凹凸面 外面(口)ナデ?凹凸面
11	内面ナデ 外面区画沈線内縄文(LR)施紋、区画外磨消、沈線内刺突、沈線端は粘土が盛り上がる
12	外面ハケ、ヘラミガキ
13	内面(底)ナデ

Fig.12 4 A区出土遺物2 III層 (S : 1/3)



遺物 No.	調整・紋様
14	内面 (口) ヨコナデ (体上) 横位ナデ (体中) ナデ (ヘラ状原体) 外面 (口) 条痕?のちヨコナデ (体) ナデ?

Fig.13 4 A区出土遺物3 IIIe層 (S : 1/3)

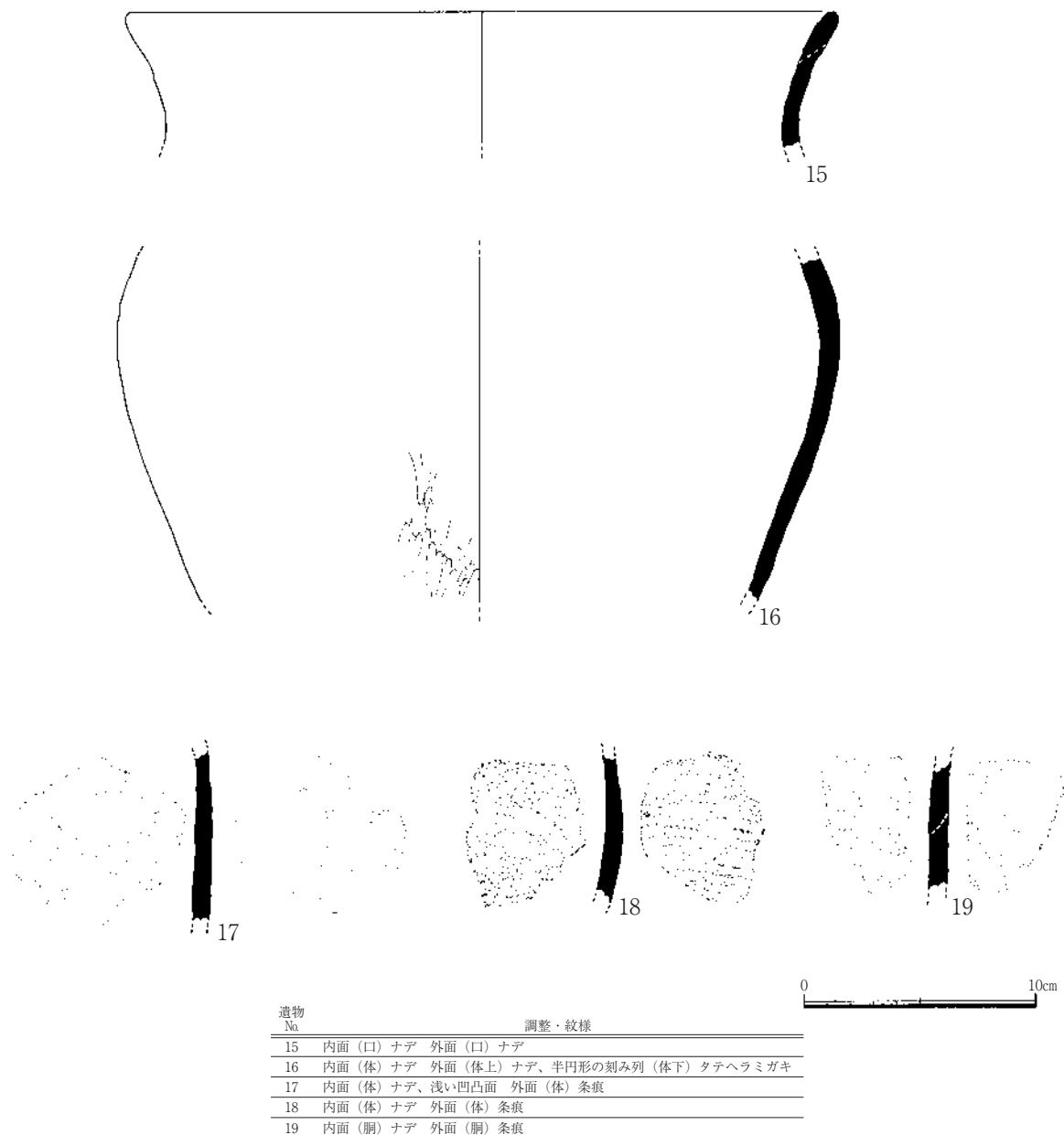
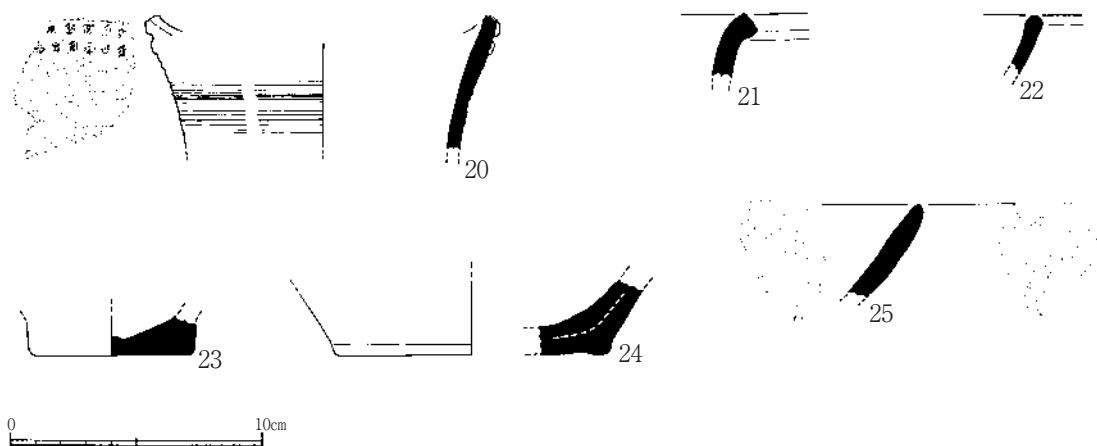


Fig.14 4 A区出土遺物4 IIIe層 (S : 1/3)

碗形を呈するものと考えられる。43は脚部が直線的に開き、裾で短く外反する。44から46の脚部は概ね連続的に外反する。

47から81は高坏の坏部である。47は坏部に段を有する。口縁は内彎して立ち上がる。48・49・51は口縁が屈曲の後に直線的に立ち上がる。50も恐らく口縁が直線的に立ち上がるものであろう。52は坏部に弱い段を有する。口縁は直線的に立ち上がる。53は口縁が弱い屈曲の後に内彎気味に立ち上がる。54は口縁が鋭い屈曲の後に直線的に立ち上がる。55は坏部の下位で段を有する。口縁は緩く外反する。内面には丁寧なナデが施される。56は坏部に弱い段を有する。口縁は緩く外反する。57は坏部の下位で屈曲する。口縁は短く外反する。58は坏部は碗形を呈する。口縁は弱い屈曲から緩く外反して立ち上がる。59は坏部に段を有する。口縁は外反して立ち上がる。60は



遺物 No.	調整・紋様
20	内面(口)ナデ 外面(口)4条単位の櫛掻き沈線、口唇下2条円形浮紋列
21	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ
22	内面(口)丁寧なナデ 外面(口)ナデ
23	内面(底)ナデ、粘土が付着する。
24	内面(底)ナデ 外面(胴)ナデ
25	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ
26	内面(坏)ナデ(脚)ナデ(裾)ヘラナデ 外面(坏)ヘラナデ(脚)ナデ
27	内面(坏)ヘラナデ(脚)ナデ 外面(坏)ナデ(脚)ナデ
28	内面(口)ヨコナデ(ハケ状原体)(坏)ヘラナデ(脚)ナデ(裾)ヘラナデ 外面(坏)ナデ、ヘラナデ(脚)ヘラナデ
29	内面(口)ヨコナデ(坏)粗ハケ(脚)ナデ(裾)ハケのちナデ 外面(口)ヨコナデ(坏)粗ハケ(脚)タテハケ(裾)ハケのちナデ
30	内面(口)ヨコナデ(坏)ヘラミガキ?(脚)ナデ(裾)ヨコナデ 外面(坏)ヨコナデ(坏底)ヘラミガキ?凹凸面(脚)ヘラミガキ(裾)ヨコナデ
31	内面(坏)ナデ(脚)ケズリ(裾)ハケのちナデ 外面(坏)ヘラナデ(脚)タテヘラナデ(裾)ヨコナデ
32	内面(坏)ヘラナデ(脚)ナデ(裾)ヨコナデ 外面(口)ヨコナデ(坏)ヘラナデ(脚)ナデ
33	内面(坏)ヨコナデ(脚)ナデ 外面(坏)ヨコナデ(脚)タテヘラミガキ
34	内面(坏)丁寧なヘラナデ(脚)ナデ(裾)ヨコナデ 外面(坏口)ヨコナデ(坏体)粗ヘラナデ(脚)ナデ(裾)ヨコナデ
35	内面(坏)丁寧なナデ(脚)ヨコヘラナデ 外面(坏口)ヨコナデ(坏体)丁寧なナデ(脚)丁寧なナデ
36	内面(口)ヨコナデ(坏)ヘラナデ(脚)ヘラナデ(裾)ヨコナデ 外面(口)ヨコナデ(坏)ナデ?(脚)ナデ?(裾)ヨコナデ

Fig.15 4A区出土遺物5 IIIc層(S:1/3)

坏部に段を有する。口縁は緩く外反して立上がる。61は坏部に段を有する。口縁は外反して立上がる。62は椀形の坏部である。口縁は弱い屈曲から緩く外反して立上がる。63は坏部が浅い椀形を呈する。口縁は緩く外反して立上がる。64は坏部が浅い椀形を呈する。口縁は短く外反する。65は坏部が浅い椀形を呈する。口縁は短く外反する。66は坏部が浅い椀形を呈し、口縁は短く外反する。67は坏部が椀形を呈し、口縁は直線的に立上がる。68は坏部が椀形を呈し、口縁は内彎気味に立上がる。69は坏部が椀形を呈し、口縁は内彎気味に立上がる。70は坏部が椀形を呈すると考えられる。口縁は内彎して立上がる。71は坏部が椀形を呈し、口縁は内湾する。72は坏部が椀形を呈し、口縁は内湾する。73は坏部がやや容量のある椀形を呈する。器壁は厚く仕上げられ、口縁は内彎して立上がる。白色系の胎土を用いる。74は坏部が浅い椀形を呈する。口縁は内彎して立上がる。75は坏部が皿形を呈する。口縁は内彎して上方に立上がる。76は坏部が浅い椀形を呈する。口縁は内彎気味に立上がる。77は坏部が皿形を呈する。口縁は内彎して立上がる。78は坏部が皿形を呈する。口縁は内彎して上方に立上がる。79は坏部が浅い皿形を呈する。口縁は内彎して立上がる。80は坏部が皿形を呈する。口縁は内彎して上方に立上がる。81は坏部が椀形を呈すると考えられる。

82から107は高坏の脚部である。82は脚部で屈曲の後に裾はやや外反して開く。83は脚部で屈

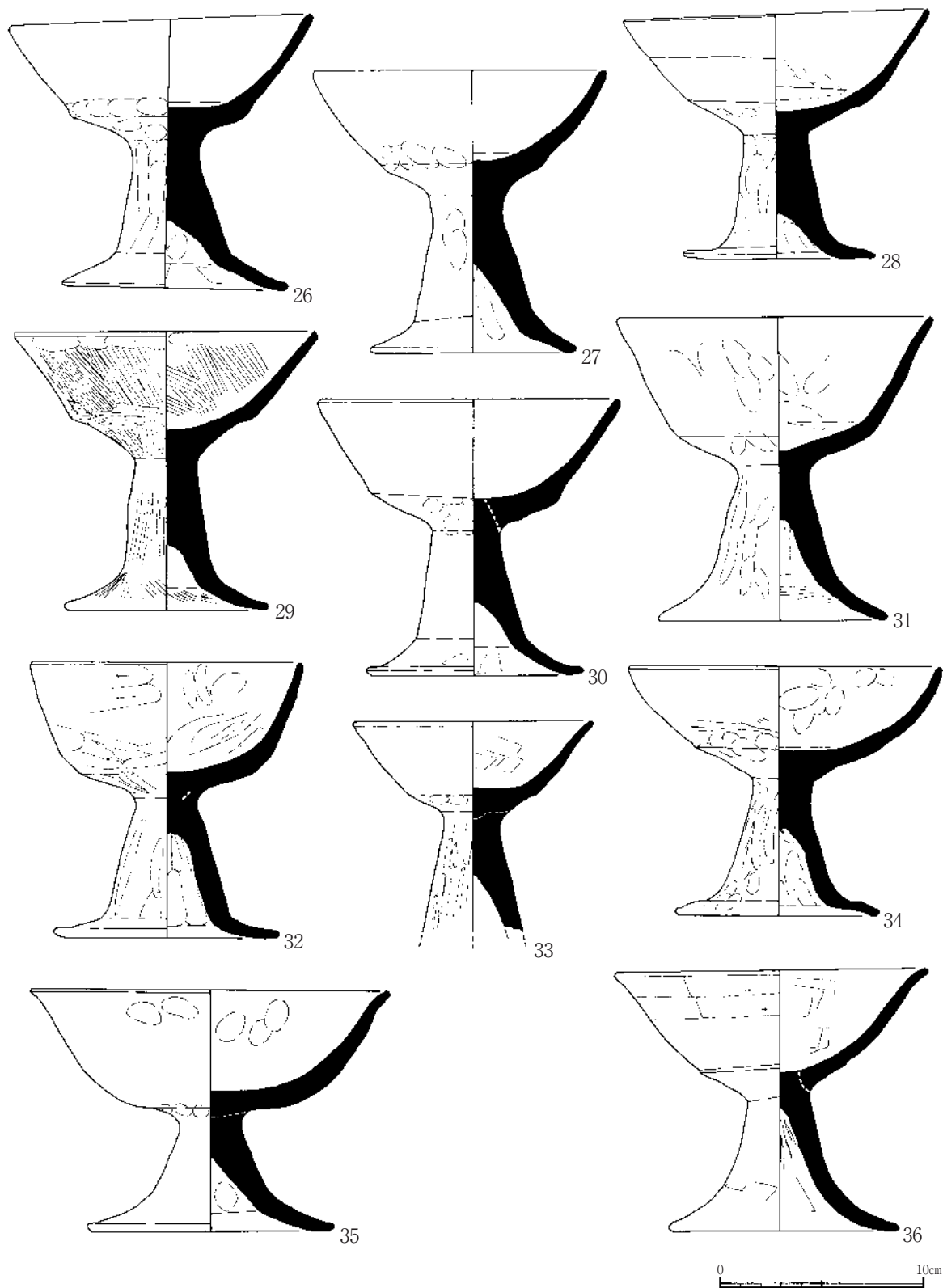
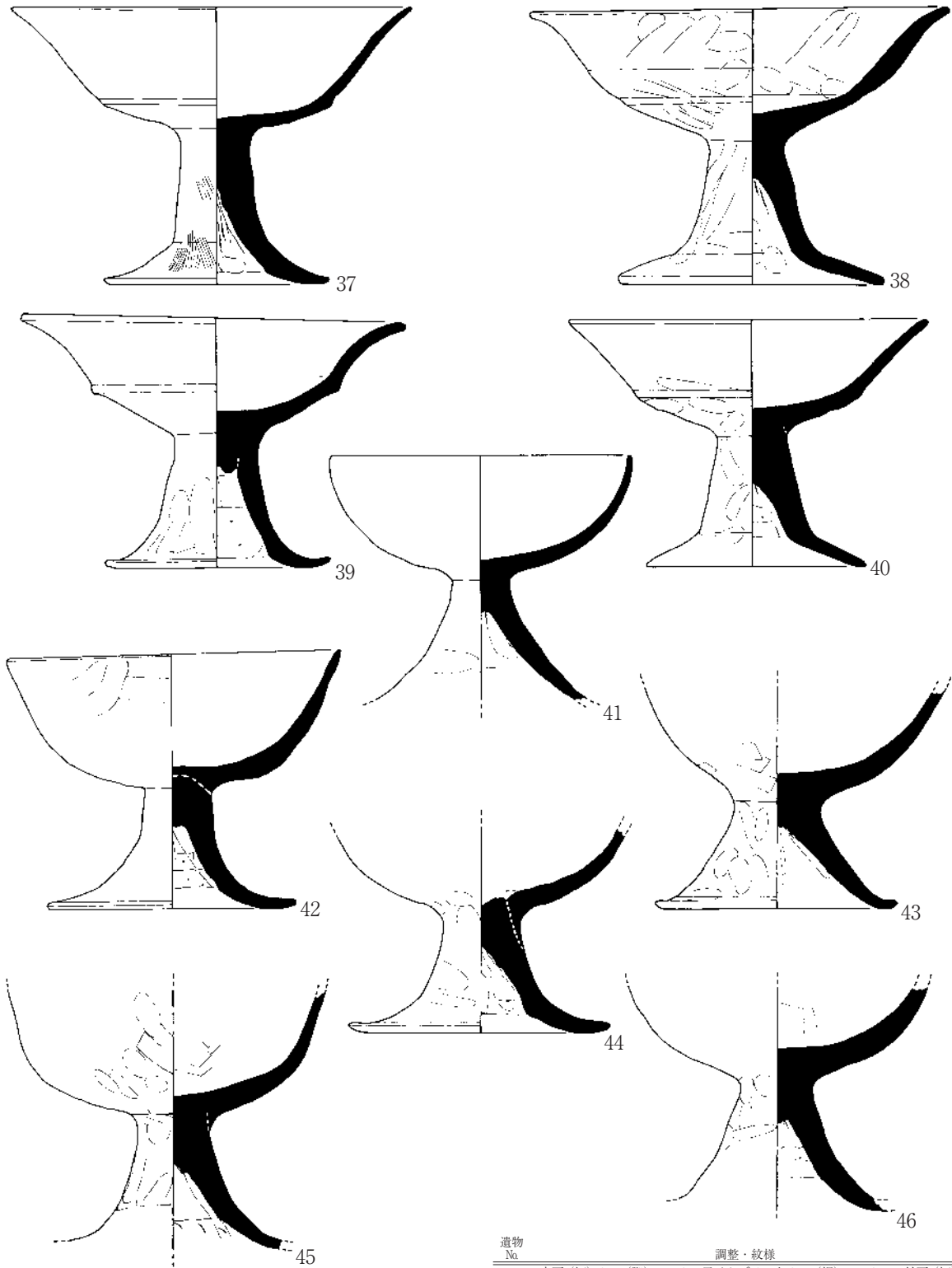


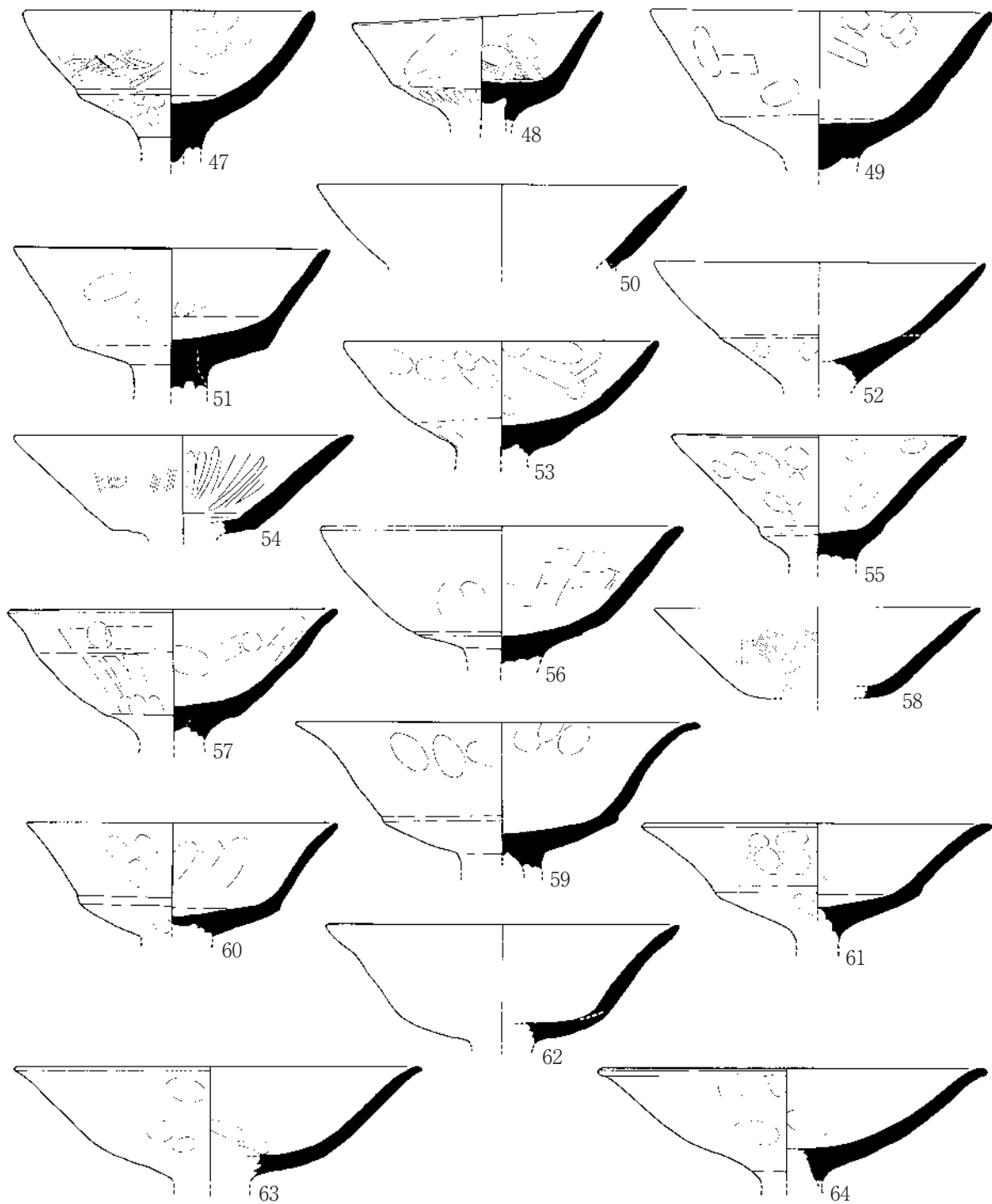
Fig.16 4 A区出土遺物6 III d層 (S : 1/3)



遺物 No	調整・紋様
37	内面(坏) ヨコナデ(坏底) 丁寧なヘラナデ(脚) 絞目(裾) ナデ 外面(坏) ヨコナデ(坏底) ナデ(脚) ハケのちナデ(裾) ヨコナデ
38	内面(坏) 丁寧なナデ(脚) 丁寧なナデ 外面(坏) ヨコナデ(脚) ナデ
39	内面(口) ヨコナデ(坏) ヘラナデ(脚) ヘラケズリ(裾) ヘラナデ 外面(口) ヨコナデ(坏) ヘラナデ(脚) タテヘラナデ(裾) ヨコナデ

遺物 No	調整・紋様
40	内面(坏) ナデ(脚) ヘラナデ又はケズリのちナデ(裾) ヨコナデ 外面(坏) ヘラナデ(脚) 丁寧なナデ
41	内面(坏) ナデ(脚) ケズリのちナデ(裾) ナデ 外面(坏) ナデ(脚) ナデ
42	内面(口) ヨコナデ(坏) ナデ(脚) ヘラケズリ? 外面(口) ヨコナデ(坏) ナデ(脚) ヘラナデ(裾) ヨコナデ
43	内面(坏) ナデ(脚) ヘラナデ(裾) 丁寧なヘラナデ 外面(坏) ヘラナデ(脚) 丁寧なヘラナデ、ヨコナデ
44	内面(坏) ヘラナデ(脚) ヘラケズリ(裾) ナデ 外面(坏) ナデ(脚) ナデ
45	内面(坏) ヘラナデ(脚) ヘラケズリのちナデ? (裾) ナデ、爪痕? 外面(坏) ナデ(脚) ナデ、ヘラナデ
46	内面(坏) ヘラナデ(脚) ヘラケズリのちナデ(裾) ナデ 外面(坏) ナデ(脚) ナデ(坏脚接合部に押圧痕)

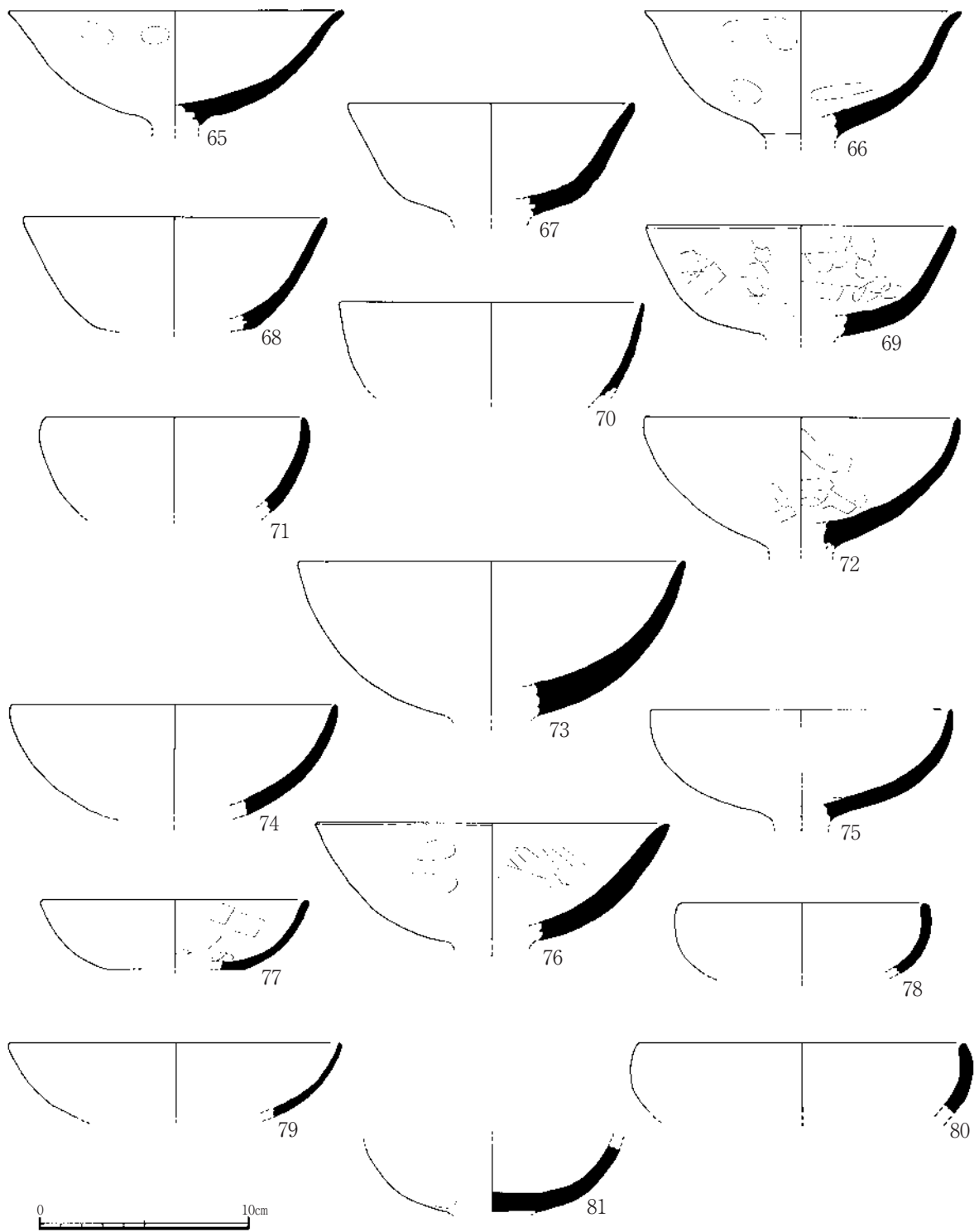
Fig.17 4 A区出土遺物7 III層 (S : 1/3)



遺物 No.	調整・紋様
47	内面(口)ヨコナデ(坏)ヘラナデ、ヘラミガキ? 外面ヘラミガキ?
48	内面(口)ヨコナデ(坏)ハケのちナデ 外面(坏)ナデ、ヘラ圧痕
49	内面(坏)丁寧なヘラナデ 外面(坏)ナデ
50	内面(口)ヨコナデ 外面(口)ヨコナデ
51	内面(坏)ヨコヘラナデ、ナデ 外面(坏)ナデ
52	内面(坏)ナデ 外面(坏)ナデ、浅い凹凸面
53	内面(坏)ヨコナデ(坏底)ナデ 外面(坏)ヨコナデ、ヘラナデ、凹凸面
54	内面(口)ヨコナデ(坏)放射状のヘラミガキ 外面(口)ヨコナデ(坏)ハケのちナデ
55	内面丁寧なナデ 外面ヨコナデ、浅い凹凸面
56	内面(坏)ヨコナデ(坏底)丁寧なナデ 外面(口)ヨコナデ(坏)ヘラナデ

遺物 No.	調整・紋様
57	内面(口)ヨコナデ(坏)ヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(坏体)タテヘラナデ(坏底)ヨコナデ
58	内面(口)ナデ(坏)ナデ 外面ハケのちナデ
59	内面(坏)ヨコナデ 外面(坏)ヨコナデ
60	内面(口)ヨコナデ(坏)ナデ、浅い凹凸面 外面(口)ヨコナデ(坏)ナデ、浅い凹凸面
61	内面(坏)ナデ 外面(口)ヨコナデ(坏)ヘラナデ又はミガキ
62	内面ナデ? 外面ナデ(滑らかな面)
63	内面(坏)ヘラナデ 外面(坏)ナデ
64	内面(坏)丁寧なナデ 外面(口)ヨコナデ(坏)ナデ

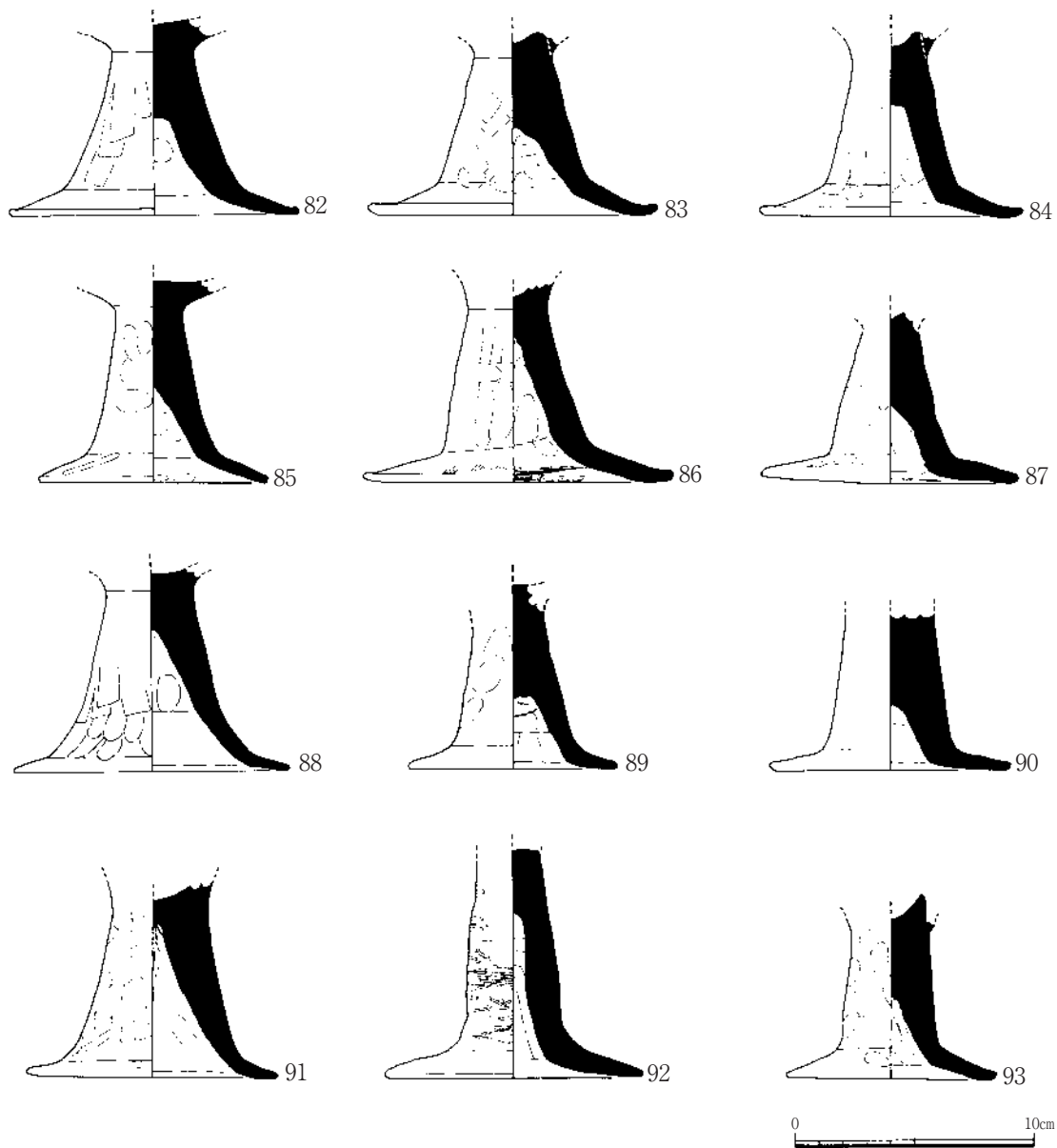
Fig.18 4 A区出土遺物8 III d層 (S : 1/3)



遺物 No	調整・紋様
65	内面(口)ヨコナデ(坏) 丁寧なナデ 外面(坏) ナデ
66	内面(坏) ミガキ?ナデ 外面(坏) ナデ
67	内面(口)ヨコナデ(坏) ナデ 外面(口)ヨコナデ(坏) ヘラナデ
68	内面(口)ヨコナデ(坏) ナデ 外面(坏) ナデ
69	内面(口)ヨコナデ(坏) ヘラナデ 外面ヘラナデ
70	内面(坏) ナデ 外面(坏) ナデ?小さな浅い凹凸面
71	内面(坏) ナデ(滑らかな面) 外面(口)ヨコナデ(坏) ナデ
72	内面(口)ヨコナデ(坏) 丁寧なナデ 外面(口)ヨコナデ(坏) ナデ、凹 凸面

遺物 No	調整・紋様
73	内面ナデ(滑らかな面)、細かい圧痕 外面ナデ(滑らかな面)
74	内面(坏) ナデ 外面(坏) ナデ
75	内面(坏) ナデ(滑らかな面) 外面(坏) ナデ
76	内面(坏) ヘラナデ 外面(坏) ヘラナデ
77	内面(口)ヘラナデ(体)ヘラナデ 外面ナデ、凹凸面
78	内面ナデ 外面ナデ
79	内面ナデ(滑らかな面) 外面ナデ、ミガキ?
80	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ
81	内面(口)ヨコナデ(坏) ナデ 外面(坏) ナデ?ヘラ圧痕

Fig.19 4 A区出土遺物9 III層 (S : 1/3)

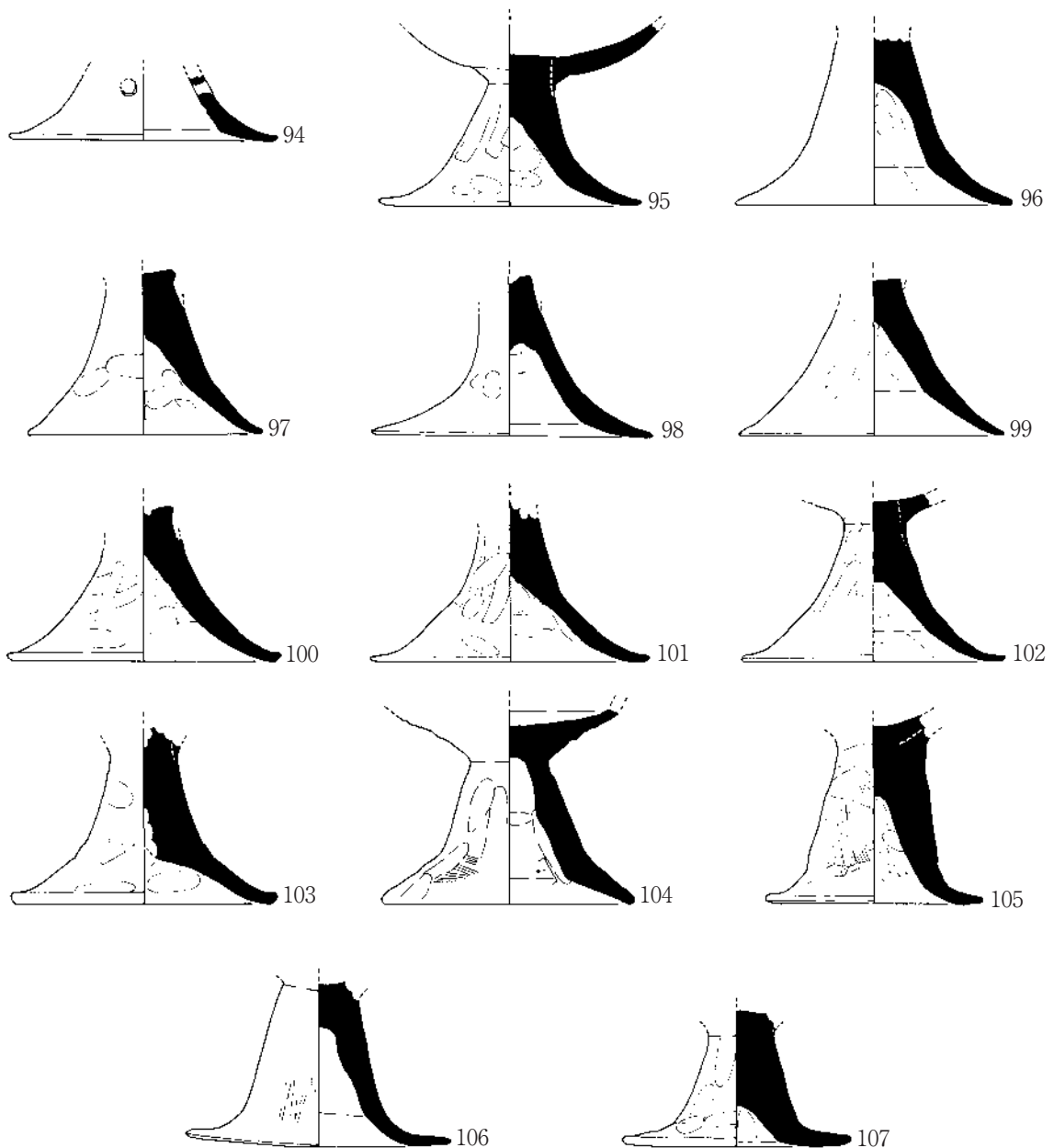


遺物 No.	調整・紋様
82	内面(脚)ケズリのちナデ? (裾) ヨコナデ 外面(脚)ヘラナデ (裾) ヨコナデ
83	内面(脚)ヘラケズリ? (裾) ナデ 外面(脚)ナデ、凹凸面(裾) ヨコナデ
84	内面(脚)指頭ナデ(裾) ナデ 外面(脚)タテヘラナデ(裾) ナデ(ハケ状原体)
85	内面(脚)ナデ、爪痕(裾) ナデ 外面(脚)ヘラナデ
86	内面(脚)ナデ(裾) ハケ 外面(脚)ヘラナデ(裾) ハケのちナデ
87	内面(脚)ナデ(裾) ハケ 外面(脚)ナデ、浅い凹凸面(裾) ヘラナデ
88	内面(脚)ナデ、押圧痕(裾) ヨコナデ 外面(脚)タテヘラナデ(細かいハケ状原体) (裾) ヨコナデ

遺物 No.	調整・紋様
89	内面(脚)ケズリのちナデ(裾) ナデ 外面(脚)ナデ
90	内面(脚)ナデ、押圧痕(裾) ナデ? 外面(脚)ナデ
91	内面(脚)絞り目、ナデ(裾) ヨコナデ 外面(脚)ヘラナデのちナデ(裾) ヘラナデ、ナデ
92	内面(脚)ナデ(裾) ヘラナデ 外面(脚)ヘラミガキ(裾) ヘラミガキ?(スリップ塗布?)
93	内面(脚)ナデ、絞り目(裾) ヘラナデ 外面(脚)ヘラナデ

Fig.20 4 A区出土遺物10 III d層 (S : 1/3)

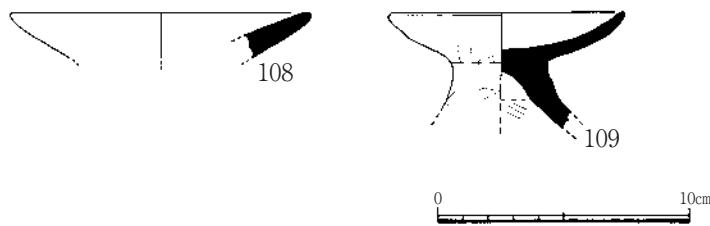
曲の後に裾は外反して開く。内面にはケズリ痕が残る。84は脚部で屈曲の後に裾は外反して開く。85は脚部で屈曲の後に裾は直線的に開く。内面には爪痕が残る。86は脚部で屈曲の後に裾はやや外反して開く。87は脚部で屈曲の後に裾は直線的に開く。88は脚部で外反し、屈曲の後に裾は短く直線的に開く。89は脚部で屈曲の後に裾は短く直線的に開く。90は脚部で屈曲の後に裾は直線的に開く。91は脚部で屈曲の後に裾は短く外反して開く。内面には絞り目が残る。92は



遺物 No	調整・紋様
94	内面(脚) ナデ(裾) ナデ 外面(脚) ナデ
95	内面(脚) 強いヘラナデ? (砂粒が動く) (裾) ヨコナデ 外面(脚) タテヘラナデ(裾) ヨコナデ
96	内面(脚) ケズリのちナデ? (裾) ナデ、ヘラ圧痕 外面(脚) ナデ
97	内面(脚) ケズリのちナデ(裾) ヘラナデ 外面(脚) ヘラナデ
98	内面(脚) ケズリのちナデ(裾) ヨコナデ 外面(脚) ナデ(裾) ヨコナデ
99	内面(脚) ケズリのちナデ(裾) ナデ 外面(脚) ヘラナデ
100	内面(脚) ケズリ(裾) ヘラナデ 外面(脚) ナデ
101	内面(脚) ケズリ(裾) ナデ 外面(脚) ヘラナデ、凹凸面

遺物 No	調整・紋様
102	内面(脚) ケズリのちナデ? (裾) ヨコナデ 外面(脚) タテヘラナデ(裾) ヨコナデ
103	内面(脚) ヘラナデ(裾) ハケのちナデ 外面(脚) ヘラナデ(裾) ヨコナデ
104	内面(脚) ヘラケズリ(裾) ナデ? 外面(脚) ナデ(裾) ヘラナデ(ハケ状原体)
105	内面(脚) ナデ、ヘラ圧痕(裾) ヨコナデ 外面(脚) タテハケのちナデ(裾) ヨコナデ
106	内面(脚) ケズリのちナデ(裾) ヨコナデ 外面(脚) ナデ? (裾) ヨコナデ
107	内面(脚) ナデ(裾) ヨコナデ、ヘラ圧痕 外面(脚) ナデ? (裾) ヘラナデ

Fig.21 4 A区出土遺物11 III d層 (S : 1/3)



遺物 No.	調整・紋様		
108	内面(口) ハケのちナデ	外面(口) ヘラナデ	
109	内面(台) ヘラナデ(脚)	外面(台) ナデ(接) ヘラナデ	

Fig.22 4 A区出土遺物12 III d層 (S : 1/3)

エンタシス形を呈する脚柱から屈曲の後に、裾は直線的に開く。外面はヘラミガキが施される。93は脚部で屈曲の後に裾は直線的に開く。94は脚部が連続的に外反する。円形の透かし孔が施される。器台の脚部か。95は脚部が連続的に外反する。内面には強いナデが施される。96・97は脚部が連続的に外反

する。内面にはナデ・ヘラナデが施される。98は脚部が連続的に外反する。内面にはケズリが施される。99は脚部が連続的に外反する。内面にはケズリのちナデが施される。100は脚部が連続的に外反する。内面にはケズリが施される。101は脚部が連続的に外反する。内面にはケズリが施される。外面は凹凸が顕著である。102は脚部が連続的に外反する。内面にはケズリが施される。103は脚部が連続的に外反する。脚部の上半は中実である。104は脚部で弱く屈曲し、裾は直線的に開く。坏部で屈曲を持つ。105は脚部の下位で屈曲の後に裾は短く外反する。外面はハケ状原体によるナデが施される。106は脚部の下位で外反する。内面はケズリ後ナデが施される。外面はハケ状原体によるナデか。107はやや低い脚部である。裾は屈曲の後に直線的に開く。脚柱部は概ね中実である。

高坏には形態的な特徴が坏部と脚部の各々に認められる。

〈坏部〉

1. 坏部に屈曲（または段）を持つもの（26・34・36～40・47～61）、2. 坏部に屈曲（または段）を持たないもの（35・41～46・68～81）である。1には1 a. 口縁が内彎気味に立上がるもの、1 b. 口縁が直線的またはやや外反するもの（62～67）、1 c. 口縁が外反して立上がるものが存在する。

2は概ね碗形を呈するものであり、坏部が深いものと浅いもの、皿形に近いものがある。

〈脚部〉

I. 脚部に屈曲を持つもの（82～93）、II. 脚部が連続的に外反するもの（94～103）である。IにはI a. 裾が内湾するもの、I b. 裾が直線的に開くもの、I c. 裾が外反するものが存在する。

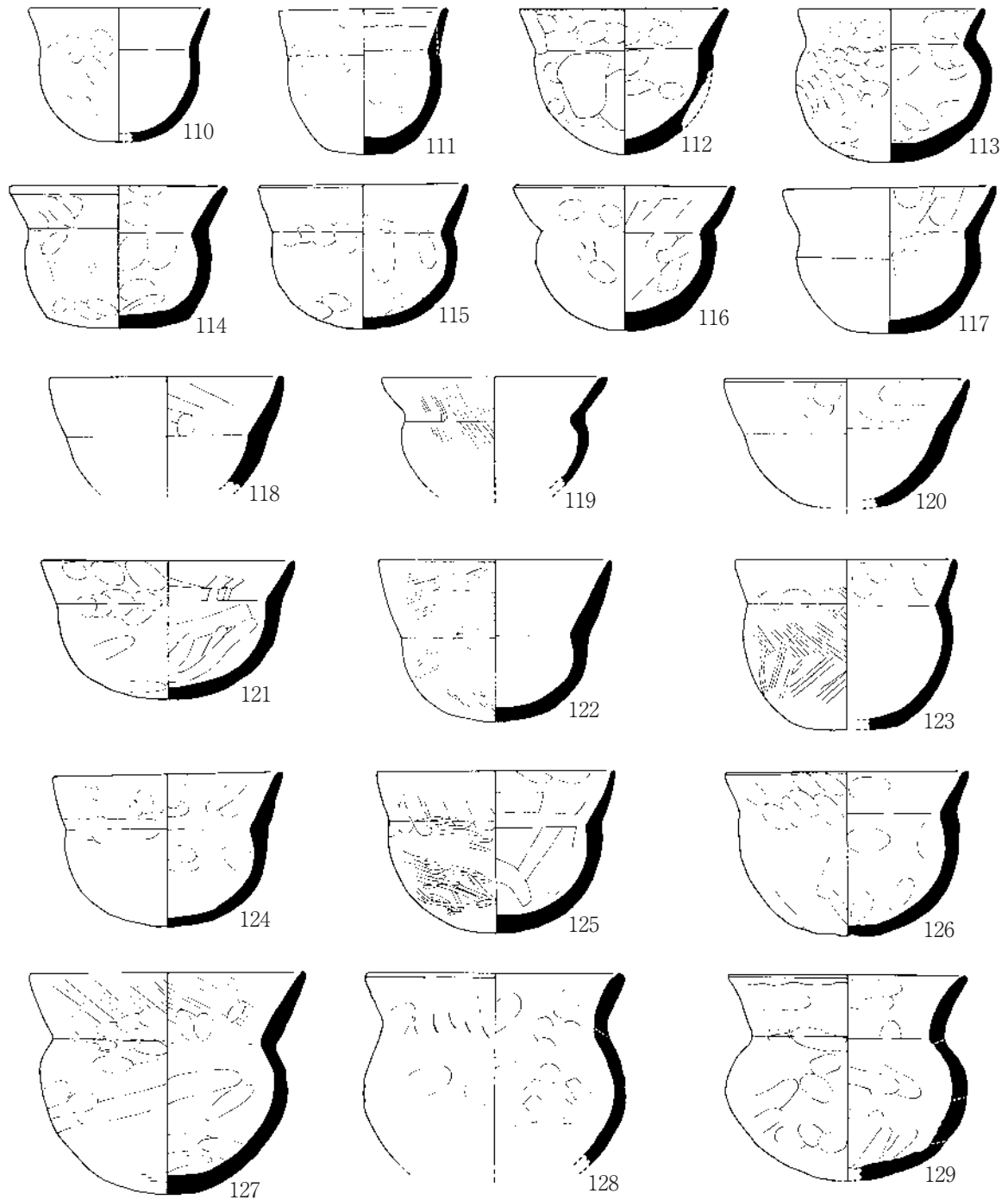
脚部の下位で外反するもの（39・106）についてはIIの連続的に外反するものとはやや異なるものと考えられる。

器台 (Fig.22)

小型の製品であり、台部は浅い皿状を成す。108は口縁が直線的に外上方に向かうものであり、109はやや内湾する。高坏の脚部として示した94は器台の脚部の可能性がある。

小型丸底土器 (Fig.23～25)

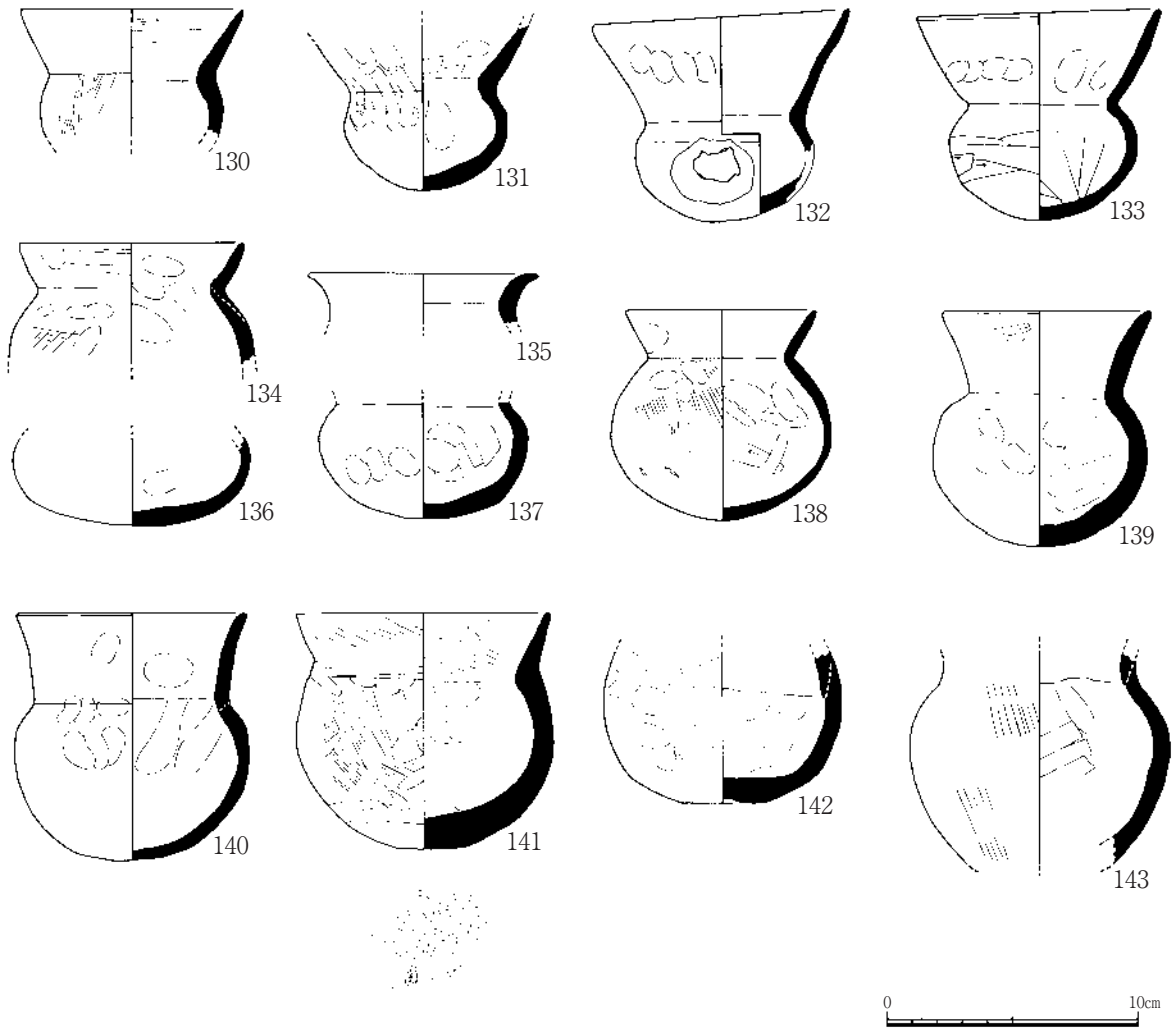
小型丸底土器として取り上げたものは110から150の41点である。



遺物 No	調整・紋様
110	内面(口)ヨコナデ(体)丁寧なヘラナデ 外面ナデ
111	内面(口)ナデ(胴)ナデ 外面(口)ナデ(胴)ヘラナデ
112	内面(口)ヘラナデ(体)ナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ナデ
113	内面(口)ヨコナデ(体)丁寧なヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ
114	内面(口)ナデ(体)丁寧なヘラナデ 外面(口)ナデ(体)ハケのちナデ
115	内面(口)ヘラナデ(体)丁寧なヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ナデ
116	内面(口)ヨコナデ(体)丁寧なヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(頸)ヨコナデ(体)ヘラナデ、爪痕
117	内面(口)ナデ(体)丁寧なヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ、ナデ(凹凸面)
118	内面(口)丁寧なナデ、ヘラ圧痕(体)ナデ(滑らかな面) 外面ナデ?
119	内面(口)ヨコナデ(体)ナデ、押圧痕? 外面(口)ハケのちヨコナデ(体上)ハケ(体中)ナデ

遺物 No	調整・紋様
120	内面(口)ナデ(体)丁寧なナデ 外面(口)ナデ、ヨコナデ(体)ナデ
121	内面(口)ヨコナデ(細ハケ状原体)(体)丁寧なヘラナデ 外面ナデ
122	内面(口)ヘラナデ(体)丁寧なヘラナデ 外面ヘラミガキ
123	内面(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ヨコナデ、ハケ
124	内面(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ナデ
125	内面(口)ヨコナデ(体)丁寧なヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(体)やや粗なヘラミガキ
126	内面(口)ヘラナデ(体)丁寧なヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ
127	内面(口)ハケのちヘラナデ(体上)ハケのちナデ(体下)ヘラナデ? 外面(口)ハケのちナデ?(頸)ヨコナデ(体)ナデ(底)粗ハケ状のヘラナデ痕
128	内面(口)ナデ(頸)押圧痕(胴)ヘラナデ 外面(口)ヨコナデ、ヘラ圧痕(胴)ヘラナデ
129	内面(口)ヨコナデ(胴)ナデ、押圧痕 外面(口)ヨコナデ(頸)ヨコナデ(胴)ナデ(底)強いヨコナデ、凹凸面

Fig.23 4 A区出土遺物13 III d層 (S : 1/3)

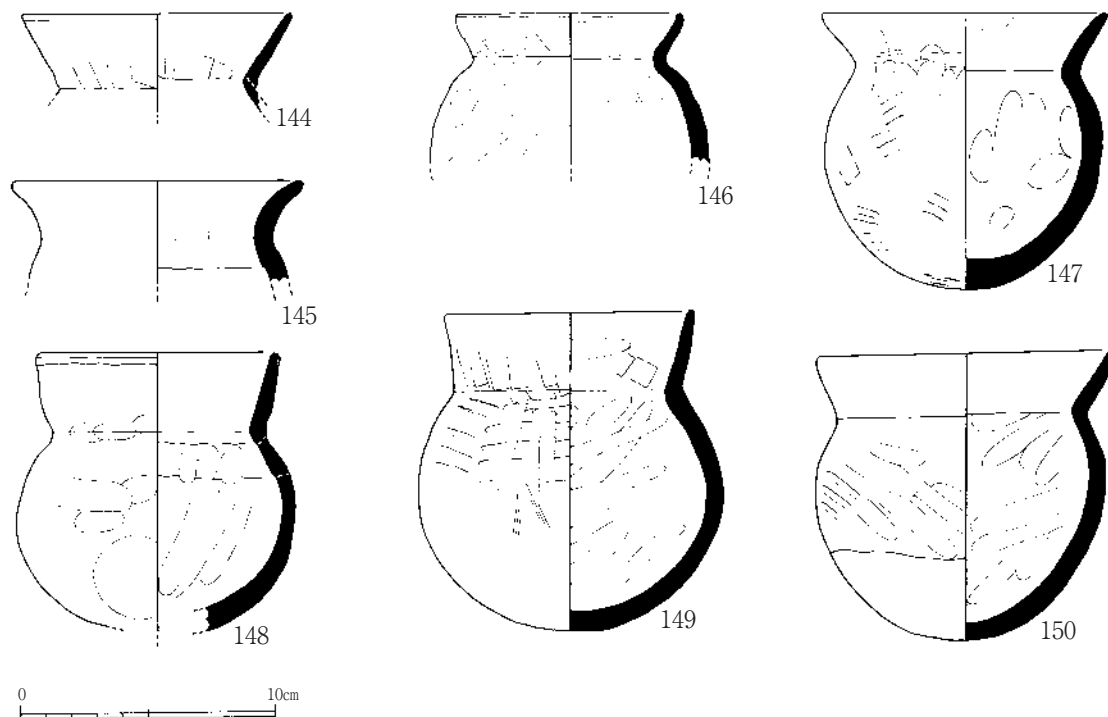


遺物 No.	調整・紋様
130	内面(口)ヨコハケのちナデ(胴)ナデ 外面(口)ハケのちナデ(胴)ハケ
131	内面(口)ヨコナデ(胴)ナデ、押圧痕 外面(口)ナデ(頸)ヘラナデ(胴)ナデ
132	内面(口)ヨコナデ(胴)ナデ 外面(口)ヨコナデ(胴)ミガキ?
133	内面(口)ヨコナデ(胴)ヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(胴)ヨコナデ、ケズリのちナデ
134	内面(口)ナデ(胴)ナデ 外面(口)ヨコヘラナデ(胴上)ヨコナデ(胴)ナデ、ヘラナデ
135	内面(口)ナデ(胴)ナデ 外面(口)ヨコナデ
136	内面(底)ナデ 外面(底)ヘラナデ

遺物 No.	調整・紋様
137	内面(胴)ヘラナデ 外面(胴)丁寧なヘラナデ
138	内面(口)ヘラナデ(胴)ナデ、指頭押圧、ケズリのちナデ 外面(口)ナデ(胴)ハケのちナデ、爪痕
139	内面(口)ナデ、ヘラミガキ?(胴)ナデ 外面(口)ナデ、ヘラミガキ?(胴)ナデ
140	内面(口)ナデ(胴)ナデ 外面(口)ヘラナデ(胴)ナデ
141	内面(口)ハケのちヨコナデ(胴)ヘラナデ 外面(口)ハケのちヨコナデ(頸)強いヨコナデ(胴)ハケのちナデ
142	内面(胴)ナデ、押圧痕 外面(胴)ハケのちナデ、押圧痕
143	内面(胴)ヘラナデ 外面(頸)ヨコナデ(胴上)ハケのちナデ(胴下)ヨコナデ

Fig.24 4 A区出土遺物14 III d層 (S : 1/3)

110から129は鉢形とした。有段鉢または鐙状の口縁を有する鉢に近似する形態である。大きく広がった口縁を有し、口縁下に屈曲を持つ。横方向に張り出した浅い体部であり、緩やかな丸底を呈す。128・129はやや大型であり、球形に近く張出した胴体部から甕形か。130から150は壺形または甕形とした。132は球形の小さな胴体部から口縁はやや長く直線的に立上がる。仕上げは丁寧であり、胴体中位に剥落による孔が開く。大きく張出した球形の胴部と明瞭な頸部を有する。136・137の胴体部は鉢形のものか。また、147から150は容量も大きく小型の甕または壺とすべきか。器面の調整は通有の土器に見られるナデが施されるものも存在する。多くは丁寧に仕上げられており、ヘラミガキ風のナデも見受けられる。胎土についても精製されたも



遺物 No	調整・紋様
144	内面(口)ヨコナデ(胴)ナデ 外面(口)ヨコナデ
145	内面(口)ナデ(頸)接合痕 外面(口)ナデ(胴)ナデ
146	内面(口)ヨコナデ(胴)指頭ナデ、ヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(胴)ヘラナデ、押圧痕
147	内面(口)ナデ(胴)ナデ 外面(口)ヨコナデ(頸)タテヘラナデ(胴)タタキ?のちヘラナデ
148	内面(口)ナデ(胴)ナデ(頸部下に押圧痕) 外面(口)ナデ(頸)ヨコナデ(胴)ナデ、ヘラナデ
149	内面(口)ハケのちヨコナデ(胴)ヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(頸)タテヘラナデ(胴)タタキのちヘラナデ(ハケ状原体)
150	内面(口)ヨコナデ(胴)ヘラナデ 外面(口)ケズリのちヨコナデ(頸)ヨコナデ(胴)タタキ?のちヘラナデ
151	内面指頭ナデ、押圧痕 外面押圧痕、凹凸面
152	内面指頭ナデ 外面ナデ、押圧痕
153	内面ナデ、押圧痕 外面ナデ、押圧痕
154	内面ヘラナデ 外面ナデ、押圧痕
155	内・外面指頭押圧痕
156	内面ナデ、丁寧なナデ 外面指頭押圧痕
157	内面指頭ナデ、押圧痕 外面ナデ?押圧痕
158	内面ナデ 外面ナデ、押圧痕
159	内面ナデ 外面ナデ、押圧痕
160	内面ナデ、押圧痕 外面ナデ、指頭押圧痕
161	内面ナデ 外面(口)ナデ(体)ヘラナデ?
162	内面指頭ナデ、押圧痕 外面ヘラナデ?押圧痕、凹凸面
163	内面指頭ナデ、押圧痕 外面指頭押圧痕、凹凸面
164	内面指頭ナデ 外面ナデ、押圧痕
165	内面ヨコナデ 外面(口)押圧痕(体)ナデ
166	内面ナデ 外面ナデ、押圧痕
167	内面指頭ナデ 外面ナデ

遺物 No	調整・紋様
168	内面指頭ナデ 外面ナデ、押圧痕
169	内面ヘラナデ 外面ナデ
170	内面ナデ、押圧痕 外面ナデ、押圧痕
171	内面ナデ
172	内面(口)ナデ(胴)ナデ 外面ヘラナデ
173	内面指頭ナデ 外面ナデ、押圧痕
174	内面(口)指頭ナデ(胴)ナデ、押圧痕 外面押圧痕
175	内面(口)ナデ(胴)ナデ 外面ナデ
176	内面ヘラナデ 外面(口)指頭押圧(体)ナデ?
177	内面ナデ、押圧痕 外面ナデ(凹凸面)
178	内面指頭ナデ 外面ナデ、押圧痕
179	内面(口)ナデ(胴)指頭押圧、ナデ 外面(口)ナデ?(頸)接合痕、押圧痕(胴)浅い凹凸面
180	内面(口)ナデ(胴)押圧、ナデ 外面ナデ(頸)接合痕(胴)浅い凹凸面
181	内面(口)ヘラナデ(胴)指頭ナデ 外面ナデ、押圧痕
182	内面(口)ナデ、押圧痕(体)放射状の指頭ナデ 外面ナデ、押圧痕(底)粉痕
183	内面(口)ナデ(胴)指頭ナデ、押圧痕 外面(口)ナデ、押圧痕(胴)ヘラナデ
184	内面(口)ナデ(胴)指頭ナデ 外面ナデ、押圧痕
185	内面(口)押圧痕(体)押圧痕 外面(口)押圧痕(体)ナデ
186	内面(口)ナデ、押圧痕(胴)指頭押圧 外面(口)ナデ(頸)押圧痕(胴)ヘラナデ、押圧痕(底)粉痕
187	内面(口)ナデ(胴)指頭ナデ 外面(口)ナデ、押圧痕(胴)ナデ
188	内面(口)ナデ(体)指頭ナデ 外面ナデ、押圧痕(底)爪痕、ヘラ圧痕
189	内面(口)丁寧なヘラナデ(体)指頭ナデ 外面(口)ナデ(頸)押圧痕(体)ナデ、押圧痕
190	内面(胴)ナデ 外面(胴)凹凸面

Fig.25 4 A区出土遺物15 Ⅲd層 (S : 1/3)

のが多い。

ミニチュア土器 (Fig.26・27)

ミニチュア土器として図示したのは151から194の44点である。

157から160は浅い皿形である。151から156と161から163は口縁の開いた所謂椀形である。164から190は鉢形または甕・壺形と考えられる。164・165・167・190は球形の胴体部から口縁は内彎する。172・177は短く口縁は外反する。166・176は口縁外面を押圧することで段部が形成さ

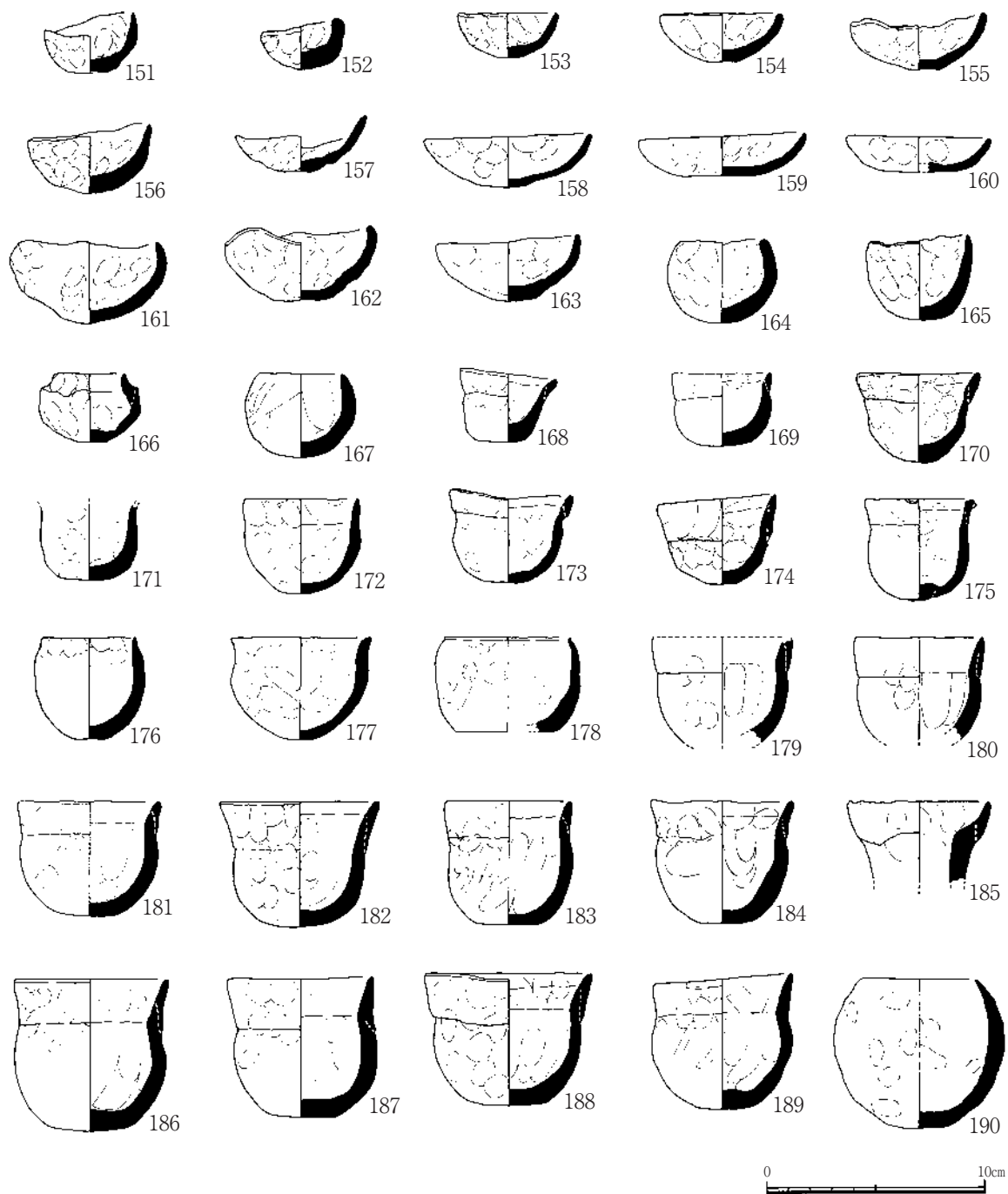


Fig.26 4 A区出土遺物16 III d層 (S : 1/3)

れる。178は口縁は内彎し、底部は押しつぶされた平底を成す。168から170と179から188には口縁に粘土帯を貼付し肥厚する。外面には接合痕が明瞭な段として残る。口縁部を強く意識したものであり、甕形または壺形と考えられる。押圧痕を残した手捏ね成形によるものを基準とした。鉢形の形態を示すもので器高の低い皿状の製品には、鉢との区分が困難なものも存在する。

壺 (Fig.28~30)

壺として図示したものは195から213の19点である。

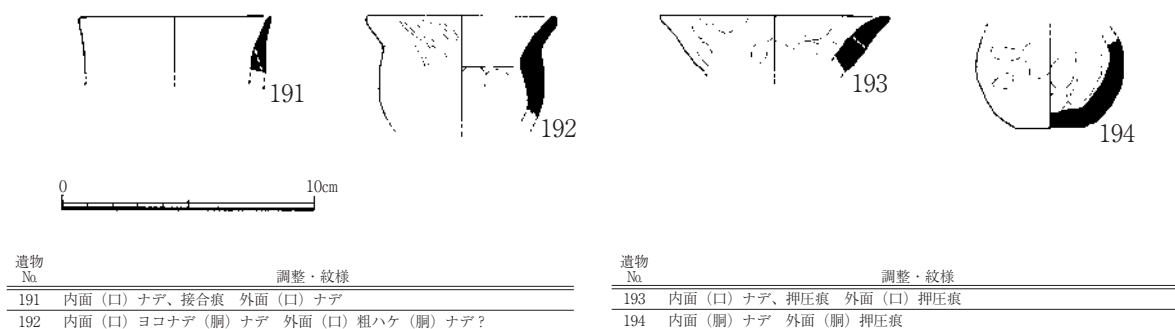
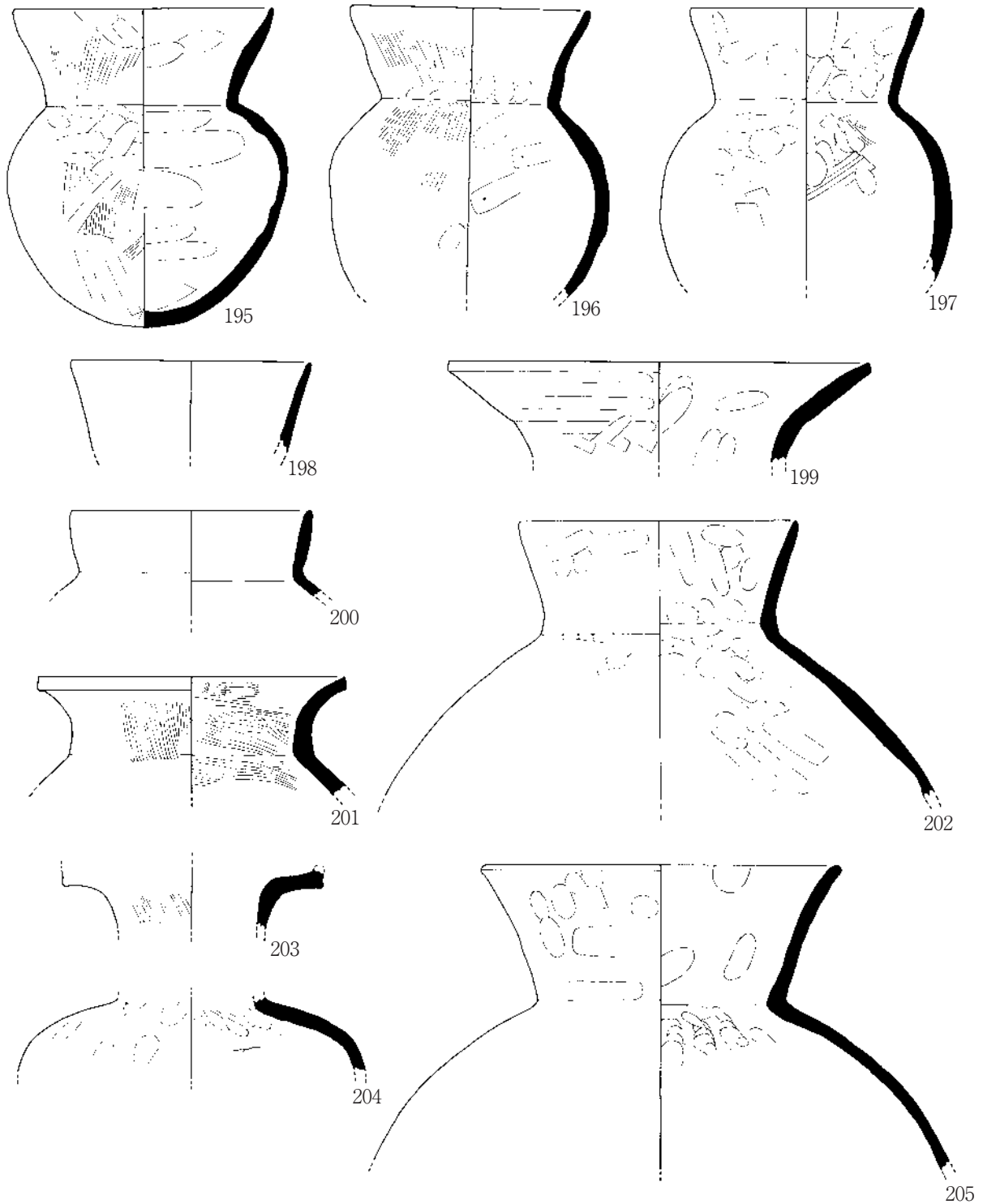


Fig.27 4 A区出土遺物17 III層 (S : 1/3)

195から198・200はやや小型の製品で精製胎土である。195は肩張り形の胴部に口縁は内彎気味に立上がる。胴部の内面に強いヨコナデ、外面には粗ハケのちヘラナデを施す。196は球形の胴部に口縁はやや外反して立上がる。胴部の内面はケズリ、外面にはハケのちナデを施す。197は球形の胴部に口縁は直線的に立上がる。胴部の内面はハケのちナデ、外面にはナデを施す。198は口縁が直線的に立上がるものであり、小型丸底土器とするべきか。199は口縁が外反して立上がる広口形の壺である。口縁は外側にやや肥厚し、口唇は面を成す。弥生後期土器か。200は口縁が内彎気味に短く立上がる。201は口縁が外反して立上がる。口唇は外傾する面を成し、外側にやや肥厚する。内外面はハケが施される。弥生後期土器である。202は球形と考えられる胴部に口縁は直線的に立上がる。胴部の上位内面には指頭押圧のちナデが施される。203は発達した頸部に口縁は大きく外反して開く。口唇は上方に肥厚し、やや窪んだ面を成す。搬入品である。204は203と同一個体と考えられる。胴部の上位は外側に大きく張出す。胎土は精緻である。205は球形と考えられる胴部から口縁はやや外反して立上がる。口唇は丸味を持った面を成す。内面には煤が付着する。206は二重口縁の壺である。口縁は明瞭な屈曲(段)を有し、のちに緩やかに外反して開く。口唇は丸く修め、内外面にはナデを施す。図示し得ないが二重口縁には、他に口縁が屈曲したのちに直線的に立上がる例が認められる。胎土は灰色系の色調であり、やや粗な砂粒を含む。207は小型の壺である。球形の胴部に内面はケズリのちナデを施し、外面はハケを施す。208は球形の胴部に口縁は緩く外反して立上がる。口唇は丸く修める。胴部内面は強いナデが施され、砂粒が動くものの滑らかに仕上げられる。外面は細かいハケのちナデが施される。器面には凹凸面が残る。209・210は小型の壺である。胴部の中位がやや張出す球形を呈する。209は底部がやや突出する。内外面にナデを施し、内面には接合痕が残る。212は球形の胴部に口縁は緩く外反する。口唇は外傾する面を成す。胴部の内面はハケのちナデが施され、外面はタタキのちハケまたはナデが施される。213は胴部の中位がやや張出す球形を呈する。口縁はやや外反して立上がり、口唇は丸く修める。内外面は概ねナデで仕上げられ、胴部の外面下位にはミガキが施される。

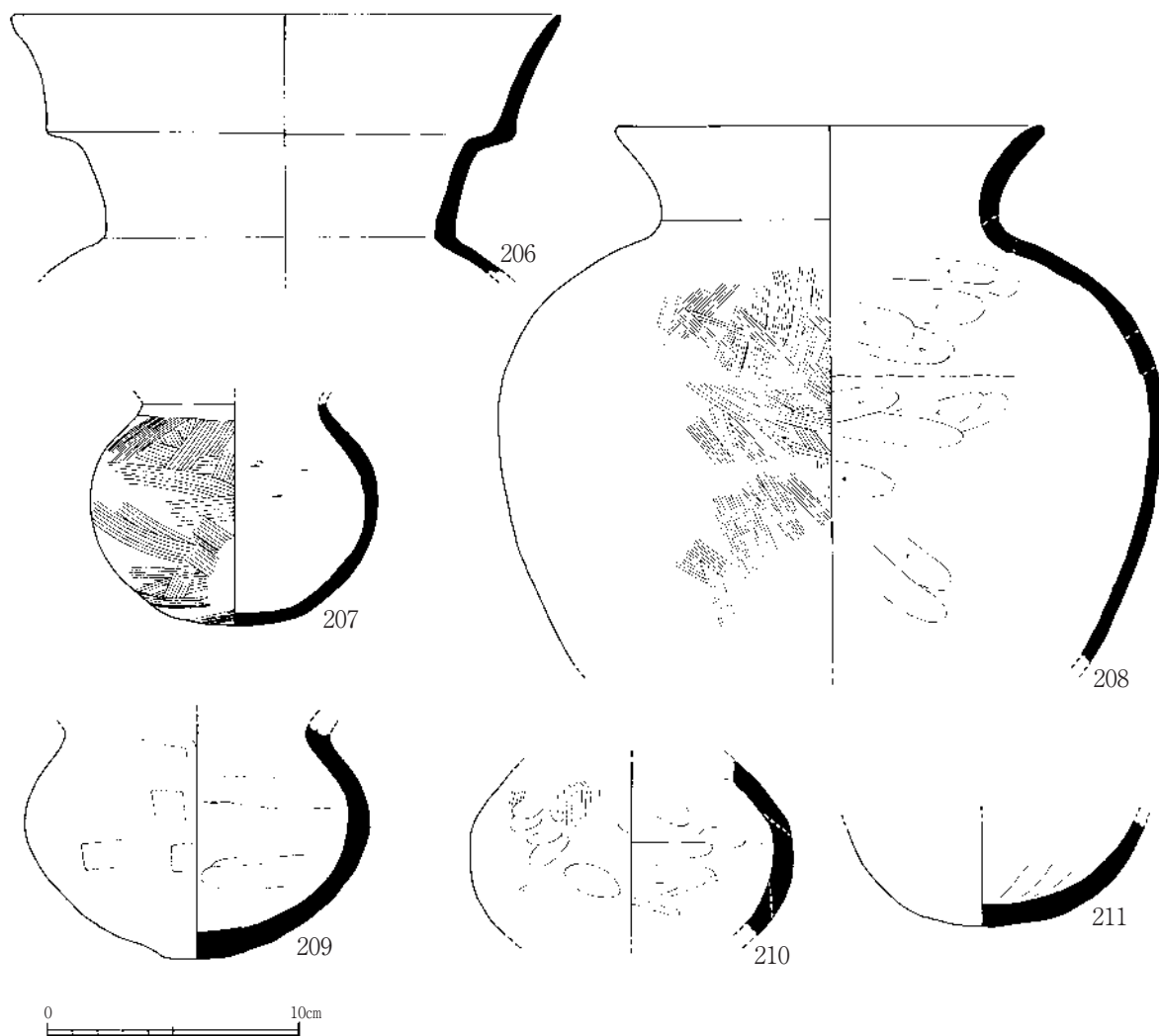
小型の壺には精製された胎土を持つものがあり、これらは器面の調整に於いてもナデやミガキで仕上げられる。



遺物 No	調整・紋様
195	内面(口)ヨコナデ、ナデ(胴上)ヨコナデ(胴下)強いナデ(砂粒が動く) 外面(口)ヨコナデ、粗ハケのちナデ(胴)ハケのちヘラナデ
196	内面(口)ハケのちナデ(胴)ケズリのちナデ 外面(口)ハケ(胴)ハケ(胴中)ヘラナデ
197	内面(口)ヨコナデ、押圧痕(胴)ハケのちナデ、押圧痕 外面(口)ヨコナデ(頸)強いナデ(胴)ナデ、浅い凹凸面
198	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ
199	内面(口)ヨコナデ 外面(口)ヨコナデ(下位はヘラナデ)
200	内面(口)ヨコナデ 外面(口)ヨコナデ

遺物 No	調整・紋様
201	内面(口)ハケ(胴)ハケ 外面(口)ヨコナデ、タテハケ(胴)ハケのちナデ
202	内面(口)ヨコナデ(胴)ナデ、押圧痕 外面(口)ヨコナデ(胴)ナデ
203	内面(口)ヨコナデ(頸)ナデ 外面(口)ヨコナデ(頸)ハケのちヨコナデ
204	内面(胴上)ナデ痕、押圧痕(胴中)ヨコハケのちナデ(ハケ状原体) 外面(胴)ナデ
205	内面(口)ヨコナデ、ナデ(胴)ナデ、押圧痕 外面(口)ヨコナデ(胴)ナデ

Fig.28 4 A区出土遺物18 III d層 (S : 1/3)



遺物 No	調整・紋様
206	内面(口) ナデ 外面(口) ナデ
207	内面(胴) ケズリのちナデ、ケズリ、ナデ 外面(頸) ヨコナデ(胴) 細ハケ
208	内面(口) ヨコナデ(胴) 強いナデ 外面(口) ヨコナデ(胴) 細ハケのちナデ

遺物 No	調整・紋様
209	内面(胴上) 丁寧なナデ(胴下) ヘラナデ
210	内面(胴上) ナデ(胴中) ヨコヘラナデ、接合痕 外面(胴上) ハケのちヘラナデ(胴下) ケズリ?のちナデ
211	内面(底) ナデ 外面(底) ナデ

Fig.29 4 A区出土遺物19 III d層 (S : 1/3)

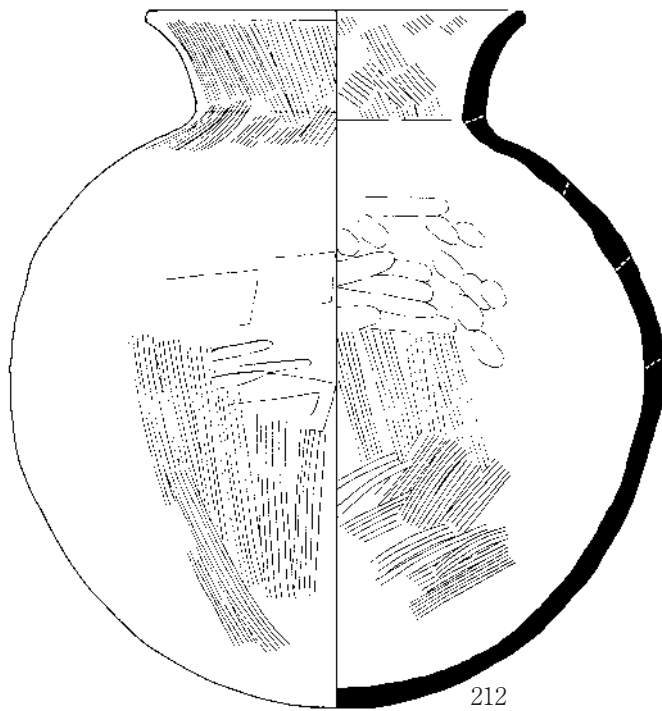
その他の土器 (Fig.31)

214から228はIII d層出土土器で時期がやや古いものである。214は縄文土器の浅鉢口縁である。口縁の内外面には沈線紋が施され、外面には竹管による刺突紋が施される。215は広口壺の口縁である。上下に肥厚する口唇には櫛描沈線が施される。216は壺の口縁か。直立する口縁外面には凹線退化?の櫛描沈線が施される。217は壺破片を転用した土製円盤である。218から228は甕または壺の底部であり、平底である。218は狭い平端面を成し、220はやや突出した底部を呈す。

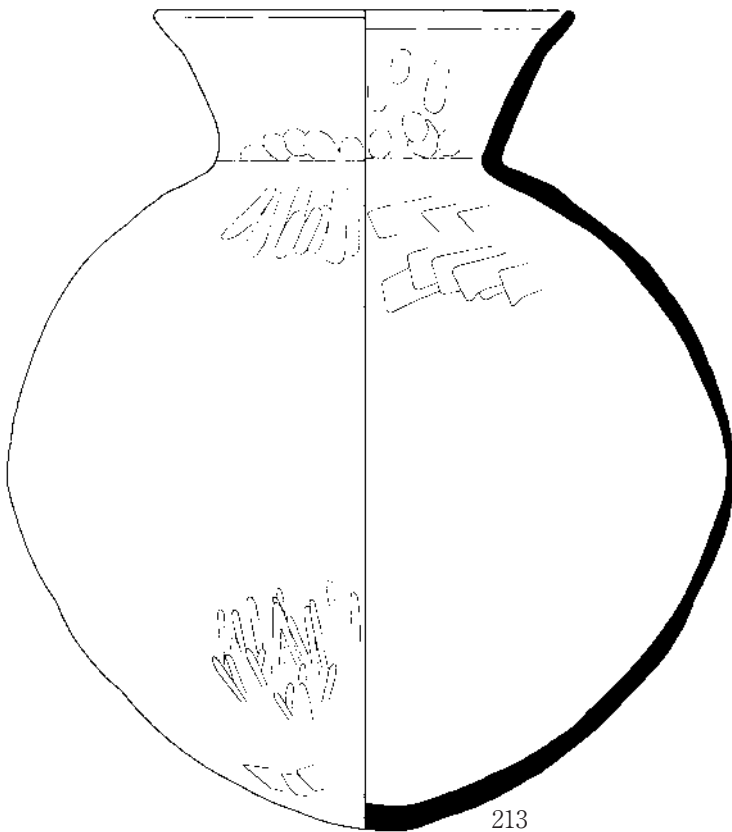
鉢 (Fig.32~40)

鉢のなかで図示したものは229から361の133点である。

229から256は小容量のものであり、形態的には皿形から浅い椀形を呈す。調整は主に内外面

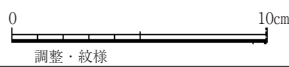


212



213

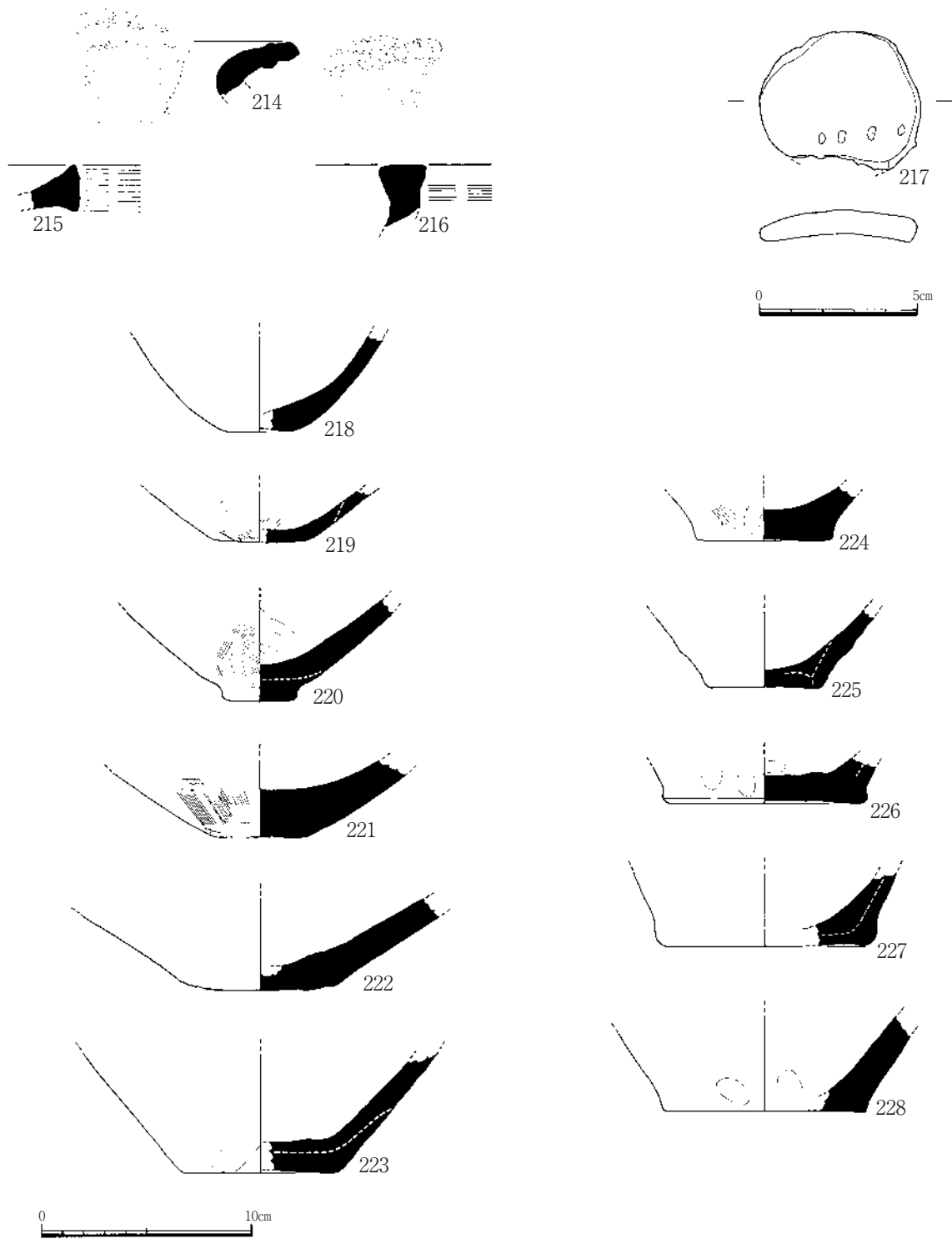
にナデを施すものが多く、押圧痕を残すものが見られる。内面が滑らかに仕上げられるものには型造りの製品¹⁾が含まれると考えられ、内外面に押圧痕を多く残すものは手捏ね成形を考えられる。229・230は明らかに手捏ね成形によるものであろう。238は体部の内面を丁寧なナデで仕上げる。口縁の一部に煤が付着する。灯明皿として使用したものか。250は外面に横位のハケを施し、内面にもハケが残る。内面を滑らかに仕上げるものが多く、ヘラナデによるものが多い。底部は丸底のものが多く、中には押しつぶした平底?のものが存在する。255から267は皿形である。底部は緩い丸底か押しつぶした様な平底である。調整はナデ・ヘラナデが卓越しており、内面は概ね滑らかである。255は内彎気味に立ち上がる口縁を有し、口唇は太く丸く修める。胎土は精錬され、白色系の色調に焼き上げられる。高坏の胎土に近似する。259は内外面に煤が付着する。260は口縁は内彎して立ち上がり、口唇は丸く修める。外面をタタキのちナデで仕上げ、内面は丁寧なナデを施す。外面には262や



遺物
No

212 内面 (口) ハケのちナデ (胴) ナデ、押圧痕、(胴中) ハケ 外面 (口) ハケ (胴) タタキのちナデ (胴中) タタキのちハケ (底) ナデ
213 内面 (口) ヨコナデ、ナデ (胴) ヘラナデ (胴中) ナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) 丁寧なヘラナデ? (胴中) ナデ (胴下) ヘラミガキ (底) ヘラナデ?

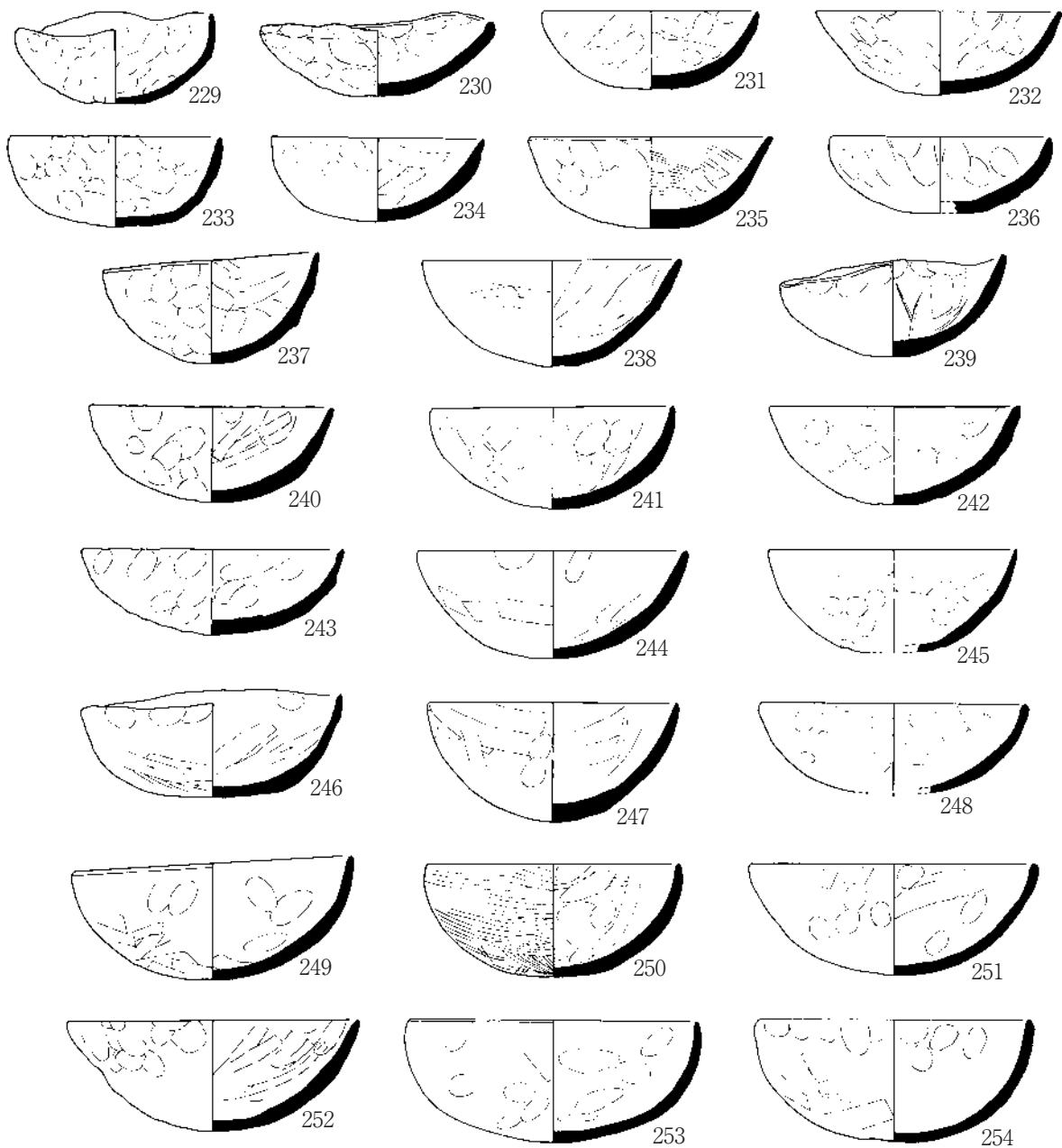
Fig.30 4 A区出土遺物20 III d層 (S : 1/3)



遺物 No	調整・紋様
214	内面(口) 隆帯による工字文 外面(口) 太い沈線、竹管による刺突
215	内面(口) ナデ 外面(口) ナデ、口唇部4条のヘラ描き沈線
216	内面(口) ナデ、押圧痕 外面(口) 櫛描き沈線
217	内面ナデ 外面刺突列
218	内面(底) 強いナデ 外面(胴) ナデ
219	内面(底) ナデ 外面(胴) ハケのちナデ(底) ハケ
220	内面(底) ナデ 外面(底) ハケ

遺物 No	調整・紋様
221	内面(底) ナデ 外面(底) タタキのちハケ
222	外面(底) ナデ
223	内面(底) ナデ 外面(底) ナデ
224	内面(底) ナデ 外面(底) ハケ
225	内面(底) ナデ 外面(底) ナデ、凹凸面
226	内面(底) ナデ 外面(底) ナデ
227	内面(底) ナデ 外面(底) ナデ
228	内面(底) ナデ 外面(底) ナデ

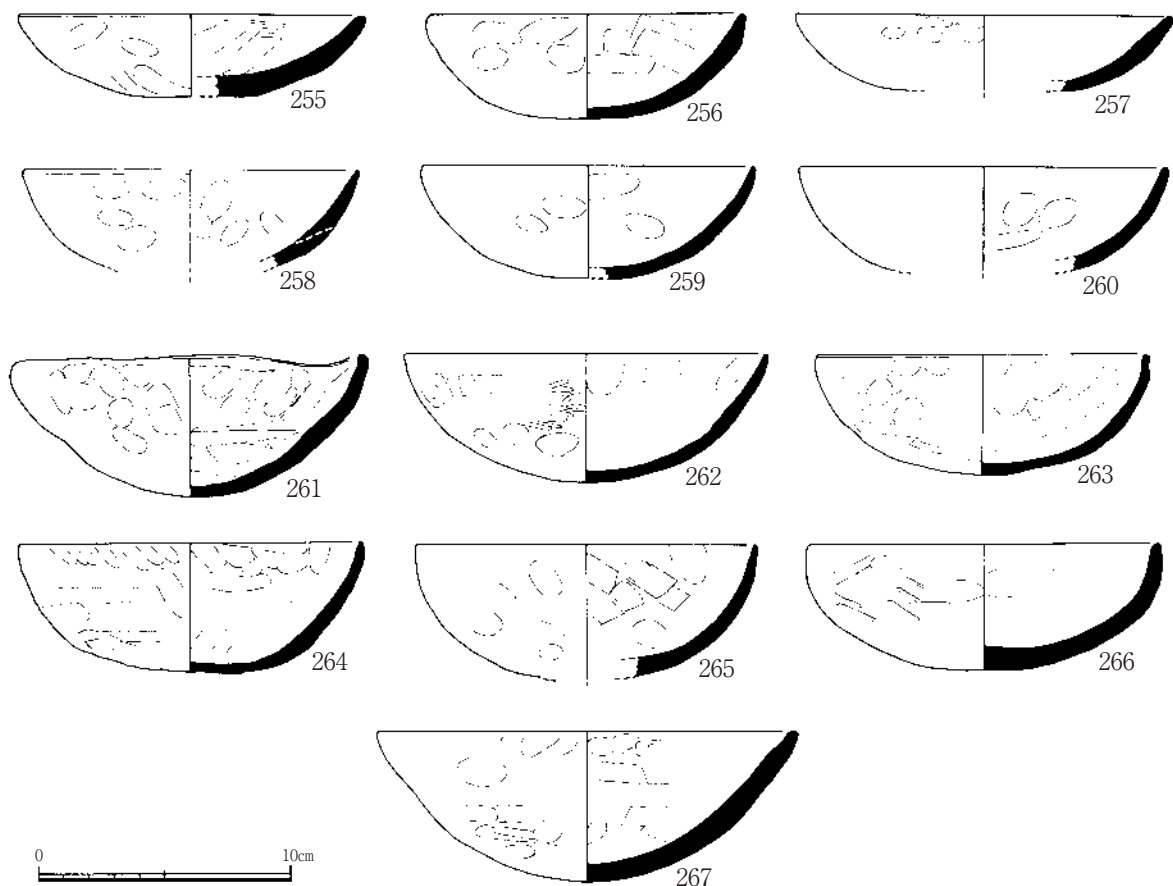
Fig.31 4 A区出土遺物21 III層 (S : 1/2, 1/3)



遺物 No.	調整・紋様
229	内面指頭ナデ 外面ナデ、凹凸面
230	内面ナデ、丁寧なヘラナデ 外面押圧痕
231	内面ナデ、押圧痕 外面ナデ、押圧痕
232	内面丁寧なナデ、浅い凹凸面 外面押圧痕
233	内面ナデ、指頭押圧痕 外面押圧痕
234	内面ヘラナデ 外面ヘラナデ、押圧痕、浅い凹凸面
235	内面(口)粗ハケ(体)ヘラナデ(底)丁寧なヘラナデ 外面ナデ、ヘラナデ、押圧痕
236	内面ナデ、浅い凹凸面 外面ナデ
237	内面丁寧なヘラナデ 外面ナデ、押圧痕
238	内面丁寧なヘラナデ 外面粗ヘラナデ
239	内面(口)ナデ、押圧痕(体)ヘラナデ、ヘラ圧痕 外面凹凸面
240	内面ヘラナデ 外面凹凸面
241	内面丁寧なヘラナデ 外面ヘラナデ、凹凸面
242	内面(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ナデ、押圧痕
243	内面ヘラナデ(滑らかに仕上げる) 外面ヘラナデ?押圧痕
244	内面粗ヘラナデのち丁寧なナデ 外面ヘラナデ(凹凸面)
245	内面ナデ、凹凸面 外面(口)ヨコナデ(体)ナデ、押圧痕
246	内面ヘラナデ 外面(口)ヨコナデ、押圧痕(体)粗ヘラナデ
247	内面ヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ
248	内面丁寧なナデ(滑らかに仕上げる) 外面(口)ヨコナデ(体)ナデ、浅い凹凸面
249	内面(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(体)粗ヘラナデ
250	内面(口)ヨコナデ(体)丁寧なナデ(底部に放射状のナデ) 外面(口)ヨコナデ(体)粗ハケ
251	内面丁寧なヘラナデ 外面ナデ(凹凸面)
252	内面(口)ナデ(体)丁寧なヘラナデ 外面押圧痕
253	内面(口)ヨコナデ(体)丁寧なナデ 外面(口)ヨコナデ(体)粗なヘラナデ
254	内面(口)ヨコナデ、押圧痕(体)丁寧なナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ

遺物 No.	調整・紋様
244	内面粗ヘラナデのち丁寧なナデ 外面ヘラナデ(凹凸面)
245	内面ナデ、凹凸面 外面(口)ヨコナデ(体)ナデ、押圧痕
246	内面ヘラナデ 外面(口)ヨコナデ、押圧痕(体)粗ヘラナデ
247	内面ヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ
248	内面丁寧なナデ(滑らかに仕上げる) 外面(口)ヨコナデ(体)ナデ、浅い凹凸面
249	内面(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(体)粗ヘラナデ
250	内面(口)ヨコナデ(体)丁寧なナデ(底部に放射状のナデ) 外面(口)ヨコナデ(体)粗ハケ
251	内面丁寧なヘラナデ 外面ナデ(凹凸面)
252	内面(口)ナデ(体)丁寧なヘラナデ 外面押圧痕
253	内面(口)ヨコナデ(体)丁寧なナデ 外面(口)ヨコナデ(体)粗なヘラナデ
254	内面(口)ヨコナデ、押圧痕(体)丁寧なナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ

Fig.32 4 A区出土遺物22 III層 (S : 1/3)

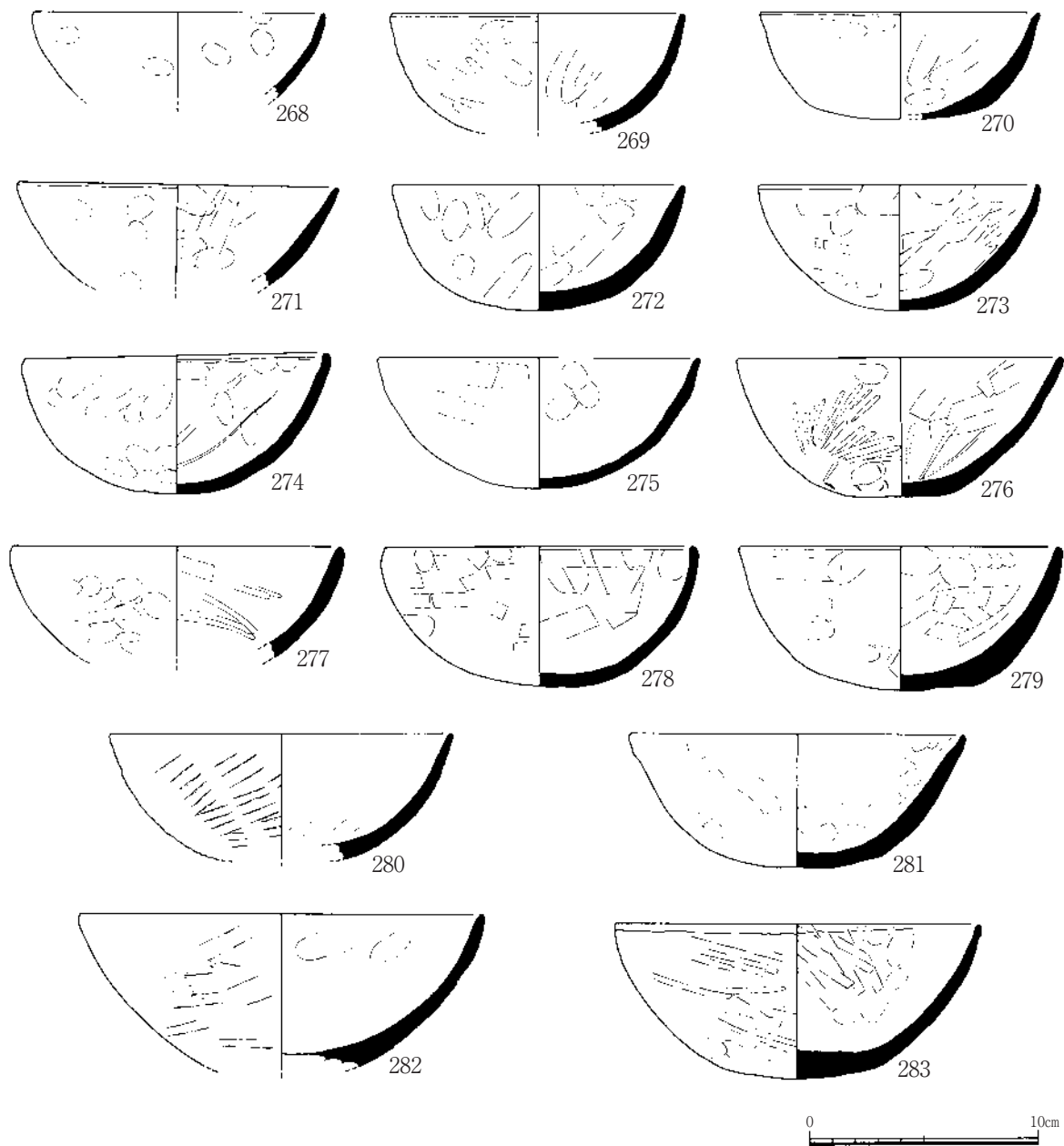


遺物 No	調整・紋様
255	内面ハケのちヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ナデ
256	内面丁寧なヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(体)凹凸面(底)ヘラ圧痕
257	内面ナデ 外面(口)押圧痕(体)なで、浅い凹凸面
258	内面(口)ヨコナデ(体)ナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ナデ、浅い凹凸面
259	内面ナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ?浅い凹凸面
260	内面ナデ 外面(口)ヨコナデ(体)タタキ?のちヘラナデ、浅い凹凸面
261	内面ヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ
262	内面丁寧なナデ? 外面ヘラナデのちヘラミガキ

遺物 No	調整・紋様
263	内面(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(体)粗ヘラナデ
264	内面(口)押圧痕(体)丁寧なヘラナデ 外面(口)ナデ、押圧痕(体)粗なヨコヘラナデ
265	内面ヘラナデ 外面ナデ、凹凸面
266	内面(口)ヨコナデ(体)ナデ 外面(口)ナデ(体)タタキのちナデ
267	内面(口)ヘラナデ?(体上)ヘラナデ(体下)ナデ 外面(口)押圧痕(体)ヘラナデ、押圧痕

Fig.33 4 A区出土遺物23 III d層 (S : 1/3)

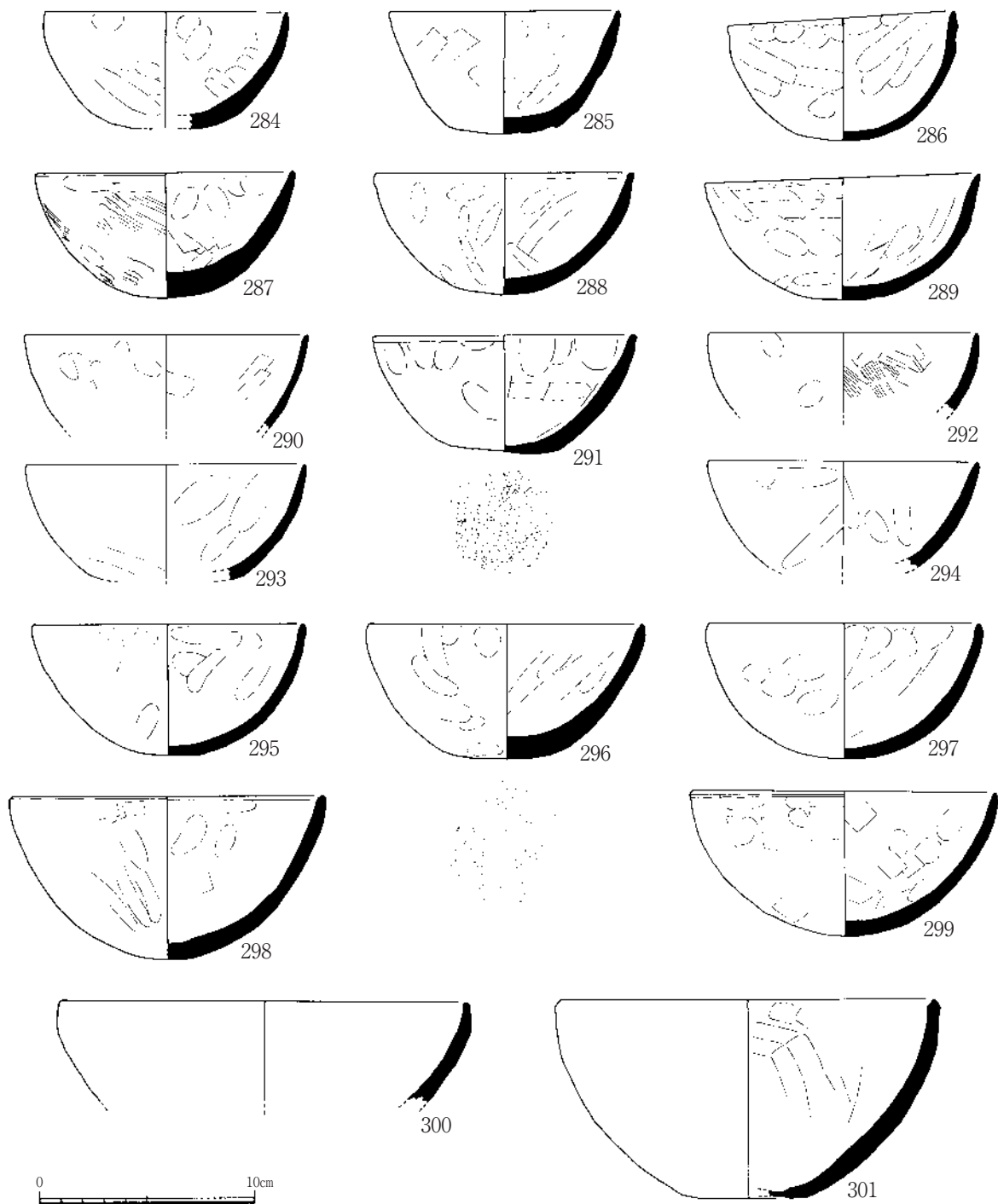
266の様に、ヘラミガキやタタキ目を残すものがある。267は口縁が内彎気味に立上がり、口唇は丸く修める。内外面は横位のヘラナデが顕著であり、内面の低位は丁寧なナデが施され、また外面の口縁には凹凸面が残る。268から283は椀形である。底部は丸底のものが多く、276の平底や270の緩い凸面を成す底部が存在する。ここでも調整の多くはナデ・ヘラナデが占める。268は口縁の一部に煤が付着する。灯明皿²⁾か。276は体部の内面に放射状のヘラミガキが暗文風に施される。外面はミガキまたは丁寧なナデが施される。277は体部の内面に横位のヘラミガキが施される。外面は押圧痕が残るものの、ヘラナデやヘラミガキが施される。278・279は体部の内面が丁寧なナデで仕上げられる。280・282は体部の内面がナデで仕上げられ、外面にはタタキ目が残る。283は体部の内面にミガキ風の丁寧なナデが施され、外面にもミガキ風のヘラナデが施される。284から301は椀形であり、やや深さを増す。口縁の立ち上がりも内彎が顕著である。底部は丸底と緩い凸面を成す平底が存在する。調整はナデやヘラナデが主である。286は



遺物 No.	調整・紋様
268	内面(口)ナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ナデ、浅い凹凸面
269	内面(口)ヨコナデ(体)丁寧なナデ? 外面(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ?
270	内面ナデ(滑らかな面) 外面(口)ヨコナデ(体)ナデ?
271	内面(口)ナデ 外面(口)ヨコナデ、ナデ
272	内面ナデ、押圧痕 外面ナデ?
273	内面丁寧なヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ
274	内面(口)押圧痕(体)丁寧なヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ
275	内面ナデ、浅い凹凸面 外面(口)強いヨコナデ?(体)ヘラナデ、浅い凹凸面
276	内面(口)丁寧なヘラナデ(体)丁寧なヘラナデ(放射状のミガキ) 外面(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ

遺物 No.	調整・紋様
277	内面(口)ヨコナデ(体)ヘラミガキ 外面ヘラナデ、押圧痕、一部ヘラミガキ
278	内面丁寧なヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ヨコヘラナデ
279	内面丁寧なヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ、凹凸面
280	内面ナデ 外面(口)ナデ(体)タタキ
281	内面(口)ナデ、押圧痕(体)ヘラナデ、押圧痕 外面ヘラナデ、押圧痕
282	内面ナデ 外面タタキのちハケ又はナデ
283	内面丁寧なヘラナデ 外面ヘラナデ

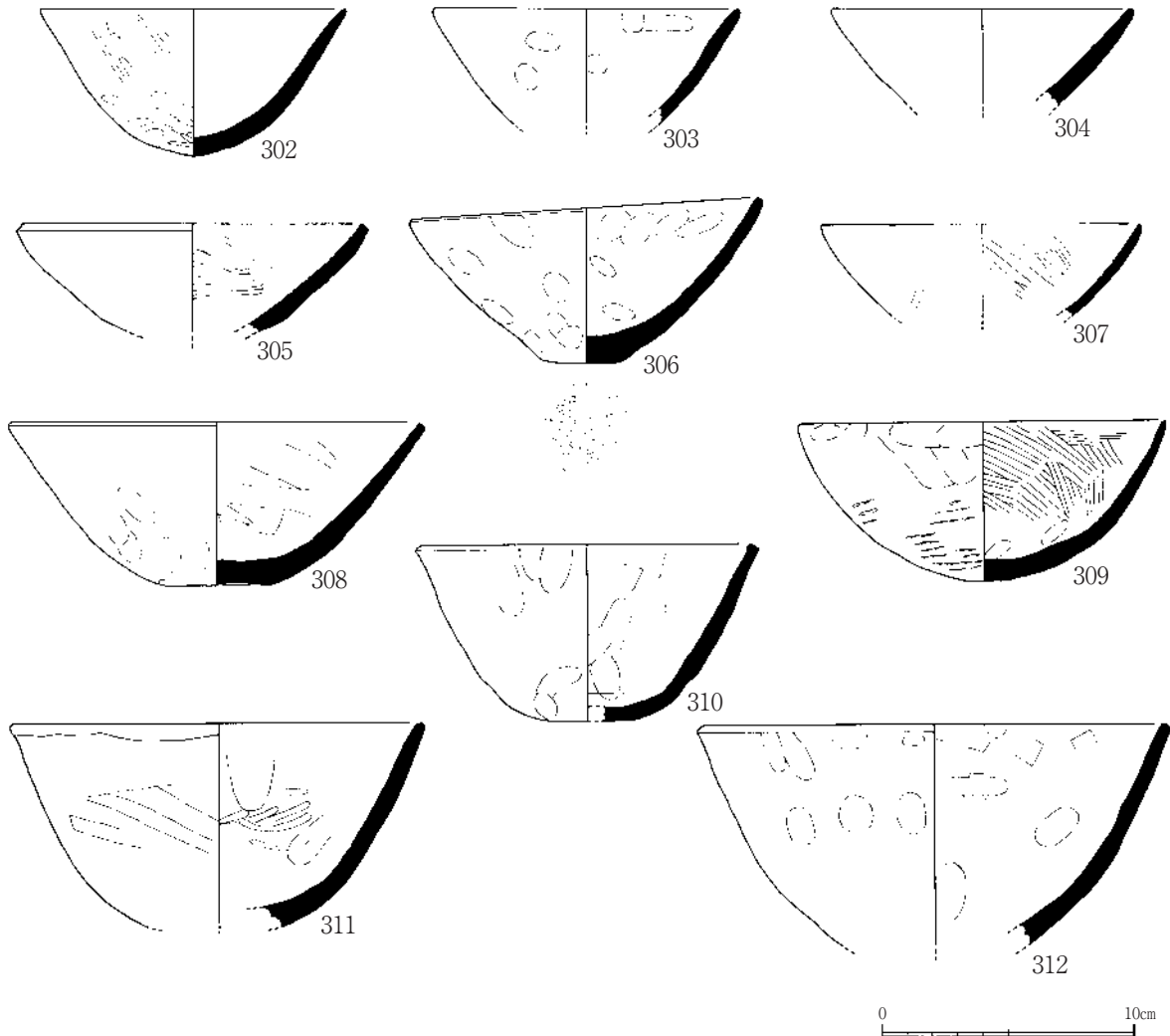
Fig.34 4 A区出土遺物24 III d層 (S : 1/3)



遺物 No	調整・紋様
284	内面ヘラナデ 外面ナデ、ヘラナデ
285	内面ナデ 外面粗なヘラナデ (凹凸面)
286	内面ナデ 外面ヘラナデ
287	内面ヘラナデ 外面 (口) ハケ、ナデ (体) タタキのちハケ又はナデ
288	内面 (口) ヨコナデ (体) ヘラナデ 外面 (口) ヨコナデ (体) ナデ、凹凸面
289	内面 (口) 丁寧なヨコナデ (体) 丁寧なヘラナデ 外面 (口) ヨコナデ (体) ナデ、粉圧痕
290	内面ヘラナデ (滑らかな面) 外面ナデ? 浅い凹凸面
291	内面ナデ、ヘラナデ 外面ナデ? 凹凸面
292	内面 (口) ハケのちナデ 外面 (口) ナデ
293	内面丁寧なヘラナデ 外面ヘラナデ

遺物 No	調整・紋様
294	内面 (口) ヨコナデ (体) ナデ (滑らかに仕上げる) 外面 (口) ヨコナデ (体) ヘラナデ
295	内面 (口) ヨコナデ (体) 丁寧なナデ 外面 (口) ヨコナデ (体) ナデ?
296	内面ヘラナデ (底部から螺旋状) 外面 (口) ヨコナデ (体) ヘラナデ (底) 木ノ葉圧痕
297	内面 (口) ヨコナデ (体) ヘラナデ 外面ヘラナデ
298	内面ヘラナデ 外面 (口) ヨコナデ (体) ヘラナデ
299	内面ヘラナデ、ヘラ圧痕 外面 (口) ヨコナデ (体) ナデ
300	内面ナデ、ヘラナデ 外面 (口) ナデ (体) ナデ、凹凸面
301	内面 (口) ナデ、押圧痕 (体) ナデ 外面 (口) ヨコナデ (体) ナデ

Fig.35 4 A区出土遺物25 III d層 (S : 1/3)

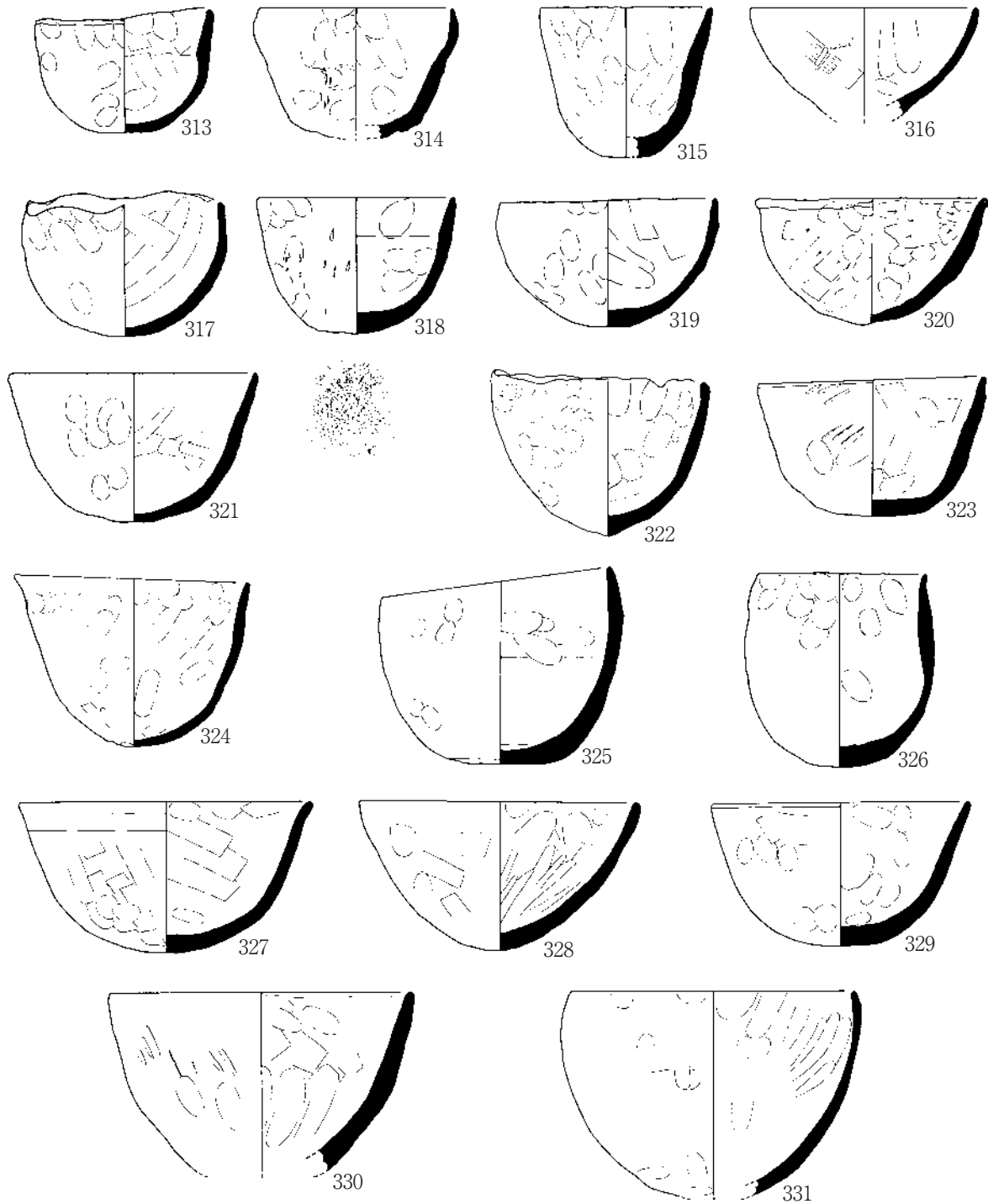


遺物 No.	調整・紋様
302	内面(口)ヨコナデ(体)ナデ(滑らかな面) 外面(口)ヨコナデ(体上)タテヘラナデ(体下)ヘラミガキ
303	内面(口)ヨコナデ(体)ナデ(滑らかに仕上げる) 外面(口)ヨコナデ(体)ナデ
304	内面(口)ナデ 外面(口)ヨコナデ
305	内面ハケのちナデ 外面凹凸面
306	内面(口)ヨコナデ、押圧痕(体)ナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ(底)ヘラ圧痕

遺物 No.	調整・紋様
307	内面(口)粗ハケのちナデ 外面(口)ナデ
308	内面ヘラナデ 外面ナデ、押圧痕
309	内面(口)ハケ(体)ナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ナデ、タタキのちナデ
310	内面ナデ、ヘラナデ 外面押圧痕
311	内面(口)ヨコナデ(体)ナデ、暗文風のヘラミガキ 外面ヘラナデ
312	内面(口)ナデ(体)ナデ 外面(口)ナデ(体)ナデ

Fig.36 4 A区出土遺物26 III d層 (S : 1/3)

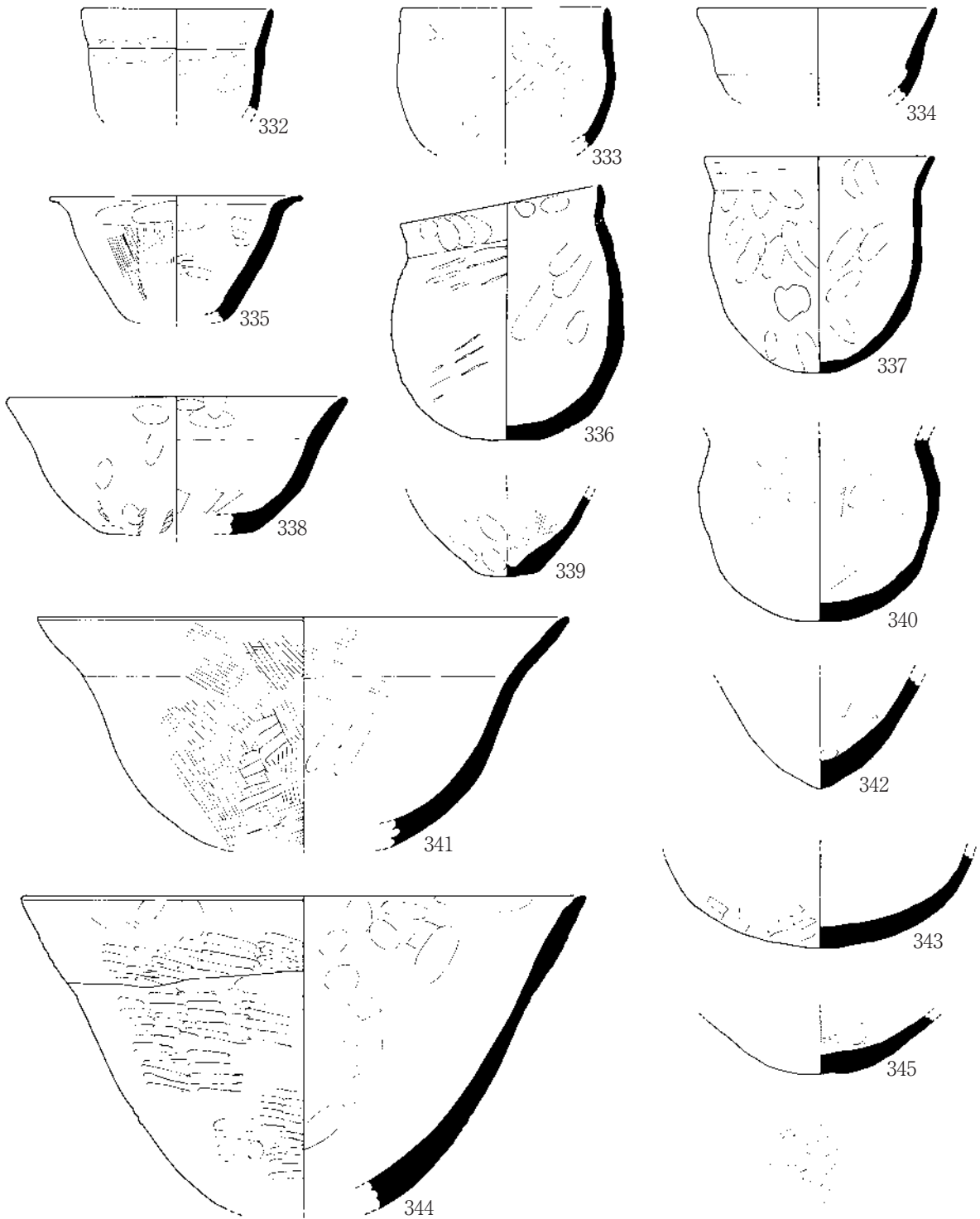
口縁の一部に煤が付着する。287は体部の外面にタタキ目が残される。292は体部の内面にハケ状原体によるナデ痕が残される。300・301は椀形を呈したやや容量の大きなものである。302から312は椀形(平形?)である。口縁は直線的またはやや内彎して外上方に広がるものが多くを占める。底部は丸底と平底が存在する。調整はナデやヘラナデが多いものの、外面のタタキや内面にハケを残すものも存在する。304は口縁の一部に煤が付着する。305は口唇が外傾する面を成す。体部内面はハケのちナデが施される。306は底部がやや突出した狭い平底を成す。口縁の内面には煤が付着する。307は口唇が狭い外傾する面を成す。体部の内面は粗いハケのちナデが施される。308は口唇が外傾する面を成し、底部はやや窪んだ平底を成す。309は内面にハケのちナデが施され、外面にはタタキ目が残る。310は口唇が外傾する面を成し、底部が押し潰し



遺物 No	調整・紋様
313	内面(口)ヨコナデ(体) 丁寧なナデ 外面ナデ(凹凸面)
314	内面ヘラナデ、押圧痕 外面ナデ? 爪痕、押圧痕
315	内面ナデ 外面ヘラナデ
316	内面(口)丁寧なナデ(体) 丁寧なナデ 外面ハケのちナデ
317	内面指頭ナデ 外面(口)凹凸面
318	内面(口)ヨコナデ(体) ナデ、押圧痕 外面(口)ヨコナデ(体) ナデ、爪痕(底)ヘラ圧痕
319	内面ナデ(底)ヘラ圧痕 外面凹凸面
320	内面(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ 外面ヘラナデ、押圧痕
321	内面ヘラナデ 外面押圧痕

遺物 No	調整・紋様
322	内面(口)ナデ、押圧痕(体) ナデ、ヘラナデ(底)ヘラ圧痕 外面(口)押圧痕(体)ヘラナデ凹凸面
323	内面ナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ
324	内面(口)ナデ(体)ヘラナデ 外面(口)押圧痕(体)ヘラナデ
325	内面(口)ナデ(体)ナデ 外面ナデ、凹凸面
326	内面(口)ナデ、押圧痕(体)ナデ 外面(口)ナデ、押圧痕(体)ナデ
327	内面ヘラナデ(底部に螺旋状のヘラ圧痕) 外面(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ
328	内面(口)ヘラナデ(体)ヘラナデのちミガキ(底部中央から放射状のヘラミガキ)
329	内面丁寧なナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ナデ?
330	内面(口)ナデ(体)強いヘラナデ 外面(口)ナデ(体)浅い凹凸面
331	内面ナデ、ヘラナデ 外面ナデ?(底)ヘラ圧痕

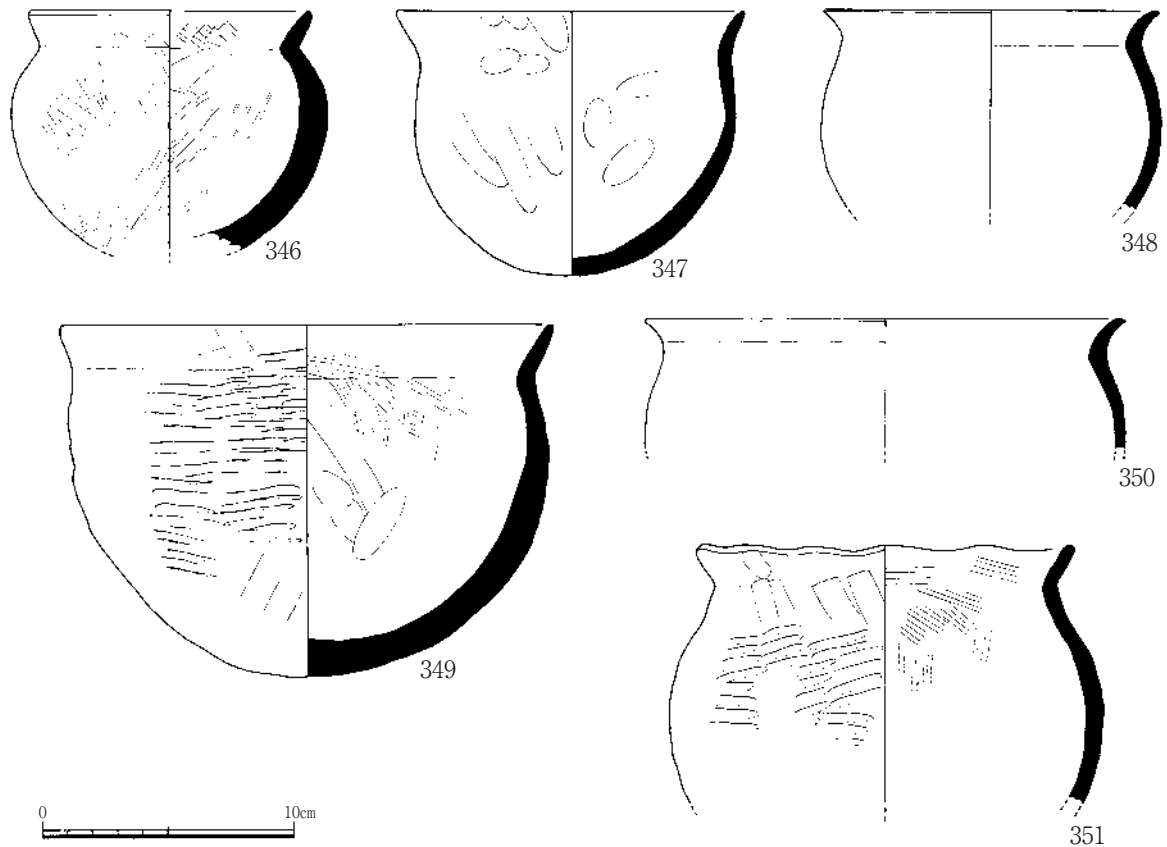
Fig.37 4 A区出土遺物27 Ⅲd層 (S : 1/3)



遺物 No.	調整・紋様
332	内面 (口) ヨコナデ (体) ヘラナデ 外面ナデ
333	内面 (口) ヘラナデ (胴) ヘラナデ 外面ナデ?
334	内面 (口) ナデ 外面 (口) ナデ
335	内面 (口) ヘラナデ (体) ヘラナデ 外面 (口) ヨコナデ (体) 細ハケのちナデ
336	内面 (口) ナデ、凹凸面 (体) ナデ 外面 (口) 押圧痕 (体) タタキのちナデ
337	内面 (口) ヨコナデ (体) ナデ、ヘラナデ 外面 (口) ケズリのちナデ (体) ナデ、ヘラナデ
338	内面 (口) ヨコナデ (体) ヘラナデ 外面 (口) ナデ? (体) ナデ? 縄目圧痕
339	内面 (底) 細ハケのちナデ 外面ナデ
340	内面 (胴) 細ハケのちナデ、ヘラナデ 外面 (胴) ナデ、ヘラナデ

遺物 No.	調整・紋様
341	内面 (口) ハケのちナデ (体) ナデ 外面 (口) ハケのちヨコナデ (体) タタキのちハケ
342	内面 (底) ハケのちナデ 外面 (底) ナデ、ヘラナデ
343	内面ナデ 外面 (口) ヨコナデ (体上) ナデ (体下) ケズリ
344	内面 (口) ナデ、凹凸面 (胴) ハケのちナデ 外面 (口) タタキのちナデ (胴) タタキ
345	内面 (底) ハケのちナデ 外面 (底) ハケのちナデ

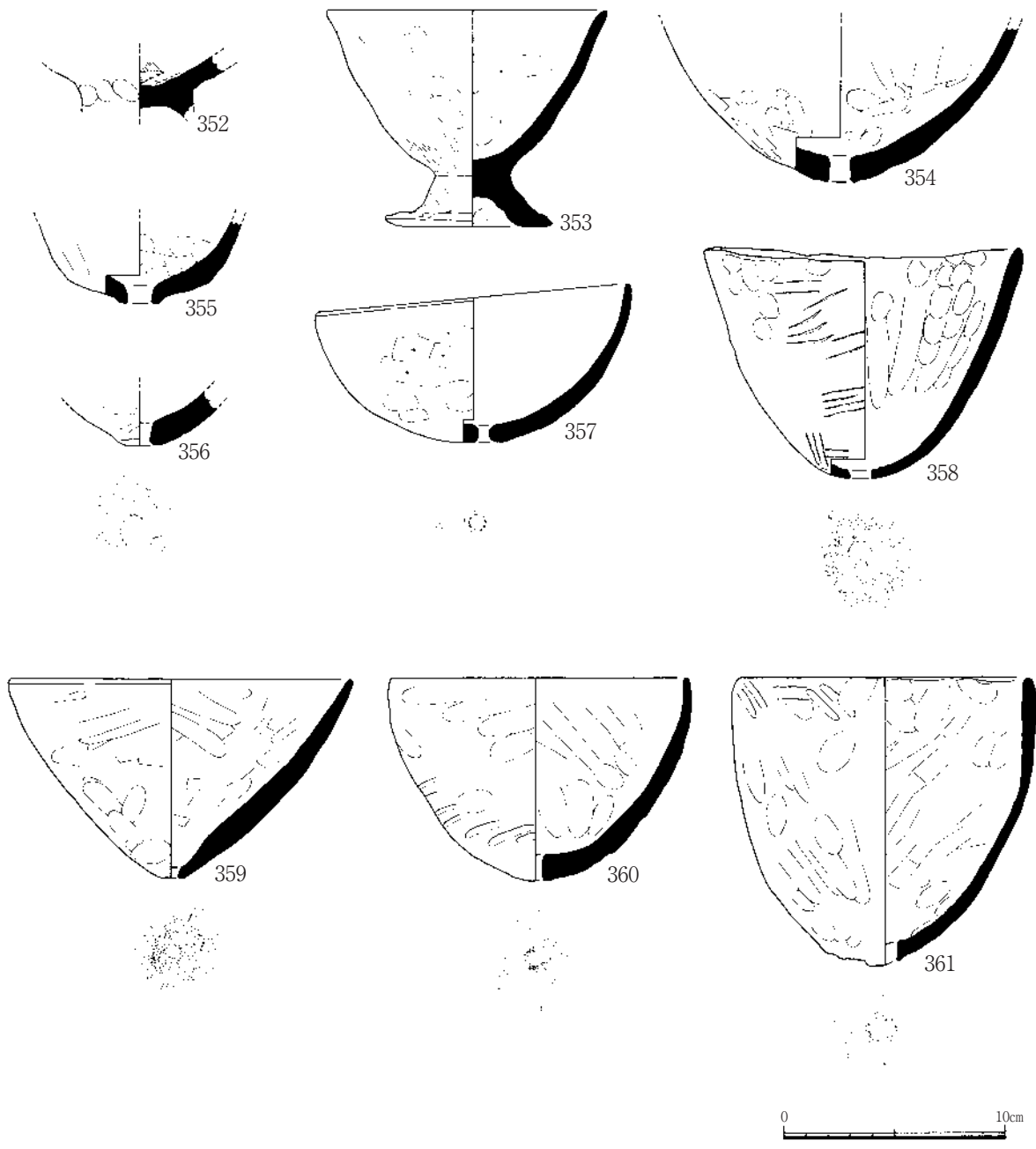
Fig.38 4 A区出土遺物28 III層 (S : 1/3)



遺物 No.	調整・紋様
346	内面(口) ハケのちナデ(胴) ヘラナデ(幅細原体で砂粒が動く) 外面(口) ハケのちナデ
347	内面(口) ナデ、押圧痕(体) ナデ 外面(口) ナデ(体) ヘラナデ、凹凸面
348	内面(口) ナデ(胴) ヘラナデ 外面(口) ヨコナデ(胴) ナデ、浅い凹凸面
349	内面(口) ハケのちナデ(胴) ハケのちナデ 外面(口) タタキのちナデ(胴) タタキのちナデ
350	内面(口) ナデ(胴) ヘラナデ? 外面(口) ナデ?(胴) ナデ、浅い凹凸面
351	内面(口) ハケのちヘラナデ(胴) ハケのちヘラナデ 外面(口) ヘラナデ(胴上) タタキのちヘラナデ(胴) タタキ

Fig.39 4 A区出土遺物29 III d層 (S : 1/3)

た不明瞭な平底を呈す。311・312はやや容量のあるものである。311は体部の内面に暗文風のヘラミガキが施される。312は口唇が外傾する面を成す。313から331は器高の高い深い椀形（湯呑み形）である。底部は丸底を成すものが多く、やや尖底となるものや押しつぶした不明瞭な平底を呈するものがある。口縁は概ね内彎して立上がり、直線的に外上方に向かうものや端部で外反するものが存在する。調整はナデまたはヘラナデが卓越する。313は口縁の内面に弱い屈曲が存在する。314は口縁の内面に押圧痕が顕著であり、口縁は内彎して上方に立上がる。体部の外面には押圧痕と爪痕を残す。315は深い湯呑み形を呈する。体部の内面で屈曲し、口縁は直線的に立上がる。底部は押しつぶした不明瞭な平底を呈する。317は口縁が不整形であり、浅く不規則な波状を呈する。318は口縁の内面に屈曲を有する。外面はナデを施し爪痕を残す。319は口唇の外側に粘土が盛り上がりやや肥厚する。322は口縁が不整形であり、不規則な浅い波状を成す。底部はやや尖底である。323・325は底部が押しつぶした不明瞭な平底を成す。324は口縁の一部が短く外反する。326は深い湯呑み形を呈する。口縁の一部で短く外反する。327は口縁が短く外反する。328は体部の内面に放射状のミガキを暗文風に施す。330・331は椀形でやや容

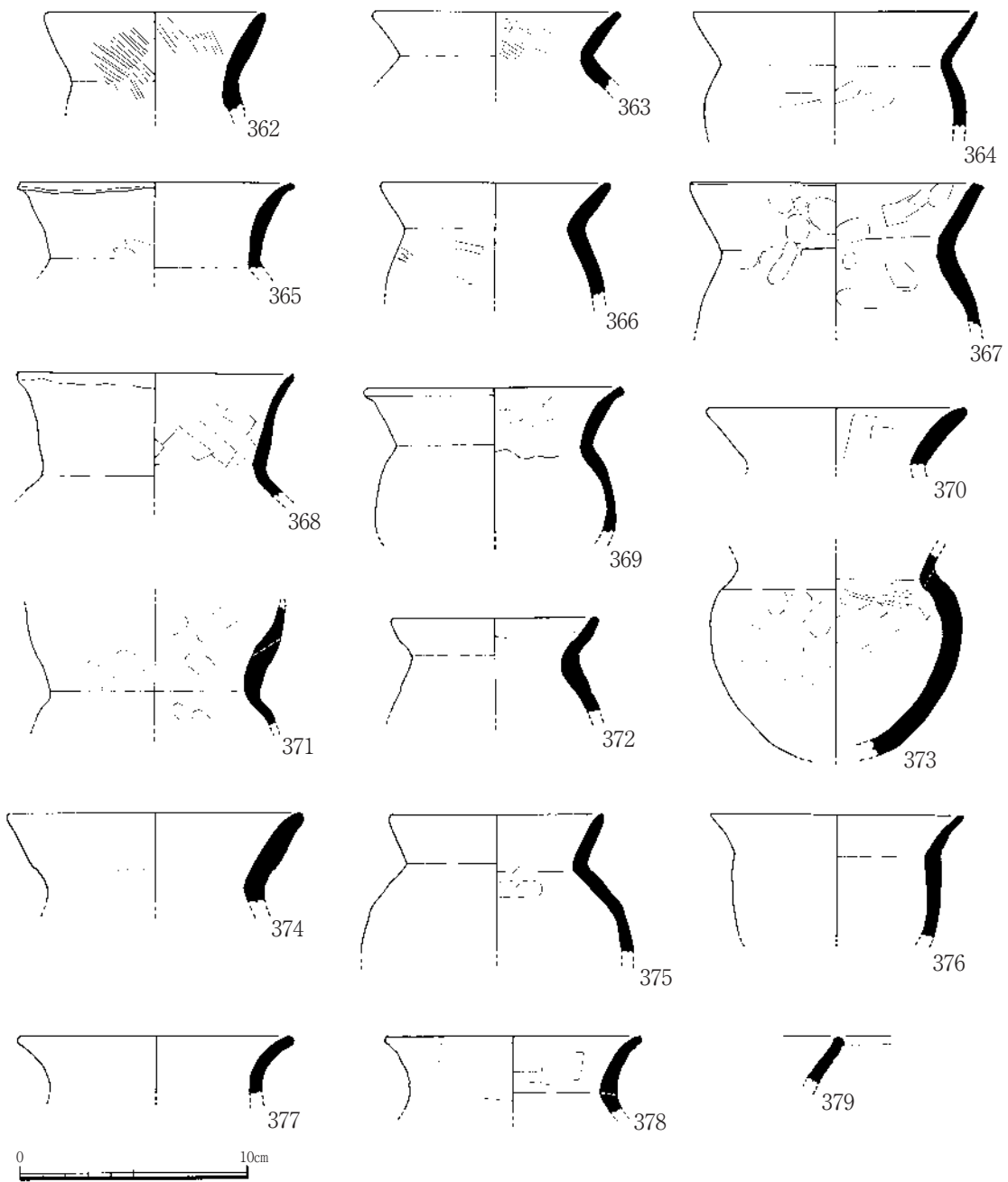


遺物 No.	調整・紋様
352	内面(鉢) ハケのちナデ、ハケ又はヘラ圧痕 外面(底) ナデ、押圧痕
353	内面(鉢) 丁寧なヘラナデ(台) ヘラナデ 外面(鉢) ナデ(鉢底) ハケ(台) 押圧痕
354	内面(底) ナデ、ヘラナデ 外面(底) ナデ、ヘラナデ(ハケ状原体)
355	内面(底) ナデ、押圧痕 外面(底) ヘラ圧痕?
356	内面(底) ナデ、小さな凹凸面 外面(底) タタキのちナデ

遺物 No.	調整・紋様
357	内面ナデ 外面ヘラナデ?ヘラミガキ様の滑らかな面、(底) 凹凸面、一部に 凹形の剥離
358	内面指頭ナデ 外面タタキのちナデ
359	内面ヘラミガキ 外面(口) ヘラミガキ(体) ヘラナデ?
360	内面ナデ(底) 押圧痕 外面(口) ナデ(体) タタキのちナデ
361	内面ヘラナデ 外面(口) タタキのちナデ(体) ヘラナデ

Fig.40 4 A区出土遺物30 III d層 (S : 1/3)

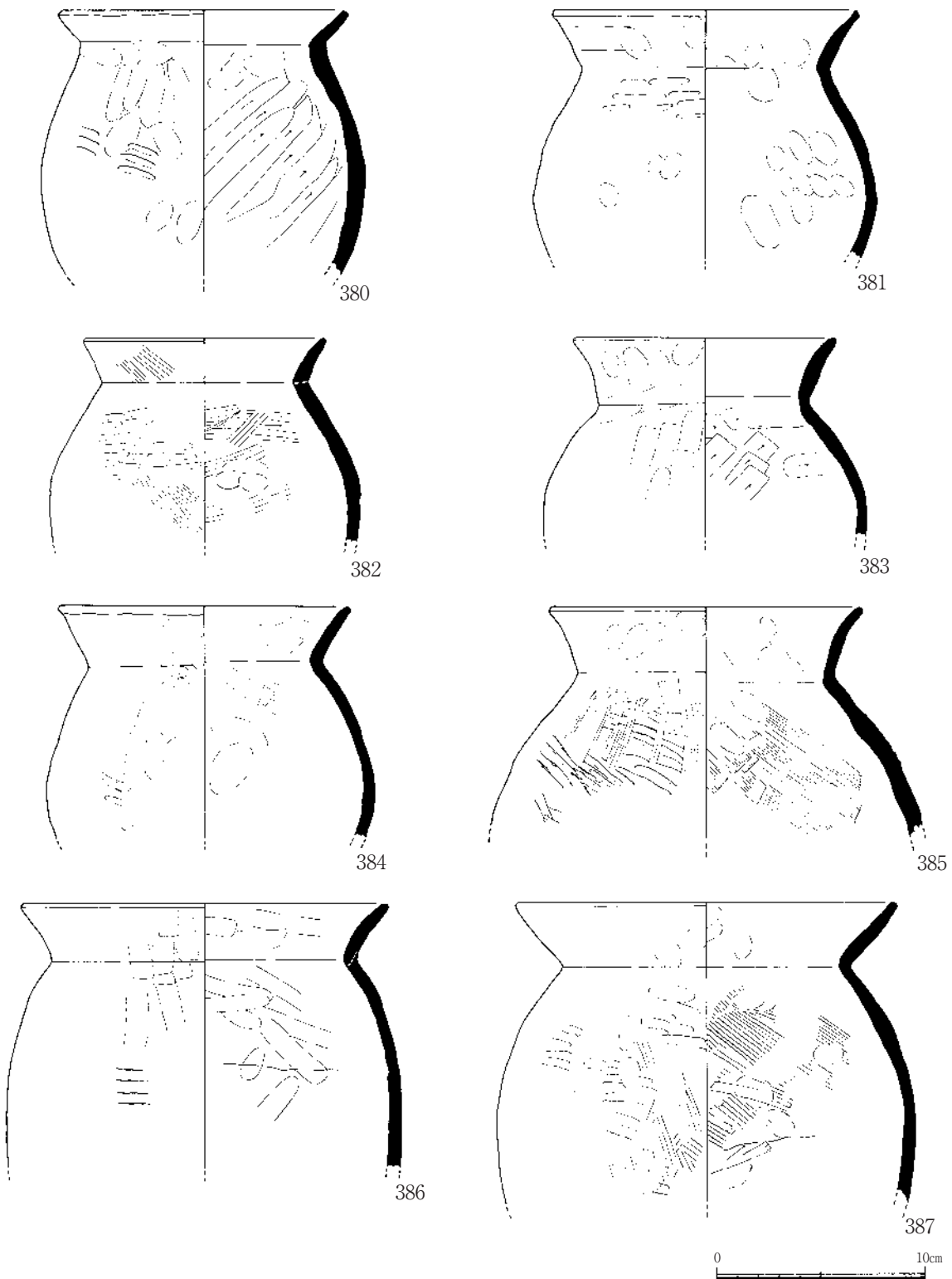
量が多い。332から338と340から344は鏝状の口縁を有するものである。332から335は小型丸底土器とすべきものか。332から334は口縁下で緩く屈曲する。333は口縁は屈曲の後に上方に立上がる。内面は丁寧にナデを施す。335は口縁が屈曲の後に外反して開く。口唇は外側にやや肥厚する。体部の内面はミガキ風のヘラナデを施し、外面はハケを施す。蓋の可能性もある。336



遺物 No	調整・紋様
362	内面(口)粗ハケのちナデ 外面(口)ヨコナデ、ハケ(胴)ナデ
363	内面(口)ヨコナデ(胴)ハケのちナデ 外面(口)ハケのちヨコナデ(胴)ナデ、ヘラ圧痕
364	内面(口)ナデ(胴)ナデ 外面(口)ナデ(胴)タタキのちナデ
365	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ、ヘラナデ
366	内面(口)ヨコナデ(胴)ヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(胴)タタキのちナデ
367	内面(口)ナデ(胴)ナデ 外面(口)ナデ、押圧痕(胴)ナデ
368	内面(口)ヘラナデ 外面(口)ナデ
369	内面(口)ヘラナデ(胴)ナデ 外面(口)ナデ(胴)ナデ
370	内面(口)ヨコヘラナデ 外面(口)ヨコナデ
371	内面(口)ヘラナデ、浅い凹凸面(胴)ヘラナデ 外面(口)ナデ、浅い凹凸面

遺物 No	調整・紋様
372	内面(口)ナデ(胴)ナデ 外面(口)ナデ(頸)ヨコナデ(胴)ナデ、凹凸面
373	内面(口)ヘラナデ(胴)粗ハケのちナデ 外面(頸)ヨコナデ(胴)ナデ
374	内面(口)ヨコナデ 外面(口)ヨコナデ
375	内面(口)ヨコナデ、ヘラ圧痕(胴)ナデ 外面(口)ヨコナデ、押圧痕(頸)ヨコナデ(胴)ナデ、凹凸面
376	内面(口)ナデ(胴)ナデ 外面(口)ナデ(胴)ナデ?
377	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ
378	内面(口)ナデ、ヘラナデ 外面(口)ナデ、凹凸面
379	内面(口)ナデ、押圧痕 外面(口)ナデ

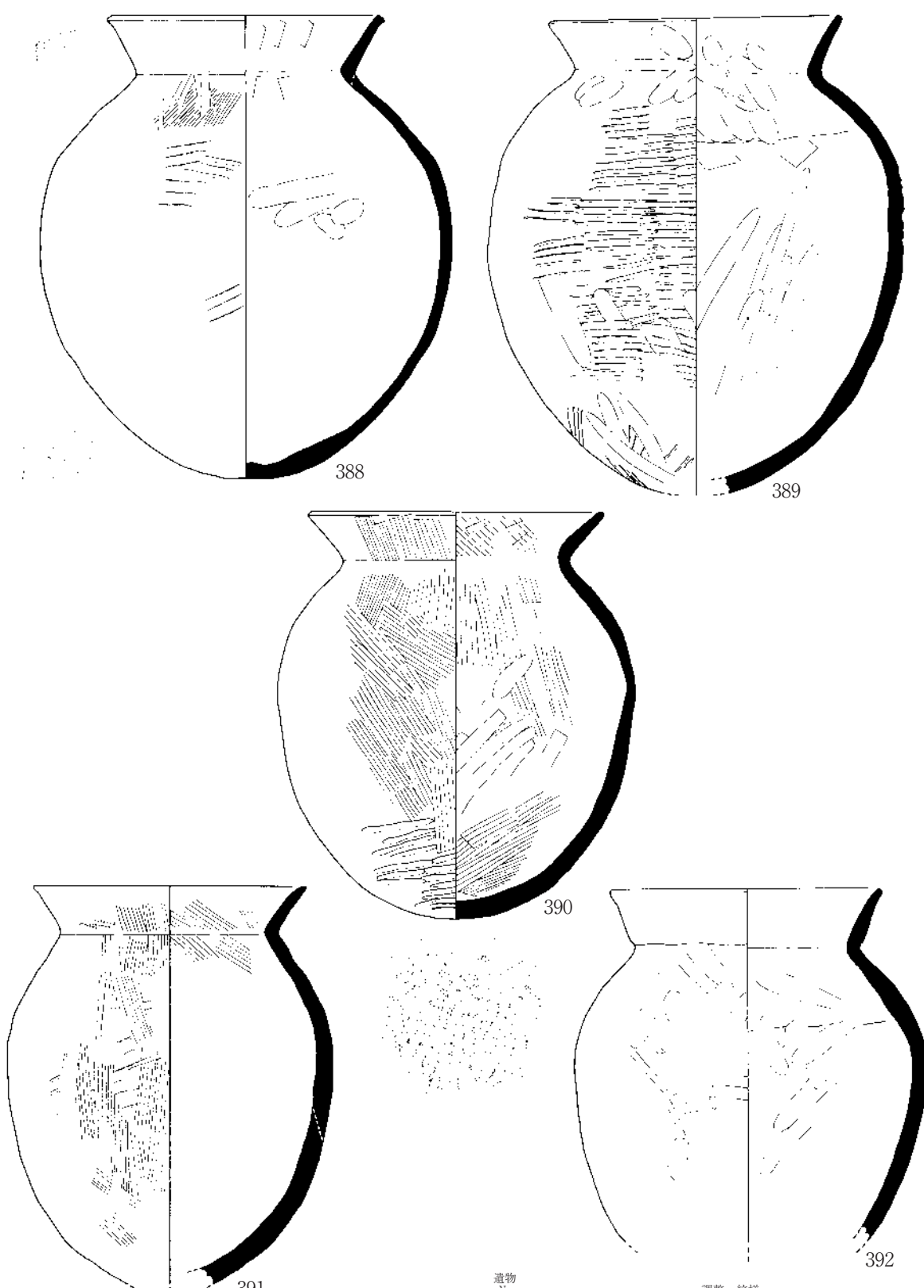
Fig.41 4 A区出土遺物31 Ⅲd層 (S : 1/3)



遺物 No.	調整・紋様
380	内面(口)ナデ(胴)ケズリのちナデ、押圧痕 外面(口)ナデ(胴)タタキのちナデ
381	内面(口)ナデ(胴)ナデ、押圧痕 外面(口)ナデ(胴)タタキのちナデ
382	内面(口)ヨコナデ(胴)粗ハケ 外面(口)ヨコナデ(胴)ナデ、タタキのちハケ
383	内面(口)ナデ(胴)ヘラケズリ、ヘラナデ 外面(口)ナデ(頸)ヘラナデ(胴)ヘラナデ

遺物 No.	調整・紋様
384	内面(口)ヘラナデ(胴)ヘラナデ 外面(口)ナデ(胴)タタキのちナデ
385	内面(口)ヨコナデ(胴)ハケ、押圧痕 外面(口)ヨコナデ(胴)タタキのちハケ
386	内面(口)ヨコナデ(胴上)ヘラナデ(ハケ状原体)(胴中)ナデ 外面(口)ヘラナデ(胴)タタキのちナデ
387	内面(口)ナデ(胴)ハケ、ハケのちナデ 外面(口)ナデ(胴)ナデ、タタキのちナデ

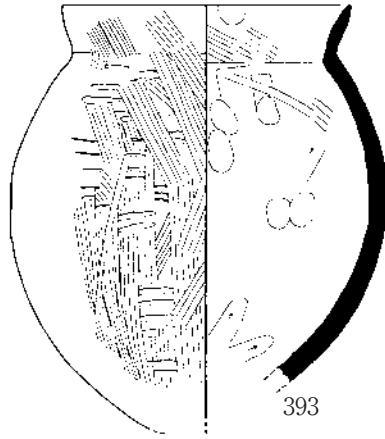
Fig.42 4 A区出土遺物32 III層 (S : 1/3)



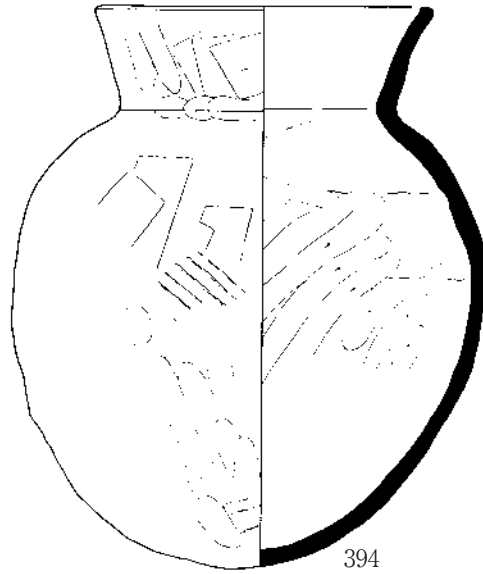
遺物 No	調整・紋様
388	内面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ 外面 (口) ヨコナデ (頸) 掻き痕 (胴) タタキのちヘラナデ

遺物 No	調整・紋様
389	内面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ (胴中) 強いナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) タタキ (胴中) タタキのちヘラナデ
390	内面 (口) ハケのちヨコナデ (胴) ハケ (胴中) ハケのちヘラナデ (胴下) ハケ 外面 (口) ハケのちヨコナデ (胴中) タタキのちハケ (胴下) タタキ
391	内面 (口) 粗ハケのちナデ (胴上) ハケ (胴中) ナデ又はヨコナデ (胴下) ヘラナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴上) ハケ (胴下) タタキのちハケ
392	内面 (口) ナデ (胴上) ナデ、押圧痕 (胴中) ヘラナデ 外面 (口) ナデ (胴) 丁寧なヘラナデ

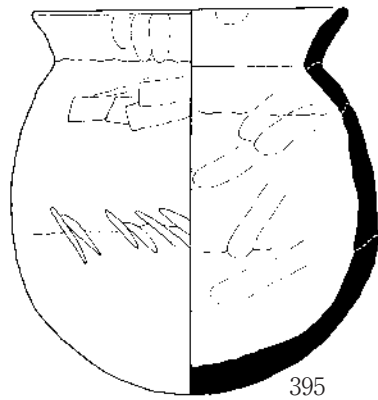
Fig.43 4 A区出土遺物33 III層 (S : 1/3)



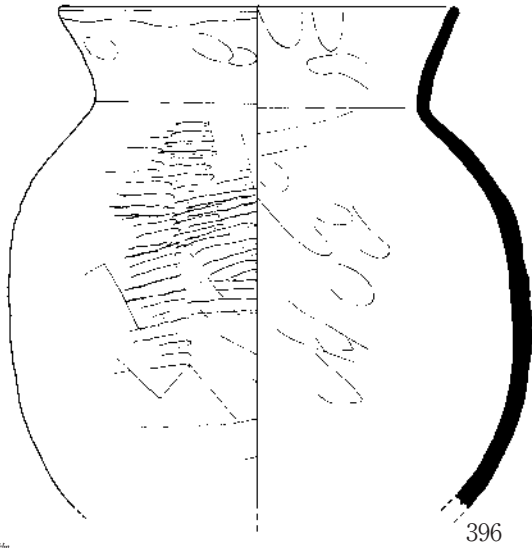
393



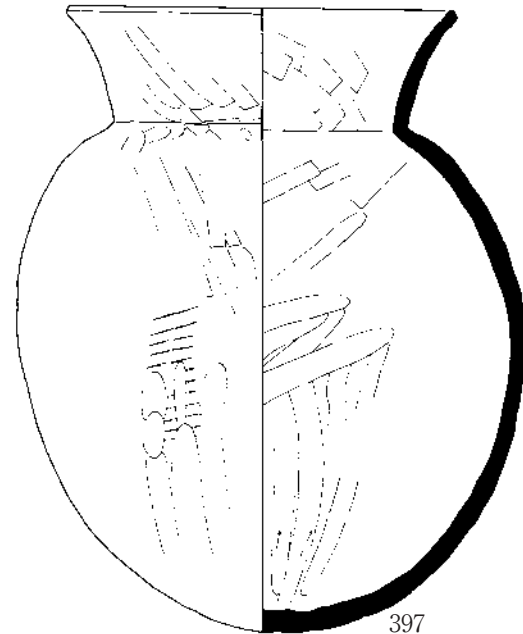
394



395



396



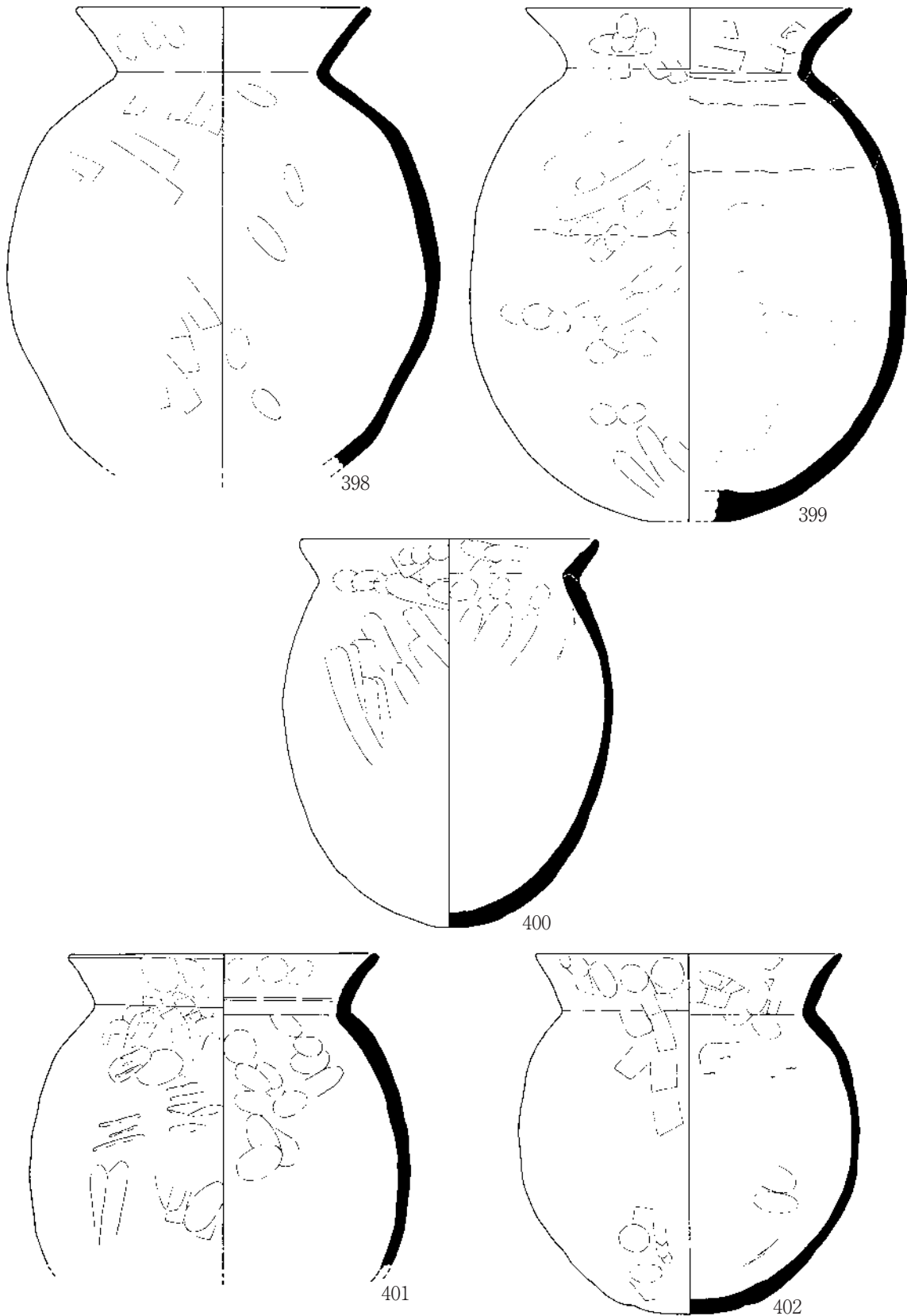
397



遺物 No	調整・紋様
393	内面(口)ハケのちナデ(胴)ケズリのちヘラナデ、ケズリ、ケズリのちナデ 外面(口)ハケのちナデ?(胴)タタキのちハケ
394	内面(口)ヨコナデ(胴上)ケズリのちナデ(胴中)強いナデ又はケズリ?(胴下)ヘラナデ 外面(口)ヨコナデ、ヘラ圧痕(胴)タタキのちヘラナデ
395	内面(口)ナデ(胴)ヘラナデ 外面(口)ナデ(胴上)タタキのちヘラナデ(胴中)ヘラ圧痕(胴下)ケズリ?のちヘラナデ
396	内面(口)ヨコナデ(胴)ヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(胴)タタキのちヘラナデ

遺物 No	調整・紋様
397	内面(口)ヨコナデ、ヘラナデ(胴上)ヘラナデ(胴中)強いヘラナデ?(砂粒が動く) 外面(口)ヨコナデ、ヘラ圧痕(胴部)タタキのちヘラナデ

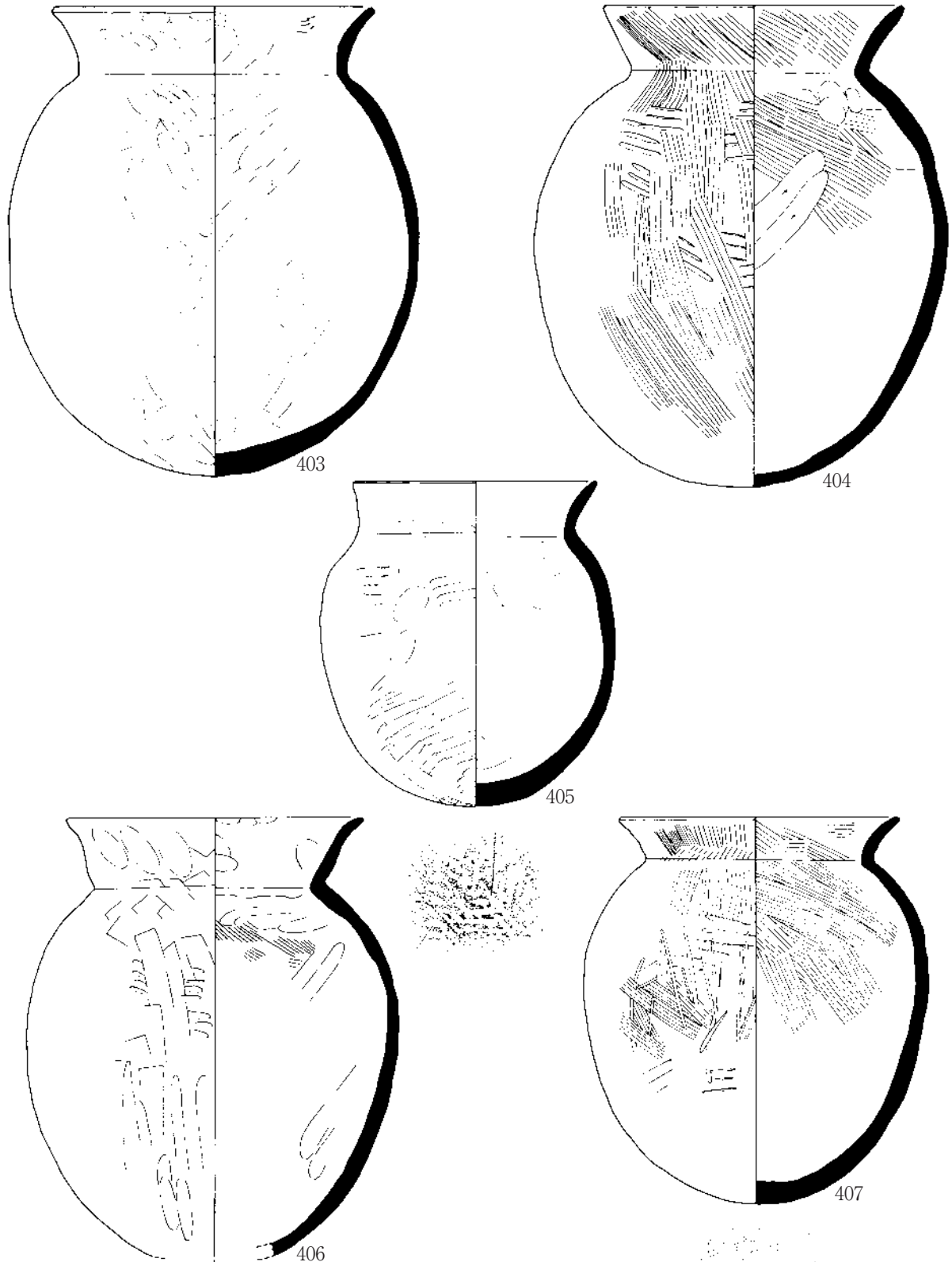
Fig.44 4 A区出土遺物34 III層 (S : 1/3)



遺物 No	調整・紋様
398	内面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ、ヘラナデ、押圧痕 外面 (口) ヨコナデ (胴) ヘラナデ
399	内面 (口) ヨコヘラナデ (胴) ヘラナデ 外面 (口) ナデ (胴) ヘラナデ

遺物 No	調整・紋様
400	内面 (口) ヨコナデ (胴) ケズリのちナデ (底) ヘラ圧痕 外面 (口) ナデ、ヘラ圧痕 (胴) タタキのちヘラナデ
401	内面 (口) ヨコナデ (胴) ケズリのち丁寧なヘラナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) タタキのちヘラナデ
402	内面 (口) ヘラナデ (胴) ケズリのちヘラナデ 外面 (口) ヘラナデ (胴) ヘラナデ、凹凸面

Fig.45 4 A区出土遺物35 III層 (S : 1/3)

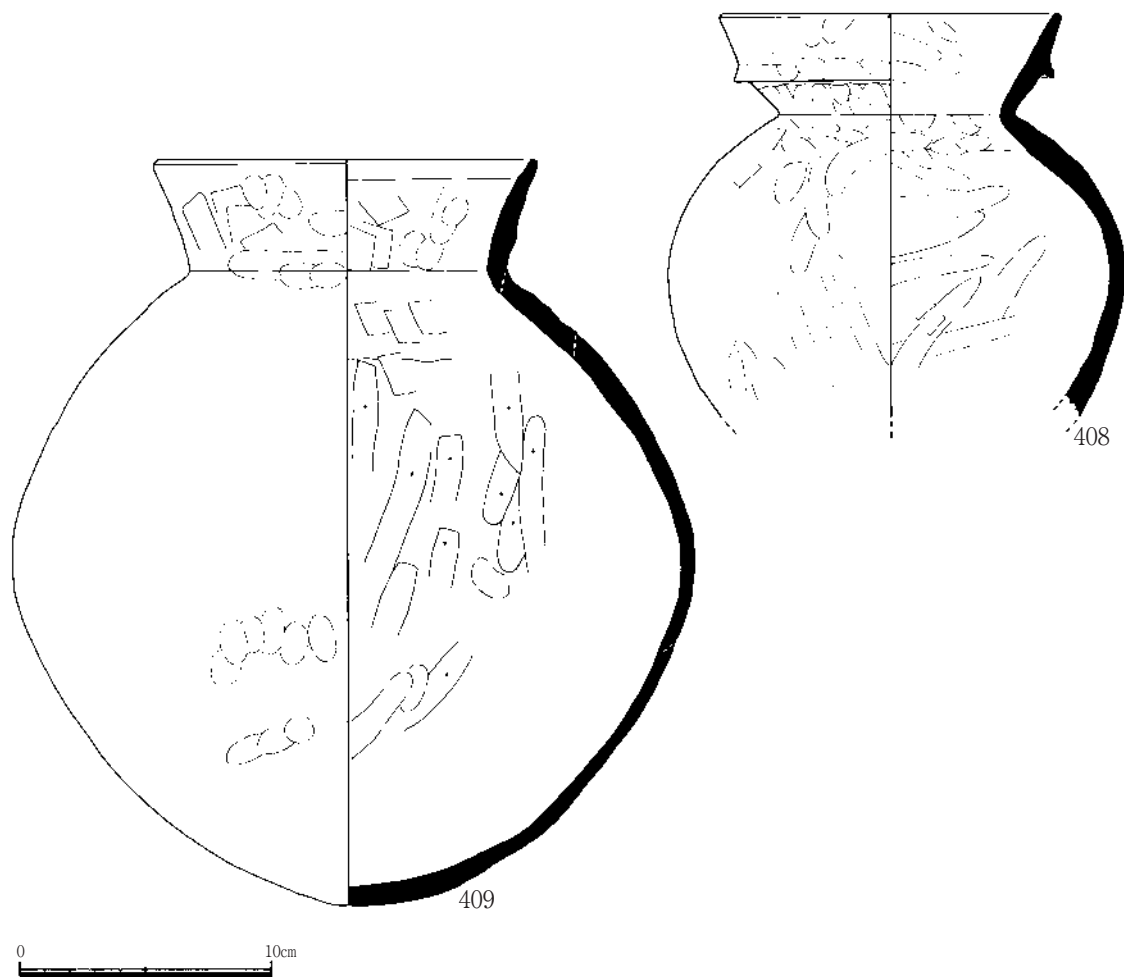


遺物 No.	調整・紋様
403	内面(口)ヘラナデ、爪痕(胴上)ナデ(胴中)ヘラナデ 外面(口)ナデ、ヘラナデ(胴)ヘラナデ
404	内面(口)ハケ(胴)ハケ、指頭押圧痕(胴中)ケズリのち ナデ 外面(口)ハケのちヨコナデ(胴)タタキのちハケ
405	内面(口)ナデ(胴)ヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(胴) タタキのちナデ

遺物 No.	調整・紋様
406	内面(口)押圧痕(胴)ハケのちヘラナデ 外面(口)ナデ、押圧痕(胴)タタキのちヘ ラナデ
407	内面(口)ハケ(胴)ハケのちナデ(上位はハケ、 下位はヘラナデが卓越) 外面(口)ハケの ちヨコナデ(胴)タタキのちハケ又はナデ



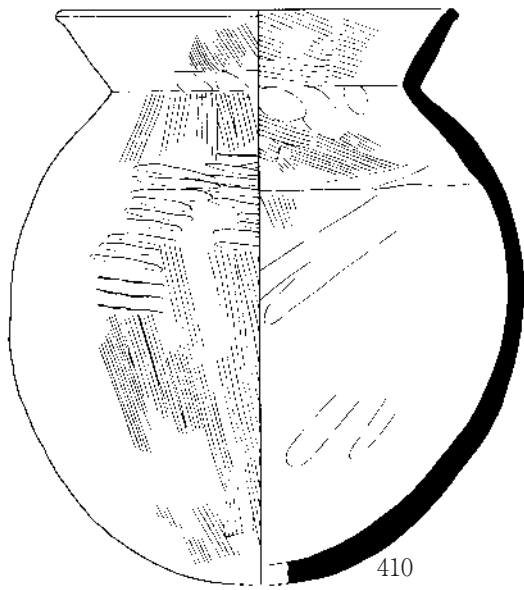
Fig.46 4 A区出土遺物36 III層 (S : 1/3)



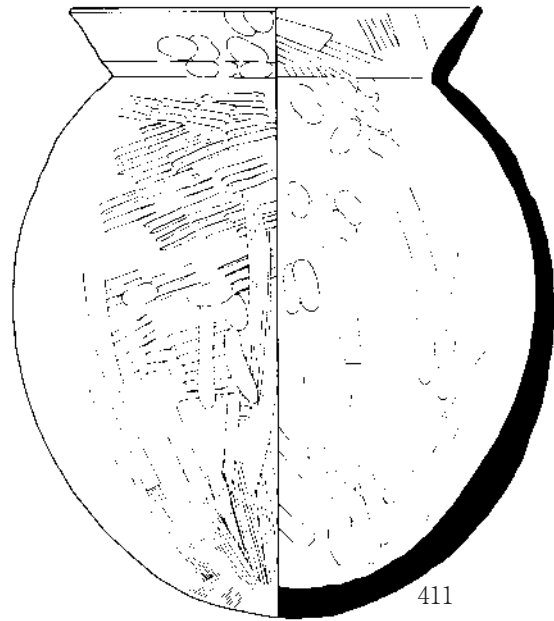
遺物 No	調整・紋様
408	内面 (口) ナデ (胴上) ヘラナデ、頸部下接合部で浅く窪む (胴下) ナデ、ヘラ圧痕 外面 (口) ヨコナデ、接合痕 (胴上) ナデ (胴下) ヘラナデ
409	内面 (口) ヨコナデ、ナデ (胴) ヘラケズリのちナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) ヘラナデ

Fig.47 4 A区出土遺物37 III d層 (S : 1/3)

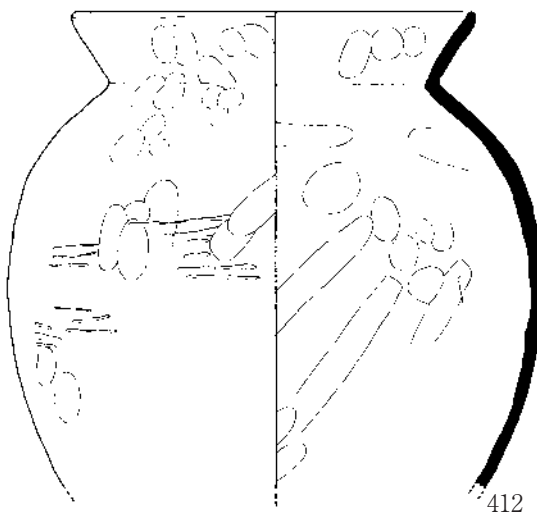
は椀形の体部に短い口縁が付く。外面にはタタキ目が残る。337は長胴形の胴体に口縁は弱い屈曲の後に直線的に立上がる。内外面にナデを施す。340は膨らんだ体部を有したやや甕の形態に近いものである。338は口縁がやや浅い椀形の体部に開いて付く。339は底部が弱い凸面を成し、底部の内面にはハケが施される。341・344は容量大のボウル形を呈する。341は口縁が開いて立上がり、口縁下に明瞭な変換点を有する。外面はタタキのちハケを施す。344は口縁下に粘土の接合痕が存在する。外面にはタタキ目が卓越する。341・344はやや古相か。342から345は鉢の底部と考えられる。342は尖底を成す。やや深い椀形の底部か。345は底部がやや突出する。丸底か。346から351は開いた口頸部に短い口縁が鋸状に付くものであり、鉢とした。何れも口縁は甕形に近似し、開いて立上がる。調整は口縁下の屈曲が緩やかなものにはナデが施されており、口縁下の屈曲がやや急なものはハケを施すか、またはタタキ目を残す。351は口縁が波状を成す。膨らみを持った胴体に口縁は屈曲の後に直線的に立上がる。内面にハケを施し、外面にはタタキ目が残る。352・353は台付鉢とした。やや深い椀形の鉢部に低く短い脚が付く。354か



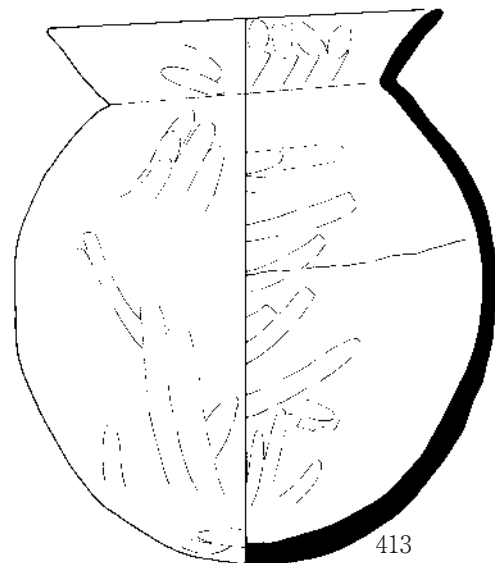
410



411



412

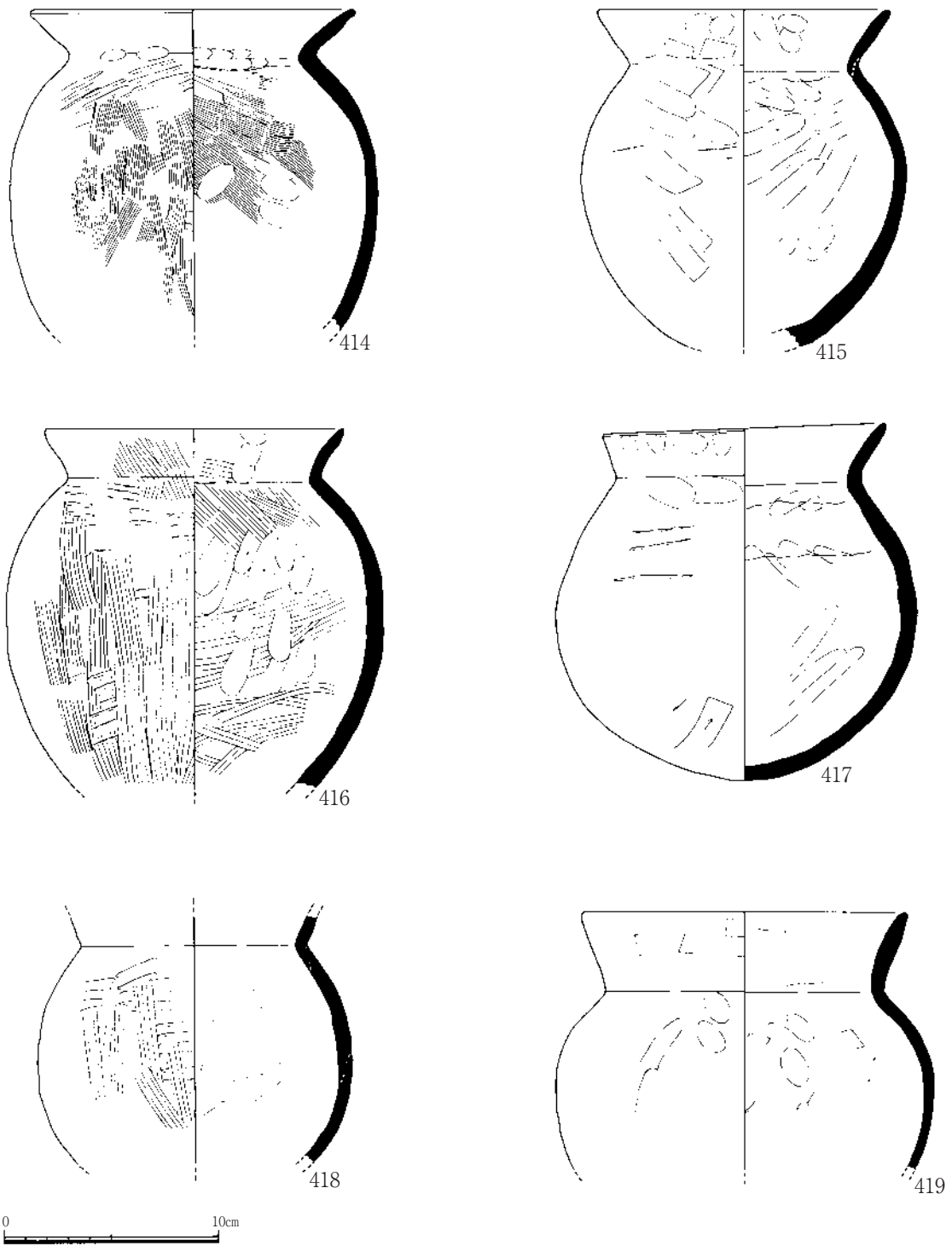


413



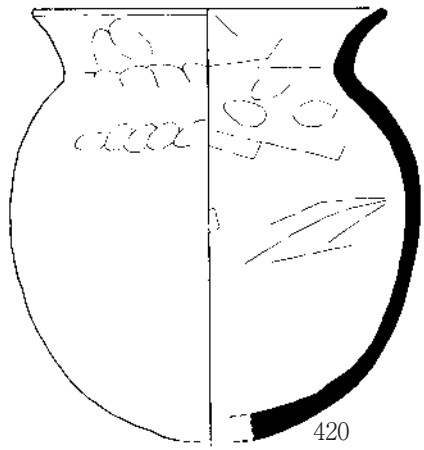
遺物 No.	調整・紋様
410	内面(口)ハケ(胴)ハケ、押圧痕(胴中)ヘラナデ 外面(口)ハケのちヨコナデ(胴)タタキのちハケ(胴中)ハケ
411	内面(口)ヨコナデ(ハケ状原体)(胴)ヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(胴)タタキのちハケ又はヘラナデ
412	内面(口)ナデ(胴)ナデ(胴中)ケズリのちナデ 外面(口)ヨコナデ(胴)タタキのちナデ
413	内面(口)ナデ、ヘラナデ、ヘラ圧痕(胴)ヘラナデ 外面(口)ナデ(胴)タタキのちヘラナデ

Fig.48 4 A区出土遺物38 III d層 (S : 1/3)

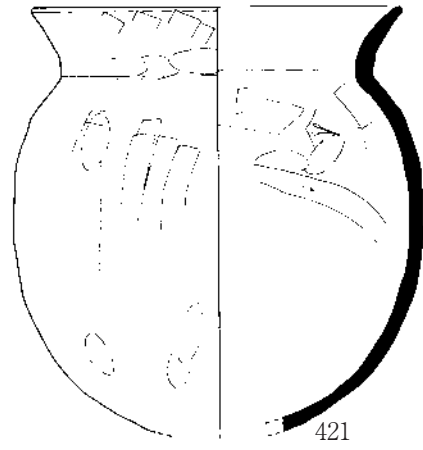


遺物 No	調整・紋様
414	内面(口)ハケのちナデ(胴)細ハケのちナデ 外面(口)ヨコナデ(胴)ナデ、タタキのち細ハケ
415	内面(口)ナデ、押圧痕(胴)強いヘラナデ 外面(口)ナデ(頸)ヘラ圧痕(胴)ヘラナデ
416	内面(口)粗ハケ(胴)強いナデ、ナデ 外面(口)ハケ(胴)タタキのちハケ
417	内面(口)ナデ(胴)ナデ、接合部に押圧痕 外面(口)ナデ、押圧痕(胴上)タタキのちナデ(胴中)ナデが卓越(胴下)ケズリのちナデ
418	内面(口)ナデ(胴)ヘラナデ 外面(口)ハケ(胴)タタキのちハケ
419	内面(口)ケズリのちヨコナデ(胴)ケズリのちナデ 外面(口)ヨコナデ(胴)ヘラナデ
420	内面(口)ヘラナデ(胴)ナデ 外面(口)ヨコナデ(胴)ナデ、ヘラナデ
421	内面(口)ナデ(胴)ヘラケズリのちヘラナデ(胴中)ナデ 外面(口)ヨコナデ、押圧痕(胴)ヘラナデ

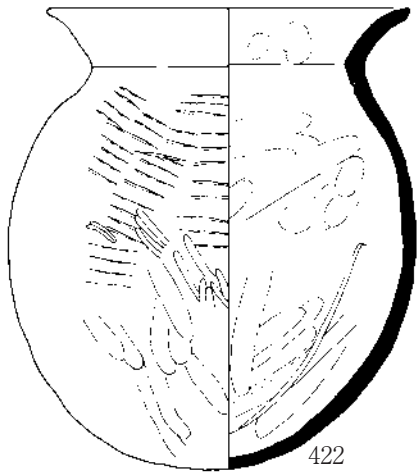
Fig.49 4 A区出土遺物39 III d層 (S : 1/3)



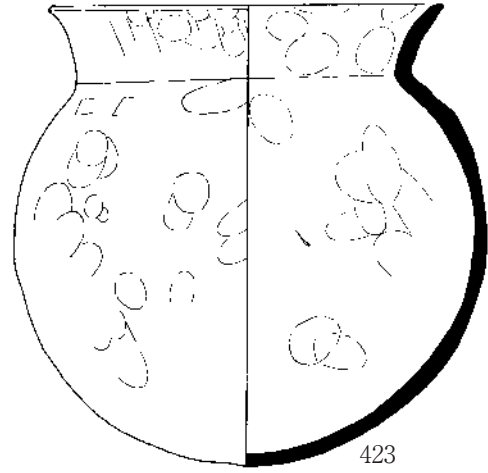
420



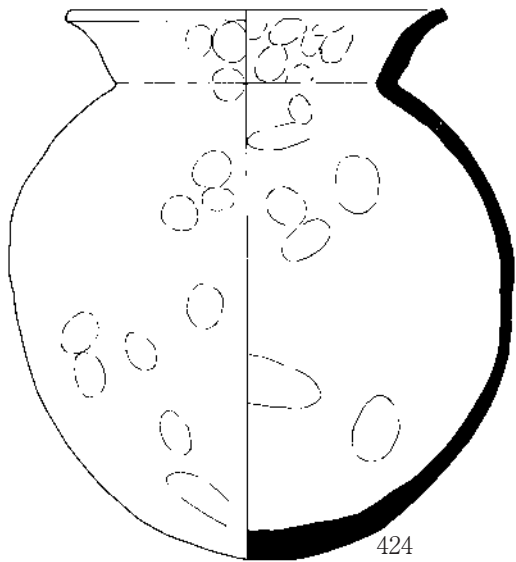
421



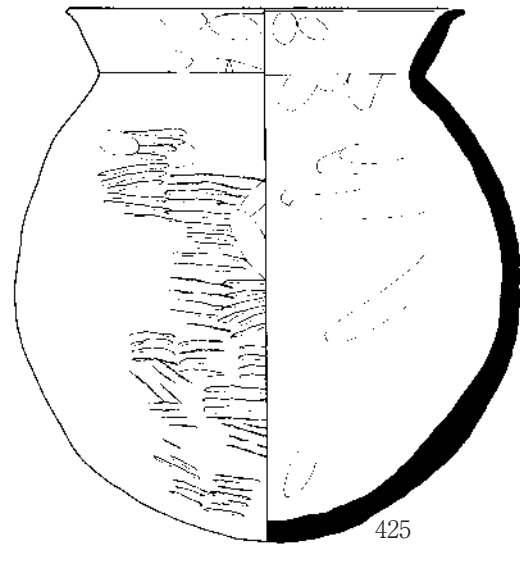
422



423



424

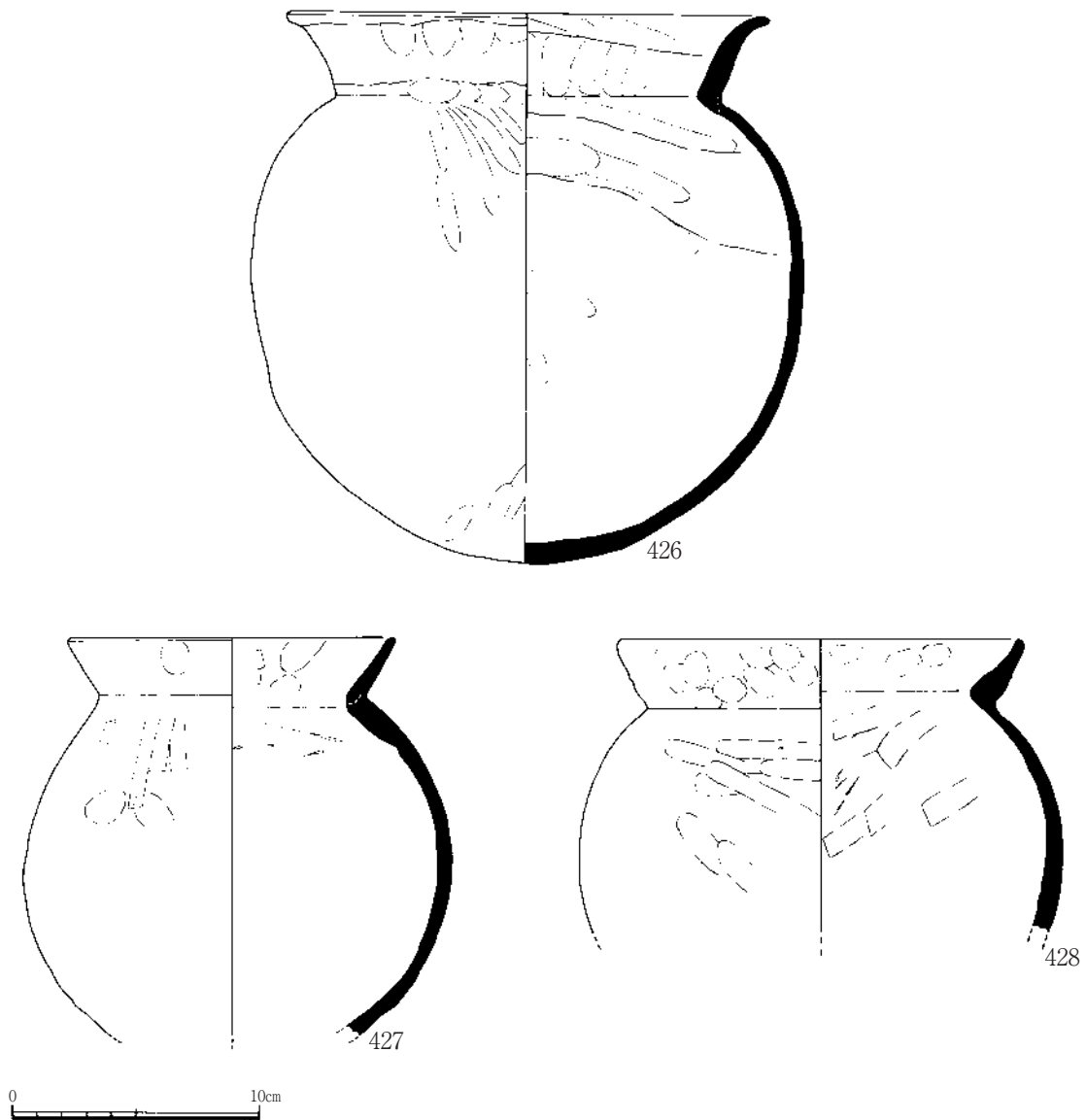


425



遺物 No	調整・紋様
422	内面(口) ナデ(胴上) 指頭ナデ? (胴中) ヘラナデ 外面(口) ナデ(胴上) タタキ(胴中) タタキのちナデ
423	内面(口) ナデ(胴) ケズリのちナデ 外面(口) ヨコナデ(胴) ナデ
424	内面(口) ナデ(胴) ヘラナデ 外面(口) ナデ(胴) ナデ、ヘラナデ
425	内面(口) ヨコナデ(胴) ナデ 外面(口) ヨコナデ(胴) タタキのちナデ

Fig.50 4 A区出土遺物40 III d層 (S : 1/3)



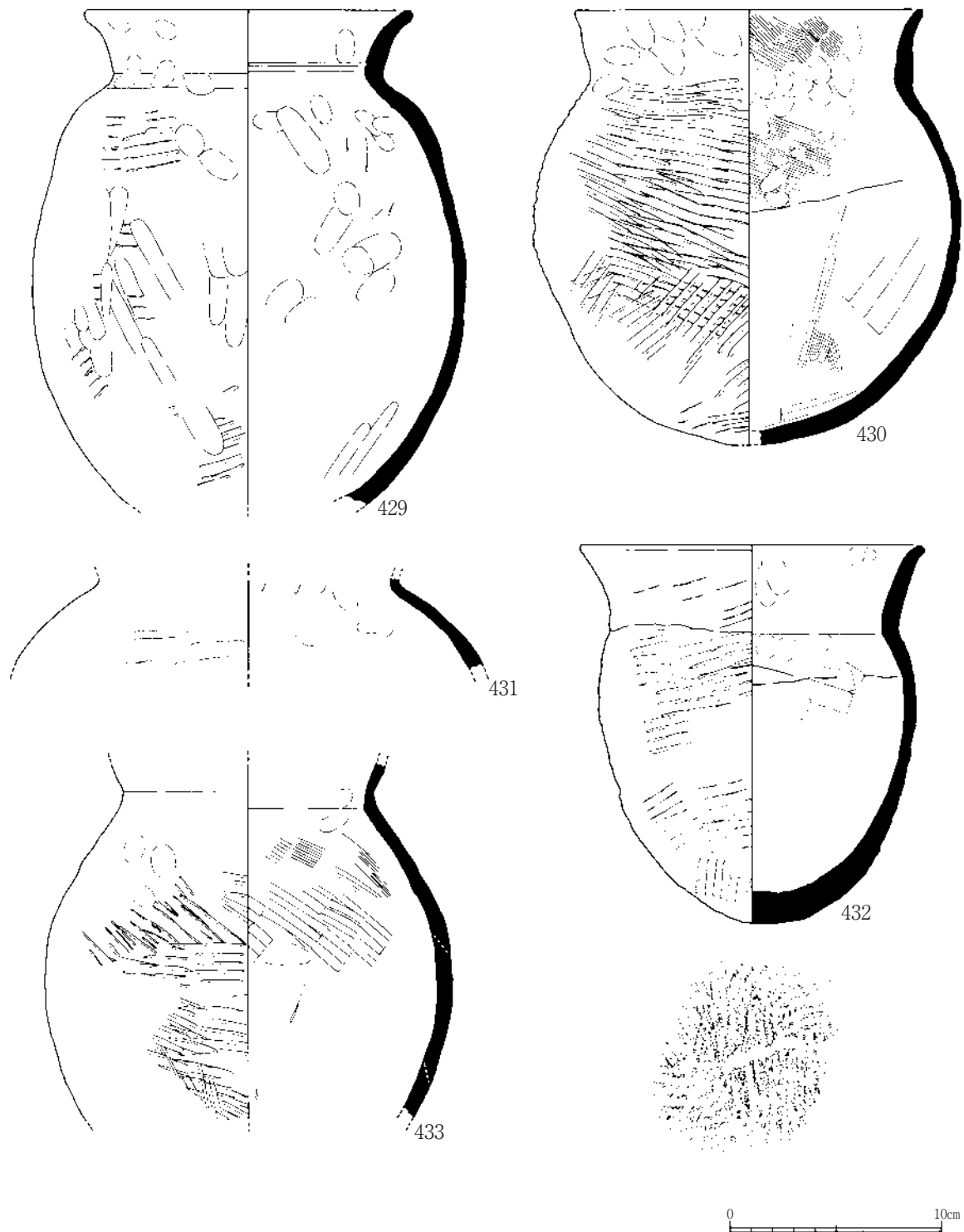
遺物 No	調整・紋様
426	内面 (口) ヘラナデ (胴) ケズリのちヘラナデ 外面 (口) ナデ、押圧痕 (胴) ナデ
427	内面 (口) ナデ、ヘラナデ、押圧痕 (胴) ヘラケズリ (胴中) ケズリのちナデ 外面 (口) ナデ、押圧痕 (胴) ヘラナデ
428	内面 (口) 押圧痕 (胴) ケズリのちヘラナデ 外面 (口) 押圧痕、凹凸面 (胴) ヘラナデ

Fig.51 4 A区出土遺物41 III d層 (S : 1/3)

ら361は有孔の鉢、またはその底部である。357は器高のやや低い椀形である。358・360・361は深めの椀形であり、外面にタタキ目を残す。355は底部が内面側からの焼成前穿孔により粘土が突出する。孔の内面側が大きく広がる。

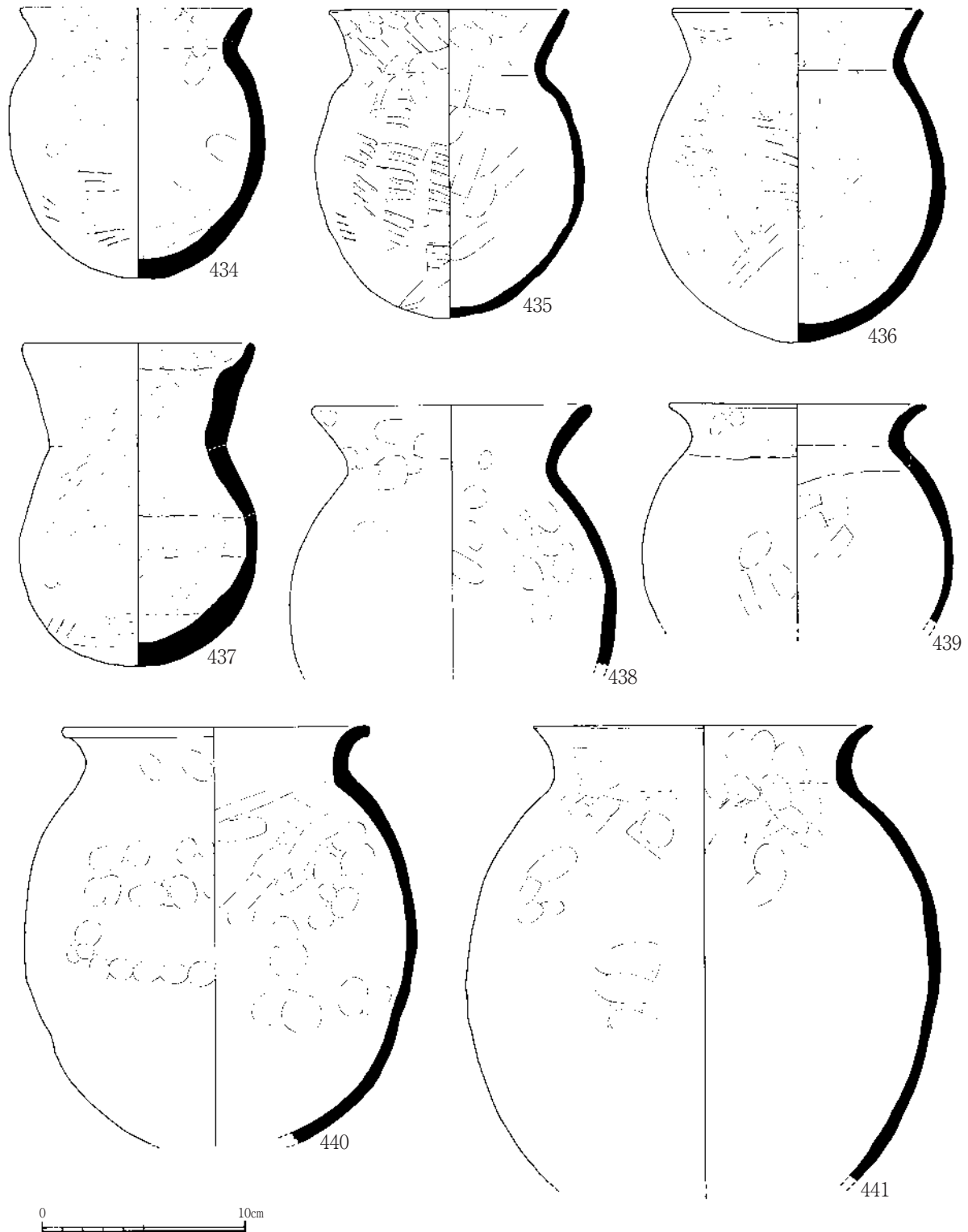
これらの出土した鉢は主に形態から以下の様に分けることができる。

I) 器高が高い椀形、湯呑み形を呈するもの、II) 器高がやや低いく広い口縁を持つ椀形、向付形、III) 器高が低く広い口径を持つ皿形を呈するもの、IV) 比較的容量のあるボウル形、V) 口縁が鐙状をなすものが見られる。I)からV)の各々に於いて以下の形態的な属性がある。



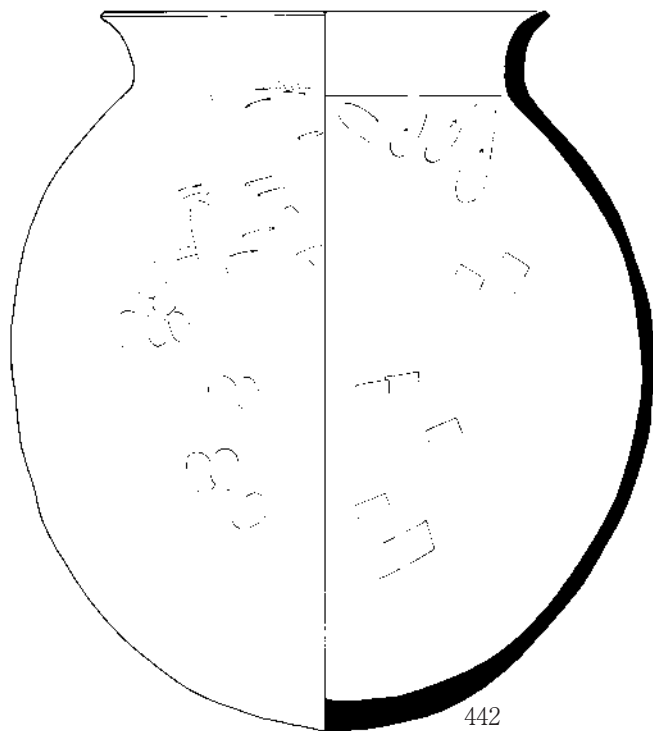
遺物 No.	調整・紋様
429	内面 (口) ヨコナデ (頸) 沈線状の凹部 (胴) ケズリのちナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) タタキのちナデ
430	内面 (口) ハケ (頸) 押圧痕 (胴) ハケのちナデ (底) 粗ハケ又はヘラナデ 外面 (口) タタキのちヨコナデ (胴) タタキ
431	内面 (頸) ヘラ圧痕 (胴上) 押圧痕、ヘラナデ 外面 (頸) ヨコナデ (胴上) タタキのちナデ
432	内面 (口) ナデ (胴) ナデ、ヘラ痕 外面 (口) タタキのちナデ (胴) タタキ
433	内面 (口) ハケのちナデ (胴上) ハケのちナデ (胴中) ハケ?又はヘラナデ? (胴下) ケズリ? 外面 (頸) ヨコナデ (胴上) ヨコナデ (胴中) タタキ (胴下) タタキのちハケ

Fig.52 4 A区出土遺物42 III d層 (S : 1/3)

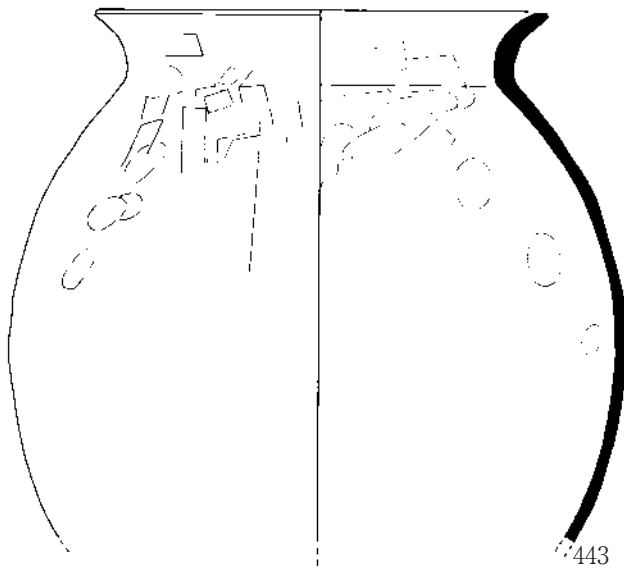


遺物 No	調整・紋様
434	内面(口)ナデ(胴)ヘラナデ 外面タタキのちナデ
435	内面(口)ヨコナデ(胴)ナデ 外面(口)ヨコナデ(胴)ナデ、タタキのちヘラナデ
436	内面(口)ナデ(胴)ナデ(胴下)ヘラナデ 外面(口)タタキのちナデ?(胴)タタキのちナデ
437	内面(口)押圧痕、ナデ(胴上)ナデ(胴中)ヘラナデ、押圧痕 外面(口)ヘラナデ、押圧痕(胴上)ナデ(胴)タタキのちナデ
438	内面(口)ヨコナデ(胴)ナデ、凹凸面 外面(口)ヨコナデ(胴)ナデ
439	内面(口)ナデ(胴)ケズリ?のちヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(胴)ナデ
440	内面(口)ヨコナデ(胴)強いヘラナデ(胴中)ヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(胴)ヘラナデ、凹凸面
441	内面(口)ヨコナデ、ヘラ圧痕(胴上)ケズリのちナデ(胴中)ナデ 外面(口)ヨコナデ(胴)ヘラナデ

Fig.53 4 A区出土遺物43 III層 (S : 1/3)

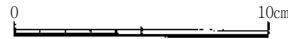


口縁形態には、a. 外反するもの、b. 直線的に立上がるもの、c. 内彎するものが存在する。また底部形態には、i. 丸底、ii. 平底、iii. 押しつぶしたような不明瞭な平底が存在する。Iにはa・b・cが存在し、cが多く見られる。bはやや古相か。またaの出現頻度が低い。II・IIIは主にcで占められる。IVは一定量見られるが形態的に個体差が大きい。Vは個体数が少ない。供膳形態を反映したものであろう。



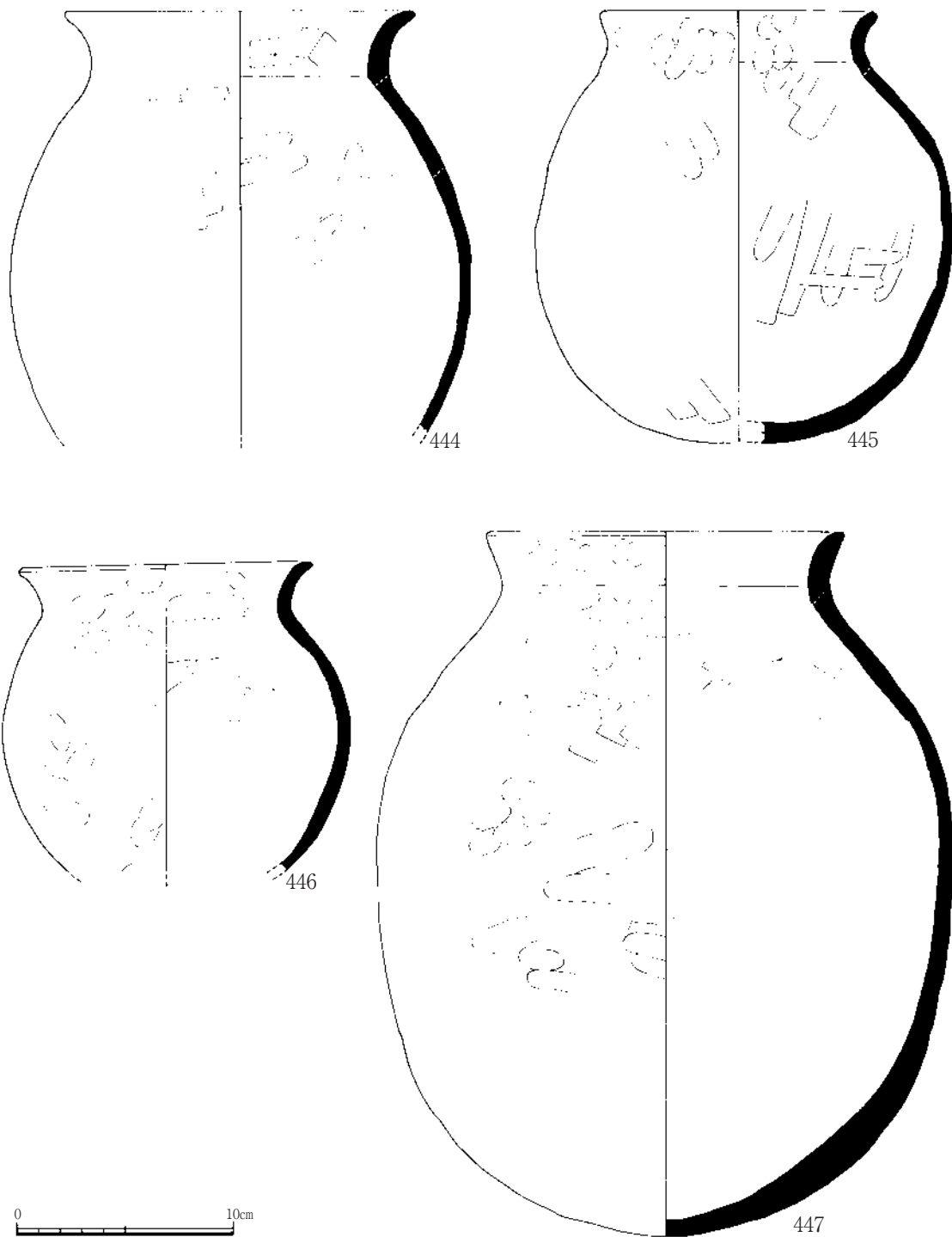
注

- 1) 『仁ノ遺跡』で認められるやや容量のある鉢に残されたザル状容器の痕跡など、型造りの痕跡を明らかに残すものはここでは存在しない。
- 2) 祭祀が夜を通して行われた事を考えると、後のかわらけに見られる灯明皿的な用途が小型の鉢にあった可能性は高い。形態的に碗形、皿形の区別は認められない。



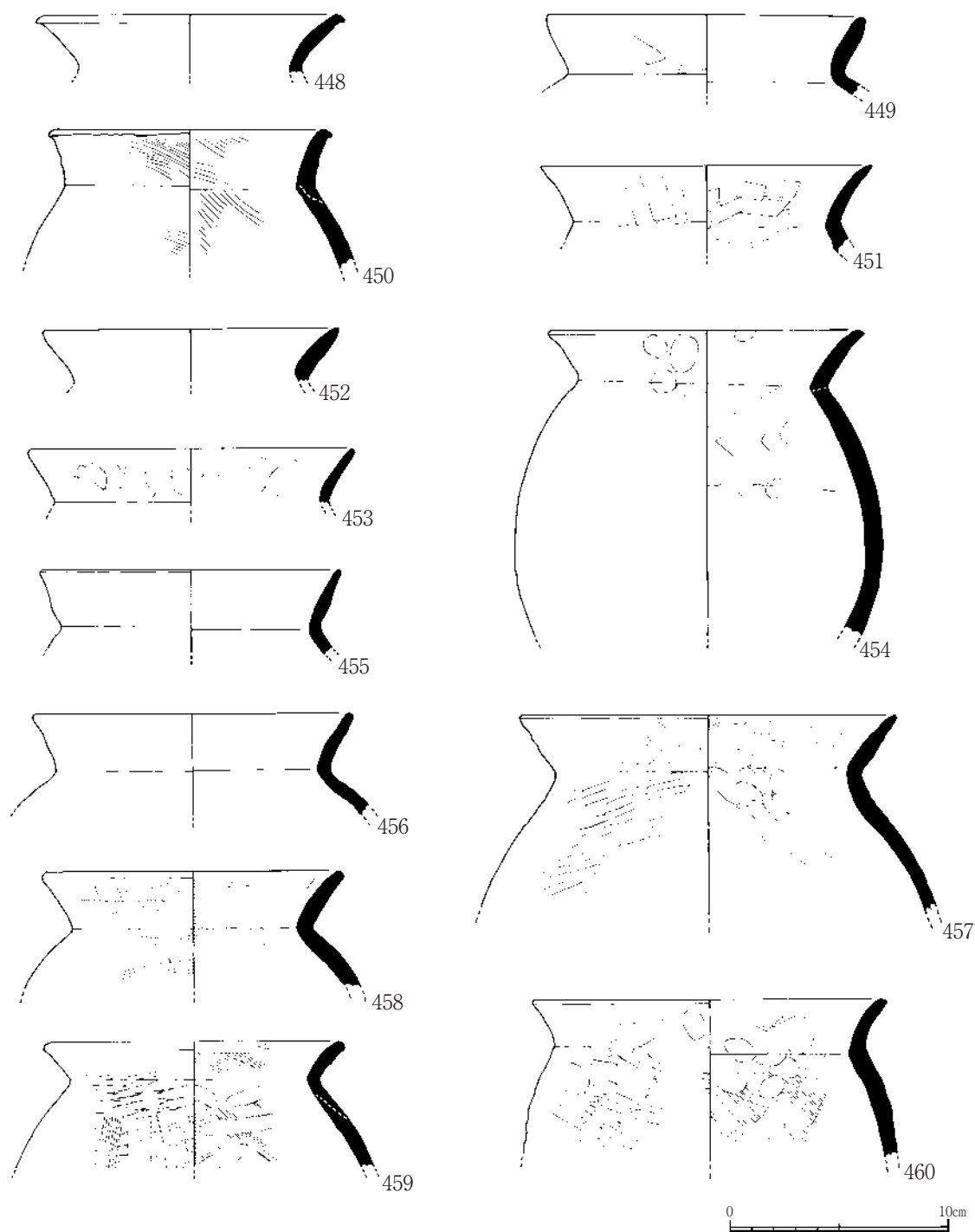
遺物 No.	調整・紋様
442	内面(口)ヘラナデ(胴)ケズリのちナデ 外面(口)ヨコナデ(胴)ナデ、押圧痕
443	内面(口)ヨコナデ(胴)ケズリのちナデ 外面(口)ヨコナデ(胴)ヘラナデ

Fig.54 4 A区出土遺物44 III d層 (S : 1/3)



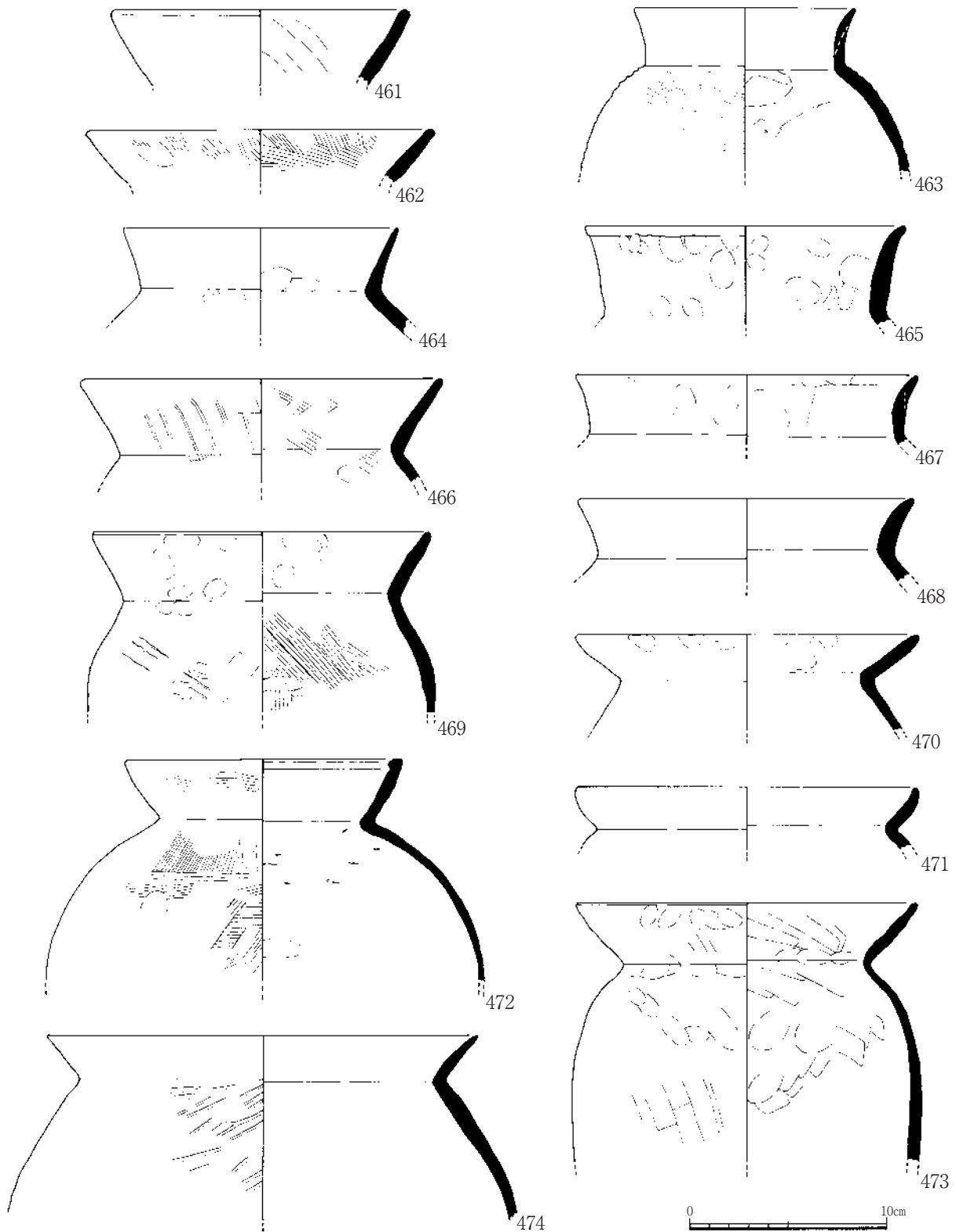
遺物 No.	調整・紋様
444	内面(口)ヨコナデ(胴)ケズリのちナデ 外面ナデ
445	内面(口)ナデ、押圧痕(胴)強いヘラナデ? 外面(口)ヨコナデ(胴)ヘラナデ
446	内面(口)ヘラナデ(胴)ケズリのちナデ 外面(口)ナデ、押圧痕(胴)ヘラナデ
447	内面(口)ヘラナデ(胴)ヘラナデ 外面(口)ヘラナデ(胴)ヘラナデ
448	内面(口)ナデ 外面(口)ヘラナデ
449	内面(口)ヨコナデ 外面(口)ヨコナデ
450	内面(口)ハケのちナデ(胴)ハケのちナデ 外面(口)ハケ(胴)ハケのちナデ
451	内面(口)ヘラナデ(胴)ヘラナデ?ヘラ圧痕 外面(口)ヘラナデ、浅い凹凸面

Fig.55 4 A区出土遺物45 III d層 (S : 1/3)



遺物 No	調整・紋様
452	内面(口) ケズリのち強いナデ 外面(口) ヨコナデ
453	内面(口) ナデ 外面(口) ヨコナデ、押圧痕
454	内面(口) ナデ(胴) ヘラナデ 外面(口) ハケのちナデ(胴) ナデ
455	内面(口) ナデ(胴) ナデ 外面(口) ナデ、浅い凹凸面(頸) ヨコナデ?
456	内面(口) ヨコヘラナデ(胴) ナデ 外面(口) ナデ、押圧痕(胴) ナデ
457	内面(口) ヘラナデ(胴) ヘラナデ 外面(口) ナデ(胴) タタキ
458	内面(口) ヨコハケ(胴) ハケのちナデ 外面(口) ハケのちヨコナデ(胴) ハケ
459	内面(口) ハケのちナデ(胴) 細ハケのちナデ 外面(口) タタキのちナデ(胴) タタキのちハケ
460	内面(口) ハケのちヨコナデ(胴) ハケ 外面(口) ヨコナデ、押圧痕(胴) タタキのちナデ

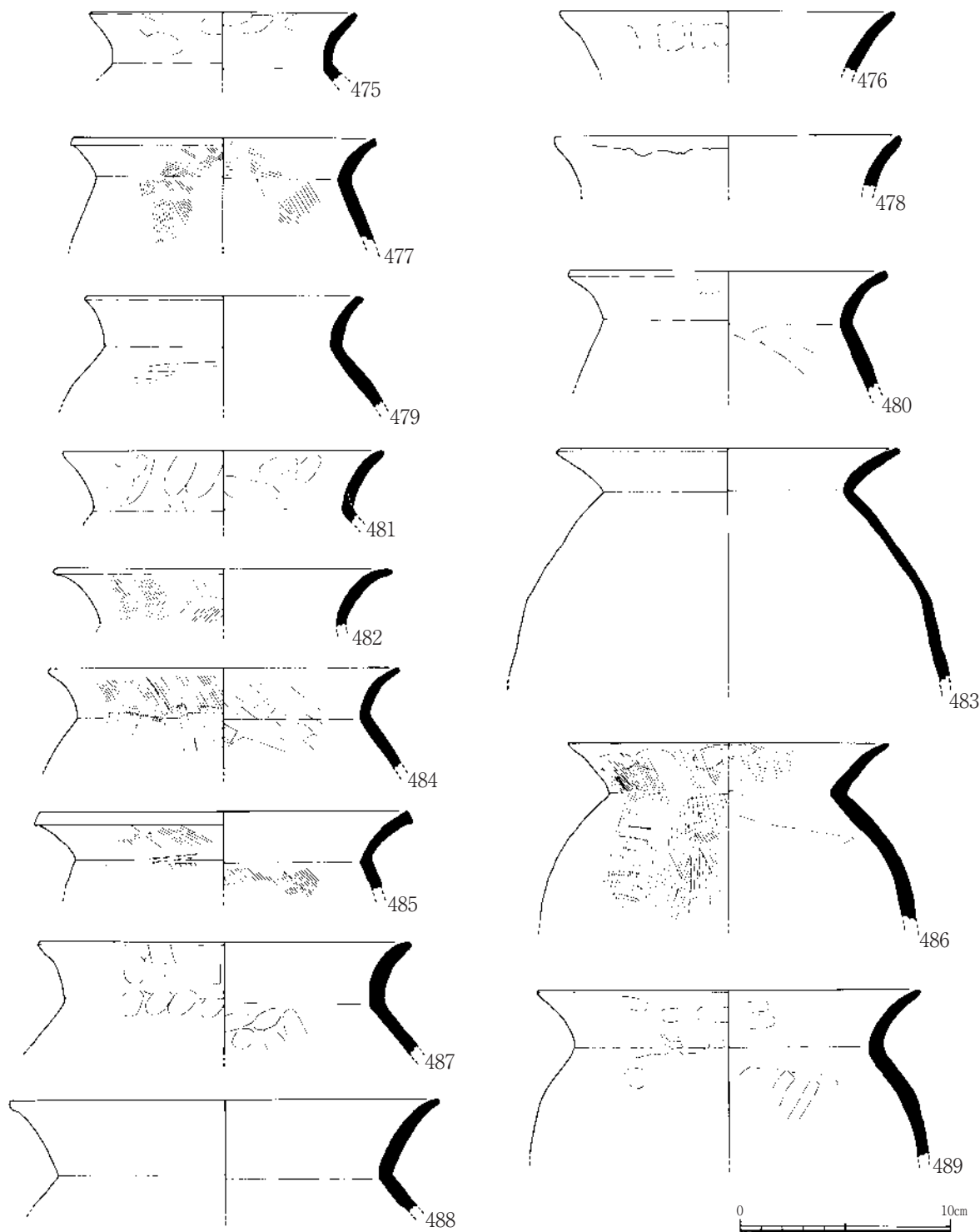
Fig.56 4 A区出土遺物46 III d層 (S : 1/3)



遺物 No	調整・紋様
461	内面ヘラナデ（細ハケ状原体） 外面ナデ、浅い凹凸面
462	内面（口）ヨコナデ、ハケ 外面（口）ハケのちナデ
463	内面（口）ヨコナデ（胴上）ナデ、凹部（胴中）ケズリ 外面（口）ヨコナデ（胴）タタキ
464	内面（口）ナデ（胴）押圧痕？ 外面（口）ナデ？（胴上）ハケ又はナデ（ハケ状原体）
465	内面（口）ナデ、押圧痕（胴）押圧痕 外面（口）ヨコナデ
466	内面（口）ハケのちナデ 外面（口）ハケのちナデ
467	内面（口）ナデ、ヘラナデによる浅い凹凸面 外面（口）ナデ

遺物 No	調整・紋様
468	内面（口）ナデ、浅い凹凸面（胴）ヘラナデ 外面（口）ヨコナデ
469	内面（口）ヘラナデ（胴）粗ハケ、圧痕、ヘラナデ 外面（口）ヨコナデ、押圧痕（胴）タタキのちヘラナデ
470	内面（口）ナデ、押圧痕（胴）ケズリ 外面（口）ナデ、凹凸面（胴）ナデ
471	内面（口）ヨコナデ（胴）ヘラナデ 外面（口）ナデ
472	内面（口）ヨコナデ（胴）ケズリのちナデ 外面（口）ヨコナデ（胴）ハケのちナデ
473	内面ヘラナデ 外面ヘラナデ？
474	内面（口）ナデ（胴）ヘラナデ 外面（口）ナデ（胴）タタキ

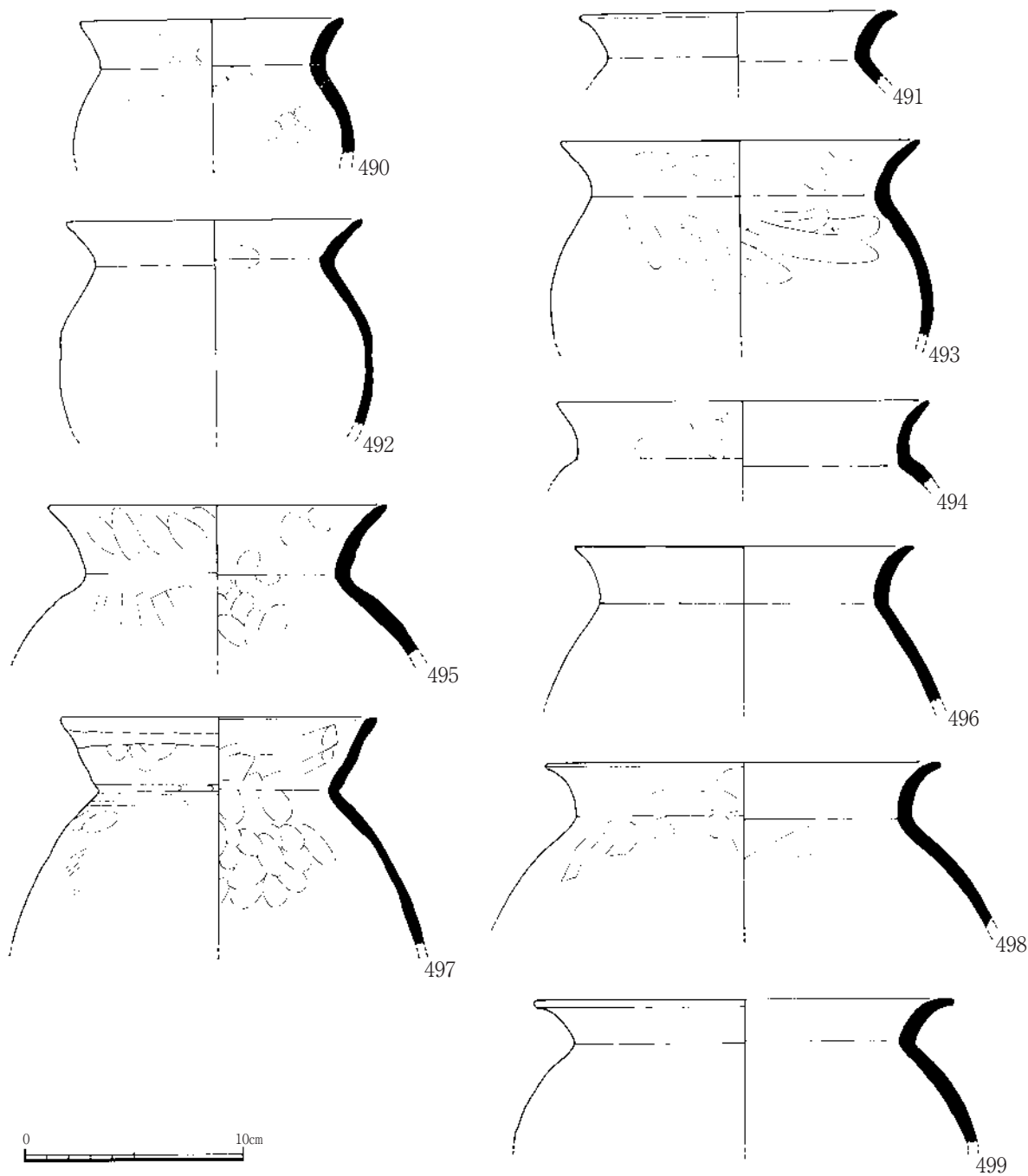
Fig.57 4 A区出土遺物47 III層 (S : 1/3)



遺物 No.	調整・紋様
475	内面 (口) ナデ、指頭押圧 外面 (口) ナデ、凹凸面
476	内面 (口) ヨコナデ、浅い凹凸面 外面 (口) ナデ、押圧痕
477	内面 (口) ハケ (胴) ハケのちナデ?、ヘラ圧痕 外面 (口) ハケ (胴) ハケ
478	内面 (口) ナデ、凹凸面 外面 (口) ナデ
479	内面 (口) ナデ (胴) ハケのちナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) タタキのちナデ
480	内面 (口) ナデ (胴) ナデ 外面 (口) ヨコナデ、浅い押圧痕 (胴) ヘラナデ
481	内面 (口) ナデ、ヘラナデ 外面 (口) ナデ、タテヘラナデ
482	内面 (口) ヨコナデ 外面 (口) ヨコナデ、粗ハケのちヨコナデ
483	内面 (口) ナデ (胴) ナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) ヘラナデ

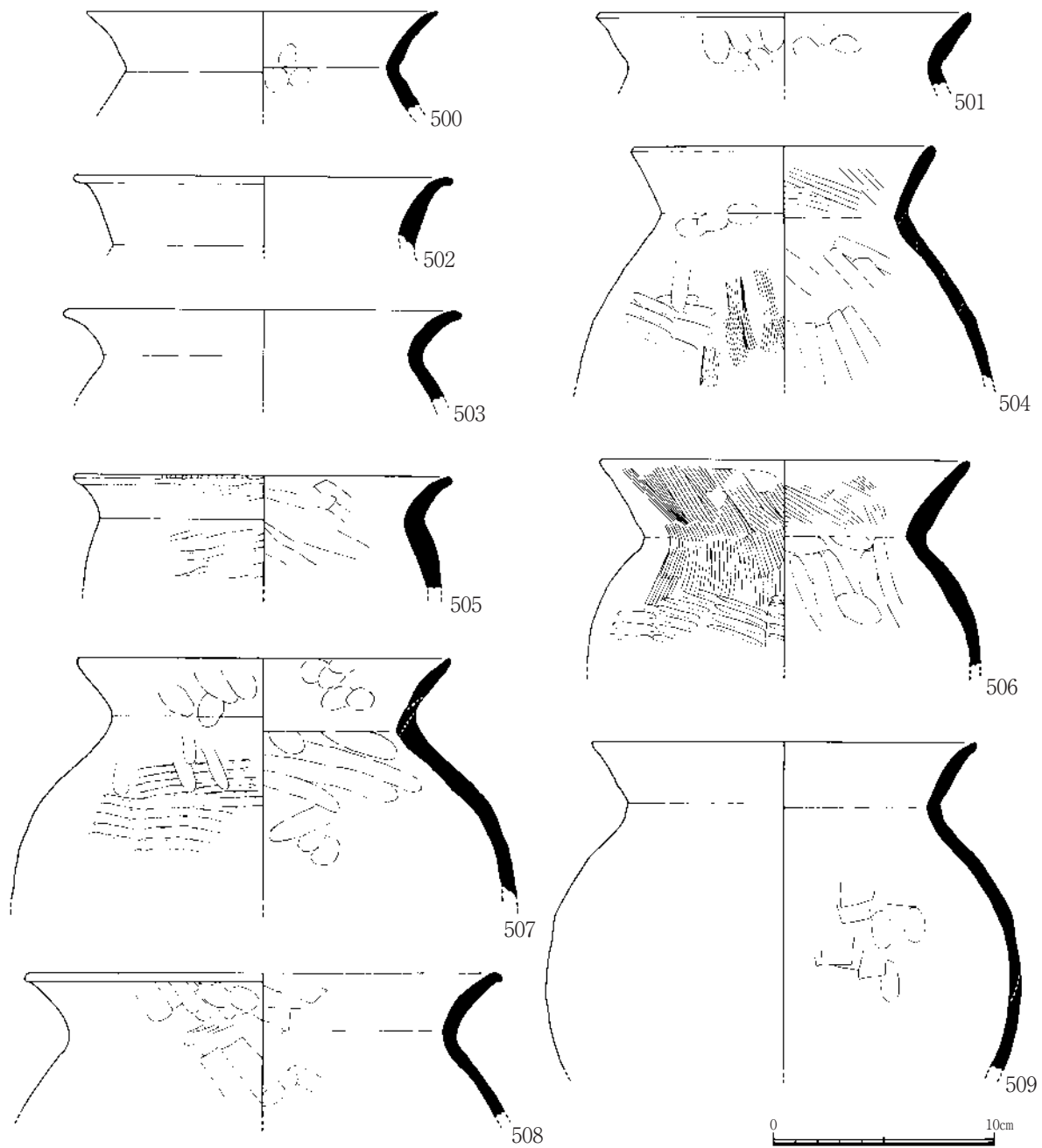
遺物 No.	調整・紋様
484	内面 (口) ナデ (胴) ハケ 外面 (口) ハケ (胴) ハケ
485	内面 (口) ハケのちナデ (胴) 細ハケ 外面 (口) タタキのちハケ (ハケ状原体によるナデ?) (胴) ハケ (ハケ状原体によるナデ?)
486	内面 (口) ハケのちナデ (胴) ヘラナデ 外面 (口) ハケのちヨコナデ (胴) タタキのちハケ
487	内面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ
488	内面 (口) ナデ、浅い凹凸面、ヘラ圧痕 (胴) ケズリのちナデ 外面 (口) 押圧痕、ナデ (胴) ナデ
489	内面 (口) ヘラナデ (胴) ヘラナデ 外面 (口) ナデ (頸) タテヘラナデ (胴) ナデ、凹凸面

Fig.58 4 A区出土遺物48 III d層 (S : 1/3)



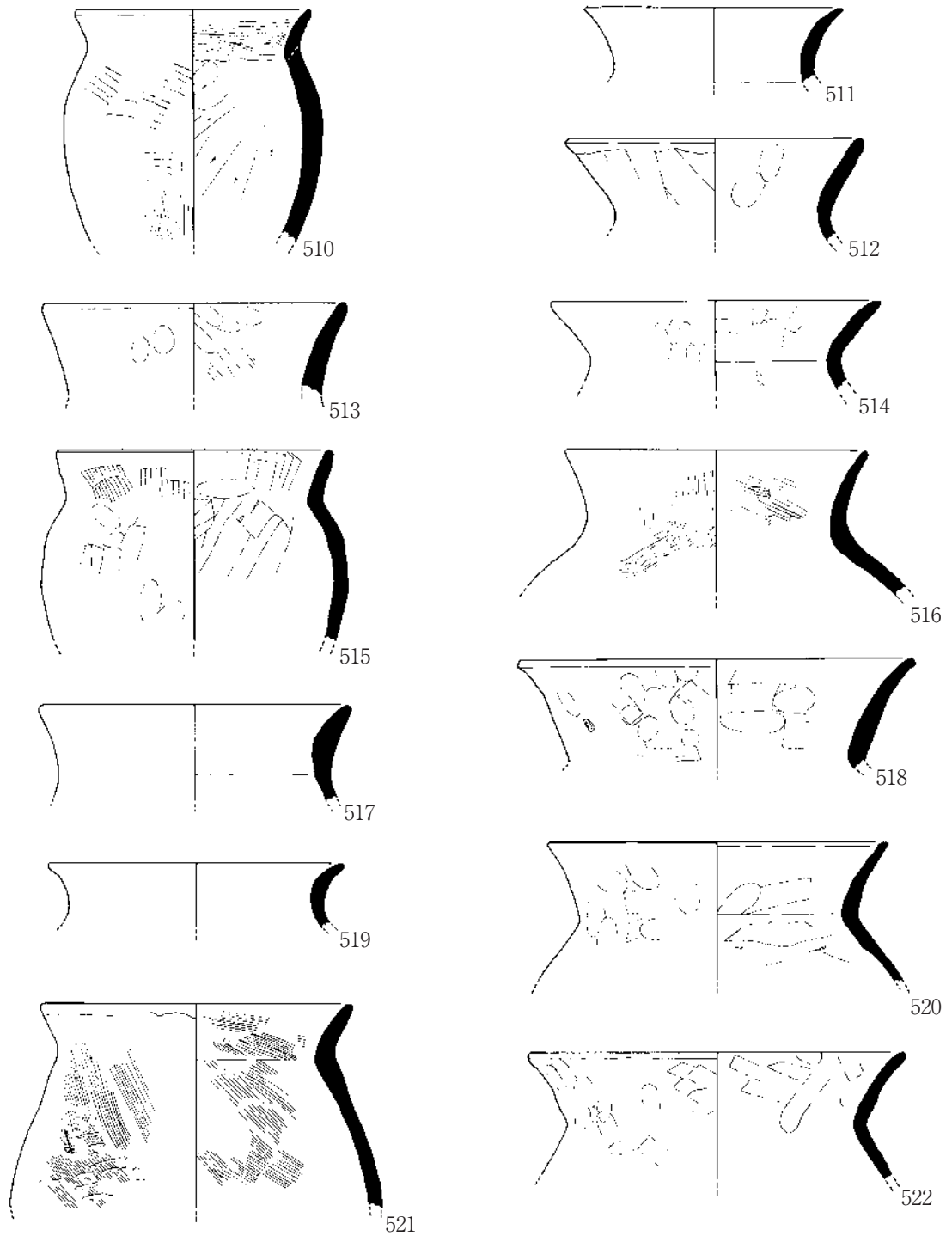
遺物 No.	調整・紋様
490	内面 (口) ナデ (胴) ケズリのち強いナデ 外面 (口) ナデ (胴) ナデ痕
491	内面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ
492	内面 (口) ヨコナデ (胴) ヘラナデ 外面 (口) ナデ (胴) ナデ
493	内面 (口) ナデ (胴) ヘラケズリ 外面 (口) ナデ (胴) ヘラナデ、浅い凹凸面
494	内面 (口) ナデ (胴) ナデ 外面 (口) ヘラナデ (頸) 押圧痕
495	内面 (口) ヨコナデ (胴) ケズリ?のちナデ、押圧痕 外面 (口) ヨコナデ (胴) ヘラナデ
496	内面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) ヘラナデ
497	内面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ、押圧痕 外面 (口) ヨコナデ (頸) ヨコナデ
498	内面 (口) ヨコナデ (胴) ヘラナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ
499	内面 (口) ナデ (胴) ケズリのちナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ

Fig.59 4 A区出土遺物49 III層 (S : 1/3)



遺物 No.	調整・紋様
500	内面 (口) ナデ (胴) 押圧痕、ハケのちヘラナデ 外面 (口) ナデ、浅い凹凸面 (頸) ヨコナデ (胴) ナデ
501	内面 (口) ナデ、押圧痕 外面 (口) ナデ、凹凸面
502	内面 (口) ナデ 外面 (口) ヨコナデ
503	内面 (口) ヨコナデ (胴) ケズリのち?ナデ 外面 (口) ナデ
504	内面 (口) ヨコナデ、粗ハケ (胴) ヘラナデ 外面 (口) ナデ (頸) ヨコナデ (胴) タタキのちハケ、ヘラナデ
505	内面 (口上) ヨコナデ (口下) ヘラナデ (粗ハケ状に筋目が入る) (胴) ヘラナデ (粗ハケ状に筋目が入る) 外面 (口唇) ヘラ圧痕 (口) タタキ (頸) ヨコヘラナデ (胴) タタキ
506	内面 (口) ハケ (胴) ヘラナデ 外面 (口) タテハケのちヨコナデ (口唇と頸部にナデ顯著) (胴) タタキのちハケ
507	内面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ 外面 (口) ヨコナデ (頸部で顯著) (胴) タタキのちナデ (上位でナデが卓越)
508	内面 (口) ヘラナデ (胴) ナデ 外面 (口) ナデ (頸) ナデ痕 (胴) ヘラナデ
509	内面 (口) ヨコナデ (胴) ヘラナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) ヘラナデ

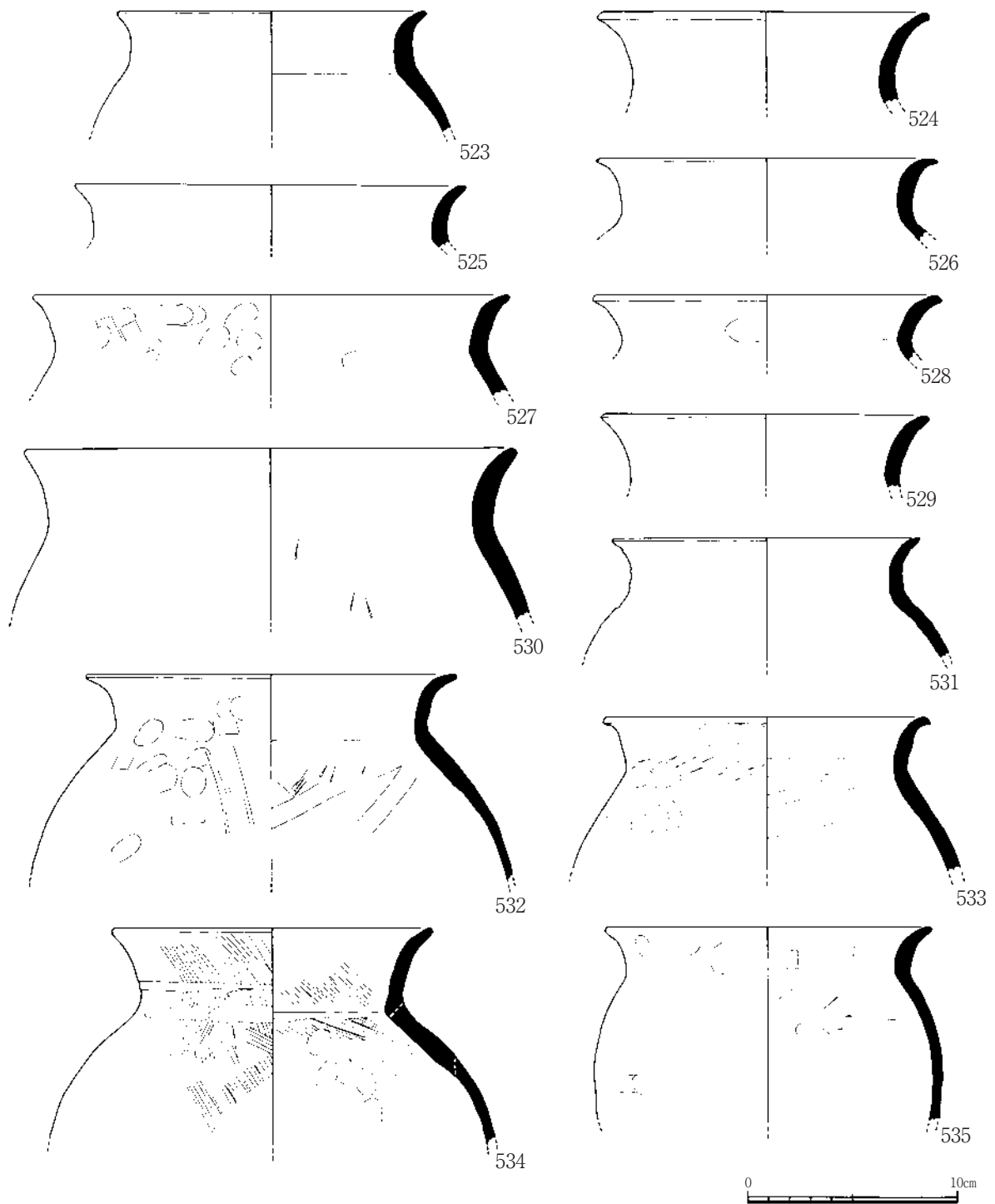
Fig.60 4 A区出土遺物50 III d層 (S : 1/3)



遺物 No	調整・紋様
510	内面(口) ヨコハケ(胴) ケズリのちナデ、ケズリ 外面(口) ナデ(胴) タタキのちナデ、タタキのちハケ
511	内面(口) ヘラナデ 外面(口) ナデ、小さく浅い凹凸面
512	内面(口) ヨコナデ 外面(口) ヨコナデ
513	内面(口) ナデ、ヘラナデ? 外面(口) ヨコナデ
514	内面(口) ヨコヘラナデ(胴) ハケ? 外面(口) ナデ(頸) タテヘラナデ
515	内面(口) ヘラナデ(胴) ケズリのちナデ 外面(口) ナデ(胴) ヘラナデ
516	内面(口) ハケのちナデ(胴) ハケのちナデ 外面(口) ヨコナデ、ハケ(胴) タタキ

遺物 No	調整・紋様
517	内面(口) ヨコナデ(胴) ヘラケズリ? 外面(口) ヨコナデ(胴) ヘラケズリ
518	内面(口) ヘラナデ 外面(口) ナデ、押圧痕
519	内面(口) ナデ 外面(口) ヨコナデ
520	内面(口) ナデ、押圧痕(胴) ケズリ 外面(口) ヘラナデ(胴) ナデ
521	内面(口) ハケ(胴) ハケ 外面(口) タタキのちハケ又はナデ(胴) タタキのちハケ
522	内面(口) ヘラナデ(胴) ナデ 外面(口) ヘラナデ、押圧痕(胴) ナデ

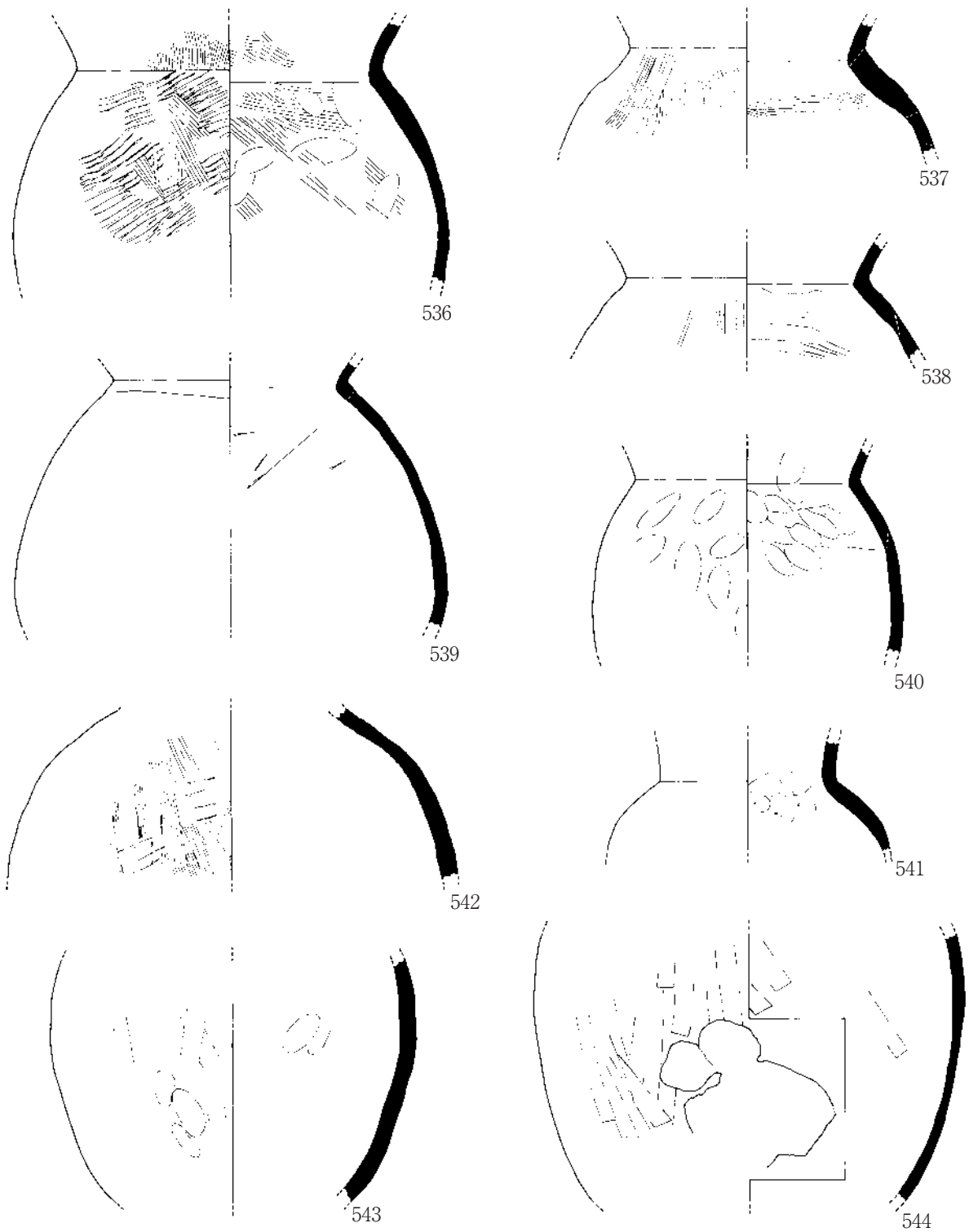
Fig.61 4 A区出土遺物51 III d層 (S : 1/3)



遺物 No.	調整・紋様
523	内面 (口) ナデ (滑らかに仕上げる) (胴) ケズリ? 外面 (口) ナデ (胴) ナデ
524	内面 (口) ナデ 外面 (口) ヘラ圧痕?ヘラナデ?
525	内面 (口) ヨコナデ 外面 (口) ヨコナデ
526	内面 (口) ナデ、浅い凹凸面 外面 (口) ナデ
527	内面 (口) ナデ (胴) ナデ 外面 (口) ヘラナデ
528	内面 (口) ヨコナデ 外面 (口) ヨコナデ
529	内面 (口) ナデ 外面 (口) ヨコナデ
530	内面 (口) ヨコナデ (胴) ケズリのちナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ

遺物 No.	調整・紋様
531	内面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ
532	内面 (口) ヨコナデ (胴) ケズリのちナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) ハケのちナデ
533	内面 (口) ナデ (胴) ケズリのちヘラナデ 外面 (口) ナデ、ヘラ圧痕 (胴) ヘラナデ
534	内面 (口) ハケのちヨコナデ (胴) ハケのちナデ 外面 (口) ハケのちヨコナデ (頸) 強いヨコナデ (胴) ハケ
535	内面 (口) ナデ (胴) ケズリのちナデ 外面 (口) ナデ、押圧痕 (胴) ナデ

Fig.62 4 A区出土遺物52 III層 (S : 1/3)



遺物 No	調整・紋様
536	内面(口) ハケのちナデ(胴) ハケのちナデ 外面(口) ハケ(胴) タタキのちハケ
537	内面(口) ナデ(胴) 粗ハケのちナデ(ケズリ様に砂粒が動く) 外面(口) ナデ(胴) ヘラナデ(ハケ状原体)
538	内面(口) ナデ(胴) 粗ヨコハケ、頸部下に押圧痕 外面(頸) ヨコナデ(胴) ハケ、ナデ
539	内面(口) ナデ(胴) ケズリのちヘラナデ 外面(胴) ヘラナデ

遺物 No	調整・紋様
540	内面(口) ヘラナデ(胴) 押圧痕、ナデ、接合痕、凹凸面 外面(口) ヨコナデ(胴) ヨコナデ、ナデ
541	内面(口) ナデ(頸) 押圧痕(胴) 強いナデ 外面(口) ヨコナデ(胴) 丁寧なヘラナデ
542	内面(胴上) ナデ(胴中) ヘラナデ 外面(胴上) 粗ハケ(胴下) タタキのちハケ
543	内面(胴) ケズリのちナデ 外面(胴) ヘラナデ
544	内面(胴) ヘラナデ 外面(胴) ヘラナデ(細かいハケ状原体)

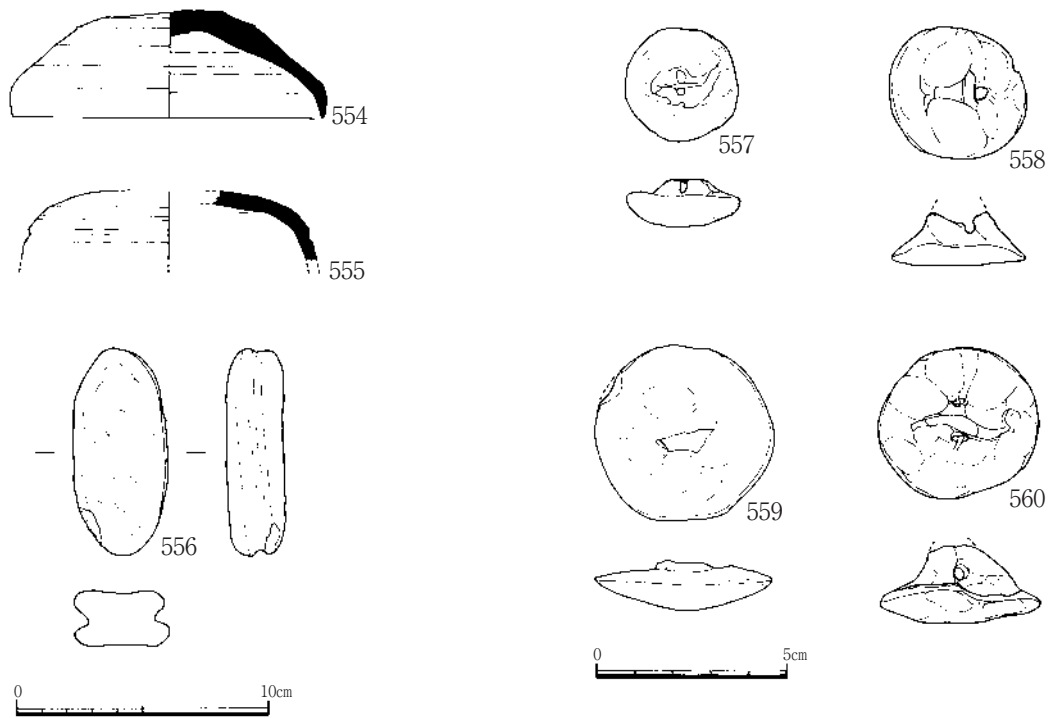
Fig.63 4 A区出土遺物53 III層 (S : 1/3)



遺物 No	調整・紋様
545	内面(胴) ナデ、ヘラナデ 外面(胴) タタキのちハケ (底) ナデ
546	内面(底) ナデ、浅い凹凸面 外面(底) ヘラナデ
547	内面(底) ナデ、浅い凹凸面 外面(底) タタキのちハケ
548	内面(底) ナデ 外面(底) タタキのちハケ、縄目? 圧痕
549	内面(底) ナデ、ヘラナデ 外面(胴) タタキ

遺物 No	調整・紋様
550	内面(胴中) ケズリのちナデ (胴下) ナデ 外面(胴) タタキのちヘラナデ
551	内面(胴) ナデ (底) 押圧痕 外面(胴) タタキのち?ヘラナデ (底) タタキのちヘラナデ
552	内面(胴) 強いヘラナデ (底) ヘラナデ 外面(胴) ナデ
553	内面(胴) ナデ 外面(胴) タタキのちナデ (底) ヘラナデ

Fig.64 4 A区出土遺物54 III層 (S : 1/3)



遺物 No	調整・紋様
554	内面回転ナデ 外面回転ナデ、(頂)ヘラ圧痕
555	内面ナデ 外面(笠上)回転ヘラケズリ(笠下)ナデ、沈線状段部、浅い沈線1条

Fig.65 4 A区出土遺物55 III d層 (S : 1/2, 1/3)

甕 (Fig.41~64)

甕として図示したものは362から553の192点である。

362から379は小型の甕口縁である。頸部の屈曲は弥生後期末のように急なもの少ない。頸部の屈曲は緩くなっているものの、依然として変換点として頸部に稜を留めるものは存在する。363は内面にハケを施し、頸部の屈曲は急である。366は頸部で屈曲し、短く直線的に立上がる。367は口唇が外傾する面を成す。365・368は口縁が頸部から緩く外反して立上がる。一方、緩やかに曲がる頸部には、377や378のように連続的に外反して口頸部に明瞭な変換点(稜)を持たないものがある。また372・373・374に見られるのは、ナデ等の調整により頸部が緩く仕上げられ、上下位に弱い段が形成されるものがある。

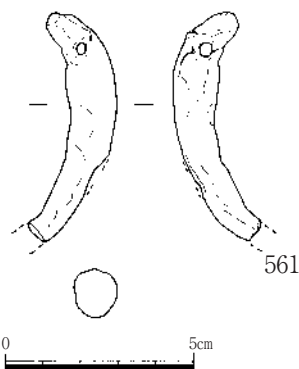


Fig.66 4 A区出土遺物56 III d層土製勾玉 (S : 1/2)

380から387は口縁で屈曲を有するものである。380・382は頸部で屈曲の後に短く立上がる。385は口縁が緩く外反するものであり、口唇は外傾する面を成す。387は口縁が内彎気味に立上がるものである。調整ではナデが盛行するものの、外面にタタキ目が残るものが多い。382・385・387ではタタキのちハケまたはハケ状工具によるナデが見られる。内面は380・383でケズリが施されており、382・385・387ではハケ目が残される。388から393は頸部で屈曲し、口縁は直線的に短く立上がるものである。胴部形態は球形指向かやや倒卵形¹⁾を呈するものが多い。388・392は口唇が外傾する面を成し、388は外側にやや肥厚する。外面には何れもタタキ目を留める。389・392はタタキのちナデである。388はタタキのちハケ状工具によるナデと考えられる。390・391・393ではタタキのちハケが卓越する。底部は丸底である。394・396から398は屈曲する頸部から口縁は直線的またはやや外反して立上がるものである。394・396・397は不明瞭ながら口唇が面を成し、調整は外面にタタキ目を残してナデまたはヘラナデが施されている。399はやや長胴気味の胴部に口縁はやや外反するものであり、内面には粘土接合痕を残す。401から404・406は頸部で屈曲し、口縁は外反する。401・403は口唇が不明瞭ながら外傾する面を成す。401は外面にタタキのちナデを施す。402は内面にケズリ痕が見られ、器壁は薄く仕上げられる。405・407は頸部に部分的な屈曲と彎曲の共存が認められるものである。胴体部は倒卵気味であり、外面にタタキ目を残す。408は形骸化した二重口縁を呈する。口縁は屈曲部で突帯状に外面に突出する。409は球形指向の胴体から屈曲の後に口縁が直線的に立上がる。内面にはケズリが施される。410から419は屈曲する頸部から口縁は直線的に立上がるものである。胴部は球形または球形指向である。417は最大径がやや下位に移行したフラスコ形を呈する。410は口唇が外傾する面を成し、外側にやや肥厚する。外面の調整は413・419がナデで仕上げられており、他ではタタキ目を残す。タタキのちハケまたはハケ状工具によるナデが施されるものが見られる。420から426は頸部の屈曲から口縁は外反して立上がるものである。外面の調整はナデによるものが多い。胴部は球形または球形指向である。口唇は丸くおさめるものが多いが、424は外傾する面を成す。422・425は外面にタタキ目を残す。400・427・428は頸部の屈曲から口縁は内彎気味に立上がる。胴部形態は球形からやや長胴形であり、内面にケズリ痕を残す。429・431・433は頸部にナデ等が施されて彎曲する。429はナデにより頸部下に弱い段を持つ。434から438は頸部が緩やかに曲り、口縁は直線的に立上がる。胴部は球形である。外面にはタタキ目を残してナデが施される。437は長い口縁を有し、最大径が胴部の下位に移行したものであり、フラスコ形が顕著である。430・432・439から447は緩やかに曲がる頸部から口縁は外反して立上がる。胴部は球形からやや長胴形である。430・432は口縁の外反が緩やかである。432の口唇は外傾する面を成し、440は口唇が概ね直立する丸味を持った面を成す。430と432の外面にはタタキ目が顕著に残されている。439から447は口頸部が連続的に外反すると云った表現が適当であろう。外面の調整はナデかヘラナデで仕上げられており、内面にはケズリが施されるものがある。448から469・474は口縁部の破片であり、屈曲する頸部から口縁は直線的に立上がる。口唇は丸味をもって仕上げるものが多く、調整ではナデまたはヘラナデを用いる。また口唇が面を成す458や459などでは、器面にハケ目が残されている。448は急な屈曲部を持つ。口唇は外傾する面を成し、外側に

やや肥厚する。450と共に弥生後期末のものか。454は口唇が外傾する面を成す。470から473は屈曲する頸部から口縁は内彎気味に立上がるものである。472は搬入品である。屈曲する頸部から口縁は内彎して立ち上がり、やや肥厚する。内面にはケズリを施す。尚、4A区の本層から出土した搬入品と認められる土器は23点であった。475から489は頸部の屈曲から口縁は外反して立上がる。ここでも口唇を丸く仕上げるものの多くが器面をナデによって仕上げられている。477・485は口唇が外傾する面を成し、外側へやや肥厚が認められる。器面にはハケ目が施されており、一部にはタタキ目が残されている。490から499は頸部に屈曲と湾曲の共存が認められるものである。口縁は多くが外反して仕上げられる。調整の多くはナデである。479は直線的に立上がる口縁を持ち、口唇は内傾する面を成す。493は内面にケズリが施される。500から509はナデ等の調整により頸部は彎曲する。501・504・506は口縁が直線的に立上がる。他の口縁は緩く外反して立上がる。505は口唇の外傾する面にヘラ圧痕が認められる。510から535は緩やかに曲がる頸部を有する。519・523から535は口頸部が連続して外反するものである。510から518・520から522は口縁が直線的またはやや外反するものである。口唇は丸く修めるものや丸味を持った面を成すものが多い。518は外傾する面を成す。調整は概ねナデまたはヘラナデで仕上げられており、534では外面にハケ、510・512では外面にタタキのちハケが認められる。内面のケズリは520・530・532・535に認められる。536から544は頸部と胴部である。536から541は屈曲する頸部を持つ。536は球形の胴部と考えられる。外面はタタキのちハケが施される。539は最大径が胴部の下寄りに移行したものであり、内面にケズリを施す。540は長胴形か。内面に粘土接合痕が見られる。545は丸底の底部である。545・547・548は外面がタタキのちハケで仕上げられる。550は球形の胴部に外面はタタキのちナデを施し、内面はナデで仕上げケズリ痕を残している。552はヘラナデによる調整が顕著である。

甕は、頸部の屈曲形態、口縁部形態、胴部形態、調整の各属性によって以下の様に分けられる。

I) 頸部の屈曲形態は、a. 頸部が「く」の字状に屈曲するもの、b. 頸部に屈曲と彎曲が同時に存在するもの、c. 頸部がナデ等により彎曲するもの、d. 頸部が緩やかに曲がるものがある。

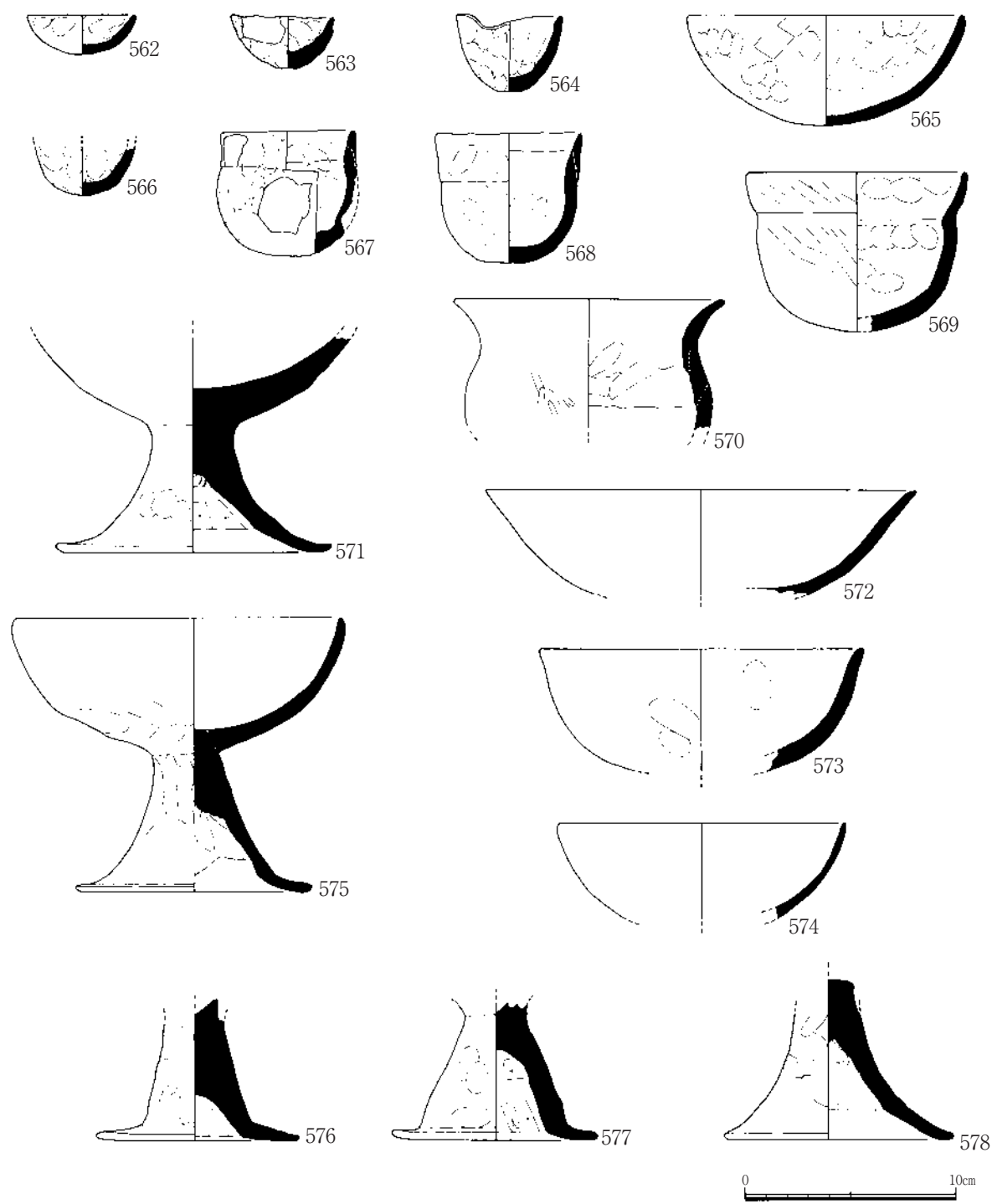
※このうちI bについては破片の場合抽出が困難と考えられ、その場合はI aとI cに加算される。

II) 口縁部形態は、a. 直線的に立上がるもの、b. 外反するもの、c. 内彎するものがある。

III) 胴部形態は、a. 胴部の中位に最大径を持ち下位がやや細くなったもの、フットボール形を呈するもの、b. 球形、または球形指向のもの、c. 胴部中位からやや下位に最大径をもつ、やや長胴形を呈するものである。

IV) 調整・成形痕は、器面（ここでは主に胴体部）に残された調整や成形痕であり、ハケ、タタキ、ナデ、ケズリ²⁾である。ナデを除いてこれらが単独で存在することは稀であり、概ね複合した状況が認められる。a. タタキ+ハケ、b. タタキ+ナデ、c. ハケ+ナデ、d. ケズリ+ナデ、e. ナデである。

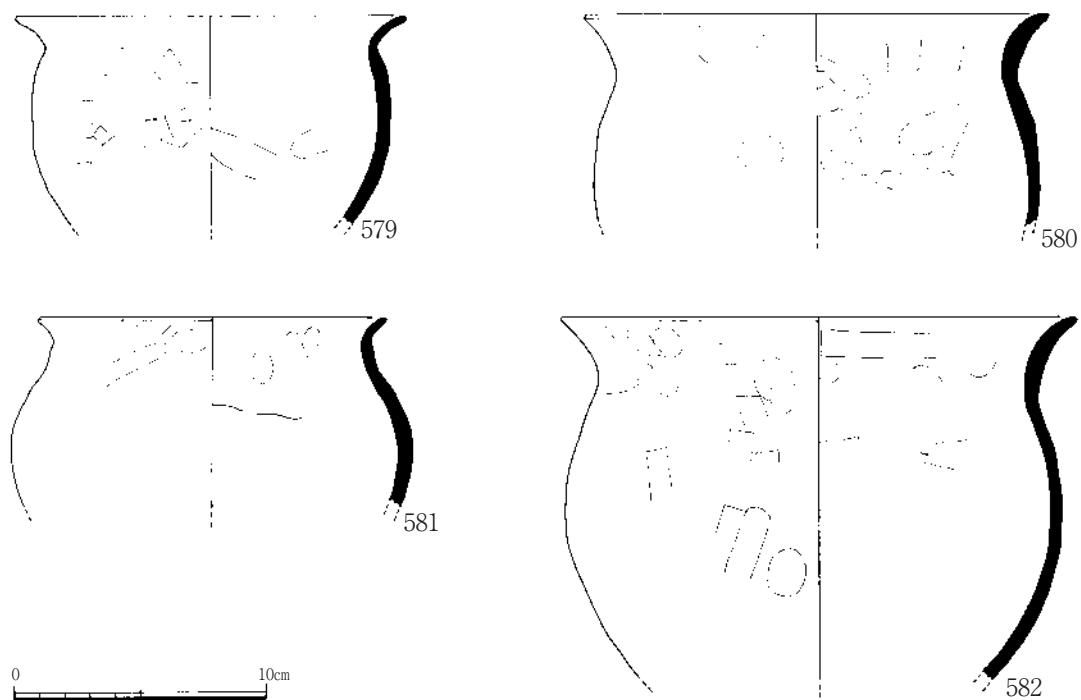
ここでは、III bの属性にはI aやIV a・IV dなどの属性がやや顕著に認められる。また、I dの属



遺物 No.	調整・紋様
562	内面ナデ、押圧痕 外面ヘラナデ
563	内面ナデ、押圧痕 外面押圧痕
564	内面指頭ナデ 外面ナデ、押圧痕
565	内面ヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ナデ
566	内面指頭ナデ 外面ナデ(凹凸面)
567	内面(口)ナデ(胴)指頭ナデ 外面(口)ナデ(胴)ヘラナデ
568	内面指頭ナデ 外面押圧痕
569	内面(口)ヨコナデ(体)ナデ 外面(口)ヘラナデ(体)ヘラナデ
570	内面(口)ナデ(胴)ヘラナデ、接合痕 外面(口)ヨコナデ(胴上)ヨコナデ(胴中)タテヘラミガキ

遺物 No.	調整・紋様
571	内面(坏)ナデ(脚)ケズリのちナデ(裾)ナデ 外面(坏)ナデ(脚)ナデ、押圧痕
572	内面ナデ(滑らかな面) 外面ナデ
573	内面(坏)ナデ 外面(坏)ナデ
574	内面(坏)ナデ 外面(坏)ナデ
575	内面(口)ヨコナデ(坏)丁寧なナデ(脚)ヘラナデ(ケズリ様に砂粒が動く) (裾)ナデ 外面(坏)ヘラナデ(脚)ナデ(裾)ヨコナデ
576	内面(脚)ナデ 外面(脚)ヘラナデ? (ハケ状原体)
577	内面(脚)ケズリのちナデ? (裾)ナデ 外面(脚)ナデ
578	内面(脚)ケズリ(裾)ナデ 外面(脚)ヘラナデ

Fig.67 4 A区出土遺物57 IIIb層 (S : 1/3)



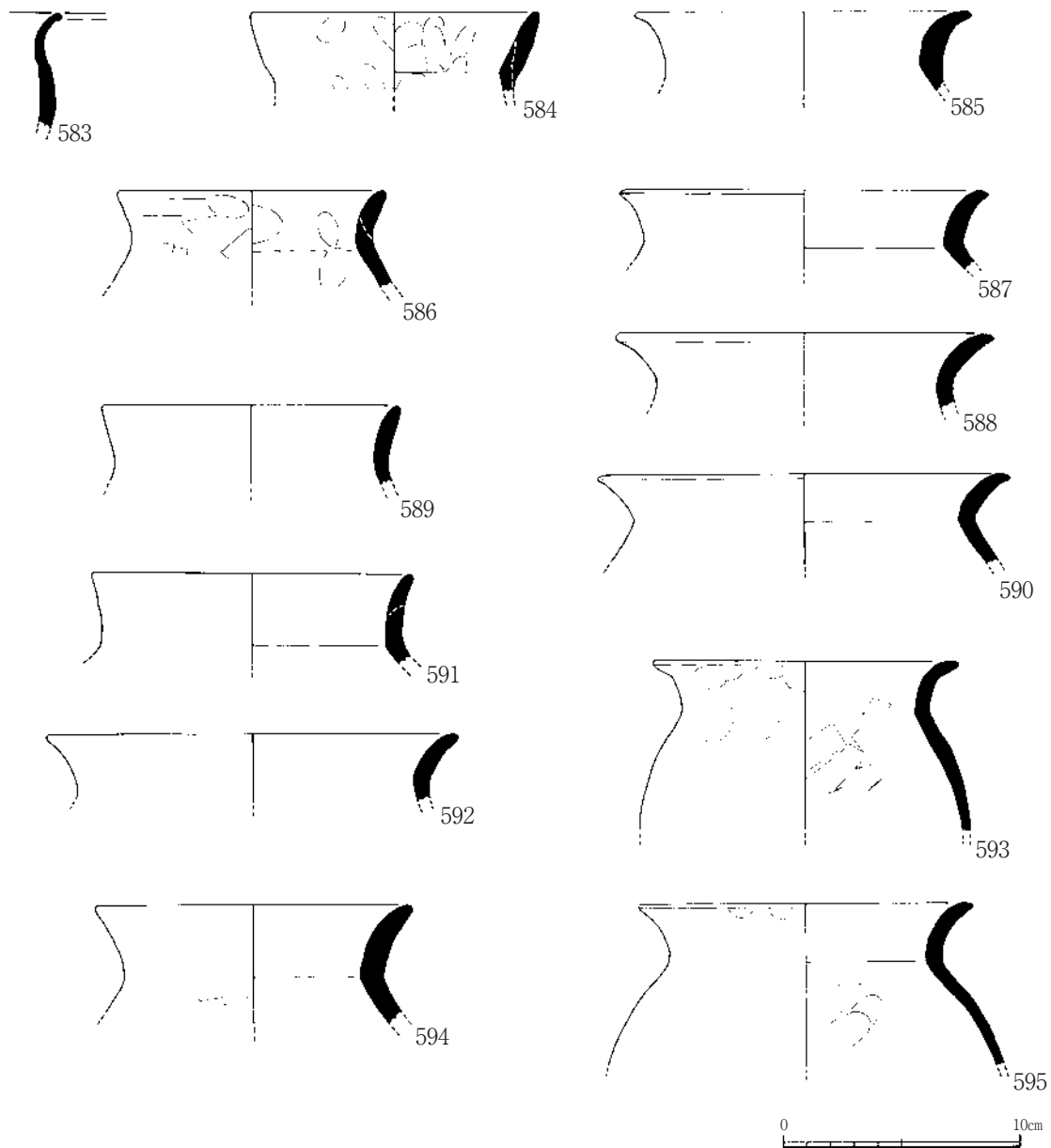
遺物 No	調整・紋様
579	内面 (口) ナデ (胴) ナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) ヘラナデ、凹凸面
580	内面 (口) ヨコナデ (胴) ヘラナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ
581	内面 (口) ナデ (胴) ナデ 外面 (口) ナデ (胴) ナデ? 浅い凹凸面
582	内面 (口) ヨコナデ (胴) ケズリのちナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ

Fig.68 4 A区出土遺物58 IIIb層 (S : 1/3)

性にはIIIcやIVbの属性が顕著である。

注

- 1) 肩のやや張った形態で所謂倒卵形を呈するものは厳密には確認できない。IIIcのやや長胴形とは区別する。
- 2) 出土遺物 (主に甕) 内面には調整でケズリ風に強いナデが施されるものが見られた。器壁を削り取り薄く仕上げる意図が在ったかどうかは疑問であるが、ケズリを意識したものであろう。



遺物 No.	調整・紋様
583	内面 (口) ナデ (胴) ナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ
584	内面 (口) ナデ 外面 (口) ナデ、浅い凹凸面
585	内面 (口) ナデ 外面 (口) ヨコナデ
586	内面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ 外面 (口上) ヨコナデ (口下) ヘラナデ、ヘラ圧痕
587	内面 (口) ナデ (胴) ナデ 外面 (口) ヨコナデ
588	内面 (口) ヨコナデ 外面 (口) ヨコナデ
589	内面 (口) ナデ 外面 (口) ナデ

遺物 No.	調整・紋様
590	内面 (口) ナデ (胴) ナデ 外面 (口) ナデ (頸) ヘラ圧痕
591	内面 (口) ナデ 外面 (口) ナデ
592	内面 (口) ナデ 外面 (口) ナデ
593	内面 (口) ヨコナデ (胴) ケズリのちヘラナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) ヘラナデ、凹凸面
594	内面 (口) ナデ (胴) ケズリのちナデ 外面 (口) ナデ (胴) ナデ
595	内面 (口) ヨコナデ (胴) ケズリのちナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ

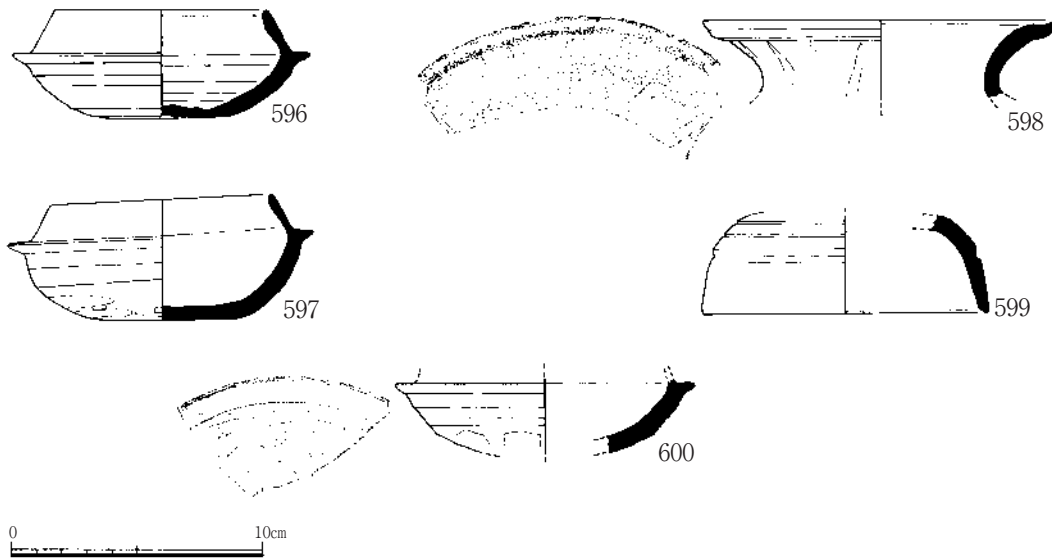
Fig.69 4 A区出土遺物59 IIIb層 (S : 1/3)

須恵器・蓋 (Fig.65)

図示したのは554と555の2点である。554はやや後出するものであろう。555は古墳中期か。

土製品 (Fig.65・66)

556は有溝土錘、557から560は土製の鏡である。561は土製勾玉であり、頭部をやや扁平である。



遺物 No.	調整・紋様
596	内面回転ナデ 外面(口)ナデ(体)回転ナデ、ヘラナデ
597	内面回転ナデ 外面(坏)中位以上回転ナデ、下位ヘラナデ
598	内面(口)回転ナデ 外面(口)回転ナデ、暗文風のミガキ
599	内面ナデ 外面(口)回転ナデ、回転ケズリ、沈線状の段部
600	内面(体)回転ナデ 外面(体)回転ナデ、回転ケズリ(底)ヘラナデ?

Fig.70 4 A区出土遺物60 IIIb層 (S : 1/3)

IIIb層出土土器・土製品 (Fig.67~70)

出土土器・土製品の総点数は、約1,750点である。縄文土器は18点、弥生土器53点、土師器は1,657点、須恵器は3点である。

・土師器

ミニチュア土器 (Fig.67)

562から564と566から568の6点を図示した。562から564は鉢形の製品であり、562は皿、563・564は椀の形態に近いものである。567・568は甕形に相当するものか。

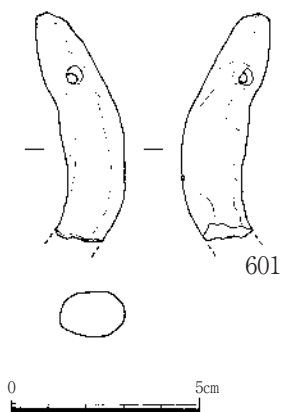


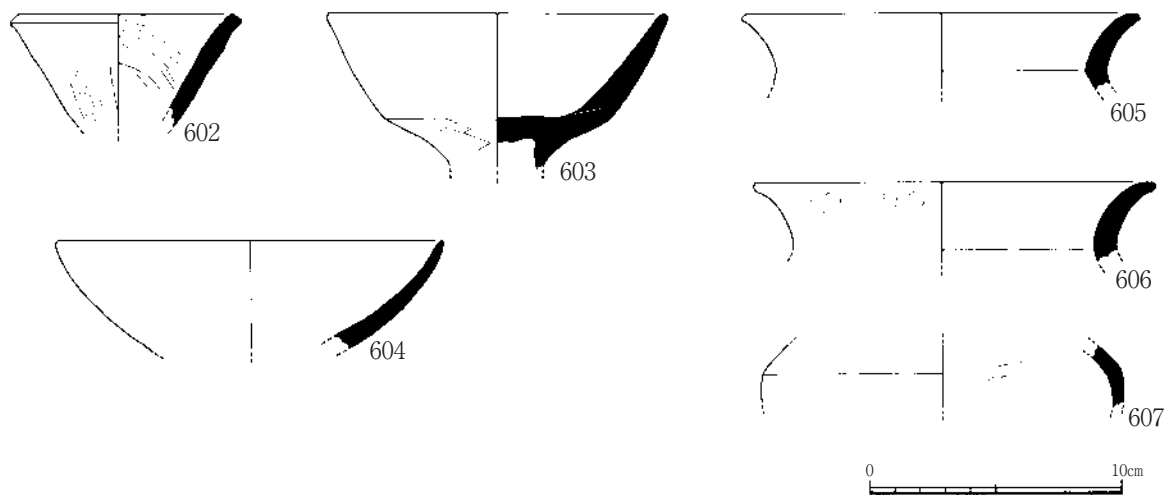
Fig.71 4 A区出土遺物61 IIIb層土製勾玉 (S : 1/2)

鉢 (Fig.67)

565の1点を図示した。器高の低い椀形のものである。

小型丸底土器 (Fig.67)

569と570の2点を図示した。569は開いた口縁が鐙状を成すものであり、鉢形。570は丁寧な仕上げを行う。



遺物 No.	調整・紋様
602	内面(口)粗ハケ 外面(口上)ヘラナデのちヨコナデ(口下)粗ハケ(ナデ?)
603	内面(坏)ヨコナデ、ヘラナデ 外面(坏)ナデ
604	内面(口)ナデ(滑らかに仕上げる) 外面(口)ナデ
605	内面(口)ナデ 外面(口)ヨコナデ
606	内面(口)ヘラナデ 外面(口)押圧痕、ヨコナデ
607	内面(胴)ケズリ 外面(胴)ナデ

Fig.72 4 A区出土遺物62 III層群 (S:1/3)

高坏 (Fig.67)

図示したものは571から578の8点である。572は高坏の口縁であり、直線的に大きく広がる。破断面下部に恐らく屈曲部を持つであろう。573・574は椀形の坏部であり、前者はやや外反し、後者は内彎して立上がる。571・575・578の脚部は裾へ向かって連続的に外反する。571・578に繋がる口縁形態は573・574の椀形の坏部であろう。576・577は裾で屈曲する脚であり、坏部に段または屈曲を有するものに繋がるであろう。

甕 (Fig.68・69)

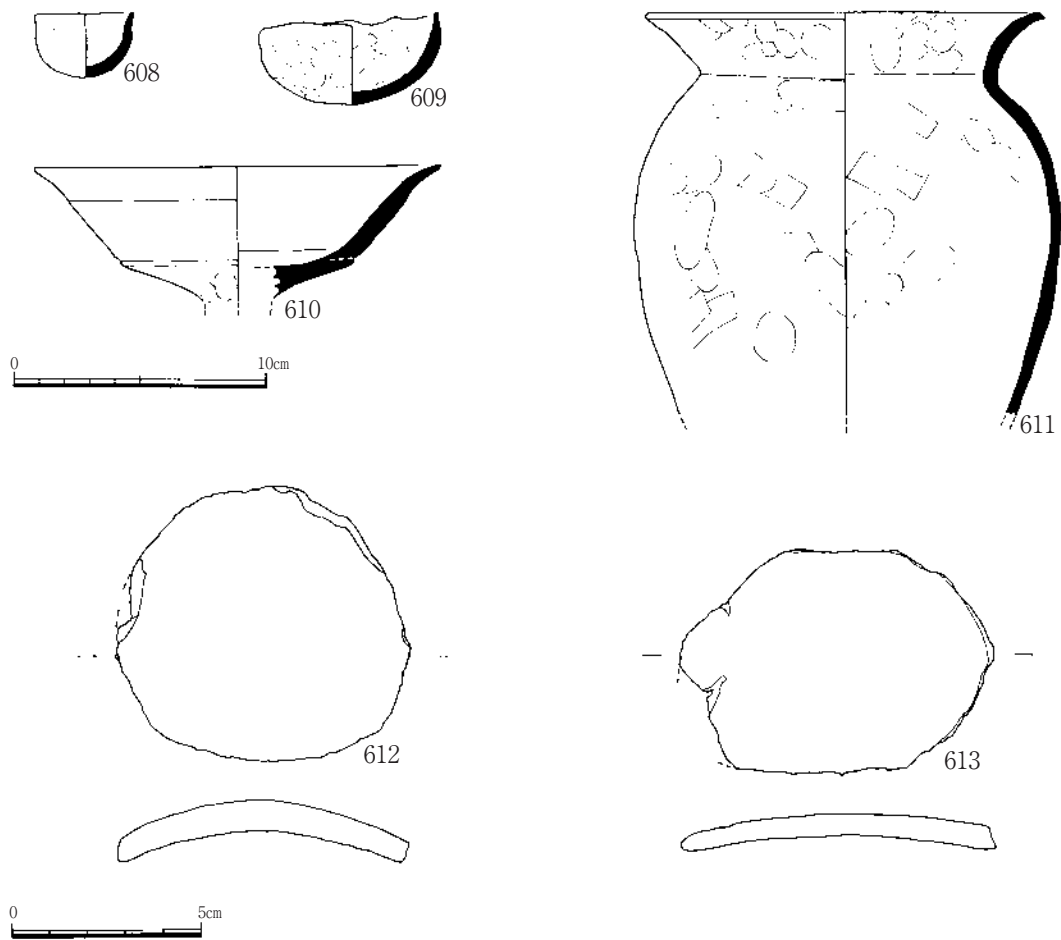
579から595の17点を図示した。579は開いた口縁から鑊付の鉢と区別し難い。頸部はナデにより彎曲し、短く外反する。580から582の口頸部は連続的に外反するものであり、581は内面に接合痕、582は内面にケズリを施す。583から595の頸部は彎曲または緩く曲がるものである。口頸部は連続的に外反し、口唇は丸味を持って修めるものが多い。調整は外面でナデまたはヘラナデを施すものも多く、593・595はケズリ痕が残る。

・須恵器 (Fig.70)

596・597・600は坏身である。古墳中期から後期か。598は壺口縁であり、暗文風のミガキが施される。599は蓋であり、古墳中期か。

・その他の土器・土製品 (Fig.71)

601は土製勾玉である。頭部は細く仕上げ面を成す。



遺物 No	調整・紋様
608	内面指頭ナデ 外面ナデ
609	内面ナデ 外面押圧痕
610	内面(坏)ナデ 外面(坏)ヨコナデ
611	内面(口)ナデ(胴)ナデ 外面(口)ナデ、押圧痕(胴)ナデ、ヘラナデ
612	内面ナデ、ヘラナデ、ヘラ圧痕 外面ナデ、ヘラナデ
613	内面ナデ 外面 ナデ

Fig.73 4 A区出土遺物63 その他の包含層 (S : 1/2, 1/3)

Ⅲ層群出土の土器・土製品 (Fig.72)

出土土器・土製品の総点数は、121点である。縄文土器7点、弥生土器16点、土師器98点である。

602は鉢と考えられる。椀形であり、直線的な口縁部と外傾する面を持ち、口唇は外側に肥厚する。603・604は高坏の坏部である。603は坏部に屈曲を有し、口縁は直線的に立上がる。605から607は甕と考えられる。605・606は口頸部が連続的に外反する。

他包含層出土の土器・土製品 (Fig.73)

I層出土とした土器・土製品の総数は、129点である。縄文土器1点、弥生土器5点、土師器120点が出土している。

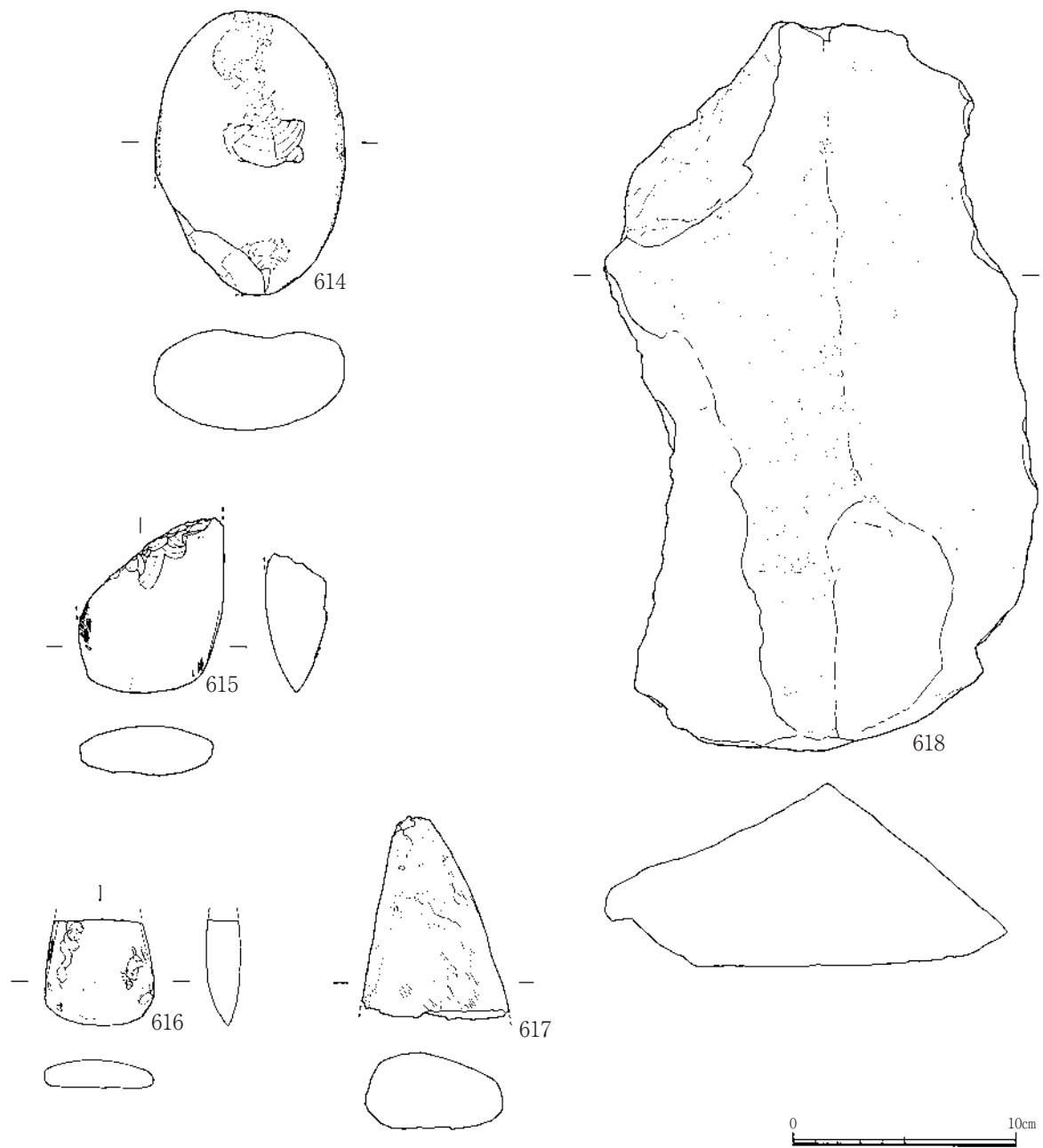


Fig.74 4 A区出土遺物64 IIIe層・IIIc層 (S : 1/3)

608は鉢形のミニチュア土器である。609は鉢であり、手捏ね成形による。610は坏部に段を有する高坏であり、口縁は外反する。611は頸部に屈曲と彎曲する部分が存在する個体であり、口縁は外反して立上がる。612・613は土器転用の円盤である。

II層出土とした土器・土製品の総数は、7点である。弥生土器1点、土師器6点が出土している。

②石器・石製品

IIIe層出土石器・石製品 (Fig.74)

出土の石器・石製品のうち図示したのは、614の叩石と618の敲打痕跡を多く留める台石である。



Fig.75 4 A区出土遺物65 III層 (S : 1/2, 1/3)

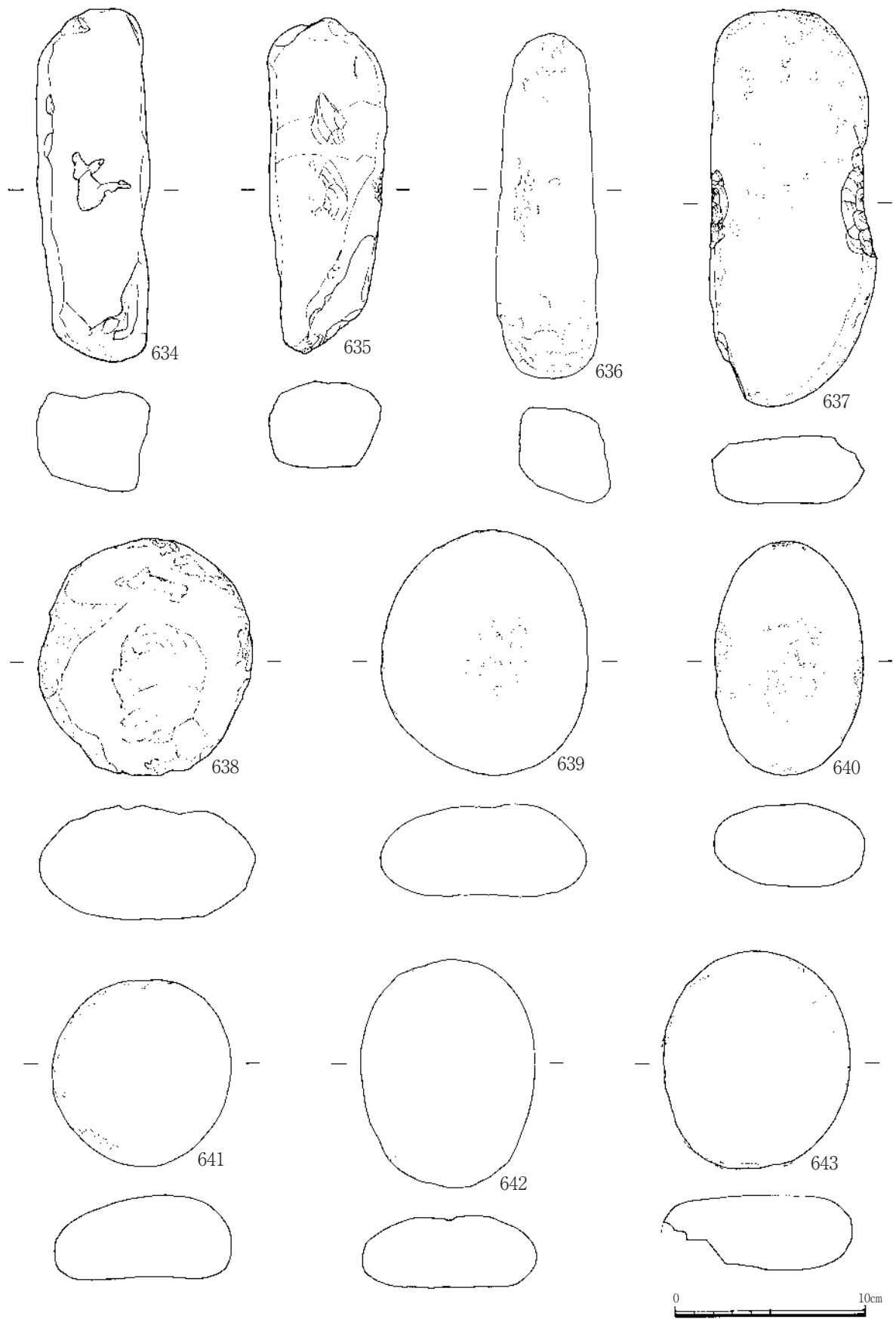


Fig.76 4 A区出土遺物66 III d層 (S : 1/3)

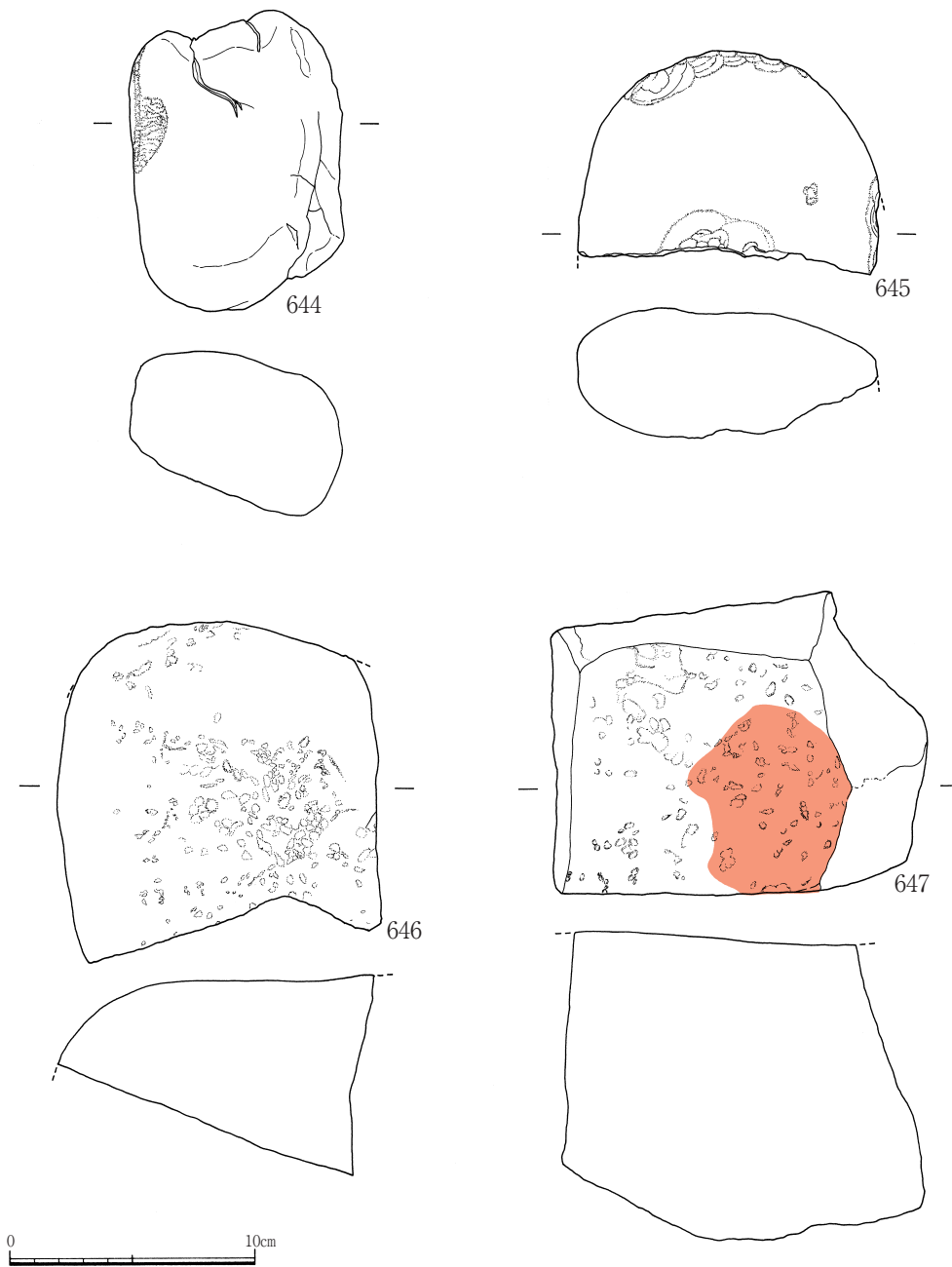


Fig.77 4 A区出土遺物67 Ⅲd層 (S : 1/3)

その他チャート剥片が出土している。

Ⅲc層出土石器・石製品 (Fig.74)

出土の石器・石製品のうち図示したのは、615から617の石斧である。615は両刃で成形されており、616は片刃による。617は基部である。

Ⅲd層群出土石器・石製品 (Fig.75~78)

出土した石器・石製品のうち図示したのは、619から649の41点である。619は無茎石鏃である。620は有孔円盤である。中央に2孔を穿つ。621から623は石斧であり、621は両刃の刃部、622は



Fig.78 4 A区出土遺物68 Ⅲd層 (S : 1/3)

片刃? 623は基部である。624から626は砥石であり、624は断面多角形を呈す。627はチャート質の円礫を用いた磨石である。628から645は叩石である。628・630・634から636は結晶片岩製である。646から649は台石と考えられる。

Ⅲb層出土石器・石製品 (Fig.79)

出土した石器・石製品のうち図示したのは、650と651の叩石2点である。

③木器・木製品

Ⅲd層群出土の木器・木製品 (Fig.80・81)

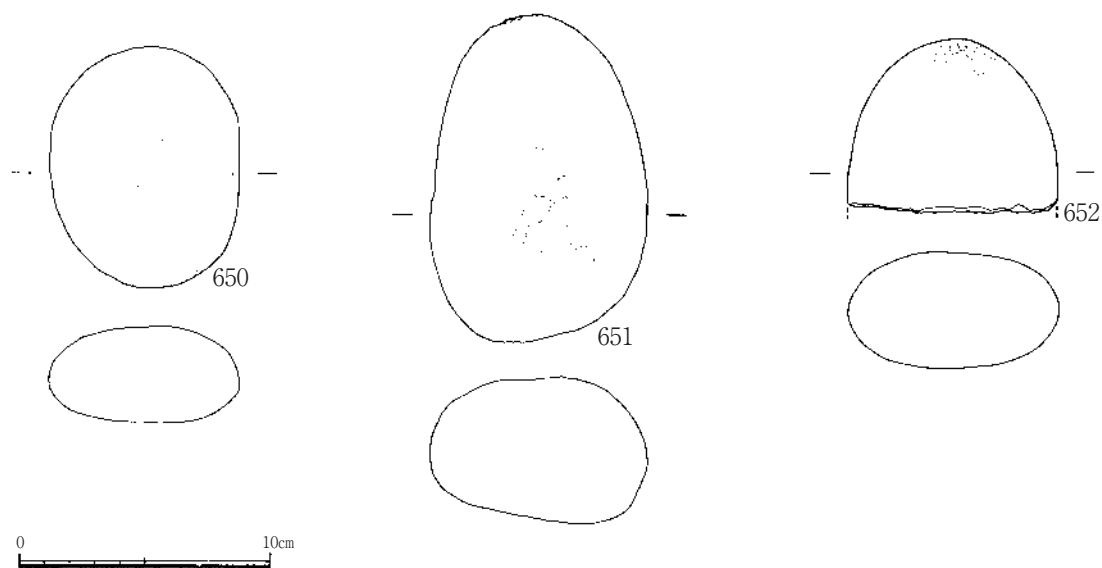


Fig.79 4 A区出土遺物69 III層群 (S : 1/3)

653は用途不明である。丁寧な加工を施しており、祭祀具か。654は部材である。軸端部は方形に加工される。655はナスビ形木製品である。二股を中位で繋ぐ。657は有孔円盤である。658はヒキリ臼である。片側辺を両面から用いる。660は横錠の柄か。661は注口部分と考えられる。

IIIb層群及びその他の包含層出土の木器・木製品 (Fig.82・83)

664は櫛である。667は部材である。軸端部を扁平に加工する。668は舟形木製品である。

④自然遺物・その他

III e層からは堅果類が出土している。III d-2層からは桃核、ヒシの実が出土している。III d層からは獣骨が出土している。

参考文献

- 『船戸遺跡』 財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター 1996年
- 『居徳遺跡群Ⅰ』 財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター 2001年
- 『居徳遺跡群Ⅲ』 財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター 2002年
- 『居徳遺跡群Ⅳ』 財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター 2003年
- 『仁ノ遺跡』 春野町教育委員会 2003年
- 『後川・中筋川埋蔵文化財発掘調査報告書』 財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター 1992年
- 『具同中山遺跡群Ⅳ』 財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター 2001年
- 『小籠遺跡Ⅱ』 財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター 1996年
- 『中間西井坪遺跡Ⅱ』 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター 1999年
- 『長瀬高浜遺跡Ⅶ』 財団法人鳥取県教育文化財団 1997年

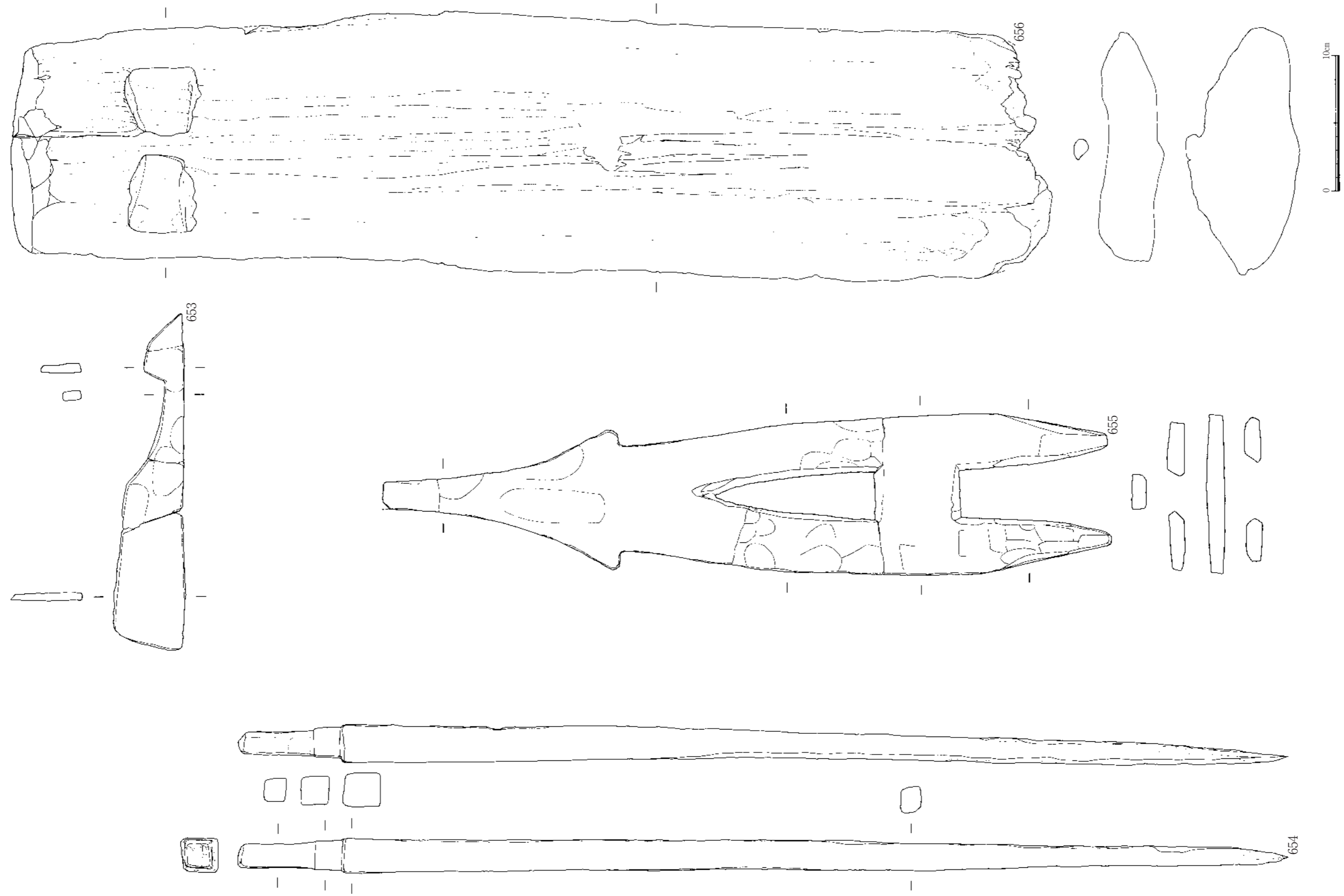


Fig.80 4A区出土遺物70 Ⅲd層 (S:1/3)

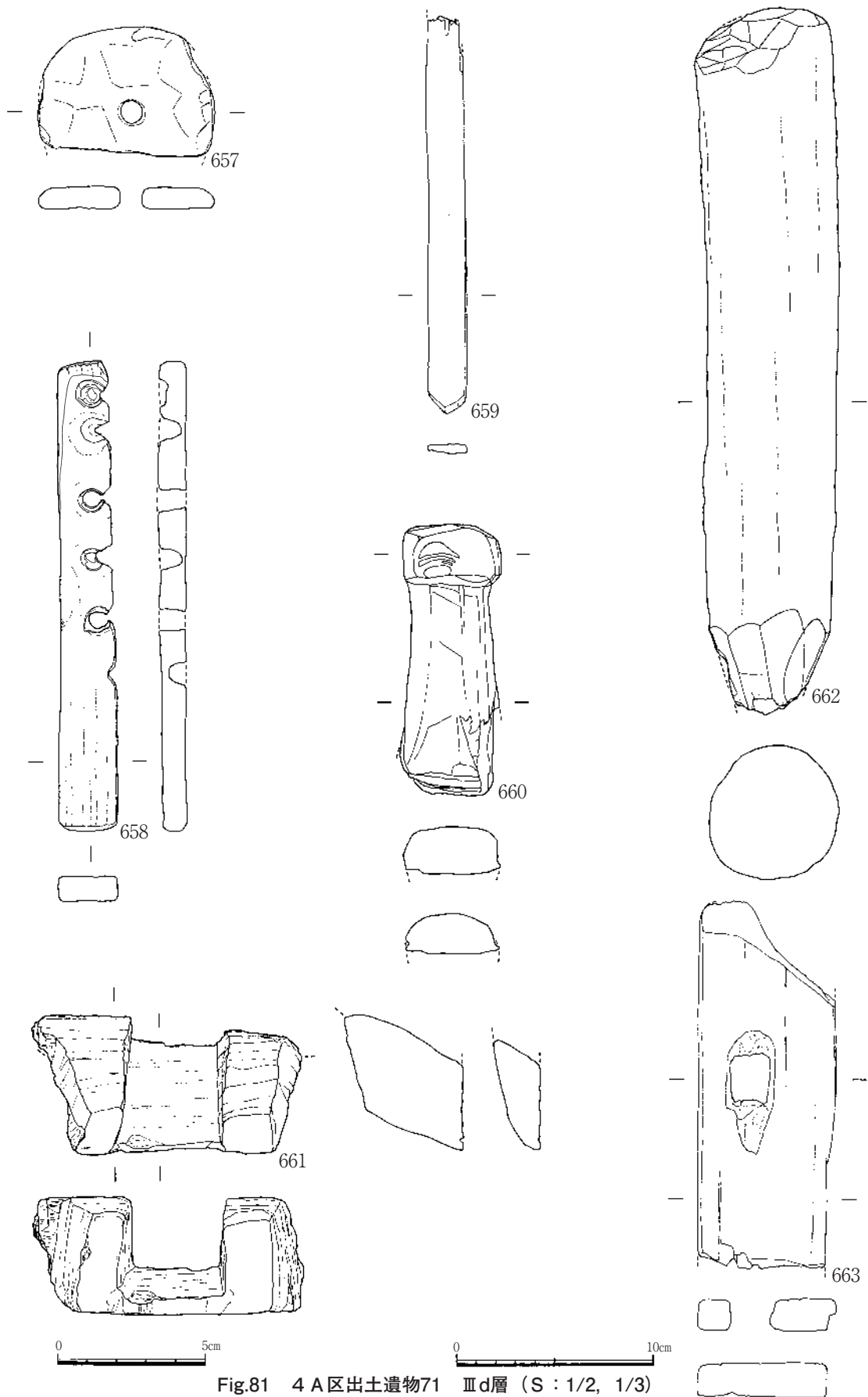


Fig.81 4 A区出土遺物71 III d層 (S : 1/2, 1/3)

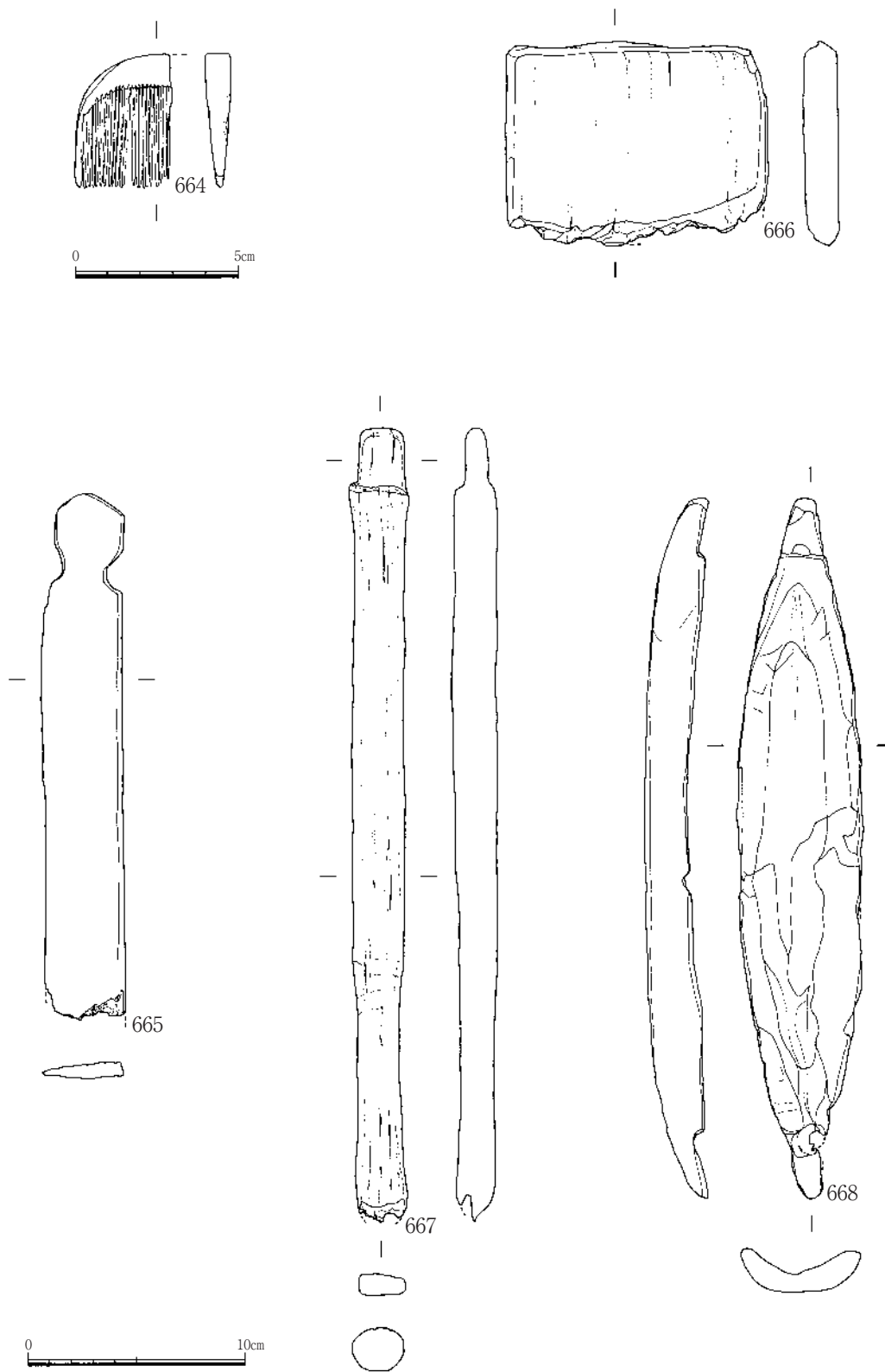


Fig.82 4 A区出土遺物72 Ⅲb層・Ⅲ層群 (S : 1/2, 1/3)

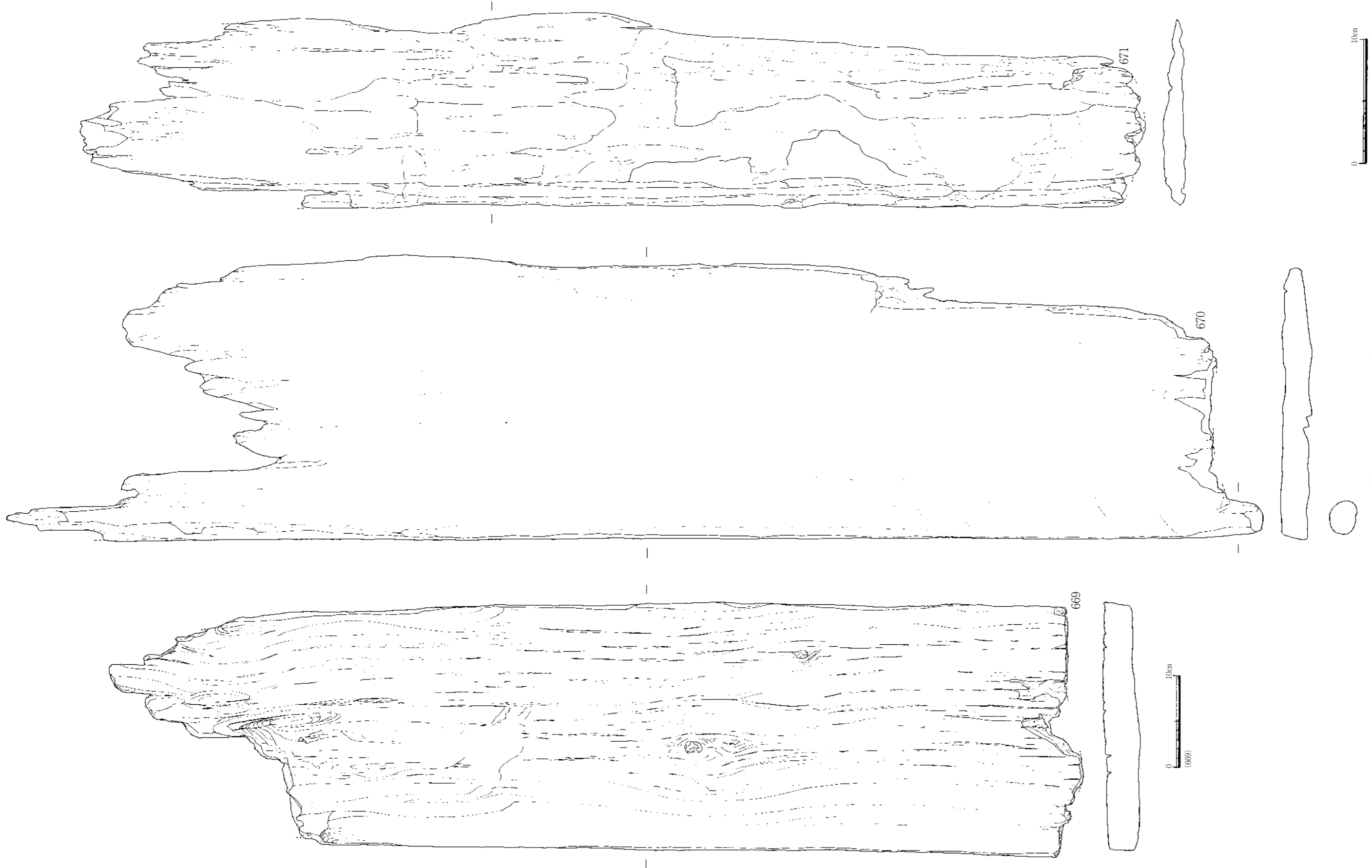


Fig.83 4 A 区出土遺物73 Ⅱb層・Ⅱ層群 (S : 1/3, 1/4)

表3 4A区遺物観察表1

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 グリッド	器種 層	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
11	1	SK1 /L6-13	弥生土器	甕	底	—	〈3.6〉	—	8.5	平底。	にぶい黄橙 10YR7/3	橙 5YR6/6	灰 N4/	
12	2	K7-13	IIIe	縄文土器	浅鉢	33.5	〈7.0〉	—	—	口縁は内彎気味に外斜上方に立ち上がる。口唇は丸味を持った外傾する面を成す。内外面部分的に煤附着。	にぶい黄 2.5Y6/3	浅黄橙 7.5YR8/4	黄灰 2.5Y5/1	
12	3	K7-19	IIIe	縄文土器	深鉢	口縁	—	〈2.6〉	—	口縁は緩く外反して上方に立ち上がる。口唇は狭く平らな面を成し外側に肥厚する。口縁下断面三角形刻目突帯貼付。刻みは押圧による。内面口縁下に煤附着。	灰褐 7.5YR5/2	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 5Y4/1	
12	4	K7-20	IIIe	縄文土器	深鉢	口縁	—	〈2.9〉	—	口縁は緩く外反して内上方乃至上方に立ち上がる。口唇は平らな面を成す。外面口縁に薄く煤附着。	にぶい橙 7.5YR6/4	灰黄褐 10YR4/2	灰黄褐 10YR4/2	
12	5	K7-20	IIIe	縄文土器	深鉢	口縁	—	〈2.7〉	—	口縁はやや外反して外上方乃至上方に立ち上がる。口唇は面を成す。外面口縁に薄く煤附着。	灰黄 2.5Y7/2	灰黄灰 10YR5/2	灰白 10YR7/1	
12	6	K7-9	IIIe	縄文土器	深鉢	口縁	—	〈4.8〉	—	口縁は直線的に外斜上方に立ち上がる。口唇は平らな面を成し面上を斜位に刻む。	黄灰 2.5Y5/1	にぶい褐 7.5YR5/3	灰 N5/	
12	7	K7-9	IIIe	縄文土器	深鉢	口縁	—	〈6.3〉	—	口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。外面口縁一部に煤附着。	にぶい赤褐 5YR5/4	灰黄褐 10YR4/2	灰 N6/	
12	8	K7-7	IIIe	縄文土器	深鉢	口縁	—	4.1	—	口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は外傾する丸味を持った面を成す。	浅黄橙 10YR8/3	灰白 10YR8/2	灰 N5/	
12	9	K7-7	IIIe	縄文土器	深鉢	口縁	—	〈6.8〉	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。	褐灰 7.5YR4/1	褐灰 7.5YR5/1	灰 5Y6/1	
12	10	K7-9	IIIe	縄文土器	深鉢	口縁	—	〈5.3〉	—	口縁は直線的に上方乃至外上方に立ち上がる。口縁は丸く修める。外面口縁部分的に煤附着。	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 7.5Y4/1	
12	11	K7-14	IIIe	縄文土器	浅鉢?	胴	—	〈8.1〉	—	内面胴部と外面に煤附着。	にぶい赤褐 5YR4/4	黒 10YR2/1	黒褐 10YR3/1	
12	12	K7-20	IIIe	弥生土器	壺	胴	—	〈6.4〉	—	一部煤附着。	にぶい橙 10YR6/3	褐 7.5YR4/3	黄灰 2.5Y4/1	
12	13	K7-24	IIIe	縄文土器	深鉢	底部	—	〈1.6〉	6.1	平底。	褐灰 10YR6/1	灰黄褐 10YR6/2	灰白 2.5Y7/1	
13	14	K7-9	IIIe	縄文土器	深鉢	口縁	31.2	〈25.1〉	32.6	口縁は内彎して内上方に立ち上がる。口唇は太く丸く修め一部では丸味を持った面を成す。胴部は緩やかに内彎する。外面体部中位以上に煤附着。	明褐 7.5YR5/6	黄褐 2.5Y5/3	灰白 10YR7/1	
14	15	K7-9	IIIe	縄文土器	深鉢	口縁	30.4	〈5.7〉	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は太く丸く修める。外面口縁部分的に煤附着。	にぶい黄 2.5Y6/4	灰黄褐 10YR6/2	灰 10YR6/1	
14	16	K7-9	IIIe	縄文土器	深鉢	胴	—	〈14.9〉	31.2	内面体部上位以上一部と外面体部中位以上部分的に煤附着。	にぶい褐 7.5YR5/4	灰黄褐 10YR5/2	灰 7.5Y6/1	
14	17	K7-8・9	IIIc・IIIe	縄文土器	深鉢	体	—	〈7.3〉	—	外面体一部に煤附着。	橙 7.5YR6/6	灰黄褐 10YR5/2	灰白 5Y7/1	
14	18	K7-20	IIIe	縄文土器	深鉢	体	—	〈6.4〉	—	外面体一部に煤附着。	橙 5YR7/6	にぶい橙 7.5YR6/4	灰黄褐 10YR6/2	
14	19	K7-24	IIIe	縄文土器	深鉢	体	—	〈5.6〉	—		黒 5Y5/1	にぶい橙 7.5YR6/4	灰白 N7/	
15	20	K7-5	IIIc	弥生土器	壺	口縁	13.0	〈5.2〉	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。波状口縁。口唇は外傾する面を成し内側にやや肥厚する。	黄灰 2.5Y6/1	にぶい黄 2.5Y6/3	灰 N5/	弥生後期土器?
15	21	K7-4	IIIc	弥生土器	壺	口縁	—	〈2.5〉	—	口縁は外反して外上方に立ち上がる。口唇は外傾する面を成し外側に肥厚する。	褐灰 10YR6/1	灰黄褐 10YR6/2	灰 N4/	
15	22	K7-14	IIIc	弥生土器	鉢	口縁	—	〈2.3〉	—	口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は外傾する丸味を持った面を成す。内面口縁に煤附着。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR7/4	浅黄 2.5Y7/3	

表4 4A区遺物観察表2

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 Na	出土地点 グリッド	器種 層	器形 部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考	
					口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土		
15	23	K7-19	Ⅲc	弥生土器 甕	底	—	〈1.5〉	—	6.2	平底。	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/3	暗灰 N3/	弥生後期末
15	24	K7-15	Ⅲc	弥生土器 壺	底	—	〈2.9〉	—	11.0	広い平底。周縁を浅い溝が廻る。	にぶい黄橙 10YR6/3	暗灰黄 2.5Y5/2	灰黄 2.5Y6/2	
15	25	K7-19	Ⅲc	弥生土器 鉢?	口縁	—	〈3.7〉	—	—	口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は太く丸く修める。	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/2	灰 5Y5/1	弥生前期土器?
16	26	L6-17	Ⅲd	土師器 高坏		14.6	13.5	14.8	10.6	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。坏下位接合部で屈曲する。脚は緩く広がり屈曲後裾で開く。端は尖り気味に丸く修める。	にぶい黄褐 10YR5/4	橙 5YR6/6	橙 5YR7/6	
16	27	L6-12	Ⅲd	土師器 高坏		14.0	13.7	14.3	9.6	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。坏下位接合部で段を成す。脚は緩く広がり裾で短く開く。端は丸く修める。外面脚に煤付着。	明赤褐 5YR5/6	明褐 7.5YR5/6	灰 N5/	
16	28	L6-17	Ⅲd	土師器 高坏		14.8	12.1	15.0	9.2	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。坏下位接合部で弱い段を成す。脚は緩く広がり裾で開く。	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい橙 5YR6/4	灰 N5/	
16	29	L6-17	Ⅲd	土師器 高坏		14.6	13.6	14.8	9.6	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は外傾する面を成す。坏下位で屈曲する。脚は極弱く広がり裾では外反する。	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	灰 N5/	
16	30	L6-18・22	Ⅲd	土師器 高坏		14.3	13.4	14.7	10.0	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸味を持った面を成す。坏下位接合部で段。脚は緩く広がり裾で大きく開く。端は丸く修める。胎土中に砂粒、小礫を多く含む。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい褐 7.5YR5/4	浅黄橙 7.5YR8/4	
16	31	L6-22	Ⅲd	土師器 高坏		15.3	14.8	—	〈10.7〉	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。坏下位で屈曲する。脚は緩く広がり裾で外反する。端は丸く修める。内面坏底部に煤付着。	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	灰 10Y5/1	
16	32	L6-22	Ⅲd	土師器 高坏		13.0	13.4	13.3	10.7	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は概ね丸く修め部分的に面を成す。脚は緩く広がり屈曲後開く。端は丸く修める。胎土中に小礫を含む。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい赤褐 5YR5/4	灰黄 2.5Y6/2	
16	33	L6-17・18	Ⅲd	土師器 高坏		11.5	〈10.3〉	11.7	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。坏下位接合部で屈曲する。脚は緩く広がる。外面体部中位で一部剥離。胎土中に細砂、石英、赤色チャートを含む。	にぶい橙 5YR6/4	にぶい橙 5YR6/3	黒 10Y2/1	
16	34	L6-13・L7-2	Ⅲd	土師器 高坏		15.0	11.0	15.3	10.0	口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。脚は緩く広がり屈曲後内彎して開く。裾端は丸く修める。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 5YR6/4	灰 N4/	
16	35	L6-7	Ⅲd	土師器 高坏		17.2	11.8	17.5	11.6	口縁は外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。脚は緩やかに広がる。精製胎土で細砂を少量含む。	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	
16	36	L6-22	Ⅲd	土師器 高坏		15.1	12.8	15.4	11.1	口縁は外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。坏下位接合部で段を成す。脚は連続的に外反する。端は丸く修める。	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/2	
17	37	L6-13	Ⅲd	土師器 高坏		19.0	13.3	19.2	10.5	口縁は外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。坏下位接合部で段を成す。脚は極弱く広がり裾では外反する。端は丸く修める。胎土に小礫、細砂を少量含む。	にぶい橙 7.5YR7/4	浅黄橙 2.5Y7/3	灰白 5Y8/1	
17	38	L6-22	Ⅲd	土師器 高坏		19.9	13.3	20.2	12.5	口縁は外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。坏下位接合部で弱い段を成す。脚は緩く広がり屈曲後直線的に開く。胎土精緻。	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 5YR6/4	灰 N6/	
17	39	L6-13	Ⅲd	土師器 高坏		18.0	12.2	18.4	10.7	口縁は外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は丸く修め部分的に浅く窪む。坏下位接合部で屈曲する。脚は外反する。端は尖り気味に丸く修める。胎土精緻。	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/3	淡黄 2.5Y8/3	
17	40	L6-12	Ⅲd	土師器 高坏		17.0	11.8	17.2	10.2	口縁は緩く外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。坏下位接合部で段を成す。脚は緩く広がり屈曲後直線的に開く。胎土精緻。	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	灰白 2.5GY8/1	
17	41	L7-1	Ⅲb・Ⅲd-2	土師器 高坏		14.3	〈11.7〉	—	—	口縁は内彎して上方に立ち上がる。口唇は細く丸味を持って修める。脚は緩やかに外反して広がる。胎土中に細砂、砂粒を少量含む。精緻。	橙 7.5YR7/6	橙 5YR7/6	灰 7.5Y4/1	
17	42	L6-7	Ⅲd・Ⅲ	土師器 高坏		15.7	12.4	16.0	11.7	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は概ね丸く修め一部では面を成す。脚は外反する。端は尖り気味に修める。細砂を含んだ精緻な胎土。	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	暗灰 N3/	

表5 4A区遺物観察表3

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 グリッド	層	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
							口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
17	43	L6-7	Ⅲd	土師器	高坏	—	(10.6)	—	10.7	脚は大きく広がり裾で短く開く。胎土中に細砂を含む。	にぶい黄橙 10YR7/4	灰黄褐 10YR6/2	灰 7.5Y6/1		
17	44	L6-21	Ⅲd	土師器	高坏	—	(9.9)	—	12.1	坏部は内彎して外上方へ立ち上がる。脚は緩く広がり後外反する。端は尖り気味に丸く修める。胎土中に細砂を含む。精緻。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	灰白 10YR8/2		
17	45	L6-22	Ⅲb・Ⅲd	土師器	高坏	—	(12.4)	—	—	口縁は直線的に外上方に向かう？脚は外反する。外面にスリップを塗布？	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	黒褐 2.5Y3/1		
17	46	L6-7・17	Ⅲd	土師器	高坏	—	(10.7)	—	—	脚は外反する。	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	オリーブ黒 5Y3/1		
18	47	L6-22	Ⅲd	土師器	高坏 坏	13.6	(7.2)	13.8	—	口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。坏下位接合部で段を成す。胎土中に砂粒、石英粒、小礫を多く含む。	にぶい黄橙 10YR6/3	橙 7.5YR6/6	灰 5Y4/1		
18	48	L6-17	Ⅲd	土師器	高坏 坏	11.7	(5.3)	—	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。坏下位接合部で屈曲する。胎土中に砂粒、石英粒、小礫を含む。	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄橙 10YR6/3		
18	49	L7-11	Ⅲd-2	土師器	高坏 坏	16.1	(7.5)	16.3	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。坏下位接合部で屈曲する。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	灰 N5/		
18	50	L6-7	Ⅲd	土師器	高坏？ 坏？	17.6	(3.9)	—	—	口縁は内彎気味に外斜上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	黄灰 2.5Y5/1		
18	51	L7-12	Ⅲd-2	土師器	高坏 坏	14.8	(6.6)	15.0	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は平らな面を成す。坏下位接合部で屈曲する。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 5Y4/1		
18	52	L6-13	Ⅲd	土師器	高坏 坏	15.8	(5.8)	—	—	口縁は内彎気味に外斜上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。坏部下位に段を有する。内面坏部部分的と外面口縁一部に煤付着。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい橙 7.5YR6/4	暗灰 N3/		
18	53	L7-1・2	Ⅲd	土師器	高坏 坏	14.8	(5.6)	15.0	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。坏下位接合部で弱く曲がる。胎土中に砂粒、石英粒を含む。	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/3	暗灰 N3/		
18	54	L7-1	Ⅲd	土師器	高坏 坏	16.0	4.7	—	—	口縁は直線的に外斜上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。坏部で屈曲する。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 5Y5/1		
18	55	L7-1	Ⅲd	土師器	高坏 坏	13.8	(6.0)	14.0	—	口縁は直線的乃至やや外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。坏下位に接合による段。	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 7.5Y6/1		
18	56	L6-22	Ⅲd・Ⅲd-2・Ⅲd-3	土師器	高坏 坏	17.1	(6.7)	17.2	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。坏下位接合部に沈線状段部。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 10Y5/1		
18	57	L6-13	Ⅲd	土師器	高坏 坏	15.4	(6.2)	15.6	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める又は丸味を持った面を成す。坏接合部で屈曲する。胎土中に砂粒をやや多く含む。	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	灰 7.5Y4/1		
18	58	L6-18	Ⅲd	土師器	高坏 坏	15.6	(4.4)	—	—	口縁は緩く外反し外斜上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/3	灰 N5/		
18	59	L6-13	Ⅲd	土師器	高坏 坏	18.9	(7.1)	19.2	—	口縁は外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。坏下位接合部で段を成す。胎土に細砂を含む。精緻。	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 7.5YR6/4		
18	60	L6-13	Ⅲd	土師器	高坏 坏	14.7	(5.5)	14.7	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。坏下位接合部で段を成し屈曲する。精製胎土。	橙 5YR6/6	にぶい橙 7.5YR7/4	浅黄橙 10YR8/3		
18	61	L6-13	Ⅲd	土師器	高坏 坏	16.4	(5.6)	16.6	—	口縁は緩く外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。坏下位接合部で段を成し屈曲する。胎土中に砂粒、小礫を少量含む。精緻。	にぶい黄橙 10YR7/3	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3		
18	62	L5-22	Ⅲd	土師器	高坏 坏	16.6	(5.6)	—	—	口縁は緩く外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。	橙 5YR6/8	橙 5YR6/6	灰 10Y6/1		
18	63	L6-22	Ⅲb・Ⅲd	土師器	高坏 坏	19.0	(5.4)	19.3	—	口縁は緩く内彎して外斜上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。胎土中に砂粒、石英粒を少量含む。	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	淡黄 2.5Y8/3		
18	64	L6-22	Ⅲd	土師器	高坏 坏	18.1	(5.9)	18.5	—	口縁は外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は丸味を持った面を成す。胎土中に細砂、砂粒を極少量含む。	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/3	灰 N4/		

表6 4 A区遺物観察表4

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 グリッド	層	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
							口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
19	65	L6-13	Ⅲd	土師器	高坏	坏	15.9	(5.5)	16.0	—	口縁は外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。	にぶい黄褐 10YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	褐灰 10YR5/1	
19	66	L6-21	Ⅲd	土師器	高坏	坏	15.1	(6.1)	15.2	—	口縁は短く外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。胎土中に砂粒を少量含む。精緻。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	黄灰 2.5Y4/1	
19	67	L7-1	Ⅲd-2	土師器	高坏	坏	13.6	(5.4)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。外面坏部部分的に煤附着。	灰黄褐 10YR5/2	にぶい橙 7.5YR6/4	黄灰 2.5Y4/1	
19	68	L6-22	Ⅲd	土師器	高坏	坏	14.5	(5.4)	—	—	口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。坏部下位に屈曲部。外面に煤附着。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい褐 7.5YR6/3	灰 5Y5/1	
19	69	L6-17・18	Ⅲd・Ⅲd-3	土師器	高坏	坏	14.5	(5.3)	14.8	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。	にぶい赤褐 5YR5/4	にぶい橙 5YR6/3	灰 5Y6/1	
19	70	L6-18	Ⅲd	土師器	高坏	坏	14.5	4.6	—	—	口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/7	黄灰 2.5Y5/1	
19	71	L6-7	Ⅲd	土師器	高坏	坏	12.3	(4.6)	—	—	口縁は内彎して上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。	明褐 7.5YR5/6	にぶい橙 7.5YR6/4	灰黄 2.5Y7/2	
19	72	L6-12	Ⅲd	土師器	高坏	坏	14.9	(6.3)	—	—	浅い碗形の坏部。口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい褐 7.5YR6/3	灰黄 2.5Y7/2	
19	73	L6-17・22	Ⅲd	土師器	高坏	坏	18.3	(7.4)	—	—	口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。	橙 7.5YR7/6	浅黄橙 7.5YR8/4	灰 10Y6/1	
19	74	L6-17	Ⅲd	土師器	高坏	坏	15.4	(5.3)	—	—	口縁は内彎する。口唇は丸く修める。内面一部に煤附着。胎土精練。軟質。	橙 5YR6/6	橙 2.5YR6/8	橙 7.5YR7/6	
19	75	L6-17	Ⅲd	土師器	高坏	坏	14.4	(5.4)	—	—	口縁は内彎して外上方乃至上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。精製胎土。	橙 5YR6/8	橙 7.5YR7/6	淡黄 2.5Y8/3	
19	76	L6-13・18	Ⅲd	土師器	高坏	坏	16.8	(5.6)	16.9	—	口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は尖り気味に丸く修める。胎土中に細砂、石英粒を含む。精緻。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR6/4	褐灰 10YR4/1	
19	77	L7-1	Ⅲd	土師器	高坏?		12.6	(3.3)	—	6.5	口縁は内彎して内上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。内外面一部に煤附着。	にぶい褐 7.5YR6/3	黄灰 2.5Y5/1	灰 N5/	
19	78	L7-2	Ⅲd	土師器	高坏	坏	11.8	(3.4)	—	—	口縁は内彎して内上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。	橙 7.5YR7/6	橙 5YR7/6	灰 7.5Y6/1	
19	79	L6-7	Ⅲd	土師器	高坏	坏	15.8	(3.6)	—	—	口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 5YR6/6	にぶい橙 7.5YR7/4	
19	80	L6-17	Ⅲd	土師器	高坏	坏	15.6	(3.4)	—	—	口縁は内彎して上方に立ち上がる。口唇は丸く修め一部では内傾する丸味を持った面を成す。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	暗青灰 10BG4/1	
19	81	L6-17	Ⅲd	土師器	高坏	坏	—	(3.2)	—	—	口縁は内彎して上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。	橙 5YR7/8	橙 5YR6/6	橙 5YR7/6	
20	82	L6-17	Ⅲd	土師器	高坏	脚	—	(8.1)	—	11.9	脚は直線的に緩く広がり屈曲後裾は開く。端は丸く修める。	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい橙 5YR6/4	浅黄 2.5Y7/3	
20	83	L6-17	Ⅲd	土師器	高坏	脚	—	(7.6)	—	11.2	脚は直線的に緩く広がり屈曲後裾は外反する。端は丸く修める。胎土中に細砂、砂粒を多く含む。	黒褐 2.5Y3/1	橙 5YR6/6	灰 5Y6/1	
20	84	L7-12	Ⅲd-2	土師器	高坏	脚	—	(7.6)	—	10.4	脚は直線的に緩く広がり屈曲後裾は緩く外反する。端は丸く修める。胎土中に砂粒を少量含む。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 N5/	
20	85	L7-6	Ⅲd	土師器	高坏	脚	—	(8.4)	—	9.4	脚は直線的に緩く広がり屈曲後裾は直線的に開く。端は丸味を持った面を成す(浅い沈線状の溝が廻る)。胎土中に均質な砂粒を含む。精緻。	にぶい橙 7.5YR7/4	浅黄橙 10YR8/4	灰 N6/	
20	86	L6-23	Ⅲd	土師器	高坏	脚	—	(8.4)	—	12.7	脚は直線的に緩く広がり屈曲後裾は緩く外反する。端は丸く修める。胎土中に砂粒、小礫を含む。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい褐 7.5YR6/3	灰 N5/	

表7 4A区遺物観察表5

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 グリッド	層	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
							口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
20	87	L6-18	Ⅲd	土師器	高坏	脚	—	(6.8)	—	10.7	脚は直線的に緩く広がり屈曲後裾は開く。端は丸く修める。胎土中に砂粒を少量含む。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	オリーブ黒 5Y3/1	
20	88	L6-17	Ⅲd	土師器	高坏	脚	—	(8.4)	—	11.3	脚は緩く外反して広がり裾で開く。端は丸く修める。胎土中に砂粒、小礫を含む。	灰黄褐 10YR5/2	灰黄褐 10YR5/2	暗灰黄 2.5Y5/2	
20	89	L6-8	Ⅲd	土師器	高坏	脚	—	(7.6)	—	8.6	脚は直線的に緩く広がり屈曲後開く。胎土中に細砂を少量含む。精緻。軟質。	橙 5YR6/6	橙 2.5YR6/6	灰 10Y5/1	
20	90	L6-18	Ⅲd	土師器	高坏	脚	—	(6.5)	—	9.6	脚は直線的に緩く広がり屈曲後裾は開く。端は丸く修める。胎土中に細砂を含む。	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/3	灰 7.5Y4/1	
20	91	L6-22	Ⅲd	土師器	高坏	脚	—	(8.2)	—	10.3	脚は直線的に緩く広がり裾は短く外反する。端は丸く修める。胎土中に細砂、砂粒を多く含む。	灰黄褐 10YR5/2	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 N5/	
20	92	L6-22	Ⅲd	土師器	高坏	脚	—	(9.4)	—	10.6	脚は内彎気味に弱く広がり屈曲後大きく開く。端は丸く修める。胎土精緻。	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい橙 7.5YR7/3	灰 N5/	
20	93	L6-22	Ⅲd	土師器	高坏	脚	—	(7.7)	—	8.5	脚は直線的に弱く広がり屈曲後裾は直線的に開く。端は丸味を持って修める。胎土中に砂粒、小礫を含む。	橙 5YR6/6	橙 2.5YR6/6	橙 5YR6/6	
21	94	L6-22	Ⅲd	土師器	高坏	脚	—	(2.8)	—	11.6	脚から裾へ連続的に外反する。端部は丸く修める。脚中位に円孔φ5~6mmの透かしが存在。	にぶい橙 5YR7/4	にぶい橙 5YR7/4	灰色 10Y5/1	
21	95	L6-7・22	Ⅲd	土師器	高坏	脚	—	(7.8)	—	10.9	脚は連続的に外反する。端は尖り気味に丸く修める。胎土中に砂粒を含む。	明赤褐 5YR5/6	橙 5YR6/6	灰白 5Y7/2	
21	96	L6-18	Ⅲd	土師器	高坏	脚	—	(7.2)	—	11.7	脚は連続的に外反する。端は丸く修める。胎土中に小礫を少量含む。やや軟質。	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 7.5YR6/6	浅黄橙 7.5YR8/4	
21	97	L7-1	Ⅲd	土師器	高坏	脚	—	(6.9)	—	9.9	脚は連続的に緩く外反する。端は丸く修める。胎土中に細砂を多く含む。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	褐灰 10YR4/1	
21	98	L7-1	Ⅲb・Ⅲd	土師器	高坏	脚	—	(6.4)	—	12.1	脚は連続的に緩く外反する。端は尖り気味に丸く修める。胎土中に細砂、砂粒を少量含む。精緻。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/3	
21	99	L6-17	Ⅲd	土師器	高坏	脚	—	(6.8)	—	11.2	脚は連続的に外反する。端は尖り気味に丸く修める。胎土中に小礫を含む。軟質。	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 7.5YR7/6	にぶい橙 7.5YR7/4	
21	100	L6-21・22	Ⅲd	土師器	高坏	脚	—	(6.7)	—	11.2	脚は連続的に外反する。端は丸味を持って修める。胎土中に細砂、砂粒を含む。	灰黄褐 10YR6/2	にぶい黄橙 10YR7/3	赤灰 2.5YR5/1	
21	101	L6-17・L7-1	Ⅲd	土師器	高坏	脚	—	(7.0)	—	11.7	脚は連続的に外反する。端は尖り気味に丸く修める。胎土中に砂粒、小礫を含む。	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/3	灰黄 2.5Y7/2	
21	102	L6-17	Ⅲd-3	土師器	高坏	脚	—	(7.2)	—	11.2	脚は連続的に外反する。端は細く丸味を持って修め一部では尖る。胎土中に砂粒を少量含む。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	浅黄橙 7.5YR8/6	
21	103	L7-6	Ⅲd-2	土師器	高坏	脚	—	(6.8)	—	11.0	脚は連続的に外反する。端は丸く修める。胎土中に細砂、砂粒を少量含む。精緻。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 5YR6/6	
21	104	L6-12	Ⅲd	土師器	高坏	脚	—	(8.4)	—	10.5	脚は直線的に広がり緩やかな屈曲の後開く。端は丸く修める。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	浅黄橙 7.5YR8/6	
21	105	L6-18・22	Ⅲd	土師器	高坏	脚	—	(8.2)	—	9.3	脚は直線的に弱く広がり裾は外反して短く開く。端は丸味を持った面を成す。胎土中に砂粒を含む。	灰黄 2.5Y6/2	灰黄 2.5Y6/2	暗灰 N3/	
21	106	L6-17・22	Ⅲd	土師器	高坏	脚	—	(7.1)	—	11.2	脚は直線的に緩く広がり裾では外反する。端は尖り気味に丸く修める。胎土中に砂粒を多く含む。内外面に煤付着。	灰 N4/	暗灰 N3/	灰 N5/	
21	107	L6-13	Ⅲd	土師器	高坏	脚	—	(5.9)	—	9.6	脚は直線的に緩く広がり屈曲後裾は緩く外反する。端は丸く修める。胎土中に砂粒、小礫を含む。内外面裾部に煤付着。	灰黄褐 10YR6/2	にぶい黄橙 10YR7/2	灰 5Y5/1	
22	108	L6-8	Ⅲd	土師器	器台	台	12.0	(1.8)	—	—	口縁は直線的に外斜上方に立上がる。口唇は太く丸く修める	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	灰 5Y4/1	

表8 4A区遺物観察表6

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 Na	出土地点 グリッド	器種 層	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
22	109	L7-2・11	Ⅲd・Ⅲd-3	土師器	小型器台	9.2	(4.6)	9.3	—	上部は緩く内彎して外斜上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。	灰褐 7.5YR6/2	にぶい橙 7.5YR7/3	灰 N4/	
23	110	L6-17・18	Ⅲd・Ⅲd-3	土師器	鉢	8.2	6.1	7.3	—	有段鉢形。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。頸部は緩く曲がる。丸底。胎土中に石英粒を多く含む。軟質。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/2	灰 7.5Y4/1	
23	111	L6-22	Ⅲb	土師器	鉢	7.6	6.7	7.1	2.9	甕形?の手捏ね。口縁は外側に粘土帯を貼付し、直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部は緩く曲がる。押しつぶした平底。	にぶい黄橙 10YR6/3	灰黄褐 10YR6/2	暗灰 N3/	
23	112	L6-18	Ⅲd	土師器	鉢	9.4	6.7	8.2	—	有段鉢形。口縁と体部に3ヶ所大きな剥離。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部はやや急に立ち上がる。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい褐 7.5YR6/4	灰 10Y5/1	
23	113	L6-18	Ⅲd	土師器	鉢	8.4	7.0	8.6	—	有段鉢形。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。外面一部に煤付着。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	黄灰 2.5Y6/1	
23	114	L7-11	Ⅲd-2	土師器	鉢	(9.8)	6.5	8.5	6.4	有段鉢形。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修め部分的に外側へやや肥厚する。底部は押しつぶされて緩い凸面を成す。	にぶい黄 2.5Y6/3	黄灰 2.5Y6/1	灰 N4/1	
23	115	L7-1	Ⅲd	土師器	鉢	9.3	6.7	8.5	—	有段鉢形。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部はやや急に曲がる。	灰黄 2.5Y6/2	灰黄 2.5Y6/2	にぶい黄橙 10YR7/2	
23	116	L6-17	Ⅲd	土師器	鉢	10.0	6.7	8.2	—	有段鉢形。口縁はやや内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部はやや急に曲がる。丸底。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 5Y5/1	
23	117	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢	9.7	6.7	7.4	—	有段鉢形。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。肩部が張出す。	暗灰黄 2.5Y5/2	暗灰黄 2.5Y5/2	灰オリーブ 5Y6/2	
23	118	L6-17	Ⅲd	土師器	鉢	10.6	(5.1)	—	—	有段鉢形の小型丸底土器。口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。外面体部中位以上に煤付着。	にぶい赤褐 5YR5/4	にぶい赤褐 5YR5/4	灰 7.5Y5/1	
23	119	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢	10.3	(5.0)	8.6	—	有段鉢形の小型丸底土器。口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部は彎曲する。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 N4/1	
23	120	L6-22	Ⅲd	土師器	鉢	11.2	(5.9)	—	—	有段鉢形の小型丸底土器。口縁下で弱い屈曲部を持つ。口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。	にぶい橙 5YR6/4	にぶい褐 7.5YR5/3	黄灰 2.5Y5/1	
23	121	L6-18	Ⅲd	土師器	鉢?	11.5	6.3	11.6	—	有段鉢形。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR7/4	
23	122	L6-8	Ⅲd	土師器	鉢	10.6	7.4	8.5	—	有段鉢形。口縁はやや長く直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。外面に煤付着。	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	灰 N5/	
23	123	L6-18	Ⅲd	土師器	鉢	10.0	7.8	9.6	2.6	有段鉢形。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部は弱く屈曲する。押しつぶした平底。	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい褐 7.5YR5/3	灰 10Y4/1	
23	124	L6-22	Ⅲd・Ⅲd-3	土師器	鉢	10.4	7.1	—	—	有段鉢形。口縁は鑄状を成し直線的に外上方へ立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。	浅黄 2.5Y7/3	浅黄 2.5Y7/3	灰白 5Y7/1	
23	125	L6-18	Ⅲd	土師器	鉢?	10.8	7.4	11.9	—	有段鉢形。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。	灰黄褐 10YR5/2	灰黄褐 10YR5/2	黄灰 2.5Y6/1	
23	126	L6-17	Ⅲd	土師器	鉢	11.0	7.5	10.1	—	有段鉢形。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部は緩やかに曲がる。丸底。外面胴部に煤付着。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 N4/	
23	127	L7-6	Ⅲd?	土師器	鉢	12.4	10.3	11.2	—	有段鉢形の小型丸底土器。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。口縁部下の屈曲はやや急。丸底。内面底部と外面体部以上に煤付着。	にぶい橙 5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 5Y4/1	
23	128	L7-1	Ⅲd	土師器	鉢?	11.6	(8.8)	12.0	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は太く丸く修める。頸部は緩く曲がる。胴部は丸味を持って張出す。外面胴部中位煤付着。	にぶい黄橙 10YR7/3	黄灰 2.5Y4/1	にぶい黄橙 10YR7/2	

表9 4A区遺物観察表7

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 グリッド	器種 層	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
23	129	L6-17・22	Ⅲd・Ⅲd-3	土師器	鉢?	10.8	9.4	11.1	—	鉢形?の小型丸底土器。口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修め一部で外傾する面を成す。部分的に外側にやや肥厚する。頸部屈曲はやや急。胴部は中位で大きく張出す。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい橙 5YR6/4	灰 N4/	
24	130	L6-13	Ⅲd	土師器	小型丸底壺?	8.8	<5.0	—	—	壺形の小型丸底土器。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修め。頸部屈曲はやや急。	灰黄 2.5Y7/2	浅黄 2.5Y7/3	灰 N4/	
24	131	L6-22	Ⅲd	土師器	小型丸底壺	—	<6.5	6.4	—	口縁は内彎して外上方に立ち上がる。頸部はやや急に曲がる。肩部が弱く張出す。	橙 7.5YR7/3	にぶい橙 7.5YR6/4	褐灰 10YR6/1	
24	132	L7-1	Ⅲd	土師器	小型丸底壺	10.0	8.4	7.1	—	胴部中央を剥離穿孔。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。肩部が張出す。	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 N4/	
24	133	L6-18	Ⅲd	土師器	小型丸底壺	9.5	8.3	7.4	—	口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲は急。	灰黄 2.5Y6/2	灰黄 2.5Y6/2	灰黄 2.5Y7/2	
24	134	L6-13	Ⅲd	土師器	壺?	口縁	8.8	<4.9	—	甕形?の小型丸底土器。口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。	灰黄褐 10YR5/2	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 5Y4/1	
24	135	L6-21	Ⅲd	土師器	壺?	口縁	8.6	<2.0	—	甕形?の小型丸底土器。口縁は頸部から連続的に外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	暗灰 N3/	
24	136	L6-13	Ⅲd	土師器	小型丸底壺	底	—	<3.5	9.4	丸底の底部から胴部は大きく張出す。内面底部と外面底部に煤附着。	黒 5Y2/1	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 7.5Y4/1	
24	137	L6-17	Ⅲd	土師器	小型丸底壺	—	<4.7	8.2	—	肩部がやや張出す。丸底。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰黄 2.5Y7/2	
24	138	L6-13	Ⅲd	土師器	小型丸底壺?	7.4	8.3	8.7	—	精製。白色系胎土で赤色チャートを多く含む。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部は中位で大きく膨らむ。	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2	灰白 2.5Y8/2	
24	139	L6-2	Ⅲb・Ⅲd	土師器	小型丸底壺?	8.0	9.3	8.5	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部はやや急に曲がる。胴部は球形。	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2	にぶい黄橙 10YR7/2	
24	140	L6-22	Ⅲb・Ⅲd	土師器	壺	8.9	9.8	9.2	—	口縁は緩く外反する。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部は球形指向。丸底。	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	灰 5Y4/1	
24	141	L6-8	Ⅲd	土師器	鉢?	9.9	9.3	10.2	—	有段鉢形?の小型丸底土器。口縁は内彎気味に外上方へ立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。	にぶい黄橙 10YR6/3	灰黄褐 10YR6/2	灰白 2.5Y8/2	
24	142	L6-22	Ⅲd	土師器	小型丸底壺	底部	—	<6.0	9.4	3.3	頸部下に顕著な接合痕。胴部は丸味を持ち膨らむ。押しつぶした平底。	灰黄 2.5Y7/2	灰黄褐 10YR6/2	黒褐 2.5Y3/1
24	143	L6-22	Ⅲd	土師器	壺?	胴	—	<8.4	10.4	—	甕形の小型丸底土器?頸部は緩やかに曲がる。外面胴部中・下位に煤附着。	褐灰 10YR5/1	にぶい黄橙 10YR3/6	にぶい橙 7.5YR7/4
25	144	L6-13	Ⅲd	土師器	小型丸底壺	口縁	10.6	<3.9	—	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 N4/
25	145	L7-6	Ⅲd-2	土師器	壺?	口縁	11.1	<4.0	—	—	鉢形の小型丸底土器。口縁は頸部から連続的に外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。精製胎土で細砂を含む。	にぶい橙 5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	灰 N4/
25	146	L6-13	Ⅲd	土師器	壺?	口縁	8.8	<5.9	11.0	—	口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修め、内側に粘土が小さく盛り上がる。頸部屈曲はやや急。肩部が張る。外面胴部中位・口縁に煤附着。	灰黄褐 10YR6/2	にぶい褐 7.5YR6/3	黄灰 2.5Y4/1
25	147	L6-22	Ⅲd	土師器	甕?	11.1	11.0	11.1	—	甕形の小型丸底土器。口縁は直線的に外上方へ立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部は球形。外面胴部中位に煤附着。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄褐 10YR5/4	
25	148	L6-21	Ⅲd	土師器	壺	9.2	<11.0	11.0	—	壺形の小型丸底土器。口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。頸部屈曲はやや急。胴部は球形?外面胴部中位帯状に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	灰褐 7.5YR6/2	灰 5Y4/1	
25	149	L7-1	Ⅲd	土師器	甕?	9.7	12.7	12.1	—	甕形?の小型丸底土器。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 7.5Y4/1	
25	150	L6-22	Ⅲd	土師器	甕?	11.6	11.5	11.4	—	甕形の小型丸底土器。口縁は内彎気味に外上方へ立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。やや肩部が張出す。内面底部と外面胴部中位以下に煤附着。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 5Y4/1	

表10 4 A区遺物観察表8

《土器・土製品》

Fig. No	遺物 Na	出土地点 グリッド	層	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
							口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
26	151	L7-1	Ⅲd	土師器	ミニチュア		4.1	2.7	4.3	—	鉢形の手捏ね。口縁は内彎して上方に立ち上がる。口縁は丸く修める。やや尖底。内外面に煤附着。	黒褐 10YR3/1	黒褐 10YR3/1	—	
26	152	L6-13	Ⅲd-2	土師器	ミニチュア		3.4	2.3	3.9	—	鉢形の手捏ね。口縁は内湾する。口唇は丸く修める。丸底。	灰黄褐 10YR5/2	灰黄褐 10YR5/2	黄灰 2.5Y6/1	
26	153	L7-1	Ⅲd	土師器	ミニチュア		4.4	2.1	4.6	—	鉢形の手捏ね。口縁は内彎して上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	黄灰 2.5Y5/1	
26	154	L7-1	Ⅲd	土師器	ミニチュア		5.2	2.2	5.6	—	鉢形の手捏ね。口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は概ね丸く修める。丸底。	暗灰 N3/	灰黄褐 10YR6/2	灰 5Y4/1	
26	155	L6-22	Ⅲd-3	土師器	ミニチュア		6.0	2.6	6.2	—	鉢形の手捏ね。口縁は内湾する。口唇は丸く修める。	暗灰 N3/	暗灰 N3/	—	
26	156	L6-21	Ⅲd	土師器	ミニチュア		5.5	3.2	5.7	—	鉢形の手捏ね。口唇は丸く修める。丸底。	黄灰 2.5Y5/1	暗灰黄 2.5Y5/2	黄灰 2.5Y5/1	
26	157	L6-22	Ⅲd	土師器	ミニチュア		5.9	2.6	6.0	—	皿状鉢形の手捏ね。口縁は緩く内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。	灰黄褐 10YR6/2	灰黄 2.5Y6/2	灰 10Y6/1	
26	158	L6-18	Ⅲd	土師器	ミニチュア		7.4	2.4	7.6	—	皿状鉢形の手捏ね。口縁は緩く内彎して外斜上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。口縁の一部に煤附着(灯明皿の使用?)	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい褐 7.5YR6/3	灰 5Y4/1	
26	159	L6-8	Ⅲd	土師器	ミニチュア		7.5	2.0	—	3.3	手捏ね又は型造りによる皿形。口縁は内彎して外斜上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。不明瞭な平底。口縁の一部は耳皿風に内側に折れ込む。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	浅黄橙 10YR8/4	
26	160	L6-18	Ⅲd	土師器	ミニチュア		6.4	1.6	6.6	3.3	皿状の手捏ね。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。底部は凹凸のある平底。	暗灰 N3/	暗灰 N3/	灰 7.5Y5/1	
26	161	L7-1	Ⅲd	土師器	ミニチュア		6.1	(3.7)	7.1	—	鉢形の手捏ね? 口縁は内湾する。口唇は丸く修める。丸底。	暗灰黄 2.5Y5/2	暗灰黄 2.5Y5/2	暗灰 N3/	
26	162	L7-1	Ⅲd	土師器	ミニチュア? ?		6.5	3.4	6.9	—	鉢形の手捏ね。口縁は内彎し上方乃至外上方に立ち上がる。口唇は丸く修め、一部では内側に肥厚する。やや尖底。内面口縁と外面に煤附着。	灰黄褐 10YR6/2	褐灰 10YR4/1	にぶい黄橙 10YR7/4	
26	163	L7-1	Ⅲd	土師器	ミニチュア		6.4	3.1	6.6	—	鉢形の手捏ね。口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。やや尖底。	暗灰 N3/	暗灰 N3/	暗灰 N3/	
26	164	L6-2	Ⅲd	土師器	ミニチュア		3.8	3.8	5.0	—	鉢形? の手捏ね。口縁は内湾する。口唇は丸く修める。丸底。	黄灰 2.5Y4/1	黄褐 2.5Y5/3	暗青灰 5BG4/1	
26	165	L6-22	Ⅲd	土師器	ミニチュア		4.4	3.9	4.7	—	鉢形の手捏ね。口縁はやや内湾する。口唇は丸く修める。丸底。	灰黄褐 7.5YR5/3	にぶい褐 10YR6/2	灰N4/	
26	166	L6-18	Ⅲd	土師器	ミニチュア		3.2	3.1	4.6	—	鉢形の手捏ね。口縁は短く外反して外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。丸底。	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/3	灰 N4/	
26	167	L7-11	Ⅲd	土師器	ミニチュア		3.7	3.8	5.0	—	鉢形の手捏ね? 口縁は内湾する。口唇は丸く修める。丸底。	灰黄 2.5Y6/2	灰黄 2.5Y6/2	灰 N4/	
26	168	L7-6	Ⅲd-2	土師器	ミニチュア		4.4	3.4	3.7	2.4	甕形? の手捏ね。口縁は外側に粘土帯を貼付し、短く外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。押しつぶした平底。	にぶい黄橙 2.5Y6/3	にぶい黄橙 2.5Y6/3	灰 N4/	
26	169	L6-7	Ⅲd	土師器	ミニチュア		4.4	3.3	4.4	—	甕形の手捏ね。口縁は外側に粘土帯を貼付し、外上方に短く立ち上がる。丸底。	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	灰 5Y5/1	
26	170	L7-11	Ⅲd-2	土師器	ミニチュア		5.5	4.1	4.6	—	甕又は鉢形の手捏ね。口縁は外側に粘土帯を貼付し、直線的に外上方に立ち上がる。丸底。	灰黄 2.5Y6/2	灰黄 2.5Y7/2	—	
26	171	L7-1	Ⅲd	土師器	ミニチュア		(3.5)	4.4	2.0	—	甕又は鉢形? 口縁は外反する。平底? 内外面に煤附着。	黒 2.5Y2/1	黒 2.5Y2/1	灰 5Y4/1	
26	172	L7-11	Ⅲd	土師器	ミニチュア		5.0	4.3	5.3	—	甕形? の手捏ね。口縁は直線的に上方に立ち上がる。口縁は丸く修める。丸底。	灰黄 2.5Y6/2	灰黄 2.5Y6/2	灰 N4/	

表11 4 A区遺物観察表9

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 グリッド	層	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調		備考
							口径	器高	胴径	底径		内面	外面	
26	173	L6-22	Ⅲd	土師器	ミニチュア		5.4	4.3	4.9	—	甕形の手握ね。口縁は外側に粘土帯を貼付し、短く外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。外面体部中位以下に煤附着。	灰黄褐 10YR6/2	にぶい黄橙 10YR7/2	暗灰 N3/
26	174	L7-11	Ⅲd-2	土師器	ミニチュア		5.3	4.1	4.5	—	甕又は鉢形の手握ね。口縁は外側に粘土帯を貼付し、直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。	暗灰 N3/	黄灰 2.5Y6/1	灰 N6/
26	175	L7-12	Ⅲd-2	土師器	ミニチュア		4.8	4.6	4.6	2.2	甕形の手握ね。口縁は外側に粘土帯を貼付し、緩く外反する。口唇は概ね細く丸く修める。頸部は緩く外反する。押しつぶした平底。外面に粘土が附着。	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	灰 5Y6/1
26	176	L6-22	Ⅲd-3	土師器	ミニチュア		4.2	4.6	5.0	—	甕又は鉢形の手握ね。口縁は短く上方に立ち上がる。肩部がやや張出す。口唇は細く丸く修める。丸底。	にぶい黄褐 10YR5/3	灰黄褐 10YR5/2	暗灰 N3/
26	177	L7-1	Ⅲd	土師器	ミニチュア		6.3	4.7	6.2	—	鉢形の手握ね。口縁は短く外反する。口唇は尖り気味に修める。丸底。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3
26	178	L6-7	Ⅲd	土師器	ミニチュア		5.7	<4.3>	6.6	4.6	鉢形の手握ね。口縁は内彎し、部分的に短く立ち上がる。口唇は丸く修める。平底。	にぶい黄橙 10YR6/3	灰黄 2.5Y7/2	灰 N4/
26	179	L6-8	Ⅲd	土師器	ミニチュア		6.3	<4.8>	—	—	甕形？の手握ね。口縁は外側に粘土帯を貼付して肥厚し、短く直線的に外上方に立ち上がる。上下に接合痕を残す。	灰黄褐 10YR6/2	橙 5YR6/6	灰 7.5Y4/1
26	180	L6-17	Ⅲd	土師器	ミニチュア		5.8	<4.7>	5.7	—	甕形？の手握ね。口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。	橙 5YR6/6	橙 5YR7/6	灰 7.5Y4/1
26	181	L6-17	Ⅲd	土師器	ミニチュア		6.3	5.3	6.3	2.7	甕形の手握ね。口縁は短く外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。押しつぶした平底。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 N4/
26	182	L6-8	Ⅲd	土師器	ミニチュア		7.1	5.7	5.9	2.8	甕形？の手握ね。粘土帯を貼付し、鐔状の顕著な口縁を成す。頸部は緩く曲がる。押しつぶした平底。	黒褐 2.5Y3/1	にぶい橙 7.5R6/4	灰 N4/
26	183	L6-23	Ⅲd	土師器	ミニチュア		5.6	5.6	5.6	2.5	甕形の手握ね。口縁は外側に粘土帯を貼付し、直線的に外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。押しつぶした平底。	灰 5Y4/1	灰黄 2.5Y6/2	暗灰 N3/
26	184	L7-11	Ⅲd	土師器	ミニチュア		6.3	5.6	6.1	1.8	甕形の手握ね。口縁は外側に粘土帯を貼付し、緩く外反する。口唇は丸く修める。押しつぶした平底。	にぶい黄 2.5Y6/3	にぶい黄 2.5Y6/3	灰 10Y5/1
26	185	L6-13	Ⅲd	土師器	ミニチュア		6.6	<3.7>	—	—	甕形？の手握ね。口縁は粘土帯の貼付により肥厚して内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰オリーブ 5Y6/2
26	186	L6-7・17	Ⅲb・Ⅲd	土師器	ミニチュア		6.9	6.9	6.9	3.0	甕形の手握ね。口縁は外側に粘土帯を貼付し、直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。押しつぶした平底。	灰 5Y4/1	灰黄褐 10YR6/2	灰 N4/
26	187	L6-8	Ⅲd	土師器	ミニチュア		6.5	6.4	6.5	3.0	甕形の手握ね。口縁は外側に粘土帯を貼付し、直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。押しつぶした平底。	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい橙 7.5YR6/4	暗灰 N3/
26	188	L6-22	Ⅲd	土師器	ミニチュア		7.5	6.0	6.7	3.5	甕形の手握ね。粘土帯を貼付し、鐔状の顕著な口縁を成す。頸部は緩く曲がる。押しつぶした平底。	灰 N4/	灰 N4/	灰 N4/
26	189	L6-7	Ⅲd	土師器	ミニチュア		6.3	6.2	6.4	2.3	甕形？の手握ね。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。押しつぶした平底。	灰黄 2.5Y6/2	灰 5Y5/1	灰 10Y5/1
26	190	L7-11	Ⅲd-2	土師器	ミニチュア	底	5.2	6.8	7.8	—	鉢形？の手握ね。口縁は内彎して内上方に立ち上がる。口唇は細く尖り気味に修める。体部は球形。外面底部に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄褐 10YR5/4	灰 5Y6/1
27	191	L6-7	Ⅲd	土師器	ミニチュア	口縁	7.6	<2.2>	—	—	甕形の手握ね。口縁は外側に粘土帯を貼付して肥厚し、緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。外面口縁一部に煤附着。	暗灰 N3/	黄灰 2.5Y5/1	灰 7.5Y4/1
27	192	L6-22	Ⅲd	土師器	鉢？		7.5	<4.1>	6.6	—	鉢形？の小型丸底土器。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部は緩く曲がる。	褐灰 10YR5/1	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 5Y4/1
27	193	L6-22	Ⅲd-3	土師器	甕？	口縁	9.2	<2.2>	—	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。外面口縁に煤附着。	灰黄褐 10YR5/2	黒 5Y2/1	灰 N4/
27	194	L6-18	Ⅲd	土師器	ミニチュア	胴	—	<3.7>	5.8	2.8	壺形？の手握ね。底部は押しつぶされた平底。	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2	灰 10Y5/1

表12 4 A区遺物観察表10

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 Na	出土地点 グリッド	層	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
							口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
28	195	L6-13	Ⅲd	土師器	壺?		126	15.5	136	—	口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部屈曲はやや急。肩部が張出す。丸底。外面胴部中位以下に煤附着。胎土中に小礫を含む。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰白 2.5Y8/2	
28	196	L6-7・18・21	Ⅲd	土師器	壺?		11.4	(10.4)	136	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部屈曲はやや急。胴部は球形指向。	黒褐 2.5Y3/1	橙 7.5Y6/6	オリープ黒 5Y3/1	
28	197	L6-22	Ⅲd	土師器	壺		11.2	(13.3)	14.2	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部屈曲はやや急。外面胴部一部に煤附着。	灰黄褐 10YR5/2	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 5Y4/1	
28	198	L6-22	Ⅲd	土師器	壺	口縁	11.7	(4.4)	—	—	壺形の小型丸底土器? 口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。	にぶい橙 5YR6/3	にぶい橙 5YR7/3	青灰 5BG6/1	
28	199	L6-13・18	Ⅲd	土師器	壺	口縁	20.4	(4.9)	—	—	広口壺。口縁は外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は面を成す。	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/3	灰 10Y4/1	
28	200	L6-17	Ⅲd・Ⅲd-3	土師器	壺	口縁	11.8	(5.1)	—	—	口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部屈曲はやや急。	灰 5Y5/1	灰 5Y6/1	灰 N5/	
28	201	L6-13	Ⅲd	弥生土器	壺	口縁	15.0	(5.8)	—	—	口縁は外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は外傾する面を成し外側にやや肥厚する。頭部屈曲はやや急。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 7.5Y6/1	弥生後期土器?
28	202	L6-7・18	Ⅲd	土師器	壺	口縁	13.4	(13.6)	—	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部屈曲はやや急。	灰黄褐 10YR5/2	にぶい褐 7.5YR5/4	灰 N5/	
28	203	L6-8	Ⅲd	土師器	壺	口縁	—	(3.0)	—	—	口縁は上方へ立ち上がり大きく外側に開く。口唇は直立する窪んだ面を成し上方へ短く立ち上がる。精製胎土。	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/2	灰 5Y5/1	搬入品?
28	204	L7-1	Ⅲd	土師器	壺	胴	—	(3.6)	—	—	胴部は外側に大きく張出す。精製胎土。	橙 7.5YR6/6	明黄褐 10YR6/6	橙 5YR7/6	
28	205	L6-7・13・18	Ⅲd	土師器	壺		17.1	(14.8)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は外傾する丸味を持った面を成す。頭部屈曲はやや急。内面口縁一部に煤附着。	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/4	灰 7.5Y4/1	
29	206	L6-13	Ⅲd	土師器	壺	口縁	21.8	(10.0)	—	—	二重口縁。口縁は緩く外反して外上方に立ち上がり屈曲後更に外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部屈曲はやや急。	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	浅黄橙 10YR8/3	
29	207	L6-22	Ⅲd	土師器	壺		—	(9.0)	11.4	—	胴部は球形を指向し、中位で大きく膨らむ。丸底。内面胴部中位以下と外面胴部中位に煤附着。	にぶい黄褐 10YR7/2	灰黄褐 10YR6/2	にぶい黄橙 10YR7/3	
29	208	L6-22	Ⅲb・Ⅲd・Ⅲd-3	土師器	壺		17.0	(21.5)	26.6	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部屈曲はやや急。肩部が大きく張出す。	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2	灰白 2.5Y8/2	
29	209	L6-18・21	Ⅲd	土師器	壺	胴	—	(8.4)	13.8	—	胴部は丸底の底部から中位で大きく張出す。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい褐 7.5YR6/3	灰 N5/	
29	210	L6-18	Ⅲd	土師器	壺	胴	—	(6.9)	13.0	—	胴部は中位で大きく膨らむ。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄橙 10YR6/4	灰 10Y5/1	
29	211	L7-1	Ⅲd-3	土師器	壺	底	—	(4.2)	—	—	丸底。押し潰して形成した緩い曲面。	暗灰 N3/	にぶい橙 7.5YR7/4	灰 N4/	
30	212	L6-17・18・22・23	Ⅲd・Ⅲd-2・Ⅲd-3	土師器	壺		146	27.5	25.7	—	口縁は緩く外反する。口唇は外傾する平らな面を成す。頭部屈曲はやや急。胴部球形。丸底。外面中位以下に煤附着。	褐灰 10YR4/1	灰黄褐 10YR6/2	灰 N4/	
30	213	L6-8	Ⅲd	土師器	壺		16.0	32.4	28.5	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部屈曲はやや急。胴部は球形指向。底部はやや尖底。	にぶい褐 7.5YR5/4	褐 7.5YR4/4	灰 7.5Y5/1	
31	214	—	Ⅲd	縄文土器	浅鉢	口縁	—	(4.2)	—	—	口縁は外反して大きく開き外斜上方に立ち上がる。	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	
31	215	L6-8	Ⅲd	弥生土器	壺	口縁	—	(2.0)	—	—	口唇は直立する面を成し上下に肥厚する。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	浅黄橙 10YR8/3	弥生後期土器
31	216	L7-6	Ⅲd	弥生土器	壺?	口縁	—	(2.9)	—	—	口縁は内彎して上方に立ち上がる。口唇は内外面に拡張し水平な面を成す。	灰 N6/	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 7.5Y5/1	

表13 4 A区遺物観察表11

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 グリッド	器種 層	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
31	217	L7-1	Ⅲ d-3	弥生土器	土製円盤	全長 4.4	全幅 5.1	全厚 1.1		灰黄褐 10YR5/2	褐灰 10YR4/1	灰 N4/		
31	218	K7-11	Ⅲ d-2	弥生土器	甕	底	—	<4.5>	—	3.1	底部は狭い平底。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/3	灰 5Y6/1
31	219	L6-18	Ⅲ d	弥生土器	鉢	底	—	<2.5>	—	4.2	押しつぶした平底。	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 7.5Y4/1
31	220	L6-18	Ⅲ d	弥生土器	壺	底	—	<4.9>	—	3.2	底部はやや突出し、狭い平底を成す。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 N5/
31	221	L6-18	Ⅲ d	弥生土器	壺	底	—	<3.6>	—	4.4	底部は狭い平底。外面部分的に煤附着。	灰 N4/	暗灰 N3/	灰 N4/
31	222	L7-1	Ⅲ d-3	弥生土器	壺	底	—	<4.4>	—	7.7	平底でやや凸面を成す。	灰 N4/	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 N4/
31	223	L7-6	Ⅲ d-2	弥生土器	壺	底	—	<5.7>	—	7.3	安定した平底。	灰 N4/	にぶい橙 5YR7/4	灰 5Y4/1
31	224	L7-1	Ⅲ d-3	弥生土器	甕	底	—	<2.6>	—	6.5	安定した平底。	灰 N4/	にぶい橙 5YR7/3	灰 7.5Y4/1
31	225	L6-2	Ⅲ d	弥生土器	甕?	底	—	<3.6>	—	5.4	安定した平底。	褐灰 10YR6/1	にぶい黄橙 10YR7/3	灰 5Y5/1
31	226	K7-10	Ⅲ d	弥生土器	壺	底	—	<1.7>	—	9.6	平底。	にぶい黄 2.5Y6/3	にぶい黄 2.5Y6/3	浅黄 2.5Y7/3
31	227	L6-8	Ⅲ d	弥生土器	壺	底部	—	<3.5>	—	10.0	平底(やや凹面を成す)。	白灰 10YR8/2	浅黄橙 10YR8/4	灰 N4/
31	228	K7-5	Ⅲ d-2	弥生土器	甕	底	—	<4.5>	—	9.6	安定した平底。外面底一部に煤附着。	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	暗灰黄 2.5Y5/2
32	229	L7-1	Ⅲ d	土師器	鉢		8.4	4.0	8.8	—	器高の低い碗形。口縁は内彎して上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。外面底部に煤附着。	灰黄褐 10YR5/2	灰黄褐 10YR5/2	灰 N4/
32	230	L6-13	Ⅲ d	土師器	鉢		10.0	3.6	10.3	—	手捏ね成形?皿形。口縁は緩く内彎する	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/3	—
32	231	L7-1	Ⅲ d	土師器	鉢		9.4	3.4	—	3.3	皿形。口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。底部は不明瞭な平底。内面体部一部に煤附着。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい褐 7.5YR6/3	灰 5Y4/1
32	232	L6-22	Ⅲ d	土師器	鉢		10.7	3.7	—	—	浅い碗形。口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/4	灰 5Y5/1
32	233	L6-18	Ⅲ b	土師器	鉢		9.2	4.0	9.4	—	手捏ね又は型作りによる皿形。口縁は内湾する。口唇は丸く修める。外面底部に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	浅黄橙 7.5YR8/4
32	234	L7-12	Ⅲ d	土師器	鉢		9.2	3.7	—	—	器高の低い碗形。容量小。口縁は緩く内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	灰 5Y5/1
32	235	L6-22	Ⅲ d	土師器	鉢		10.6	5.1	10.8	—	皿形。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。	灰黄褐 10YR5/2	灰黄褐 10YR5/2	灰 5Y4/1
32	236	L6-17	Ⅲ d	土師器	鉢		9.6	<3.4>	—	—	皿形。口縁は内彎して上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。内面体部と外面体部以下に煤附着。	にぶい黄橙 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 N4/
32	237	L6-22	Ⅲ d	土師器	鉢		9.3	4.9	9.5	—	碗形。口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。外面煤附着。	にぶい橙 7.5YR6/4	灰黄 2.5Y6/2	灰 N4/

表14 4 A区遺物観察表12

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 Na	出土地点 グリッド	層	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
							口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
32	238	L7-1	Ⅲd	土師器	鉢		11.3	4.7	11.4	—	器高の低い椀形。口縁は緩く内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。外面口縁の一部に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR7/3	
32	239	L6-8	Ⅲd	土師器	鉢		9.6	4.5	10.0	—	器高の低い椀形。手捏ね又は型造りによる。口縁は緩く内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。	灰黄褐 10YR6/2	にぶい黄褐 10YR6/2	灰 N6/	
32	240	L6-22	Ⅲd	土師器	鉢		10.5	4.2	10.7	—	器高のやや低い椀形。口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい褐 7.5YR6/3	オリーブ褐 2.5Y4/3	
32	241	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢		10.6	4.6	10.8	—	器高の低い椀形。口縁は内彎して上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。	灰黄 2.5Y7/2	にぶい黄橙 10YR7/3	灰白 10YR7/1	
32	242	L6-22	Ⅲd	土師器	鉢		11.0	4.8	11.1	—	皿形。手捏ね?口縁は内湾する。口唇は内傾する面を成す。丸底。内面底部と外面に煤附着。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい褐 7.5YR5/3	灰 7.5Y4/1	
32	243	L6-22	Ⅲd	土師器	鉢		11.3	3.8	—	—	皿形。口縁は緩く内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。尖り気味の丸底。	暗灰 N3/	暗灰黄 2.5Y5/2	灰黄 2.5Y7/2	
32	244	L6-18	Ⅲd	土師器	鉢		11.8	4.7	—	—	器高の低い椀形。口縁は内彎する。口唇は丸く修める。丸底。	にぶい黄橙 10YR7/3	灰黄 2.5Y6/2	黄灰 2.5Y6/1	
32	245	L7-6	Ⅲd-2	土師器	鉢		10.8	4.5	—	—	椀形。口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。内面の多くと外面に煤附着。	灰 5Y4/1	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 5Y4/1	
32	246	L7-1	Ⅲd	土師器	鉢		11.3	4.7	11.4	5.2	器高の低い椀形。型造り?口縁は緩く内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修め、一部で内傾する面を成す。押しつぶした不明瞭な平底。	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい黄橙 10YR7/3	
32	247	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢		10.8	5.2	11.0	—	椀形。容量小。口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。	灰黄褐 10YR6/3	灰黄褐 10YR6/2	灰 5Y6/1	
32	248	L6-17	Ⅲd	土師器	鉢		11.6	3.9	—	—	皿形。口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR6/3	灰 7.5Y5/1	
32	249	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢		12.0	5.5	12.3	—	器高の低い椀形。口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/3	灰色 10Y5/1	
32	250	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢		11.0	5.0	11.3	—	器高の低い椀形。口縁は内彎する。口唇は丸く修める。丸底。外面底部に煤附着。	にぶい橙 5YR6/4	にぶい橙 5YR6/4	にぶい橙 7.5YR7/4	
32	251	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢		12.5	4.9	12.7	—	器高の低い椀形。口縁は内湾する。口唇は丸く修める。丸底。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	灰 N4/1	
32	252	L6-22	Ⅲd	土師器	鉢		12.7	5.0	12.8	—	皿形?口縁は緩く内彎する。口唇は丸く修める。丸底。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR7/3	
32	253	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢		12.6	5.3	13.0	—	器高の低い椀形。口縁は内彎して上方乃至内上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/3	浅黄橙 7.5YR8/4	
32	254	L6-22	Ⅲd	土師器	鉢		11.9	5.4	12.3	—	器高の低い椀形。口縁は内湾する。口唇は丸く修める。丸底。	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	淡黄 2.5Y8/3	
33	255	L6-22	Ⅲd	土師器	鉢		13.4	(3.3)	—	—	皿形。口縁は内彎して外斜上方に立ち上がる。口唇は丸味を持った面を成す。	にぶい橙 5YR6/4	にぶい橙 5YR6/3	にぶい橙 5YR6/4	
33	256	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢		12.3	4.2	12.7	4.2	皿形。口縁は緩く内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。押しつぶした平底。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい褐 7.5YR6/3	灰 N4/	
33	257	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢?		14.8	(3.0)	—	—	皿形?口縁は緩く内彎して外斜上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。外面体一部に煤附着。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR7/4	灰 10Y5/1	
33	258	L6-22	Ⅲd	土師器	鉢		13.2	(3.8)	—	—	器高の低い椀形?口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は外傾する丸味を持った面を成す。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 7.5Y5/1	

表15 4 A区遺物観察表13

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 グリッド	層	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
							口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
33	259	L6-17	Ⅲd	土師器	鉢		13.0	<4.5>	—	—	皿形。口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。内外面口縁に煤附着	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR7/2	
33	260	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢		12.4	<4.1>	—	—	器高の低い碗形。口縁は内彎して上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。	灰黄 2.5Y6/2	灰黄 2.5Y6/2	灰 7.5Y5/1	
33	261	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢		13.6	5.6	14.2	—	器高の低い碗形。口縁は内彎して上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。口縁下内面に弱い稜を持つ。丸底。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/3	
33	262	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢		14.3	6.0	14.4	—	器高の低い碗形。口縁は緩く内彎して外斜上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。丸底。	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい橙 7.5YR6/4	浅黄橙 7.5YR8/3	
33	263	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢		13.0	4.9	13.2	—	器高の低い碗形。口縁は内彎して上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 5Y6/1	
33	264	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢		13.4	5.3	13.7	—	器高の低い碗形。口縁は緩く内彎する。口唇は丸く修める。丸底。	灰黄褐 10YR5/2	灰黄褐 10YR5/2	7.5YR8/3	
33	265	L6-2	Ⅲd	土師器	鉢		13.4	5.3	13.5	—	器高の低い碗形。口縁は内彎して上方乃至外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。	灰黄褐 10YR5/2	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 10Y4/1	
33	266	L6-7・21	Ⅲd	土師器	鉢		13.7	5.0	14.1	—	皿形。口縁は内彎気味に外上方へ立ち上がる。口唇は丸く修める。精製胎土。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	灰 7.5Y4/1	
33	267	L7-11	Ⅲd-2	土師器	鉢		16.4	6.0	—	—	器高の低い碗形。口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。外面胴部下位一部に煤附着。	灰黄褐 10YR6/2	にぶい黄橙 10YR6/4	灰 5Y4/1	
34	268	L6-18	Ⅲd	土師器	鉢		12.6	3.7	—	—	碗形? 口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。内面口縁一部に煤附着。	灰 5Y4/1	灰黄 2.5Y6/2	灰 5Y6/1	
34	269	L6-22	Ⅲd	土師器	鉢		10.6	<5.1>	—	—	碗形。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修め一部ではナデにより弱い稜を成す。	灰黄褐 10YR5/2	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 5Y5/1	
34	270	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢		12.0	<4.7>	—	6.0	器高の低い碗形。口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。底部は押しつぶした平底で緩い凸面を成す。内面中位と外面に煤附着。	灰黄褐 10YR5/2	灰黄褐 10YR5/2	灰 5Y4/1	
34	271	L6-22	Ⅲd	土師器	鉢	口縁	13.8	<4.3>	—	—	口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	黄灰 2.5Y5/1	
34	272	L7-2	Ⅲd	土師器	鉢		12.5	5.5	12.7	—	碗形。口縁は緩く内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。胎土中に砂粒を多く含む。	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	にぶい橙 7.5YR7/4	
34	273	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢		12.2	5.5	12.3	—	器高の低い碗形。口縁は内彎する。口唇は丸く修める。丸底。	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	浅黄橙 10YR8/3	
34	274	L6-22	Ⅲd	土師器	鉢		13.0	6.2	13.4	3.2	碗形。口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修め内側に肥厚する。押しつぶした不明瞭な平底。	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	灰 5Y5/1	
34	275	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢		13.8	5.7	—	—	器高の低い碗形。口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。内外面に薄く煤附着。	黄灰 2.5Y4/1	黒褐 2.5Y3/1	灰白 10Y7/1	
34	276	L6-18	Ⅲd	土師器	鉢		14.0	6.1	14.2	4.5	碗形。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。平底。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	—	
34	277	L6-17	Ⅲd	土師器	鉢?		14.2	<4.8>	—	—	口縁は内湾する。口唇は丸く修める。粘土質胎土で砂粒を少量含む。	灰黄 2.5Y6/2	浅黄 2.5Y7/3	黄灰 2.5Y5/1	
34	278	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢		13.3	6.1	13.8	—	碗形。口縁は内彎して上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	灰 N6/	
34	279	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢		13.8	6.3	14.1	6.5	碗形。器壁厚。口縁は緩く内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修め、外側にやや肥厚する。底部は端が明瞭で弱い凸面を成す。	灰黄褐 10YR4/2	にぶい黄褐 10YR5/3	浅黄橙 10YR8/3	

表16 4 A区遺物観察表14

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 Na	出土地点 グリッド	層	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
							口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
34	280	L6-18	Ⅲd	土師器	鉢		14.6	(5.5)	—	—	器高の低い碗形。口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は尖り気味に丸く修める。	橙 5YR6/6	橙 5YR6/4	灰白 10YR8/2	
34	281	L6-17	Ⅲd	土師器	鉢		14.5	5.8	14.6	—	碗形でやや容量大。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。	にぶい黄橙 10YR7/2	灰黄 2.5Y6/2	灰 N5/	
34	282	L6-17・18	Ⅲd	土師器	鉢		17.3	(6.7)	17.6	—	ボウル形。口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。胎土中に小礫を含む。	にぶい黄橙 10YR7/2	橙 5YR7/6	浅黄橙 7.5YR8/4	
34	283	L7-1	Ⅲb・Ⅲd・ Ⅲd-3	土師器	鉢		15.7	6.7	15.9	7.5	容量やや大。口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修め外側にやや肥厚する。底部は緩い凸面を成す。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	褐灰 10YR6/1	
35	284	L6-17	Ⅲd	土師器	鉢		11.2	(5.4)	—	—	碗形。口縁は内彎して上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。内面一部と外面体部一部に煤附着。	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	黄灰 2.5Y5/1	
35	285	L6-22	Ⅲd-3	土師器	鉢		10.6	5.7	10.7	4.5	碗形。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。押しつぶした平底。	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR6/3	橙 5YR6/6	
35	286	L6-22	Ⅲd-3	土師器	鉢		10.4	6.0	10.7	—	碗形。型造り？口縁は内彎して上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。内面口縁に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	灰黄褐 10YR5/2	灰 5Y6/1	
35	287	L6-18	Ⅲd	土師器	鉢		11.8	5.8	12.1	—	碗形。口縁は緩く内彎して外上方に立ち上げる。口唇は丸く修める。丸底	灰黄褐 10YR4/2	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 7.5Y5/1	
35	288	L6-7	Ⅲd	土師器	鉢		11.8	5.7	—	—	碗形。口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修め部分的に内側に肥厚する。丸底。外面に煤附着。	にぶい黄褐 10YR5/3	褐灰 10YR4/1	灰 10Y5/1	
35	289	L6-18	Ⅲd	土師器	鉢		12.7	5.9	12.8	—	碗形。口縁は緩く外反する(端反り)。口唇は丸く修める。丸底。	灰黄褐 10YR5/2	灰黄褐 10YR5/2	黄灰 2.5Y6/1	
35	290	L6-18	Ⅲd	土師器	鉢		13.0	(4.4)	—	—	碗形。口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。外面部分的に煤附着。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 7.5Y5/1	
35	291	L7-1	Ⅲd	土師器	鉢		12.0	5.5	12.3	5.0	碗形。容量小。型造り。口縁は緩く内彎し外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。押しつぶした平底。	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄橙 10YR7/4	
35	292	L6-8	Ⅲd	弥生土器	鉢	口縁	12.5	(3.6)	—	—	口縁は内彎して上方に立ち上がる。口唇は細く尖り気味に修める。	灰黄褐 10YR5/2	にぶい橙 7.5YR6/4	暗灰 N3/	弥生後期末から古墳時代初頭
35	293	L6-17	Ⅲd	土師器	鉢?		12.8	(5.4)	—	—	口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く仕上げ。外面体部一部に煤附着。	灰黄褐 10YR5/2	にぶい褐 7.5YR6/3	暗灰黄 2.5Y5/2	
35	294	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢		12.4	(4.9)	—	—	碗形。口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。外面体部中に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	灰黄褐 10YR6/2	にぶい黄橙 10YR6/3	
35	295	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢		12.5	6.1	—	—	碗形。口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底でやや潰れる。	にぶい黄橙 10YR6/3	灰黄褐 10YR6/2	灰白 10YR8/2	
35	296	L6-17	Ⅲd	土師器	鉢		12.6	6.2	12.9	4.4	碗形。口縁は緩く内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。押しつぶした平底。	にぶい赤褐 5YR5/4	橙 5YR6/6	灰 10Y4/1	
35	297	L6-18	Ⅲd	土師器	鉢		12.4	6.2	12.9	—	碗形。口縁は内湾する。口唇は丸く修め、内側に粘土が盛り上がる。丸底。	橙 5YR6/6	にぶい橙 5YR6/4	暗青灰 5B4/1	
35	298	L6-22	Ⅲd	土師器	鉢		14.4	7.6	—	—	碗形。口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める又は内傾する丸味を持った面を成す。底部はやや尖底。内面底部に炭化物が熔着。外面底部から体部に煤附着。	灰黄褐 10YR5/2	褐灰 10YR4/1	黄灰 2.5Y6/1	
35	299	L6-17	Ⅲd・Ⅲd-3	土師器	鉢		14.0	6.8	14.3	—	碗形。口縁は緩く内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修め部分的に外側にやや肥厚する。丸底。外面体部以下に煤附着。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい橙 7.5YR7/4	
35	300	L6-13・22	Ⅲd-3	土師器	鉢	口縁	18.8	(4.7)	—	—	口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。容量大。	にぶい橙 5YR6/4	にぶい橙 5YR6/4	灰 7.5Y5/1	

表17 4 A区遺物観察表15

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 グリッド	器種 層	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考	
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土		
35	301	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢	17.4	(9.2)	—	4.6	ボウル形。口縁は内彎して上方に立ち上がる。口唇は太く丸く修める又は丸味を持った面を成す。底部は押しつぶした平底?内面底部と外面体部中位以下に煤附着。	にぶい赤褐 5YR5/4	にぶい赤褐 5YR5/4	灰白 2.5Y7/1		
36	302	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢	12.2	(5.8)	—	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。	にぶい橙 5YR6/4	にぶい赤褐 5YR5/4	灰 7.5Y4/1		
36	303	L6-22	Ⅲd	土師器	鉢	12.0	(4.6)	—	—	鉢形の小型丸底土器。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。口縁下の内面に弱い稜を持つ。外面体部中位以上に煤附着。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい褐 7.5YR6/3	灰 5Y4/1		
36	304	L6-22	Ⅲd	土師器	鉢	口縁	11.9	(3.8)	—	—	平形?口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。内外面口縁一部に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	褐灰 7.5YR5/1	灰 5Y4/1	
36	305	L6-22	Ⅲd	土師器	鉢	13.5	(4.3)	—	—	口縁は内彎気味に外斜上方に立ち上がる。口唇は外傾する窪んだ面を成し外側に肥厚する。外面体部に煤附着。	褐灰 10YR4/1	オリーブ黒 5Y3/1	灰 N6/		
36	306	L6-22	Ⅲd	土師器	鉢	13.8	6.6	14.0	3.5	平状碗形。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。やや突出した平底。内面口縁に煤附着。	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 N5/		
36	307	L6-8	Ⅲd	土師器	鉢	口縁	12.6	(3.6)	—	—	碗形。口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は狭い外傾する面を成す。	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 7.5YR7/6	にぶい橙 7.5YR7/4	
36	308	L6-22	Ⅲd-3	土師器	鉢	—	6.4	—	2.0	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は平坦面を成す。平底。	灰黄褐 10YR4/2	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 10Y4/1		
36	309	L6-22	Ⅲd	土師器	鉢	14.5	6.3	14.6	—	碗形。容量やや大。口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底(貼付?)。	灰黄 2.5Y6/2	灰黄 2.5Y6/2	灰 N4/		
36	310	L6-8	Ⅲd	土師器	鉢	12.9	(7.1)	—	—	碗形。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は外傾する面を成す(内外面にやや肥厚する)。	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 7.5Y4/1		
36	311	L6-18	Ⅲd	土師器	鉢	16.3	(8.1)	—	—	口縁は緩く外反する。口唇はやや太く丸く修める。体部内面に極弱い段部。外面に煤附着。	灰黄褐 10YR5/2	灰黄褐 10YR5/2	灰白 2.5Y8/2		
36	312	L6-17・21 ・22	Ⅲb・Ⅲd	土師器	鉢	18.2	(8.8)	—	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は外傾する面を成し外側にやや肥厚する。	灰黄褐 10YR5/2	褐灰 10YR5/1	灰 5Y4/1		
37	313	L7-1	Ⅲd	土師器	鉢	8.1	5.8	8.4	3.0	口縁下の内面に稜を有する(鐔状)。口縁は直線的に上方乃至外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。押しつぶした平底。	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	—		
37	314	L7-1	Ⅲd	土師器	鉢	(9.0)	6.1	—	—	碗形。口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。口縁下で外側に張出す。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 10Y5/1		
37	315	L6-22	Ⅲd-3	土師器	鉢	7.9	7.0	8.2	(1.6)	湯呑み状碗形。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口縁は丸く修める。押しつぶした平底。内面体部に弱い段を持つ。	にぶい黄橙 10YR6/3	灰黄褐 10YR6/2	にぶい黄橙 10YR7/2		
37	316	L6-18	Ⅲd	土師器	鉢 (台付?)	10.6	(5.1)	—	—	口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。	にぶい黄褐 10YR5/3	灰黄褐 10YR6/2	黄灰 2.5Y4/1		
37	317	L7-1	Ⅲd	土師器	鉢	9.0	6.8	9.6	—	碗形。口縁は内彎して内上方に立ち上がる。口縁は丸く修める。丸底。内面底部と外面体部に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/2		
37	318	L6-18	Ⅲd	土師器	鉢	9.1	6.4	9.3	2.5	碗形。内面に段が形成される。口縁はやや内彎して外上方に立ち上がる。押しつぶした平底。	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	黄灰 2.5Y4/1		
37	319	L7-1	Ⅲd	土師器	鉢	10.1	6.1	10.5	—	碗形。口縁は内彎して上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい褐 7.5YR5/3	灰 5Y4/1		
37	320	L6-22	Ⅲd・Ⅲd-3	土師器	鉢	10.8	6.0	11.0	—	碗形。口縁は内湾する。口唇は丸く修め粘土が外側に盛り上がる。丸底。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 N4/		
37	321	L6-18	Ⅲd	土師器	鉢	11.4	6.0	—	—	碗形。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。外面底部から口縁に煤附着。	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR5/2	灰 5Y4/1		

表18 4 A区遺物観察表16

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 Na	出土地点 グリッド	層	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
							口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
37	322	L6-18	Ⅲd	土師器	鉢		9.8	7.5	—	—	碗形。口縁は内彎気味に上方へ立ち上がる。口唇は丸く修め部分的には内側に肥厚する。尖底。外面体部一部に煤附着。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR7/3	
37	323	L7-1	Ⅲd	土師器	鉢		10.6	6.7	10.8	4.8	碗形。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。押しつぶした平底。	灰褐 7.5YR4/2	にぶい橙 5YR6/4	黄灰 2.5Y4/1	
37	324	L7-1	Ⅲd	土師器	鉢		10.9	8.1	—	—	碗形。口縁は部分的に緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。丸底。	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	浅黄 2.5Y7/3	
37	325	L6-8	Ⅲd	土師器	鉢		10.7	9.3	11.5	4.5	碗形。口縁は内彎して内上方に立ち上がる。底部は押しつぶした平底。外面に煤附着。	灰黄 2.5Y6/2	灰黄褐 10YR6/2	灰黄 2.5Y6/2	
37	326	L6-8	Ⅲd	土師器	鉢		7.8	9.1	8.9	—	湯呑み状碗形。手捏ね又は型造りによる。口縁は緩く外反し上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。外面に煤附着。	灰黄 2.5Y4/1	黒褐 5YR3/1	灰白 5Y7/2	
37	327	L6-22	Ⅲd	土師器	鉢		13.5	7.2	13.7	—	碗形。口縁は緩く外反する(端反り)。口唇は丸く修める。丸底。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 N4/	
37	328	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢		13.0	7.0	13.2	—	碗形。口縁は内湾する。口唇は丸く修める。やや尖底。	暗灰黄 2.5Y5/2	暗灰黄 2.5Y5/2	浅黄橙 7.5YR8/3	
37	329	L6-22・ L7-1	Ⅲd	土師器	鉢		12.0	6.8	12.2	—	碗形。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	
37	330	L6-22	Ⅲd	土師器	鉢		14.0	(8.4)	—	—	口縁は内彎気味に外上方へ立ち上がる。口唇は丸味を持った内傾する面を成す。	にぶい黄褐 10YR5/3	灰黄褐 10YR5/2	灰 10Y6/1	
37	331	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢		13.2	(9.7)	14.0	—	碗形。口縁は内彎して内上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。	灰黄褐 10YR6/2	灰黄 2.5Y6/2	灰白 7.5YR8/2	
38	332		Ⅲd	土師器	鉢	口縁	9.0	(5.9)	—	—	口縁は鐮状を成し直線的に外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。頸部は弱く屈曲する。	灰黄 2.5Y6/2	灰オリーブ 5Y6/2	灰 5Y4/1	
38	333	L6-18	Ⅲd	土師器	鉢	口縁	9.8	(6.7)	10.4	—	口縁は短く直立する。口唇は細く丸く修める。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	灰 10Y6/1	
38	334	L6-22	Ⅲd	土師器	鉢?		11.3	(4.2)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める又は丸味を持った面を成す。口縁下で弱く屈曲しない面には段が残る。	オリーブ黒 7.5Y3/1	黄灰 2.5Y5/1	オリーブ黒 5Y3/1	
38	335	L6-8	Ⅲd	土師器	鉢		11.8	(6.0)	—	—	碗形。口縁は鐮状に短く開き緩く外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は丸味を持った面を成し外側へやや肥厚する。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい褐 7.5YR6/3	灰 7.5Y4/1	
38	336	L7-1	Ⅲd	土師器	鉢		9.7	12.3	11.1	—	口縁は鐮状を成し短く内彎気味乃至外反して上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。底部はやや潰れた丸底。内面底部と外面体部一部に煤附着。	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	灰 7.5Y5/1	
38	337	L7-1	Ⅲd-2・Ⅲ d-3	土師器	鉢		10.8	10.4	—	—	碗形で口縁は鐮状を成す。口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。口縁下の屈曲は弱。丸底。内面底部と外面体部中位以下に煤附着。	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	灰白 10YR8/2	
38	338	L6-7	Ⅲd	土師器	鉢		15.9	(6.6)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。内面口縁下に弱い稜を持つ。	にぶい黄褐 10YR5/3	灰黄褐 10YR6/2	暗灰 N3/	
38	339	L6-13	Ⅲd	弥生土器	鉢	底	—	(3.9)	—	3.0	狭い平底でやや凸面を成す。	橙 5YR6/6	橙 5YR6/8	にぶい黄橙 10YR7/3	
38	340	L7-1	Ⅲd-2	土師器	鉢?		—	(8.7)	11.5	—	胴部球形指向。丸底。底部に煤附着	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい褐 7.5YR5/3	灰 5Y4/1	
38	341	L6-18	Ⅲd	土師器	鉢		25.2	(11.0)	—	—	鍋形。容量大。口縁は鐮状を成し外斜上方に立ち上がる。口唇は外傾する平らな面を成す。外面胴部中位一部に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	オリーブ黒 5Y3/1	
38	342	L7-1	Ⅲd	土師器	鉢?		—	(5.4)	—	—	尖底。	にぶい黄褐 10YR6/3	にぶい黄褐 10YR6/3	灰 5Y5/1	

表19 4 A区遺物観察表17

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 グリッド	器種 層	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考	
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土		
38	343	L6-18・21	Ⅲd	土師器	鉢	底部	—	〈4.5〉	—	—	丸底。精製胎土。	橙 5YR7/8	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	
38	344	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢		27.0	〈14.9〉	—	—	鍋形。口縁は直線的に外上方へ立ち上がる。口唇は丸味を持った面又は太く修める。口縁は肥厚し下位で弱い段を持つ。	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	黄灰 2.5Y5/1	
38	345	L7-2	Ⅲd	弥生土器	鉢	底	—	〈2.7〉	—	3.7	底部はやや突出する不明瞭な平底。	灰白 2.5Y7/1	灰黄 2.5Y7/2	灰 N4/	
39	346	L7-1	Ⅲd	土師器	鉢?		11.0	〈9.5〉	12.4	—	口縁は直線的に短く外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部は丸味を持って張出す。埴形。外面胴部中に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	暗灰 N3/	
39	347	L7-1	Ⅲd	土師器	鉢		13.6	10.5	12.6	—	口縁は鈔状を成し緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。丸底。内外面の多くに煤附着。	褐灰 10YR4/1	褐灰 10YR4/1	灰 7.5Y5/1	
39	348	L6-7	Ⅲd	土師器	鉢?		13.0	〈7.8〉	13.6	—	口縁は頸部から連続的に外反し短く外上方に立ち上がる。口唇は尖り気味に丸く修める。	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR5/2	灰 N4/	
39	349	L7-1	Ⅲd	土師器	鉢		19.2	13.9	—	—	口縁は鈔状を成し直線的に短く外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。屈曲は緩やか。丸底。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい橙 5YR6/4	橙 5YR6/6	
39	350	L6-21	Ⅲd	土師器	鉢?	口縁	18.8	〈5.1〉	19.2	—	口縁は頸部から連続的に外反する。口唇は尖り気味に丸く修める。	灰黄褐 10YR6/2	黄灰 2.5Y4/1	灰 10Y4/1	
39	351	L6-22	Ⅲd・Ⅲd-3	土師器	鉢?		14.6	〈10.2〉	17.2	—	口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。波状口縁。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 5YR6/4	にぶい橙 2.5YR6/4	
40	352	L6-21	Ⅲd	土師器	台付鉢?		—	〈2.7〉	—	—	台付鉢又は蓋?内面底部又は外面底部に煤附着。	灰黄 2.5Y6/2	黄灰 2.5Y5/1	灰 10Y6/1	
40	353	L6-18	Ⅲd	土師器	台付鉢		12.5	9.7	12.6	7.5	器高のやや高い鉢部。口縁は緩く外反し外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。台部は短く広がり裾で更に開く。	橙 5YR7/6	橙 5YR6/6	灰 7.5Y5/1	
40	354	L6-17・21 ・22	Ⅲb・Ⅲd	土師器	甌	底	—	〈7.0〉	—	—	底部に焼成前穿孔φ9mm1個と未貫通孔1個。	黄灰 2.5Y5/1	黄灰 2.5Y4/1	黄灰 2.5Y4/1	
40	355	—	I	土師器	甌	底	—	〈3.7〉	—	—	底部にφ10mmの円孔を焼成前に穿つ。外側に粘土が盛り上がる。外面胴部下位に煤附着。	灰 5Y4/1	灰黄褐 10YR6/2	暗灰 N3/	
40	356	L7-6	Ⅲd	土師器	甌?	底部	—	〈2.5〉	—	1.6	底部は尖底気味にやや突出し、中央にφ8~12mmの円孔を焼成前に穿つ。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい褐 7.5YR6/3	灰 10Y4/1	
40	357	L6-7	Ⅲd	土師器	鉢(甌)		13.9	7.1	14.2	—	碗形。容量やや大。底部にφ6mmの円孔を穿つ。口縁は内彎して上方に立ち上がる。口唇は丸く修める又は丸味を持った面を成す。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい褐 7.5YR6/3	灰黄 2.5Y7/2	
40	358	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢(甌)		14.0	10.4	14.3	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は概ね丸く修める。丸底。	橙 7.5YR6/6	にぶい橙 7.5YR6/4	—	
40	359	L7-1	Ⅲd-2	土師器	鉢(甌)		15.2	〈10.0〉	15.4	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸味を持った面乃至丸く仕上げる。尖底。φ7mmの円孔を穿つ。	暗灰黄 2.5Y5/2	灰黄 2.5Y6/2	灰 5Y6/1	
40	360	L6-22	Ⅲd	土師器	鉢(甌)		13.2	9.1	—	—	口縁は内彎する。口唇は丸く修める。底部中央にφ5mmの円孔を穿つ。丸底。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい橙 7.5YR6/4	暗オリーブ 2.5GY4/1	
40	361	L6-13	Ⅲd	土師器	鉢(甌)		12.8	12.9	13.7	—	口縁は内彎する。口唇は概ね丸く修める。丸底。底部にφ10mmの円孔を内側から穿つ。内面に煤附着。	褐 7.5YR3/4	にぶい赤褐 5YR5/4	灰 7.5Y5/1	
41	362	L6-22	Ⅲd	土師器	甌	口縁	9.4	〈4.3〉	—	—	甌形の小型丸底土器。口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は太く丸く修める。頸部屈曲はやや急。内面頸部と外面口縁に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/3	
41	363	L6-3	Ⅲd	土師器	甌	口縁	10.8	〈3.5〉	—	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲は急。	にぶい赤褐 5YR5/3	にぶい赤褐 5YR5/3	灰 5Y4/1	

表20 4 A区遺物観察表18

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 Na	出土地点 グリッド	層	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
							口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
41	364	L6-22	Ⅲd	土師器	甕	口縁	12.5	(5.0)	—	—	口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。頭部屈曲はやや急。	にぶい褐 7.5YR5/3	橙 5YR6/6	灰 10Y5/1	
41	365	L6-17	Ⅲd-3	土師器	甕	口縁	11.8	(3.8)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は外傾する面又は中央の窪んだ面を成し外側に肥厚する。頭部屈曲はやや急。外面口縁に煤附着。	褐 7.5YR4/3	暗褐 7.5YR3/3	灰 5Y4/	
41	366	L6-18	Ⅲd	土師器	甕	口縁	9.8	(5.0)	—	—	口縁は直線的に外上方へ立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部屈曲はやや急。内面口縁・胴部上位の一部に煤附着。	灰黄褐 10YR6/2	にぶい橙 5YR7/4	灰 7.5Y4/1	
41	367	L6-22	Ⅲd-3	土師器	甕	口縁	12.6	(6.4)	—	—	口縁は直線的に外上方へ立ち上がる。口唇は平らな面を成す。頭部屈曲はやや急。外面口縁に煤附着。	にぶい黄褐 10YR5/3	灰黄褐 10YR5/2	暗灰 N3/	
41	368	L6-17	Ⅲd	土師器	甕	口縁	12.2	(5.4)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。頭部屈曲はやや急。	にぶい橙 5YR6/4	にぶい橙 5YR7/3	褐灰 10YR4/1	
41	369	L7-1	Ⅲd	土師器	甕		11.2	(6.4)	10.6	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は外傾する面を成し外側にやや肥厚する。頭部屈曲はやや急。外面胴部中に煤附着。	橙 5YR7/6	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 N6/	
41	370	L6-8	Ⅲd	土師器	甕	口縁	11.2	(2.5)	—	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。内面口縁と外面口縁に煤附着。	暗灰 N3/	黒 N2/	オリープ黒 5Y3/1	
41	371	L7-6	Ⅲd-2	土師器	甕	口縁	—	(5.3)	—	—	口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は頭部は緩やか又はやや急に曲がる。内面口縁に煤附着。	黄灰 2.5Y5/1	にぶい橙 7.5YR6/4	灰黄 2.5Y7/2	
41	372	L6-22	Ⅲd	土師器	甕	口縁	9.0	(4.2)	—	—	口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部屈曲はやや急。	にぶい黄 2.5Y6/3	にぶい黄 2.5Y6/3	灰 N5/	
41	373	L7-1	Ⅲb・Ⅲd	土師器	甕	胴	—	(9.0)	11.0	—	頭部は緩く外反する。頭部下ナデにより肩部がやや張る。内面胴部下位と外面胴部中に煤附着。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 7.5Y5/1	
41	374	L6-17	Ⅲd	土師器	甕	口縁	12.8	(3.9)	—	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部は緩く彎曲する。	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	灰 N4/	
41	375	L6-13	Ⅲd	土師器	甕	口縁	9.4	(6.1)	—	—	口縁は直線的に外上方へ立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部屈曲はやや急。内面口縁と外面胴部中位以上に薄く煤附着。	褐灰 10YR4/1	黒褐 10YR3/1	灰 7.5Y4/1	
41	376	L6-18	Ⅲd	土師器	甕?		11.2	(5.3)	9.5	—	鉢形の小型丸底土器。口縁は緩く外反して短く外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部は緩やかに曲がる。	にぶい赤褐 5YR5/4	にぶい褐 7.5YR6/3	暗灰 N3/	
41	377	L6-22	Ⅲd-2	土師器	甕	口縁	11.8	(2.6)	—	—	口縁は外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。外面口縁に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 7.5Y5/1	
41	378	L6-22	Ⅲd-3	土師器	甕	口縁	11.2	(3.4)	—	—	口縁は頭部から連続的に外反して外上方に立ち上がる。口唇は外傾する丸味を持った面を成し外側にやや肥厚する。外面口縁に煤附着。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 N4/	
41	379	L6-13	Ⅲd	土師器	甕	口縁	—	(2.1)	—	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は外傾する面を成し内外に肥厚する。	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 5YR6/6	灰 N4/	
42	380	L6-13・L7-2	Ⅲd	土師器	甕		13.4	(12.6)	15.4	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は面を成す。頭部屈曲はやや急。外面胴部中位・口縁に煤附着。	黄灰 2.5Y4/1	にぶい橙 5YR6/4	灰 7.5Y4/1	
42	381	L6-17	Ⅲd	土師器	甕		14.4	(11.8)	16.4	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は外傾する面を成し外側にやや肥厚する。頭部屈曲はやや急。	灰 5Y4/1	にぶい橙 7.5Y6/4	灰 5Y4/1	
42	382	L6-18	Ⅲd	土師器	甕		11.3	(9.8)	14.7	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は面を成す。頭部屈曲はやや急。外面胴部上位以上部分的に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 7.5Y5/1	
42	383	L6-22	Ⅲd	土師器	甕		12.3	(9.5)	15.4	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は尖り気味に丸く修める。頭部屈曲はやや急。	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	灰 N4/	
42	384	L7-1・6	Ⅲd・Ⅲd-2 Ⅲd-3	土師器	甕	口縁	13.6	(11.1)	15.6	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部屈曲はやや急。外面胴部中位煤附着。	暗灰黄 2.5Y5/2	暗灰黄 2.5Y5/2	緑灰 10G5/1	

表21 4 A区遺物観察表19

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 グリッド	器種 層	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
42	385	L6-18	Ⅲd	土師器	甕	口縁	14.6	<11.0>	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸味を持った外傾する面を成す。頸部屈曲はやや急。外面胴部上位・口縁に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/4	橙 5YR6/6	灰 5Y4/1
42	386	L6-17・18 ・22	Ⅲb・Ⅲd・ Ⅲd-3	土師器	甕		17.2	<12.6>	18.8	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸味を持った面を成し一部で外側に肥厚する。頸部屈曲はやや急。外面胴部中位以上に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	黄灰 2.5Y5/1
42	387	L6-22	Ⅲd-3	土師器	甕	口縁	17.8	<14.2>	20.0	—	口縁はやや内彎して外上方に立ち上げる。口唇は丸味を持った面を成す。頸部屈曲はやや急。外面胴部中・下位に煤附着。	灰褐 7.5YR5/2	褐灰 7.5YR5/1	にぶい橙 7.5YR6/4
43	388	L6-8	Ⅲd	土師器	甕		13.2	<22.9>	20.4	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は外傾するやや丸味を持った面を成し外側に肥厚する。頸部屈曲はやや急。胴部は球形指向。丸底。外面胴部中位・口縁に煤附着。	にぶい黄褐 10YR5/4	にぶい黄橙 10YR6/4	黄灰色 2.5Y5/1
43	389	L6-17・18 ・22・23	Ⅲd・Ⅲd-3	土師器	甕		14.1	<23.6>	20.6	—	口縁は直線的に外上方へ立ち上がる。口唇は外傾する面を成す。頸部屈曲はやや急。外面胴部中位以上に煤附着。	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 5YR6/6	灰 N4/
43	390	L6-13・17 ・18	Ⅲd	土師器	甕		14.4	20.2	17.7	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める又は外傾する面を成す。頸部屈曲は急。胴部は砲弾形?内面底部と外面胴部中位以上に煤附着。	黒褐 10YR3/1	黒 5Y2/1	黒褐 2.5Y3/1
43	391	L6-22	Ⅲd	土師器	甕		13.6	<19.6>	16.2	—	口縁は直線的に外上方へ立ち上がる。口唇は細く丸く修める。頸部屈曲はやや急。長胴形。外面胴部中位・口縁に煤附着。	灰黄褐 10YR5/2	黒褐 10YR3/1	灰 5Y5/1
43	392	L6-18	Ⅲd	土師器	甕		13.2	<17.5>	17.5	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は外傾する面を成す。口縁外面に粘土板貼付し接合痕を頸部に残す。頸部屈曲はやや急。肩部が張出す。	橙 5YR6/6	褐 7.5YR4/3	にぶい橙 7.5YR7/4
44	393	L7-1	Ⅲd	土師器	甕		11.3	<16.6>	14.7	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部は球形指向。外面胴部中位に煤附着。	黒褐 10YR3/1	にぶい赤褐 5YR5/4	灰 5Y4/1
44	394	L6-17	Ⅲd	土師器	甕		12.9	22.2	18.8	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は平らな面を成し一部では外側にやや肥厚する。頸部はやや急に屈曲する。胴部はやや長胴形?	黒褐 2.5Y3/1	明赤褐 5YR5/6	灰 N4/
44	395	L7-1	Ⅲd	土師器	甕		12.1	15.3	14.5	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は外傾する平らな面を成す。頸部屈曲はやや急。胴部は球形。丸底。内面底部に煤附着。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/2
44	396	L6-22	Ⅲb・Ⅲd	土師器	甕		15.5	<19.8>	20.6	—	口縁は直線的に外上方へ立ち上がる。口唇は丸味を持った面を成す。頸部屈曲はやや急。外面胴部中位・口縁に煤附着。	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい赤褐 5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4
44	397	L6-22	Ⅲd	土師器	甕		15.0	24.8	<20.1>	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸味を持った面又は丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部はやや長胴形?	にぶい黄褐 10YR5/3	灰黄褐 10YR5/2	灰 7.5Y6/1
45	398	L6-8	Ⅲd	土師器	甕		14.4	<22.8>	21.6	—	口縁は直線的に外上方へ立ち上がる。口唇は外傾する丸味を持った面を成す。頸部屈曲は急。内面底部と外面胴部中位・口縁に煤附着。	褐 7.5YR4/3	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 7.5YR4/3
45	399	L6-13	Ⅲd	土師器	甕		16.2	25.5	21.7	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部はやや長胴形。丸底。内面底部と外面胴部中位に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい褐 7.5YR5/4	灰 5Y5/1
45	400	L6-17・18 ・22	Ⅲb・Ⅲd・ Ⅲd-3	土師器	甕		14.6	19.3	16.4	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修め内側に稜を持つ。頸部屈曲はやや急。胴部は長胴形。丸底。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 5Y5/1
45	401	L6-13・18	Ⅲd	土師器	甕		15.0	<15.8>	18.9	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める又は外傾する面を成す。頸部屈曲は急。外面に煤附着。	にぶい赤褐 5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	灰 5Y5/1
45	402	K7-10	Ⅲd	土師器	甕		15.2	17.9	17.0	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部は球形指向。丸底。内面底部に煤附着。器壁薄。	灰黄褐 10YR5/2	褐灰 10YR5/1	灰 N4/
46	403	L6-17・18	Ⅲd・Ⅲd-3	土師器	甕		15.8	23.3	20.4	—	口縁は外反して外上方に立ち上がる。口唇は外傾する面を成し外側へやや肥厚する。頸部屈曲はやや急。胴部は球形指向。胎土中に均質な砂粒を含む。内面底部と外面胴部中位・口縁に煤附着。	灰黄褐 10YR5/2	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 N5/

表22 4 A区遺物観察表20

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 Na	出土地点 グリッド	層	器種	器形 部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
46	404	L6-17・18	Ⅲd・Ⅲ	土師器	甕	14.8	24.0	20.6	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部屈曲はやや急。胴部はやや長胴形。丸底。内面胴部と外面に煤附着。	にぶい橙 5YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 7.5Y5/1	
46	405	L7-1	Ⅲb・Ⅲd	土師器	甕	12.0	16.2	14.6	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部屈曲はやや急。胴部はやや長胴形。丸底。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 5Y5/1	
46	406	L6-18	Ⅲd	土師器	甕	14.6	〈21.7〉	18.5	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部屈曲はやや急。胴部はやや長胴形。外面胴部上位以外に煤附着。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 N5/	
46	407	L6-22	Ⅲd	土師器	甕	13.8	19.2	17.1	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は尖り気味に丸く修める。頭部屈曲はやや急。胴部はやや長胴形?丸底。内面胴部下位と外面胴部中・上位一部に煤附着。	橙 5YR6/6	にぶい橙 7.5YR7/3	灰 5Y5/1	
47	408	L7-12	Ⅲd・Ⅲd-3	土師器	甕?	13.2	〈16.0〉	18.0	—	口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。形骸化した二重口縁?で断面三角形の突帯状に突出する。口唇は丸味を持った面を成す。頭部屈曲は急。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/4	灰 7.5Y5/1	
47	409	L6-17・22	Ⅲb・Ⅲd	土師器	甕	14.7	29.4	26.9	—	口縁は直線的に外上方へ立ち上がる。口唇は丸味を持った面を成す。頭部屈曲はやや急。胴部は球形指向。丸底。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい橙 5YR6/4	明褐灰 7.5YR7/2	
48	410	L6-22	Ⅲd・Ⅲd-3	土師器	甕	15.4	〈22.6〉	20.3	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は外傾する面を成す。頭部屈曲はやや急。胴部球形指向。内外面に煤附着。	にぶい橙 5YR6/4	にぶい褐 7.5YR5/4	灰白 N7/	
48	411	L6-13	Ⅲd	土師器	甕	16.0	24.1	21.3	—	口縁は直線的に外上方へ立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部は急に曲がる。胴部は球形。丸底。外面底部・胴部中に煤附着。胎土中稀に小礫を含む。	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	黒 5Y2/1	
48	412	L6-17・18	Ⅲd	土師器	甕	15.6	〈18.8〉	21.1	—	口縁は直線的に外上方へ立ち上がる。口唇は外傾する面を成す。頭部屈曲はやや急。外面胴部に煤附着。	暗灰黄 2.5Y4/2	にぶい褐 7.5Y5/4	黒褐 2.5Y3/1	
48	413	L6-13	Ⅲd	土師器	甕	15.3	21.9	19.0	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部屈曲はやや急。胴部は球形指向。丸底。内外面に煤附着。器面剥離顕著。	褐灰 7.5YR4/1	にぶい赤褐 5YR5/3	—	
49	414	L6-7・8	Ⅲd	土師器	甕	14.8	〈14.9〉	17.0	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は外傾する面を成し外側にやや肥厚する。頭部屈曲は急。内面胴部と外面胴部中位以上に煤附着。	にぶい褐 7.5YR5/3	褐 7.5YR4/3	オリープ黒 7.5Y3/1	
49	415	L6-18	Ⅲd	土師器	甕	13.4	〈15.6〉	15.0	—	口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部屈曲はやや急。胴部は球形指向?内面胴部中位と外面胴部中位以上に煤附着。	にぶい橙 5YR6/4	にぶい褐 7.5YR6/3	灰黄褐 10YR6/3	
49	416	L6-17・18 ・22	Ⅲd・Ⅲd-3	土師器	甕	13.7	〈16.7〉	17.4	—	口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部屈曲はやや急。内面胴部中位以下と外面胴部上位以上煤附着。	にぶい橙 5YR6/4	黒 2.5YR2/1	灰 5Y5/1	
49	417	L7-1	Ⅲd	土師器	甕	12.8	16.6	16.6	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は平らな面を成す。頭部屈曲はやや急。胴部は球形。丸底。内面に粘土が帯状に附着する。	橙 2.5YR6/6	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 2.5YR6/6	
49	418	L6-17・18	Ⅲd・Ⅲ	土師器	甕 胴	—	〈11.5〉	14.6	—	頭部屈曲はやや急。外面胴部中位以上に煤附着。	にぶい褐 7.5YR6/3	灰褐 7.5YR5/2	黄灰 2.5Y6/1	
49	419	L6-13	Ⅲd	土師器	甕	14.8	〈11.9〉	17.6	—	口縁は直線的に外上方へ立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部屈曲はやや急。外面胴部中位以上に煤附着。	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR5/2	灰 10Y5/1	
50	420	L6-17・18	Ⅲb・Ⅲd・ Ⅲd-3	土師器	甕	13.8	〈17.1〉	16.7	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は外傾する丸味を持った面を成す。頭部屈曲はやや急。胴部は球形指向。丸底。内面胴部中位以下一部に煤附着。	にぶい褐 7.5YR5/3	黒 7.5YR2/1	灰 5Y6/1	
50	421	L6-22	Ⅲb・Ⅲd	土師器	甕	14.4	〈16.7〉	16.1	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は尖り気味に丸く修める。頭部屈曲はやや急。胴部はやや長胴形。	灰黄 2.5Y6/2	暗灰黄 2.5Y5/2	黄灰 2.5Y4/1	
50	422	L6-17・18	Ⅲd・Ⅲd-3	土師器	甕	14.1	18.3	16.1	—	口縁は外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は丸く修め部分的に外側に肥厚する。頭部はやや急に屈曲又は外反する。胴部はやや長胴形。内面底部と外面胴部に煤附着。	にぶい橙 5YR6/4	明赤褐 5YR5/6	灰 10Y5/1	

表23 4 A区遺物観察表21

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 グリッド	層	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
							口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
50	423	L6-17・22	Ⅲb・Ⅲd	土師器	甕		15.3	18.2	18.1	—	口縁は緩く外反する。口唇は尖り気味に丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部は球形。内面底部と外面胴部中位一部に煤附着。	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/3	灰 N6/	
50	424	L6-13	Ⅲd	土師器	甕		14.8	21.7	20.0	—	口縁は外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は外傾する面を成す。頸部屈曲は急。胴部球形。丸底。胎土中に細砂を多く含む。外面胴部中位以下に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/4	灰黄褐 10YR5/2	灰 10Y5/1	
50	425	L7-1	Ⅲd	土師器	甕		15.4	21.1	19.9	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がり端部で外反する。口唇は尖り気味に丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部は球形。丸底。外面胴部中位以上に煤附着。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 N4/	
51	426	L6-17・22	Ⅲd	土師器	甕		19.0	22.4	22.5	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は尖り気味に丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部球形。丸底。	灰黄褐 10YR4/2	にぶい褐 7.5YR5/4	灰 2.5Y7/1	
51	427	L6-17・18	Ⅲd・Ⅲd-3	土師器	甕		13.2	(16.2)	17.4	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸味を持った面を成し、外側にやや肥厚する。頸部屈曲はやや急。胴部は球形指向。外面胴部中位・口縁に煤附着。	灰黄 2.5Y7/2	浅黄 2.5Y7/3	オリーブ黒 5Y3/1	
51	428	L6-18	Ⅲd	土師器	甕		16.0	(11.9)	19.6	—	口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は太く丸く修める。頸部屈曲はやや急。内面胴部中位一部と外面胴部上位以上に煤附着。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 5Y5/1	
52	429	L6-8	Ⅲd	土師器	甕		15.3	(23.5)	20.6	—	口縁は外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急で下位に弱い段が残る。胴部は長胴形。外面胴部中位・口縁一部に煤附着。	黄灰 2.5Y4/1	黄灰 2.5Y5/1	灰 5Y5/1	
52	430	L6-22	Ⅲd・Ⅲd-2	土師器	甕		8.4	20.6	20.3	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部は緩く曲がる。胴部は球形指向。丸底。内面底部と外面胴部中位以上に煤附着。	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 7.5YR7/6	灰 10Y4/1	
52	431	L6-18	Ⅲd	土師器	甕	胴	—	(4.3)	—	—	頸部はヨコナデにより彎曲する。内面胴部中位以上と外面胴部中位・上位一部に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	橙 5YR7/6	灰 N4/	
52	432	L6-18	Ⅲd	土師器	甕		16.1	18.1	15.0	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は外傾する面を成す。頸部は緩やかに曲がる。胴部は砲弾形?丸底。内面胴部と外面胴部中位以上に煤附着。	にぶい褐 7.5YR6/3	灰褐 7.5YR5/2	浅黄橙 10YR8/3	
52	433	L6-7・18	Ⅲd	土師器	甕	胴	—	(16.9)	19.4	—	頸部はナデにより彎曲する。内面底部と外面胴部中位に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/4	橙 5YR6/6	灰 5Y4/1	
53	434	L6-22	Ⅲd-3	土師器	甕		11.2	13.3	12.5	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部は緩く曲がる。丸底。胴部は球形指向。外面胴部に煤附着。	にぶい黄 2.5Y6/3	灰黄褐 10YR5/2	灰 7.5Y4/1	
53	435	L7-1	Ⅲd・Ⅲd-3	土師器	甕		11.3	15.1	13.2	—	口縁は直線的に外上方へ立ち上がる。口唇は外傾する平らな面を成し外側にやや肥厚する。頸部屈曲はやや急。胴部は球形指向。丸底。内面底部と外面胴部から口縁に煤附着。胎土中に小礫、粘土塊を含む。	にぶい橙 5YR6/4	にぶい赤褐 5YR5/2	にぶい褐 7.5YR5/4	
53	436	L6-23	Ⅲd	土師器	甕		12.0	16.3	14.5	—	口縁は緩く外反する。口唇は外傾する面を成す。頸部は緩やかに曲がる。胴部は球形指向。やや尖底の丸底。内面底部と外面胴部中位に煤附着。	にぶい黄褐 10YR6/3	にぶい黄褐 10YR6/3	灰 7.5Y5/1	
53	437	L6-22・L7-1	Ⅲd	土師器	甕		11.1	15.8	11.6	—	口縁は直線的に外上方へ立ち上がり、内面に弱い段を持つ。口唇は丸く修める。頸部屈曲は緩やか。丸底。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR7/3	
53	438	L7-1	Ⅲb・Ⅲd	土師器	甕		13.2	(12.8)	16.0	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は太く丸く修める。頸部屈曲はやや急。外面胴部中位に煤附着。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 5Y5/1	
53	439	L7-1	Ⅲb	土師器	甕		12.4	(10.7)	15.2	—	口縁は頸部から連続して外反する。口唇は尖り気味に丸く修める。	灰黄褐 10YR5/2	灰褐 10YR4/1	黄灰 2.5Y5/1	
53	440	L6-17・21・22	Ⅲb・Ⅲd	土師器	甕		14.5	(20.3)	19.2	—	口縁は外反する。口唇は丸く修める。頸部は緩やかに曲がる。胴部はやや長胴形。胎土中に細砂、砂粒を少量含む。	灰黄褐 10YR4/2	灰黄褐 10YR5/2	灰 N5/	
53	441	L7-1	Ⅲb・Ⅲd	土師器	甕		16.4	(22.3)	23.1	—	口縁は外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は尖り気味に丸く修める。胎土中に細砂を多く含む。器壁を薄く仕上げる。	褐灰 10YR5/1	明褐 7.5YR5/6	灰 N4/	
54	442	L7-1	Ⅲb・Ⅲd	土師器	甕		17.3	28.3	25.6	—	口縁は外反する。口唇は丸く修める。頸部は緩く曲がる。胴部は球形指向。丸底。内面胴部中位と外面胴部中位・口縁に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 5Y4/1	
54	443	L6-17・22	Ⅲb・Ⅲd	土師器	甕		7.3	(20.9)	24.2	—	口縁は外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部は緩く曲がる。器壁薄。	褐灰 10YR5/1	褐灰 10YR5/2	灰 5Y5/1	

表24 4 A区遺物観察表22

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 Na	出土地点 グリッド	層	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
							口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
55	444	L6-17	Ⅲd	土師器	甕		15.8	(19.3)	21.1	—	口縁は頸部から連続的に外反する。口唇は丸く修める。外面胴部中位以上に煤附着。	灰黄褐 10YR6/2	褐灰 10YR5/1	灰 5Y5/1	
55	445	L7-1	Ⅲd	土師器	甕		12.3	19.7	19.1	—	頸部から口縁は連続的に外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修め一部では外側に肥厚する。胴部球形。	灰黄褐 10YR5/2	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 7.5Y4/1	
55	446	L6-17・23	Ⅲd	土師器	甕		13.0	(9.1)	16.0	—	口縁は外反する。口唇は丸く修める。頸部は緩く曲がる。胴部は丸味を持つ。	褐灰 10YR5/1	灰黄褐 10YR5/2	黄灰 2.5Y6/1	
55	447	L7-1	Ⅲb	土師器	甕		16.1	32.2	26.4	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部は緩く曲がる。胴部は球形指向。丸底。	灰 5Y4/1	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 N6/	
56	448	L6-22	Ⅲd	土師器	甕	口縁	13.4	(2.7)	—	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は外傾する面を成し外側に肥厚する。頸部屈曲はやや急。	灰黄褐 10YR6/2	にぶい橙 5YR6/4	灰 N4/	
56	449	L7-6	Ⅲd	土師器	甕	口縁	14.3	(3.6)	—	—	口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲は急。	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	灰 5Y6/1	
56	450	L6-8	Ⅲd	弥生土器	甕	口縁	12.0	(6.3)	—	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は外傾する面を成し外側に肥厚する。頸部屈曲はやや急。内面胴部・口縁と外面胴部中位一部に煤附着。	橙 2.5YR6/8	明褐 2.5YR5/6	灰 5Y4/1	弥生中～ 後期土器
56	451	L6-13	Ⅲd	土師器	甕	口縁	15.0	(4.0)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。頸部屈曲はやや急。内面口縁一部に煤附着。	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい橙 5YR6/4	灰 N5/	
56	452	L7-1	Ⅲd	土師器	甕	口縁	13.6	(2.4)	—	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	黄灰 5Y6/1	
56	453	L6-18	Ⅲd	土師器	甕	口縁	15.0	(2.7)	—	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。外面口縁に煤附着。	橙 5YR6/6	橙 7.5YR7/6	灰 7.5Y4/1	
56	454	L6-17・22	Ⅲd・Ⅲd-3	土師器	甕		13.9	(13.9)	16.8	—	口縁は直線的に外上方へ立ち上がる。口唇は外傾する面を成し外側に肥厚する。頸部屈曲はやや急。外面胴部中位以上に煤附着。	にぶい黄褐 10YR5/3	黒 5Y2/1	灰 5Y5/1	
56	455	L6-23	Ⅲd	土師器	甕	口縁	13.4	(3.9)	—	—	口縁は直線的に外上方へ立ち上がる。口唇は丸味を持った狭い面を成す。頸部屈曲はやや急。	にぶい橙 5YR6/3	にぶい橙 5YR6/4	橙 5YR7/6	
56	456	L6-22	Ⅲd	土師器	甕	口縁	14.4	(4.6)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲は急。外面口縁部分的に煤附着。	灰黄褐 10YR5/2	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 5Y5/1	
56	457	L6-18	Ⅲd	土師器	甕	口縁	17.0	(9.1)	—	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は面を成す。頸部屈曲はやや急。外面胴部中位・口縁に煤附着。	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2	灰 5Y6/1	
56	458	L6-8	Ⅲd	土師器	甕	口縁	13.3	(5.3)	—	—	口縁は緩く外反する。口唇は丸味を持った面を成す。頸部屈曲はやや急。	にぶい黄橙 10YR3/2	灰褐 7.5YR5/2	灰 N4/	
56	459	L6-2	Ⅲd	土師器	甕	口縁	13.3	(5.7)	—	—	口縁は直線的に短く外上方に立ち上がる。口唇は外傾する中央の窪んだ面を成し外側にやや肥厚する。頸部屈曲は急。外面に煤附着。	灰黄褐 10YR5/2	灰黄褐 10YR6/2	灰 10Y4/1	
56	460	L6-18	Ⅲd	土師器	甕	口縁	15.8	(7.2)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。外面胴部上位以上に煤附着。	にぶい黄褐 10YR5/3	黒褐 10YR3/1	灰 5Y4/1	
57	461	L6-22	Ⅲd	土師器	甕	口縁	14.5	(3.8)	—	—	口縁は内彎気味に外上方へ立ち上がる。口唇は丸く修める。内外面口縁一部に煤附着。	灰 5Y4/1	にぶい褐 7.5Y5/3	黒 5Y2/1	
57	462	L6-22	Ⅲd	土師器	甕	口縁	17.0	(2.6)	—	—	口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は外傾する丸味を持った面を成し外側にやや肥厚する。内外面口縁一部に煤附着。	灰黄褐 10YR2/4	黄褐 10YR5/6	灰 7.5Y4/1	
57	463	L6-13	Ⅲd	土師器	甕	口縁	11.0	(8.1)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は外傾する面を成す。頸部屈曲はやや急。内面胴部中位と外面胴部上位以上の部分的に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	褐灰 10YR4/1	オリーブ黒 7.5Y3/1	
57	464	L7-12	Ⅲd-2	土師器	甕	口縁	13.9	(5.4)	—	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。頸部屈曲はやや急。精製胎土。	明褐灰 7.5YR7/2	にぶい橙 5YR7/4	浅黄橙 7.5YR8/4	

表25 4 A区遺物観察表23

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 グリッド	器種 層	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考	
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土		
57	465	L6-17	Ⅲd・Ⅲd-3	土師器	甕	口縁	16.0	〈5.0〉	—	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修め外側に肥厚する。頸部屈曲はやや急。内外面口縁一部に煤付着。	黄灰 2.5Y5/1	暗灰黄 2.5Y5/2	黄灰 2.5Y4/1	
57	466	L7-2	Ⅲb・Ⅲd	土師器	甕	口縁	17.8	〈5.2〉	—	—	口縁は直線的又は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。外面口縁一部に煤付着。	赤褐 2.5YR5/6	にぶい赤褐 2.5YR5/3	オリーブ黒 5Y3/1	
57	467	L6-13	Ⅲd	土師器	甕	口縁	17.2	〈3.5〉	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。外面口縁下に煤付着。	褐灰 10YR4/1	にぶい黄褐 10YR5/3	灰黄褐 10YR5/2	
57	468	L6-22	Ⅲd	土師器	甕	口縁	16.7	〈4.2〉	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修め外側にやや肥厚する。頸部屈曲はやや急。	にぶい黄橙 10YR6/3	黒 N2/	にぶい褐 7.5YR6/3	
57	469	L6-22	Ⅲd-3	土師器	甕		16.8	〈9.2〉	17.4	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい褐 7.5YR6/3	
57	470	L6-7	Ⅲd	土師器	甕	口縁	17.1	〈4.8〉	—	—	口縁は内彎気味に外斜上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲は急。外面口縁に煤付着。	オリーブ黒 5Y3/1	黒 5Y2/1	灰 5Y3/1	
57	471	L6-17	Ⅲd	土師器	甕	口縁	17.1	〈3.2〉	—	—	口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲は急。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 7.5Y5/1	
57	472	L6-13・17 ・18・22	Ⅲd	土師器	甕	口縁	13.6	〈11.2〉	—	—	口縁は内彎気味に外上方へ立ち上がる。口唇は丸味を持った内傾する面を成し内側に肥厚する。頸部屈曲は急。内面胴部中位と外面胴部・口縁に煤付着。	にぶい褐 7.5YR5/3	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	搬入品
57	473	L6-22	Ⅲd	土師器	甕	口縁	17.0	〈13.0〉	17.6	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は部分的に面を成す。頸部屈曲はやや急。外面胴部中位以上に煤付着。	灰黄褐 10YR5/2	灰黄褐 10YR4/2	にぶい黄橙 10YR7/3	
57	474	L6-23	Ⅲd	土師器	甕	口縁	21.6	〈9.3〉	—	—	口縁は直線的に外上方へ立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。外面胴部中位・口縁部分的に煤付着。	灰黄 2.5Y7/2	浅黄橙 10YR8/3	灰 5Y6/1	
58	475	L6-22	Ⅲd	土師器	甕	口縁	12.8	〈3.2〉	—	—	口縁は外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸味を持った面又は丸く修める。頸部屈曲はやや急。内面口縁部分的と外面口縁に煤付着。	にぶい褐 7.5YR6/3	黒 7.5YR2/1	灰 10Y6/1	
58	476	L7-1	Ⅲd-3	土師器	甕	口縁	16.0	〈2.8〉	—	—	口縁は緩く外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。内外面口縁一部に煤付着。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 5Y5/1	
58	477	L6-8	Ⅲd	弥生 土器?	甕	口縁	14.4	〈5.0〉	—	—	口縁は緩く外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は外傾する面を成し外側に肥厚する。頸部屈曲はやや急。内面胴部上位以上と外面胴部上位以上に煤付着。	黒褐 10YR3/1	灰黄褐 10YR4/2	黄灰 2.5Y5/1	弥生後期 土器
58	478	L6-23	Ⅲd	土師器	甕	口縁	16.2	〈2.4〉	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修め外側にやや肥厚する。外面口縁一部に煤付着。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	灰白 10YR8/3	
58	479	L6-22	Ⅲd	土師器	甕	口縁	12.9	〈5.2〉	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は外傾する面を成し外側にやや肥厚する。頸部屈曲はやや急。内面胴部・口縁一部と外面胴部上位に煤付着。	黄灰 2.5Y5/1	暗灰 N3/	オリーブ灰 5Y3/1	
58	480	L6-22	Ⅲd-2	土師器	甕	口縁	15.0	〈5.7〉	—	—	口縁は外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は外傾する丸味を持った面を成す。頸部屈曲はやや急。内面頸部に煤付着。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 10Y4/1	
58	481	L6-18	Ⅲd	土師器	甕	口縁	15.2	〈3.4〉	—	—	口縁は外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。内面口縁一部に煤付着。	暗灰黄 2.5Y4/2	黄褐 2.5Y5/3	灰 N5/	
58	482	L6-7	Ⅲd	土師器	甕	口縁	16.2	〈2.7〉	—	—	口縁は外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。内外面口縁部分的に煤付着。	橙 5YR6/6	灰黄褐 10YR5/2	灰 5Y5/1	
58	483	L6-13	Ⅲd	土師器	甕	口縁	16.1	〈11.0〉	—	—	口縁は緩く外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は外傾する面又は丸味を持った面を成す。頸部屈曲は急。外面胴部中位・口縁一部に煤付着。	橙 7.5YR7/6	にぶい赤褐 5YR5/4	灰 5Y4/1	
58	484	L6-22	Ⅲd	土師器	甕	口縁	16.8	〈4.8〉	—	—	口縁は外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。頸部屈曲はやや急。外面口縁に煤付着。	褐灰 10YR4/1	橙 5YR7/6	灰 5Y5/1	
58	485	L6-13	Ⅲd	土師器	甕	口縁	17.4	〈3.8〉	—	—	口縁は緩く外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は外傾する面を成し外側にやや肥厚する。頸部屈曲は急。外面胴部中位から口縁に煤付着。	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	橙 5YR7/6	

表26 4 A区遺物観察表24

【土器・土製品】

Fig. No.	遺物 Na	出土地点 グリッド	層	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
							口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
58	486	L6-17・22 ・L7-2	Ⅲd	土師器	甕	口縁	15.0	(8.4)	—	—	口縁は緩く外反する。口唇は尖り気味に丸く修める。頸部屈曲は急。外面に煤附着。	灰黄褐 10YR5/2	にぶい褐 7.5YR5/3	灰 10Y5/1	
58	487	L7-1	Ⅲd	土師器	甕	口縁	17.4	(5.4)	—	—	口縁は外反して外上方に立ち上がる。口唇は尖り気味に丸く修める。頸部屈曲はやや急。外面口縁一部に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR5/3	黄灰 2.5Y4/1	
58	488	K7-11	Ⅲd	土師器	甕	口縁	20.2	(5.3)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修め一部では外側に肥厚する。頸部屈曲はやや急。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR6/4	灰 7.5Y5/1	
58	489	L6-22	Ⅲd	土師器	甕	口縁	18.2	(7.9)	—	—	口縁は緩く外反して外斜方に立ち上がる。口唇は狭い外傾する面を成す。頸部屈曲はやや急。内面口縁と外面胴部中位・口縁に煤附着。	黄灰 2.5Y4/1	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 N4/	
59	490	L6-17	Ⅲd	土師器	甕	口縁	11.9	(6.2)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部は彎曲する。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄橙 10YR6/3	暗灰 N3/	
59	491	L7-1	Ⅲd-2	土師器	甕	口縁	14.2	(3.3)	—	—	口縁は外反して外上方に立ち上がる。口唇は尖り気味に丸く修める。頸部屈曲はやや急。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 N4/	
59	492	L6-13	Ⅲd	土師器	甕	口縁	13.6	(9.3)	14.4	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修め一部では外側に肥厚する。頸部は彎曲又はやや急に屈曲する。内外面胴部上位・口縁に煤附着。	黄灰 2.5Y5/1	灰黄褐 10YR6/2	灰 5Y5/1	
59	493	L7-6	Ⅲd	土師器	甕	口縁	16.4	(8.9)	17.5	—	口縁は外反して外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。頸部屈曲はやや急乃至彎曲する。外面頸部部分的に煤附着。	黄灰 2.5Y4/1	にぶい黄 2.5Y6/3	灰 N4/	
59	494	L6-22	Ⅲd	土師器	甕	口縁	16.6	(3.9)	—	—	口縁は外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。内外面口縁部分的に煤附着。	にぶい黄 2.5Y6/3	にぶい褐 7.5YR5/4	灰 7.5Y4/1	
59	495	L7-1	Ⅲd	土師器	甕	口縁	15.2	(6.8)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。内面胴部上位一部と外面胴部上位・口縁一部に煤附着。	褐灰 10YR4/1	灰褐 5YR5/2	灰 7.5Y5/1	
59	496	L7-1	Ⅲd-2	土師器	甕	口縁	15.5	(7.1)	—	—	口縁は外反して外上方に立ち上がる。口唇は外側へ尖り気味に丸く修める。外面胴部上位以上部分的に煤附着。	黄灰 2.5Y5/1	灰黄褐 10YR6/2	灰 N4/	
59	497	L6-23	Ⅲd	土師器	甕	口縁	14.2	(10.4)	—	—	口縁は直線的に外上方へ立ち上がる。口唇は内傾する平坦面を成す。頸部屈曲はやや急。外面口縁に煤附着。	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR5/2	浅黄橙 7.5YR8/3	
59	498	L6-23	Ⅲd	土師器	甕	口縁	17.9	(7.6)	—	—	口縁は外反する。口唇は尖り気味に丸く修める。頸部屈曲はやや急。	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 10Y5/1	
59	499	L6-22	Ⅲd	土師器	甕	口縁	18.8	(6.6)	—	—	口縁は外反して外斜方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。外面胴部中位に煤附着。	灰黄褐 10YR5/2	灰黄褐 10YR6/2	オリープ黒 7.5Y3/1	
60	500	L7-2	Ⅲd	土師器	甕	口縁	15.8	(4.5)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。頸部屈曲はやや急。外面口縁部分的に煤附着。	橙 5YR6/6	明赤褐 2.5YR5/6	灰 N4/	
60	501	L6-17	Ⅲd	土師器	甕	口縁	17.0	(3.3)	—	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は概ね外傾する面を成す。頸部はナデにより彎曲する。外面口縁一部に煤附着。	橙 5YR7/6	橙 7.5YR6/6	灰 N4/	
60	502	L6-18	Ⅲd	土師器	甕	口縁	16.8	(3.2)	—	—	口縁は外反して外上方に立ち上がる。口唇はやや玉縁状に丸く修める。外面口縁部分的に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR7/3	
60	503	L6-21	Ⅲd	土師器	甕	口縁	17.3	(4.1)	—	—	口縁は外反して外斜方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部は彎曲する。	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 N4/	灰 5Y5/1	
60	504	L6-22	Ⅲd	土師器	甕	口縁	13.4	(10.6)	—	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は外傾する面を成すが部分的には丸く修める。頸部屈曲はやや急。内面胴部中上位一部と外面胴部中位以上に煤附着。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい褐 7.5YR5/3	灰 7.5Y4/1	
60	505	L6-13	Ⅲd	土師器	甕	口縁	16.9	(5.0)	—	—	口縁は緩く外反して外斜方に立ち上がる。口唇は外傾する面を成し外側に肥厚する。頸部屈曲はやや急。	にぶい橙 5YR7/4	にぶい褐 7.5YR6/3	灰 N4/	
60	506	L7-6	Ⅲd	土師器	甕	口縁	16.4	(9.3)	17.7	—	口縁は直線的に外上方へ立ち上がる。口唇は丸く修め外側にやや肥厚する。頸部屈曲はやや急。外輪胴部中位・口縁に煤附着。	暗灰黄 2.5Y5/2	にぶい褐 7.5YR5/3	灰 N4/	

表27 4 A区遺物観察表25

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 グリッド	層	器種	器形	部位	法量 (cm)			特徴	色調			備考
							口径	器高	胴径		底径	内面	外面	
60	507	L7-1・6	Ⅲb・Ⅲd-2 ・Ⅲd-3	土師器	甕	口縁	16.6	〈10.9〉	22.7	—	口縁は内彎気味に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部屈曲はやや急。外面胴部中位に煤附着。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 N5/
60	508	L6-22	Ⅲd	土師器	甕	口縁	21.0	〈6.5〉	—	—	口縁は頭部から連続的に外反し外上方に立ち上がる。口唇は外傾する面を成す。外面胴部中位一部・口縁に煤附着。	にぶい黄 2.5Y6/3	にぶい黄褐 10YR6/4	黄灰 2.5Y4/1
60	509	L6-17	Ⅲd	土師器	甕	口縁	17.3	〈14.2〉	21.5	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部屈曲はやや急。頭部下は調整により彎曲する。外面胴部中位と口縁に煤附着。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 N5/
61	510	L7-2	Ⅲd	土師器	甕	口縁	10.6	〈10.7〉	11.9	—	口縁は緩やかに外反する。口唇は外傾する面を成す。頭部は緩く曲がる。胴部は長胴形。外面胴部中位に煤附着。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	暗灰 N3/
61	511	L6-18	Ⅲd	土師器	甕	口縁	11.7	〈3.5〉	—	—	口縁は外反して外上方に立ち上がる。口唇は尖り気味に丸く修める。頭部は緩く曲がる。外面口縁に煤附着。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい褐 7.5YR5/4	灰 5Y5/1
61	512	L7-1	Ⅲd	土師器	甕	口縁	13.3	〈4.7〉	—	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修め、外側に粘土が盛り上がる。頭部は緩く曲がる。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい褐 7.5YR6/3	灰 N5/
61	513	K7-11	Ⅲd-2	土師器	甕	口縁	13.8	〈4.2〉	—	—	口縁は緩やかに外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸味を持った面を成す。	にぶい黄褐 10YR5/4	にぶい黄褐 10YR6/4	黄灰 2.5Y5/1
61	514	L7-6	Ⅲd	土師器	甕	口縁	15.1	〈4.1〉	—	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部は緩く曲がる。	にぶい黄褐 10YR5/4	にぶい黄褐 10YR5/4	灰 7.5Y5/1
61	515	L7-1	Ⅲd	土師器	甕	口縁	12.3	〈8.8〉	14.1	—	口縁は直線的に外上方へ立ち上がる。口唇は面を成す。頭部は緩く曲がる。外面煤附着。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 5Y5/1
61	516	L6-8	Ⅲd	土師器	甕	口縁	13.8	〈6.8〉	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部は緩やかに曲がる。内外面口縁一部に煤附着。	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 7.5YR8/4	灰 N4/
61	517	L7-1	Ⅲd	土師器	甕	口縁	14.0	〈4.5〉	—	—	口縁は頭部から連続的に外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。外面口縁一部に煤附着。	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 N5/
61	518	L6-22	Ⅲd	土師器	甕?	口縁	18.0	〈5.0〉	—	—	口縁は緩く外反する。口唇は面を成し、外側にやや肥厚する。	灰黄褐 1YR6/2	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 5Y6/1
61	519	L6-7	Ⅲd	土師器	甕	口縁	13.6	〈2.9〉	—	—	口縁は外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 5Y6/1
61	520	L6-22	Ⅲd	土師器	甕	口縁	15.4	〈6.4〉	—	—	口縁は緩く外反する。口唇は尖り気味に丸く修める。内側に弱い段が形成される。頭部は緩やかに曲がる。	灰 5Y5/1	灰黄 2.5Y6/2	黄灰 2.5Y6/1
61	521	L6-13	Ⅲd	土師器	甕	口縁	13.8	〈9.4〉	17.2	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸味を持って修め外側にやや肥厚する。頭部は緩く曲がる。	にぶい橙 5YR6/4	にぶい赤褐 5YR5/3	褐灰 10YR5/1
61	522	L6-22	Ⅲd	土師器	甕	口縁	17.2	〈5.8〉	—	—	口縁は緩く外反する。口唇は平坦面を成し、部分的に内外傾する。頭部は緩く曲がる。外面口縁に煤附着。	にぶい黄褐 10YR5/3	灰黄褐 10YR5/2	にぶい黄橙 10YR6/4
62	523	K7-5	Ⅲd-3	土師器	甕	口縁	14.8	〈5.7〉	—	—	口縁は外反して外上方に立ち上がる。口唇は尖り気味に丸く修める。頭部は緩く曲がる。外面口唇下部に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 10Y5/1
62	524	L6-17	Ⅲd	土師器	甕	口縁	15.2	〈4.3〉	—	—	口縁は頭部から連続的に外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸味を持った面を成す。	灰黄褐 10YR6/2	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 N4/
62	525	L6-22	Ⅲd	土師器	甕	口縁	18.6	〈2.9〉	—	—	口縁は外反して外上方に立ち上がる。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい褐 7.5YR6/3	灰 5Y5/1
62	526	L6-22	Ⅲd	土師器	甕	口縁	15.0	〈3.4〉	—	—	口縁は外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。	暗灰黄 2.5Y5/2	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 N4/
62	527	L6-17	Ⅲd・Ⅲd-3	土師器	甕	口縁	22.4	〈4.8〉	—	—	口縁は頭部から連続的に外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸くおさめる。内外面口縁一部に煤附着。	灰黄褐 10YR6/2	にぶい黄橙 10YR6/3	灰白 5Y7/1

表28 4 A区遺物観察表26

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 Na	出土地点 グリッド	器種 層	器形 部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
					口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
62	528	L7-1	Ⅲd	土師器 甕	口縁	16.6	(3.1)	—	—	口縁は頸部から連続的に外反して外上方に立ち上がる。口唇は尖り気味に丸く修める。	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/3	灰 N4/
62	529	L6-18	Ⅲd	土師器 甕	口縁	15.6	(3.9)	—	—	口縁は頸部から連続的に外反し外斜上方に立ち上がる。口唇は細く尖る。	浅黄橙 10YR8/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 N4/
62	530	L6-17	Ⅲd	土師器 甕	口縁	23.5	(8.1)	—	—	口縁は頸部から連続的に外反して外上方に立ち上がる。外面胴部上位以上一部に煤附着。	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/3	灰 7.5Y5/1
62	531	L6-22	Ⅲd	土師器 甕	口縁	13.6	(5.7)	—	—	口縁は頸部から連続的に外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は尖り気味に丸く修める。内外面胴部上位以上に煤附着。	灰黄褐 10YR4/2	灰黄褐 10YR5/2	灰 7.5Y5/1
62	532	L6-23	Ⅲd	土師器 甕	口縁	17.4	(9.8)	—	—	口縁は外反する。口唇は丸く修める。頸部は緩く曲がる。外面胴部中位・口縁に煤附着。	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	緑灰 7.5GY5/1
62	533	L6-17	Ⅲd	土師器 甕	口縁	15.0	(7.3)	—	—	口縁は外反する。口唇は面を成し、外側にやや肥厚する。頸部は緩く曲がる。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 N4/
62	534	L6-7・18	Ⅲd	土師器 甕	口縁	14.9	(10.3)	—	—	口縁は緩く外反する。口縁は丸く修める。頸部は緩く曲がる。外面胴部中位・口縁に煤附着。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 10Y6/1
62	535	L7-1	Ⅲb・Ⅲd-2	土師器 甕		15.3	(9.2)	8.5	—	口縁は外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頸部は緩く曲がる。外面口縁一部に煤附着。	褐灰 10YR5/1	灰黄褐 10YR6/2	灰 5Y5/1
63	536	L6-8	Ⅲd	土師器 甕	胴部	—	(12.5)	21.2	—	頸部屈曲はやや急。外面胴部中位・口縁一部に煤附着。	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 7.5Y4/1
63	537	L7-1	Ⅲd	土師器 甕	胴部	—	(5.6)	—	—	頸部屈曲はやや急。外面胴部中位・口縁に煤附着。	黄灰 2.5Y4/1	黒 N2/	灰 7.5Y4/1
63	538	K7-1・5・6	Ⅲb・Ⅲd	土師器 甕	胴部	—	(6.5)	—	—	頸部屈曲はやや急。外面胴部上位一部に薄く煤附着。	黒褐 2.5Y3/1	黒褐 2.5Y3/1	灰 5Y4/1
63	539	L6-13	Ⅲd	土師器 甕	胴部	—	(12.5)	21.0	—	頸部屈曲は急。内外面胴一部に煤附着。	黄灰 2.5Y4/1	にぶい褐 7.5YR5/3	灰 7.5Y5/1
63	540	L6-22	Ⅲd-3	土師器 甕	胴部	—	(9.8)	15.1	—	頸部屈曲はやや急。外面胴部中位・口縁に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/4	灰 5Y5/1
63	541	L6-17	Ⅲd-3	土師器 甕?	胴部	—	(5.3)	—	—	頸部屈曲はやや急。	黄灰 2.5Y6/1	にぶい黄橙 10YR7/2	灰 5Y5/1
63	542	L6-22	Ⅲd	土師器 甕	胴部	—	(8.9)	—	—	内面胴部一部と外面胴部中位に煤附着。	灰黄褐 10YR5/2	暗灰 N3/	灰 7.5Y5/1
63	543	L6-7・13・18	Ⅲd	土師器 甕	胴部	—	(11.8)	17.8	—	外面胴部中位に煤附着。	にぶい黄褐 10YR5/3	黄灰 2.5Y4/1	灰 5Y5/1
63	544	L6-13	Ⅲd	土師器 甕		—	(13.0)	20.8	—	器壁薄。内面胴部下位と外面胴部中位に煤附着。	にぶい赤褐 5YR4/4	灰褐 7.5YR4/2	暗灰 N3/
64	545	L7-2	Ⅲd	土師器 甕	胴部	—	(13.3)	17.2	—	長胴形?内面底一部と外面部分的に煤附着。	褐灰 10YR4/1	にぶい褐 7.5YR5/3	灰 7.5YR5/1
64	546	L6-22	Ⅲd-3	土師器 甕	底部	—	(3.3)	—	—	丸底。外面底部に煤附着。	オリーブ黒 5Y3/1	にぶい褐 7.5YR6/3	灰 N4/
64	547	L6-17・18	Ⅲd	土師器 甕	底部	—	(4.9)	—	—	底部はやや尖る。底部に煤附着。	にぶい黄橙 10YR7/2	灰黄 2.5Y7/2	灰 N4/
64	548	L6-22	Ⅲb・Ⅲd・Ⅲd-3	土師器 甕	底部	—	(4.6)	—	—	底部は尖底気味。外面胴部下位に煤附着。	にぶい黄橙 10YR7/3	灰 2.5Y5/1	灰 7.5Y4/1
64	549	L7-6	Ⅲd-2	土師器 甕	底部	—	(5.1)	—	—	底部は平底で貼付底風にやや突出し厚みを持つ。	黄灰 2.5Y4/1	7.5YR6/6	灰 5Y5/1
64	550	L6-8	Ⅲd	土師器 甕	胴部	—	(17.6)	20.0	—	胴部はやや長胴形?外面胴部中位一部に煤附着。	灰黄褐 10YR6/2	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 5Y6/1

表29 4 A区遺物観察表27

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 グリッド	器種 層	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調		備考	
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面		胎土
64	551	L6-22	Ⅲd・Ⅲd-3	土師器	甕	底	—	〈7.2〉	—	—	内外面部分的に煤付着。	黒褐 2.5Y3/1	灰黄褐 10YR5/2	灰 5Y5/1
64	552	L6-21・22	Ⅲb・Ⅲd・Ⅲd-3	土師器	壺	底	—	〈17.3〉	26.6	—	丸底	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2	灰 5Y4/1
64	553	L6-23	Ⅲd	土師器	甕	—	〈9.8〉	14.0	—	胎土軽量。胴部球形。丸底?	オリープ黒 5Y3/1	赤褐 5YR5/6	灰 N4/	
65	554	L6-22	Ⅲd	須恵器	蓋	—	12.2	4.2	12.5	頂部径 4.7	口縁は短く上方に立ち上がる。 口唇は丸くおさめる。	灰黄 2.5Y6/2	灰 5Y6/1	明青灰 10BG7/1
65	555	L6-17	Ⅲd	須恵器	蓋	笠	—	〈2.7〉	—	—	—	灰 N5/	灰 N5/	灰 N5/
65	556	L7-6	Ⅲd-2	土師器	有溝土錘	—	全長 8.1	全幅 3.8	全厚 2.3	重量 68.4 g	溝幅は上位で12mm、下位では 3mm。一部煤付着。	—	黄橙 7.5YR8/8	浅黄等 10YR8/3
65	557	L6-17	Ⅲd?	鏡	—	—	全長 3.0	全幅 3.0	全厚 1.3	重量 (6.5 g)	平面隅九五五角形。紐孔部は貼 付され横から2×5mmの楕円 孔を穿つ。表面は凸面を成し 裏面は窪む。	黒 2.5Y2/1	黒 2.5Y2/1	—
65	558	L6-17	Ⅲd	鏡	—	—	全長 3.5	全幅 3.6	全厚 (1.4)	重量 (9.4 g)	断面山形の紐孔部を貼付し円 孔φ2.5mmを穿つ。指による押 圧痕。表面は凸面を成す。	にぶい黄橙 10YR5/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 N4/
65	559	L6-8	Ⅲd	鏡	—	—	全長 4.6	全幅 4.7	全厚 1.3	重量 (16.8 g)	紐孔部貼付。押圧痕を残す。 表面は凸面を成す。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい褐 7.5YR6/3	灰 10Y4/1
65	560	L7-12	Ⅲd-2	鏡	—	—	全長 4.0	全幅 4.3	全厚 (2.0)	重量 (16.6 g)	平面不整形。厚い鱗状の紐 孔部が貼付?され、円孔φ4 mmが穿たれる。表面は凸面を 成し浅い凹凸が残る。裏面に 押圧痕が残る。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 N6/
67	562	L6-22	Ⅲb	土師器	ミニチュア	—	5.0	1.9	5.2	—	皿状鉢形の手捏ね。口縁は内 彎して外上方に立ち上がる。 口唇は丸く修める。丸底。	暗灰 N3/	暗灰 N3/	オリープ黒 7.5Y3/1
67	563	L6-22	Ⅲb	土師器	ミニチュア	—	4.8	2.5	—	—	鉢形の手捏ね。口縁は緩く内 彎して外上方に立ち上がる。 口唇は丸く修める。丸底。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 7.5Y5/1
67	564	L6-17	Ⅲb	土師器	ミニチュア	—	4.8	3.6	5.0	—	鉢形の手捏ね。口縁は内彎し て外上方に立ち上がる。口唇 は丸味を持った面を成す。	暗灰黄 2.5Y5/2	灰黄褐 10YR6/2	灰 7.5Y6/1
67	565	L6-18	Ⅲb	土師器	鉢	—	12.8	5.2	13.1	—	皿形?口縁は内湾する。口唇 は丸く修める。丸底。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR7/3
67	566	L6-22	Ⅲb	土師器	ミニチュア	—	—	〈2.3〉	—	—	手捏ね。丸底。	灰黄褐 10YR4/2	灰褐 7.5YR5/2	灰 N4/
67	567	L6-22	Ⅲb	土師器	ミニチュア	—	6.2	7.0	6.7	2.2	甕形?の手捏ね。口縁は外側 に粘土帯を貼付し、直線的に 上方に立ち上がる。口唇は丸 く修める。	灰黄褐 10YR6/2	にぶい橙 5YR6/4	灰 N4/
67	568	L6-22	Ⅲb	土師器	ミニチュア	—	6.8	6.1	6.4	2.8	甕又は鉢形の手捏ね。口縁は 外側に粘土帯を貼付し、緩く 外反して外上方に立ち上がる。 口唇は細く丸く修める。押し つぶした平底。	にぶい黄橙 10YR6/3	オリープ黒 5Y3/1	灰 5Y3/1
67	569	—	Ⅲb	土師器	鉢	—	10.2	7.5	9.4	—	有段鉢形。口縁は内彎して外 上方に立ち上がる。口唇は丸 く修める。	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい褐 7.5YR5/3	灰 7.5Y5/1
67	570	L7-1	Ⅲb	土師器	鉢	—	12.4	〈6.1〉	11.7	—	鉢形の小型丸底土器?口縁は 頸部から連続的に外反して外 上方に立ち上がる。口唇は丸 く修める。精製胎土。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい褐 7.5YR6/3	灰 7.5Y4/1
67	571	L6-17	Ⅲb	土師器	高坏	—	—	〈10.3〉	—	12.2	脚は外反して広がる。端は尖 り気味に丸く修める。	灰白 10YR8/2	にぶい黄橙 10YR7/3	暗灰 N3/
67	572	L6-22	Ⅲb	土師器	高坏	脚	20.4	〈5.2〉	—	—	口縁は緩く外反して外斜め上 方に立ち上がる。口唇は細く 丸く修める。	橙 5YR7/6	にぶい黄橙 10YR7/4	灰 N5/
67	573	L7-1	Ⅲb	土師器	高坏	坏	15.2	〈5.8〉	—	—	口縁は緩く外反して外上方に 立ち上がる。口唇は丸く修め る。胎土中に細砂を多く含む。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい橙 7.5YR7/3
67	574	L6-18	Ⅲb	土師器	高坏	坏	13.4	〈4.5〉	—	—	口縁は内彎する。口唇は細く 丸く修める。胎土中に砂粒を 含む。	暗灰 N3/	灰黄褐 10YR6/2	黄灰 2.5Y5/1

表30 4 A区遺物観察表28

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 Na	出土地点 グリッド	層	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
							口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
67	575	L7-1	Ⅲb	土師器	高坏		15.4	12.8	15.8	10.6	口縁は内彎して上方へ立ち上がる。脚は緩く広がり裾で開く。端は尖り気味に丸く修める。	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	褐灰 10YR6/1	
67	576	L6-22	Ⅲb	土師器	高坏	脚	—	(6.7)	—	9.4	脚は直線的に弱く広がり屈曲後裾は開く。端は丸く修める。胎土中に砂粒を少量含む。	にぶい赤褐 5YR5/4	にぶい橙 5YR6/4	灰 10Y6/1	
67	577	L7-1	Ⅲb	土師器	高坏	脚	—	(6.5)	—	9.3	脚は内彎気味に広がり屈曲後裾は開く。端は丸く修める。胎土中に砂粒を含む。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	灰白 N5/	
67	578	L6-7	Ⅲb	土師器	高坏	脚	—	(7.5)	—	10.6	脚は連続的に外反する。端は概ね丸く修める。胎土中に細砂、砂粒を少量含む。軟質。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR7/4	
68	579	L7-1	Ⅲb	土師器	甕?		15.6	(8.2)	14.2	—	口縁は緩く外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。外面胴部中に煤附着。	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい橙 7.5YR7/3	灰 7.5Y4/1	
68	580	L6-22	Ⅲb	土師器	甕	口縁	18.1	(8.5)	—	—	口縁は頭部から連続的に緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は尖り気味に丸く修める。外面胴部上位以上に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	黄灰 2.5Y5/1	
68	581	L7-1	Ⅲb	土師器	甕		13.5	(7.5)	15.8	—	口縁は頭部から連続的に外反して外上方に立ち上がる。口唇は尖り気味に丸く修める。	灰褐 7.5YR6/2	褐灰 10YR4/1	灰 N4/1	
68	582	L7-1	Ⅲb	土師器	甕?		20.1	(14.3)	19.6	—	口縁は頭部から連続的に外反する。口唇は尖り気味に丸く修める。内外面胴部中位以上一部に煤附着。	灰黄 2.5Y6/2	灰黄褐 10YR6/2	灰 5Y4/1	
69	583	L7-1	Ⅲb	土師器	甕?	口縁	—	(4.7)	—	—	鉢形の小型丸底土器?口縁は頭部から連続的に外反する。口唇は丸く修める。内面口縁一部に煤附着。	灰黄褐 10YR6/2	浅黄橙 10YR8/4	灰 7.5Y4/1	
69	584	L7-1	Ⅲb	土師器	甕	口縁	12.0	(3.3)	—	—	口縁は直線的に外上方へ立ち上がる。口唇は尖り気味に丸く修める。	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/3	灰 7.5Y4/1	
69	585	L6-22	Ⅲb	土師器	甕	口縁	13.8	(3.3)	—	—	口縁は外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。外面口縁一部に煤附着。	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	灰 5Y4/1	
69	586	L6-22	Ⅲb	土師器	甕	口縁	11.2	(4.0)	—	—	口縁は直線的に外上方へ立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部は緩く曲がる。	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい橙 7.5YR6/4	褐灰 10YR4/1	
69	587	L7-1	Ⅲb	土師器	甕	口縁	14.9	(3.3)	—	—	口縁は頭部から連続的に外反して外上方に立ち上がる。口唇は尖り気味に丸く修める。	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/2	灰 7.5Y5/1	
69	588	L7-1	Ⅲb	土師器	甕	口縁	15.4	(3.2)	—	—	口縁は外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は丸く修め外側にやや肥厚する。頭部は緩く曲がる。外面口縁部分的に煤附着。	にぶい黄 2.5Y6/3	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 5Y5/1	
69	589	L7-1	Ⅲb	土師器	甕	口縁	12.4	(3.3)	—	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部は緩く屈曲する。内面口縁一部に煤附着。	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	灰 5Y4/1	
69	590	K7-5	Ⅲb	土師器	甕	口縁	13.0	(4.5)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部は緩く曲がる。	灰 5Y4/1	浅黄 2.5Y7/3	暗灰 N3/	
69	591	L6-22	Ⅲb	土師器	甕	口縁	13.4	(3.8)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい橙 7.5YR6/4	褐灰 10YR4/1	
69	592	L6-22	Ⅲb	土師器	甕	口縁	17.0	(2.9)	—	—	口縁は外反して外上方へ立ち上がる。口唇は丸く修める。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 5Y4/1	
69	593	L7-1	Ⅲb	土師器	甕		12.4	(7.1)	—	—	口縁は外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。頭部は緩く曲がる。	灰黄 2.5Y6/2	灰黄 2.5Y6/2	黄灰 2.5Y4/1	
69	594	L7-1	Ⅲb	土師器	甕	口縁	16.6	(3.8)	—	—	口縁は緩く外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。頭部は彎曲する。	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/3	灰 5Y5/1	
69	595	L7-1	Ⅲb	土師器	甕	口縁	13.4	(6.8)	—	—	口縁は頭部から連続的に外反して外上方に立ち上がる。口唇は尖り気味に丸く修める。外面胴部上位・口縁一部に煤附着。	灰黄 2.5Y7/2	灰黄褐 10YR6/2	黄灰 2.5Y4/1	

表31 4 A区遺物観察表29

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 グリッド	器種 属	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
70	596	L7-1	Ⅲb	須恵器	坏	8.4	4.3	受部径 11.8	4.2	立ち上がりは長く口縁は内上方に向かう。受け部は水平に張出す。	灰 N5/	暗灰 N3/	褐灰 5YR5/1	
70	597	L6-12	ⅢB	須恵器	坏	8.6	4.9	受部径 12.1	5.1	口縁は大きく内傾する。受け部は水平で約5mm幅。外面に火樺が残る。	灰 7.5Y5/1	灰 N4/	黄灰 2.5Y6/1	
70	598	L6-12	ⅢB	須恵器	壺	口縁 13.8	(3.1)	—	—	口縁は外反のち短く外斜上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。	灰 5Y4/1	灰 N4/	褐灰 5YR5/1	
70	599	L6-17	Ⅲb	須恵器	蓋	11.3	(3.8)	—	—	口縁は直線的に外下方に向かう。口唇は中央の窪んだ内傾する面を成す。	灰 N5/	灰 N5/	灰 N4/	
70	600	L6-21	ⅢB	須恵器	坏 体	—	(2.9)	受部径 11.8	—	受け部は水平に張出し、立ち上がりはやや内傾する。	灰 N5/	暗灰 N3/	赤灰 10R5/1	
72	602	—	Ⅲ	土師器	鉢?	8.5	(4.5)	—	—	口縁は直線的に外上方へ立ち上がる。口唇は外傾する面を成し外側に肥厚する。	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/3	灰 N4/	
72	603	—	Ⅲ	土師器	高坏 坏	13.2	(6.0)	—	—	口縁は直線的に外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。坏下位接合部で屈曲する。胎土中に砂粒、小礫を多く含む。	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	黄灰 2.5Y6/1	
72	604	—	Ⅲ	土師器	高坏 坏	15.3	(4.3)	—	—	口縁は内彎して外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 5YR7/6	灰 5Y6/1	
72	605	L6-2	Ⅲ	土師器	甕	口縁 15.0	(3.1)	—	—	口縁は外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。	灰黄褐 10YR6/2	にぶい褐 7.5YR6/3	灰 5Y4/1	
72	606	L6-2	Ⅲ	土師器	甕	口縁 16.8	(3.2)	—	—	口縁は外反して外上方に立ち上がる。口唇は丸く修める。外面口縁に煤附着。	黄灰 2.5Y5/1	黒 N2/	灰 7.5Y5/1	
72	607	K7-9	Ⅲe	土師器	甕 胴	—	—	14.2	—	胴部中位で緩く屈曲する。外面胴部中位部分的に煤附着。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい褐 7.5YR5/4	灰 7.5Y5/1	
73	608	—	I	土師器	ミニチュア	3.9	2.5	3.8	—	鉢形の手握ね。口縁は短く外反して外上方に立ち上がる。口唇は細く丸く修める。丸底。	橙 5YR6/6	橙 5YR7/6	にぶい黄橙 10YR7/4	
73	609	—	I	土師器	ミニチュア	6.8	3.6	7.2	—	鉢形の手握ね。口唇は丸く修める。丸底。内外面体部中位以上に煤附着。	黒 5Y2/1	オリーブ黒 5Y3/1	灰 N5/	
73	610	—	I	土師器	高坏 坏	15.9	(5.3)	—	—	口縁は外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は細く丸味を持って修める。坏下位接合部で段を成し屈曲する。	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR6/3	黄灰 2.5Y5/1	
73	611	—	I	土師器	甕	15.4	(15.8)	16.8	—	口縁は緩く外反して外斜上方に立ち上がる。口唇は外傾する面を成す。頸部屈曲は急。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/3	オリーブ黒 7.5Y3/1	
73	612	L6-17	Ⅲd	弥生土器	土製円盤	全長 7.7	全幅 7.2	全厚 0.8	重量 54.8 g	土器(甕?) 胴部の転用品。外面部分的に煤附着。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 N5/	
73	613	—	I	弥生土器 ?	土製円盤?	全長 6.0	全幅 8.3	全厚 1.0	重量 36.8 g		褐灰 10YR5/1	灰褐 7.5YR5/2	灰 5Y6/1	

表32 4 A区遺物観察表30

《石器・石製品》

Fig. No	遺物 No	出土地点 グリッド	層	種類	法量				特徴	その他
					全長 (cm)	全幅 (cm)	全厚 (cm)	重量 (g)		
74	614	K7-7	IIIe	叩石	12.6	8.4	4.4	599.2	表面、両側面、端部に敲打痕が多く残る。	
74	615	L6-22	III C	石斧	<7.3>	<6.2>	<2.7>	191.7	両刃石斧。細かな研磨を施す。数カ所の刃こぼれと擦痕を残す。	
74	616	L6-16	IIIc	石斧	<4.7>	4.8	1.5	61.1	両刃石斧。研磨痕を残す。刃部は彎曲する。側面は平らな面。	
74	617	L6-17	III C	石斧	<9.0>	<6.5>	3.4	278.0	磨製石斧基部。	
74	618	K7-9	IIIe	台石	32.2	17.6	10.2	5800.0	ほぼ全面に敲打痕を残す。数カ所に敲打が集中した窪みが見られる。部分的に筋状の敲打痕列が残る。	
75	619	L6-8	III d	石鏃	2.9	1.3	0.4	1.5	舌状の有茎鏃。基部に近い中央部に剥離面が残る。	チャート
75	620	L6-7	III d	有孔円盤	3.1	—	0.4	6.8	表裏面と側面を研磨痕を残し丁寧に磨く。中央部にφ2mmとφ1.5mmの円孔を穿つ。	緑泥片岩?
75	621	L7-6	III d-2	石斧	<4.8>	<7.1>	<3.3>	134.7	両刃石斧。刃部は大きな弧状を成す。両面からやや膨らみを持って研ぎ出される。	
75	622	L7-2	III d	石斧	<6.9>	4.0	1.0	45.6	扁平片刃石斧。上面の一部に研磨痕を残す。	超塩基性岩
75	623	K7-10	III d	石斧	<20.0>	<5.7>	<2.7>	249.6	基部は角錐状を成して尖る。部分的に細かな研磨が残る。	
75	624	L6-13	III d	砥石	<8.9>	<5.7>	<4.8>	348.5	角柱状で中央部が窪む。砥面は7面。仕上げ砥。被熱?	頁岩
75	625	L7-1	III d?	砥石	<12.2>	5.5	2.7	232.3	表面中央部に縦位の研ぎ面が窪んで形成される。やや粗い擦痕が長軸方向、斜め方向に残る。	
75	626	L7-7	III d	砥石	<8.6>	<3.8>	<2.9>	182.4	断面不整長方形の砂岩自然礫を用いた砥石。一側面に溝状の研磨痕を残す。他面には敲打痕が残る。	
75	627	L6-12	III D	叩石	11.5	10.7	5.1	1154.5	全面に煤が付着する。敲打痕を数カ所に残す。	
75	628	L6-23	III d?	叩石	17.2	6.7	4.3	771.0	両端部に密な敲打痕を残す。	結晶片岩
75	629	L6-17	III d	叩石	15.2	4.8	4.0	411.3	表面全体、裏・側面中央部、端部に敲打痕を残す。	泥岩
75	630	L6-18	III d?	叩石	12.5	5.6	3.5	580.0	表裏面の中央部を中心に敲打痕を残す。	結晶片岩
75	631		III d?	叩石	<10.3>	8.6	3.9	428.6	表裏面と側面、端面に敲打痕を残す。	
75	632	L7-6	III d-2	叩石	9.7	7.8	1.8	191.4	平面楕円形、扁平な自然礫を用いる。側辺と表面中央の剥離が顕著。	
75	633	L6-12	III d	叩石	10.6	6.9	4.5	461.5	表面に2ヶ所の大きな剥離部分を残す。	

表33 4 A区遺物観察表31

《石器・石製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点		種類	法量				特徴	その他
		グリッド	層		全長 (cm)	全幅 (cm)	全厚 (cm)	重量 (g)		
76	634	L6-13	ⅢD	叩石	18.5	5.8	5.1	916.0	両端面と表面中央部に敲打痕を残す。	結晶片岩
76	635	L7-18	Ⅲd?	叩石	17.1	6.1	4.5	726.0	表面の中央部に剥離痕を残す。一側面中央部と一端部に敲打痕を残す。	結晶片岩
76	636	L7-12	Ⅲd-2	叩石	18.0	5.2	4.4	693.0	表・裏面と端部に敲打痕を多く残す。	結晶片岩
76	637	L7-17	Ⅲd?	叩石	20.5	8.7	3.9	1089.0	ほぼ全面に敲打痕を残す。側面中央部は片側のみ剥離する。	
76	638	L7-6	Ⅲd-2	叩石	12.4	11.1	5.9	1085.5	表面と両側面、端面に密な敲打痕、剥離痕を残す。	
76	639	L6-7	ⅢD	叩石	12.8	10.7	4.8	968.0	表・裏面の中央部は特に密、側面・端面には部分的に敲打痕が残る。	
76	640	L6-12	ⅢD	叩石	12.2	7.7	4.3	584.6	表裏面と側面の中央部分を中心として密な敲打痕。端面にも敲打痕が残る。	
76	641	L7-3	Ⅲd?	叩石	9.7	9.3	4.2	570.2	側面から端面の一部に薄い剥離を伴う敲打痕。	
76	642	L6-22	Ⅲd-3	叩石	11.9	9.1	3.8	614.5	表面の中央部分と端面に敲打による剥離痕を残す。	
76	643	L6-3	Ⅲd	磨石	11.4	9.8	3.9	616.0	端部（側面・端面）に細かな打痕（擦り痕）が帯状に全周する。	
77	644	L6-13	Ⅲd	叩石?	11.5	8.5	6.5	914.0	側辺の二ヶ所に敲打痕を残す。	
77	645	L6-22	Ⅲd	叩石	〈12.1〉	8.0	5.2	779.5	表・裏面の中央部と側面、端面に密度の高い敲打剥離痕を残す。	
77	646	L7-12	Ⅲd-2	台石	〈12.9〉	〈12.5〉	〈8.0〉	1692.0	規模の大きな河原石を用いる。表面に敲打痕が密に残る。	
77	647	L7-12	Ⅲd-2	台石	〈15.3〉	〈12.2〉	〈12.0〉	3400.0	表面に敲打痕を多く残す。やや窪んだ中央部に赤色顔料が付着する。	
78	648	L7-11	Ⅲd-2	台石	21.4	15.5	7.3	3250.0	表・裏面の中央部に敲打痕を残す。河原石を用い、一部には煤が付着する。	
78	649	L6-13	Ⅲd?	台石	24.6	17.3	3.0	1876.0	表面は敲打痕が密で数カ所で窪む。表面は平らで砥面?を成す。	泥質砂岩
79	650	L6-21	ⅢB	叩石	9.5	7.5	3.7	395.9	表裏面の中央部と一側面を中心に敲打による剥離。被熱?	
79	651	L6-21	ⅢB	叩石	12.9	8.5	5.7	886.0	表・裏面に敲打痕が多く残る。一端部に敲打痕が密集する。	
79	652	—	Ⅲ	叩石	6.9	8.4	4.6	351.0	主面、側縁の中央部と端部に敲打痕を残す。	

表34 4 A区遺物観察表32

《木器・木製品》

Fig No	遺物 No	種類	遺物名・用途	出土地点		法量 (cm)			特徴	その他
				グリッド	層位	全長	全幅	全厚		
80	653	祭祀具?	—	L7-1	Ⅲd-2	25.0	5.3	0.7	厚さ5~7 ³ / ₄ の板を一端部を尖り気味に、他端を幅広く丁寧に加工する。	
80	654	部材	—	L6-17	Ⅲd	78.0	2.6	2.8	断面方形の軸状木製品。端部は段階的に削り込まれており、使用に因る磨減を認める。	
80	655	祭祀具	ナスビ形木製品	L6-13		54.1	11.8	1.4	上位から緩やかに開き両側面に小さな突出部を持つ。中位上部から二股に分かれ、下位では横木で繋ぐ。刃部は丁寧に削り出される。	
80	656	農工具?	—	L6-21	ⅢD-3	77.0	18.5	7.0	端部には粗い工具痕が残る。断面不整形で、30×13 ³ / ₄ の長方形を呈した穴を材の短軸方向、上部に穿つ。	
81	657	祭祀具	木製有孔円盤	L6-12	ⅢD	6.0	4.4	0.8	中央部にφ7 ³ / ₄ の円孔を穿つ。	
81	658	発火具	ヒキリ板	L6-23	Ⅲd	15.9	2.0	0.8	側面からの切り込みは片側からのみで、3~5 ³ / ₄ に達する。ヒキリ臼はφ8~10 ³ / ₄ で、浅い断面W字形を呈する1例を除くとU字形である。	
81	659	雑具	籠状木製品	L6-17	Ⅲd	20.0	2.0	0.5	端部を山形に加工する。	
81	660	工具	横槌(握部)	L7-11	Ⅲd	9.2	3.3	1.6	成形痕を残して削り込んだ握部と端部はやや肥厚する。	
81	661	容器	注口部	L6-18	Ⅲd	4.7	9.1	4.0	注口部の幅は30 ³ / ₄ 、背後の容器本体と共に削り出されたもの?	
81	662	農工具	縦杵	L6-12	ⅢD	35.6	7.3	6.8	端部は丸味を持って仕上げ。中央部(握部)を細く削り出す。	
81	663	部材	—	K7-10	Ⅲd	18.5	7.0	1.7	板材の中央やや側面寄りにφ23×20 ³ / ₄ を穿つ。	
82	664	装身具	櫛	L6-22	Ⅲb	4.1	2.9	0.8	断面形は楔形。背面は平らな面を成し、側面に向かって丸く仕上げ。櫛刃は約0.5~1 ³ / ₄ 厚味を持つ。	
82	665	部材?	—		Ⅲb	24.0	3.7	0.7	端部は加工し曲線に仕上げ、やや内側に両側面から抉りを入れる。	
82	666	部材	板状木製品		Ⅲ	9.3	12.0	1.6	平面長方形、側面は平らで、端面は尖り気味に修める。	
82	667	部材	—		Ⅲ	36.3	2.8	2.0	一端部を長さ2.5 ³ / ₄ に渡って、断面長方形のホゾ状に削り出す。	
82	668	祭祀具	舟形木製品	L6-12	Ⅲ	32.0	5.8	2.1	一端部に直径6 ³ / ₄ の円孔を穿つ。他端には段部を有する。	
83	669	部材	板		Ⅲ	105.6	27.0	3.8	断面長方形、側面には工具痕を残す。	
83	670	部材	—	L6-21	ⅢB	102.0	23.0	3.0	端部の一部を軸状(φ27×21 ³ / ₄)に削り出す。窓板、または扉板か。	671と同一個体?
83	671	部材	—	L6-21	ⅢB	86.0	16.0	2.0	一端面に表裏面から調整を加え尖り気味に仕上げる。	670と同一個体?

(2) 4B区

1. 4B区の概要

地溝帯に沿って東西走る清滝山系から舌状を成して南側に延びた小規模な尾根の西斜面を含む調査区である。この尾根は現況で東半分を残し西半は既に削平を受けており、耕作面(ビニールハウス、水田)となっていた。調査を進めるに及び尾根の西側斜面は隣接する調査区4A区から大きく湾曲して調査区外の西方に延びるものであり、南西方向に傾斜を持って開いていたものと考えられる。古墳時代の遺物は地山面から沖積層に向かって標高を下げた斜面で発見されており、土器では土師器の壺、甕、鉢、高坏や小型丸底土器、ミニチュア土器等が多く見られた。石器・石製品や木製品も同時出土する場面が多く、砂鉄が小鉢の中に入ったままの状態出土している。土器遺物は完形に近いものも存在するが破片となったものが多くあり、原位置を止めず斜面を上方から転がって来た可能性が高い。置かれたままの状態に近い4A区の出土状況と比較するとやや趣を異にする。下層から出土する土器も4A区に共通するものであり、縄文晩期から弥生前期、弥生中期から後期の遺物である。総出土量は4A区に比してやや多く、弥生後期以前の遺物も4A区に比して多く含まれている。遺構は縄文晩期から弥生前期の貯蔵穴? (どんぐりピット)が発見された。浅い皿状の形態であり、堅果類の出土量は少ない。植物繊維を編んだ筵状の製品が一部残存しており、蓋様に使用したものと考えられる。既に報告された1F区等の貯蔵穴とは形態的に異なる。

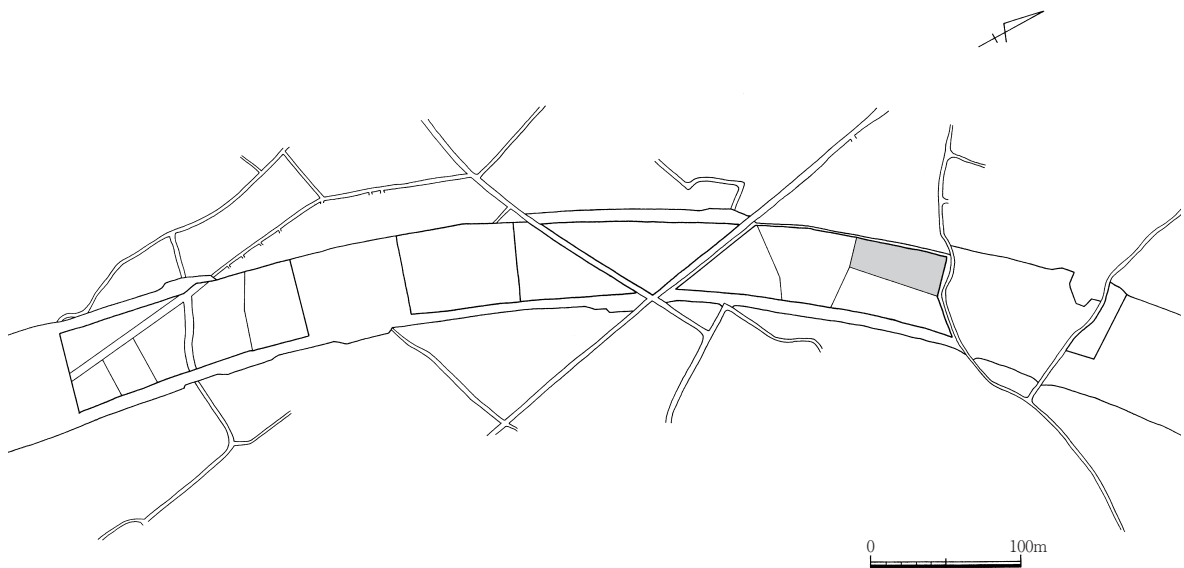


Fig.84 4B区的位置 (S : 1/5,000)

2. 調査の方法

4 B 区の調査は平成10年6月23日から、先ず表土機械掘削が行われた。4 A 区と同様に東半は多くが削平された地山面であった。続いて6月29日からは機械包含層掘削を開始した。地山面を除く堆積層が主な掘削対象である。調査区の西側は包含する遺物量が希薄であることから、下層（縄文晩期から弥生前期）まで機械による掘削を行う。東半は地山面からの傾斜部に遺物の出土が一定量認められることから、緩い傾斜を持って包含層を残し包含層機械掘削を終了する。最後に包含層人力掘削は平成10年7月13日から開始した。調査は第Ⅳ系公共座標に則った4m×4mを1単位とするグリッドを設定して上位から堆積層ごとに掘削することで行った。調査区全体の堆積状態は西壁セクションと西南壁セクションを精査し、写真、図に記録した。斜面部では調査区の中央部に傾斜と直交する形で設けたベルトで堆積土層を確認し、記録して行った。遺物の取り上げは、遺構名・グリッド名と層名を記入することで行い、保存状態の良いものについては出土状態を写真撮影、図化または先述の公共座標を記録の上行った。遺構の検出については暗灰色の各堆積層の界面では困難であり、灰白色系の検出面を持つ縄文晩期から弥生前期包含層下まで掘削を継続して行った。貯蔵穴の検出はこの面であり、遺構内の出土状態や完掘状態等の平面図作成については座標系に基づいて1/10, 1/20等の縮尺で適宜行った。人力包含層掘削と遺構掘削の終了は平成10年10月5日であり、完掘後10月10日には航空写真撮影・測量を完了した。この間、平成10年の台風7号や9月24日の集中豪雨により調査区が冠水し、壁面の崩壊等が発生したことから調査の中断を余儀無くされた。

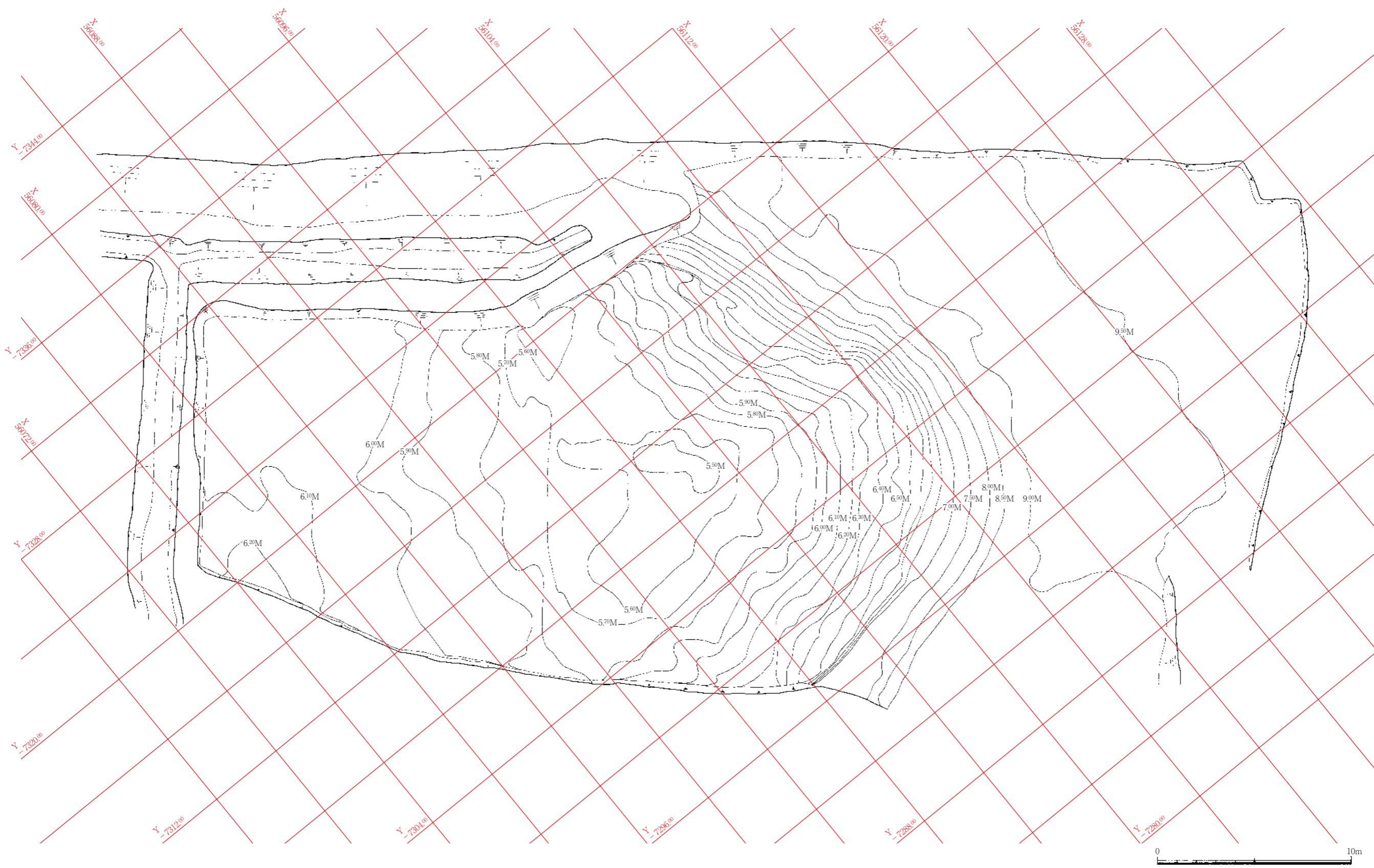


Fig.85 4 B区全体図 (下層) (S : 1/200)

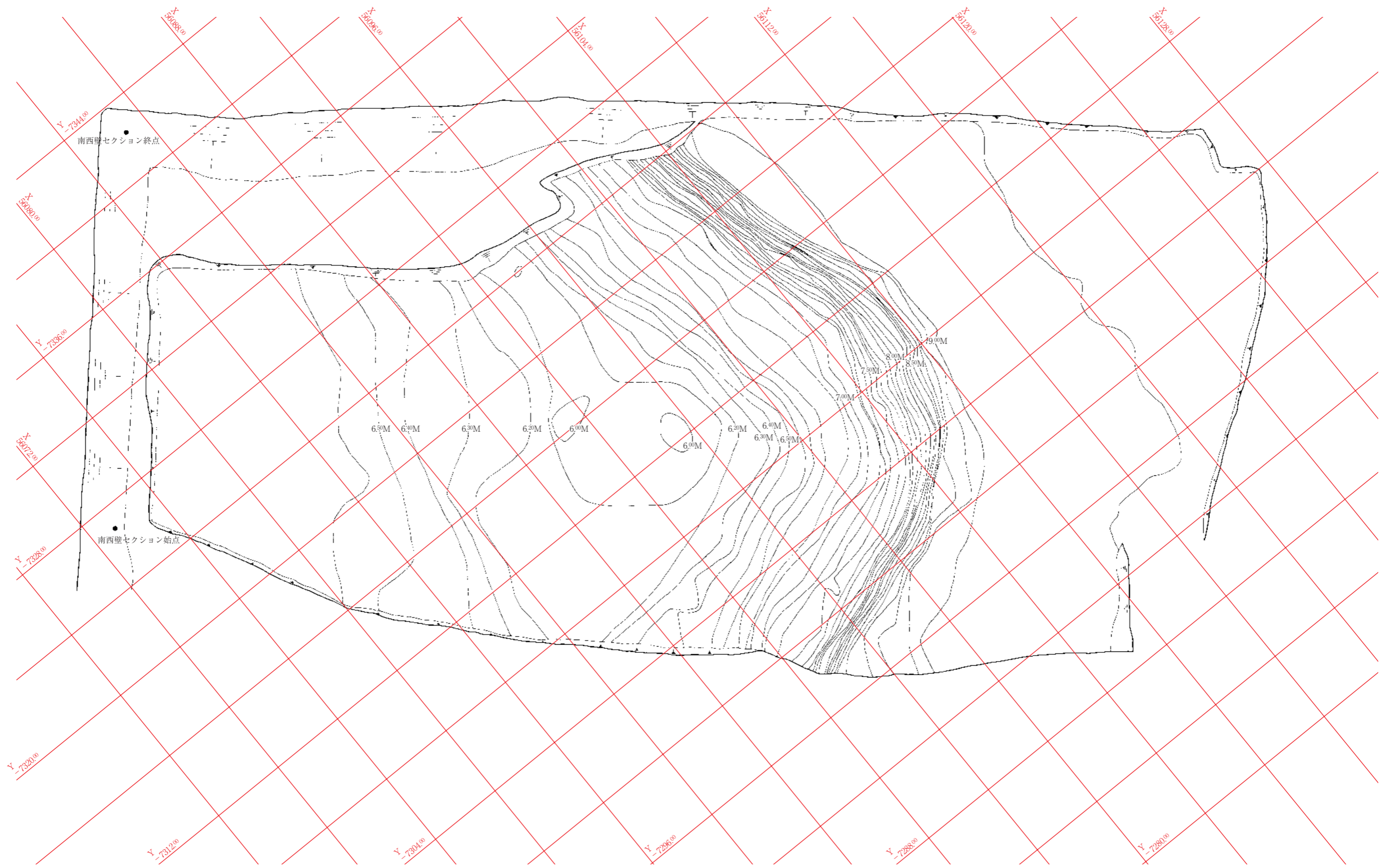


Fig.86 4 B区全体図 (上層) (S : 1/200)

3. 層序

4 B 区の標準的な堆積環境は 4 A 区と同様、概ね安定した堆積状態と考えられる。これは 4 B 区西南壁セクションからも明らかであり、斜面部分を除くと流路等による層位の乱れは観察されていない。斜面部には自然崩壊等の痕跡が認められるものの、緩やかな斜面堆積を示す。縄文晩期から弥生前期と考えられる段階では東側の斜面から下った部分に凹地が形成されており、ここに腐植を含む堆積層（Ⅲ C 層）が確認される。調査区の西側に向かっては緩やかな勾配を以て標高を上げ西端部には高位が存在する。4 C 区検出の S D 2 に係る自然堤防状の堆積か。

(1) 基本層序 (Fig.87~89, 95)

I 層・II 層は耕作土や耕作土と耕作に係わる土層である。調査区のほぼ全域に渡って耕作土下厚さ 50cm の盛土（黄褐色土 10YR6/4）が存在する。調査区の東側約 1/3 は地山面であり、西側部分には旧耕作土が緩急の斜面堆積を覆って存在する。

Ⅲ 層はここでは一連の各時代遺物包含層群である。調査時には堆積環境が近似するであろう 4 A 区の各包含層と整合する様、層の精査に努めたが両区の各層を等号で結ぶことはできない。Ⅲ 層はⅢ B 層群、Ⅲ D 層群、Ⅲ C 層群、Ⅲ E 層に大きく分層が可能である。

Ⅲ B 層は南方向へ緩やかな傾斜面を形成して存在し、西南壁では分厚い堆積層群として観察される。本層はⅢ B - 0、Ⅲ B - 1、Ⅲ B - 2、Ⅲ B - 3 の各層に分層が可能である。何れも暗色系の腐植を多く含んだ層群であり、木片や流木などの植物遺体と共に鋤などの農具、木錘などの工具が出土している。Ⅲ B - 0 は斜面部ではⅢ D 層を覆っており、4 A 区のⅢ b 層に相当するであろう。Ⅲ B - 1 層はⅢ B - 0 層下に存在し、Ⅲ D 層堆積（埋積？）直後に形成されたものと考えられ、Ⅲ D 層に接する部分には通常地山直上に堆積している灰白色粘土の混入が顕著である。時期はⅢ B - 0、Ⅲ B - 1 層が古墳時代後期から古代・中世であろう。Ⅲ B - 2 層とⅢ B - 3 層はⅢ D 層以前の堆積と考えられ先述のとおり水成の湿潤な堆積環境を示すものである。Ⅲ B - 2、Ⅲ B - 3 が弥生中・後期から古墳時代前期？のものか。

Ⅲ D 層は斜面部分にのみ存在を認めるものであり、土師器を中心に多くの遺物が発見された。斜面部分を中心として検出されることなど 4 A 区のⅢ d 層によく似ているが、破片遺物が多く見られる出土状態や中央セクションで観察される地山崩壊礫の多混などやや異なる点が見受けられる。本層の成因は斜面の自然崩壊か人為的な埋納や地形の改変であった可能性がある。祭祀遺物を伴う多くの土器群と叩石を主とした石器・石製品、木製品が出土している。時期は古墳時代前期から中期であろう。Ⅲ D - 1 層は砂鉄が入った鉢が検出された L5 - 22 グリッド周辺で設けた層位であり、遺物が多く出土したⅢ D 層主体の下層に相当している。また、標高的にはⅢ D 層の下位層であるⅢ B - 2 層やⅢ B - 3 層に相当しており、連続する可能性もある。ただし、これらと比較すると地山崩壊角礫を多量に含む点が異なっている。

Ⅲ C 層はⅢ C - 0 層とⅢ C - 1 層、及びその間に間層（無遺物層）を挿んで存在する。地山面に近い斜面では青色の崩壊角礫を多く含んでいる。シルト質の層中には腐植が顕著であり、先述の斜面下の凹部ではⅢ C 層の堆積が厚い。時期は縄文晩期から弥生前期と考えられる。

Ⅲ E 層は灰白色を呈する粘土層であり、4 A 区のⅢ e 層に概ね対応するであろう。尾根を下った緩斜面で S K 1 他の貯蔵穴を検出したのは本層の上面である。

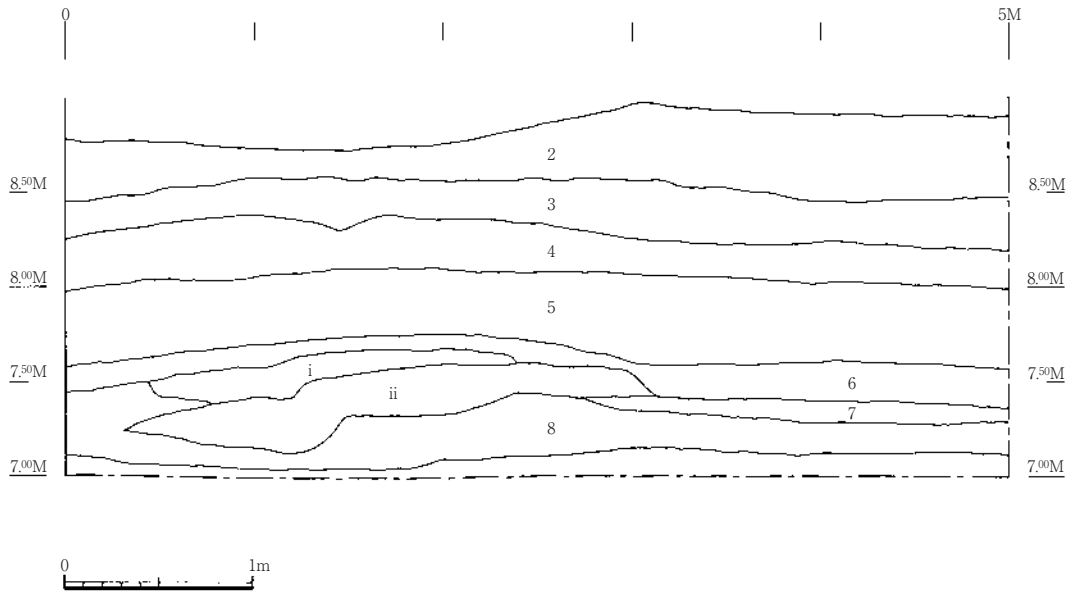


表35. 4 B区南西壁セクション層序表

層	内容	その他
1	粘性あり、締まりあり。黄褐色 (10YR6/4)	
2	粘性あり、締まりあり。褐色 (10YR4/6)、青灰色粘土 (5B5/1) を含む。	耕作土
3	粘性あり、締まりあり。褐色(10YR5/1) 土、小石を多く含む。	
4	粘性あり、締まりあり。灰黄色 (10YR4/2)、炭化物、地山崩壊礫を含む。	旧耕作土
5	粘性あり、締まりあり。小型の植物遺体を含む。黒色土 (N5/10)、暗赤褐色 (5YR3/6)	
6	粘性あり、締まりあり。小型の植物遺体を含む。褐灰色 (10YR5/1)、にぶい褐色 (7.5YR5/3)	
7	粘性あり、締まりあり。褐灰色 (7.5YR4/1)	
8	粘土。締まりあり。植物遺体を多少含む。灰色 (7.5Y5/1)	
9	粘土、締まりあり。青灰色 (5B6/1)	III c 層 (4A区)
i	粘性あり、締まりあり。褐灰色	
ii	粘性あり、締まりあり。褐灰色	

Fig.87 4 B区南西壁セクション図 (S : 1/40)

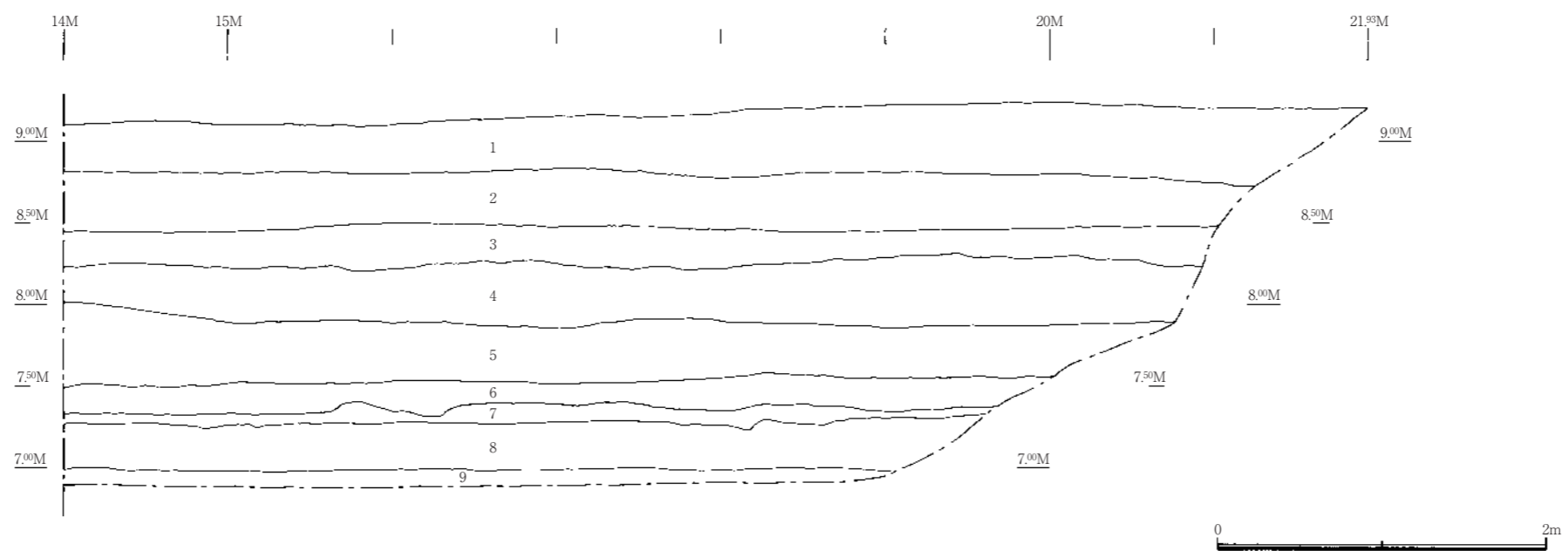
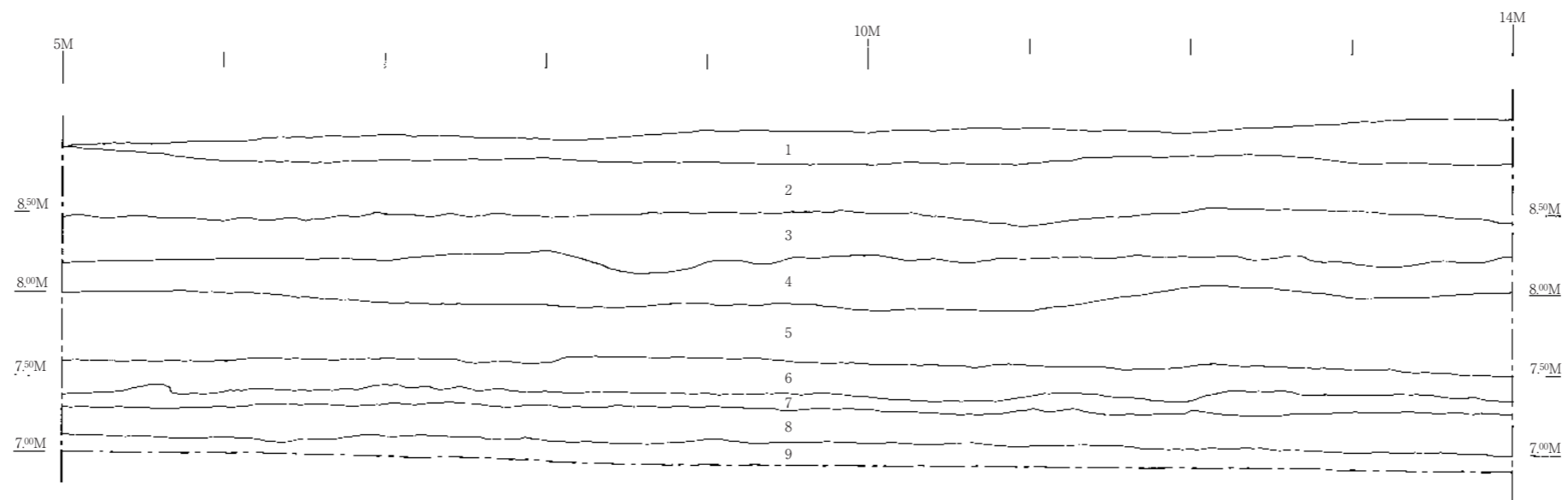


表36. 4 B区西壁セクション層序表

西壁セクション層序（上層）

層	内容	その他
1	粘性あり、締まりあり。黄灰色（2.5Y6/1）	耕作土
2	粘性あり、締まりあり。黄褐色（10YR6/4）	盛土
3	粘性あり、締まりあり。褐灰色（7.5YR6/1）。黄褐色土（10YR6/4）を多く含む。	旧耕作土
4	粘性あり、締まりあり。灰色(7.5Y5/1)。青色地山崩壊角礫を多く含む。	
5	粘性あり、締まりあり。黒褐色（5YR3/1）。植物遺体を多く含む。	
6	粘性あり、締まりあり。灰褐色（7.5YR5/1）。炭化物を含む。	
7	灰白色（N7/0）。灰色（7.5YR5/1）土を含む。	
8	粘性あり、締まりあり。灰色（7.5YR5/1）	
9	粘性あり、締まりあり。灰色（5Y5/1）	
10	粘土。締まりあり。青灰色（5B6/1）	Ⅲc層（4A区）
11	粘性あり、締まりあり。暗青灰色、灰色（N4/0）。地山崩壊角礫（青色）を多く含む。	
12	粘性あり、締まりあり。暗灰色、黄灰色（2.5Y6/1）。地山崩壊角礫（青色）を多く含む。	
13	灰白色、青灰色（5BG6/1）。地山崩壊角礫を多く含む。	
14	黄褐色、黄橙色（7.5YR7/8）	
i	粘性あり、締まりあり。灰黄褐色（10YR5/2）	
ii	粘性あり、締まりあり。褐灰色（10YR5/1）	
iii	粘性ややあり、締まりあり。にぶい黄橙色（10YR6/3）	

西壁セクション層序（下層）

層	内容	その他
1	粘性ややあり、締まりあり。暗褐色、褐灰色（5YR4/1）。風化した砂岩礫を少量含む。炭化物（腐植）を稀に含む。	ⅢB
2	粘性ややあり、締まりあり。褐灰色（7.5YR5/1）。暗褐色と灰色粘土ブロック混。風化砂岩礫を少量含む。	ⅢC-0
3	粘性あり、締まりあり。褐灰色（10YR6/1）。暗灰褐色。風化砂岩礫（2～3 μ m）を稀に含む。炭化物を稀に含む。	
4	粘性あり、締まりあり。褐灰色(10Y5/1)。暗灰褐色と灰色粘土ブロック多混。炭化物と植物遺体を多く含む。	ⅢC-1
5	粘性あり、締まりあり。灰黄褐色（10YR6/2）。褐色と灰色粘土を含む。炭化物を少量含む。	
6	粘性強、締まりあり。灰色（N6/0）。青灰色（または灰白色）。炭化物及び植物遺体を稀に含む。	ⅢE

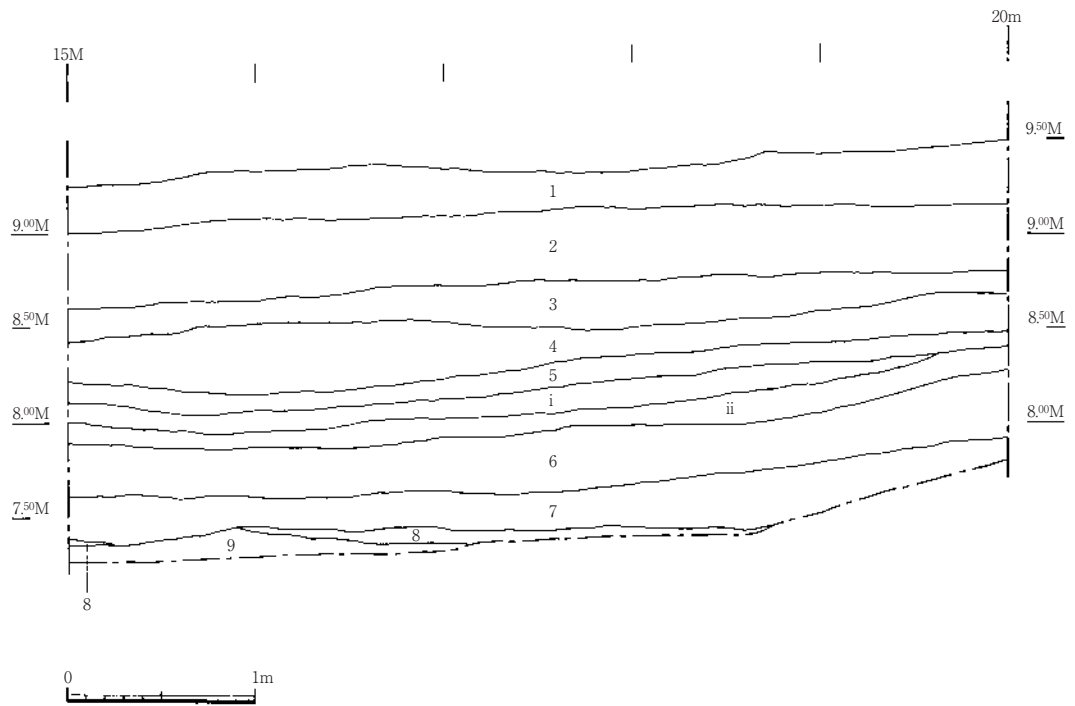
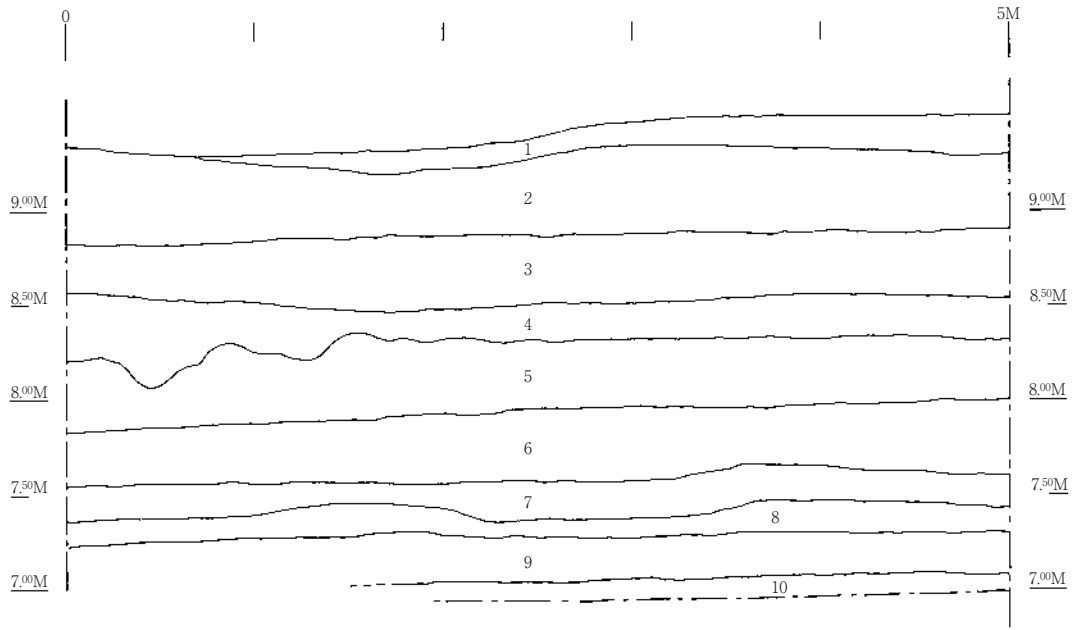
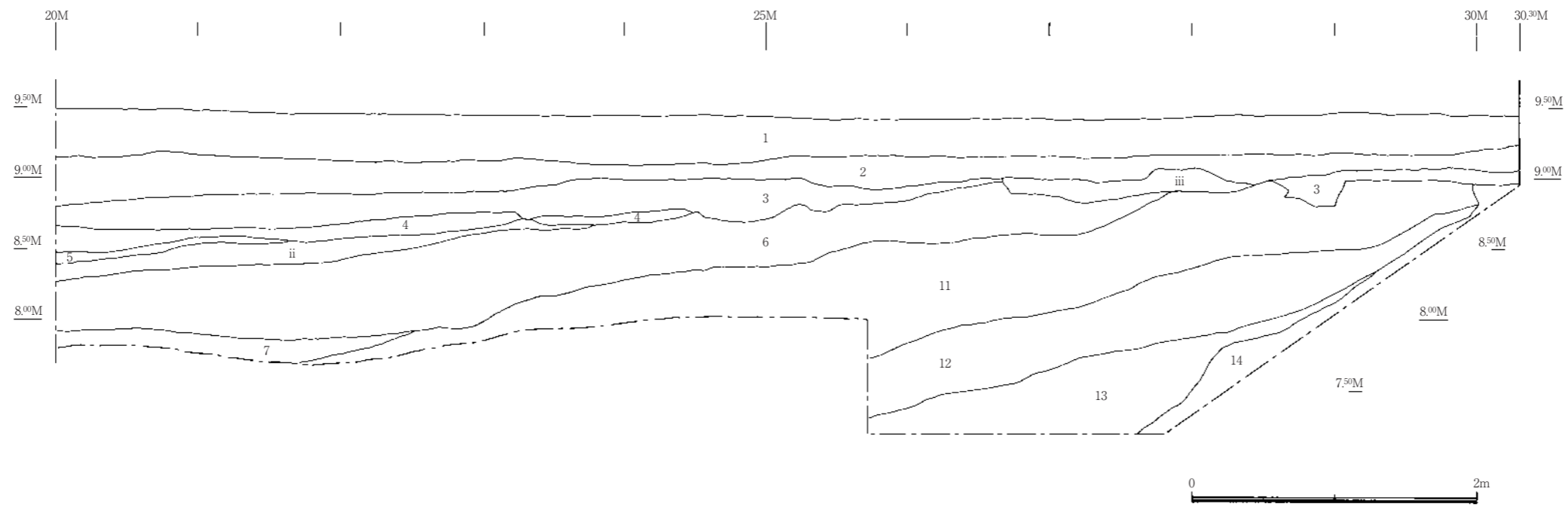
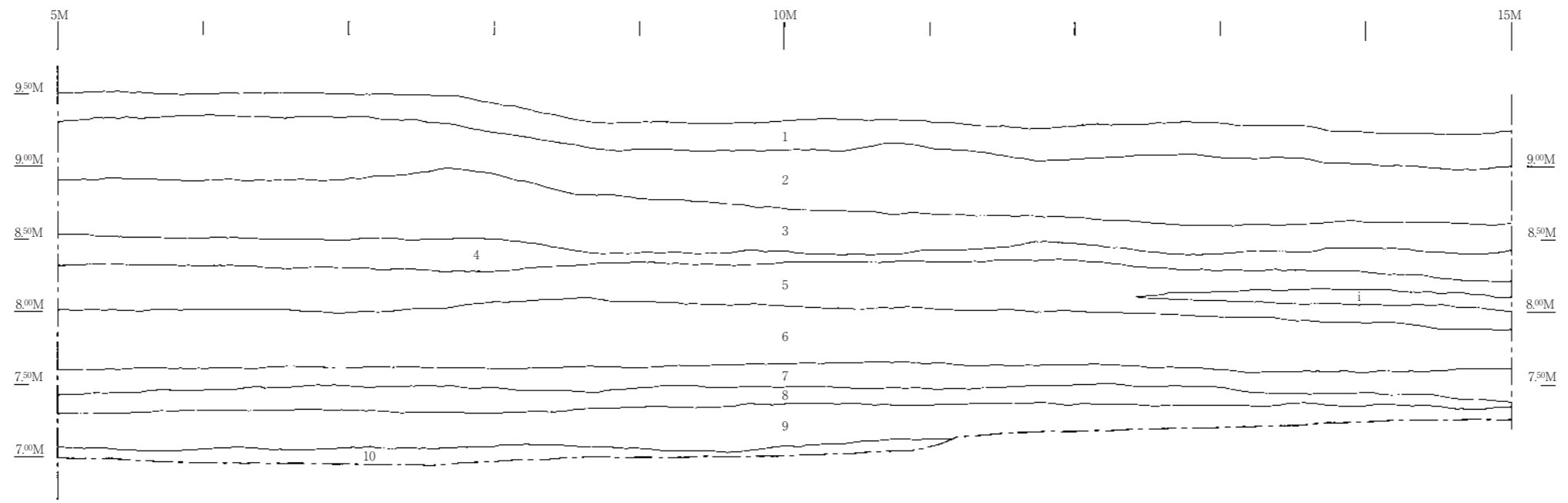


Fig.88 4 B区西壁セクション図 (S : 1/40)



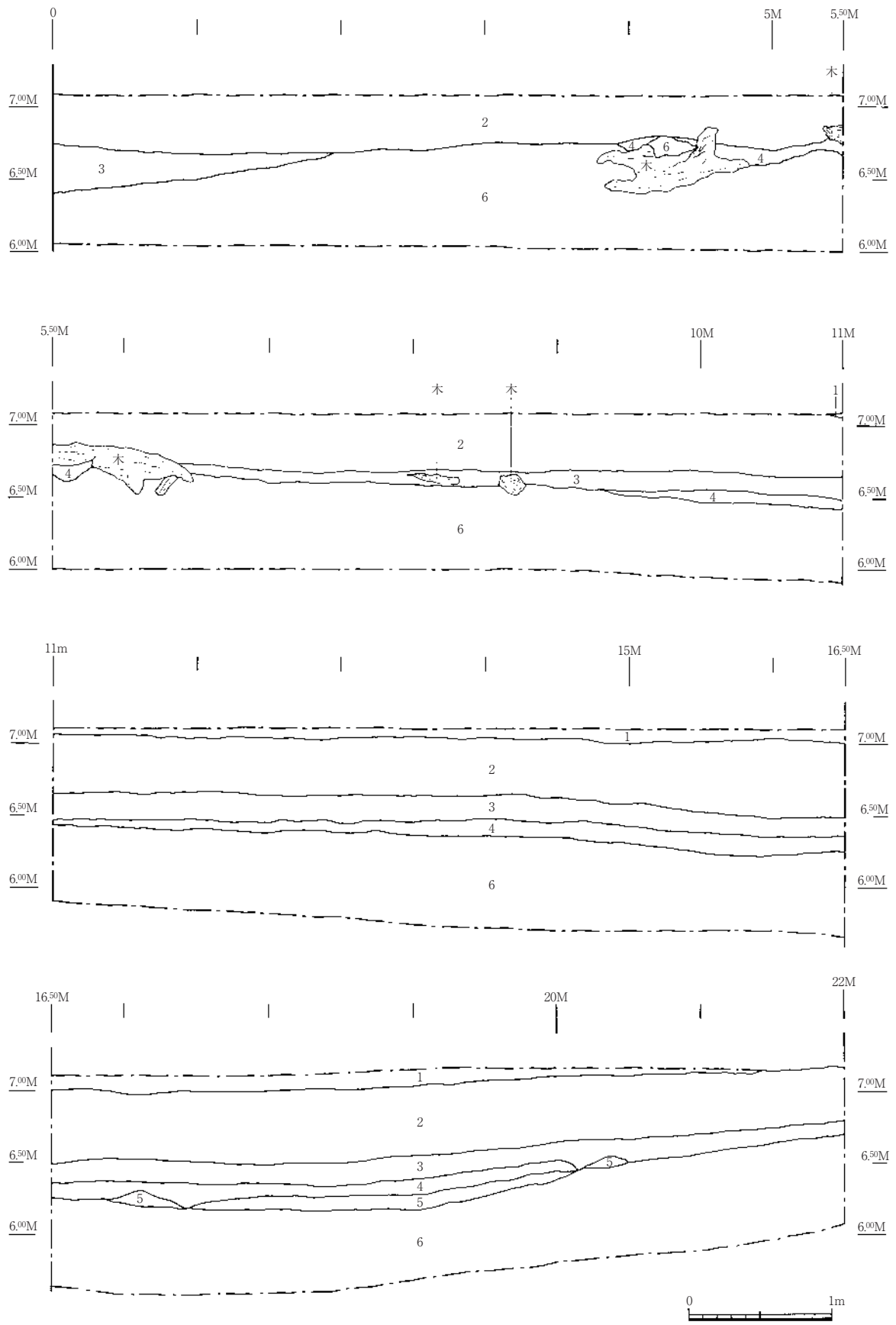


Fig.89 4B区西壁セクション図(下層)(S:1/40)

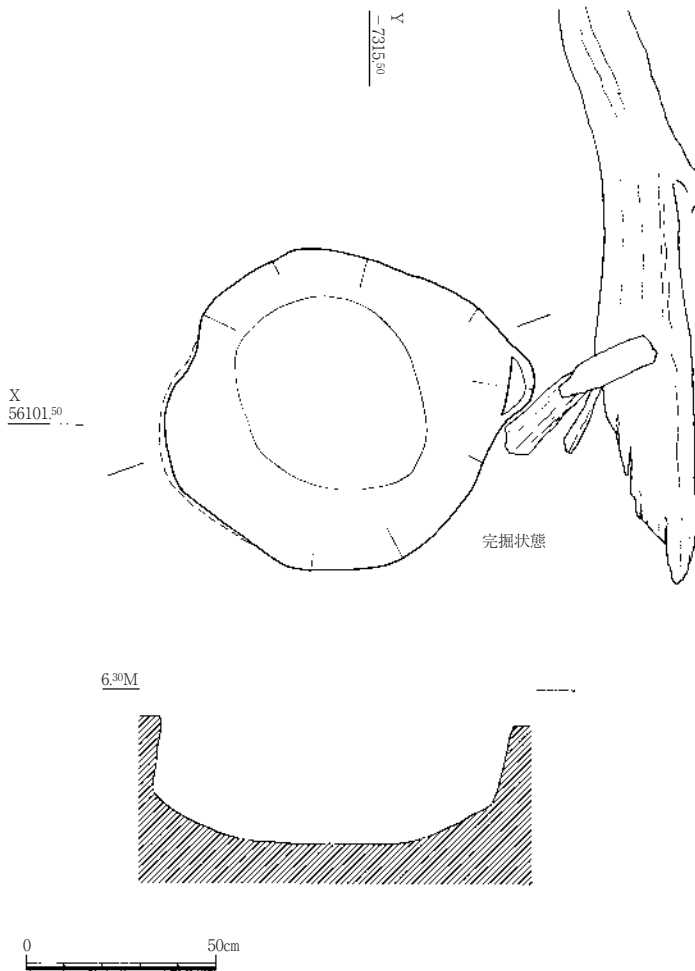
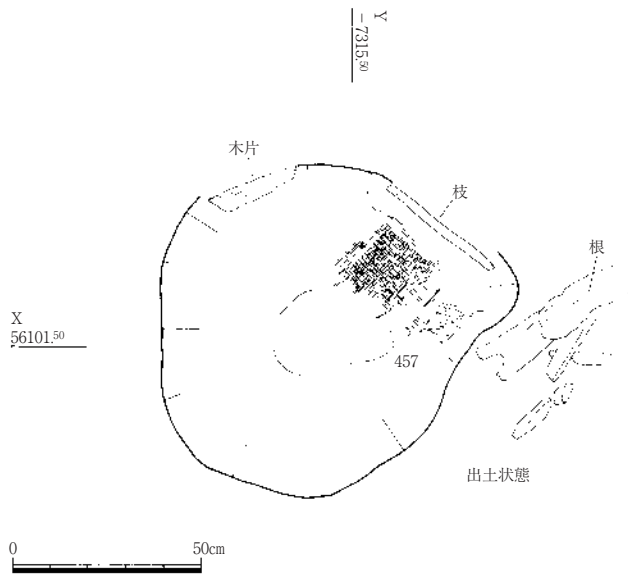


Fig.90 4 B区SK1遺構平面図 (S : 1/20)

4. 遺構

遺構は、ⅢE層上面（縄文時代晩期～弥生時代前期）と地山上の主に2面で確認できた。どんぐりピットと考えられる土坑が主に検出されており、堅果類の出土が確認されている。

（1）ⅢE層上面（縄文時代晩期～弥生時代前期）検出の遺構

当該期の検出遺構としてここで取り上げたのは土坑4基である。既報告の1F区で検出されたどんぐりピット群は設置された時期にやや時間差があると考えるのが妥当である。このことから推すと明色系色調を有する遺構検出面として選んだⅢE層上面よりも上位から掘削された遺構が存在すると考えられ、ここでは取り上げなかったが調査では皿状の極浅い土坑底部と考えられる部分が検出されている。

①SK1 (Fig.90)

調査区東に存在したであろう尾根の裾に当たるK5-23グリッドである。SK1の立地は緩やかな斜面であり、調査時には規模の小さな湧水が周辺には見られた。平面形態は不整円形乃至隅丸方形である。規模は長径1m、短径80cmであり、検出面から底面までの深さは37cmを測る。遺構埋土はⅢC-1層に相当するであろう茶褐色土であり、堅果類（イチイガシ、シラカシ）約1,000点

が含まれている。検出面からやや下に掘削した段階で草を編んで製作したものであろう筵（籠？）状製品の一部分が遺構埋土と共に検出された。蓋用に土坑を覆っていたものか、もしくは堅果類を入れていた袋状の製品であろうか。土坑は検出面からの深度がやや浅いことや堅果類の残りも少ないことから、貯蔵的な意図よりも水晒し的な機能を優先した遺構か。また、土坑はもう少し上位から掘削されていた可能性もある。

出土遺物は植物遺体、板状木製品、網状製品、堅果類である。

② S K 2 (Fig.91)

S K 1 からさほど離れない K6-3 グリッドに位置する。Ⅲ E 層に掘削された土坑であり、立地も S K 1 と同様に緩やかな斜面である。平面形態は楕円形であり、規模は長径 84cm、短径 68cm、検出面からの深さは 26cm を測る。遺構埋土は茶褐色土であり、堅果類（イチイガシ、シラカシ、他不明 1 種）数 100 点と腐植を含む。貯蔵穴や水晒し場としての機能が考えられ、S K 1 と同時期に設置されたものと考えられる。

出土遺物は堅果類のみである。

③ S K 6 (Fig.92)

調査区の東側斜面下の K5-23 グリッド、S K 1 の北東に位置する。検出は S K 1 と同様Ⅲ E 層上

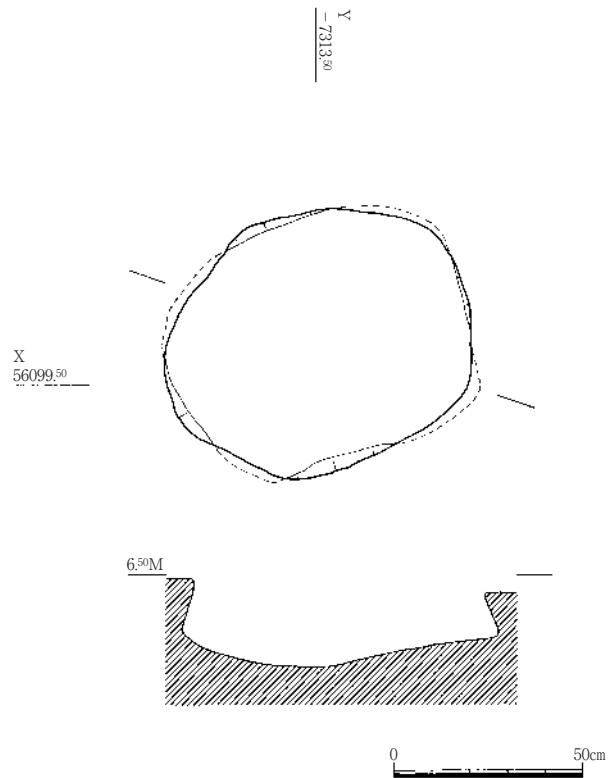


Fig.91 4 B 区 S K 2 遺構平面図 (S : 1/20)

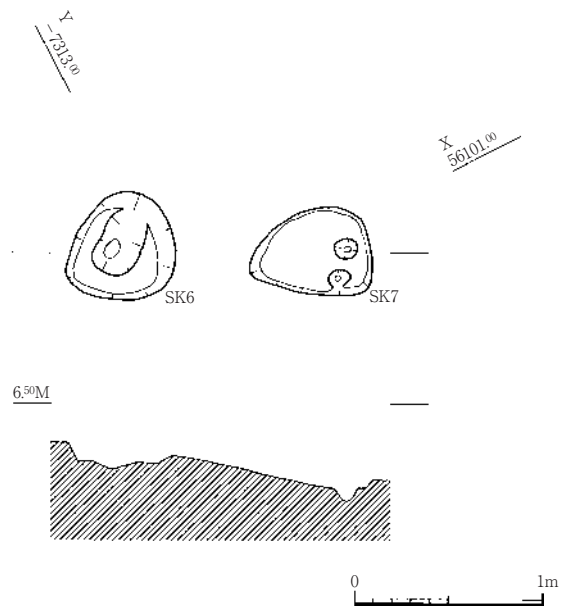


Fig.92 4 B 区 S K 6・7 遺構平面図 (S : 1/40)

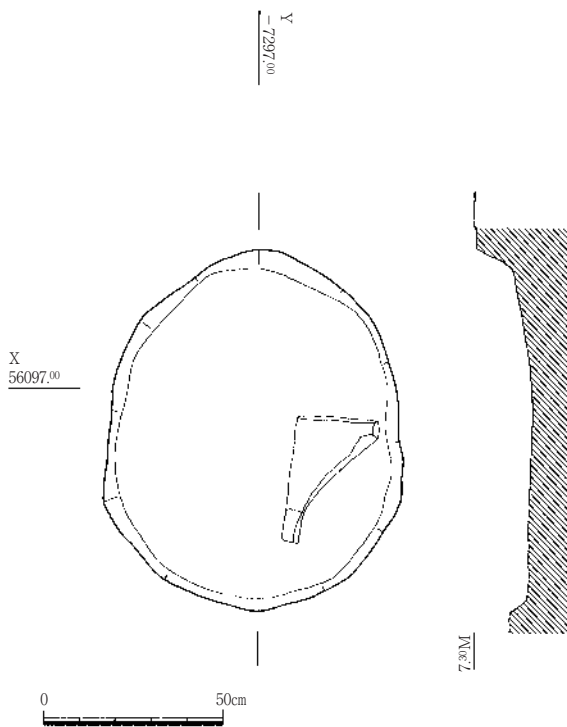


Fig.93 4 B区SK 3遺構平面図 (S : 1/20)

⑤SK 3 (Fig.93)

調査区東側の傾斜面下、L6-2グリッドに位置する。ⅢE層上面で検出された他の土坑と遺構埋土が異なることや堅果類の出土を見なかったことから、SK 1やSK 2等とは性格を違えるものと考えられる。また、検出はⅢE層であったが掘削は更に上層から行われていたものであろう。ⅢE層はこの辺りで多くの青色地山崩壊角礫を含んでおり、SK 1等が存在する箇所よりもやや急な傾斜面を成している。平面形態は楕円形であり、長径97cm、短径80cm、検出面からの深さは16cmを測る。遺構埋土は暗灰色粘土であり、灰褐色の粗砂粒を含む。

出土遺物は板状に加工された厚手の木製品破片であり、用途は不明である。

面である。平面形態は不整円形であり、規模は長径60cm、短径58cm、検出面からの深さは20cmを測る。遺構埋土は白色粘土が混じった茶褐色土であり、堅果類（イチイガシ、他不明1種）である。規模はやや小さいがSK 1やSK 2と同様貯蔵穴か水晒し場であろう。

④SK 7 (Fig.92)

調査区の東側斜面下のK5-23・24グリッド、SK 6に隣接して存在する。検出はⅢE層上面である。平面形態は楕円形であり、規模は長径66cm、短径46cm、検出面からの深さは20cmを測る。遺構埋土はSK 6と同じく茶褐色土であり、堅果類の出土は見ないが、貯蔵穴か水晒し場的な性格の遺構であろう。

(2) 地山検出の遺構

① S K 5 (Fig.94)

調査区の東側、地山面の斜面際で検出された土坑であり、L5-6・11グリッドに位置する。平面形態は不整楕円形であり、規模は長径1m、短径68cm、検出面からの深さは最大で42cmを測る。遺構埋土は暗褐色土の単層である。底面の形態は一様でなく凹凸が激しく、平面形にも人工的な要素が窺えない。木か木根の抜き跡であろうか。

出土遺物は弥生土器の甕頸部が2点と他に細片である。

弥生時代末から古墳時代のものであろう。

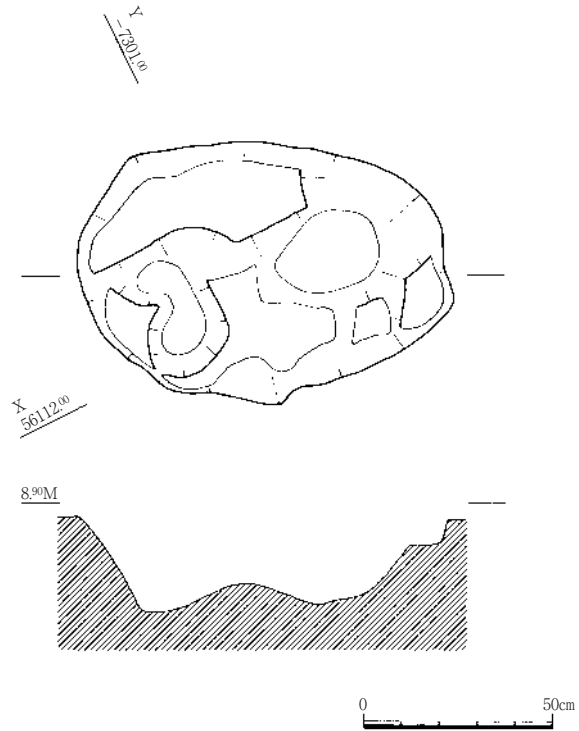


Fig.94 4 B区 S K 5 遺構平面図 (S : 1/20)

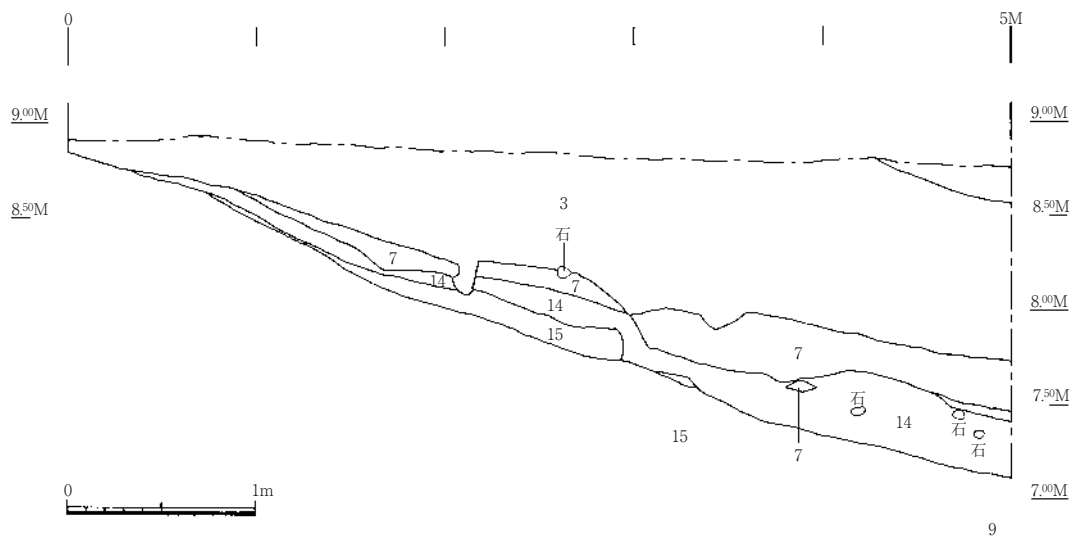
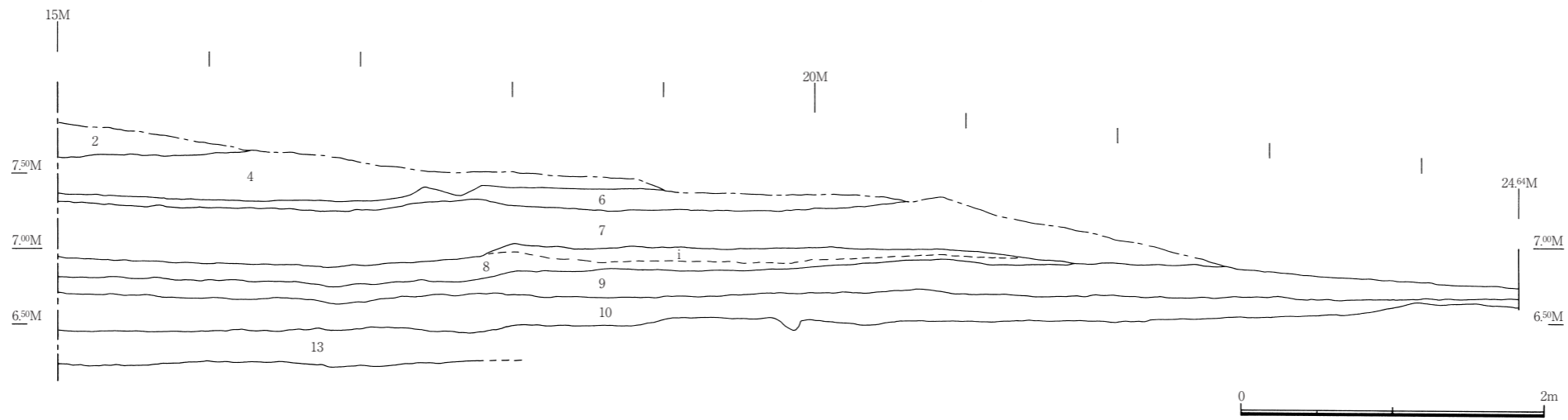
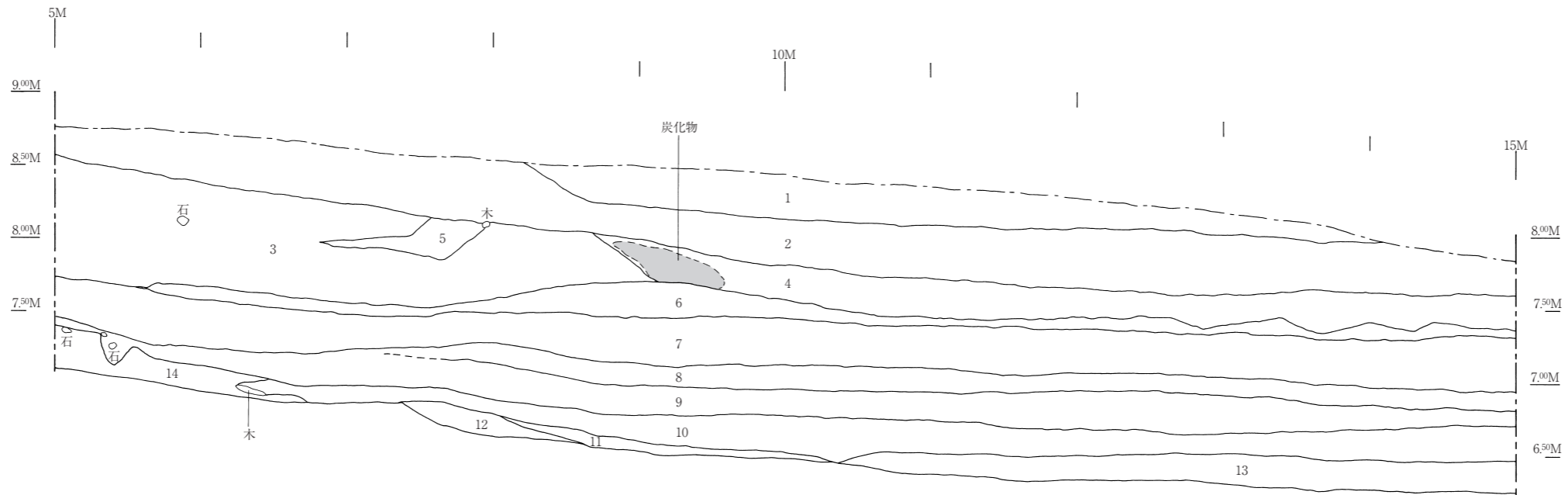


表37. 4B区南北ベルトセクション層序表

層	内容	その他
1	粘性あり、締まりあり。黒褐色（7.5YR2/2）腐植を多く含む。青色角礫を少し含む。	
2	粘性あり、締まりあり。黒褐色（7.5YR3/2）木片を含む。青色角礫を多く含む。	ⅢB-0
3	粘性あり、締まりあり。黄灰色（2.5Y4/1）。円礫、青色地山崩壊角礫を多く含む。	ⅢD
4	粘性あり、締まりあり。黒褐色(10YR3/1)。褐灰色（10YR5/1）土、灰白色（10YR7/1）土が混入する。	ⅢB-1
5	粘性あり、締まりあり。黒褐色（7.5YR3/1）。腐植を含む。青色角礫を多く含む。	
6	粘性あり、締まりあり。褐灰色（7.5YR3/1）。腐植・木片を多く含む。青色角礫を含む。	ⅢB-2
7	粘性あり、締まりあり。褐灰色（10YR4/1）。青色角礫を多く含む。木片、炭化物を少し含む。	ⅢB-3
8	粘性あり、締まりあり。灰色（5YR6/1）。青色角礫を多く含む。木片、炭化物を少し含む。	
9	粘性あり、締まりあり。灰色（2.5Y5/1）。灰色（N7/0）粘土を含む。青色角礫を多く含む。	ⅢC-0
10	粘性あり、締まりあり。灰色（7.5Y6/1）。木片を少し含む。青色角礫を多く含む。	
11	粘性やや強、締まりあり。黄灰色（2.5Y5/1）。青色角礫を少し含む。炭化物を少し含む。	
12	粘土。締まりあり。灰白色（7.5Y7/1）。青色角礫を少し含む。	
13	黒褐色（10YR3/1）。腐植を多く含む。褐色（7.5YR4/4）礫、青色角礫を少し含む。	ⅢC-1
14	粘性やや強、締まりあり。灰色（5Y6/1）。青色角礫を多く含む。炭化物を少し含む。	
15	粘土。締まりあり。灰色（2.5GY8/1）。青色角礫を少し含む。炭化物を少し含む。	
i	粘性あり、締まりあり。灰色（5Y6/1）。青色角礫を含む。	

Fig.95 4B区南北ベルトセクション図（S：1/40）



5. 遺物

遺物はⅢE層上面で確認された各遺構とⅢE層、ⅢC層群、ⅢD層群、ⅢB層群の各層から出土した。

(1) 遺構出土遺物

①ⅢE層上面検出遺構の遺物

S K 1 出土遺物

堅果類¹⁾ (イチイガシ、シラカシ他) 約1,000個と小型の植物遺体が出土している。先述の様に貯蔵穴としてはやや浅めであり、検出面よりも更に上位から掘削された可能性があるが、ここでは堅果類を覆う (蓋または袋状のものか) 草本類²⁾ を材料とした編状製品の一部が発見されている。また、獣骨破片が出土している。

S K 2 出土遺物

堅果類 (イチイガシ、シラカシ他) が少量出土している。

S K 6 出土遺物

堅果類 (イチイガシ他) が少量出土している。

S K 3 出土遺物 (Fig.93)

製品としてここでは図示し得ないが、板状の木製品の一部分が出土している。規模は約35cm×25cm、厚さ約5cmであり、一側面は凸面で仕上げられている。農工具の一部か。

②地山検出の遺構

S K 5 出土遺物

遺構の形態は先述のように不整形であり、人工的な要素が低い。弥生土器の甕頸部2点と細片が出土している。

注

1) 大型植物化石の樹種に関しては新山氏による分析結果「居徳遺跡群出土の大型植物化石」『居徳遺跡群 IV』を参考にさせて頂いた。特にイチイガシ、シラカシについてはサンプルを抽出し、これを基準として行った。

2) 樹種同定についてはパレオ・ラボによる分析を参照されたい。

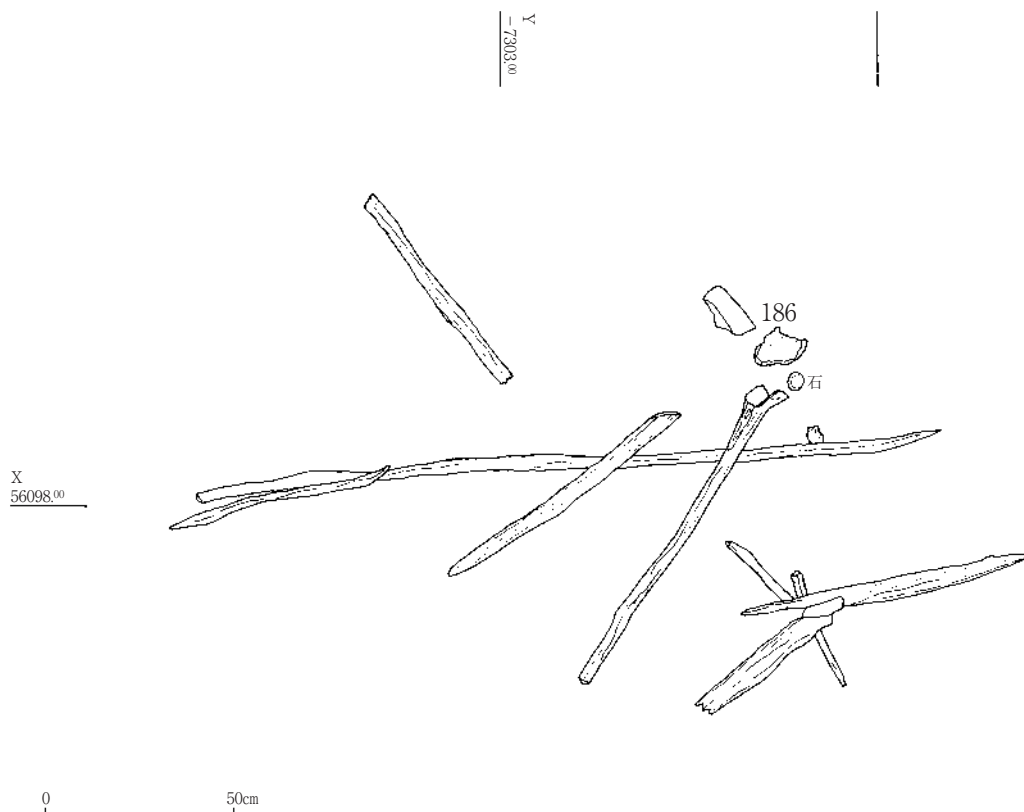


Fig.96 4 B区遺物出土状態1 L6-1グリッド (S:1/20)

(2) 包含層出土遺物

①土器・土製品

ⅢE層出土土器・土製品 (Fig.99)

ⅢE層から出土した土器・土製品の総点数39点である。縄文土器29点、弥生土器10点である。縄文土器は深鉢が25点、浅鉢が4点である。弥生土器は甕胴部が4点、壺が6点である。

• 縄文土器

図示したものは1～8の8点である。1は縄文後期深鉢の口縁か。沈線を用いた施紋が見られる。2・3は浅鉢の口縁である。内面には縄文が施され、沈線で区画される。外面は条痕が見られる。4は深鉢の体部上位であり、屈曲の後に口縁は内傾する。5から7は深鉢の口縁である。8は浅鉢の底部であり、凹面を成す。

ⅢC層群出土土器・土製品 (Fig.100～105)

ⅢC層群出土遺物はⅢC層、ⅢC-0層、ⅢC-1層、ⅢC-2層の各層出土遺物に区別される。

ⅢC層から出土した土器・土製品の総点数は1,274点である。このうち縄文土器は41点、弥生土器は1,176点、土師器は9点である。縄文土器のうち浅鉢は5点、深鉢は34点である。弥生土

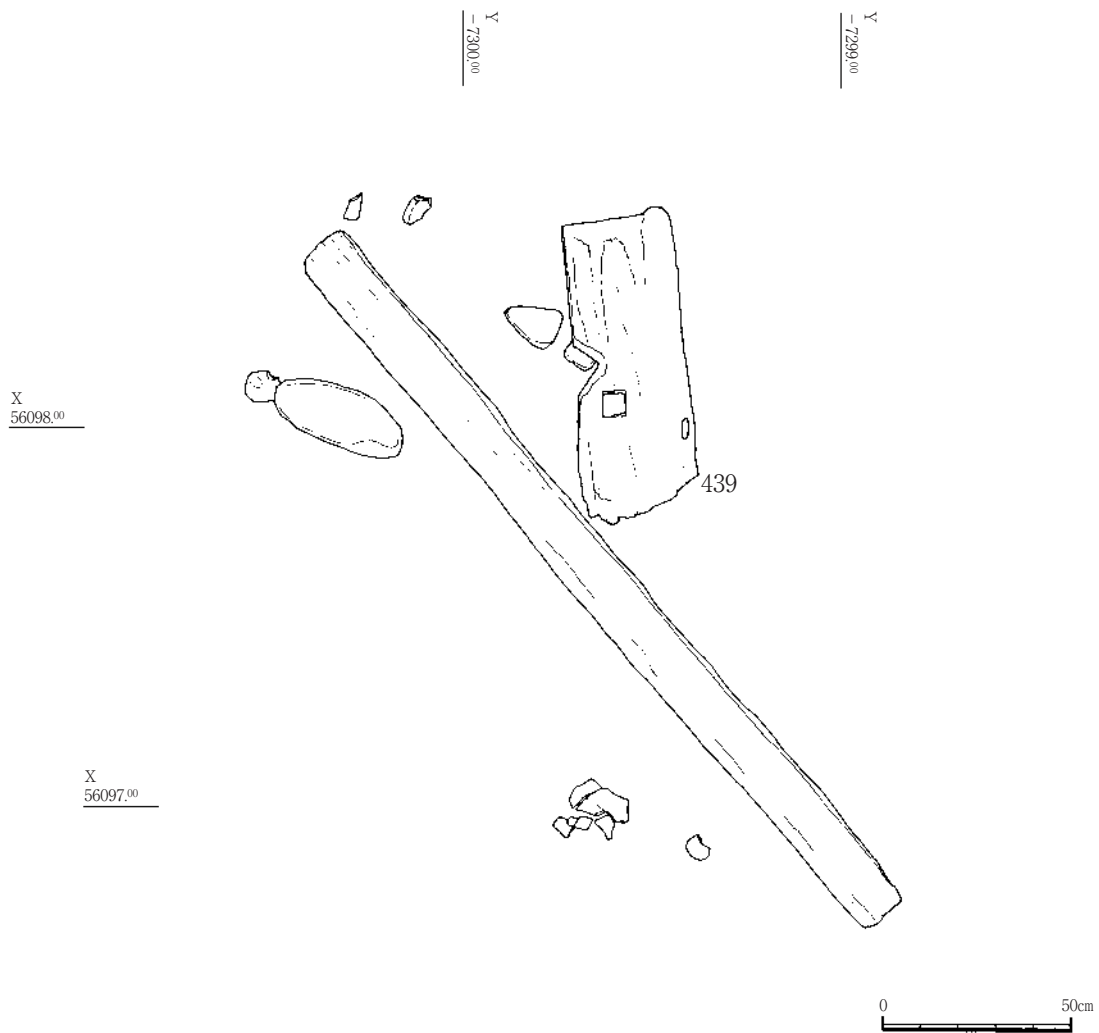


Fig.97 4 B区遺物出土状態2 L 6-1・2グリッド (S : 1/20)

器のうち甕は660点、壺は205点、鉢は12点、器台9点、高坏は3点である。土師器のうち甕は7点、壺は1点、高坏は1点である。

ⅢC-0層から出土した土器・土製品の総点数は599点である。このうち縄文土器は4点、弥生土器は211点、土師器は240点である。縄文土器のうち深鉢は3点である。弥生土器のうち甕は185点、壺は20点、器台は4点、鉢は2点である。土師器のうち甕は236点、高坏は2点、鉢は1点である。

ⅢC-1層から出土した土器・土製品の総点数は145点である。このうち縄文土器は4点、弥生土器は82点、土師器は2点である。縄文土器のうち浅鉢は2点、深鉢は2点である。弥生土器のうち甕は57点、壺は25点である。土師器のうち鉢は1点、甕は底部が1点である。

ⅢC-2層から出土した土器・土製品は5点のみである。弥生土器の甕が2点と壺が3点出土している。

ⅢC層で表れる土器・土製品の出土点数の偏りは、ⅢC層群が弥生土器包含層であること示



Fig.98 4B区遺物出土状態3 L6-2グリッド (S:1/20)

している。本層群の古い段階では縄文土器や縄文系土器¹⁾を伴った弥生前期土器が主体を成している。新しい段階(ⅢC-0層)では弥生中期末から後期の土器が多くを占めている。

9から13は浅鉢である。9は内面に沈線状の段を有し、外面には弱い段を持つ。10は波頂部であり端部に2ヶ所を押圧して刻む。11は内彎して立上がる口縁である。形態はボウル状を成すものと考えられる。12・13は口縁下の屈曲部である。12の口縁は外反して広がり、13の口縁は内傾して立上がる。14から32は壺である。14は斜位の3条ヘラ描き沈線紋が見られる。15は重弧紋。16は横位のやや彎曲するヘラ描き沈線帯。17は沈線状の段部が見られる。18は3条の曲線を主体とする沈線紋と斜位の沈線が施される。19は重弧紋である。20・21は明瞭な区画沈線と無軸木葉紋を施す。22は多条のヘラ描き沈線帯が見られる。23は2条の区画沈線。24は3条の区画沈線と弱く彎曲する斜位の沈線紋が見られる。25は区画沈線と矢羽根状の沈線紋が見られる。26は矢羽状の沈線紋が見られる。27は24と同様な紋様か。綾杉状の沈線紋か。極く細

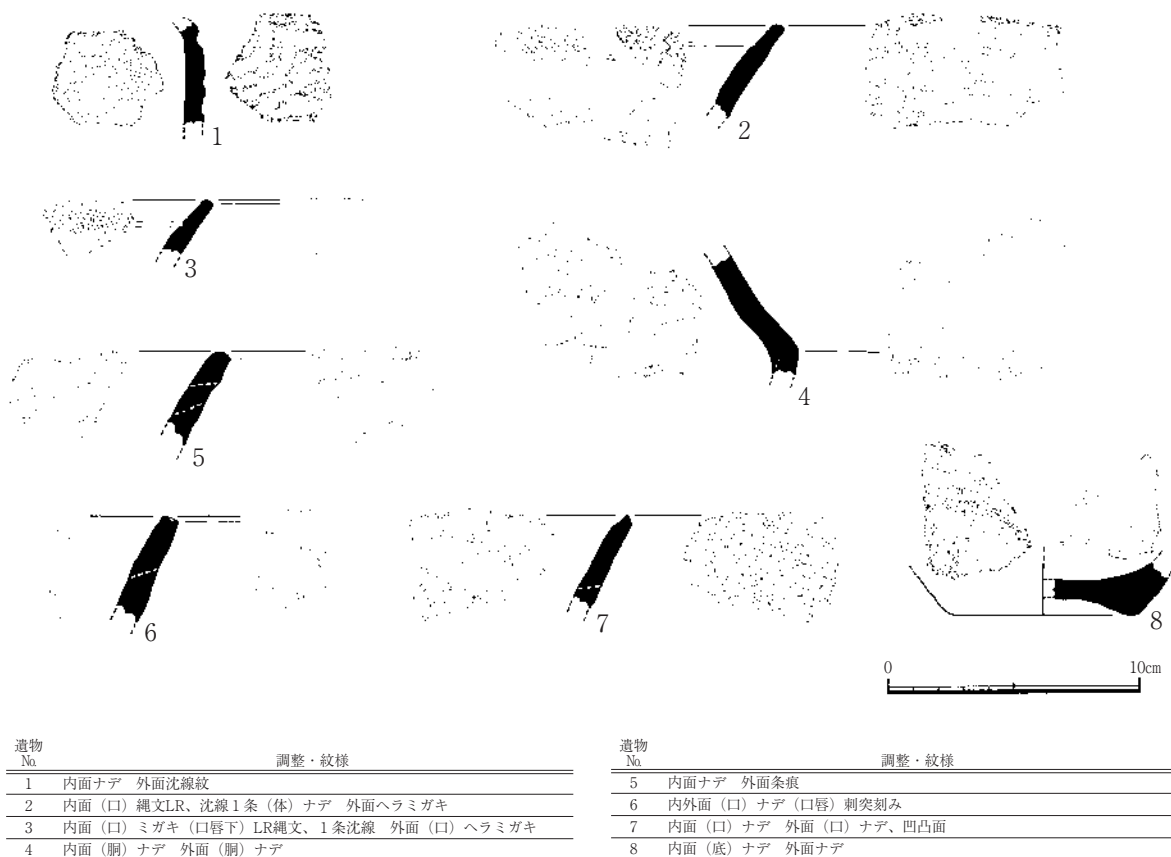
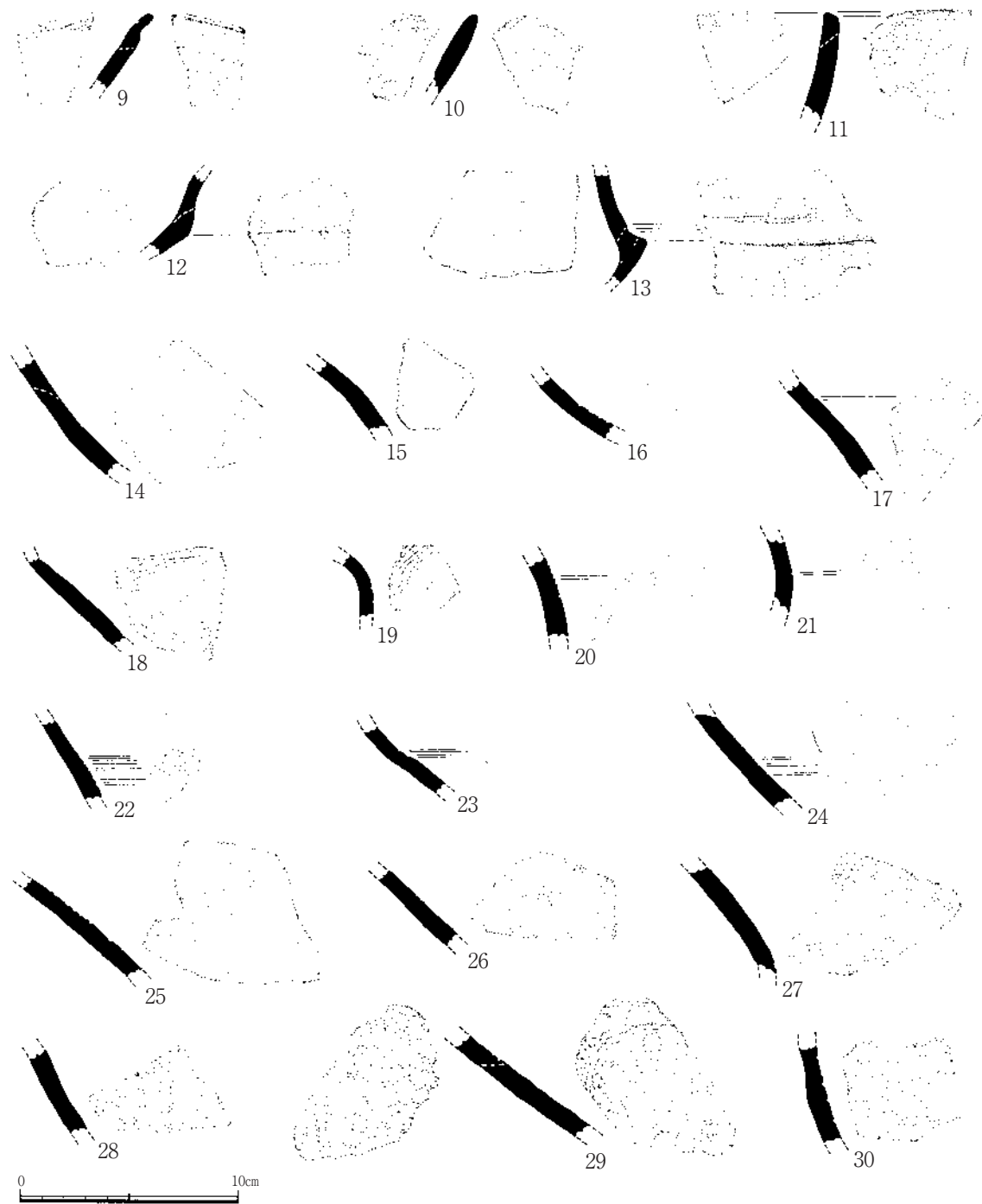


Fig.99 4 B区出土遺物1 III E層 (S : 1/3)

い沈線で構成される。28は重弧紋である。29はやや粗製の胎土である。器面に2条沈線による重弧紋が施される。30は多条のヘラ描き沈線帯であり、弥生前期末か。31は断面台形の刻目突帯が沈線帯に貼付されるものであり、弥生前期末である。32は4条のヘラ描き沈線帯を施す。

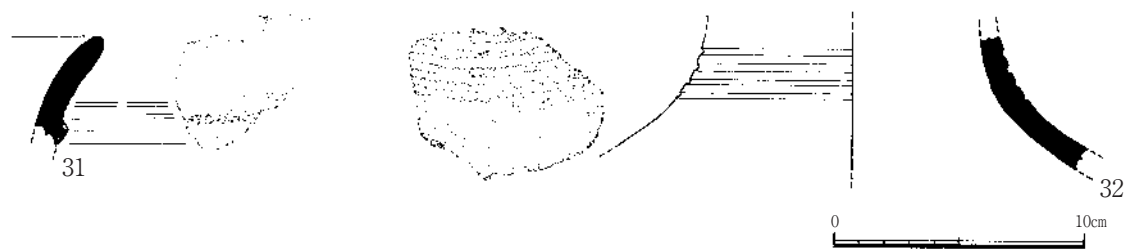
33から70は縄文土器または縄文系土器の深鉢形、甕である。33は深鉢形であり、口縁下に低い突帯が付き、押圧の刻みを施す。34は深鉢形であり、口縁外面に断面三角形の突帯が付き、押圧の刻みを施す。35は口縁下に突帯が貼付され不明瞭な刻みを施す。36は口唇下の断面三角形突帯に刺突風の刻みを施す。37はやや扁平な断面蒲鉢形の突帯であり、縦長の刻みを施す。38は口縁が緩やかに外反して開く深鉢形であり、口縁外面に断面三角形の突帯が付く。39は開く口縁に断面形が垂下した三角形を呈する突帯を貼付し、連続的に刻む。40は開く口縁に幅太の突帯が付き押圧風に刻みを施す。41は低い扁平な突帯に不規則な刺突風の刻みを施す。42は口縁下に断面三角形の突帯が付き、刻みは不明瞭で連続的である。43は小さく突出する突帯に刻みを施す。44は口唇下の幅広で低い突帯に連続的な刺突風の刻みを施す。45は口縁外面に断面三角形の突帯を貼付し連続的に刻む。46から51は口縁外面に貼付された突帯下に外面からの未貫通孔が孔列紋様に施されており、内面側には大きく粘土が盛り上がる。46は口縁外面の断面三角形突帯に不明瞭な刻みが施される。47は口縁外面に無刻みの断面三角形突帯が貼付され



遺物 No	調整・紋様
9	内面(口唇下) 1条沈線(口) ヘラミガキ 外面(口) ナデ(体) 擦過
10	内面(口) ミガキ、沈線 外面(口) 擦過、波頂部の口唇に押圧による2ヶ所の刻み、口縁下段部
11	内面(口) ナデ 外面(口) ナデ
12	内面(体) ヘラミガキ 外面(体) ヘラナデ
13	内面(体) ヘラミガキ 外面(体) ヘラミガキ
14	内面(胴) ナデ 外面(胴) ヘラミガキ、沈線紋
15	内面(胴) ナデ 外面(胴) ヘラミガキ、重弧紋
16	内面(胴) ナデ 外面(胴) ミガキ、ヘラ描沈線帯
17	内面(胴) ナデ 外面(胴) ヘラミガキ、沈線状段部
18	内面(胴) ナデ 外面(胴) ヘラミガキ、沈線紋(重弧紋?)
19	内面(胴) ナデ 外面(胴) ミガキ、下弦重弧紋

遺物 No	調整・紋様
20	内面(胴) ナデ 外面(胴) ミガキ、無軸木葉紋、縦横の区画沈線
21	内面(胴) ナデ 外面(胴) ミガキ、縦横区画沈線、無軸木葉紋
22	内面(胴) ナデ 外面(胴) ミガキ、ヘラ描沈線帯
23	内面(胴) ナデ 外面(胴) ナデ(頸) 沈線2条
24	内面(胴) ナデ 外面(胴) 弧状の沈線紋、3条沈線、複線山形紋
25	内面(胴) ナデ 外面(胴) ヘラミガキ、矢羽根状沈線紋(綾杉紋?)
26	内面(胴) ナデ 外面(胴) ミガキ、羽状紋?
27	内面(胴) ナデ 外面(胴) ヘラミガキ、区画沈線、山形紋?
28	内面(頸) ナデ 外面(頸) ナデ? 縦区画沈線、下弦重弧紋
29	内面(胴) ナデ 外面(胴) ナデ、ヘラ描沈線1~2条、半截竹管による下弦重弧紋
30	内面(口) ナデ 外面(口) ナデ、龜描沈線5条

Fig.100 4 B区出土遺物2 III C層群 (S : 1/3)



遺物 No.	調整・紋様
31	内面(口)ナデ 外面(口)ミガキ、ヘラ描沈線帯、断面台形刻目突帯、刺突刻み
32	内面(胴)ナデ 外面ハケのちミガキ ヘラ描沈線

Fig.101 4B区出土遺物3 III C層群 (S:1/3)

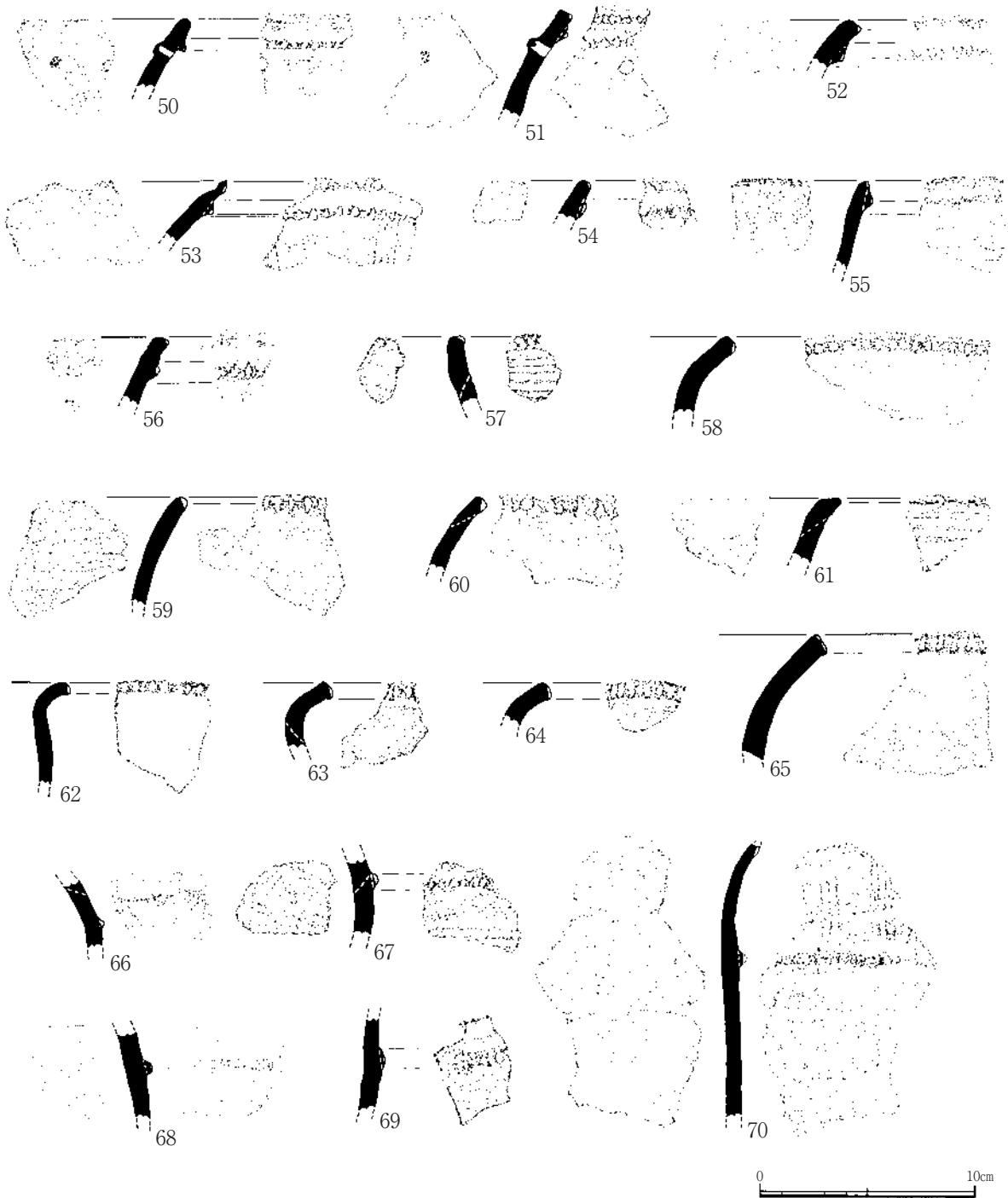
る。48は大きく広がる口縁外面にやや垂下気味の突帯が付き、連続的な刻みを施す。49は口縁外面の断面三角形突帯をやや縦長に刻む。50は口縁外面に断面形がやや垂下する三角形の突帯が貼付され、連続的に刻む。51から56は口唇外端と口縁外面に刻みを施すものである。51は口唇外端と突帯を押圧風に刻む。52は口唇外端を押圧風に刻み、断面三角形の突帯は縦長に刻む。53は口唇外端と断面三角形突帯を連続的に刻む。突帯下口頸部の無紋部に縦位の3条を一単位とする沈線紋を施す。54の刻みは連続的である。口唇外面は押圧風であり、突帯には刺突風な刻みが施される。55には小さく浅い刻みが施される。56は口唇外端に施された刻みが不明瞭で、突帯にはやや縦長の刻みを施す。57は口唇外端に刺突による刻みを施す。58は外反する口縁を有し、口唇では連続的に刻みを施す。59は口唇外端を押圧風に刻む。60は口唇外端を刺突風に刻む。61は口唇が外側にやや肥厚し、不明瞭な刻みが施される。62から64は口頸部が短く外反する甕である。口唇または口唇外端を押圧風に刻む。65は弥生前期の甕であり、口唇の平端面を筋状に刻む。灰褐色の胎土であり、器面は丁寧に仕上げる。66から70は深鉢形の胴部に貼付された突帯である。66は突帯に小さな刻みが施される。67は突帯に連続的な刻みを施す。68は断面台形の突帯に刺突風の連続的な刻みを施す。69は段ともとれる低い扁平な突帯に筋条の刻みを施す。70は突帯に連続する不明瞭な刻みを施す。71から82は弥生中期末以降の土器である。71と74は肥厚する口縁外面に筋状の刻みを施し、下位には瘤状の浮紋が見られる。74では胴部上位に瘤状の浮紋が付き、直下には「ノ」字状の刻み列と櫛描沈線が施される。73は肥厚する口縁下端をヘラ状原体により押圧風に刻む。75は口縁が垂下して肥厚し、下端を連続的に刻む。76は肥厚する口縁外面に押圧痕が残る。77は肥厚する口縁下端を連続的に刻む。78は垂下して肥厚する口縁下端を押圧風に刻む。79は口唇外端をやや疎に刻む。80は胴部がやや長胴形を呈する。口縁は頸部の屈曲から直線的に立上がり、口唇は外側にやや肥厚する。外面にはタタキのちハケが施される。81・82は頸部の屈曲から口縁は直線的に立上がる。81は胴部内面にケズリ痕が残り、82は胴部外面にタタキ目が残る。83は深鉢形の胴部上位であり、突帯には半截竹管による刺突刻みが施される。84は深鉢の胴体部である。内面には厚く炭化物が付着する。85は深鉢の胴体部であり、外面には条痕が施される。86は平底の深鉢底部である。外面には条痕が施される。



遺物 No	調整・紋様
33	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ、低い断面三角形刻目突帯貼付、密な押圧刻み
34	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ、断面三角形刻目突帯、やや密な押圧風刻み
35	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ、低い断面三角形刻目突帯貼付、刺突風刻み、複線山形紋?
36	内面ナデ 外面ナデ、断面三角形刻目突帯、小さい刺突風刻み、接合痕
37	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ、断面蒲鋒形刻目突帯貼付、密な筋状刻み
38	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ、断面三角形刻目突帯貼付、大きな刺突風刻み
39	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ、断面三角形刻目突帯貼付、やや密な押圧風刻み、匱槽沈線1条
40	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ、断面三角形刻目突帯貼付、押圧風刻み
41	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ、低い断面蒲鋒形刻目突帯貼付、刺突風刻み

遺物 No	調整・紋様
42	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ、断面三角形刻目突帯貼付、規模のやや小さい押圧刻み、下位接合痕
43	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ? 小さな断面三角形突帯貼付
44	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ、断面三角形刻目突帯貼付、密な刺突風刻み
45	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ、小さな断面三角形刻目突帯貼付、小さな押圧風刻み、接合痕
46	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ、断面三角形突帯貼付、接合痕、突帯下非貫通孔(円、φ5mm)1個
47	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ(口唇外)筋状の小さな刻み、断面三角形突帯貼付(無刻み)、突帯下非貫通孔(円、φ6mm)
48	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ、断面三角形刻目突帯貼付、小さな押圧風刻み、突帯下に非貫通孔(円、φ3~4mm)
49	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ、断面三角形刻目突帯貼付、密な筋状刻み、突帯下非貫通孔列(円、φ3~5mm)

Fig.102 4 B区出土遺物4 III C層群 (S : 1/3)



遺物 No.	調整・紋様
50	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ、断面三角形刻目突帯貼付、小さな押圧風刻み、やや密、突帯下非貫通孔(円、φ5mm)
51	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ、口唇外刻み、断面三角形刻目突帯貼付、突帯下非貫通孔(円、φ5mm)
52	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ、口唇外密な押圧風刻み、低い断面三角形刻目突帯貼付、やや密な刺突風刻み
53	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ、口唇外に密な押圧風刻み。断面三角形刻目突帯貼付、密な押圧風刻み、縦位3条沈線(櫛原体?)
54	内面(口)ナデ 外面(口唇外)密な押圧風刻み(口)断面蒲鉾形刻目突帯貼付、密な刺突風刻み
55	内面(口)ナデ 外面(口)口唇外小さく連続的な刺突刻み、断面三角形刻目突帯、小さな刺突風、
56	内面ナデ 外面ナデ、断面蒲鉾形刻目突帯貼付、密な刺突~押圧風刻み
57	内面(口)ナデ 外面(口唇外)密な半截竹管による刻み?(口)条痕
58	内面ナデ 外面ナデ(口唇外)密な押圧刻み
59	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ

遺物 No.	調整・紋様
60	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ、口唇外やや疎な刺突風刻み
61	内面(口)ナデ 外面(口唇外)刺突風刻み(口)条痕
62	内面(口)ナデ、縦位押圧痕 外面(口)ナデ、口唇押圧風刻み
63	内面(口)ナデ(ミガキ風の幅狭原体) 外面(口唇外)米粒状押圧風刻み(口)ヘラナデ
64	内面(口)ハケのちナデ 外面(口)ナデ、口唇密な押圧風刻み
65	内面(口)ナデ、口唇に刻み 外面(口)ナデ
66	内面(胴)ナデ 外面(胴)ナデ、ヘラナデ断面三角形刻目突帯、やや密な筋状の細い刻み
67	内面(胴)ナデ 外面(胴)ナデ、条痕、断面三角形刻目突帯貼付、密な押圧刻み
68	内面(胴)ナデ、凹凸面 外面(胴)ナデ、条痕、断面三角形刻目突帯貼付、刺突風刻み、下位接合痕
69	内面(胴)ナデ 外面(胴)ナデ、低い断面三角形刻目突帯、密な筋状?刻み
70	内面ナデ 外面(口)ナデ、縦位ヘラ圧痕、口唇外押圧風刻み(胴)条痕のちナデ、断面三角形~台形突帯、押圧風刻み

Fig.103 4 B区出土遺物5 III C層群 (S : 1/3)

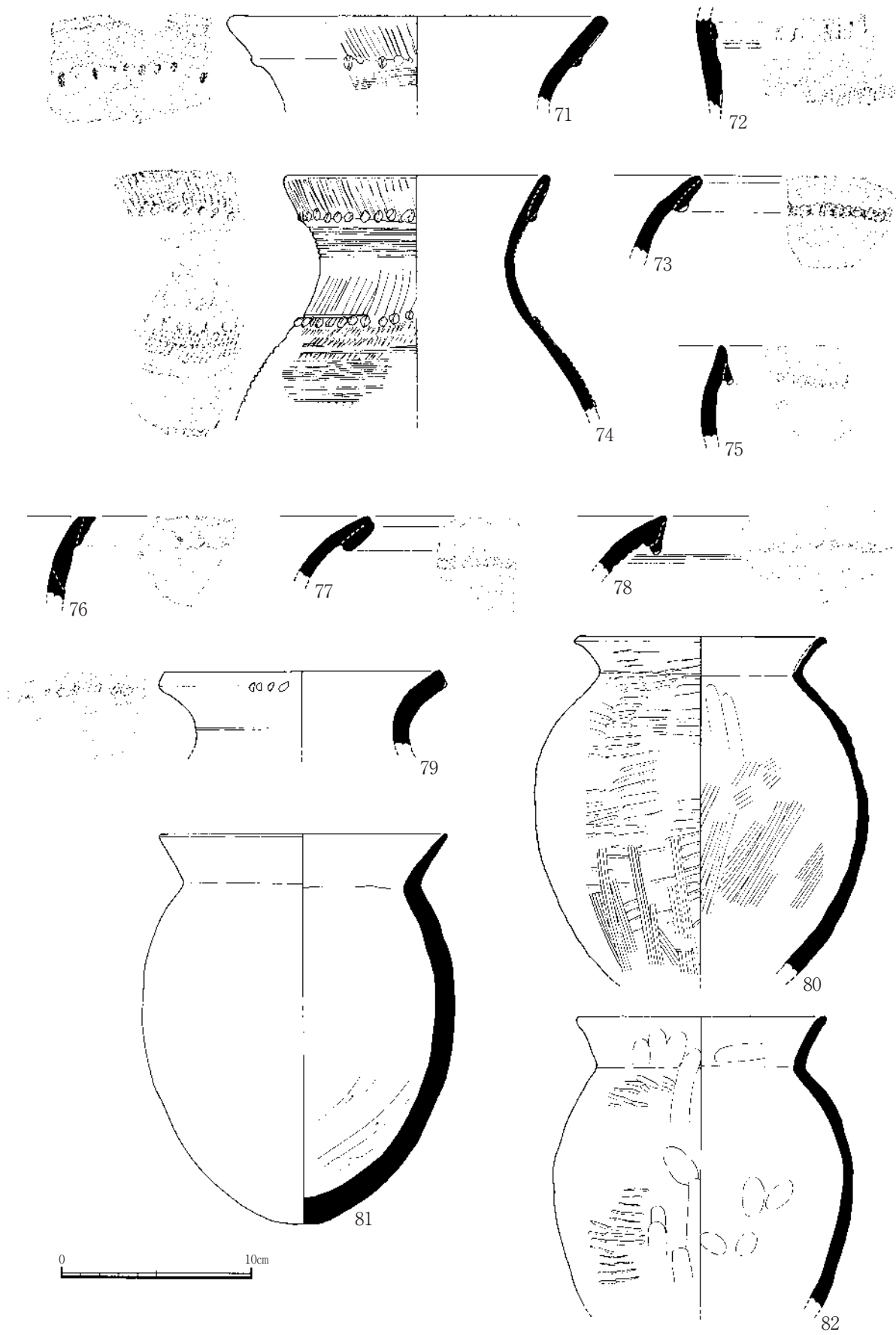
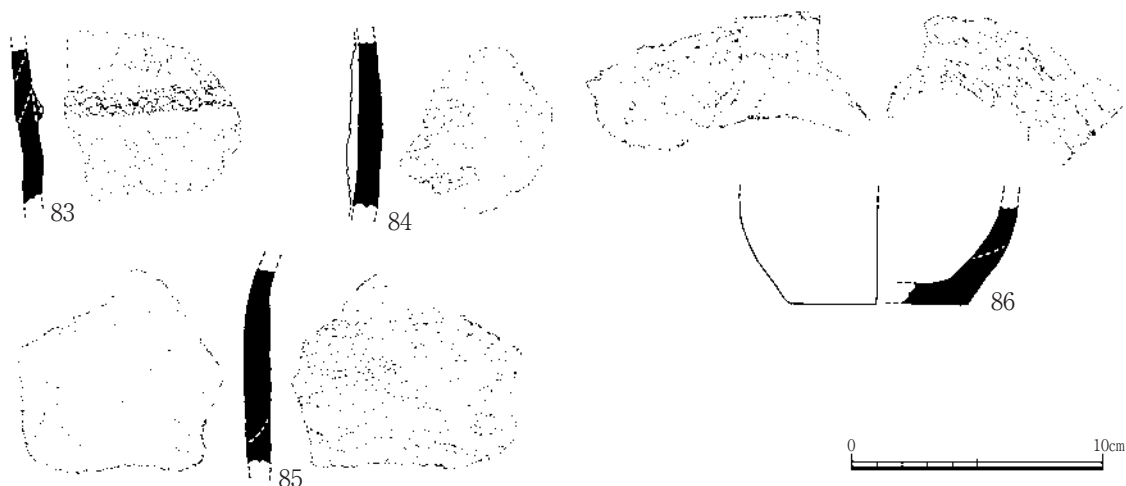


Fig.104 4 B区出土遺物6 ⅢC層群 (S : 1/3)



遺物 No	調整・紋様
71	内面(口)ナデ 外面斜位刻み、瘤状浮紋、櫛描沈線
72	内面(胴)ナデ、押圧痕 外面(胴)ナデ、瘤状浮紋列、櫛描?沈線2条、斜位筋状刻み
73	内面(口)ヨコ細ハケ 外面(口)ナデ、断面垂下三角形粘土帯貼付、ハケ状原体による押圧風刻み、細ハケ
74	内面(口)ナデ(胴)ナデ 外面(口)ヘラ状工具による刻み、浮紋列、櫛描沈線(頸)縦位櫛刻み?(胴上)櫛描沈線、瘤状浮紋列、櫛原体による刻み(胴中)ヘラ刻み
75	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ、やや密な押圧風刻み、爪圧痕
76	内面(口)ナデ、浅い凹凸面 外面(口)ナデ、口唇下押圧痕
77	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ、口縁下端に刻み
78	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ、口唇外押圧風刻み、櫛描沈線

遺物 No	調整・紋様
79	内面(口)ナデ 外面(口唇外)押圧刻み(口)ナデ
80	内面(口)ナデ(胴)ハケのちナデ 外面(口)タタキのちナデ(胴上)タタキ(胴下)タタキのちハケ
81	内面(口)ヨコナデ(胴中)ケズリのちナデ(胴下)ケズリ 外面(口)ヨコナデ(胴)ナデ
82	内面(口)ナデ(胴)ナデ、浅い凹凸面 外面(口)ナデ(胴)タタキのちナデ
83	内面(体)ナデ 外面(体)山形紋、断面蒲鉾形刻目突帯、刺突刻み(半截竹管?)、ナデ
84	外面(胴)条痕
85	内面(胴)ナデ 外面(胴上)ナデ(胴下)条痕
86	内面(底)ナデ 外面(胴下)条痕、ナデ

Fig.105 4B区出土遺物7 III C層群 (S:1/3)

III D層群出土土器・土製品 (Fig.106~136)

III D層から出土した土器・土製品の総点数は、22,800点である。そのうち、縄文土器は10点、弥生土器は2,224点、土師器は10,518点、須恵器は9点、土師質土器は7点、陶器は2点、磁器は1点である。

縄文土器は深鉢が10点である。弥生土器は甕が1,877点、壺が251点、器台が41点、鉢が40点、高坏が14点、蓋が1点である。土師器は甕が9,307点、高坏が558点、鉢が389点、壺が213点、ミニチュア土器が26点、小型丸底土器が5点、器台と勾玉が各1点、椀が8点である。須恵器は甕が6点、壺が1点、坏身が1点、坏蓋が1点である。土師質土器は坏が7点である。

III D-1層から出土した土器・土製品の総数は、1,280点である。そのうち、弥生土器は60点であり、土師器は475点である。弥生土器は甕が35点、壺が17点、器台が4点、高坏と鉢が各2点である。土師器は甕が448点、鉢が19点、壺と高坏が4点である。

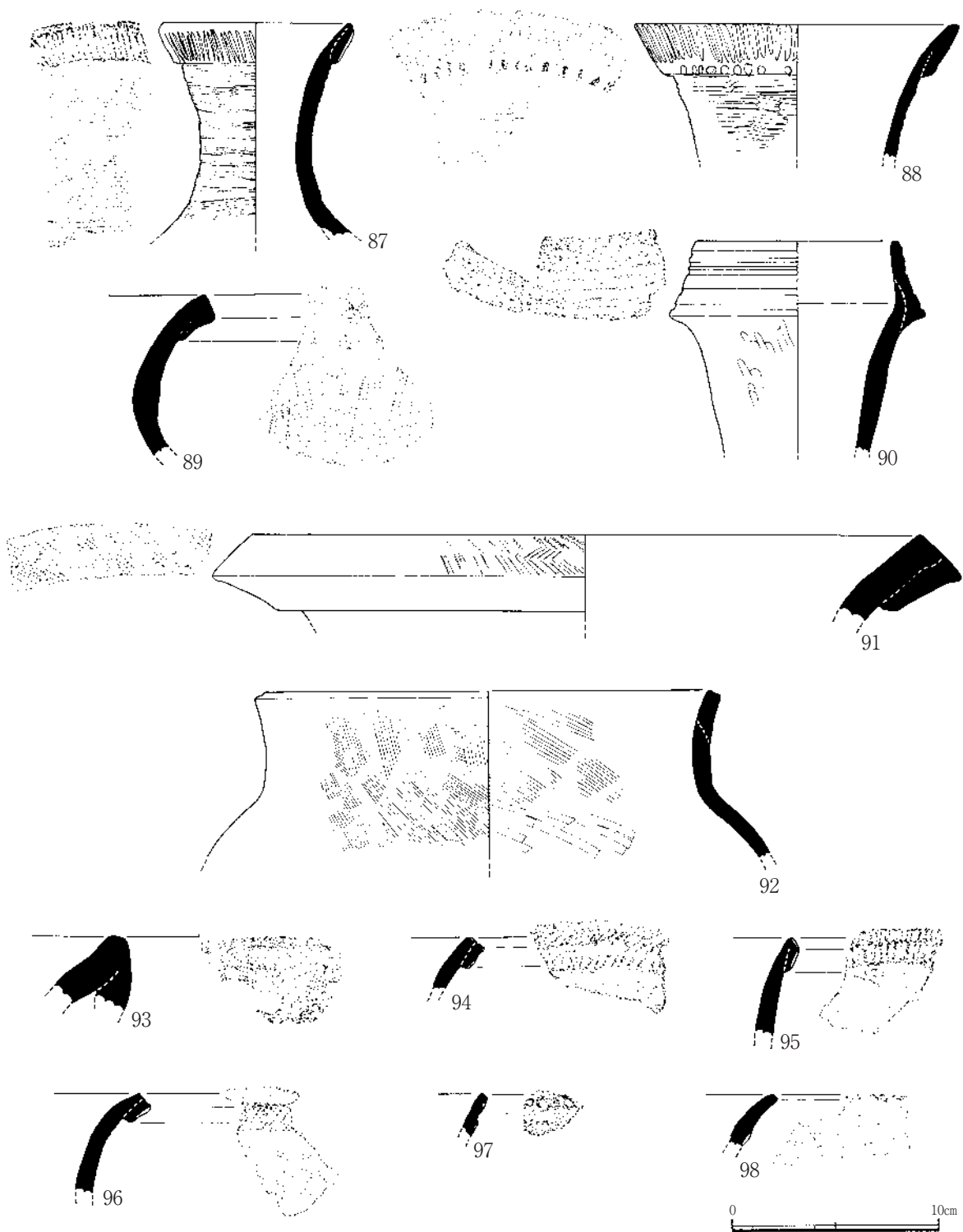
• 弥生土器後期以前の土器 (Fig.106~118)

87から118は縄文晩期から弥生後期の土器である。87は長頸の壺口縁であり、粘土帯貼付により肥厚する口縁外面に刻みを施す。頸部には櫛描沈線が施される。88は肥厚する口縁に筋状の刻みと瘤状の浮紋が施される。頸部には櫛描沈線が配される。87・88は弥生中期末のものである。89は肥厚する口縁外面に刻み風の押圧痕を残すものであり、頸部には櫛描沈線と縦位のハケが施される。90は長頸の壺であり、内傾する口縁には篋描き沈線（擬凹線²⁾？）が施される。弥生後期初頭と考えられる。91は広口形の壺であり、肥厚する口縁端面にヘラ状工具による斜線紋（羽状紋？）が施される。弥生後期のものである。92は直口形の壺であり、内外面にハケが施される。93は口縁が大きく外側に肥厚して垂下する。外面には篋描き波状紋を施す。94は肥厚する口縁の外面と端面に連続的な刻みを施す。95も肥厚する口縁の外面と外傾する端面に縦長の連続的な刻みを施す。96は肥厚する口縁の外面に斜位で筋状の刻みを施す。97は口縁下に薄い小さな円形浮紋を施す。98は口縁外面の低い突帯を押圧して刻む。99は突帯状に粘土帯を貼付し肥厚する口縁外面を小さく刻む。100は平らな面を成す口唇を斜位の筋状に刻む。また胴部上位にも刻み列を配す。101は垂下して肥厚する口縁の外端を連続的に刻む。102は胴体部上位に断面台形の突帯を貼付して押圧により刻む。103は胴部上位に瘤状浮紋列と3条の筋状刻みを施す。104・105は頸部破片であり、区画沈線と刻み列、押圧による刻みを施した幅広の突帯を配する。106は頸部から胴部上位にかけて櫛描沈線と瘤状浮紋を施す。107は胴部上位に瘤状浮紋と刺突による刻み列を施す。108は頸部から胴部上位に櫛描沈線と刺突による刻み列を施す。103から108は弥生中期末のものと考えられる。109は壺の胴部であり、区画沈線上に無軸木葉紋を配す。110・111は壺の胴部であり、区画沈線下に刺突による米粒状の羽状紋を施す。112は壺の胴部であり、竹管による刺突列が配される。113は口縁が緩やかに外反する深鉢形であり、口縁外面の突帯と口唇を押圧風に刻む。114は甕であり、口唇を押圧して刻む。115は口縁外面に2条の刺突列と無刻み突帯を配する。116は口唇外端を筋状に刻む。117は口唇下に無刻み突帯が付く。118は口唇下の突帯に刺突風の刻みを施す。

• 土師器

高坏 (Fig.109~111)

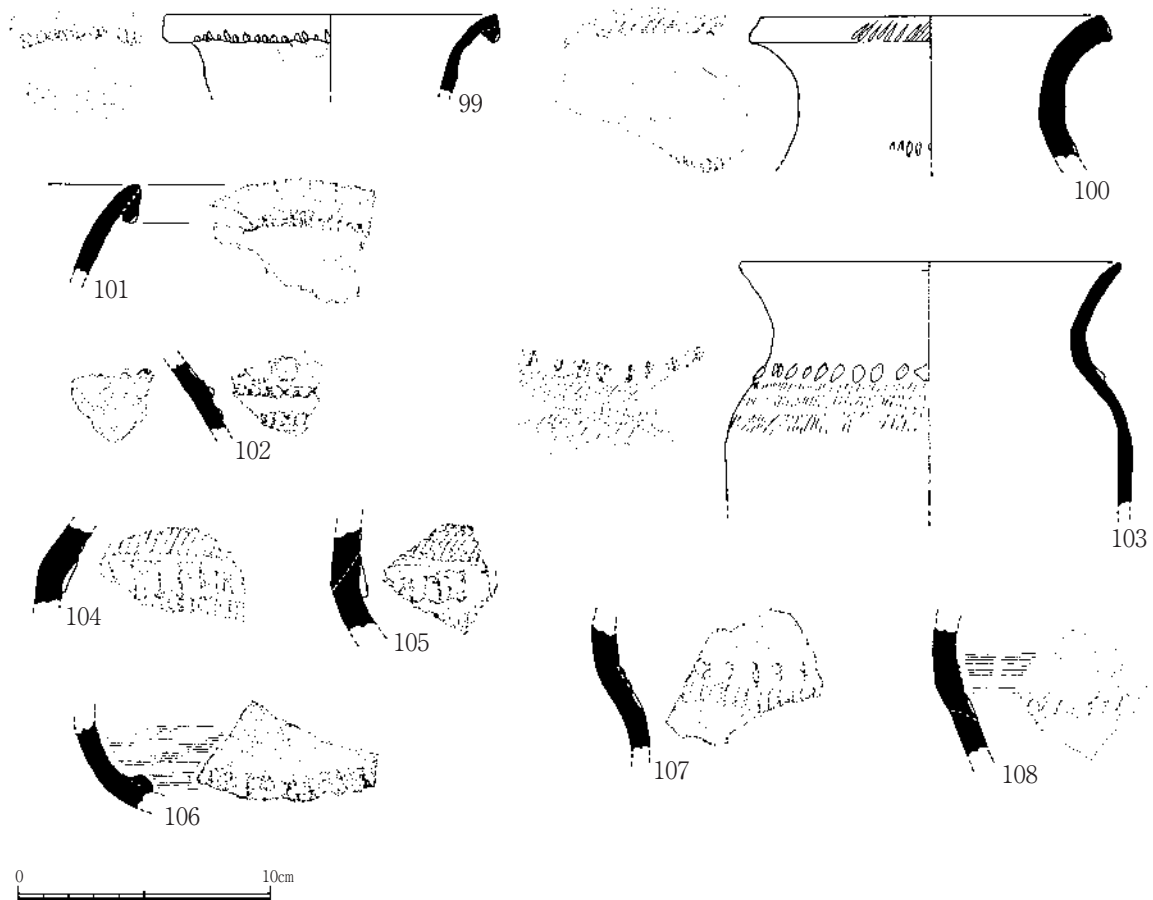
119から130は高坏の坏部に明瞭な段または屈曲を有する。口縁は直線的乃至やや外反して立上がる。119の口縁は屈曲から直線的に立上がる。坏部から脚部は連続しており、裾は大きく広がる。脚部の内底面は中実で凹面を成す。121は脚部が直立気味に立上がる脚柱から裾は外反して開く。122は坏部で弱い段を有し屈曲する。脚部は屈曲の後、裾で直線的に広がる。123は脚部で屈曲の後、裾は内彎して広がる。124・125は脚部で屈曲の後、裾は外反して広がる。中実で外面に爪痕を残す。126の脚部は裾へ向かって連続的に外反する。白から灰白色胎土である。127は長い脚柱から屈曲の後、裾は直線的に広がる。129はヘラミガキを施した細長い脚柱から屈曲の後、裾は直線的に広がる。130は直立気味の脚柱から屈曲の後、裾は直線的に広がる。131は坏部で弱い屈曲の後、口縁は直線的に立上がる。脚部は「ハ」の字状に直線的に開く。脚柱の内面には粘土紐巻き上げ痕が残される。132は粗製胎土の高坏であり、口縁は屈曲の後に外反する。脚部は連続的に外反する。133は口縁が屈曲の後に直線的に立上がり、口唇は外傾す



遺物 No.	調整・紋様
87	内面 (口) ナデ 外面 (口) 口唇外ヘラ刻み? 櫛描沈線
88	内面 (口) ナデ 外面 (口) 縦位ヘラ刻み、瘤状浮紋、櫛描沈線
89	内面 (口) ナデ、ハケのちナデ、ヨコハケ 外面 (口) 押圧痕、タテハケ、櫛描沈線、接合痕
90	内面 (口) ナデ 外面 (口) ヘラ描沈線5条(頭) タテヘラミガキ
91	内面 (口) ナデ 外面 (口) ナデ、口唇にハケ状原体による羽状紋
92	内面 (口) ハケ(胴上) ヘラナデ 外面 (口) ハケ(胴上) ハケ

遺物 No.	調整・紋様
93	内面 (口) ナデ 外面 (口) ナデ? 櫛描紋
94	内面 (口) ナデ? 外面 (口) ナデ、口唇上ヘラ刻み、口唇下ヘラ押圧刻み
95	内面 (口) ハケのちナデ 外面 (口) ナデ、口唇と口唇外に密な筋状刻み
96	内面 (口) ナデ 外面 (口) ナデ、口唇外斜位刻み
97	内面 (口) ナデ 外面 (口唇下) 円形浮紋(内刺突) (口) 斜位の筋状刻み2条
98	内面 (口) ナデ 外面 (口) ナデ、幅広の浅い押圧刻み、やや疎

Fig.106 4 B区出土遺物8 ⅢC層群 (S : 1/3)

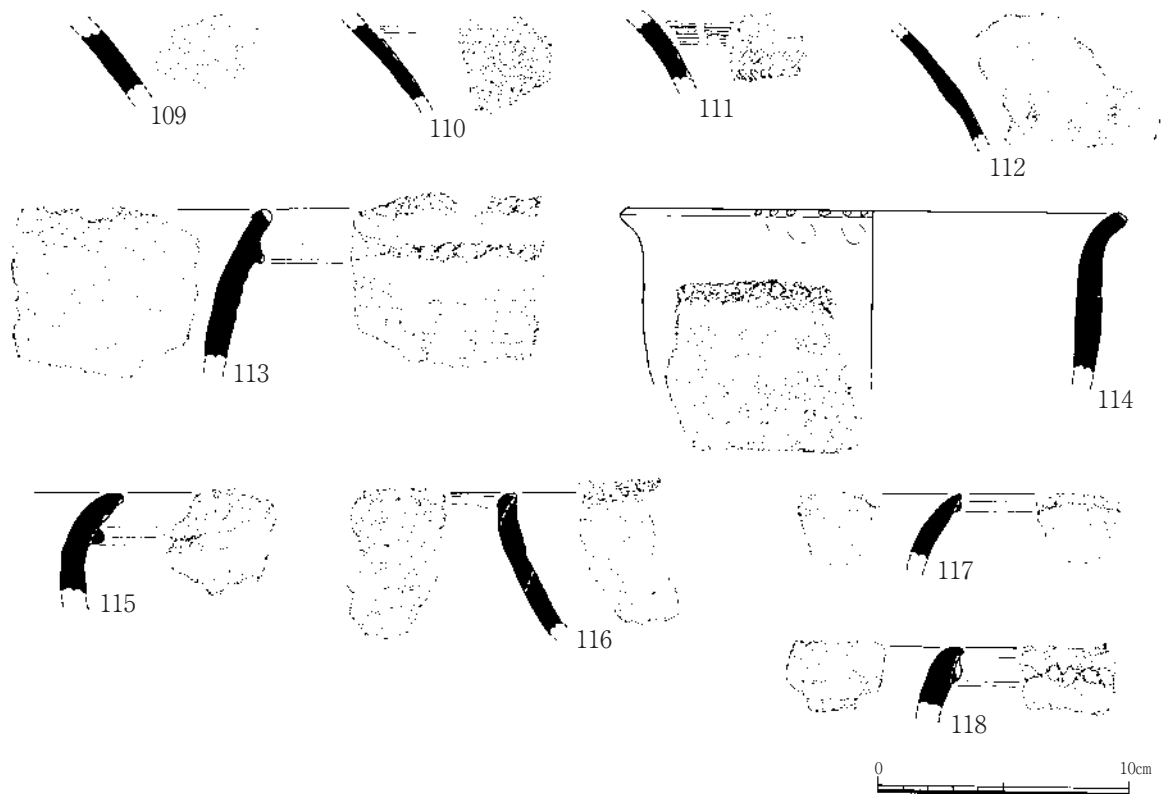


遺物 No	調整・紋様
99	内面(口) ナデ 外面(口) ナデ、口唇下に断面三角形粘土帯を貼付し、外端を押圧風に刻む。
100	内面(口) ナデ 外面(口唇) 斜位筋状刻み(口) ナデ(頸) 米粒状刺突列
101	内面(口) ナデ 外面(口) ナデ、口唇外密な押圧風刻み
102	内面(胴) ナデ 外面(胴) ヘラ押さえ痕、断面台形刻目突帯貼付(2条)、密な押圧刻み
103	内面(口) ナデ(胴) ナデ 外面(口) ナデ(胴) ナデ、瘤状浮紋列、櫛描刻み列
104	内面(口) ナデ 外面(口) 篋又は櫛刻み、浮紋、ヘラナデ? 区画沈線2条
105	内面(頸) ナデ 外面(頸) ヘラ状工具による刻み、櫛描き沈線、浮紋、ヘラナデ
106	内面(胴) ナデ 外面(胴) 櫛描沈線、瘤状浮紋列
107	内面(胴) ナデ 外面(胴) ナデ、瘤状浮紋列、押圧風刻み列
108	内面(胴) ナデ 外面(胴) 櫛描沈線、刺突風刻み列

Fig.107 4 B区出土遺物9 III D層群 (S : 1/3)

る面を成す。134は坏部で屈曲の後に口縁は外反する。脚部は屈曲の後にやや外反して広がる。135は坏部で屈曲の後に口縁は直線的に立上がる。136は粗製胎土の高坏であり、胎土中に細砂粒から砂粒を多く含む。坏部で屈曲の後に口縁は外反して立上がる。坏部下位の器面は荒れる。

137から149は坏部に段や屈曲を有さない、椀形を呈する。137は口縁が内彎して立ち上がり、口唇は面を成す。脚部は概ね連続して外反する。138は浅めの坏部を有し、口唇は内傾する面を成す。139は口縁が外反して立ち上がり、脚部は連続的に外反する。6~10mmの円孔透かしを有する。140は口縁端で外反するものの概ね内彎する坏部に、脚部は連続して外反する。141は内彎して立上がる坏部口縁に、口唇は面を成す。脚部は緩く外反する。142は内彎して立上がる大きな坏部口縁に、低くて連続的に外反する脚が付く。低脚杯的形態。



遺物 No.	調整・紋様	
109	内面(胴)ナデ	外面(胴)無輪木葉紋、区画沈線
110	内面(胴)ナデ	外面(胴)ナデ? 櫛描沈線、羽状紋米粒形刺突列
111	内面(胴)ナデ	外面(胴)櫛描沈線、羽状紋米粒形刺突列
112	内面(胴)ケズリのちナデ	外面(胴)ナデ、竹管による刺突列
113	内面(口)ナデ	外面(口)条痕、口唇外密な刺突風刻み、断面垂下三角形刻目突帯貼付、やや密な押圧風刻み、下位接合痕
114	内面(口)ナデ	外面(口)ナデ、押圧痕、口唇やや密な押圧風の刻み
115	内面(口)ナデ	外面(口)ナデ、口唇下2条米粒状刺突列、断面三角形突帯貼付
116	内面(口)ナデ	外面(口)条痕、口唇外切裂状の刻み
117	内面(口)ナデ	外面(口)ナデ、断面蒲鋒形突帯貼付(無刻)
118	内面(口)ナデ	外面(口)ナデ、低い断面垂下三角形刻目突帯、密な刻み

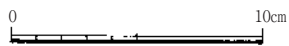
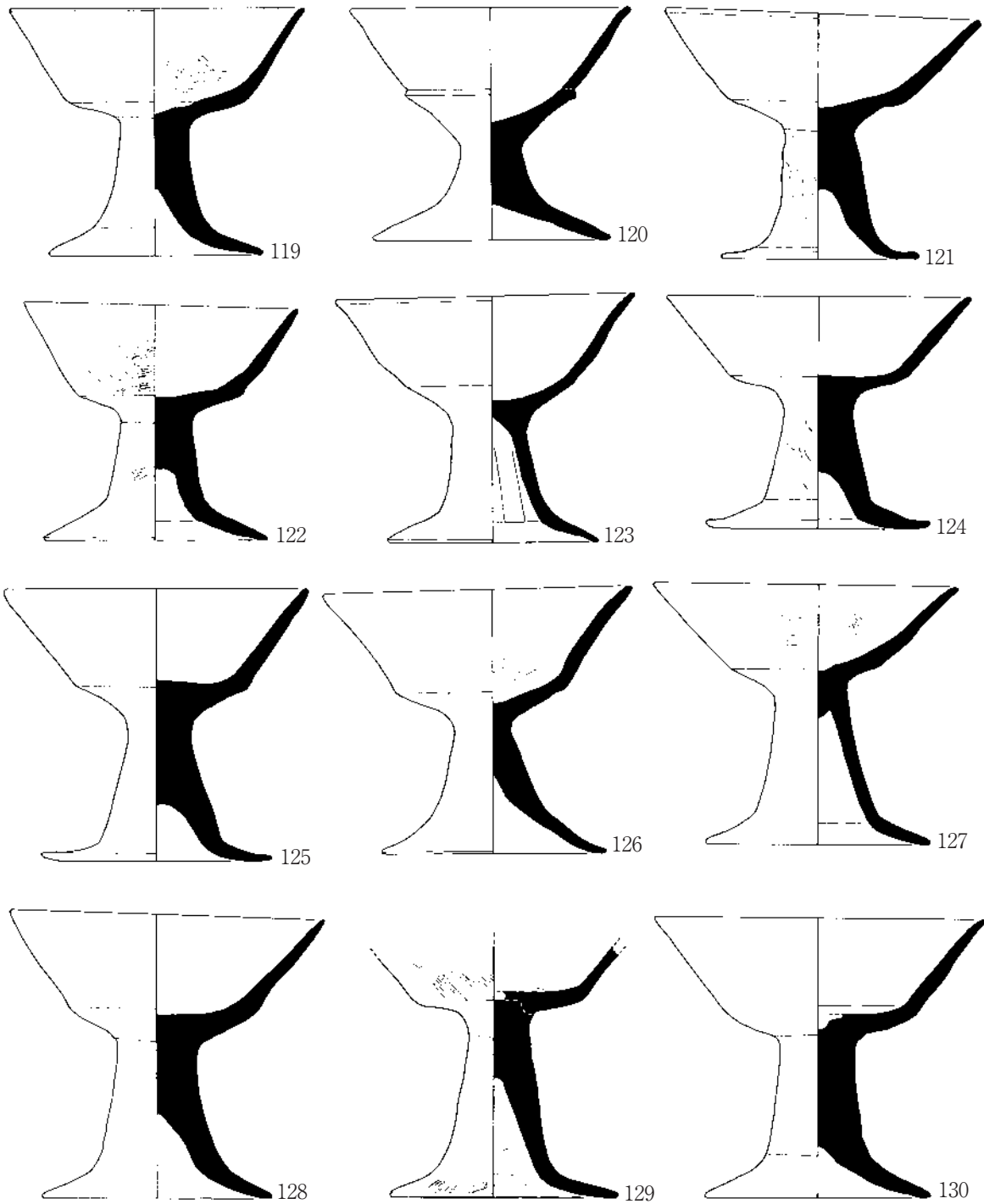
Fig.108 4B区出土遺物10 III D層群 (S : 1/3)

ミニチュア土器 (Fig.112)

150から155の6点を図示した。150は明瞭な頸部を有する壺形か。151は鉢形である。尖底または短い脚が付くと考えられる。152・153は浅めの鉢形である。154は深めの鉢形。155は口縁に粘土帯を貼付したものであり、鉢形か。

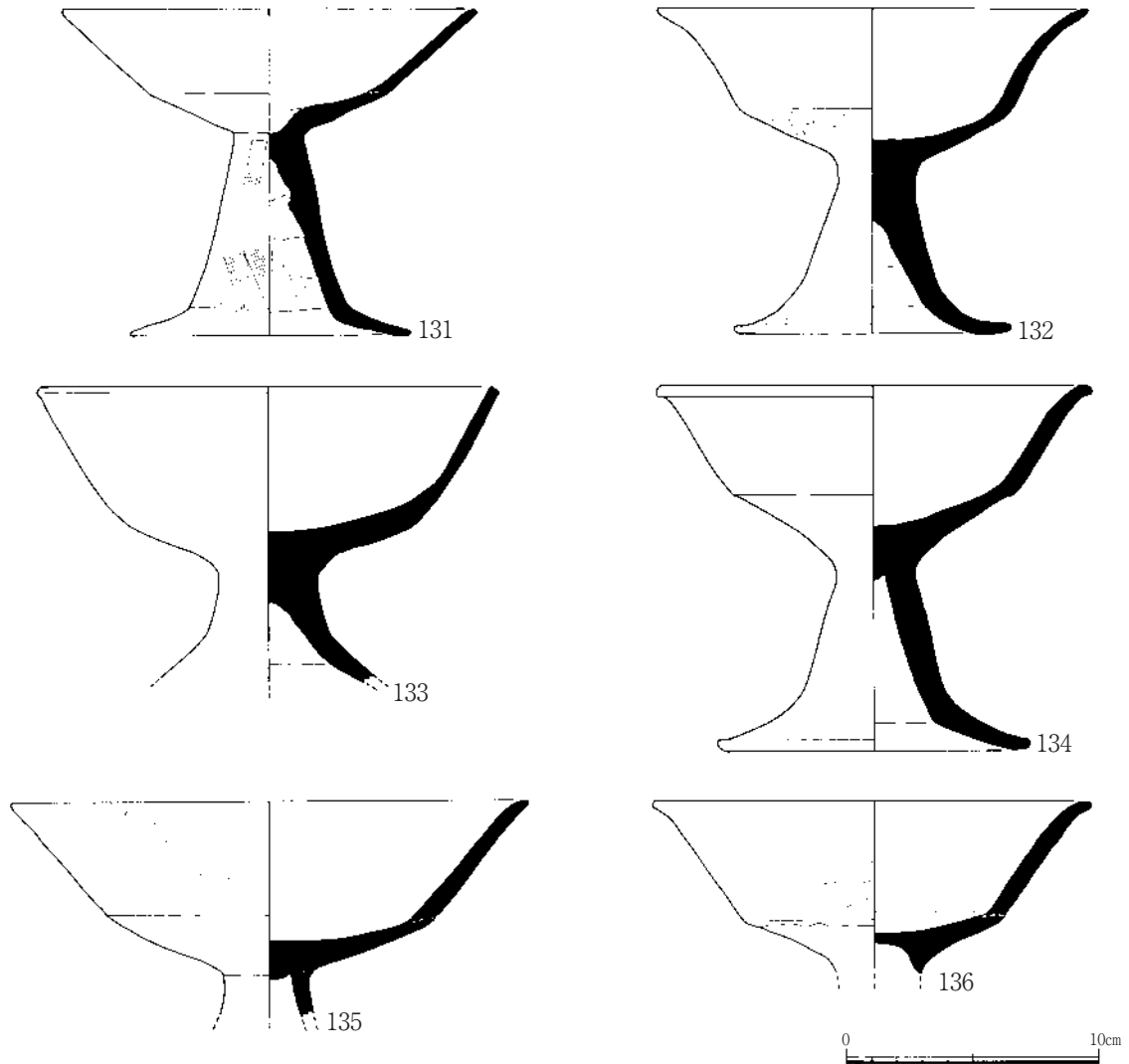
小型丸底土器 (Fig.112)

156から177の22点を図示した。156から167は壺形または甕形である。156・157は胴部下位に最大径を持つ分銅形。158は口縁が広がった甕形か。159・160は口縁が直線的に立上がる壺形。161・162・165は球形の胴部にやや外反する口縁が付く。166・167は短い口縁が付く甕形。168から177は鉢形である。168は手捏ね成形である。低部は平底であり、口縁下の屈曲はヘラにより沈線状を成す。口縁は内彎して立上がる。169は大きく内彎気味に広がる口縁が付く。170は短い口縁が直線的に立上がる。171は胴長の体部からやや長い口縁が直線的に延びる。172から177は開いた体部に短い口縁が付く。172・177はやや深い体部を有する。173・175は浅めの体部



遺物 No.	調整・紋様
119	内面(坏)ヘラミガキ、ナデ(脚)ナデ 外面(坏)ナデ(脚)ナデ
120	内面(坏)ナデ 外面(口)ヨコナデ(坏)ナデ(脚)ナデ
121	内面(口)ヨコナデ(坏)ナデ(脚)ナデ(裾)ヨコナデ 外面(坏)ヘラナデ、口縁と底部にヘラミガキ?(脚)ヘラナデ(裾)ナデ
122	内面(坏)ナデ、ヘラナデ(脚)ナデ(裾)ナデ 外面(坏)ナデ、ヘラミガキ(極細原体)(脚)ヘラナデ、ヘラミガキ
123	内面(坏)ナデ(脚)ケズリ(裾)ナデ 外面(口)ヨコナデ(坏)ナデ(脚)タテヘラナデ(裾)ナデ
124	内面(坏)ナデ、ヘラナデ(脚)ナデ(裾)ナデ 外面(坏)ナデ?(脚)ヘラナデ、爪痕(裾)ヘラナデ、浅い凹凸
125	内面(坏)ナデ(脚)ナデ(裾)ナデ 外面(坏)ナデ(坏底)ヘラナデ(脚)ヘラナデ(裾)ナデ
126	内面(坏)ヨコナデ(坏底)ヘラナデ(脚)絞り目(裾)ナデ 外面(坏)ヨコナデ(坏底)ヘラナデ(脚)ナデ
127	内面(坏)ハケのちヘラナデ(脚)ケズリ(裾)ナデ、弾に粘土が付着 外面(口)ヨコナデ(坏)ハケのちナデ(脚)ヘラナデ(裾)ナデ
128	内面(坏)ナデ(脚)ナデ 外面(口)ヨコナデ(坏)ナデ(脚)ヘラナデ
129	内面(坏)ナデ、ミガキ(極めて滑らか)(脚)ケズリのちナデ(裾)ナデ 外面(坏)ハケ(坏底)ナデ(脚)ヘラナデ(ミガキ風)(裾)細ハケ、ナデ
130	内面(坏)ナデ(脚)ナデ(裾)ナデ、絞り目 外面(坏)ナデ(脚)ヘラナデ(裾)ヘラナデ

Fig.109 4B区出土遺物11 III D層群 (S : 1/3)



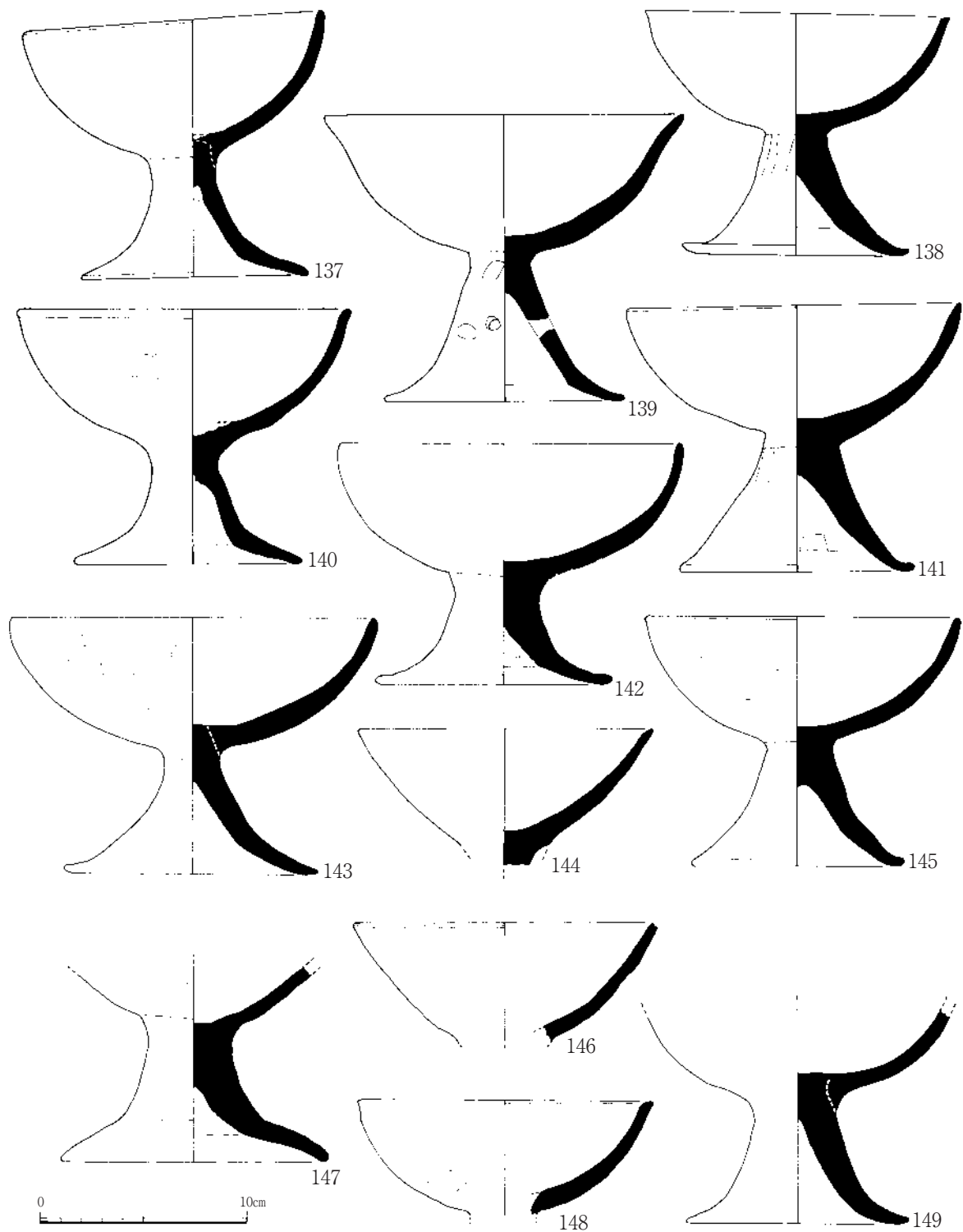
遺物 No.	調整・紋様
131	内面(坏) ナデ(脚) 粘土紐巻き上げ痕、絞り目(裾) ナデ 外面(口) ヨコナデ(坏) ハケ?(脚) 細ハケのちナデ(裾) ナデ
132	内面(口) ヨコナデ(坏) ヘラナデ(脚) ケズリ(裾) ナデ 外面(口) ヨコナデ(坏) ナデ、押圧痕(脚) ナデ(裾) 押圧痕
133	内面(坏) ナデ(脚) ケズリ(裾) ナデ 外面(口) ヨコナデ(坏) ナデ(脚) ナデ
134	内面(坏) ナデ(脚) ケズリ(裾) ナデ 外面(坏) ナデ(脚) ナデ(裾) ヨコナデ
135	内面(坏) ナデ 外面(坏) ナデ、浅い凹凸面
136	内面(口) ナデ(坏底) ヘラナデ 外面(口) ヨコナデ(坏) ナデ

Fig.110 4B区出土遺物12 ⅢD層群 (S : 1/3)

から弱い屈曲の後、口縁はやや内彎して立上がる。174は浅めの体部から緩やかに外反して口縁に至る。176は弱い屈曲から口縁は直線的に立上がる。底部に糊圧痕が残り、体部はミガキ風のナデで丁寧に仕上げられる。

壺 (Fig.114~117)

178から196の19点を図示した。178は粗製胎土であり、球形の胴部から屈曲の後に口縁は内彎気味に立上がる。胴部中位以上には煤が付着する。胴部内面にはケズリ風のナデが施される。179は粗製胎土であり、球形の胴部から屈曲の後に口縁は直線的に立上がる。胴部外面には煤が付着する。180は粗製胎土である。大きく張出す胴部から屈曲の後に口縁は緩く外反す

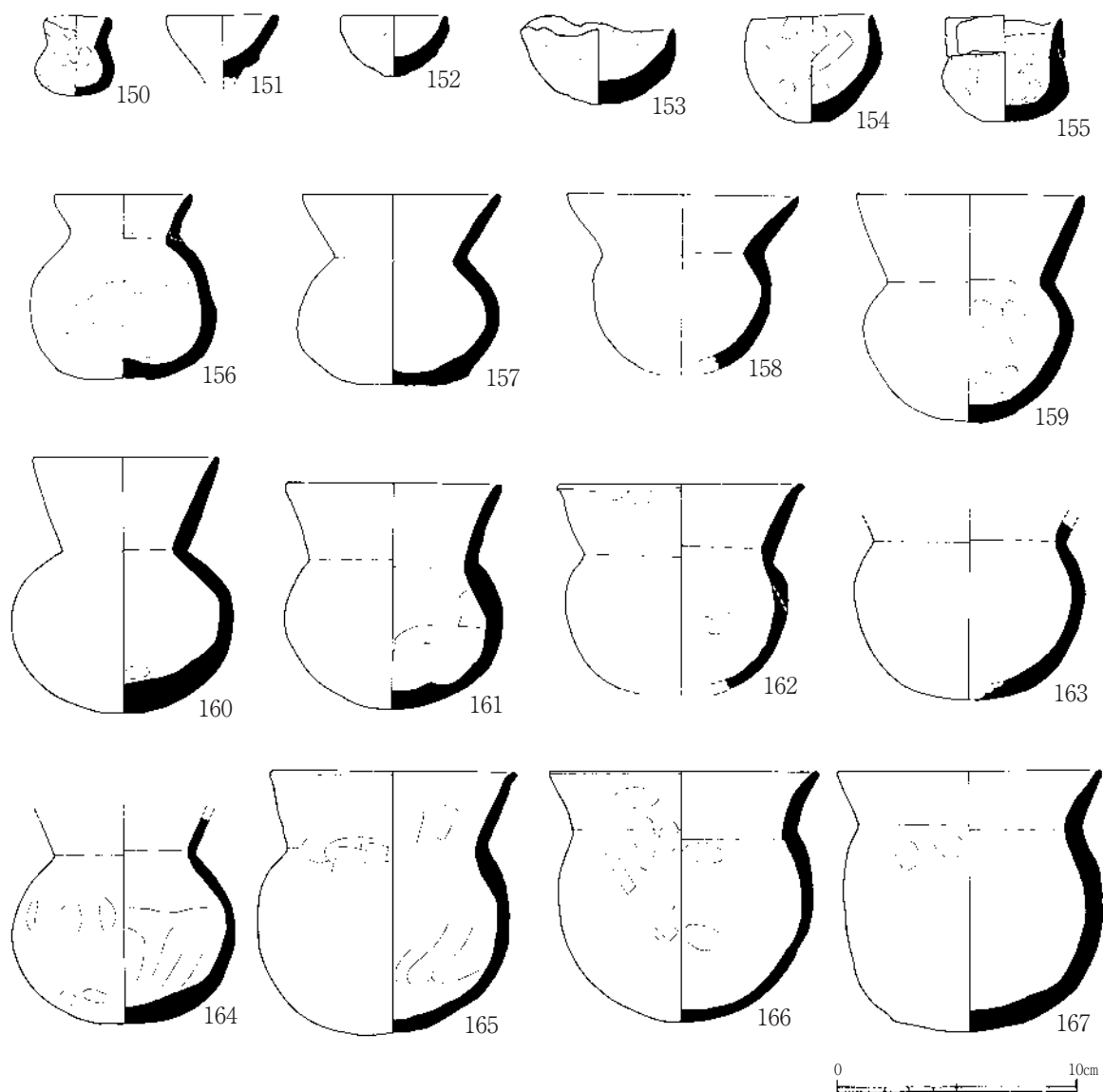


遺物
No.

調整・紋様

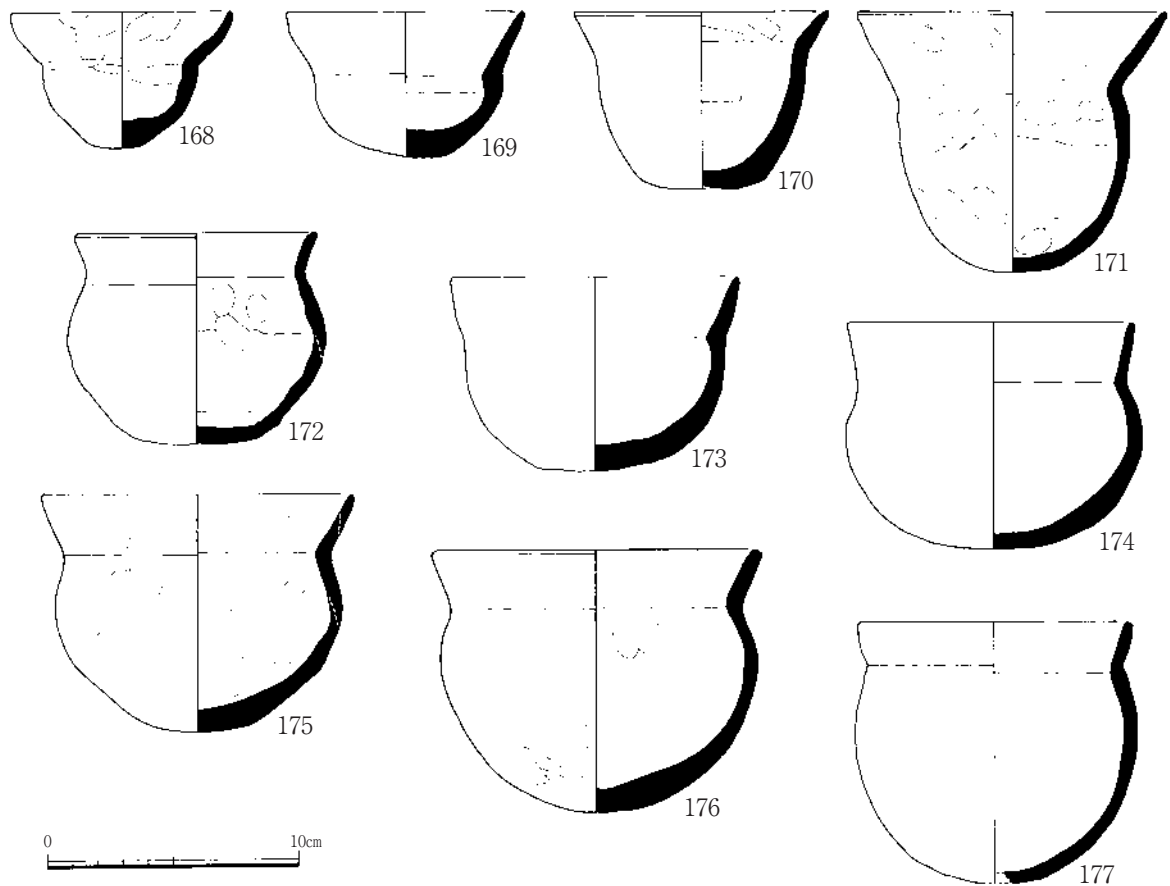
137	内面(坏)ナデ(滑らか)(脚)ヘラケズリ(裾)ナデ 外面(坏)ナデ(脚)ナデ(裾)ヨコナデ
138	内面(坏)ナデ(脚)ヘラケズリ?(裾)ヨコナデ、ナデ 外面(坏)ヘラナデ(細いヘラ原体)(脚)ナデ、タテヘラナデ(裾)ヨコナデ
139	内面(口)ナデ(坏)ナデ(脚)ケズリのちナデ(裾)ナデ 外面(口)ヨコナデ(坏)ナデ(脚)ナデ(裾)ヨコナデ
140	内面(坏)ナデ(脚)ケズリ(裾)ナデ 外面(坏)ナデ(脚)ナデ
141	内面(坏)ナデ(滑らかな面)(脚)ナデ(裾)ヘラナデ、ヨコナデ 外面(口)ヨコナデ(坏)ナデ、浅い凹凸面(脚)縦位ヘラナデ(裾)ヨコナデ
142	内面(坏)ナデ(脚)ケズリ(裾)ナデ 外面(坏)ナデ、下位に強いナデ(脚)ナデ(裾)ヨコナデ
143	内面(口)ヨコナデ(坏)ナデ(脚)ケズリのち弱いナデ 外面(口)ヨコナデ(坏)ヘラナデ(脚)ヘラナデ(裾)ヨコナデ
144	内面(坏)ナデ 外面(口)ヨコナデ(坏)ナデ、ヘラナデ、細かい凹凸面
145	内面(坏)ナデ(脚)ヘラナデ(裾)ナデ 外面(坏)ヘラナデ(ミガキ?)(脚)タテヘラナデ(裾)ヨコナデ
146	内面(口)ヨコナデ(坏)ナデ 外面(口)ヨコナデ(坏)ナデ

Fig.111 4B区出土遺物13 ⅢD層群(S:1/3)



遺物 No.	調整・紋様
147	内面(坏)ナデ(脚)ナデ 外面(坏)ミガキ(脚)ナデ
148	内面(坏)ナデ 外面(坏)ヘラナデ
149	内面(坏)ナデ(脚)ケズリのちナデ(裾)ナデ 外面(坏)ナデ(脚)ナデ
150	内面(口)ナデ(胴)ナデ、ナデ痕 外面ナデ(頸)ナデ痕(胴)凹凸面
151	内面ナデ 外面押圧痕
152	内面ナデ 外面ナデ、浅い凹凸面
153	内面ナデ、指頭押圧 外面押圧痕、ヘラナデ、凹凸面
154	内面ナデ、押圧痕 外面ナデ、浅い凹凸面
155	内面(口)ナデ(胴)ナデ痕 外面(口)浅い押圧痕、接合痕(胴)ナデ
156	内面(口)ナデ(胴)ナデ 外面(口)ヨコナデ(胴)ナデ、凹凸面
157	内面(口)ナデ(胴)ナデ、凹凸面 外面(口)ナデ(胴)ナデ
158	内面(口)ナデ、ヘラナデ(胴)ナデ 外面(口)ヨコナデ(胴)ナデ、ヘラナデ
159	内面(口)ナデ(胴)ナデ(指頭ナデ) 外面(口)ヨコナデ(胴)ナデ
160	内面(口)ナデ(胴)ナデ 外面(口)ナデ(胴)ナデ
161	内面(口)ナデ(胴)強いナデ、ナデ 外面(口)ナデ(頸)ヨコナデ(胴)ナデ、浅い凹凸面
162	内面(口)ヨコナデ(胴)ヘラナデ 外面(口)押圧痕、ヨコナデ(胴)ナデ
163	内面(口)ナデ(胴)ナデ 外面(口)ナデ(胴)ナデ、浅い凹凸面
164	内面(口)ナデ(胴)ナデ 外面(口)ナデ(頸)ヨコナデ(胴)ナデ
165	内面(口)ヘラナデ(胴)ナデ 外面(口)ナデ(頸)ヨコナデ(胴)ナデ、ヘラナデ
166	内面(口)ナデ(胴)ナデ 外面(口)ナデ、弱い押圧痕(胴)ヘラナデ、凹凸面
167	内面(口)ヨコヘラナデ(胴)ケズリのちナデ 外面(口)ナデ(頸)ヨコヘラナデ(胴)ナデ、浅い凹凸面

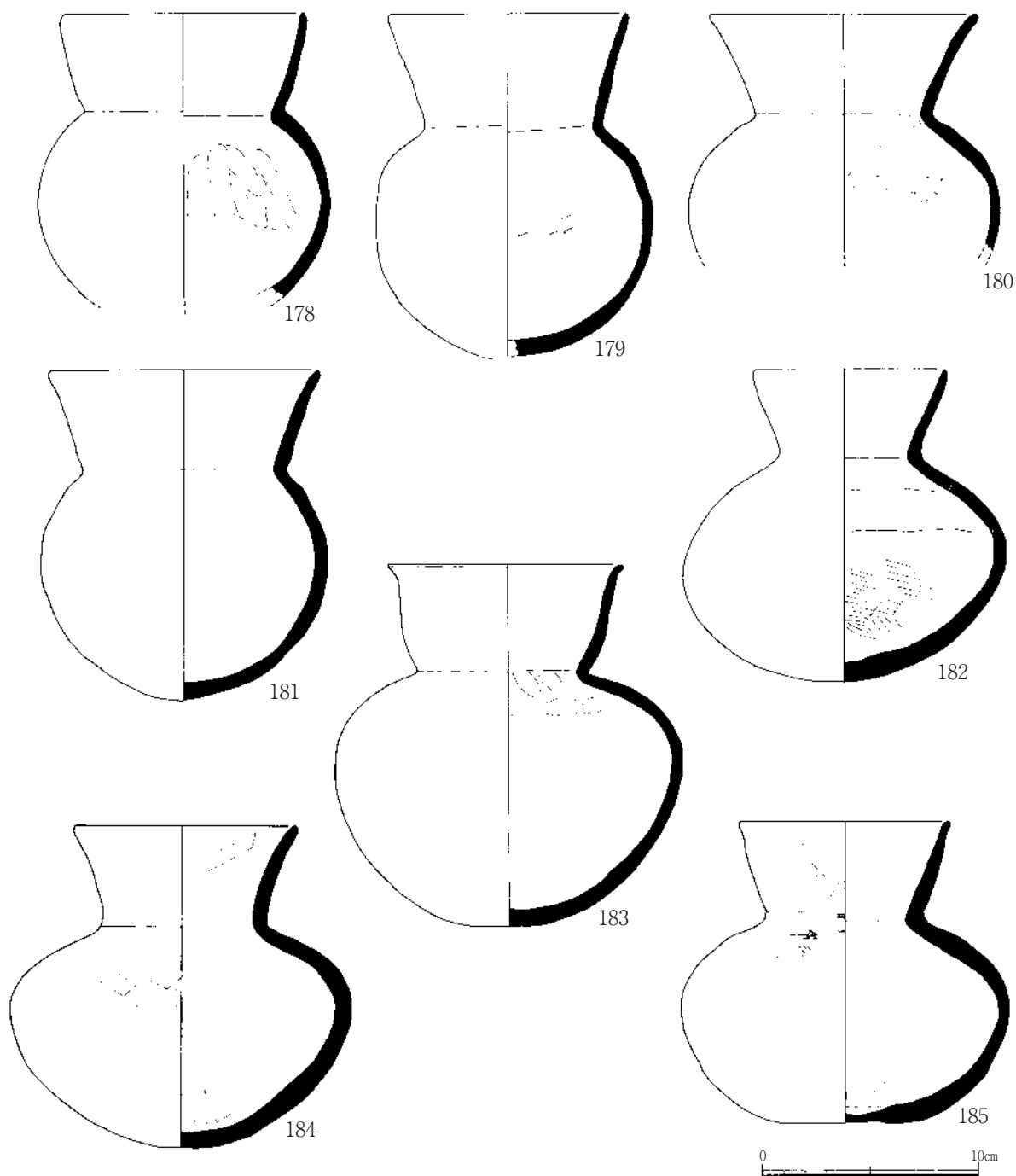
Fig.112 4B区出土遺物14 III D層群 (S : 1/3)



遺物 No	調整・紋様
168	内面(口) ナデ(体) ナデ(底) 押圧痕 外面(口) ナデ(頸) ヘラによる沈線状のナデ(体) ナデ
169	内面(口) ナデ(体) ナデ 外面(口) ナデ(体) ナデ(滑らか)
170	内面(口) ヘラナデ(体) ナデ、ヘラナデ 外面(口) ナデ(体) ヘラナデ
171	内面(口) ナデ(胴) ナデ、押圧痕(底) ナデ痕 外面(口) ナデ(胴) 浅い凹凸面、ナデ
172	内面(口) ナデ、押圧痕、浅い凹凸面(胴) ナデ、押圧痕 外面(口) ナデ、浅い凹凸面(胴) ナデ、凹凸面
173	内面(口) ナデ(体) ナデ(底) 浅い凹凸面 外面(口) ナデ(体上) ナデ(体下) ケズリのちナデ
174	内面(口) ナデ(体) ナデ 外面(口) ナデ(体) ナデ
175	内面(口) ヨコナデ(胴) ナデ、ヘラナデ 外面(口) ヨコナデ(胴) ヘラナデ
176	内面(口) ヨコナデ(体) ヘラナデ 外面(口) ヨコナデ(体) ヘラナデ(細い原体によるミガキ風)(底) 初圧痕
177	内面(口) ヘラナデ(体) ナデ(滑らか) 外面(口) ナデ(体) ヘラナデ(丁寧)

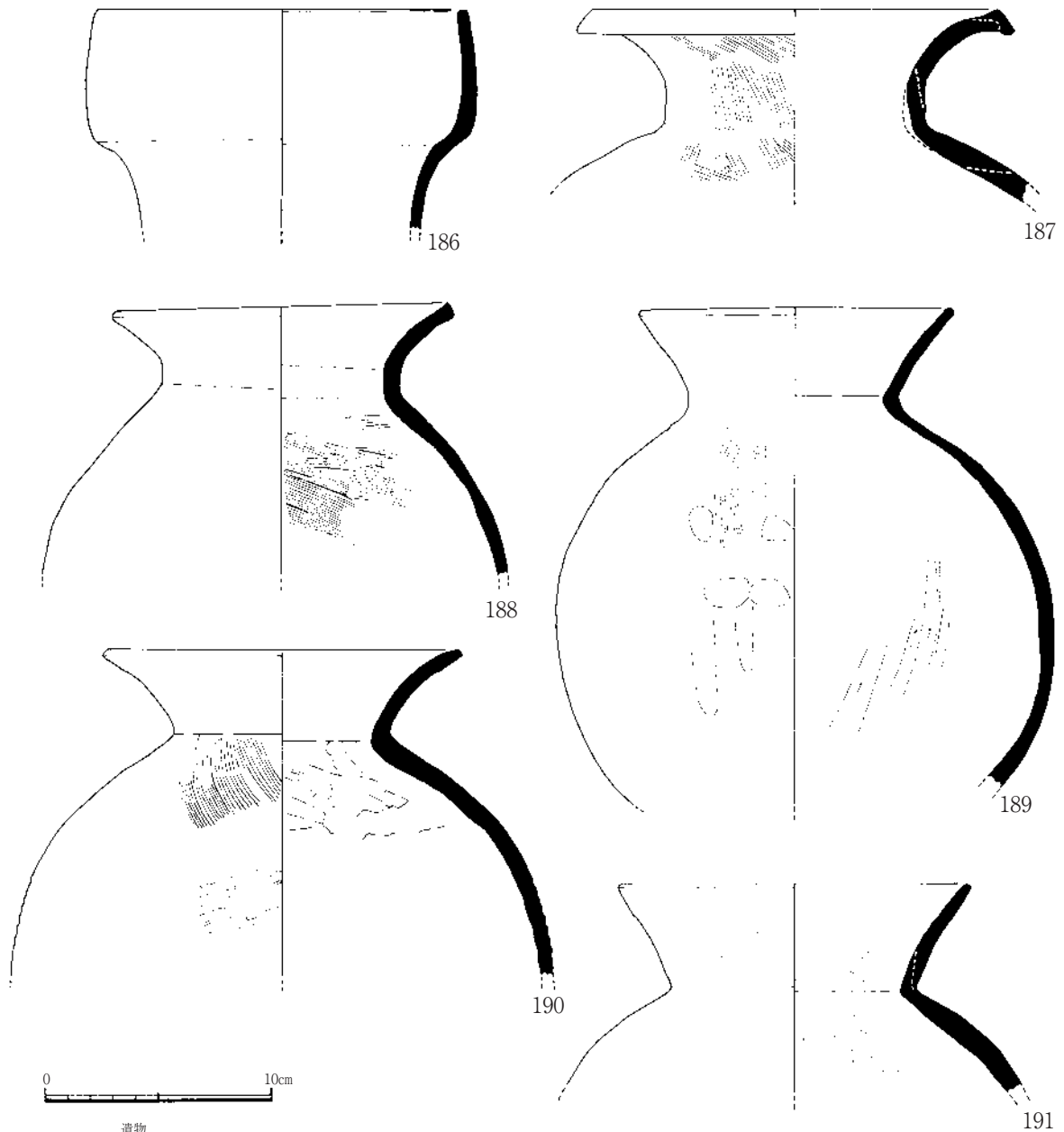
Fig.113 4 B区出土遺物15 ⅢD層群 (S : 1/3)

る。182から185は精製胎土である。182は算盤玉形の胴部から屈曲の後に口縁は内彎気味に立上がる。183は胴部上位で最大径を有する肩張形。口縁は内彎して立ち上がり、後に小さく外反する。184は胴部上位で大きく張出し、口縁は緩く外反する。185は扁平な胴部から屈曲の後に口縁は直線的に立上がる。186から188は弥生後期末の土器と考えられる。186は二重口縁の壺であり、口縁は屈強の後に内彎して立上がる。弥生後期末。187は広口形の壺であり、口唇は外傾する面を成して肥厚する。188は口唇は外傾する面を成してやや肥厚する。189は球形の胴部を持ち、彎曲する頸部から口縁は直線的に立上がる。胴部外面にはハケ状原体による丁寧なヘラナデが施される。また、外面には煤の付着が纏まって見られる。190は頸部の屈曲から口縁は緩く外反して立上がる。口唇は外傾する面を成す。191は頸部の屈曲から口縁は直線的に立上がる。192は広口形の壺である。丸底の底部と胴部は球形を成す。頸部の屈曲から口縁は外反して立上がる。



遺物 No.	調整・紋様
178	内面(口) ヨコナデ(胴) ナデ(指頭)、ヘラナデ 外面(口) ヨコナデ(胴) ヘラナデ
179	内面(口) ヨコナデ、ヘラナデ(胴) ケズリのちヘラナデ 外面(口) ヨコナデ(胴) ナデ(胴下) タテヘラナデ
180	内面(口) ナデ(胴上) ヘラナデ(胴中) ケズリ(強いヘラナデ) 外面(口) ヨコナデ(胴) ナデ
181	内面(口) ナデ(胴) ナデ 外面(口) ヨコナデ(頸) 強いヨコナデ(胴) ヘラナデ
182	内面(口) ナデ(胴上) ナデ、接合痕(胴中) 粗ハケのちナデ 外面(口) ナデ(頸) ヨコナデ(胴) ナデ
183	内面(口) ヨコナデ(胴上) ナデ、押圧痕(胴下) ナデ 外面(口) ヨコナデ(胴) ナデ、浅い凹凸面
184	内面(口) ヨコナデのちヘラナデ(胴上) ナデ(胴下) ヘラナデ 外面(口) ヨコナデ(胴) ヘラナデ
185	内面(口) ナデ、ヘラナデ(胴) ナデ、ヘラナデ(底) ヘラナデ 外面(口) ナデ、ヘラナデ(頸) ヨコヘラナデ(胴上) ハケのちナデ(胴) ナデ、ミガキ

Fig.114 4 B区出土遺物16 ⅢD層群 (S : 1/3)



遺物 No.	調整・紋様
186	内面(口)ナデ 外面(口上)ヨコナデ(口下)ヘラナデ
187	内面(口)ヨコナデ(口下)ナデ 外面(口)ヨコナデ(口下)ハケ(胴)ハケ
188	内面(口)ハケのちヘラナデ(胴)細ハケのちナデ 外面(口)ナデ(胴)ヘラナデ
189	内面(口)ヨコナデ(胴上)ナデ(胴中)ケズリ(胴下)ナデ 外面(口)ヨコナデ(頸)ヨコナデ(胴)ナデ、ヘラナデ(ハケ状原体)
190	内面(口)ハケのちヘラナデ(胴)ハケのちナデヘラナデ、押圧痕 外面(口)ヨコナデ(胴上)ハケ(胴中)タタキのちナデ
191	内面(口)ナデ(頸)押圧痕(胴)ナデ、ヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(頸)ヨコナデ(胴上)タテヘラナデ

Fig.115 4B区出土遺物17 ⅢD層群(S:1/3)

口唇は丸味を持った面を成し、外側に肥厚する。底部にタタキ目を残すものの、器面は概ねハケまたはナデで仕上げられる。193・194は弥生後期末の土器底部である。193はやや狭い平底を呈する。194は高台状に厚く開いた底部を有する。195は球形の胴部を持つ。頸部はヨコナデにより彎曲し、口縁は直線的に立上がる。196は球形に胴部を持つ。頸部の屈曲から口縁は緩やかに外反する。器面はヘラナデにより仕上げられる。

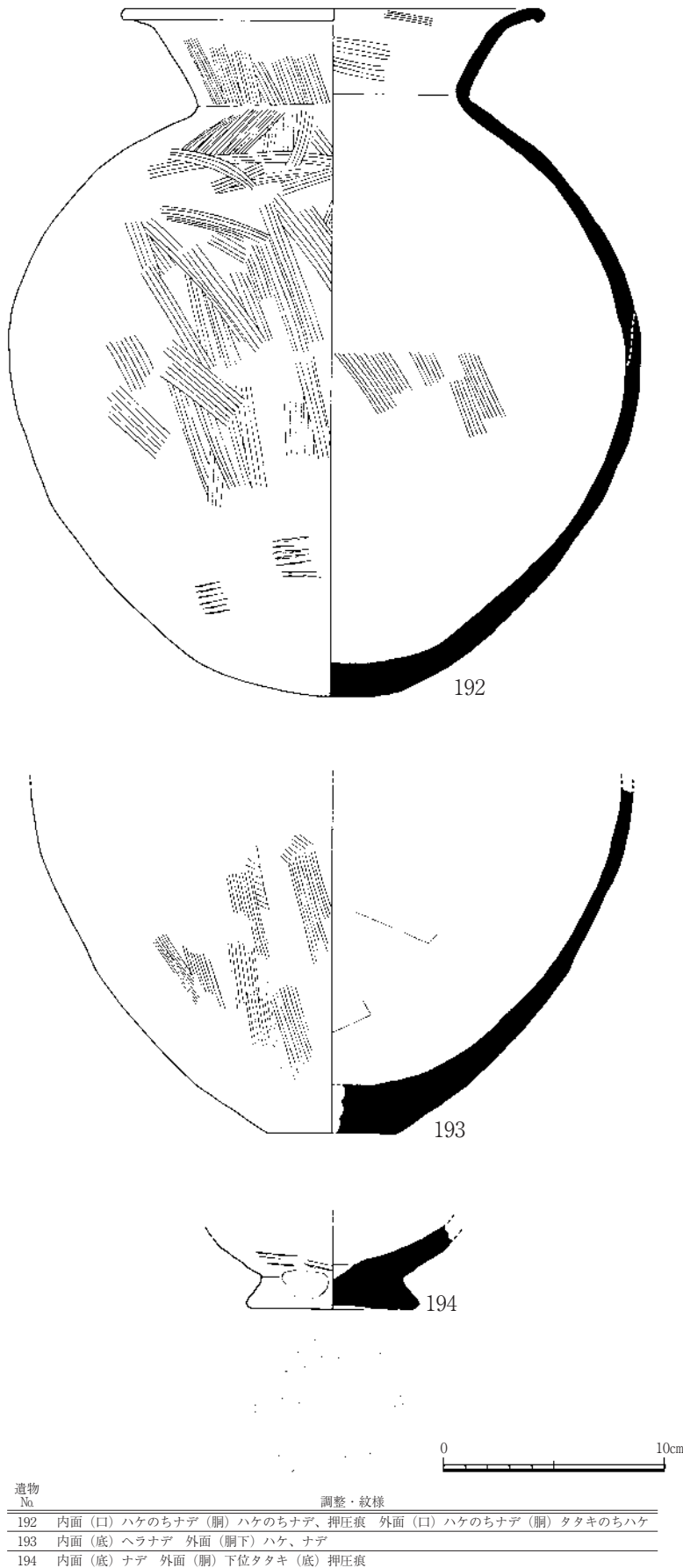
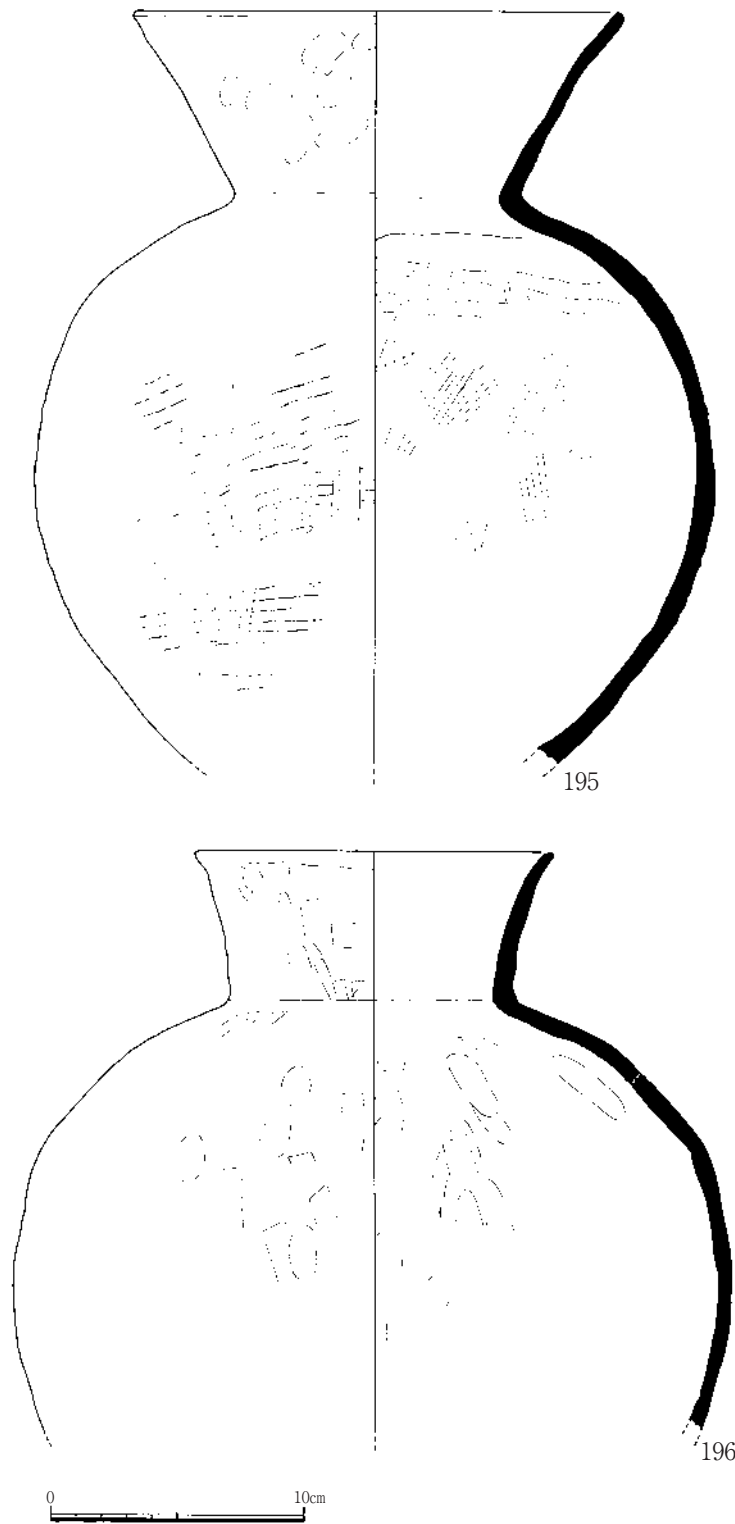


Fig.116 4 B区出土遺物18 III D層群 (S : 1/3)

鉢 (Fig.118~120)

197から237の41点を図示した。鉢は形態的に①向付状の器高の低い浅い椀形、②湯呑み状の深い椀形、③皿形が認められる。加えて、④口縁が鐙状を成すもの、⑤椀形で容量のあるボウル状のもの、⑥低脚杯とか台付鉢と呼ばれるものであり、短い脚が付くもの、⑦底部に穿孔するものが存在する。

①には222や218などの平底を呈するものが存在している。201・212・224などは丸底の底部であり、この範疇に含まれるものが多く存在している。中には207などの、押しつぶしたような不明瞭な底部を有するものが見られる。②には226の平底を呈するものや217・223などの丸底を呈するものが見られる。また、204・206・230などの口縁が上方に向って立上がるものが存在している。200は鼓形であり、底部は凹面を成す。③には②との区別がつけ難いが、209の不明瞭な底部を有するものが存在する。④には203・231などの椀形を呈する体部に短い口縁が付くものや232・237の甕様の形態を呈するものが存在している。⑤には225を置いた。やや底部が突出する平底の底部である。⑥には233の浅い椀形乃至皿形を呈する鉢部を有するものや234の椀形を体部に持つものが存在している。



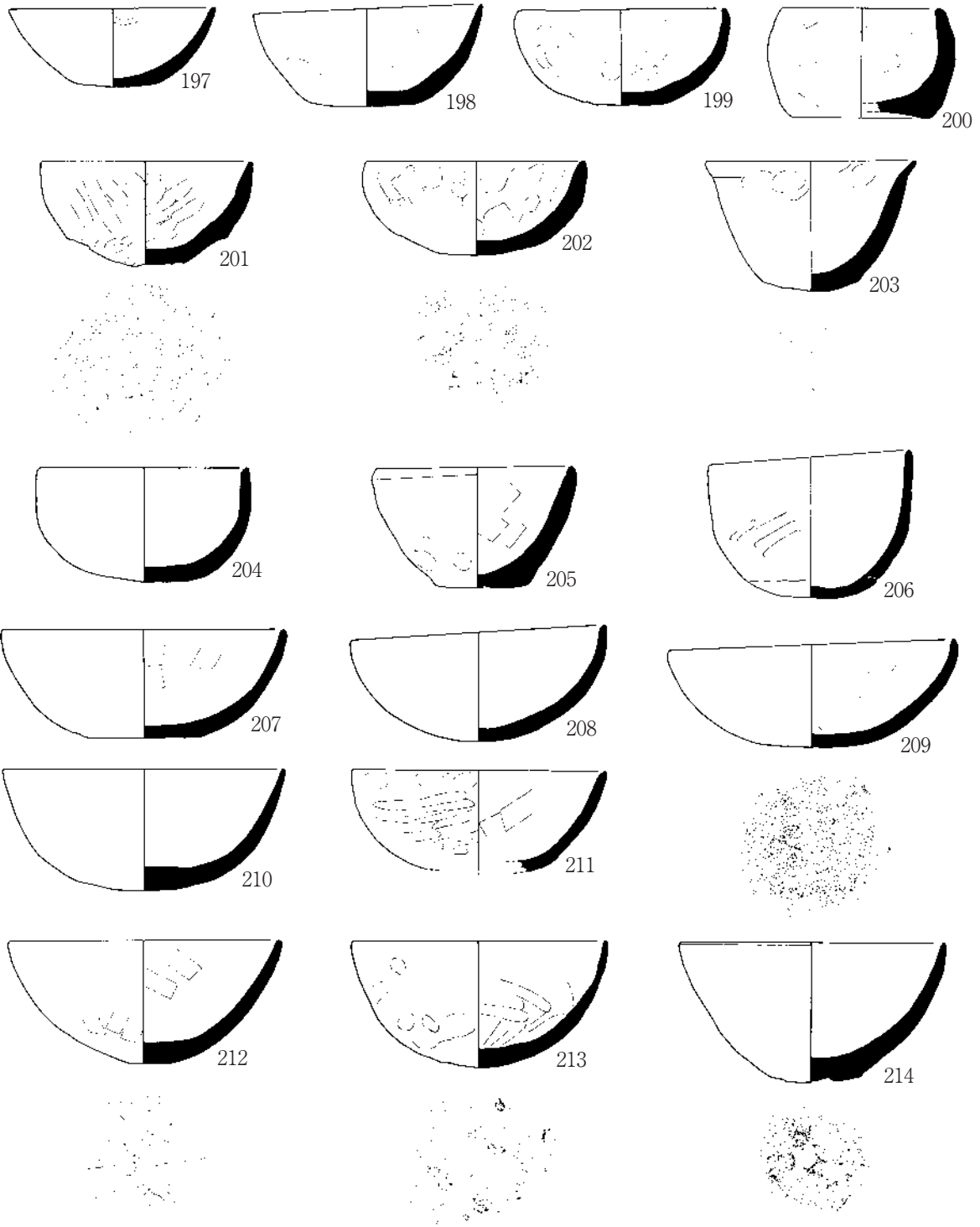
遺物 No	調整・紋様
195	内面(口) ナデ(胴上) 粗ハケのちナデ(胴中) ケズリのちナデ 外面(口) ナデ(頸) ヨコナデ(胴) タタキのち細ハケ?
196	内面(口) ヨコナデ(胴) ヘラナデ(胴中) ケズリのちナデ 外面(口) ヨコナデ(胴) ヘラナデ

Fig.117 4 B区出土遺物19 III D層群 (S : 1/3)

甕 (Fig.121~133)

238から311の74点を図示した。238から246は小型の甕である。238・244・246は弱い屈曲から口縁は直線的に立上がる。239の頸部には屈曲する部分と彎曲する部分が存在する。口縁は直線的に立上がる。240は頸部の屈曲から口縁は内彎気味に立上がる。口頸部の広がった形態で鉢とすべきか。241・245は屈曲から口縁は緩く外反する。242・243は頸部が彎曲して仕上げられる。242は口縁が直線的に立上がるものであり、壺とするべきか。243は口縁が外反する。247は器壁の薄い精緻な胎土で作られる。頸部の急な屈曲から口唇は内側にやや肥厚する。搬入品。248は頸部の屈曲から口縁は緩く外反する。249は長胴形の胴部に直線的に立上がる口縁が付き、口唇は外傾する面を成す。外面にはタタキ目を残す。251は球形の胴部に彎曲する頸部から口縁は内彎気味に立上がる。252は頸部の屈曲から口縁は緩く外反する。外面にはタタキ目が残る。253は器壁を薄く仕上げ、全面に細かいハケが施される。搬入品か。255は頸部の屈曲から口縁は直口形に上方に立上がる。256・258はやや長胴形の胴部に頸部の屈曲から口縁は緩く外反する。256の口唇は外

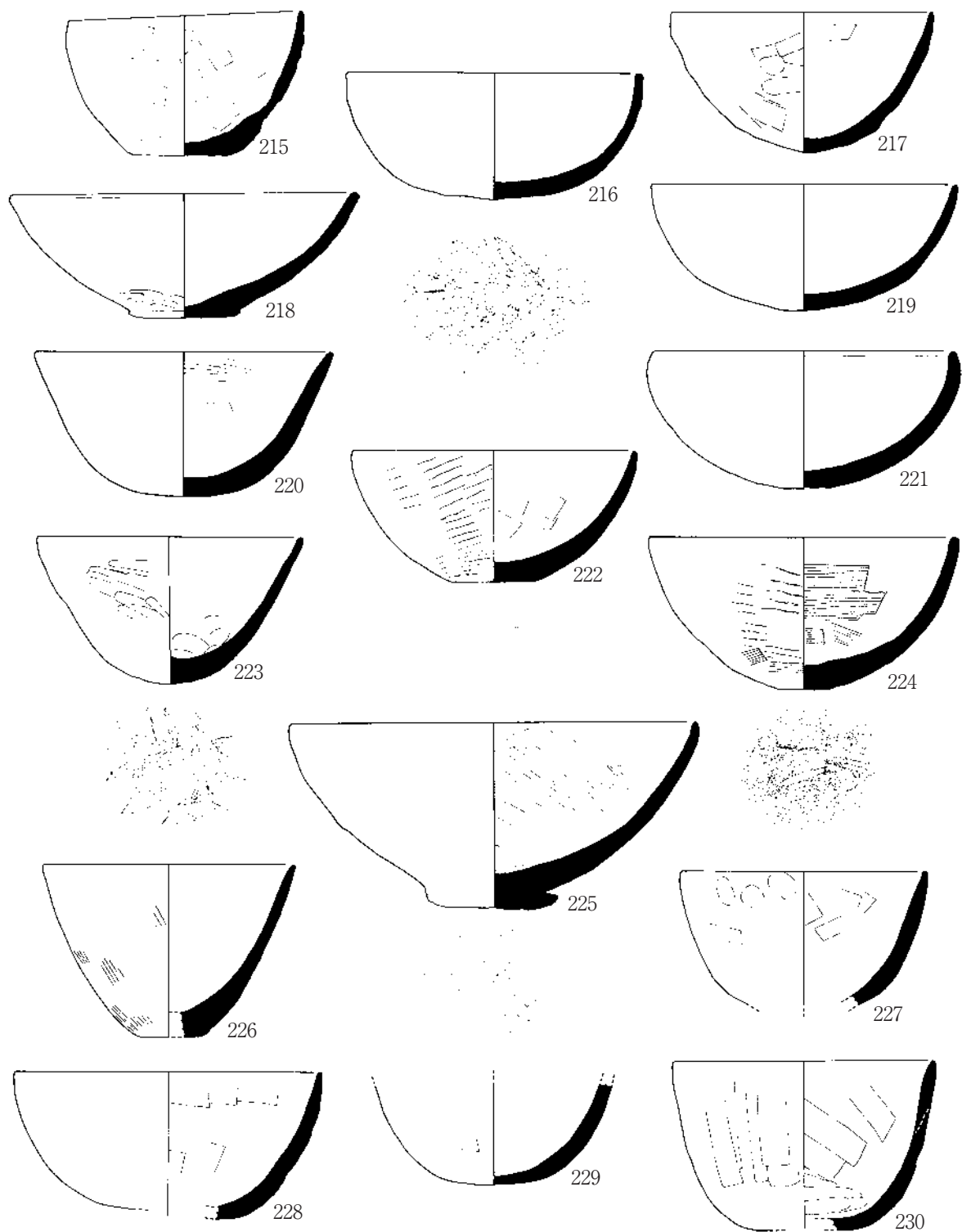
傾する面を成し、胴部内面にケズリを施す。257は球形の胴部に連続的に外反する口頸部が付く。外面には粘土接合痕が残る。精緻な作りであり、胎土中には細砂粒を多く含む。259は頸部の屈曲から口縁は緩く外反する。外面にはハケ状原体によるナデを施し、内面にはケズリ痕が残る。260は球形の胴部に彎曲する頸部が付く。262と264はやや長胴形の胴部に連続的に外反する口頸部が付く。264は器壁を薄く仕上げる。263はやや長胴形の胴部であり、頸部は彎曲する。265から272は口縁が直線的またはやや外反して立上がるものである。頸部には概ね屈曲部を持つが、268や269では部分的に彎曲が見られる。267は胎土中に粗砂粒から小礫を多く含んでいる。弥生土器的胎土。273から278は頸部の屈曲から口縁は外反して立上がる。273・274・277は長胴形の胴部を持つ。273・274・278の胴部内面には粘土接合痕が残り、274と278では押圧痕が顕著に見られる。273や275は胴部の内面にケズリ痕が残る。278は口唇が外傾する面を成し、外側にやや肥厚する。279は頸部の屈曲から口縁は外反して立ち上がり、口唇は外傾する面を成して外側に肥厚する。底部は狭い平底を呈し、胴部外面にはタタキのちハケを施す。280の底部は尖底気味であり、胴部外面にはタタキ目を残す。頸部にはタテハケが施されやや彎曲する。281は胴部は球形であり、口唇は尖り気味に丸く修める。胴部は外面にタタキのちハケが施される。282は球形の胴部外面にタタキのち丁寧なハケを施す。器面に煤の付着は見られない。283は頸部の屈曲から口縁は外反して立上がる。胴部の上位内面には粘土の接合痕が残る。284は調整により彎曲する頸部を持つ。286は最大径を胴部下位に有するフラスコ形の胴部に、頸部では屈曲とナデによる彎曲が認められる。287は長胴形の胴部外面にタタキ目が残り、内面にはケズリ痕が見られる。口縁は頸部屈曲の後に直線的に立上がる。288は球形の胴部外面にタタキのちハケが施され、内面にはケズリ痕が見られる。口縁は頸部屈曲の後に直線的に立上がる。289・290は球形の胴部に彎曲する頸部が付く。289では胴部の外面にタタキのちハケが施され、290ではタタキ目が残り。291はやや長胴形の胴部にヨコナデによる彎曲する頸部が付く。胴部の中位には火襷が見られる。292は胴部の中位で大きく張出し、頸部は急に屈曲する。胴部の上位内面には粘土接合痕が残り、押圧痕が顕著である。器壁は薄く仕上げられ、胎土中には細砂や砂粒を多く含む。293は連続的に外反する口頸部を持ち、胴部の外面にはタタキ目を残す。294は球形の胴部に彎曲する頸部が付く。胴部の上位外面にはケズリのちナデが施される。295・296は連続的に外反する口頸部を持つ。297はやや長胴形の胴部にナデにより彎曲する頸部が付く。298は球形の胴部に連続的に外反する口縁部が付く。299はやや長胴形の胴部に連続的に外反する口頸部が付く。胴部の上位外面には粘土接合痕が認められる。300は長胴形の胴部に連続的に外反する口頸部が付く。器壁は薄く仕上げ、胎土中には細砂を多く含む。302から305は二重口縁である。305は精製胎土であり、搬入品である。306は長胴形の胴部に短く直立する口縁が付く。外面には粘土接合痕が残る。器壁は薄く仕上げ、胎土中には砂粒をやや多く含む。灰色を呈す。307から309は底部である。307は平底の底部にタタキ目が残り。308はやや尖底気味の底部であり、甕か。309は小型の甕底部であり、丸底。310は底部が凹面を成す。鉢か。311は底部が高台状に突出するものである。



遺物 No	調整・紋様
197	内面ヘラナデ 外面ナデ
198	内面(口)ヨコナデ(体)ナデ 外面ナデ
199	内面ナデ、押圧痕 外面ナデ、浅い凹凸面
200	内面ナデ 外面ヘラナデ、凹凸面
201	内面ナデ 外面(口)ナデ(体)強いナデ?
202	内面ナデ、押圧痕、ナデ痕 外面ナデ、凹凸面(底)ヘラ圧痕
203	内面(口)ナデ、押圧痕(体)ヘラナデ 外面(口)ナデ、押圧痕(体)ナデ
204	内面(口)ヨコナデ(体)ナデ 外面ナデ

遺物 No	調整・紋様
205	内面ヘラナデ 外面ヘラナデ、凹凸面
206	内面(口)ヨコナデ(体)ナデ、ヘラナデ 外面(口)ヨコナデ(体)タタキのちナデ
207	内面(口)ヨコナデ(体)ナデ(滑らか) 外面(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ
208	内面(口)ヨコナデ(体)ナデ 外面ナデ
209	内面ナデ、ヘラナデ 外面ナデ、浅い凹凸面(底)糊圧痕
210	内面ナデ 外面ナデ、浅い凹凸面
211	内面ナデ、ヘラナデ 外面ナデ、ヘラナデ
212	内面ヘラナデ、糊圧痕 外面ナデ
213	内面ナデ 外面浅い凹凸面
214	内面ナデ 外面ナデ

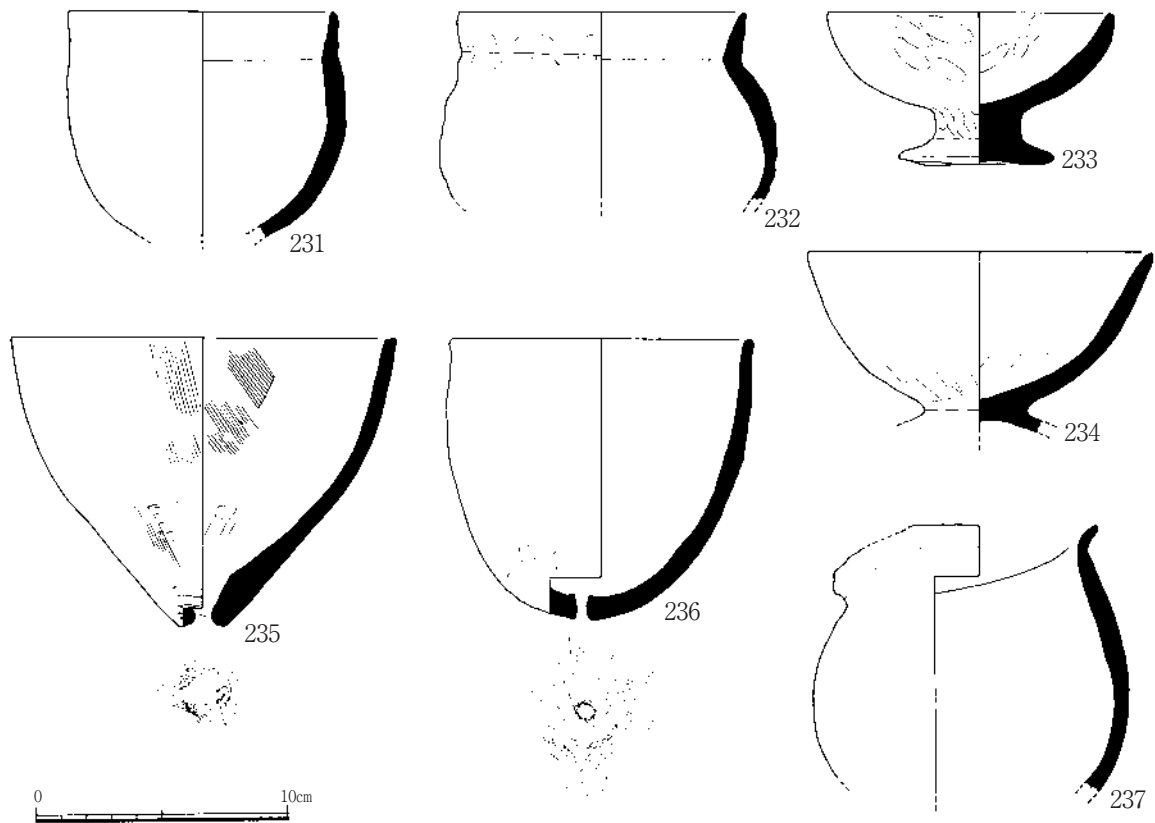
Fig.118 4 B区出土遺物20 III D層群 (S : 1/3)



遺物 No.	調整・紋様
215	内面ヘラナデ、凹凸面 外面ヘラナデ、凹凸面
216	内面(口)ヨコナデ(体)ナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ナデ(底)木の業圧痕
217	内面ナデ 外面ヘラナデ、押圧痕
218	内面(口)ヨコナデ(体)ナデ 外面(口)ヨコナデ(体)タタキのちナデ
219	内面ナデ 外面ナデ
220	内面(口)粗ハケのちナデ(体)ナデ 外面ナデ
221	内面(口)ヨコナデ(体)ナデ(滑らか) 外面(口)ヨコナデ(体)ナデ
222	内面ナデ、ヘラナデ 外面タタキ
223	内面(口)ヨコナデ(体)ナデ 外面(口)ヨコナデ(体)ヘラナデ(底)凹凸面

遺物 No.	調整・紋様
224	内面(口)ハケのちナデ(細ハケ状原体?) (体)細ハケ 外面(口)タタキのちナデ(体)タタキのちハケ
225	内面ハケのちナデ 外面ナデ(底)木の業圧痕
226	内面ナデ 外面ハケ?
227	内面ナデ、ヘラナデ 外面ヘラナデ、押圧痕
228	内面ナデ、ヘラナデ 外面ナデ、浅い凹凸面
229	内面(体)ナデ 外面(体)ナデ?
230	内面ヘラナデ 外面タテヘラナデ

Fig.119 4 B区出土遺物21 ⅢD層群 (S : 1/3)



遺物 No	調整・紋様
231	内面(口)ナデ(胴)ナデ 外面(口)ナデ(胴)タテヘラナデ
232	内面(口)ヘラナデ(胴)ナデ 外面(口)ナデ、押圧痕(胴)ヘラナデ
233	内面(体)ナデ 外面(体)ナデ(台)押圧痕
234	内面(口)ヨコナデ(体)ナデ、ナデ痕(台)押圧痕 外面(口)ヨコナデ(体)ナデ、浅い凹凸面(台)押圧痕
235	内面(口)細ハケ(体)細ハケのちナデ、押圧痕 外面(口)タタキのちハケ、ナデ(体)タタキのちハケ、ナデ
236	内面ナデ、ヘラナデ 外面タタキのちナデ
237	内面(口)ナデ(胴)ナデ、横位のナデ痕 外面(口)ナデ(胴)浅い凹凸面

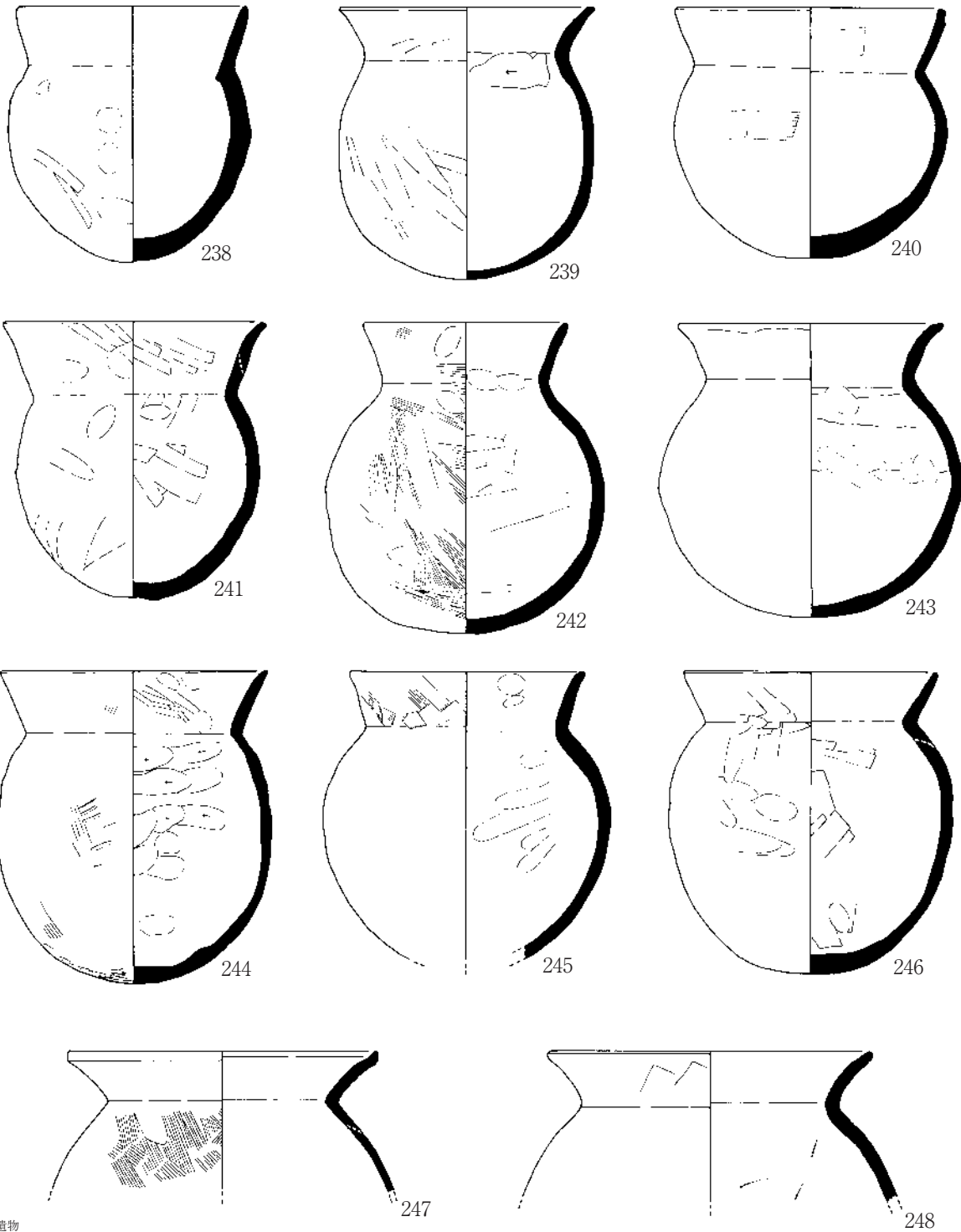
Fig.120 4 B区出土遺物22 III D層群 (S : 1/3)

• 須恵器 (Fig.134)

312から315の4点を図示した。312は坏身であり、短く水平に張出す受け部と立ち上がりはやや長く内傾する。314は坏蓋である。

• その他の土器・土製品 (Fig.135・136)

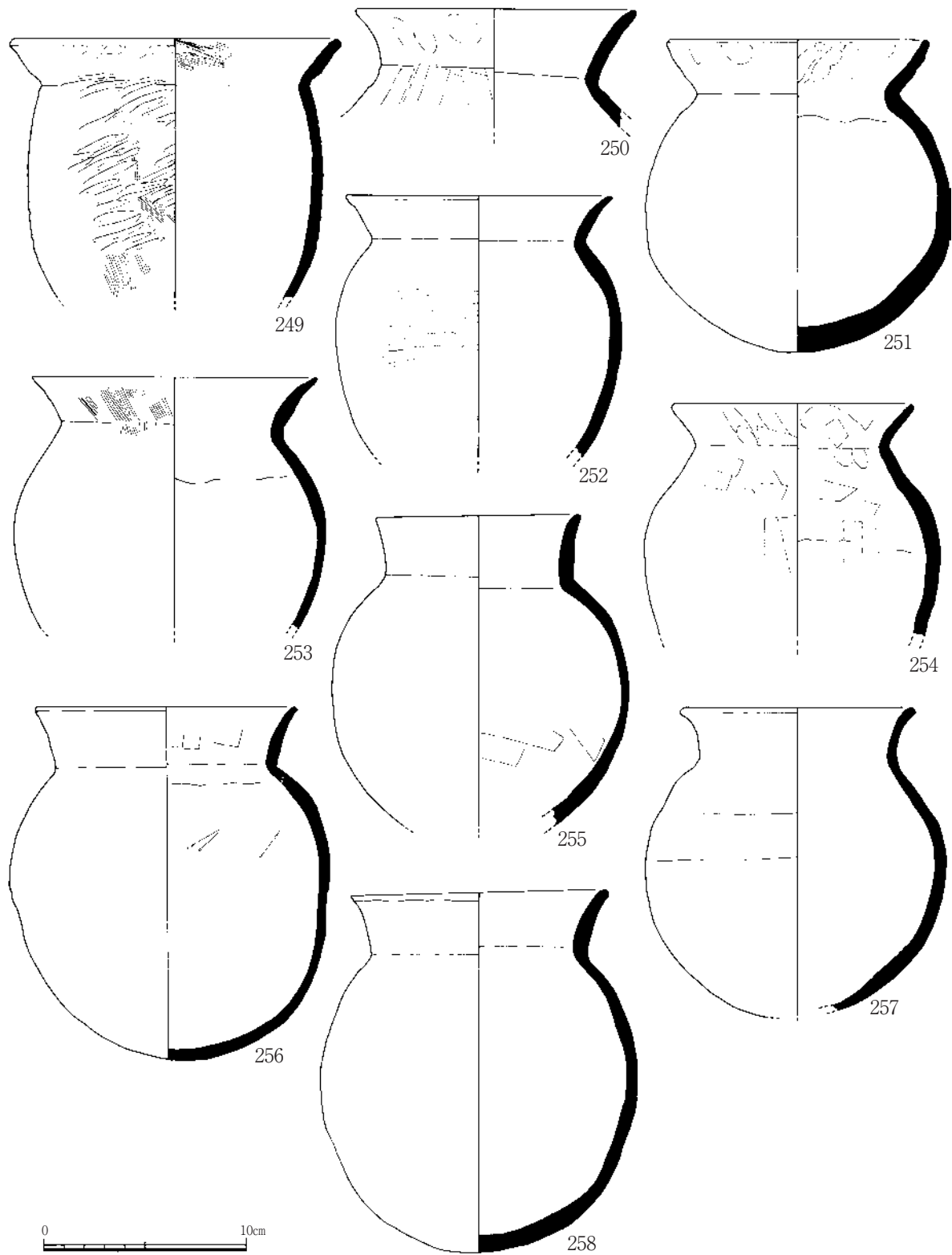
316は勾玉である。小型の土製品であり、頭部は指で押さえることで扁平に成る。317は小型の鉢である。椀形を呈する。底部は弱い凸面を成し、口縁は内彎して立上がる。内面には押圧痕がのこり、外面はタタキのちナデが施される。砂鉄がこの鉢の中に入った状態で出土している。



遺物 No.	調整・紋様
238	内面(口)ヨコナデ(胴)ナデ 外面(口)ヨコナデ(胴)ヘラナデ
239	内面(口)ナデ、浅い凹凸面(胴)ケズリのちナデ 外面(口)ナデ、ヘラナデ(胴)ナデ、ヘラナデ
240	内面(口)ヘラナデ(胴上)ヨコヘラナデ(胴中)ナデ 外面(口)ナデ(胴上)ヘラナデ(ハケ状原体)、ナデ
241	内面(口)ヘラナデ(胴)ケズリのちナデ 外面(口)ヘラナデ(胴)ナデ(胴下)ヘラナデ
242	内面(口)ナデ(胴)ヘラナデ 外面(口)ヘラナデ(胴)ハケのちナデ
243	内面(口)ナデ、ヘラナデ(胴)ナデ、ヘラナデ 外面(口)ナデ(胴)ナデ(胴下)ケズリのちナデ
244	内面(口)ナデ(胴上)ヘラケズリ?(胴下)ナデ、凹凸面 外面(口)ナデ(胴)ヘラナデ、凹凸面

遺物 No.	調整・紋様
245	内面(口)ナデ(胴)ケズリのちヘラナデ 外面(口)ヘラナデ(細ハケ状原体)(胴)ヘラナデ
246	内面(口)ナデ(胴)ヘラナデ 外面(口)ヘラナデ(胴)ヘラナデ
247	内面(口)ヨコハケのちナデ(胴上)ケズリのちナデ 外面(口)ヨコナデ(胴上)ハケ
248	内面(口)ナデ(胴)ケズリのちナデ 外面(口)ナデ(胴)ナデ、ヘラナデ

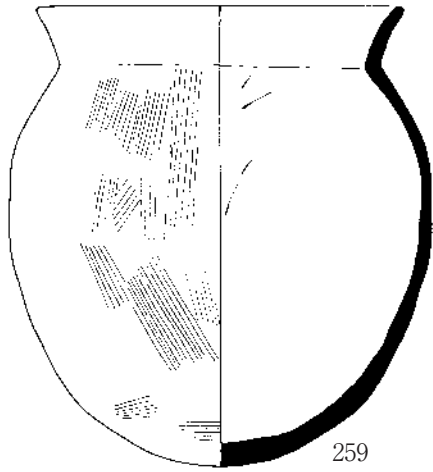
Fig.121 4 B区出土遺物23 III D層群 (S : 1/3)



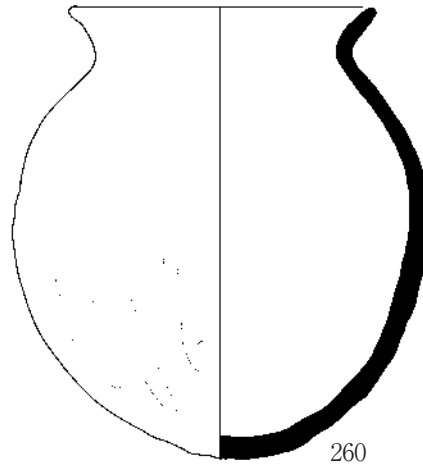
遺物 No	調整・紋様
249	内面 (口) ハケ (胴) ナデ 外面 (口) 口唇下に押圧痕、タタキのちナデ
250	内面 (口) ナデ、ヘラナデ (胴) ナデ、ヘラナデ 外面 (口) ナデ、押圧痕 (胴) ヘラナデ
251	内面 (口) ナデ、押圧痕 (胴) ヘラナデ 外面 (口) ヨコナデ、押圧痕 (頸) ヨコナデ (胴) ヘラナデ、押圧痕
252	内面 (口) ナデ (胴) ヘラナデ (胴中) ケズリのちナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) タタキのちナデ
253	内面 (口) 細ハケのちナデ (胴) ナデ (細ハケ?) 外面 (口) 細ハケ (胴) 細ハケのちナデ

遺物 No	調整・紋様
254	内面 (口) ヘラナデ (胴) 頸部下に押圧痕、ナデ 外面 (口) ナデ (胴) ナデ、中位ヘラナデ
255	内面 (口) ナデ (胴) ナデ (胴下) ヘラナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ
256	内面 (口) ヘラナデ (胴上) ケズリのちナデ (胴下) ケズリのちナデ 外面 (口) ヨコナデ (頸) ヨコナデ (胴) ナデ
257	内面 (口) ナデ (胴) ヘラナデ 外面 (口) ナデ (胴) ナデ、浅い凹凸面
258	内面 (口) ヘラナデ (胴) ナデ 外面 (口) ナデ (胴) ヘラナデ、浅い凹凸面

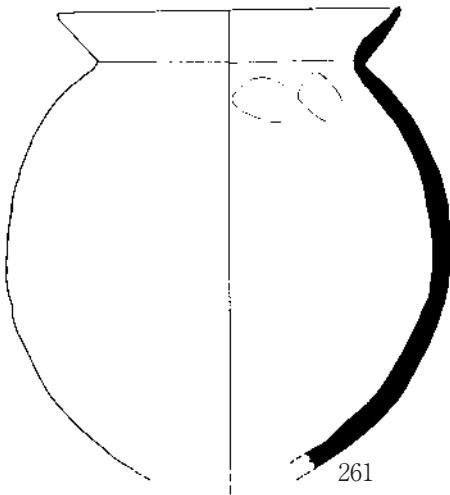
Fig.122 4 B区出土遺物24 III D層群 (S : 1/3)



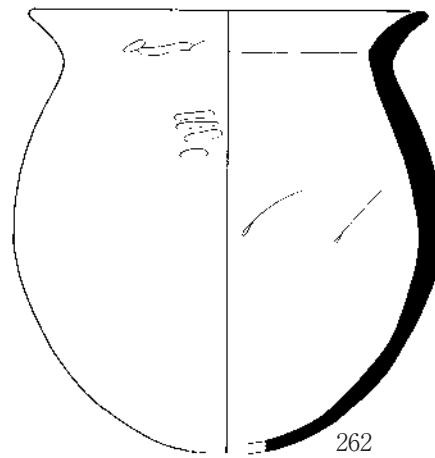
259



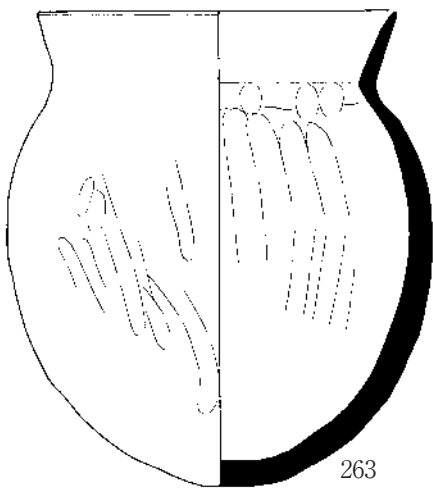
260



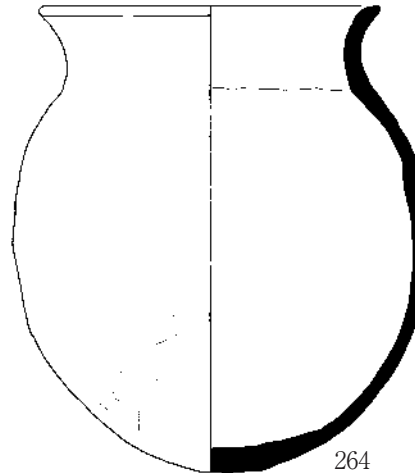
261



262



263



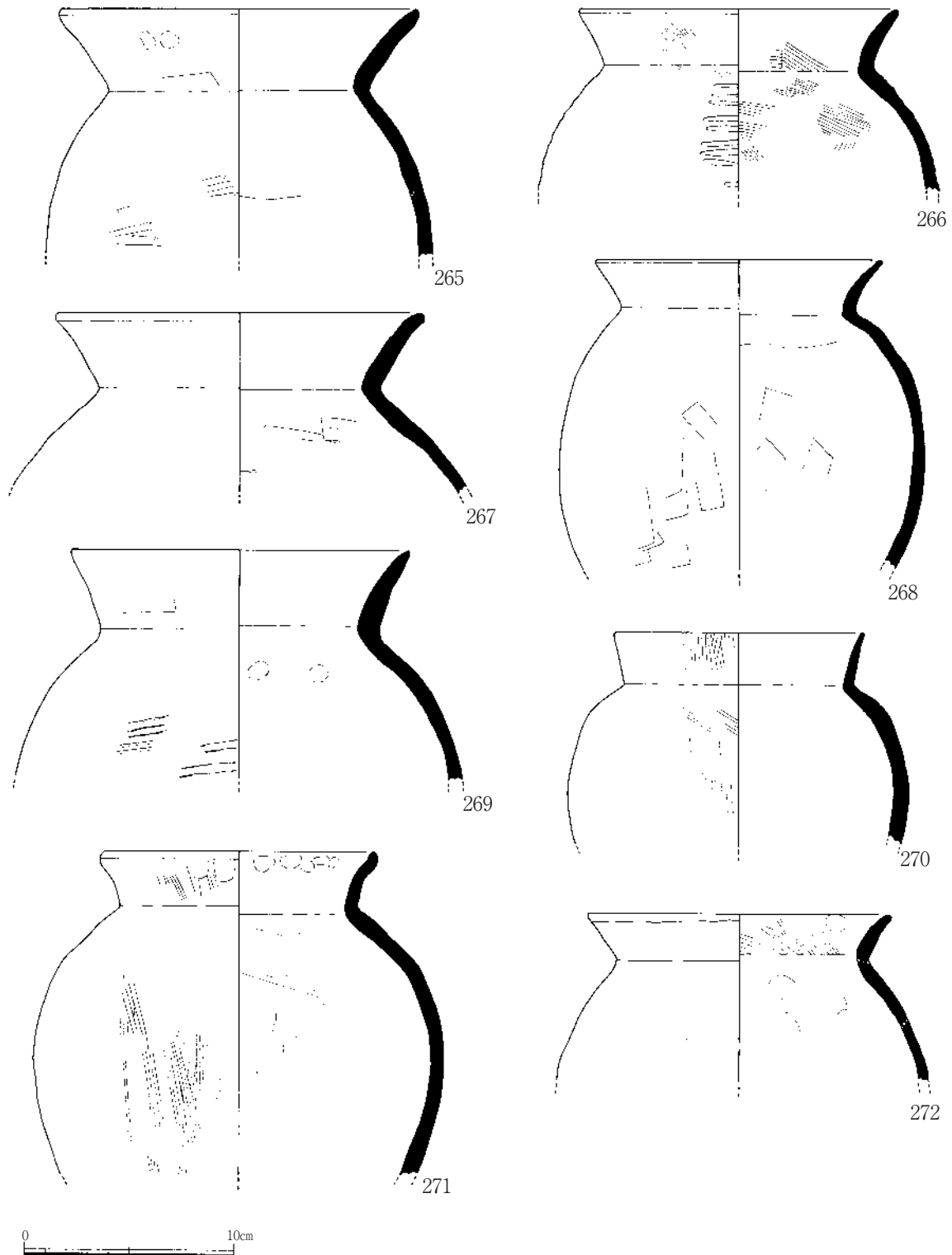
264



遺物 No.	調整・紋様
259	内面 (口) ヘラナデ (胴) ケズリのちナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) ヘラナデ
260	内面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ、ヘラナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) ヘラナデ
261	内面 (口) ヨコナデ (胴上) ナデ、大きな凹凸面 外面 (口) ヨコナデ (胴) ヘラナデ

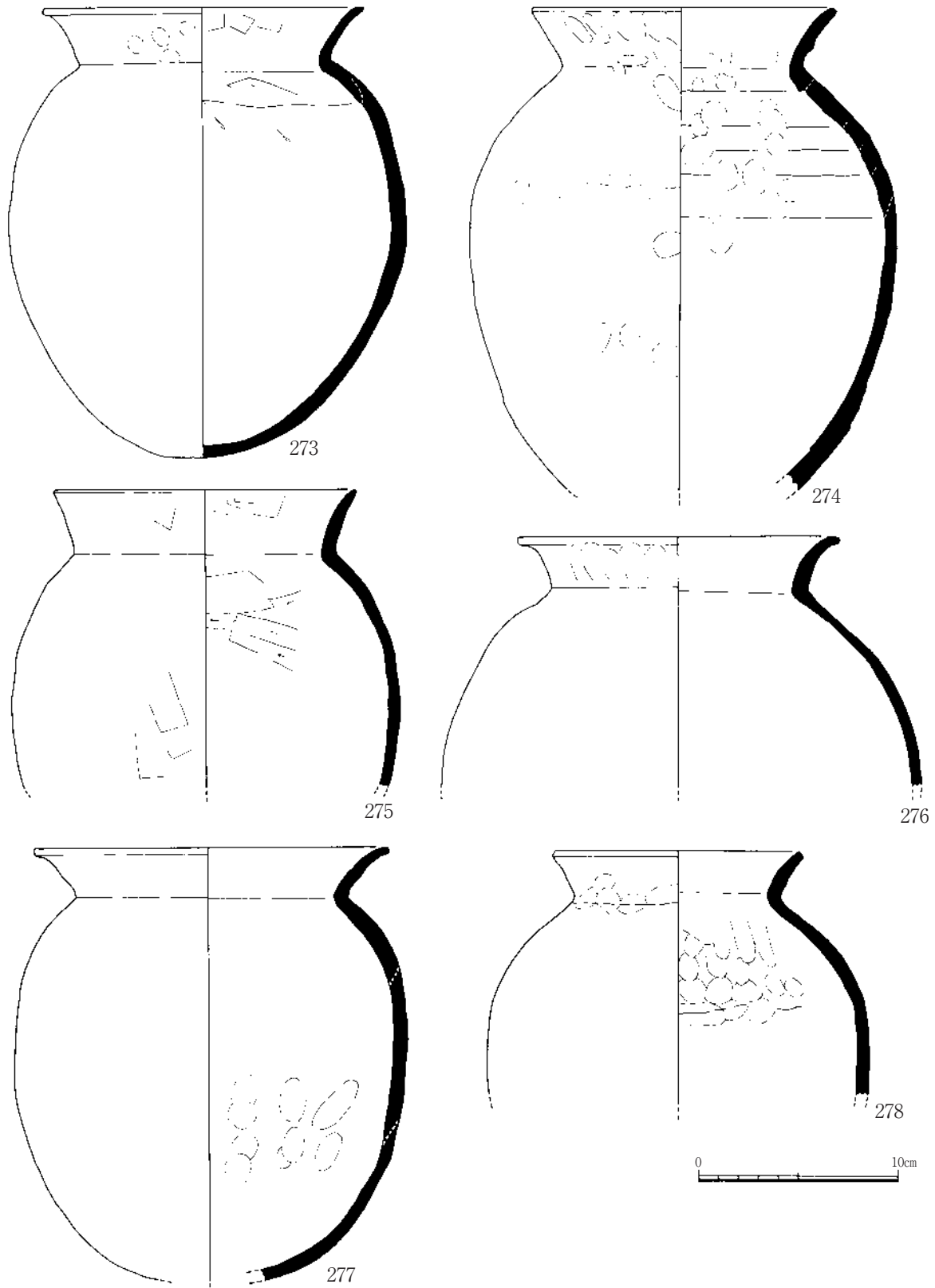
遺物 No.	調整・紋様
262	内面 (口) ヨコヘラナデ (胴) ケズリのちナデ 外面 (口) ヨコナデ、タタキのちナデ (胴) タタキのちナデ
263	内面 (口) ヨコハケのちナデ (胴上) ナデ (胴下) 強いヘラナデ 外面 (口) ナデ (頸) ヨコナデ (胴上) ナデ (胴中) ナデ (細い原体)
264	内面 (口) ヨコナデ (胴) ケズリのちナデ (底) ナデ、凹凸面 外面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ、ヘラナデ、浅い凹凸面

Fig.123 4 B区出土遺物25 ⅢD層群 (S : 1/3)



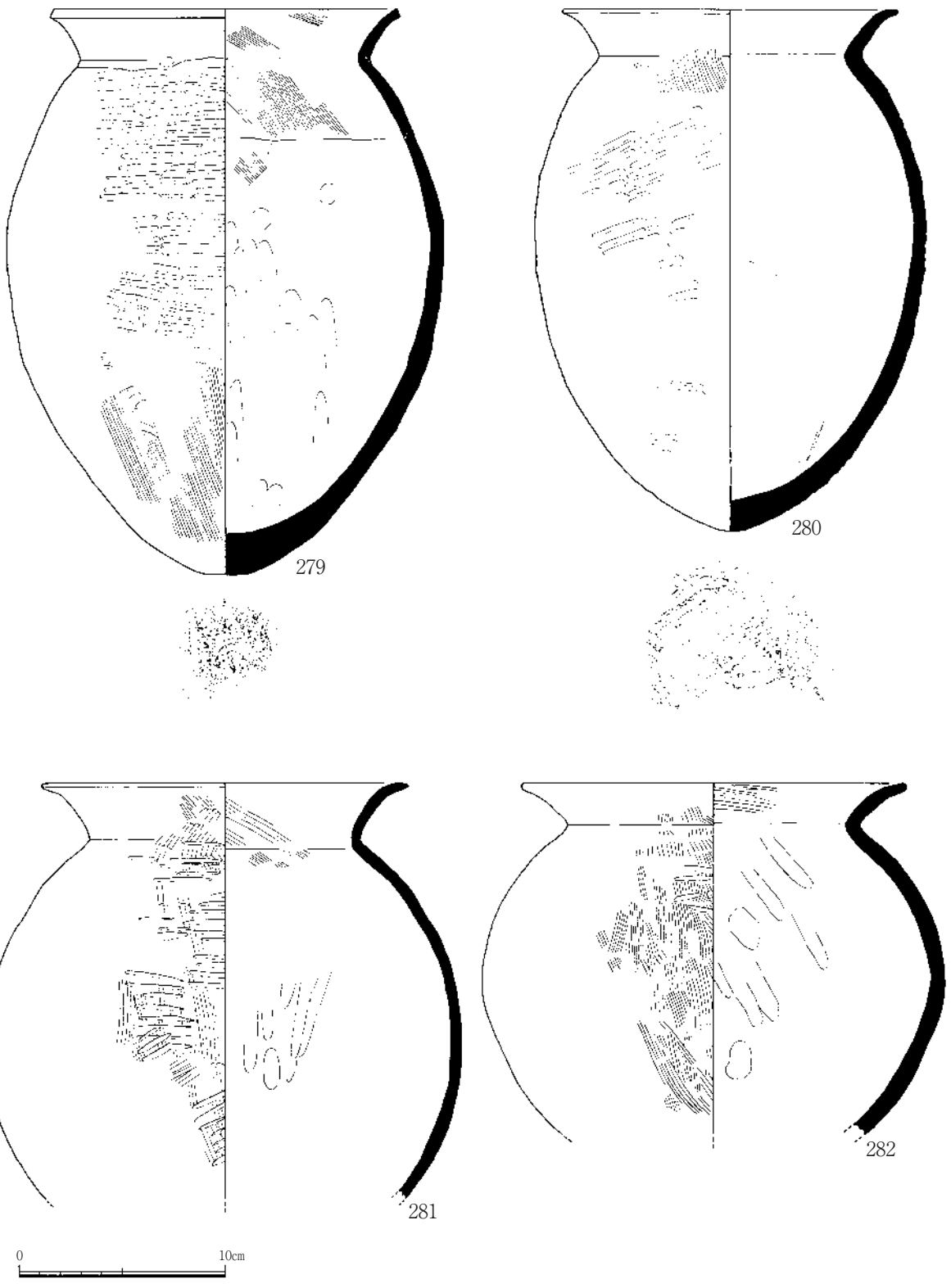
遺物 No	調整・紋様
265	内面(口) ナデ(胴)ナデ 外面(口) ナデ、浅い凹凸面(胴) タタキのちナデ
266	内面(口) ハケ(胴上) ハケのちナデ 外面(口) タタキのちハケ(胴) タタキのちハケ
267	内面(口) ナデ(胴) ケズリのちナデ 外面(口) ヨコナデ(胴) ナデ
268	内面(口) ナデ(胴) ヘラナデ 外面(口) ヨコナデ(頸) ヨコナデ(胴) ヘラナデ、浅い凹凸面
269	内面(口) ナデ(胴) ヘラナデ、凹凸面 外面(口) ナデ(胴) タタキのちナデ
270	内面(口) ヘラナデ(胴) ナデ 外面(口) 粗ハケ(胴) ハケのちナデ
271	内面(口) ナデ、口唇下に押圧痕(胴) 粗ハケのちヘラナデ 外面(口) ハケのちナデ、押圧痕(胴) ハケのちヘラナデ
272	内面(口) 粗ハケのちナデ(胴上) ナデ 外面(口) ヨコナデ(胴上) ヘラナデ

Fig.124 4 B区出土遺物26 III D層群 (S : 1/3)



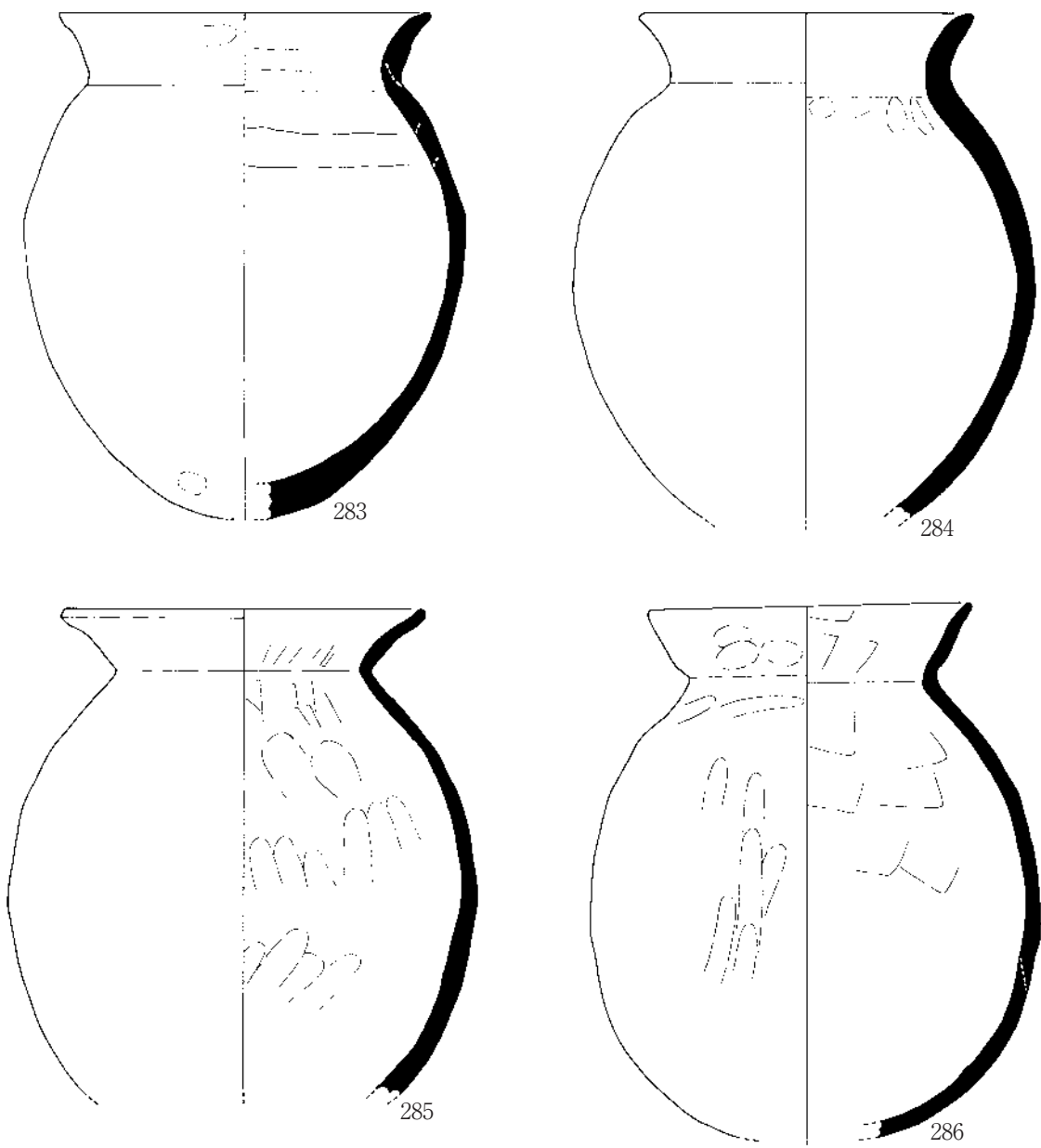
遺物 No	調整・紋様
273	内面 (口) ナデ (胴上) ケズリのちナデ (胴下) ナデ 外面 (口) ナデ、浅い凹凸面 (頸) ヨコナデ (胴) ナデ
274	内面 (口) ヘラナデ (胴) ナデ、押圧痕、接合痕 外面 (口) ナデ (胴) ヘラナデ
275	内面 (口) ヘラナデ (胴上) ヘラナデ (胴中) ヘラケズリのちナデ 外面 (口) ナデ (胴) ヘラナデ
276	内面 (口) ヨコナデ、ヘラナデ (胴上) ケズリのちナデ 外面 (口) ナデ (胴) ヘラナデ
277	内面 (口) ナデ (胴上) ナデ (胴中) ケズリのちナデ (胴下) ナデ 外面 (口) ナデ (胴) ナデ
278	内面 (口) ヘラナデ (胴上) ナデ (胴中) ナデ (滑らかな面) 外面 (口) ナデ (胴) ヘラナデ

Fig.125 4 B区出土遺物27 ⅢD層群 (S : 1/3)



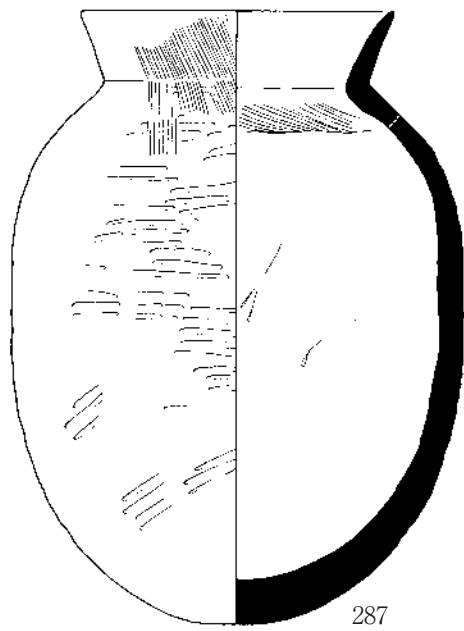
遺物 No.	調整・紋様
279	内面(口)ハケ(胴上)細ハケ(胴中)ナデ 外面(口)ナデ(胴上)タタキ(胴中)タタキのちハケ
280	内面(口)ナデ(胴)ナデ(底)ハケのちナデ 外面(口)ヨコナデ(頸)タテハケ(胴)タタキ
281	内面(口)粗ハケのちヨコナデ(胴)ナデ 外面(口)粗ハケのちヨコナデ(口唇はヨコナデ顕著)(胴上)タタキのちナデ(胴中)タタキのちハケ
282	内面(口)ハケのちナデ(胴)ナデ 外面(口)ハケのちヨコナデ(胴)タタキのちハケ

Fig.126 4 B区出土遺物28 III D層群 (S : 1/3)

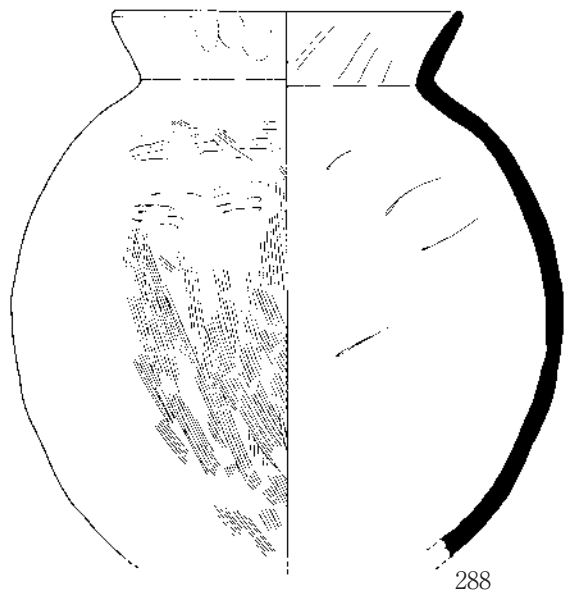


遺物 No.	調整・紋様
283	内面 (口) ナデ (胴) ナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ
284	内面 (口) ヨコナデ (胴) 頸下に押圧痕、ナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ
285	内面 (口) ナデ、ヘラナデ (胴上) ヨコヘラナデ (胴中) ナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ
286	内面 (口) ヘラナデ (胴上) ヘラナデ (胴中) ケズリのちナデ 外面 (口) ヨコヘラナデ (頸) ヨコナデ (胴) ナデ

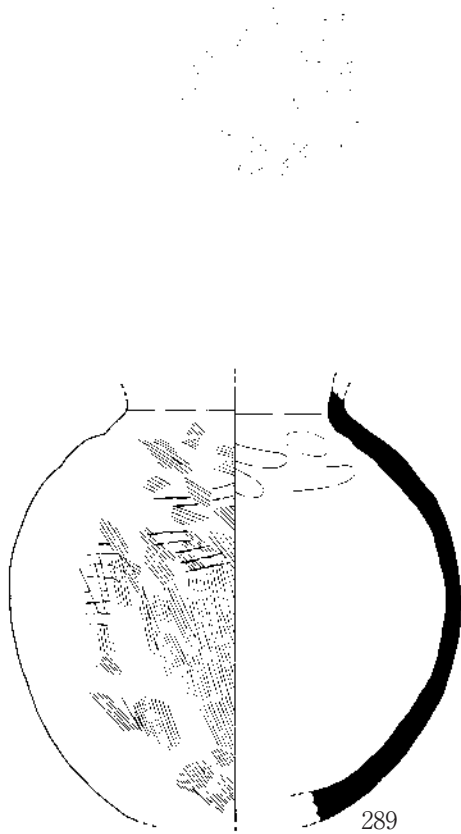
Fig.127 4 B区出土遺物29 ⅢD層群 (S : 1/3)



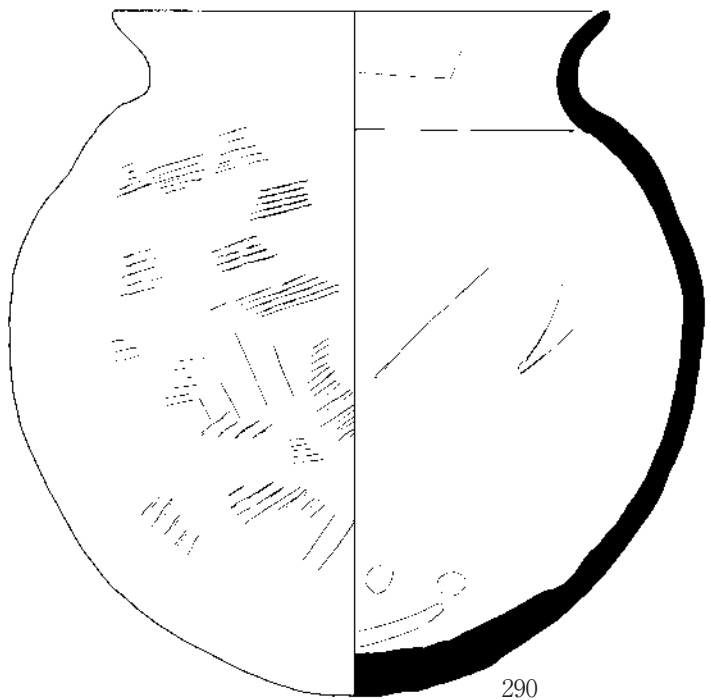
287



288



289

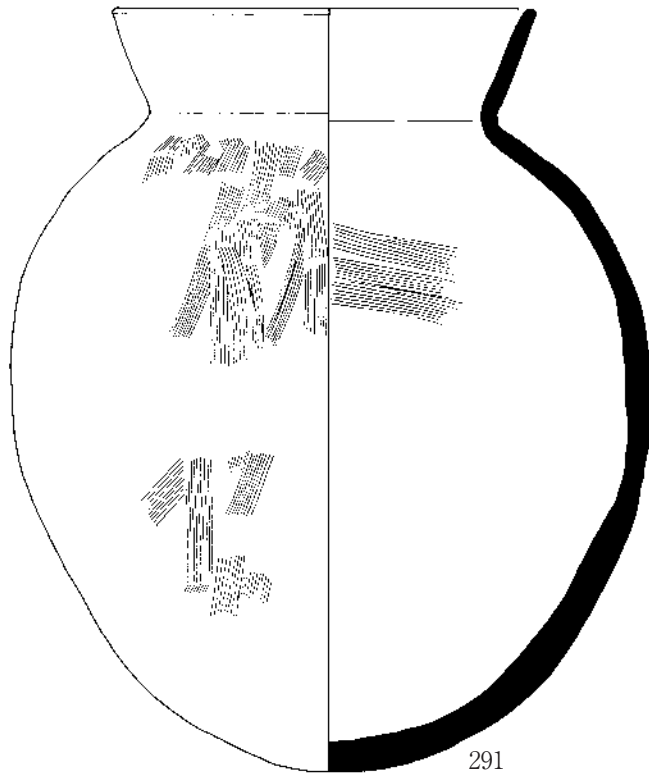


290

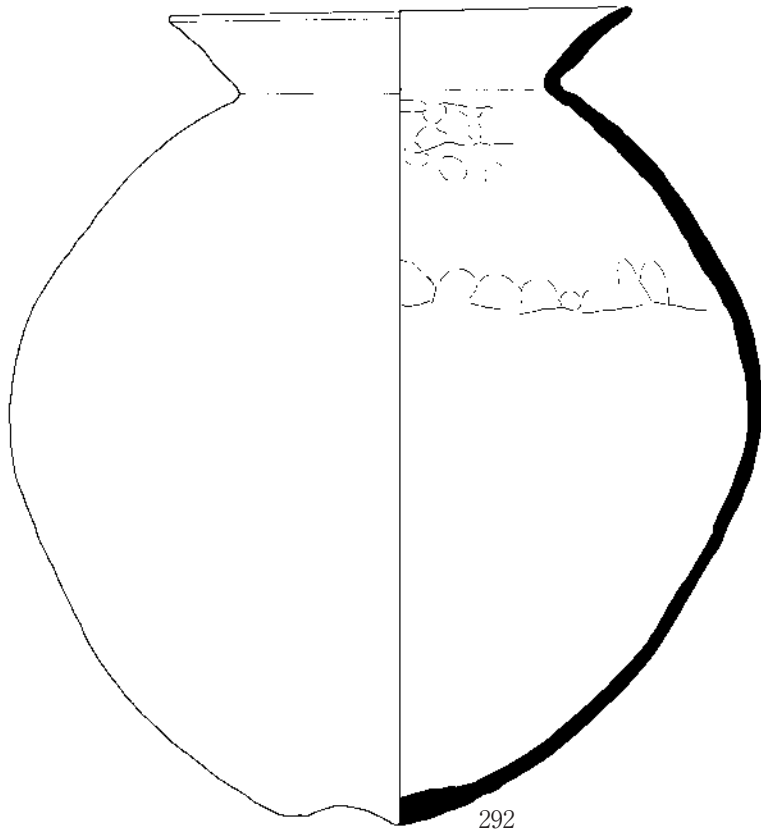
0 10cm

遺物 No.	調整・紋様
287	内面(口) ハケのちナデ(胴上) ハケのちナデ(胴中) ケズリのちナデ(胴下) ナデ 外面(口) ハケ(胴上) タタキのちハケ(胴中) タタキ
288	内面(口) ヘラナデ(胴) ケズリのちヘラナデ 外面(口) ヨコナデ(胴上) ヘラナデ(胴中) タタキのちハケ
289	内面(胴) ケズリのちナデ(底) ナデ 外面(胴) タタキのちハケ
290	内面(口) ヨコナデ(胴上) ケズリのちヘラナデ(胴下) ナデ、押圧痕 外面(口) ヨコナデ(頸部下に至る) (胴) タタキのちナデ

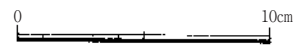
Fig.128 4 B区出土遺物30 ⅢD層群 (S : 1/3)



291

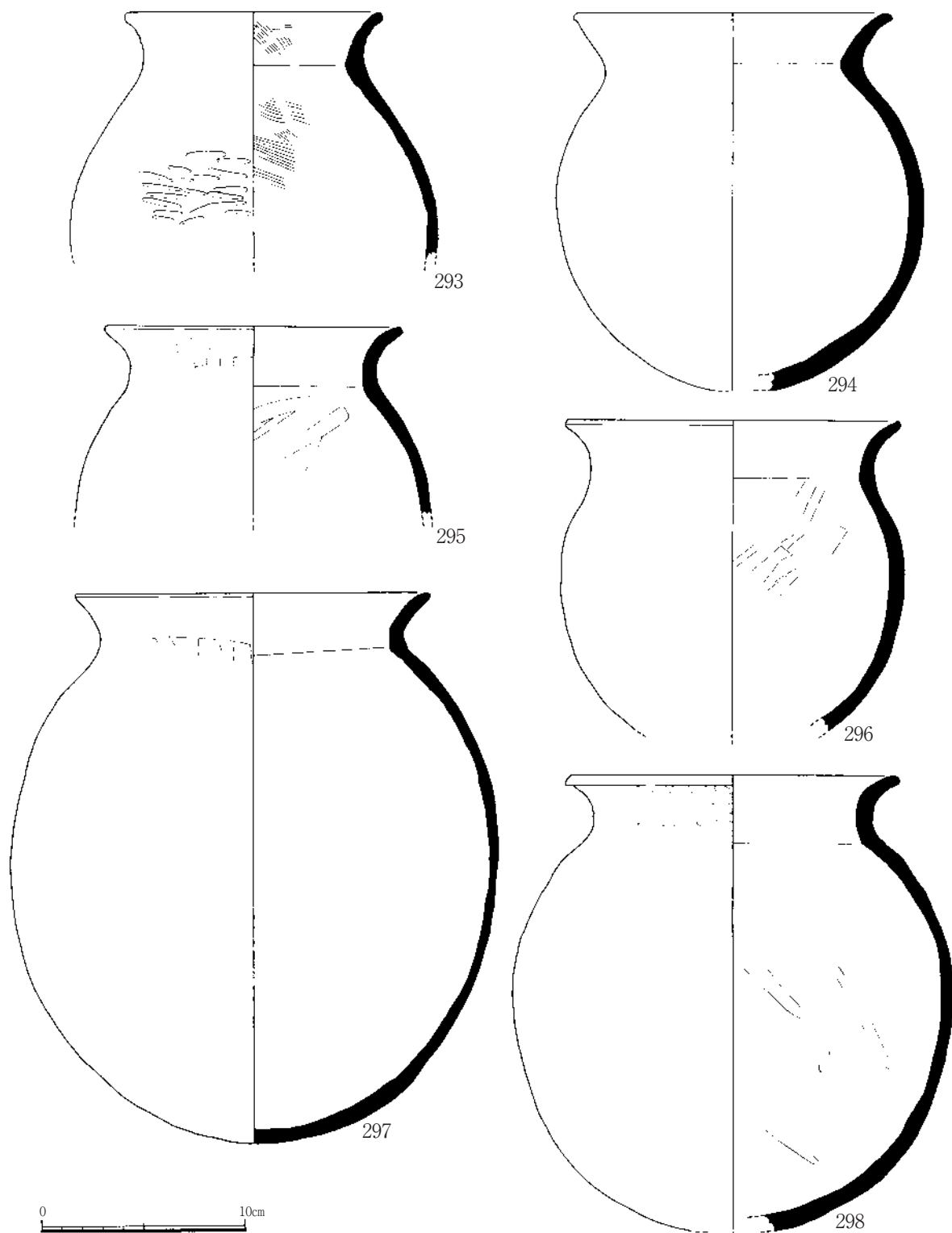


292



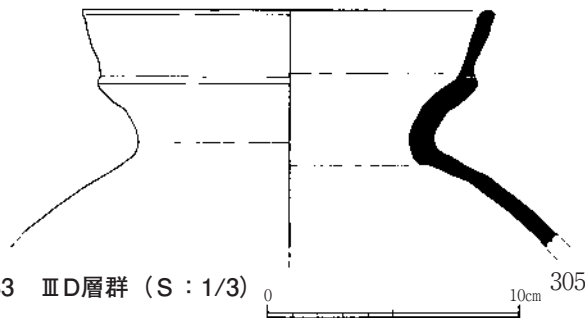
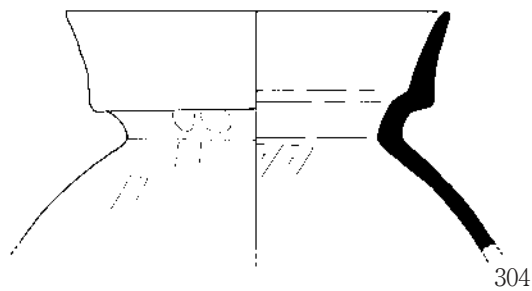
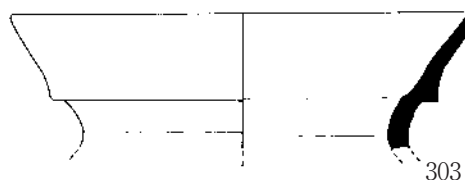
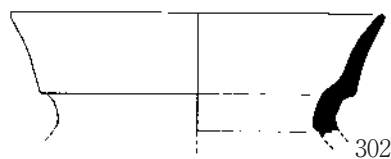
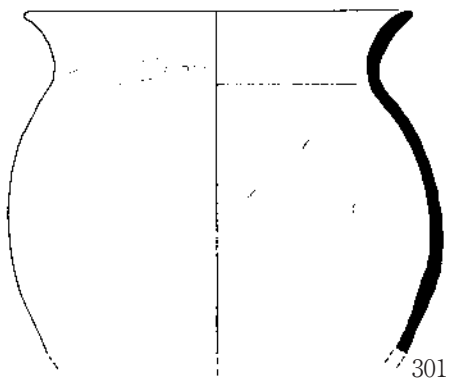
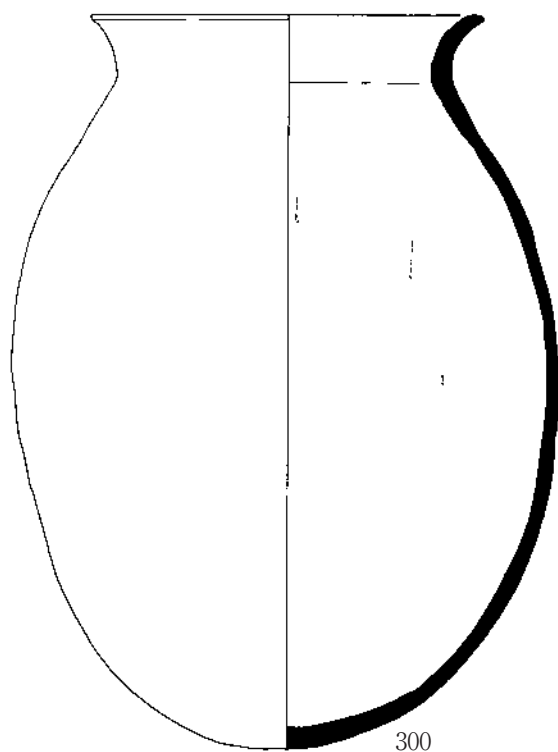
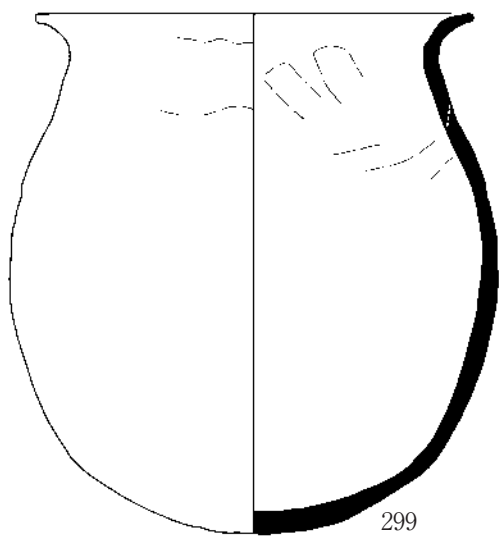
遺物 No	調整・紋様
291	内面 (口) ヨコナデ (胴上) 細ハケ又はナデ (胴中) 強いナデ又はケズリ (胴下) ヘラナデ 外面 (口) ナデ (頸) ヨコナデ (胴上) ハケのちナデ (胴下) ヘラナデ
292	内面 (口) ヘラナデ (胴上) 押圧痕 (胴中) ナデ (底) 凹凸面 外面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ (胴下) 凹凸面

Fig.129 4 B区出土遺物31 ⅢD層群 (S : 1/3)



遺物 No	調整・紋様
293	内面(口) ハケのちヨコナデ(胴) ハケのちヘラナデ? 外面(口) ヨコナデ(胴) タタキのちナデ
294	内面(口) ヘラナデ(胴) ケズリのちナデ 外面(口) ナデ、浅い凹凸面(胴) ナデ、上位にヘラ圧痕
295	内面(口) ナデ(胴) ケズリのちナデ 外面(口) ヨコナデ(胴) ヘラナデ
296	内面(口) ナデ(胴) ヘラナデ 外面(口) ナデ(胴) ヘラナデ
297	内面(口) ヘラナデ(胴) ケズリのちナデ 外面(口) ヨコナデ(胴) 丁寧なナデ
298	内面(口) ヘラナデ(胴) ケズリのちナデ 外面(口) ナデ、口唇下に押圧痕、頸部上にヘラ圧痕(胴) ナデ、ヘラナデ

Fig.130 4 B区出土遺物32 ⅢD層群 (S : 1/3)



遺物 No.	調整・紋様
299	内面 (口) ナデ、浅い凹凸面 (胴) ナデ 外面ナデ、接合痕
300	内面 (口) ナデ (胴上) ケズリのちナデ (胴下) ナデ 外面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ
301	内面 (口) ヨコハラナデ (胴) ケズリのちナデ 外面 (口) ヨコナデ (頸) ヘラ圧痕 (胴) ヘラナデ
302	内面 (口) ヨコナデ 外面 (口) ヨコナデ
303	内面 (口) ヨコナデ 外面 (口) ナデ、ヨコナデ
304	内面 (口) ナデ (胴) ケズリのちナデ 外面 (口) ナデ (胴) ナデ
305	内面 (口) ヨコナデ (胴) ケズリのちナデ? 外面 (口) ヨコナデ (胴) ナデ

Fig.131 4 B区出土遺物33 ⅢD層群 (S : 1/3)

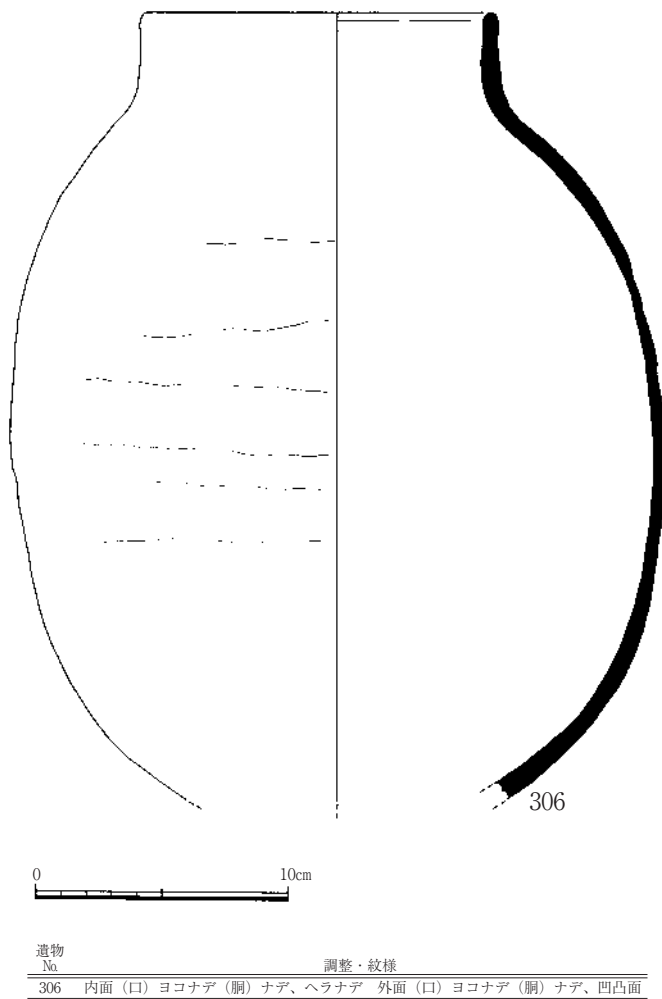


Fig.132 4 B区出土遺物34 III D層群 (S : 1/3)

III B層群出土土器・土製品

(Fig.137~139)

III B - 3層から出土した土器・土製品の総点数は4,662点である。このうち、縄文土器は16点、弥生土器は1,404点、土師器は1,661点である。縄文土器は浅鉢が3点、深鉢が12点、壺が1点である。弥生土器は甕が1,151点、壺が213点、器台が19点、鉢が14点、高坏が5点、蓋が2点である。土師器は甕が1,588点、鉢が42点、高坏が15点、壺が8点、器台が7点、小型丸底土器が1点である。III B - 2層から出土した土器・土製品の総点数は452点である。弥生土器は10点、土師器は242点、須恵器は1点である。弥生土器は甕が8点、壺が2点である。土師器は甕が212点、高坏が17点、鉢が9点、壺が4点である。III B - 1層から出土した土器・土製品の総点数は292点である。縄文土器は1点、弥生土器は6点、土師器は246点である。縄文土器は深鉢が1点である。

弥生土器は壺が2点、鉢・甕・高坏・器台が各1点である。土師器は甕が225点、高坏が11点、鉢が6点、壺が4点である。III B - 0層から出土した土器・土製品の総点数は1,506点である。弥生土器は97点、土師器518点、須恵器6点、陶器1点である。

318は壺の胴部であり、区画沈線と斜線紋が施される。319は壺胴部であり、十字の区画と無軸木葉紋が施される。320は断面台形の小さな突帯に連続的な刻みが施されており、下位には沈線と下弦重弧紋が見られる。321は緩やかに広がる深鉢の口縁であり、端部には刻みが施される。322は口唇外がやや肥厚し、疎な刻みが施される。323は口唇と口縁外面をやや不明瞭な刺突風に刻む。324は幅広の扁平な突帯を連続的に刻む。325は口唇外端と垂下した突帯を連続的に刻む。326は深鉢の胴部であり、低い断面三角形の突帯に小さな刻みが施される。327は口唇に連続的な刻みが施され、口縁下には段が残る。弥生前期前半。328は口唇が面を成し、外側にやや肥厚する。329は短く外反する口縁を持ち、口唇は押圧により刻む。330は粘土帯の貼付により肥厚する口縁外面を筋状に刻み、口縁下端には瘤状の浮紋が施される。331は肥厚する口縁外面に斜格子紋が施され、直下に瘤状の浮紋が付く。332は直立する口縁に刻みを施し、瘤状浮紋を配する。333は肥厚する口縁に筋状の刻みと瘤状浮紋を施す。334は凸面を成して肥厚する口縁に幅

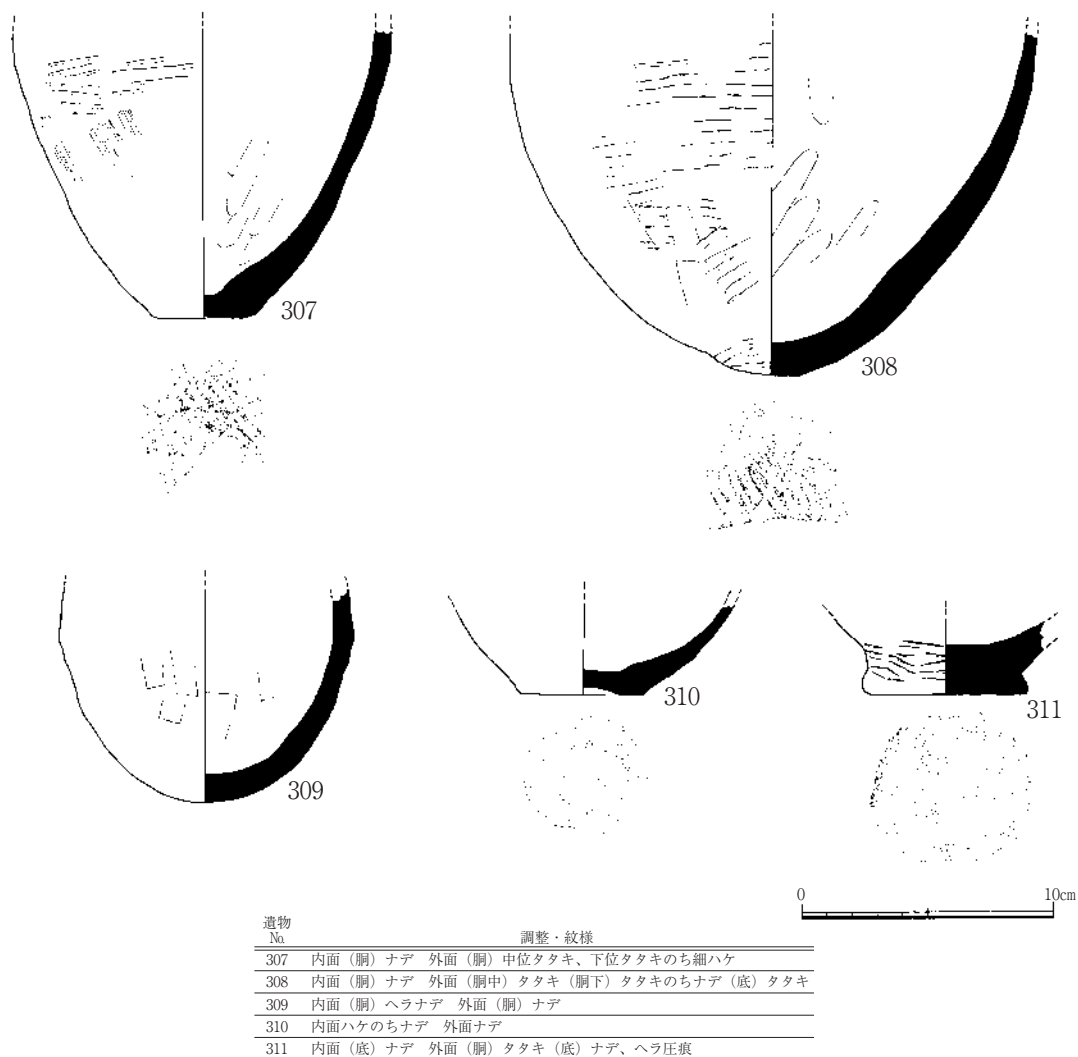


Fig.133 4 B区出土遺物35 ⅢD層群 (S : 1/3)

広の斜位刻みを施す。335は肥厚する口縁に筋状の刻みを施す。336・338は肥厚する口縁の上端が突帯状に突出し、筋状の刻みが施される。339は肥厚する口縁に幅広の斜位刻みを施す。340は肥厚する口縁外面と口唇に刻みを施す。341は口縁外面に2列の円形浮紋を配す。342は屈曲の後に内傾して立上がる口縁の外面にヘラ描沈線が凹線紋風（擬凹線²⁾）に施される。343は肥厚する口縁端面に円形浮紋を付す。344は突帯状に口縁が大きく肥厚する。345は口縁は大きく外反して広がり、端面に円形浮紋を施す。346は胴部の上位に円形浮紋が施される。347は壺の胴部に斜格子紋と竹管で刺突した円形浮紋を施す。348は緩く窪んだ面を成して肥厚する口縁外面に櫛描沈線を施す。349は口縁がやや肥厚し、端面には筋状の刻みを施す。350は口唇下に突帯状の粘土帯を貼付し、連続的に刻む。351は口唇下が突帯状に肥厚し、押圧風に刻む。胴部上位に瘤状浮紋を配する。352は口縁が垂下して肥厚し、端部を押圧風に刻む。353は壺の胴部上位である。櫛描沈線を施した後に瘤状浮紋を配する。下位には斜位の刻み列が施される。354は口縁がやや垂下して肥厚し、端部に連続的な刻みを施す。355は口縁の外面が突帯風に肥厚する。端部には連続的な刻みが施される。356は高坏の口縁である。屈曲の後に口縁は短く外反して立

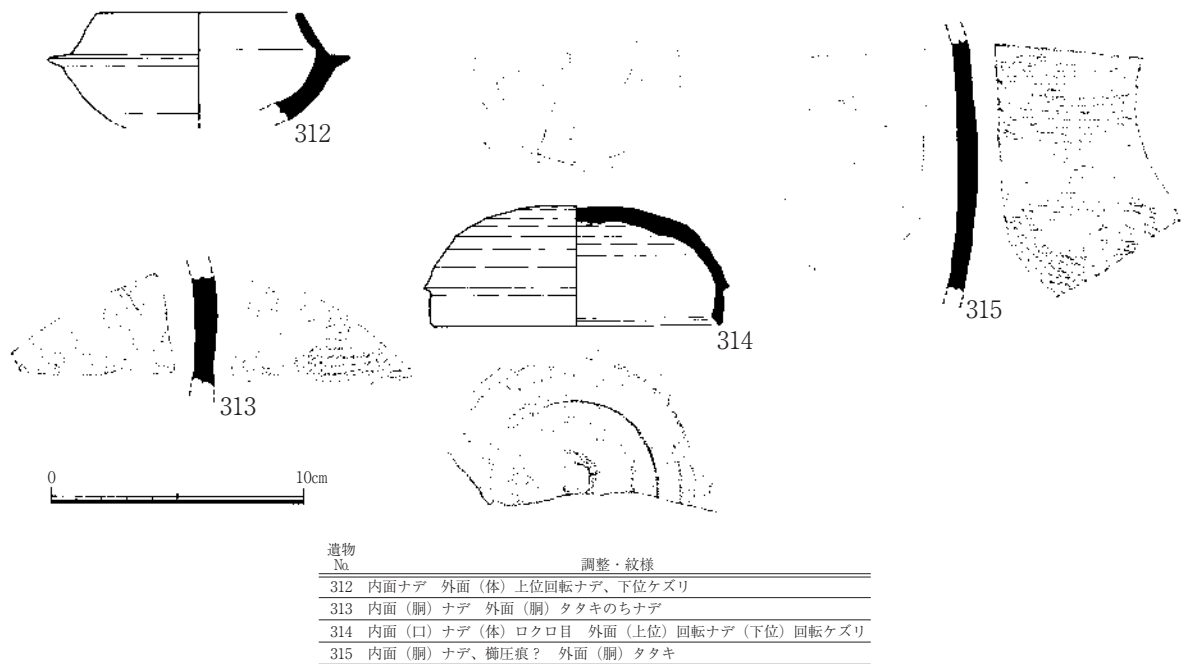


Fig.134 4 B区出土遺物36 ⅢD層群 (S : 1/3)

上がる。口唇は平らな面を成す。357から359は器面が赤褐色に発色し、胎土は灰色で砂粒等の混和剤は少ない。357は壺の口縁か。口唇には斜位の刻みを施し、口縁の外面には刻みを施した棒状浮紋が付く。358は壺の口縁である。口縁の外面には櫛描波状紋が施される。359は壺の口縁である。口縁は上下に大きく肥厚する。端面には櫛描波状紋のち押圧の刻みを施した棒状浮紋が付く。360は高坏の脚部である。中空の脚には恐らく二段の円形透かしが施されるであろう。

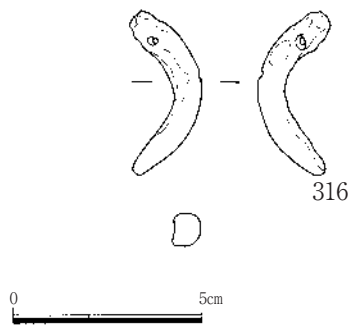


Fig.135 4 B区出土遺物37 ⅢD層群土製勾玉 (S : 1/2)

その他の包含層出土土器・土製品
(Fig.140・141)

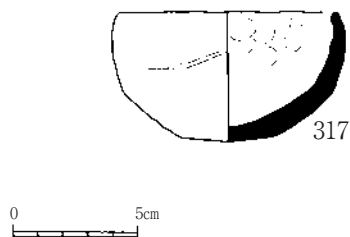
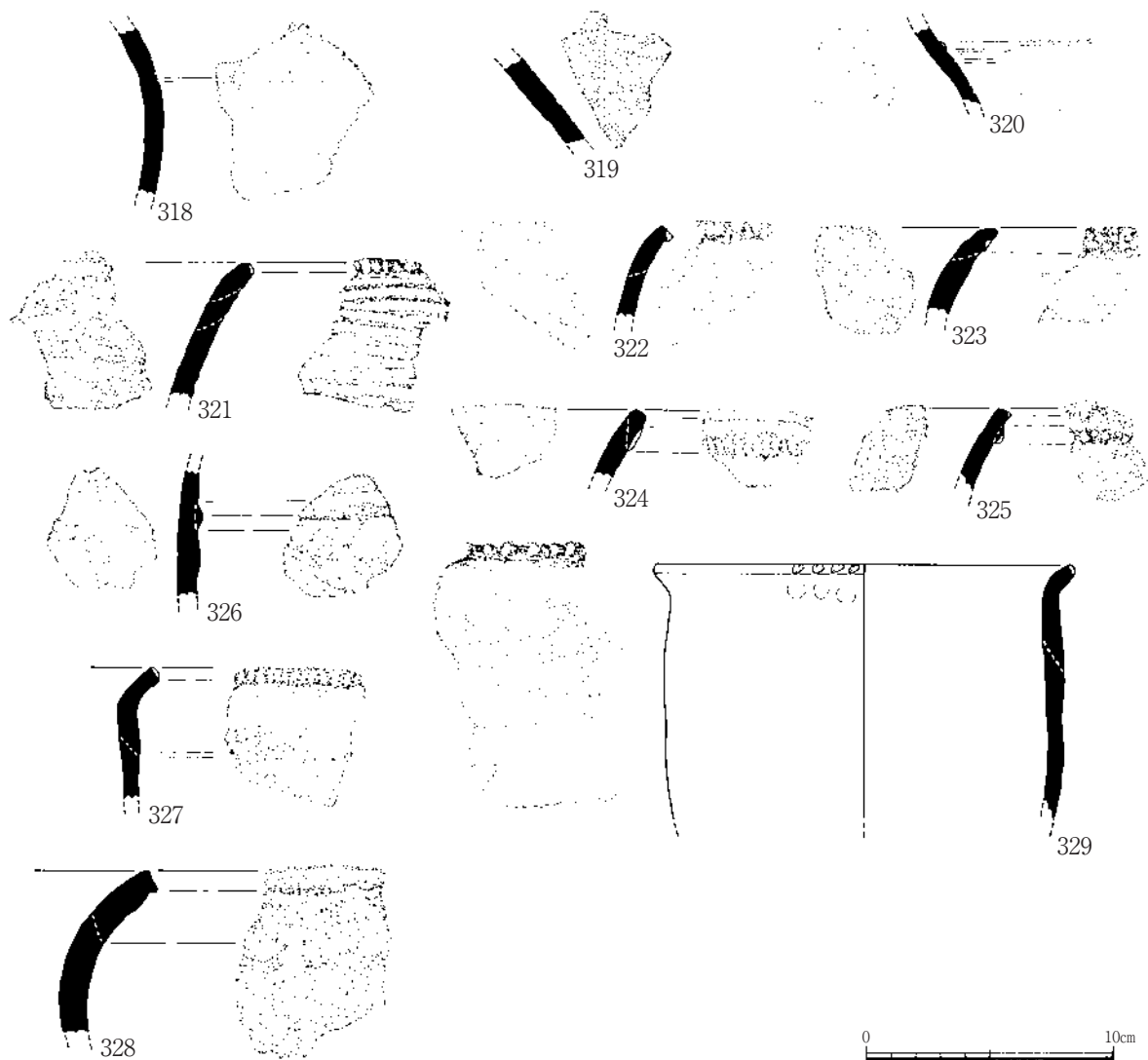


Fig.136 4 B区出土遺物38 ⅢD層群砂鉄入鉢 (S : 1/3)

361は鉢形のミニチュア土器である。口縁は短く外反する。362は鉢である。椀形を呈し、口縁は内彎して立上がる。363は壺の胴部である。頸部下で擬口縁を成す。368は椀である。高台は「ハ」の字状に開く。369は坏である。底部には回転ヘラ切り痕



遺物 No.	調整・紋様
318	内面(胴)ナデ 外面(胴)ミガキ、斜線紋?区画沈線
319	内面(胴)ナデ 外面(胴)区画沈線、無軸木葉紋
320	内面(胴)ナデ 外面(胴)ヘラミガキ、断面台形刻目突帯貼付、連続的な押圧刻み、2条沈線、下弦重弧紋
321	内面(口)ナデ 外面(口唇外)密な押圧風刻み(口)条痕
322	内面(口)ナデ 外面(口)条痕のちナデ、口唇外やや疎な刺突風刻み
323	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ、口唇外密な刺突刻み、口縁密な刺突刻み突帯?(半截竹管?)

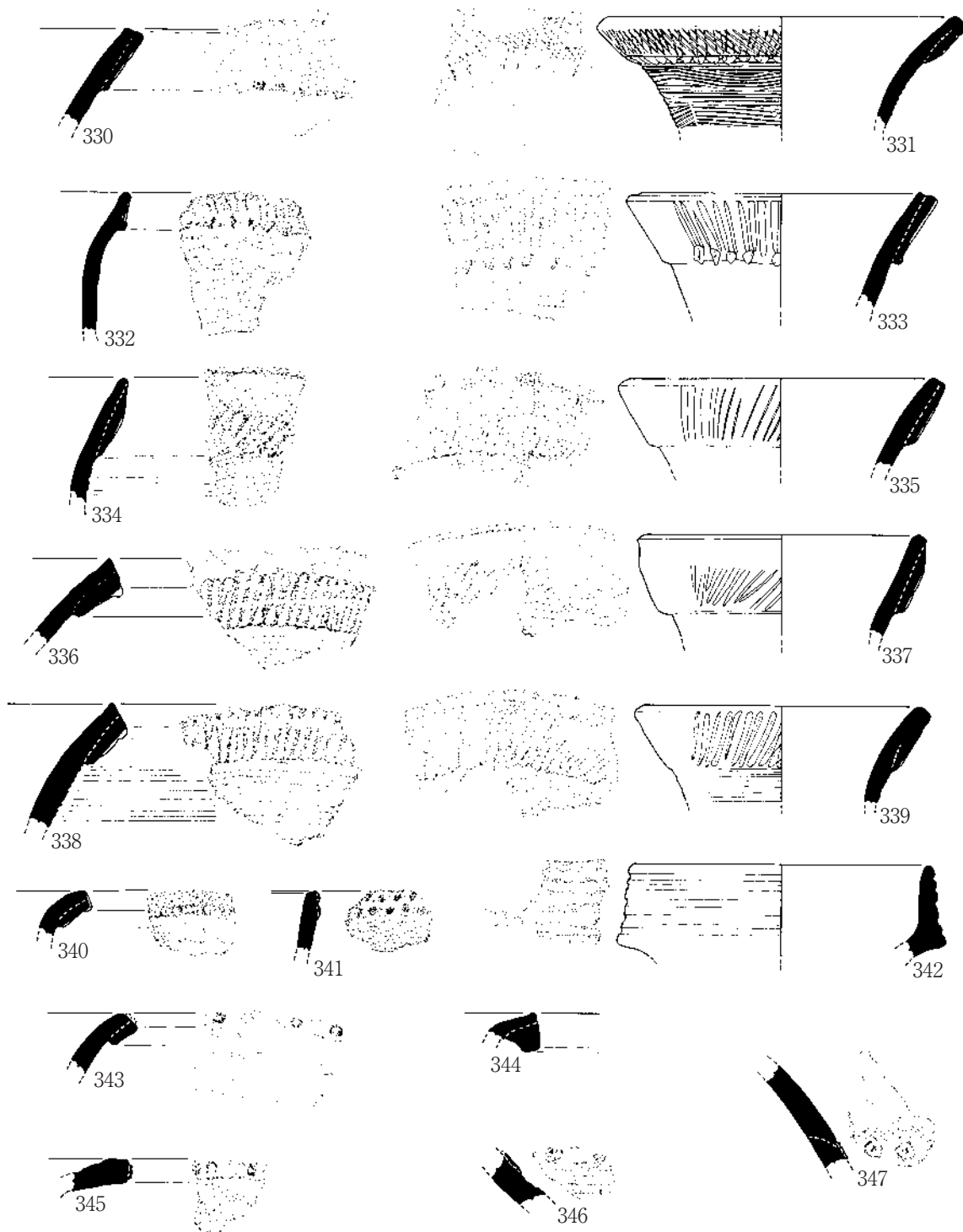
遺物 No.	調整・紋様
324	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ、低い断面蒲鋒形刻目突帯貼付、密な押圧刻み
325	内面(口)ナデ 外面(口)条痕、口唇外規模の小さな連続的押圧刻み、低い断面三角形刻目突帯貼付、密な刺突風刻み
326	内面(胴)ナデ 外面(胴)ナデ、条痕、低い断面三角形突帯貼付(無刻)
327	内面(口)ナデ 外面(口唇)密な押圧刻み(口)ナデ
328	内面(口)ナデ 外面(口)ナデ、浅い凹凸面、接合痕
329	内面(口)ナデ(胴)ナデ 外面(口)ナデ、口唇にやや密な押圧風刻み(胴)ナデ

Fig.137 4 B区出土遺物39 III B層群 (S : 1/3)

が残る。364から367は須恵器の甕である。364・365には横位のタタキ目が残される。370・371は小型の器台である。裾は端部で外側に肥厚する。外面には二段の鋸歯紋が施される。372は須恵器の壺か。胴部に断面台形の突帯が廻る。

②石器・石製品 (Fig.142~146)

III E層から出土した石器・石製品のうち図示したのは373の1点であり、石斧の基部である。III C層群から出土した石器・石製品のうち図示したのは374から384の11点である。374から378



遺物 №	調整・紋様	
330	内面 (口) ナデ	外面 (口) 口唇外縦位刻み、瘤状浮紋、指頭押圧痕
331	内面 (口) ナデ	外面 (口) 斜格子紋、瘤状浮紋列、櫛描沈線
332	内面 (口) ナデ	外面 (口) 口唇下縦位の刻み、瘤状浮紋、櫛描沈線
333	内面 (口) ナデ	外面 (口) ナデ、口唇下縦位刻み、瘤状浮紋
334	内面 (口) ナデ	外面 (口) ナデ、斜位ヘラ刻み、籠描沈線2条
335	内面 (口) ナデ	外面 (口) 斜位刻み、籠描沈線
336	内面 (口) ナデ	外面 (口) 縦位の筋状刻み、櫛描沈線帯
337	内面 (口) ナデ	外面 (口) 口唇下斜位刻み、櫛描沈線

遺物 №	調整・紋様	
338	内面 (口) ナデ	外面 (口唇下) 筋状刻み (口) 櫛描沈線
339	内面 (口) ナデ	外面 (口) ナデ、斜位のヘラ刻み、櫛描沈線
340	内面 (口) ナデ	外面 (口唇) 斜位刻み (ハケ状原体) (口唇外) 斜位刻み (ハケ状原体)、接合痕
341	内面 (口) ナデ	外面 (口) 櫛描沈線、円形浮紋列2条
342	内面 (口) ナデ	外面 (口) 籠描沈線帯
343	内面 (口) ナデ	外面 (口唇) 円形浮紋 (内刺突?) (口) ナデ、ハケ
344	内面 (口) ナデ	外面 (口) ナデ
345	内面 (口) ナデ	外面 (口唇外) 円形浮紋 (竹管による刺突) (口) ナデ
346	内面 (胴) ナデ	外面 (胴) 櫛描沈線、円形浮紋
347	内面 (胴) ナデ	外面 (胴) ナデ、格子紋、円形浮紋 (竹管刺突)

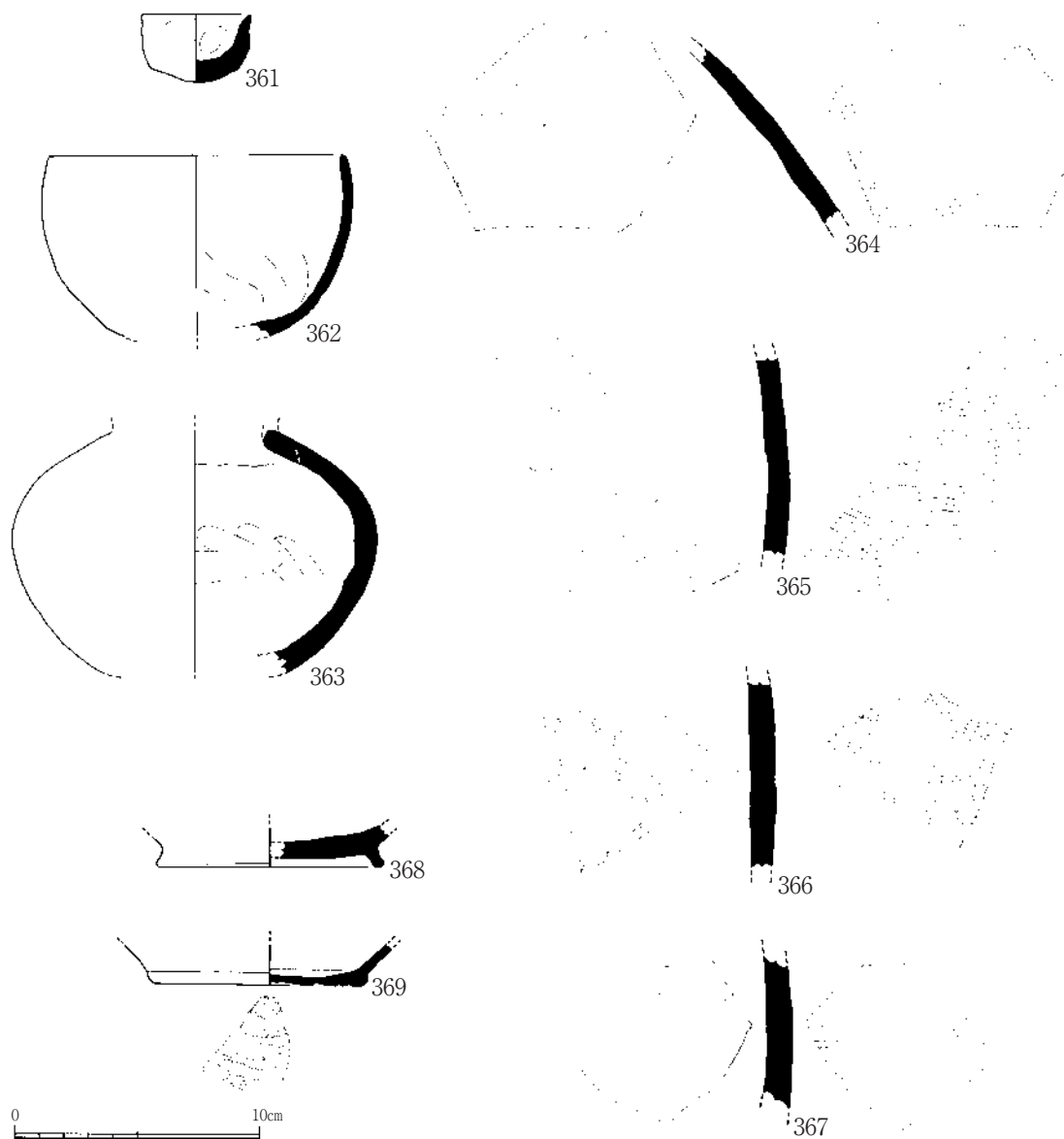
Fig.138 4 B区出土遺物40 III B層群 (S : 1/3)



遺物 No	調整・紋様	
348	内面(口)ナデ	外面(口)ナデ、櫛描沈線、ナデ痕
349	内面(口)ナデ	外面(口)ナデ、口唇下縦位刻み、櫛描沈線
350	内面(口)ナデ	外面(口)ナデ、口唇外押圧風刻み、櫛描沈線
351	内面(口)ナデ	外面(口唇)刻み、区画沈線2条、瘤状浮紋列
352	内面(口)ナデ	外面(口)ナデ、規模が大きく密な押圧風刻み
353	内面(胴)ナデ	外面(胴)ナデ、櫛描沈線、瘤状浮紋、斜位刻み(ヘラ?)

遺物 No	調整・紋様	
354	内面(口)ナデ	外面(口)ナデ、断面垂下三角形、押圧風刻み、密
355	内面(口)ナデ	外面(口)ナデ、密な押圧刻み
356	内面(口)ナデ	外面(口)ヨコナデ(坏)ナデ
357	内面(口)ナデ	外面(口)ナデ、棒状浮紋(刻み)
358	内面ナデ	外面ナデ、櫛描波状紋
359	内面ナデ	外面ナデ? (口唇外)櫛描波状紋、棒状浮紋(横位押圧刻み)
360	内面(坏)ナデ	脚)ヘラナデ、ナデ(裾)ヘラナデ 外面(脚)粗ハケのちナデ

Fig.139 4 B区出土遺物41 ⅢB層群 (S : 1/3)



遺物 No	調整・紋様
361	内面ナデ 外面ナデ
362	内面ナデ 外面 (口) ヨコナデ (体) ナデ
363	内面 (胴上) ナデ、指頭ナデ (胴下) ケズリ (強いナデ?) 外面 (胴) ヘラナデ (滑らか)
364	内面 (胴) ナデ、櫛目? 外面 (胴) タタキ
365	内面 (胴) ナデ 外面 (胴) タタキ (平行)
366	内面 (胴) ナデ、同心円紋 外面 (胴) タタキ? (細)
367	内面 (胴) ナデ 外面 (胴) タタキ (斜格子状)
368	内面 (底) ナデ 外面 (胴) 回転ナデ、(底) ナデ
369	内面ナデ、ロクロ目 外面ナデ (底) 回転ヘラ切り痕

Fig.140 4 B区出土遺物42 その他の包含層 (S : 1/3)

は石斧である。379は石包丁、382は石剣か。380・381・383・384は叩石である。本層ではその他にチャート、サヌカイトの剥片が出土している。ⅢD層群から出土した石器・石製品のうち図示したのは385から405の21点である。385はサヌカイト製の石鏃である。386・387は石斧である。388は石包丁、390も石包丁か。389・391から393は砥石である。394から402は叩石である。404から405は台石である。本層からはその他にチャート、サヌカイトの剥片が出土している。ⅢB

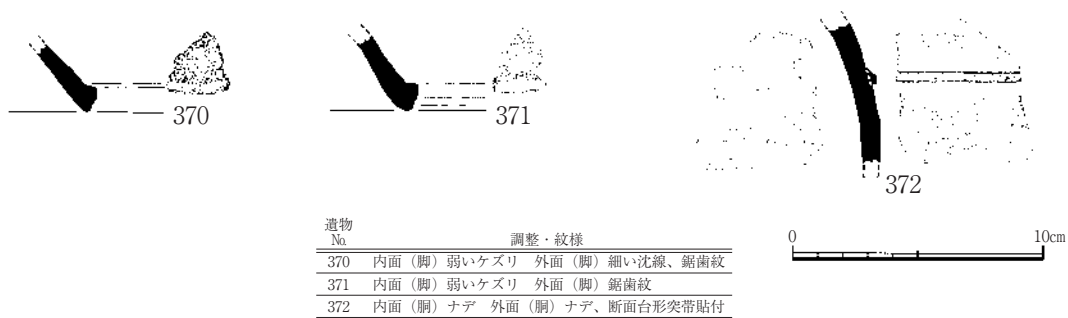


Fig.141 4 B区出土遺物43 その他の包含層 (S : 1/3)

層群から出土した石器・石製品のうち図示したのは406から421の16点である。406は有孔円盤、407は石斧基部、408は打製石包丁、409は磨石である。410から420は叩石であり、421は台石である。

③木器・木製品 (Fig.147～156)

ⅢC層から出土した木器・木製品のうち図示したものは423と424である。423は杓子か。その他には炭化材が出土している。ⅢD層群から出土した木器・木製品のうち図示したものは425から440の16点である。425は把手か、429は工具部品の一部、430は槽または蓋、434は弓と考えられる。435は組合せ式の犁または柄、436・437は鋏である。その他には炭化材が出土している。ⅢB層群から出土した木器・木製品のうち図示したものは441から455の15点である。443・448は木錘である。444は舟形木製品、446は鉢の口縁か、447は弓、446は木皿、451は羽口鋏である。その他に炭化材が出土している。

④金属遺物

砂鉄³⁾

L5-22グリッド、ⅢD-1層で出土した小型の鉢に入った状態で発見された。層序の項で記述したようにⅢD-1層は祭祀遺物を多く含んだⅢD層に先行する堆積層であり、尾根斜面部に近いことから地山崩壊礫を多く含んではいるがⅢB-2層またはⅢB-3層に後続する時期の堆積層と考えられる。鉢口縁部は破損を受けて一部分しか残されていないが、平底の底部から胴体部にかけてはよく残されており、砂鉄一部は鉢の内面に付着していた。鉢の造りは一般的なものであり、胎土はどちらかと云うと粗製に近い。特に祭祀的な印象は受けない。

出土量は約150gであり、暗灰色を呈している。

⑤自然遺物

堅果類他

ⅢE層から堅果類(不明1種)が出土している。ⅢD層のK5-19グリッドからはシラカシ? 胡桃やL6-2グリッドからは栗が出土しており、他に桃、瓢箪、が発見された。ⅢB層群ではⅢB-3層から獣骨が出土している。ⅢB-0層からはサルノコシカケが出土している。ⅢB層からは胡桃が出土している。

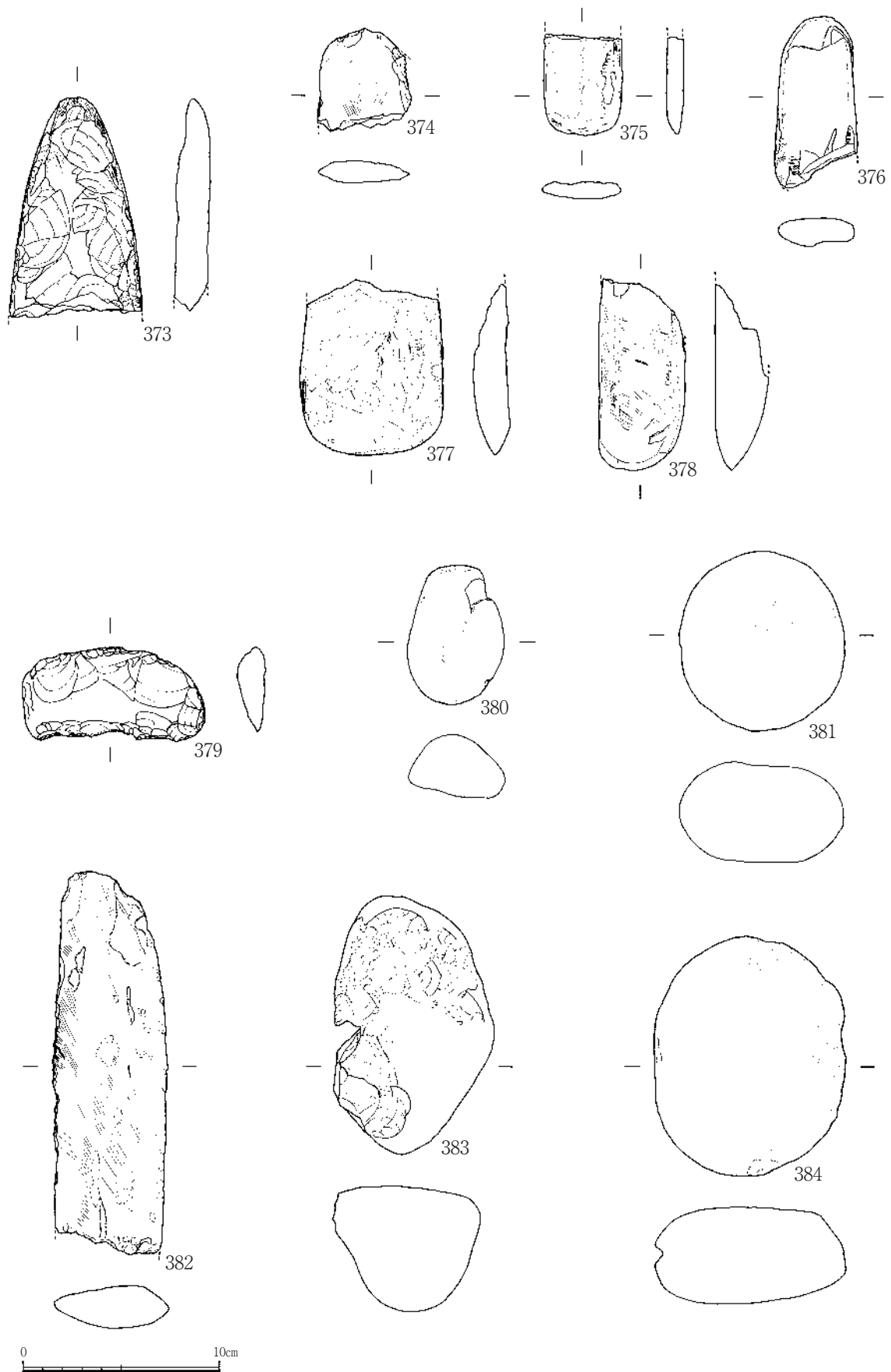


Fig.142 4 B区出土遺物44 III E層・III C層群 (S : 1/3)

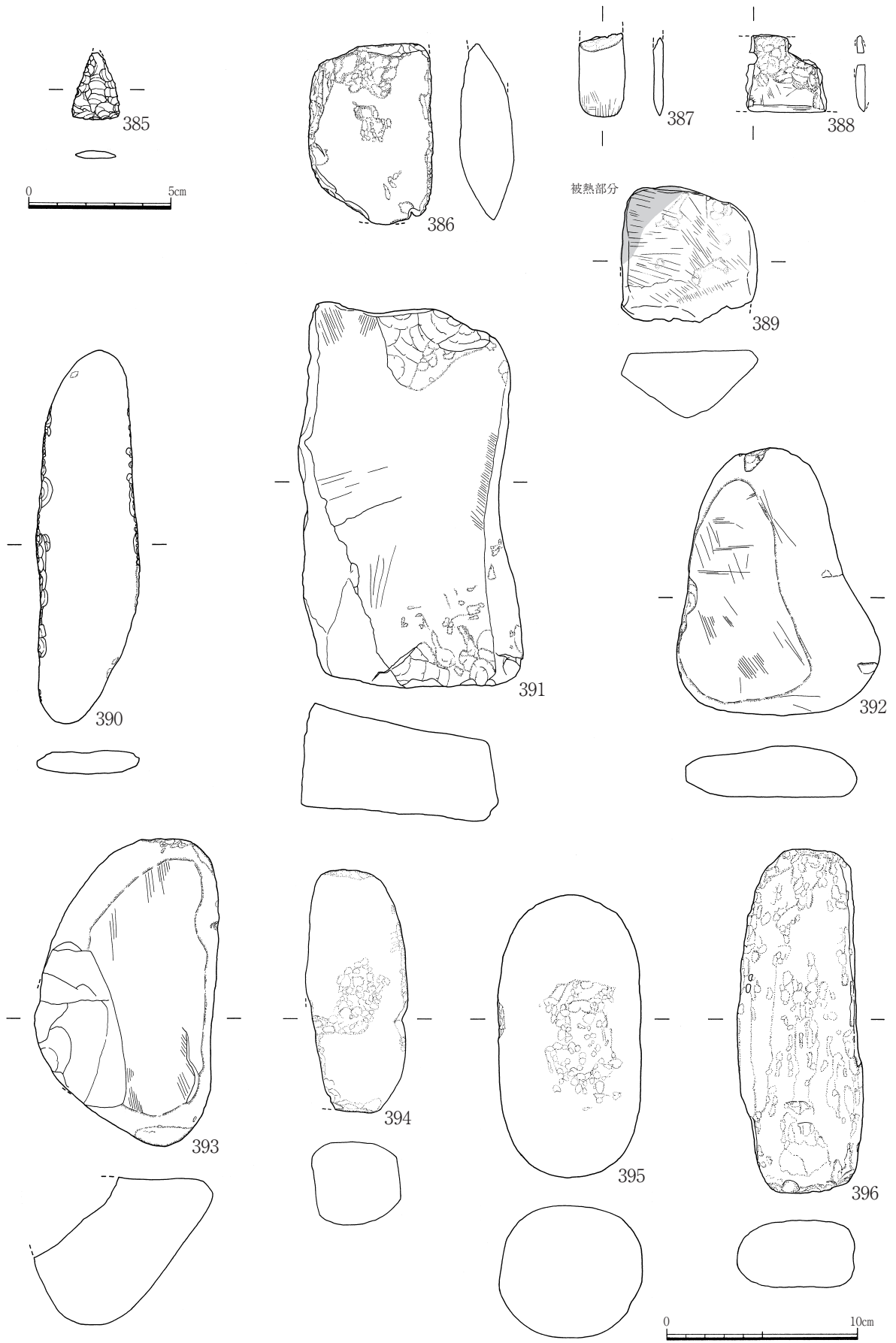


Fig.143 4 B区出土遺物45 ⅢD層群 (S : 1/2, 1/3)

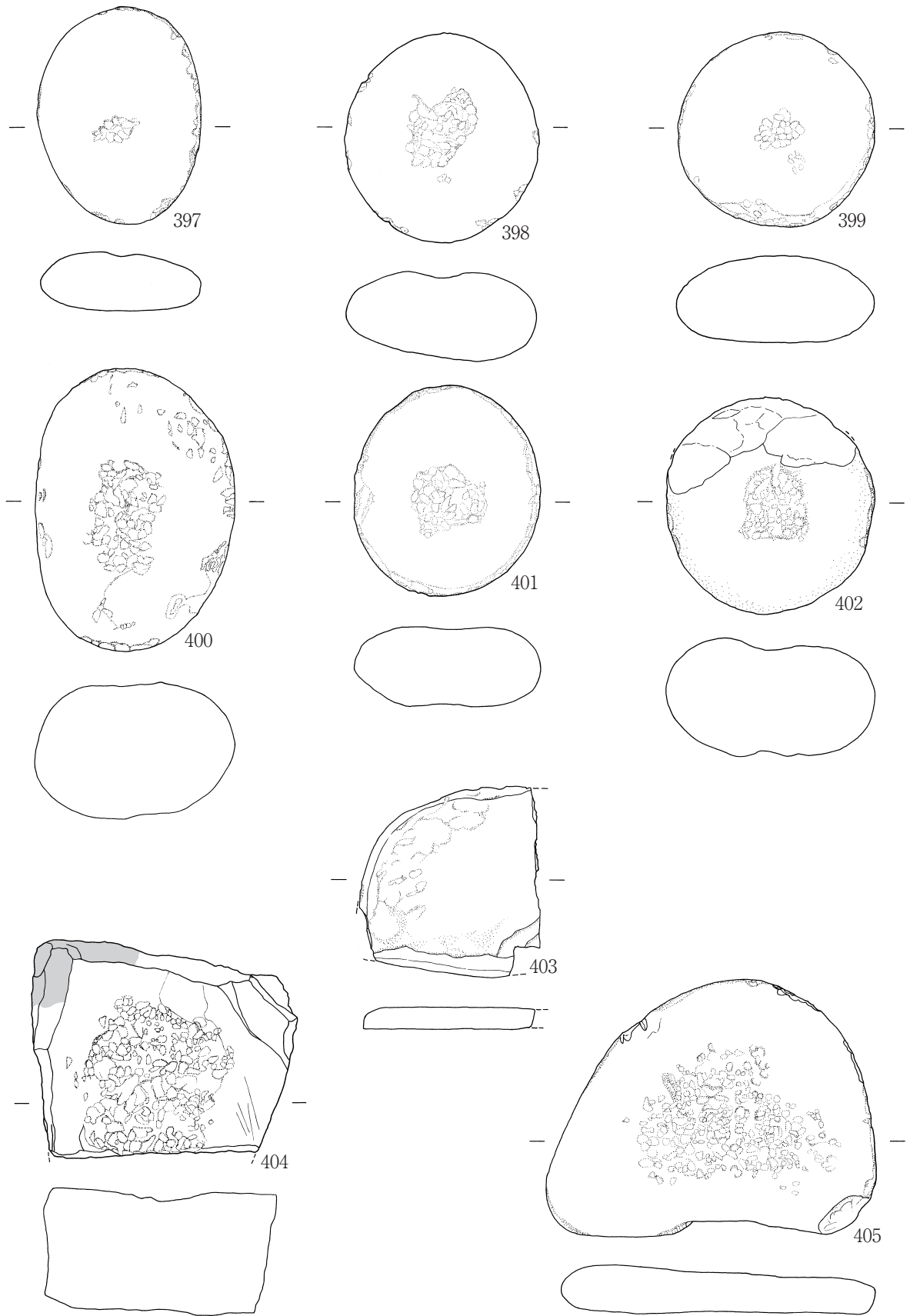


Fig.144 4 B区出土遺物46 III D層群 (S : 1/3)

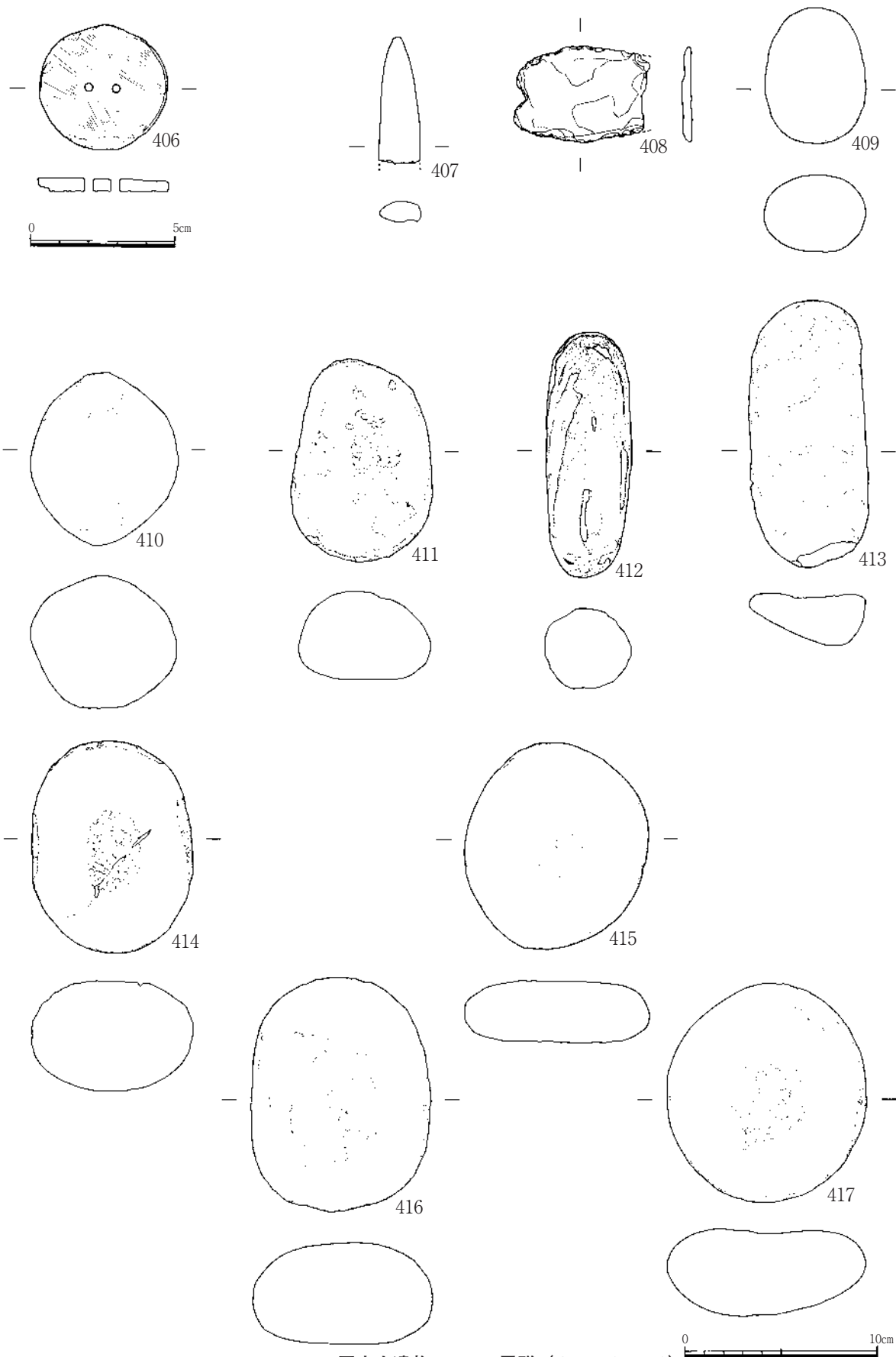


Fig.145 4 B区出土遺物47 ⅢB層群 (S : 1/2, 1/3)

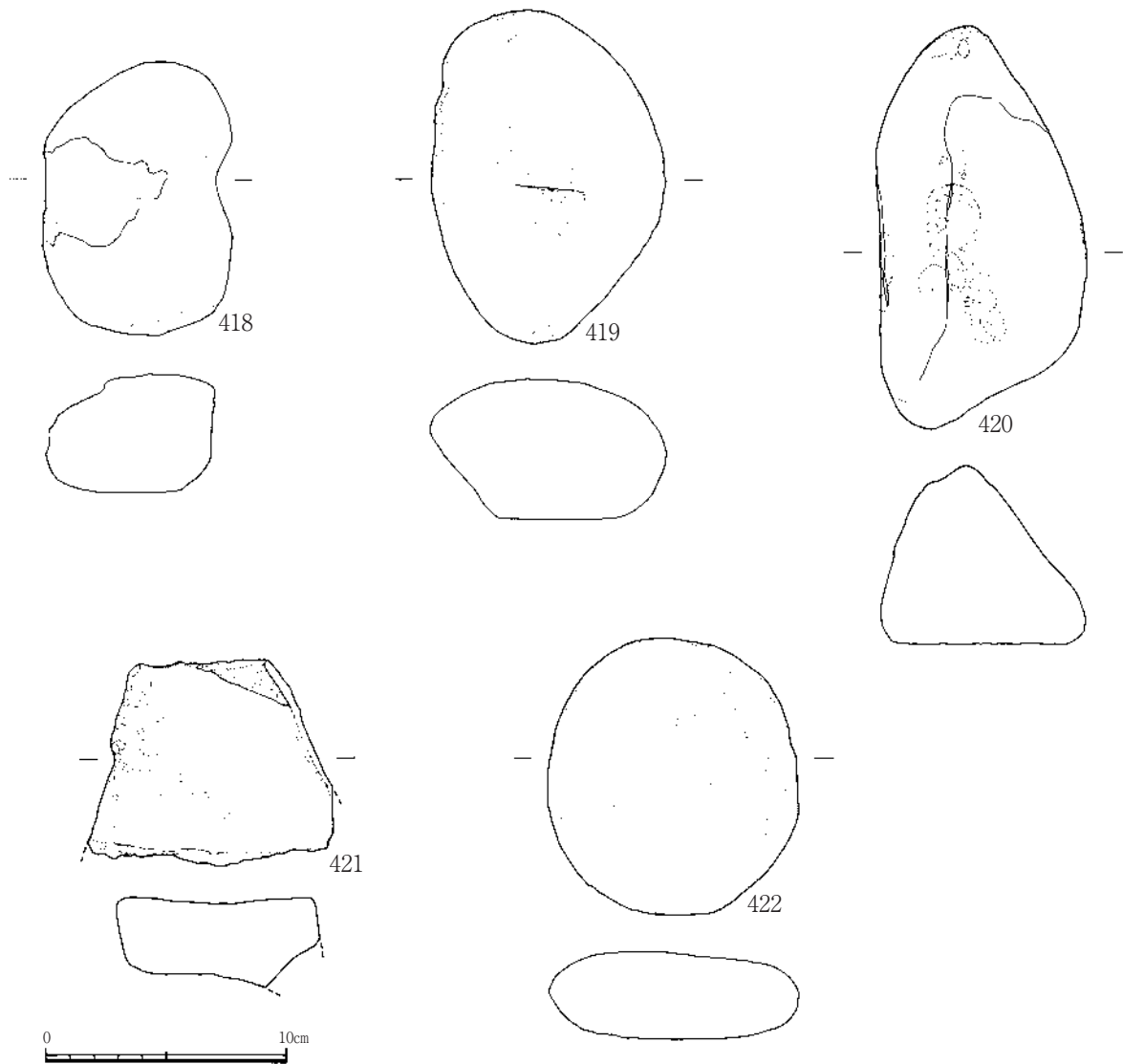


Fig.146 4 B区出土遺物48 III B層群 (S : 1/3)

注

1) 縄文晩期末の深鉢と同様な形態を示すものを縄文系土器の深鉢形とした。突帯の規模や形態、刻みの方法や密度、粘土紐の接合方法など各属性に変化はあらわれるものの漸移的であり、形態的には区別が容易に付かないものが多い。

2) 本調査区では凹線紋土器の存在を示すことはできない。本調査区における中期末の様相がこれらの土器群に見られる独自のものであるのか、または『文京遺跡第10次調査』に示されている中期から後期への過渡的な状況を表したものであろうか。近接する『北高田遺跡』の久家芳隆氏による分析では、同様な出土土器群について後期初頭の位置付けがなされている。凹線紋の退化形態か。

3) 砂鉄については大澤正巳氏による分析を参照されたい。大澤氏には高知県内（四国大平洋側の砂鉄に含まれ成分についての詳細な意見を頂いた。また、武吉眞裕氏には高知県内の砂鉄採取地点と粒子の形状について御教授頂いた。

参考文献

『文京遺跡第10次調査』 愛媛大学埋蔵文化財調査室 1991年

『北高田遺跡』 財団法人高知県文化財埋蔵文化財センター 2000年

『四村日本遺跡』 財団法人愛媛県文化財調査センター 1998年

『下川津遺跡』 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター 1990年

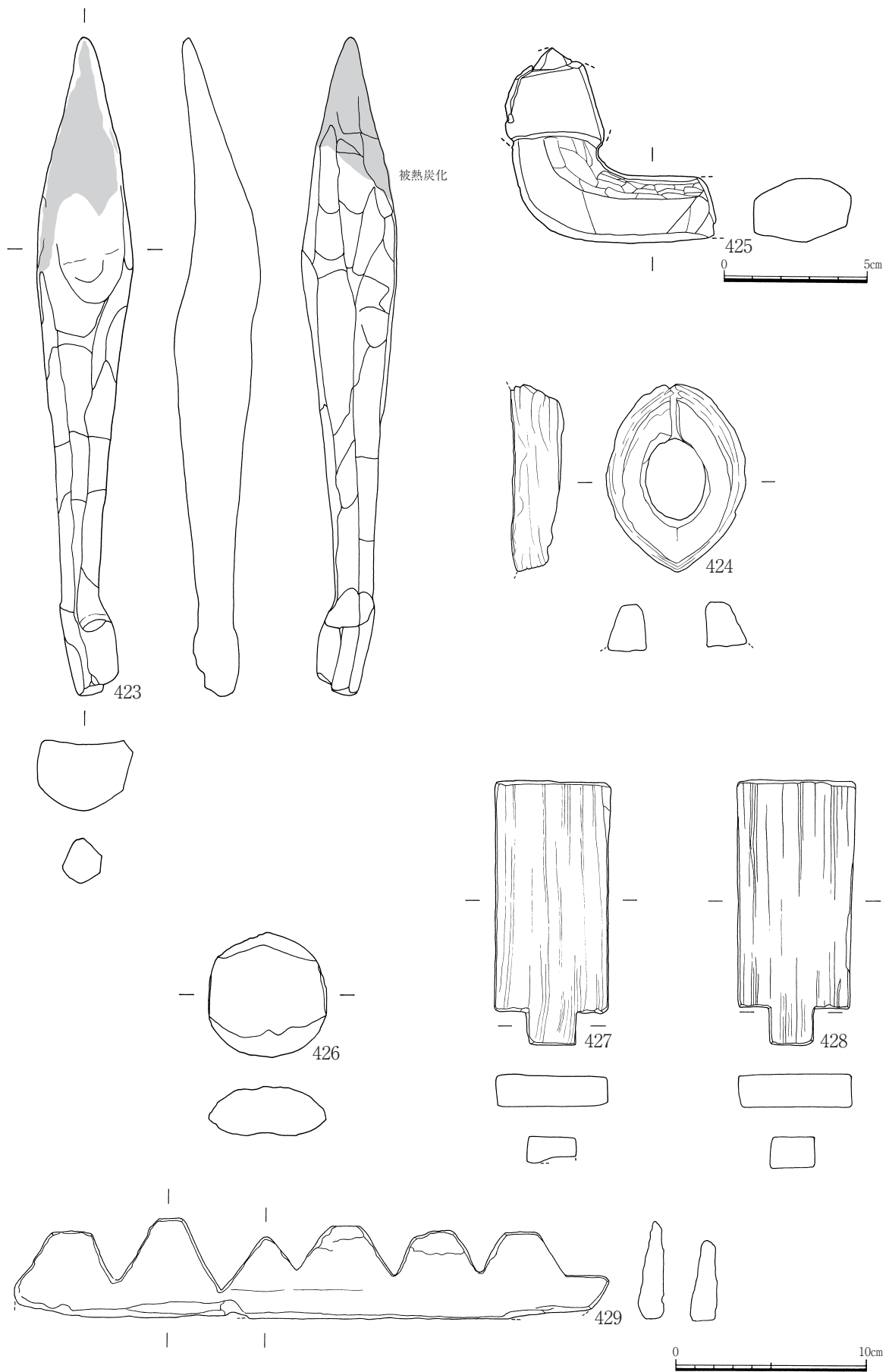


Fig.147 4 B区出土遺物49 III C層群・III D層群 (S : 1/2, 1/3)

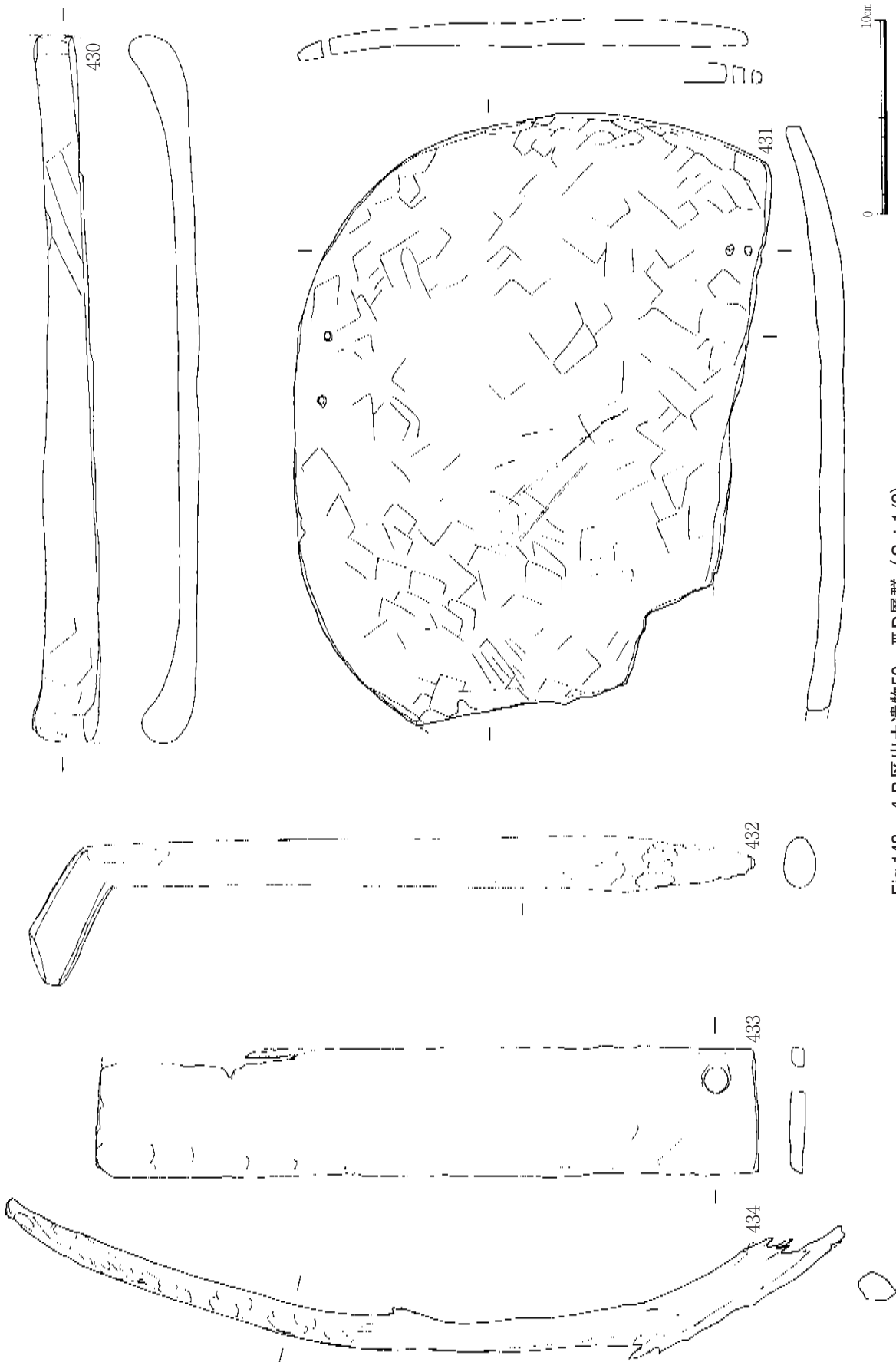


Fig.148 4B区出土遺物50 ⅢD層群 (S : 1/3)

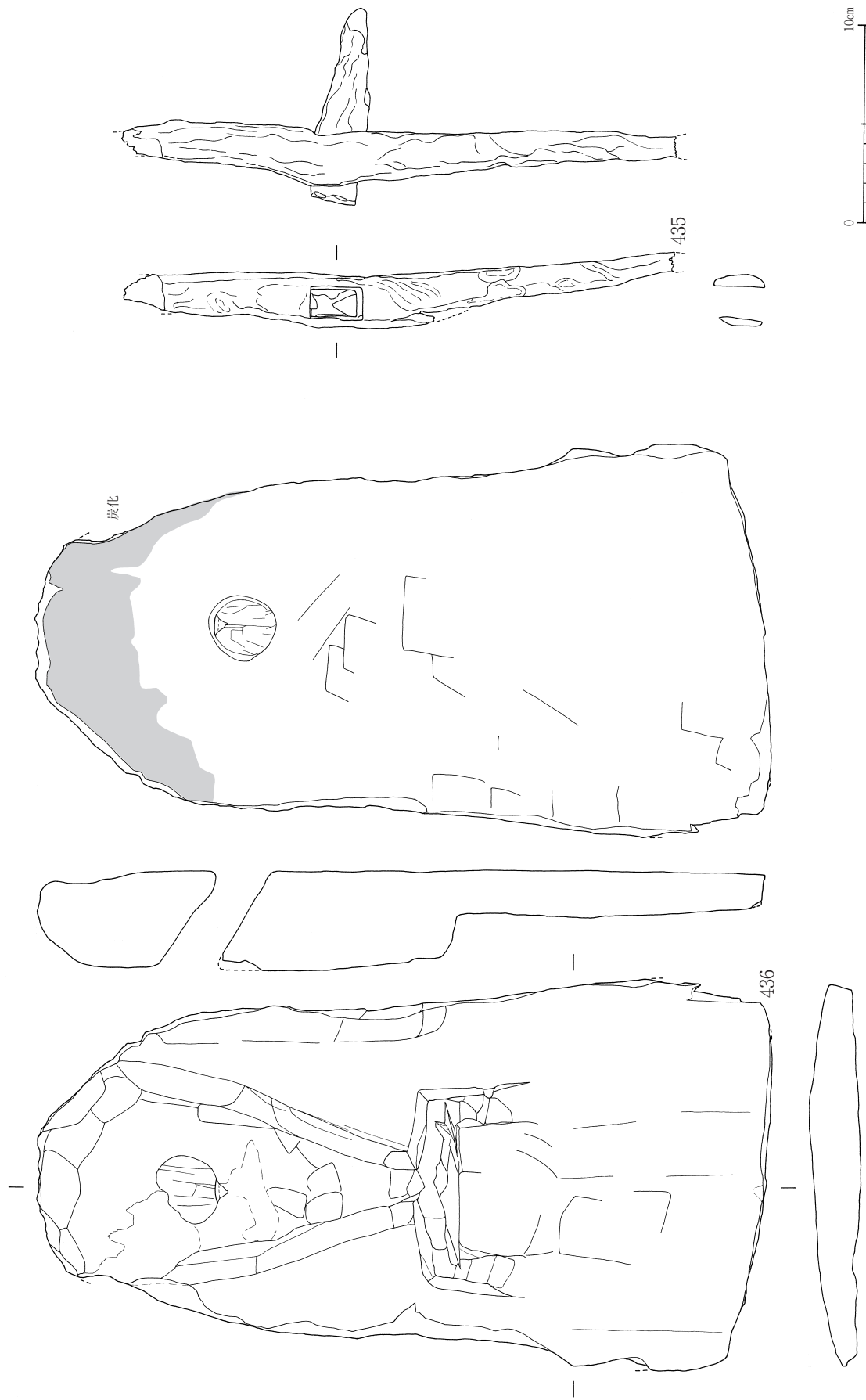


Fig.149 4 B区出土遺物51 ⅢD層群 (S : 1/3)

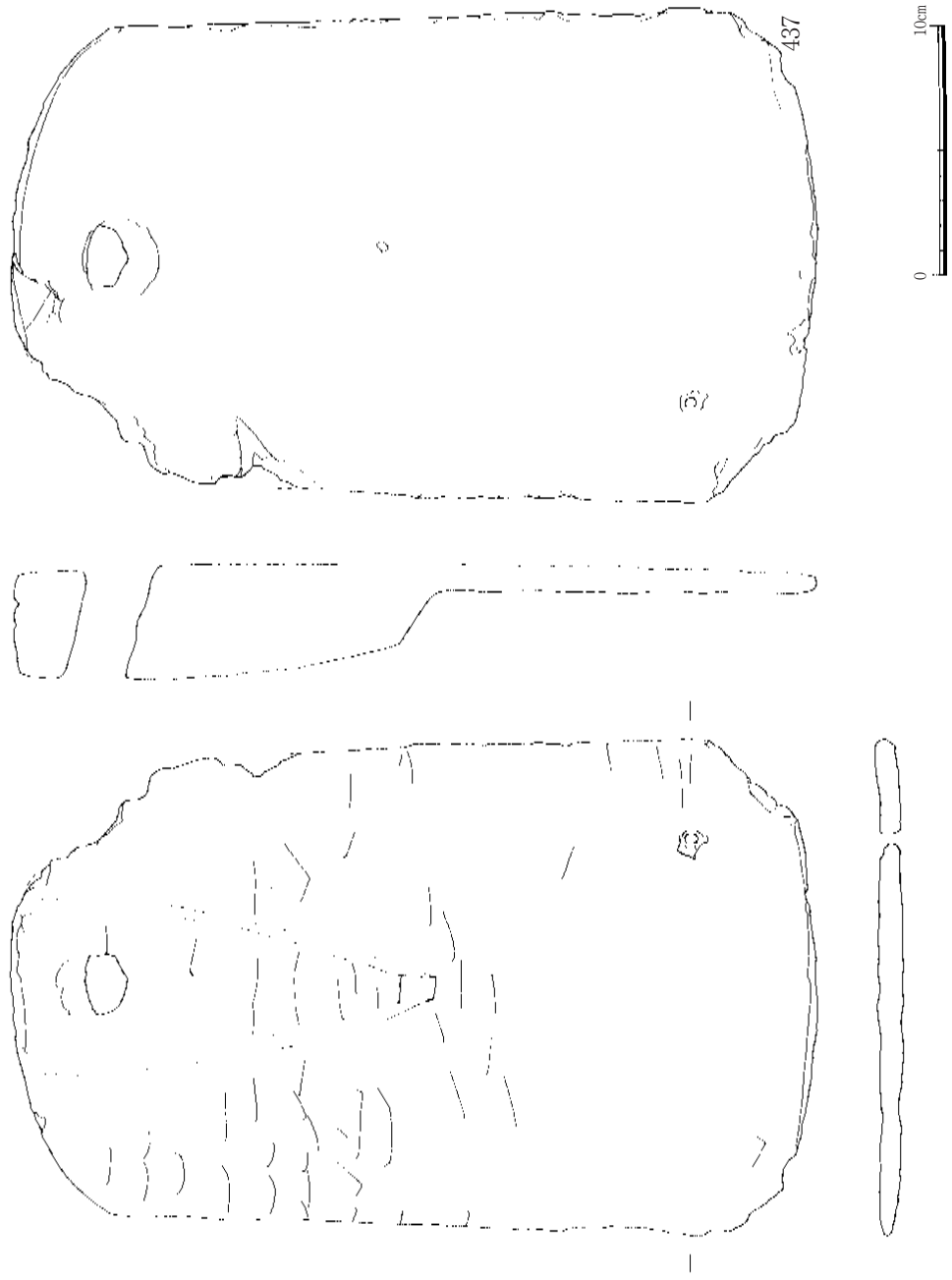


Fig.150 4B区出土遺物52 ⅢD層群 (S : 1/3)

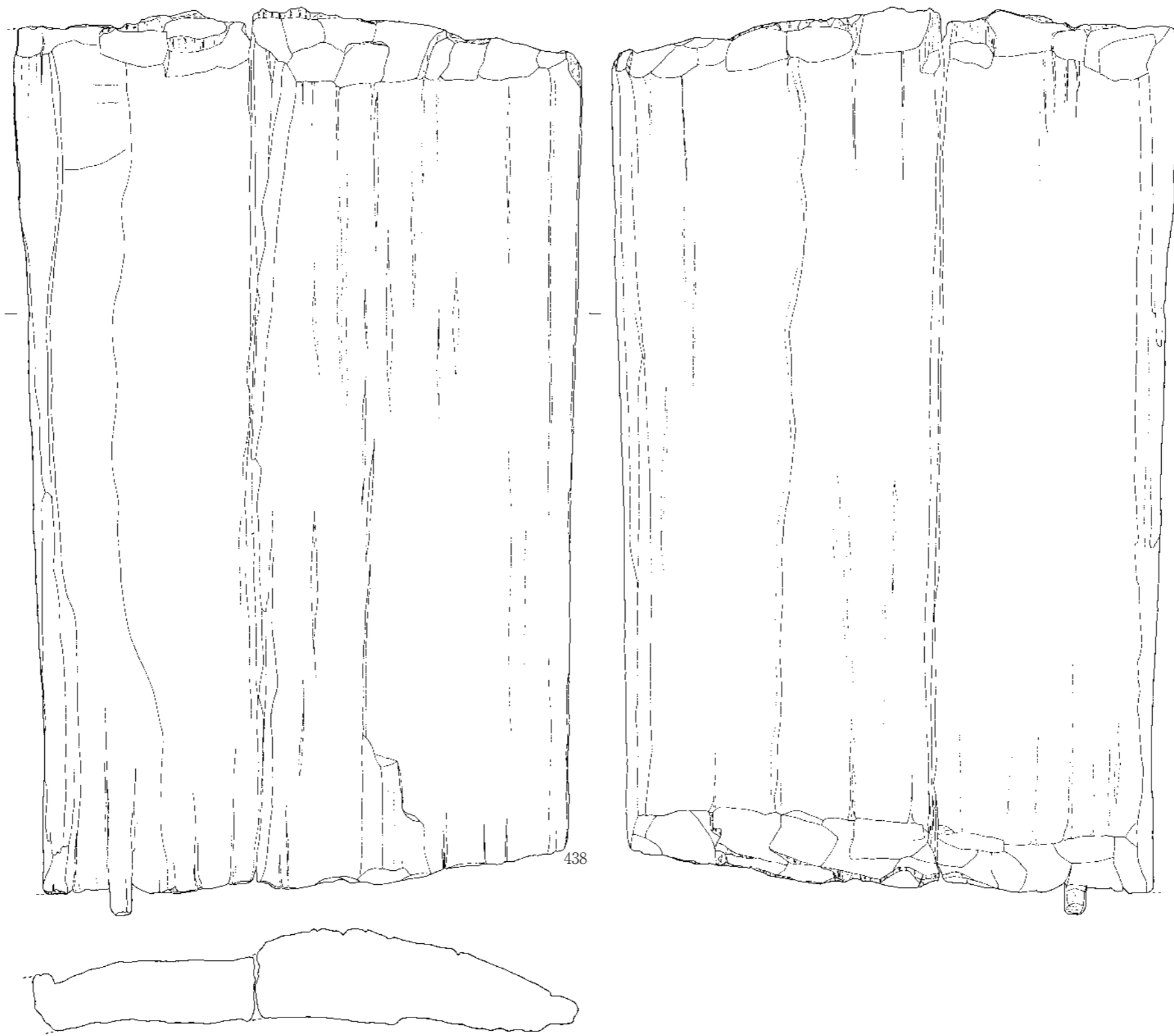


Fig.151 4 B区出土遺物53 ⅢD層群 (S : 1/3)

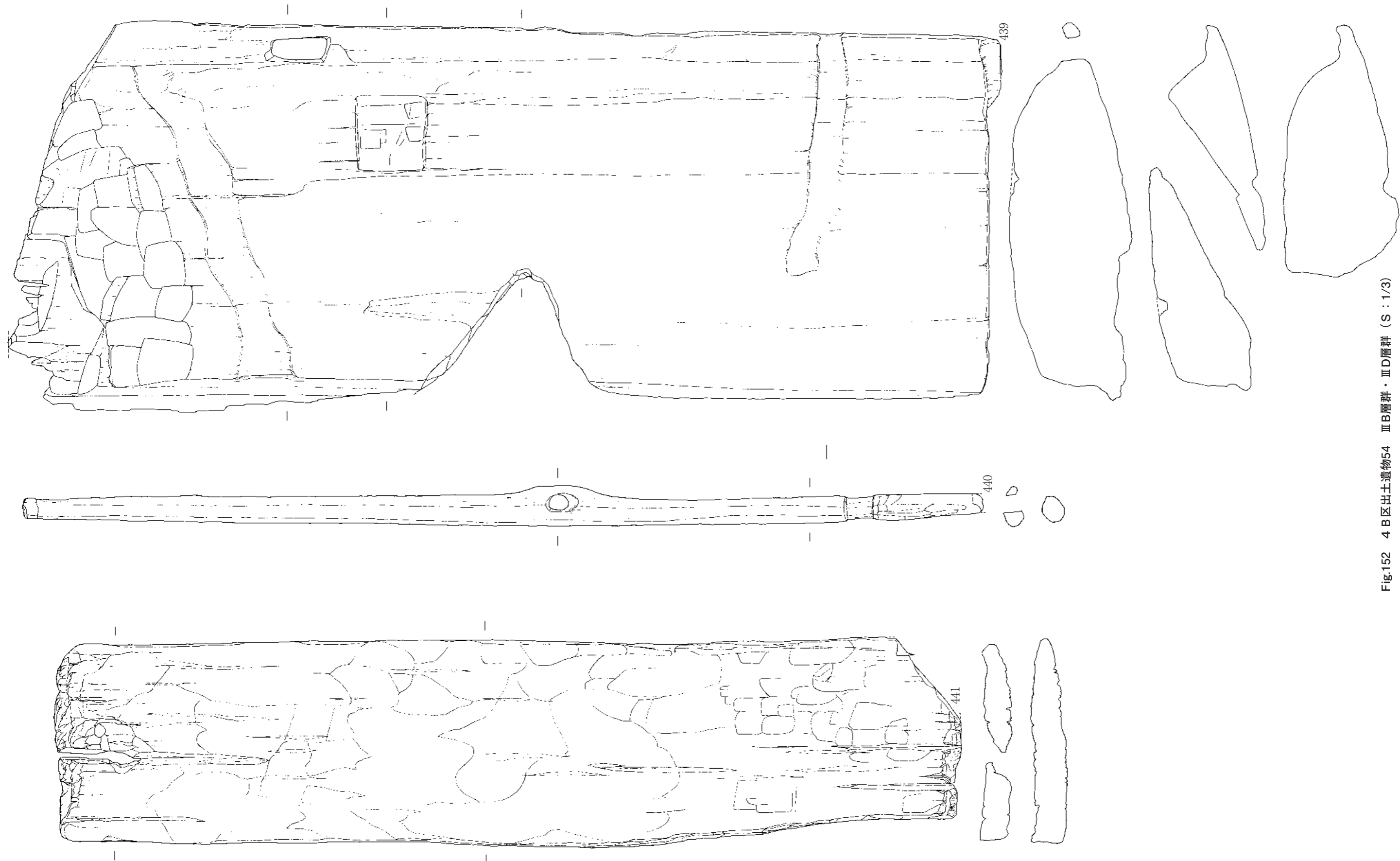


Fig.152 4 B 区出土遺物54 ⅢB層群・ⅢD層群 (S : 1/3)

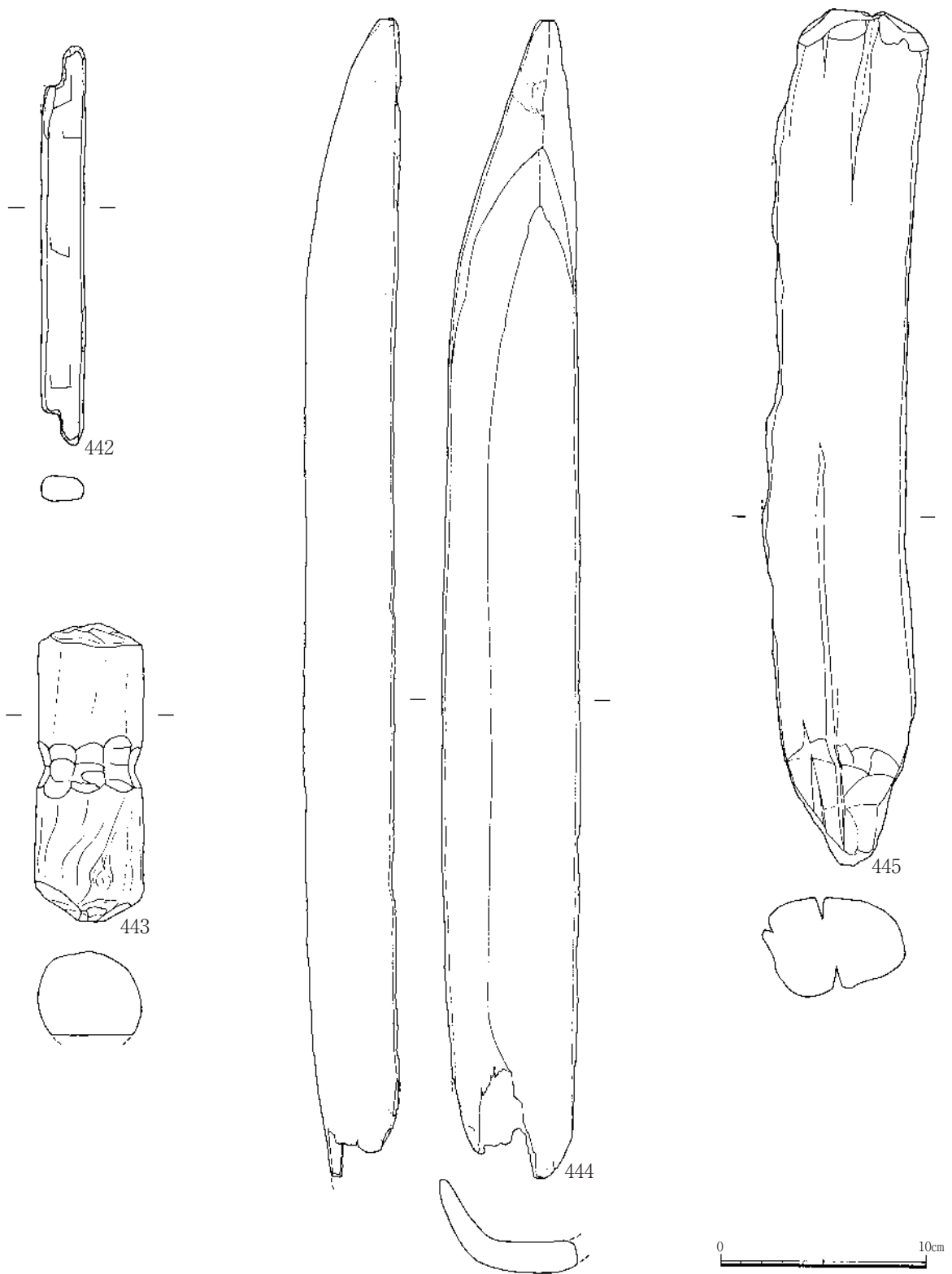


Fig.153 4 B区出土遺物55 ⅢB層群 (S : 1/3)

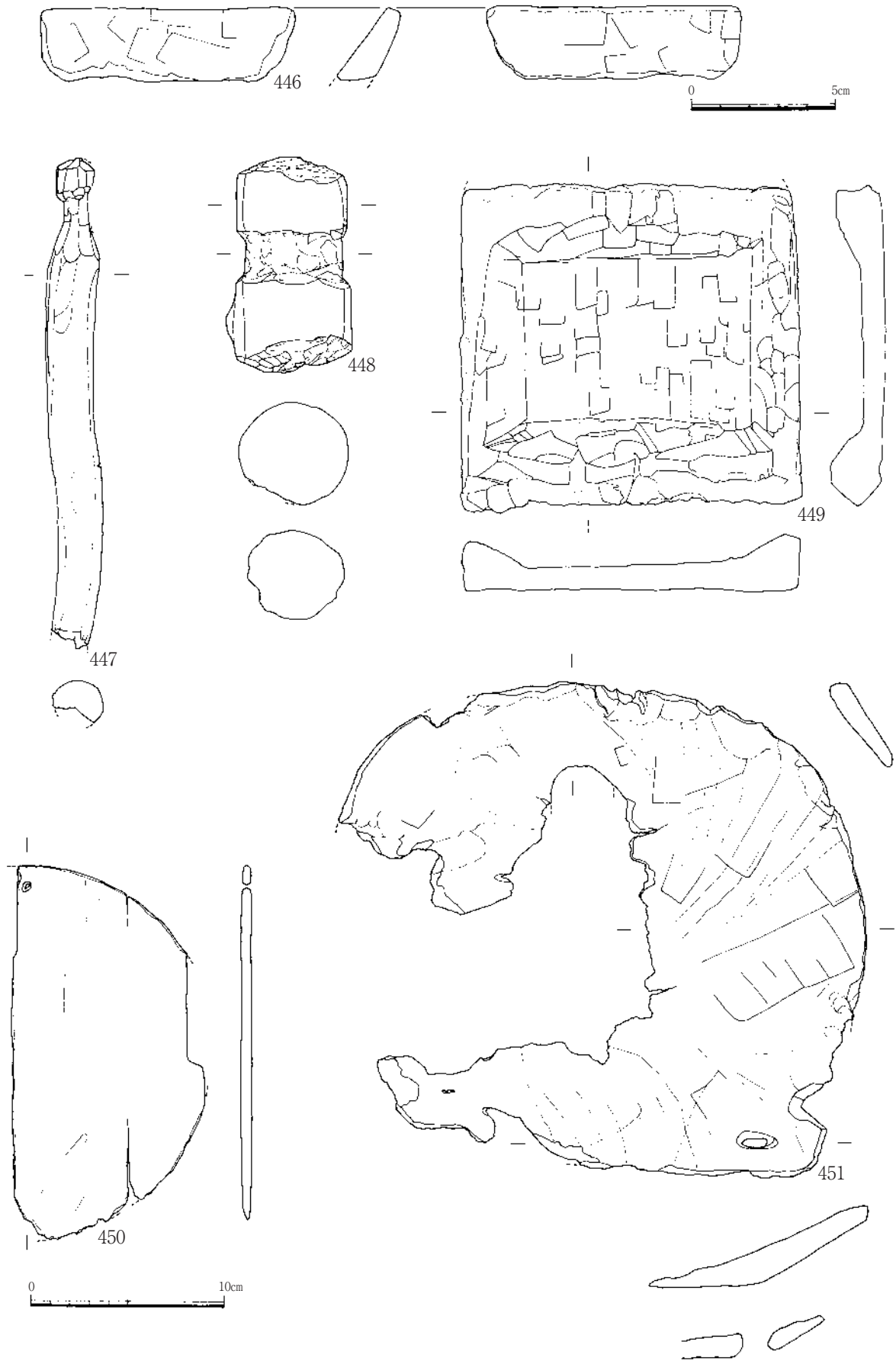


Fig.154 4 B区出土遺物56 III B層群 (S : 1/2, 1/3)

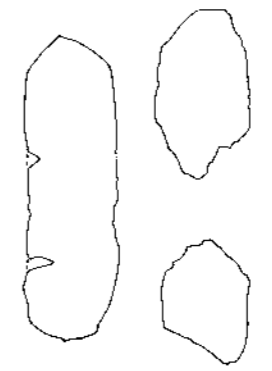
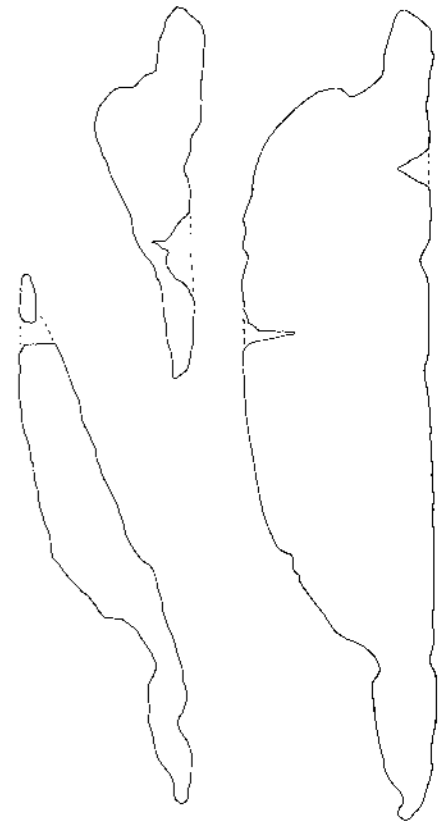
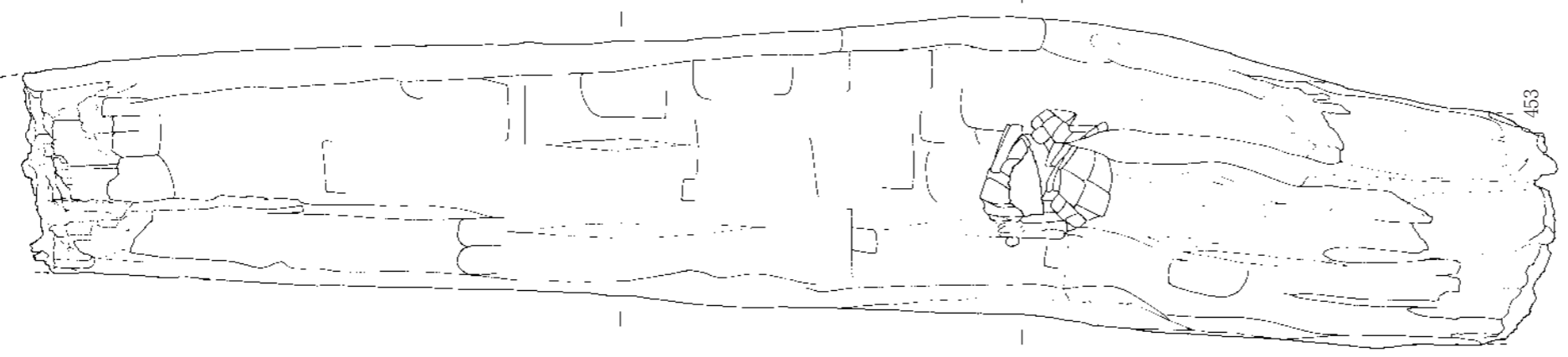
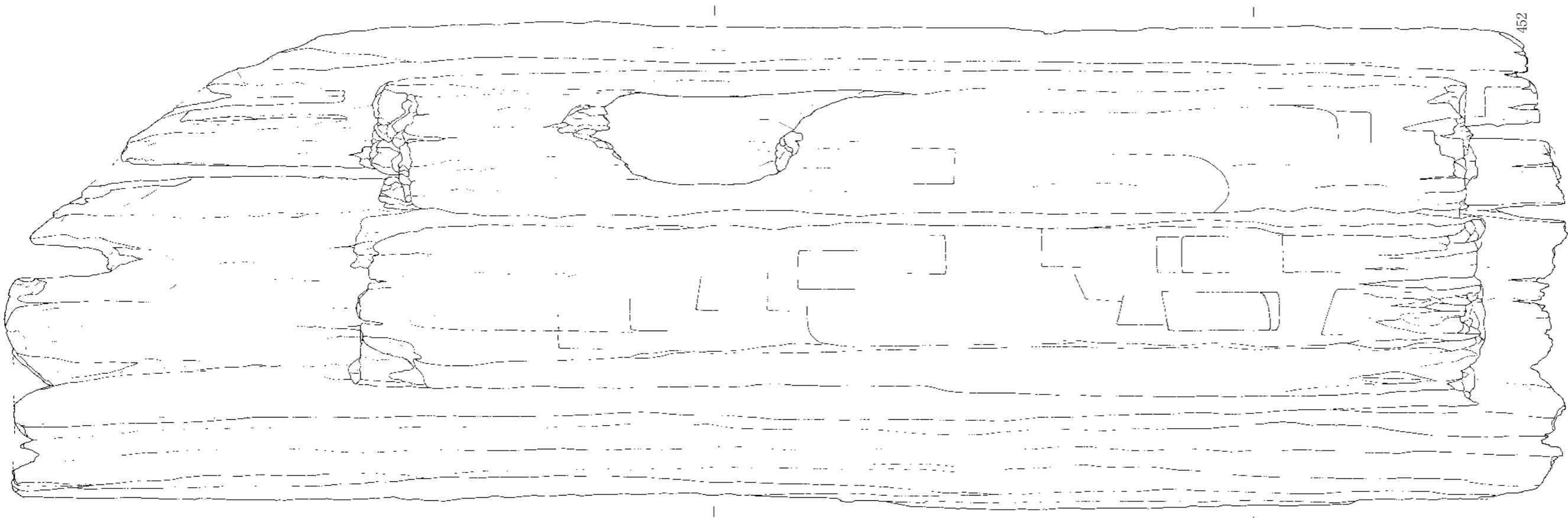


Fig.155 4B区出土遺物57 ⅢB層群 (S : 1/3)

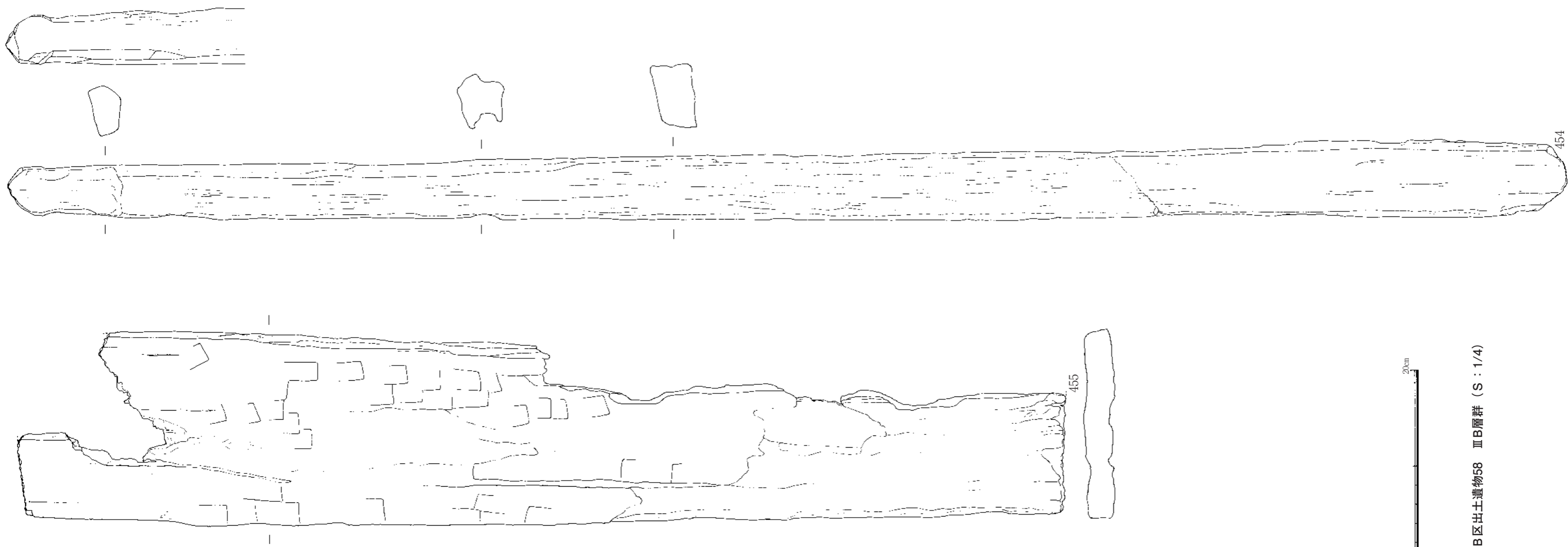


Fig.156 4B区出土遺物58 ⅢB層群 (S : 1/4)

表38 4 B区遺物観察表 1

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 グリッド	器種 層	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考	
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土		
99	1	—	ⅢE	縄文土器	浅鉢?	口縁?	全長 4.0	全厚 0.8	—	—	縁帯文系土器?	灰白 10YR8/1	灰白 10YR8/1	灰白 10YR7/1	
99	2	J6-25	ⅢE	縄文土器	浅鉢	口縁	—	(3.7)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は平らな面を成す。	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 N5/	
99	3	J6-25	ⅢE	縄文土器	浅鉢	口縁	—	(2.1)	—	—	口縁は緩く外反して外斜方に立上がる。口唇は外傾する平らな面を成す。	灰黄 25Y7/2	黄褐 25Y5/3	灰黄 25Y6/2	
99	4	—	ⅢE	縄文土器	深鉢	体	—	(4.6)	—	—	屈曲後内傾する。	灰黄 25Y7/2	灰白 5Y7/1	灰 10Y4/1	
99	5	J7-5	ⅢE	縄文土器	深鉢	口縁	—	(3.7)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修め外側にやや肥厚する。内傾接合。外面口縁一部に煤付着。	にぶい褐 7.5YR5/4	灰黄褐 10YR4/2	灰 5Y4/1	
99	6	J6-25	ⅢE	縄文土器	深鉢	口縁	—	(4.1)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は面を成す。外面口縁に煤付着。	灰黄 25Y6/2	灰 5Y4/1	灰 5Y5/1	
99	7	—	ⅢE	縄文土器	深鉢	口縁	—	(3.6)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。内傾接合。	にぶい黄橙 10YR7/2	灰 5Y4/1	灰 5Y5/1	
99	8	—	ⅢE	縄文土器	浅鉢	底	—	(2.1)	—	7.0	底部は凹面を成す。内外面底部一部に煤付着。	にぶい赤褐 5YR5/4	明赤褐 5YR5/6	褐灰 10YR4/1	
100	9	—	ⅢC	縄文土器	浅鉢	口縁	—	(3.4)	—	—	口縁は短く外反して外斜方に立上がる。口唇は外傾する面を成す。内傾接合。	オリーブ黒 5Y3/1	暗灰黄 25Y5/2	黄灰 25Y4/1	
100	10	K5-19	ⅢC	縄文土器	浅鉢	口縁	—	(3.5)	—	—	口縁は内彎気味に外上方に立上がる。口唇は丸く修める。	褐灰 10YR4/1	褐灰 10YR4/1	灰黄褐 10YR6/2	
100	11	K5-22	ⅢC-0	縄文土器	浅鉢	口縁	—	(4.9)	—	—	口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成す。外面部分的に煤付着。胎土中に雲母粒。	黒褐 25Y3/2	黒褐 10YR3/1	黒褐 10YR3/1	
100	12	K6-2	ⅢC-1	縄文土器	浅鉢	体	—	(3.5)	—	—	体部上位の接合部で屈曲する。外面体部に煤付着。	黒褐 10YR3/1	25Y4/1	黒 25Y2/1	
100	13	K6-4	ⅢC-1	縄文土器	浅鉢	体	—	(5.0)	—	—	体部の接合部で屈曲する。沈線状の段部を持つ。内外面体部部分的に煤付着。	褐灰 10YR4/1	にぶい黄橙 10YR6/3	黄灰 25Y4/1	
100	14	K6-3	ⅢC-1	弥生土器	壺	胴	—	(5.3)	—	—	頸部は内傾し緩く外反して内上方に立上がる。	灰 7.5Y4/1	灰黄 25Y6/2	にぶい黄橙 10YR7/2	
100	15	K6-9	ⅢC-1	弥生土器	壺	胴	—	(3.1)	—	—		黄灰 25Y4/1	黒褐 25Y3/1	にぶい橙 7.5Y7/4	
100	16	K5-23	ⅢC	弥生土器	壺	胴	—	(2.8)	—	—		灰黄褐 10YR6/2	灰白 25Y8/2	灰黄 25Y7/2	
100	17	K6-2	ⅢC	弥生土器	壺	胴	—	(4.4)	—	—		黄灰 25Y4/1	黄褐 25Y5/3	灰黄 25Y6/2	弥生前期
100	18	—	ⅢC-2	弥生土器	壺	胴	—	(4.0)	—	—		オリーブ黒 5Y3/1	オリーブ黒 5Y3/1	にぶい橙 7.5YR7/3	
100	19	—	ⅢC-1	弥生土器	壺	胴	—	(2.9)	—	—		灰黄褐 10YR4/2	黒 N2/	暗灰黄 25Y5/2	
100	20	K5-21	ⅢC	弥生土器	壺	胴	—	(3.6)	—	—		灰白 5Y7/2	灰黄 25YR7/2	橙 5YR6/6	
100	21	K5-18	ⅢC-0	弥生土器	壺	胴	—	(3.2)	—	—		灰白 25Y7/1	にぶい黄橙 10YR7/2	褐灰 10YR4/1	
100	22	K5-21	ⅢC	弥生土器	壺	胴	—	(3.5)	—	—		にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい橙 5YR6/4	橙 5YR6/4	
100	23	K5-21	ⅢC	弥生土器	壺	胴	—	(3.1)	—	—		灰白 25Y8/1	灰白 25Y7/1	灰白 25Y8/2	弥生前期
100	24	L6-1	ⅢC	弥生土器	壺	胴	—	(4.1)	—	—		にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい橙 7.5YR7/4	
100	25	K6-9	ⅢC-1	弥生土器	壺	胴	—	(4.4)	—	—		灰 5Y4/1	灰黄褐 10YR4/2	にぶい橙 7.5YR7/4	
100	26	K5-22	ⅢC	弥生土器	壺	胴	—	(3.4)	—	—		黄灰 25Y4/1	オリーブ黒 5Y3/1	にぶい橙 7.5YR7/3	弥生前期
100	27	K6-10	ⅢC	弥生土器	壺	胴	—	(4.8)	—	—	外面胴部に煤付着。	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR5/2	灰黄褐 10YR6/2	
100	28	K6-10	ⅢC	弥生土器	壺	頸	—	(3.7)	—	—	口頸部は緩く外反して内上方に立上がる。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 5Y5/1	
100	29	K5-23	ⅢC	弥生土器	壺	胴	—	(4.6)	—	—		オリーブ黒 5Y3/1	黒褐 10YR3/1	灰 5Y5/1	
100	30	K5-19	ⅢC	弥生土器	壺	胴	—	(4.5)	—	—		灰 5Y5/1	灰 5Y6/1	灰 N4/	
101	31	K5-21	ⅢC-0	弥生土器	壺	口縁	—	(4.2)	—	—	口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。	灰黄 25Y6/2	灰黄 25Y6/2	灰 5Y5/1	弥生前期末

表39 4 B区遺物観察表2

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 グリッド	器種 層	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
101	32	—	ⅢC	弥生土器	壺	頸	—	(5.2)	—	—	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	
102	33	K5-24	ⅢC	縄文土器	深鉢	口縁	—	(3.9)	—	—	黄褐 2.5Y5/3	灰黄褐 10YR5/2	灰 5Y4/1	
102	34	—	ⅢC-1	縄文土器?	深鉢	口縁	—	(2.9)	—	—	褐灰 10YR4/1	暗灰 N3/	黄灰 2.5Y5/1	
102	35	K5-19	ⅢC	縄文土器	深鉢	口縁	—	(3.2)	—	—	灰 N5/	灰 7.5Y6/1	灰 7.5Y4/1	
102	36	K5-23	ⅢC-0	縄文土器?	深鉢	口縁	—	(2.9)	—	—	灰 7.5Y6/1	灰黄 2.5Y6/2	灰 5Y5/1	
102	37	K5-17	ⅢC	縄文土器	深鉢	口縁	—	(3.2)	—	—	灰 5Y4/1	灰黄 2.5Y6/2	灰 7.5Y5/1	
102	38	K5-23	ⅢC	縄文土器	深鉢	口縁	—	(3.6)	—	—	にぶい黄 2.5Y6/3	灰黄 2.5Y6/2	灰 5Y6/1	
102	39	K5-23	ⅢC-1	縄文土器	深鉢	口縁	—	(3.6)	—	—	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 5Y6/1	灰 5Y4/1	
102	40	K5-24	ⅢC	縄文土器	深鉢	口縁	—	(2.9)	—	—	灰 10Y6/1	灰 N4/	灰 5Y5/1	
102	41	K5-17	ⅢC	縄文土器	深鉢	口縁	—	(4.8)	—	—	灰 10Y6/1	灰 5Y6/1	灰 5Y6/1	
102	42	K5-22	ⅢC	縄文土器	深鉢	口縁	—	(6.1)	—	—	灰 5Y4/1	黄灰 2.5Y4/1	褐灰 10YR4/1	
102	43	K6-4	ⅢC	縄文土器	深鉢	口縁	—	(4.2)	—	—	暗灰黄 2.5Y5/2	灰黄 2.5Y6/2	灰黄 2.5Y6/2	
102	44	K5-22	ⅢC	縄文土器	深鉢	口縁	—	(6.2)	—	—	灰 5Y6/1	灰黄褐 10YR6/2	黄灰 2.5Y5/1	
102	45	K5-23	ⅢC-0	縄文土器?	深鉢	口縁	—	(4.3)	—	—	灰 N5/	橙 5YR6/6	灰 N5/	
102	46	K5-21	ⅢC	縄文土器	深鉢	口縁	—	(3.0)	—	—	灰 5Y5/1	灰 7.5Y5/1	灰 10Y4/1	
102	47	K5-17	ⅢC	縄文土器	深鉢	口縁	—	(3.4)	—	—	暗灰 N3/	灰 N6/	灰 N5/	
102	48	K6-8	ⅢC-1	縄文土器	深鉢	口縁	—	(5.2)	—	—	灰 5Y6/1	灰黄 2.5Y6/2	灰 N5/	
102	49	K5-21	ⅢC	縄文土器?	深鉢	口縁	—	(4.9)	—	—	暗灰 N3/	灰白 N7/	灰 N5/	
102	50	—	ⅢC-1	縄文土器	深鉢	口縁	—	(3.1)	—	—	灰 N4/	灰 7.5Y4/1	灰 10Y5/1	
103	51	K6-3	ⅢC-1	縄文土器	深鉢	口縁	—	(4.9)	—	—	黒 5Y2/1	黒 7.5Y2/1	灰 5Y4/1	
103	52	K6-2	ⅢC-1	縄文土器	深鉢	口縁	—	(2.1)	—	—	灰オリーブ 5Y4/2	灰 5Y6/1	灰黄 2.5Y6/2	
103	53	K6-3	ⅢC-1	縄文土器	深鉢	口縁	—	(2.8)	—	—	黄灰 2.5Y5/1	黄灰 2.5Y6/1	黄灰 2.5Y6/1	
103	54	K5-19	ⅢC-0	縄文土器?	深鉢	口縁	—	(1.8)	—	—	にぶい橙 10YR7/3	にぶい橙 10YR7/3	灰 5Y4/1	
103	55	K6-15	ⅢC-1	縄文土器	深鉢	口縁	—	(4.1)	—	—	褐灰 10YR4/1	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	
103	56	K6-9	ⅢC-1	縄文土器	深鉢	口縁	—	(3.1)	—	—	暗黄灰 2.5Y5/2	灰白 N4/	黄灰 2.5Y6/1	

表40 4 B区遺物観察表3

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 グリッド	層	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
							口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
103	57	K6-3	ⅢC	縄文土器	深鉢	口縁	—	(3.2)	—	—	口縁は緩く外反して内上方に立上がる。口唇は面を成す。	灰 N4/	灰白 2.5Y7/1	灰 7.5Y4/1	
103	58	K5-21	ⅢC	弥生土器	甕	口縁	—	(3.5)	—	—	口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は丸味を持った外傾する面を成す。外面口縁に煤附着。	にぶい黄橙 10YR7/2	灰黄褐 10YR4/2	灰白 10YR8/2	弥生前期
103	59	L5-20	ⅢC	縄文土器	深鉢	口縁	—	(5.0)	—	—	口縁は緩く外反して外上方へ立上がる。口唇は丸味を持った面を成す。内面口縁と外面口縁一部に煤附着。	黄灰 2.5Y4/1	褐灰 10YR4/1	灰白 2.5Y7/1	
103	60	K6-10	ⅢC-1	縄文土器	深鉢	口縁	—	(3.4)	—	—	波状口縁？口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。波頂部にかけては外側に肥厚する。外面口縁に煤附着。	褐灰 10YR6/1	褐灰 10YR4/1	黄灰 2.5Y5/1	
103	61	K5-19	ⅢC-0	縄文土器	深鉢	口縁	—	(3.0)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は内傾する面を成す。	灰白 5Y7/1	灰白 2.5Y8/1	灰 5Y4/1	
103	62	K6-3	ⅢC-1	弥生土器	甕	口縁	—	(4.8)	—	—	口縁は緩く外反して外斜上方に立上がる。口唇は丸味を持った面、又は丸く修める。外面口縁に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	褐灰 10YR4/1	灰白 10YR8/2	弥生前期
103	63	K5-19	ⅢC-0	弥生土器	甕	口縁	—	(3.0)	—	—	口縁は外反して外斜上方に立上がる。口唇は外傾する丸味を持った面を成し、外側にやや肥厚する。	にぶい黄橙 10YR7/2	灰白 2.5Y8/1	にぶい黄橙 10YR1/2	
103	64	K5-24	ⅢC	弥生土器	甕	口縁	—	(1.9)	—	—	口縁は外反して外斜上方に立上がる。口唇は丸味を持った外傾する面を成す。	にぶい黄橙 10YR6/3	灰白 2.5Y8/2	灰白 2.5Y8/2	弥生前期
103	65	K5-21	ⅢC	弥生土器	甕	口縁	—	(5.7)	—	—	口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する中央の窪んだ面を成し、外側にやや肥厚する。	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	灰白 10YR8/2	弥生前期
103	66	K5-17	ⅢC	縄文土器?	深鉢	体	—	(3.1)	—	—		灰 N4/	灰 7.5Y6/1	灰黄 2.5Y6/2	
103	67	K5-23	ⅢC	縄文土器	深鉢	体	—	(3.4)	—	—		黒褐 2.5Y3/1	オリーブ黒 5Y3/1	灰白 2.5Y7/1	
103	68	J5-25	ⅢC	縄文土器	深鉢	体	—	(4.0)	—	—	外面胴部部分的に煤附着。	黒 2.5Y2/1	褐灰 10YR4/1	黄灰 2.5Y5/1	
103	69	K5-19	ⅢC	縄文土器?	深鉢	体	—	(4.3)	—	—		灰黄 2.5Y6/2	明褐灰 7.5YR7/2	灰 10Y5/1	
103	70	K6-19	ⅢC	縄文土器	深鉢	底	—	(12.8)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。内外面部分的に煤附着。	黒褐 10YR4/1	灰黄褐 10YR6/2	灰黄 2.5Y7/2	
104	71	K5-20	ⅢB-3・ⅢC	弥生土器	壺	口縁	—	(4.5)	—	—	口縁は外反のち直線的に外上方に立上がる。外側に粘土帯を貼付？しやや肥厚する。口唇は外傾する面を成す。	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 7.5Y6/1	弥生後期
104	72	K5-24	ⅢC	弥生土器	壺	胴	—	(4.7)	—	—		青灰 5B5/1	灰 N6/	灰 N5/	
104	73	K6-4	ⅢC	弥生土器	壺	口縁	—	(4.1)	—	—	口縁は外反して外斜上方に立上がる。外側に粘土帯を貼付し肥厚する。口唇は外傾する平らな面を成す。	黄灰 2.5Y6/1	灰白 2.5Y7/1	灰 7.5Y5/1	弥生後期
104	74	K5-20	ⅢC・ⅢD	弥生土器	壺	口縁	13.6	(12.5)	—	—	口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は丸く修め外側に粘土帯を貼付し肥厚する。頸部は緩く曲がる。	灰黄褐 10YR6/2	黄灰 2.5Y4/1	灰 N4/	弥生中期
104	75	K5-21	ⅢC	弥生土器	甕	口縁	—	(4.8)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。外側に粘土帯を貼付し、断面垂下三角形に肥厚する。口唇は丸く修める。	褐灰 10YR4/1	黒褐 2.5Y3/1	黒 2.5Y2/1	
104	76	K6-9	ⅢC	弥生土器	甕	口縁	—	(4.4)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。外側に粘土帯を貼付し肥厚する。口唇は平らな面を成す。内外面口唇一部に煤附着。	黄灰 2.5Y5/1	黄灰 2.5Y4/1	暗灰 N3/	弥生後期？
104	77	K6-2	ⅢC	弥生土器	壺	口縁	—	(3.3)	—	—	口縁は外反して外斜上方に立上がる。口唇外側に粘土帯を貼付し肥厚する。口唇は外傾する面を成す。	灰 5Y5/1	黄灰 2.5Y5/1	灰 10Y5/1	弥生後期
104	78	K5-24	ⅢC	弥生土器	壺	口縁	—	(3.1)	—	—	口縁は外反して外斜上方に立上がる。口唇は尖り気味に修める。口唇外に粘土帯を貼付し肥厚する。	灰 7.5Y6/1	にぶい橙 7.5Y6/4	灰 10Y5/1	弥生中期～後期？
104	79	K5-22	ⅢC	弥生土器	甕	口縁	14.2	(4.0)	—	—	口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成す。	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/4	灰 N5/	弥生中期～後期

表41 4 B区遺物観察表4

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 グリッド	器種 層	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
104	80	K5-16・17・21・22	ⅢB-3・ⅢC・ⅢD	土師器	甕	—	(17.8)	17.6	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する丸味を持った面を成し外側に肥厚する。頸部屈曲はやや急。外面胴部中・下位帯状に煤附着。	灰黄 2.5Y6/2	灰黄褐 10YR6/2	オリープ黒 10Y3/1	
104	81	K5-21・K6-4	ⅢB-3・ⅢC・ⅢD	土師器	甕	14.9	20.5	16.5	3.4	口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は外傾する丸味を持った面乃至丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部は長胴形。底部は狭い面を成す。内面底部・口縁の一部と外面胴部中位・口縁の部分的に煤附着。	にぶい橙 7.5YR6/4	灰黄褐 10YR6/2	灰 10Y5/1	
104	82	K5-16・20・21	ⅢC・ⅢD	土師器	甕	12.9	(15.3)	15.7	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修め、外側にやや肥厚する。頸部屈曲はやや急。外面胴部中位帯状・口縁一部に煤附着。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい橙 5YR6/4	灰 5Y4/1	
105	83	K5-19	ⅢC	縄文土器	深鉢	—	(6.0)	—	—	内傾接合。	黄灰 2.5Y4/1	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 5Y4/1	
105	84	—	ⅢC	縄文土器	深鉢	全長 6.6	全厚 1.0	—	—	内面胴部厚く炭化物が附着。	オリープ黒 5Y3/1	灰 5Y4/1	暗灰黄 2.5Y5/2	
105	85	K6-2	ⅢC	縄文土器	深鉢	—	(7.7)	—	—	外面胴部に煤附着。	暗灰黄 2.5Y5/2	灰黄 2.5Y6/2	黄灰 2.5Y5/1	
105	86	K6-19	ⅢC	縄文土器	深鉢	底	(4.0)	—	—	平底。内傾接合。	明褐 7.5YR5/6	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄橙 10YR6/3	
106	87	L5-11・20	ⅢB-3・ⅢD	弥生土器	壺	口縁	9.0	(10.2)	—	口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は尖り気味に修める。口縁外側に粘土帯を貼付し肥厚する。	灰黄 2.5Y6/2	灰黄褐 10YR6/2	灰 7.5Y4/1	
106	88	K5-18	ⅢB-3・ⅢD	弥生土器	壺	口縁	15.7	(6.4)	—	口縁は緩やかに外反し外上方に立上がる。口縁は粘土帯貼付により外側に肥厚する。口唇は平らな面を成す。	灰黄 2.5Y6/2	にぶい黄橙 10YR7/2	灰 N4/	弥生中期 ～後期
106	89	K5-23	ⅢD-3	弥生土器	甕	口縁	—	(7.7)	—	口縁は外反して外上方に立上がる。口唇下は外側に肥厚し、外傾する面を成す。外面口縁に煤附着。	暗灰黄 2.5Y5/2	灰黄 2.5Y6/2	暗灰 N3/	
106	90	K5-20	ⅢD	弥生土器	壺	口縁	9.7	(9.9)	—	口縁は緩く外反して外上方へ向い、屈曲後内上方に立上がる。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい褐 7.5YR5/3	灰 7.5Y5/1	弥生後期
106	91	K5-19	ⅢD	弥生土器	壺	口縁	32.0	(4.2)	—	口縁は外反して外斜方に立上がる。口唇は外傾する広い面を成す。口唇下外面に粘土帯を貼付し肥厚する。	灰白 5Y7/2	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 N4/	
106	92	K5-20	ⅢD	弥生土器	壺	口縁	21.4	(8.2)	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は中央の窪んだ外傾する面を成す。頸部は緩く曲がる。	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/4	灰 5Y5/1	
106	93	K5-22	ⅢD	弥生土器	壺?	口縁	—	(3.6)	—	口縁は粘土帯の貼付により外側に大きく肥厚する。口唇は直立する緩い凸面を成す。	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 10Y5/1	灰 N5/1	
106	94	K5-14	ⅢD	弥生土器	甕	—	(2.4)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は粘土帯貼付により外側に肥厚し、外傾する面を成す。	灰黄 2.5Y7/2	にぶい橙 7.5YR6/4	オリープ黒 7.5Y3/1	
106	95	L6-2	ⅢD	弥生土器	壺	口縁	—	(4.6)	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成す。口縁外側に粘土帯を貼付し肥厚する。	にぶい黄橙 10YR7/3	橙 7.5YR7/6	灰 10Y6/1	
106	96	L5-21	ⅢD	弥生土器	甕	口縁	—	(4.8)	—	口縁は外反して外上方に立上がる。口唇下粘土帯貼付により肥厚する。口唇は外傾する面を成す。外面口縁に煤附着。	灰黄 2.5Y6/2	暗灰 N3/	灰 N4/	
106	97	K5-19	ⅢD	弥生土器	壺	口縁	—	(2.1)	—	口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は細く丸く修める。	淡黄 2.5Y8/3	黄灰 2.5Y4/1	灰 5Y5/1	
106	98	K5-19	ⅢD	弥生土器	甕	口縁	—	(2.5)	—	口縁は外反して外斜方に立上がる。口唇は外傾する狭い面を成す。	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄褐 10YR5/3	灰白 2.5Y7/1	
107	99	K5-15	ⅢD	弥生土器	壺	口縁	13.0	(3.1)	—	口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は粘土帯貼付により外側へ肥厚し、外傾する面を成す。	暗灰黄 2.5Y5/2	暗灰黄 2.5Y5/2	オリープ黒 5Y3/1	
107	100	L6-2	ⅢD	弥生土器	壺	口縁	13.4	(5.6)	—	口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成し外側にやや肥厚する。	灰 5Y6/1	灰黄 2.5Y7/2	灰 N4/	
107	101	L6-2	ⅢD-1	弥生土器	甕	口縁	—	(3.5)	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は尖り気味に丸く修める。口唇下に垂下気味の粘土帯を貼付し肥厚する。	灰黄 2.5Y6/2	灰黄 2.5Y7/2	暗灰 N3/	

表42 4 B区遺物観察表5

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 グリッド	器種 層	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
107	102	L5-22	ⅢD-1	縄文土器	深鉢	体	—	(27)	—	—	灰黄褐 10YR4/2	灰黄褐 10YR6/2	褐灰 10YR5/1	
107	103	K5-15	ⅢD	弥生土器	甕	15.0	(9.6)	16.2	—	口縁は頸部から連続的に外反する。口唇は外傾する面を成すか又は丸く修める。頸部は緩く曲がる。外面胴部上位一部・口縁部分的に煤附着。	灰黄褐 10YR5/2	灰黄褐 10YR5/2	黒褐 2.5Y3/1	弥生中期
107	104	K5-19	ⅢD	弥生土器	壺	—	(27)	—	—	広口壺。	灰黄 2.5Y6/2	にぶい黄 2.5Y6/3	灰 5Y5/1	
107	105	K5-20	ⅢD	弥生土器	壺?	—	(41)	—	—		にぶい黄 2.5Y6/3	にぶい黄 2.5Y6/3	灰 7.5Y5/1	弥生中期?
107	106	K5-21	ⅢD	弥生土器	甕	胴	—	(3.4)	—	—	浅黄橙 10YR8/3	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 5Y6/1	
107	107	K5-21	ⅢD	弥生土器	甕	胴	—	(4.9)	—	—	黄灰 2.5Y5/1	灰黄 2.5Y6/2	灰 N4/	
107	108	K5-14	ⅢD	弥生土器	甕	胴	—	(5.2)	—	—	にぶい黄 2.5Y6/3	灰黄 2.5Y7/2	灰 N4/	
108	109	L6-2	ⅢD	弥生土器	壺	胴	—	(2.6)	—	胎土中に雲母粒を含む。	灰黄 2.5Y6/2	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	
108	110	K5-22	ⅢD	弥生土器	壺	胴	—	(3.0)	—	—	暗 灰N3/	橙 5YR6/6	暗灰 N3/	
108	111	L5-16	ⅢD	弥生土器	壺	胴	—	(2.4)	—	—	にぶい褐 7.5YR5/3	橙 5YR6/6	灰 7.5Y4/1	
108	112	L5-22	ⅢD	弥生土器	壺	胴	—	(4.2)	—	器壁薄。	褐灰 10YR5/1	オリーブ黒 5Y3/1	暗灰 N3/	
108	113	L6-1	ⅢD	縄文土器	深鉢	口縁	—	(5.9)	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は太く丸く修め、一部では内側に肥厚する。	暗灰黄 2.5Y5/2	黄灰 2.5Y6/1	褐灰 10YR4/1	
108	114	K5-21	ⅢD	弥生土器	甕	口縁	19.4	(6.3)	—	口縁は短く外反して外上方に立上がる。口唇は丸味を持った外傾する面を成す。	灰白 2.5Y8/2	灰黄褐 10YR5/2	淡黄 2.5Y8/3	弥生前期
108	115	L6-2	ⅢD	弥生土器	甕	口縁	—	(4.0)	—	口縁は外反して外上方に立上がる。	灰黄 2.5Y6/2	にぶい黄橙 10YR7/3	黒褐 10YR3/1	
108	116	K5-18	ⅢD	縄文土器	深鉢	口縁	—	(5.6)	—	口縁は外反して内上方に立上がる。口唇は丸味を持った面を成す。内面口縁に煤附着。	灰白 10YR8/2	浅黄 2.5Y7/3	黒 7.5Y2/1	
108	117	K5-21	ⅢD	弥生土器	甕	口縁	—	(2.5)	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は細く丸く修める。外面口縁に煤附着。	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 5Y4/1	
108	118	K5-18	ⅢD	縄文土器	深鉢	口縁	—	(2.4)	—	口唇は丸く修め部分的に外側に肥厚する。	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	灰 5Y5/1	
109	119	K5-21	ⅢD	土師器	高坏	13.1	11.5	—	9.7	坏の接合部で屈曲する。口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は細く丸く修める。脚は緩く外反して外下方に弱く広がり、屈曲後裾は内彎気味に開く。端は丸く修める。灰白色系の精製胎土。	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2	灰 N4/	
109	120	K5-17・20	ⅢD	土師器	高坏	12.9	10.8	—	11.0	坏部下位の接合部で明瞭な段を残す。口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。脚は緩く外反して広がり、裾は直線的に開く。端は丸く修める。内外面坏部一部に煤附着。精製胎土。	浅黄橙 7.5YR8/4	橙 5YR7/6	灰 7.5Y4/1	
109	121	K5-21・22	ⅢD	土師器	高坏	14.5	11.7	—	8.8	坏低位の接合部で屈曲する。口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は丸く修め、部分的に丸味を持った面を成す。脚は緩く外反して小さく広がり、裾は外反して大きく開く。端は丸味を持った面を成す。灰～灰白色系の精製胎土。	にぶい黄橙 10YR7/2	淡黄 2.5Y8/3	暗灰 N3/	
109	122	K5-21	ⅢD	土師器	高坏	12.7	11.1	—	10.4	坏部に段を残し屈曲する(接合部)。口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は丸く修める。脚は直線的に下方に広がり、屈曲後直線的に開く。端部は丸く修める。	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	灰 5Y4/1	
109	123	K5-21・22	ⅢD	土師器	高坏	13.7	11.4	—	9.6	坏部で段を有し、緩く曲がる(接合部)。口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。脚は緩く外下方に弱く広がる。屈曲後裾は内彎気味に広がる。端は丸く修め部分的には面を成す。外面口唇下一部に煤附着。精製胎土。	浅黄橙 10YR8/4	にぶい橙 7.5YR7/4	浅黄 2.5Y7/3	

表43 4 B区遺物観察表6

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 Na	出土地点 グリッド	層	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
							口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
109	124	K5-19	ⅢD	土師器	高坏		13.9	17.5	—	10.4	坏で屈曲する。口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は細く丸く修める。脚は直線的に外下方に広がり、屈曲後裾は緩く外反して開く。端は丸く修める。	にぶい褐 7.5YR5/4	橙 5YR6/6	黄灰 2.5Y6/1	
109	125	K5-16・17	ⅢD	土師器	高坏		14.0	12.7	—	10.8	坏の接合部で屈曲する。口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は丸く修める。脚は内彎気味に外下方に弱く広がり、屈曲後裾は外反して開く。端は丸く修める。精製胎土。	にぶい橙 5YR7/3	にぶい橙 5YR7/3	オリープ黒 10Y3/1	
109	126	K5-16	ⅢD	土師器	高坏		14.1	12.3	—	10.5	坏の接合部で屈曲する。口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。脚は直線的に外下方に広がり、弱い屈曲後裾は緩く外反して開く。端は丸く修める。灰白色系の精緻な胎土。	灰黄 2.5Y7/2	淡黄 2.5Y8/3	灰白 5Y7/1	
109	127	K5-13・18	ⅢD	土師器	高坏		14.0	12.1	—	10.5	坏部の屈曲は緩やかで部分的には外側に粘土が盛り上がる。口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。脚は緩やかに外反して小さく広がり、屈曲後裾は直線的に開く。端部は丸く修める。精製胎土。	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	暗灰 N3/	
109	128	L5-16	ⅢD	土師器	高坏		14.5	13.5	—	10.8	口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は丸く修める。坏下位で屈曲する。脚は緩く外反して外下方に開き、弱い屈曲後裾で直線的に広がる。端は丸く修める。胎土精製。	橙 5YR7/6	にぶい橙 5YR7/4	灰 N6/	
109	129	K5-19・20	ⅢD	土師器	高坏		—	(11.7)	—	11.6	脚は長く弱く広がり屈曲後裾で開く。端は丸く修める。精製胎土。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 10YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/3	
109	130	L5-16	ⅢD	土師器	高坏		15.3	13.1	—	10.2	坏部屈曲はやや急。口縁は緩やかに外反し、外上方に立上がる。口唇は丸く修める。脚は直線的に僅かに広がり、屈曲後裾は直線的に開く。端は丸く修める。精製胎土。	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/4	オリープ黒 7.5Y3/1	
110	131	K5-19	ⅢD	土師器	高坏		16.2	12.9	—	11.0	坏部で段を有し屈曲する。口縁は直線的に外斜上方に立上がる。口唇は丸く修める。脚は緩く外反して外下方に弱く広がる。屈曲後裾は直線的に開く。端は細く丸く修める。精製胎土。	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR6/3	浅黄橙 7.5YR8/3	
110	132	L5-16・17	ⅢD	土師器	高坏		16.9	12.9	—	11.0	坏部で段を有し屈曲する。口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。脚は直線的に弱く広がり、裾では外反して開く。端は丸く修める。粗製胎土。	褐灰 10YR6/1	灰黄褐 10YR6/2	灰 N4/	
110	133	L5-22	ⅢD	土師器	高坏		17.8	(11.8)	—	—	坏部の屈曲は緩やか。口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成し外側にやや肥厚する。脚は裾へ向かって連続的に外反する。	にぶい橙 7.5YR7/4	浅黄橙 7.5YR8/4	灰黄 2.5Y7/2	
110	134	K5-19	ⅢD	土師器	高坏		16.8	14.5	—	11.6	口縁は緩く外反して外斜上方に立上がる。口唇は丸く修め外側にやや肥厚する。坏部で屈曲する。脚は内彎して弱く広がり裾では緩く外反して開く。外面裾部一部に煤付着。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	浅黄橙 7.5YR7/4	
110	135	L5-22	ⅢD	土師器	高坏	坏	20.4	(8.6)	—	—	坏の接合部で段を有し、屈曲する。口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。脚上位は中空。精製胎土。	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/3	灰 10Y5/1	
110	136	L5-16	ⅢD	土師器	高坏	坏	17.7	(6.8)	—	—	口縁は緩く外反して外斜上方に立上がる。口唇は丸く修める。坏下位の接合部で屈曲し外側にやや肥厚する。粗製胎土。	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	灰 5Y5/1	
111	137	K5-20	ⅢD	土師器	高坏		14.1	12.4	—	10.8	碗形の坏部。口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は丸味を持った面を成す。脚は裾へ連続的に外反する。端は丸く修める。精製胎土。	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	オリープ黒 10Y3/1	
111	138	K5-20	ⅢB-3・ⅢD	土師器	高坏		14.6	11.7	—	10.9	碗形の坏部。口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇はやや内傾する面を成し外側にやや肥厚する。脚から裾は連続的に外反する。端は尖り気味に丸くおさめる。精製胎土。	にぶい橙 5YR7/4	にぶい橙 5YR7/4	灰 N4/	
111	139	K5-20	ⅢD	土師器	高坏		17.1	13.8	—	11.5	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。脚は直線的に外下方へ広がり裾では外反して開く。端は丸く修める。脚中に透し孔(円φ7~10mm)を1個穿つ。精製胎土。	橙 2.5YR6/8	橙 7.5YR7/6	にぶい黄橙 10YR7/4	
111	140	L5-21・22	ⅢD	土師器	高坏		15.8	12.3	—	15.5	碗形の坏部。口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は丸く修め外側にやや肥厚する。脚は裾へ向かって短く連続的に外反する。端部は丸く修める。内面坏部一部に煤付着。精製胎土。	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR7/6	灰 7.5Y4/1	

表44 4 B区遺物観察表7

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 グリッド	器種 層	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
111	141	L5-21・22	ⅢD	土師器	高坏	15.7	12.8	—	11.2	碗形の坏部。口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は面を成し、部分的に内外傾する。脚は裾へ向かって連続的に外反し、端で短く開く。精製胎土。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	暗灰 N3/	
111	142	L5-21	ⅢD	土師器	高坏	16.3	11.6	—	11.4	口縁は内彎して上方乃至外上方に立上がる。口唇は太く丸く修める。脚はやや低めで、裾へ向かって連続的に外反する。端は丸く修める。精製胎土。	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	灰 10Y4/1	
111	143	K5-25・ L5-21・ L6-2	ⅢB-3・Ⅲ D	土師器	高坏	17.4	12.4	—	11.6	碗形の坏部。口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。脚から裾は連続的に外反する。端は丸く修める。精製胎土。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい褐 7.5YR6/3	灰白 10YR8/2	
111	144	L5-16	ⅢD	土師器	高坏	坏	14.0	<6.6>	—	碗形の坏部。口縁は内彎気味又は一部で緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修め、一部では外傾する狭い面を成す。内面坏部一部に煤附着。	橙 5YR6/6	にぶい褐 7.5YR5/3	灰 N5/	
111	145	K5-19	ⅢB・ⅢD	土師器	高坏	14.8	11.9	—	9.6	碗形の坏部。口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は丸味を持った面を成す。脚は裾へ向かって連続的に外反する。端は丸く修める。精製胎土。	橙 5YR7/6	橙 2.5YR6/8	オリーブ黒 10Y3/1	
111	146	L6-1・6・ 7	Ⅲ・ⅢD	土師器	高坏?	坏?	14.3	<5.8>	—	碗形の坏部(鉢?)口縁は内彎気味に外上方へ立上がる。口唇は外傾する中央の窪んだ面を成す。内外面一部に煤附着。	灰黄褐 10YR5/2	灰黄褐 10YR5/2	暗灰 N3/	
111	147	K5-20	ⅢD	土師器	高坏	—	<14.4>	—	12.6	脚は緩く外下方へ広がり弱い屈曲の後内彎して開く。端は太く丸く修める。精製胎土。	灰黄 2.5Y7/2	にぶい橙 5YR7/3	灰 7.5Y4/1	
111	148	K5-20	ⅢD	土師器	高坏	坏	14.2	<5.5>	—	碗形の坏部。口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は平らな面を成し、外側にやや肥厚する。精製胎土。	にぶい橙 5YR7/4	にぶい橙 5YR7/4	暗灰 N3/	
111	149	K5-19	ⅢD	土師器	高坏	—	<10.4>	—	10.7	脚は直線的に外下方に開き、裾では外反する。精製胎土。	橙 7.5YR7/6	橙 5YR7/6	灰 N4/	
112	150	K5-19	ⅢD	土師器	ミニチュア	2.6	3.4	3.4	—	壺形の手握ね。口縁は内彎気味に外上方へ立上がる。口唇は丸く修める。	黄灰 2.5Y5/1	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 5Y4/1	
112	151	K5-18	ⅢD	土師器	ミニチュア	4.6	<2.6>	—	—	鉢形の手握ね。口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。底部は突出?	灰黄褐 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR7/3	灰 7.5Y6/1	
112	152	K5-17	ⅢD	土師器	ミニチュア	4.3	2.5	—	1.2	鉢形の手握ね。口縁は内彎して上方に立上がる。口唇は丸く修める。押し潰した平底?外面体部部分的に煤附着。	灰黄褐 10YR5/2	黄灰 2.5Y4/1	灰 5Y4/1	
112	153	K5-20	ⅢD	土師器	ミニチュア	6.3	3.6	—	—	鉢形の手握ね。口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は細く丸く修める。丸底。	橙 7.5YR6/6	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 5Y5/1	
112	154	K5-19	ⅢD	土師器	ミニチュア	5.0	4.5	5.7	1.5	鉢形の手握ね?口縁は内彎して内上方に立上がる。口唇は丸く修める。底部は押し潰した平底。外面底部から胴部低位一部に煤附着。	にぶい黄橙 10YR5/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰黄 2.5Y6/2	
112	155	K5-20	ⅢD	土師器	ミニチュア	4.7	4.4	5.2	2.6	壺形の手握ね?口縁は直線的に上方へ立上がる。粘土帯を口縁外側に貼付し肥厚する。口唇は丸く修める。底部は押し潰した平底。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/4	黒褐 2.5Y3/1	
112	156	K5-19	ⅢD	土師器	壺	5.6	8.7	7.8	5.0	壺形の小型丸底土器。口縁は内彎気味に外上方に立上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部は分銅形。底部は押し潰した平底。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい褐 7.5YR5/3	灰 5Y4/1	
112	157	L5-22	ⅢD	土師器	壺	8.0	7.9	8.4	3.5	壺形の小型丸底土器。口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部は中位で外側に張出す。底部は押し潰した平底。精製胎土。	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/3	灰 N4/1	
112	158	K5-17・22	ⅢD	土師器	壺	9.5	<7.3>	7.4	—	壺形の小型丸底土器。口縁は内彎気味に外上方に立上がる。口唇は丸く修める。頸部は彎曲する。肩部がやや張出す。内面口縁と外面に煤附着。	灰黄褐 10YR5/2	暗灰 N3/	灰 N5/	
112	159	K5-20	ⅢD	土師器	壺	9.3	9.5	8.7	—	壺形の小型丸底土器。口縁は内彎気味に外上方に立上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部は上位に最大径を持つ。丸底。内面底部に煤附着。	黄灰 2.5Y4/1	黄灰 2.5Y4/1	暗灰 N3/	
112	160	L5-16・20	ⅢD	土師器	壺	7.6	10.6	—	—	壺形の小型丸底土器。口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は細く丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部球形。丸底。精製胎土。	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	灰 10Y5/1	
112	161	K5-19	ⅢD	土師器	壺	8.8	9.4	9.1	—	壺形の小型丸底土器。口縁は緩く外反して外上方へ立上がる。口唇は丸く修める。頸部はやや急に屈曲する。胴部は球形。丸底。	灰黄 2.5Y6/2	にぶい橙 7.5YR7/4	灰 5Y4/1	

表45 4 B区遺物観察表8

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 Na	出土地点 グリッド	層	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
							口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
112	162	K5-20	ⅢD	土師器	壺?		10.5	(8.5)	9.2	—	壺又は鉢形の小型丸底土器。口縁は内彎気味に外上方へ立上がる。口唇は丸く修め外側にやや肥厚する。	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR4/3	灰 N4/	
112	163	K5-19	ⅢD	土師器	壺?	胴	—	(7.5)	9.6	—	壺形の小型丸底土器? 頸部はやや急に曲がる。胴部は球形。丸底。外面胴部一部に煤附着。	黄灰 2.5Y5/1	にぶい黄橙 10YR7/2	灰 5Y4/1	
112	164	K5-20	ⅢD	土師器	壺		—	8.5	9.3	—	壺形の小型丸底土器。頸部屈曲はやや急。胴部は球形指向。底部丸底。胎土精緻。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 5YR7/4	黄灰 2.5Y5/1	
112	165	K5-20	ⅢD	土師器	壺?		10.1	11.0	10.5	—	壺又は甕形の小型丸底土器。口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は外傾する面、又は丸く修め外側にやや肥厚する。頸部は彎曲する。胴部は球形。丸底。内面底部と外面胴部・口縁一部に煤附着。	灰褐 7.5YR5/2	にぶい褐 7.5YR5/3	暗灰 N3/	
112	166	L5-21	ⅢD	土師器	甕?		11.0	10.4	10.6	—	容量小、鉢又は甕形の小型丸底土器? 口縁は緩く外反して外上方へ立上がる。口唇は丸く修め、部分的には面を成す。丸底。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 N4/	
112	167	K5-16	ⅢD	土師器	甕		11.0	10.8	10.6	5.2	鉢又は甕形の小型丸底土器。口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は丸く修める。底部は貼付又は押し潰した平底で凸面を成す。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 N6/	
113	168	K5-16	ⅢD	土師器	鉢		4.6	5.4	—	1.2	有段鉢又は鉢形の手捏ね。口縁は内彎して外上方へ立上がる。口唇は丸く修める。底部は押し潰した平底で緩い凸面を成す。外面体部一部に煤附着。	にぶい褐 7.5YR5/3	灰黄褐 10YR6/2	灰 5Y5/1	
113	169	L5-17	ⅢD	土師器	鉢		9.3	5.8	7.4	—	有段鉢形の小型丸底土器。口縁は内彎気味に外上方へ立上がる。体部は細く丸く修める。丸底。精製胎土。	にぶい橙 5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	灰 5Y5/1	
113	170	K5-20	ⅢD	土師器	鉢		10.0	7.0	—	3.4	鐏状の口縁を持つ鉢形。小型丸底壺? 口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は外傾する面又は丸く修める。底部は押し潰した平底でやや凸面を成す。	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/3	黄灰 2.5Y4/1	
113	171	K5-19	ⅢD	土師器	鉢		12.1	10.3	9.2	—	有段鉢形の小型丸底土器。口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は外傾する狭い面を成す。丸底。外面体部一部に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	黄灰 2.5Y5/1	
113	172	K5-20	ⅢD	土師器	鉢?		9.4	8.3	10.2	—	鉢又は甕形の小型丸底土器。口縁は緩く外反して外上方へ立上がる。口唇は丸く修める。胴部は中位で膨らむ。底部は押しつぶされた平底? 内面胴部中位以下と外面胴部中位以上部分的に煤附着。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい黄橙 10YR7/3	暗灰 N3/	
113	173	K5-16	ⅢD	土師器	鉢		11.2	7.7	—	—	鉢又は有段鉢形の小型丸底土器。口縁は鐏状を成し内彎気味に外上方へ立上がる。口唇は丸く修める。丸底。外面底部一部に煤附着。	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい黄橙 10YR7/3	灰 5Y4/1	
113	174	L5-16	ⅢD	土師器	鉢		11.1	8.9	11.7	—	鉢形の小型丸底土器。口唇は直線的に外上方へ立上がる。口唇は丸く修める。丸底。	にぶい橙 5YR7/4	にぶい橙 5YR7/4	オリブ黒 10Y3/1	
113	175	K5-20	ⅢD	土師器	鉢		12.2	9.4	11.3	—	鉢又は甕形の小型丸底土器。口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は丸く修める。丸底。外面胴部部分的に煤附着。	明黄褐 10YR6/6	にぶい黄褐 10YR6/3	黄灰 2.5Y5/1	
113	176	K5-20	ⅢB-3・ⅢD	土師器	鉢		12.5	10.3	12.5	—	鐏状の口縁を持つ。口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は外傾する中央部の窪んだ面又は丸く修め外側にやや肥厚する。丸底。	にぶい赤褐 5YR5/4	にぶい赤褐 5YR5/4	灰 5Y4/1	
113	177	K5-20	ⅢD	土師器	鉢		10.5	10.3	11.1	—	鉢または甕形の小型丸底土器。口縁は内彎気味に外上方へ立上がる。口唇は丸く修める。丸底。内面体部下位・口縁部分的と外面口縁に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 7.5Y5/1	
114	178	K5-20	ⅢD	土師器	壺		11.0	(13.2)	13.6	—	口縁は内彎気味に外上方へ立上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部は球形? 外面胴部中位以上に煤附着。	にぶい橙 5YR6/4	にぶい橙 7.5YR7/4	灰 5Y5/1	
114	179	K5-17	ⅢD	土師器	壺		10.9	(15.9)	12.8	—	煮沸具として使用? 器壁薄。口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部は球形。丸底? 内面胴部中位以下と外面胴部中位以下に煤附着。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい褐 7.5YR6/3	灰 7.5Y4/1	
114	180	L5-22・L6-2	ⅢD・ⅢD-1・ⅢD-3	土師器	壺		12.3	11.0	14.4	—	口縁は緩く外反して外上方へ立上がる。口唇は丸く修める。頸部はやや急に曲がる。外面胴部中位一部に煤附着。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	灰 7.5Y4/1	

表46 4 B区遺物観察表9

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 グリッド	層	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
							口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
114	181	K5-20・L5-16	ⅢD	土師器	壺		12.3	15.2	13.3	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。頸部は彎曲する。胴部は球形。丸底。内面胴部上位以上一部と外面に煤附着。	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい橙 7.5YR7/4	灰 5Y6/1	
114	182	K5-22	ⅢD	土師器	壺		8.8	14.5	15.0	—	口縁は内彎気味に外上方へ立上がる。口唇は丸く修める。頸部は彎曲する。胴部は中位で大きく張出す。丸底。精製胎土。	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2	
114	183	K5-20	ⅢD	土師器	壺		10.8	16.7	16.0	—	口縁は内彎のち外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲は急。胴部はやや上位で張出す。丸底。内面口縁一部と外面胴部一部に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 5Y6/1	
114	184	K5-20・25	ⅢD	土師器	壺		10.0	14.9	15.8	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部はやや上位で大きく張出す。丸底。精製胎土。	にぶい橙 5YR6/4	にぶい橙 5YR6/4	灰 10Y4/1	
114	185	L5-21	ⅢB-2・ⅢD	土師器	壺		9.7	19.0	15.2	—	口縁は内彎気味に外上方へ立上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部は中位で大きく張出す。底部はやや窪んだ面。精製胎土。	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	暗灰 N3/	
115	186	L5-22・L6-1	ⅢB-2・ⅢD	弥生土器	壺		16.2	(9.6)	—	—	複合口縁。口縁は外反のち内彎気味に内上方に立上がる。口唇はやや内傾する面を成す。内面口縁と外面口縁一部に煤附着。	褐灰 10YR4/1	灰黄褐 10YR5/2	灰 N4/	弥生後期
115	187	K5-17・22	ⅢB-3・ⅢD	弥生土器	壺	口縁	17.8	(8.4)	—	—	広口壺。口縁は外反して外斜上方に立上がる。口唇は外傾する面を成し上下に肥厚する。頸部屈曲はやや急。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい橙 7.5YR7/3	灰 N4/	
115	188	K5-18・19	ⅢB-3・ⅢD	弥生土器	壺		14.5	(11.7)	—	—	口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成し部分的に外側に肥厚する。頸部屈曲はやや急。	灰 N4/	黄灰 2.5Y4/1	灰 N4/	弥生後期 ?
115	189	K5-21	ⅢB-3・ⅢD	土師器	壺		13.5	(21.8)	21.9	—	口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は丸味を持った外傾する面又は丸く修める。頸部は彎曲する。外面胴部中位一部に煤附着。	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	オリーブ黒 7.5Y3/1	
115	190	L5-22	ⅢD	土師器	壺		15.3	(14.3)	—	—	口縁は外反して外斜上方に立上がる。口唇は外傾する面を成す。頸部屈曲は急。	にぶい黄橙 10YR7/3	橙 5YR7/6	灰 5Y5/1	弥生終末期～古墳前期初頭
115	191	K5-20	ⅢD	土師器	壺	口縁	15.1	(9.2)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する丸味を持った面を成す。頸部屈曲はやや急。精製胎土。	にぶい黄橙 10YR7/3	橙 7.5YR7/6	灰 10Y4/1	
116	192	K5-20	ⅢD	土師器	壺		18.8	31.0	28.3	—	口縁は外反して外斜上方に立上がる。口唇は丸く修める。又は丸味を持った面を成し、外側にやや肥厚する。頸部屈曲はやや急。胴部は球形指向。丸底。	褐灰 7.5YR4/1	橙 5YR6/6	灰 7.5Y5/1	
116	193	K5-20	ⅢD	弥生土器	壺	底部	—	(15.7)	—	5.8	底部は狭い平底。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 7.5Y5/1	弥生終末期
116	194	L6-2	ⅢD	弥生土器	壺	底	—	(3.8)	—	7.8	底部は広く安定した平底でやや突出する。	灰白 10YR8/2	にぶい黄橙 10YR7/2	灰 N4/	弥生後期
117	195	K5-17・21・22	ⅢD	土師器	壺		18.8	(29.7)	26.6	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸味を持った面を成す。頸部は彎曲する。胴部は球形指向?外面底部に煤附着。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	灰 7.5Y4/1	
117	196	K5-21	ⅢD	土師器	壺		13.7	(22.9)	28.1	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。外面胴部中位以上に煤附着。	褐灰 10YR4/1	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 N4/	
118	197	K5-20	ⅢD	土師器	鉢		9.5	37.0	—	3.7	容量小。碗形。口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。底部は押し潰した平底で凸面を成す。器壁薄。外面口縁一部に煤附着。	にぶい橙 7.5YR6/4	浅黄橙 10YR8/3	灰 7.5Y4/1	
118	198	K5-16	ⅢD	土師器	鉢		10.7	4.9	—	4.6	器高の低い碗形。口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。底部は押し潰した平底で、端部は不明瞭。外面底部から体部の一部に煤附着。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	暗灰 N3/	
118	199	L5-16	ⅢD	土師器	鉢		9.7	(4.6)	10.2	—	器高の低い碗形。口縁は内彎して上方乃至外上方に立上がる。口唇は丸く修める。丸底。内外面体部一部に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい褐 7.5YR6/3	暗灰 N4/	
118	200	K5-20	ⅢD	土師器	鉢		7.3	5.1	8.9	6.6	鼓形の鉢。口縁は内彎して内上方に立上がる。口唇は丸く修める。底部は平底で凹面を成す。	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい橙 7.5YR6/4	—	

表47 4 B区遺物観察表10

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 Na	出土地点 グリッド	層	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
							口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
118	201	K5-19	ⅢD	土師器	鉢		9.9	4.9	—	—	口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。丸底。外面底部から体部下位に煤附着。	にぶい黄 2.5Y6/3	灰黄 10YR6/2	灰 5Y4/1	
118	202	K5-21	ⅢD	土師器	鉢		10.1	4.5	—	—	器高の低い碗形。口縁は内彎して外上方に立上がる。口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。丸底。内外面体部から口縁一部に煤附着。	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y6/2	—	
118	203	K5-18	ⅢD	土師器	鉢		9.9	6.2	—	4.6	口縁は鐔状を成し、短く直線的に外斜上方に立上がる。口唇は丸く修める。底部は押し潰した平底で凸面を成す。外面底部・体部一部に煤附着。	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/3	暗灰 N3/	
118	204	K5-16	ⅢD	土師器	鉢		9.8	5.5	—	—	碗形。口縁は内彎気味に上方へ立上がる。丸底。	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	灰 7.5Y4/1	
118	205	L5-16	ⅢD	土師器	鉢		9.2	5.7	—	4.3	容量小の碗形。口縁は内彎して外上方へ立上がる。口唇は外傾する面、又は丸く修める。底部は貼付、押し潰した平底。外面体部部分的に煤附着。	にぶい黄褐 10YR5/3	灰黄褐 10YR5/2	灰 5Y5/1	
118	206	K5-20	ⅢD	土師器	鉢		9.4	7.0	—	—	碗形。口縁は直線的に上方へ立上がる。口唇は丸く修める。底部は貼付底で凸面を成す。	にぶい赤褐 5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	灰 N4/	
118	207	L5-16	ⅢD	土師器	鉢		13.0	5.1	—	5.6	口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。底部は押し潰した平底。内面体部部分的に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 5Y4/1	
118	208	L5-21・22	ⅢD	土師器	鉢		11.9	5.1	—	—	器高の低い碗形。口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。丸底。内面底部と外面体部低位に煤附着。	橙 2.5YR6/6	橙 2.5YR7/6	灰 7.5Y4/1	
118	209	K5-21	ⅢD	土師器	鉢		13.3	4.8	—	3.0	器高の低い碗形。口縁は内彎して外上方乃至上方に立上がる。口唇は丸く修める。底部は押し潰した平底。内面と外面口縁一部に煤附着。	オリーブ黒 5Y3/1	黄褐 2.5Y5/3	灰 N4/	
118	210	K5-16	ⅢD	土師器	鉢		13.1	5.7	—	—	碗形。口縁は内彎気味に外上方に立上がる。口唇は丸く修める。丸底。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/3	
118	211	K5-21	ⅢD	土師器	鉢		12.0	4.8	—	—	器高の低い碗形。口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。	灰黄褐 10YR5/2	灰黄褐 10YR5/2	暗灰 N3/	
118	212	L6-2	ⅢD	土師器	鉢		12.5	5.8	—	2.5	碗形。口縁は内彎して外上方に立上がる。底部は狭い平底。内外面部分的に煤附着。精製胎土。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR7/4	
118	213	L5-16	ⅢD	土師器	鉢		11.9	5.9	—	—	碗形。口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。丸底。内面底部と外面部分的に煤附着。	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい褐 7.5YR6/3	灰 5Y5/1	
118	214	K5-16	ⅢD	土師器	鉢		12.4	6.7	—	4.3	碗形。口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。底部は押し潰した平底。内面体部部分的と外面底部・体部下位部分的に煤附着。	にぶい橙 5YR7/4	橙 5YR7/6	にぶい橙 7.5YR7/4	
119	215	K5-20	ⅢD	土師器	鉢		11.2	7.0	—	4.7	碗形。口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。底部は押し潰した平底。内面体部部分的と外面底部・体部下位部分的に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/4	灰 N4/	
119	216	L5-16	ⅢD	土師器	鉢		14.0	6.1	—	—	器高の低い碗形。口縁は内彎して上方に立上がる。口唇は丸く修める。又は丸味を持った面を成す。丸底。内面一部と外面底部に煤附着。	灰黄褐 10YR5/2	暗灰黄 2.5Y5/2	灰 7.5Y4/1	
119	217	K5-20	ⅢD	土師器	鉢		12.5	6.8	—	—	碗形。口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。又は丸味を持った狭い面を成す。丸底。外面に煤附着。	暗灰黄 2.5Y5/2	暗灰黄 2.5Y5/2	灰 10Y5/1	
119	218	K5-16	ⅢD	弥生土器	鉢		16.4	6.0	—	5.4	容量大。ボウル形。口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は丸味を持った面を成す。底部は貼付底風にやや突出した平底。外面体部に煤附着。	灰黄褐 10YR6/2	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 10Y5/1	
119	219	L5-22	ⅢD	土師器	鉢		14.6	6.1	—	—	器高の低い碗形。口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。丸底。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	黒褐 2.5Y3/1	
119	220	K5-17・ 18・20	ⅢD	土師器	鉢		14.2	7.0	—	4.8	碗形。口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は丸く修める。底部は押し潰した不明瞭な平底。外面に煤附着。	灰黄褐 10YR5/2	褐灰 10YR4/1	灰 N6/1	
119	221	L5-21	ⅢD	土師器	鉢		14.5	6.7	15.2	—	器高の低い碗形。口縁は内彎して外上方乃至上方に立上がる。口唇は丸く修める。又は内傾する丸味を持った面を成す。丸底。内面体部一部に煤附着。	にぶい橙 5YR6/4	にぶい赤褐 5YR5/3	灰 5Y4/1	

表48 4 B区遺物観察表11

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 グリッド	器種 層	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考	
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土		
119	222	L5-21・22	ⅢD・ⅢB-3	土師器	鉢	13.6	6.4	—	4.0	碗形。口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。底部は貼付底?で中央部がやや窪んだ面を成す。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/3	灰 7.5Y4/1	弥生終末期~古墳前期初頭	
119	223	K5-21	ⅢD	土師器	鉢	12.7	7.2	—	—	碗形。口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は丸く修める。丸底。内外面に煤附着。	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 5YR6/6	にぶい黄橙 10YR6/3		
119	224	K5-20	ⅢD	土師器	鉢	14.5	7.4	—	2.4	碗形。口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成す。貼付底様にやや突出する。内面一部と外面部分的に煤附着。	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	オリープ黒 10Y3/1		
119	225	K5-18・19	ⅢB-3・ⅢD	土師器	鉢	15.4	9.1	—	6.2	ボウル形。口縁は内彎して上方又は外上方に立上がる。口唇は丸く修める。底部は突出し押しつぶした平底。	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	灰 N4/		
119	226	K5-15	ⅢD	弥生土器	鉢	12.1	8.4	—	3.0	口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は丸く修める。底部は狭い平底。外面底部から体部の一部に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 5Y4/1	弥生終末期~古墳前期初頭	
119	227	L5-17	ⅢD	土師器	鉢	11.6	(6.5)	—	—	碗形。口縁は内彎気味に外上方に立上がる。口唇は丸く修める。内外面口縁一部に煤附着。	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	灰白 10Y7/1		
119	228	L5-17・21・22	ⅢD・ⅢD-1	土師器	鉢	14.6	7.1	—	7.0	碗形。口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。底部は押し潰した平底で端は不明瞭。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 10Y6/1		
119	229	K5-19	ⅢD	土師器	鉢	底	(4.9)	—	5.4	底部は押し潰した平底で端は不明瞭。外面体部一部に煤附着。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 5Y5/1		
119	230	L5-21・22	ⅢD	土師器	鉢	12.6	8.2	—	—	碗形。口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は丸く修め、一部で狭い面を成す。底部は押し潰した平底。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい褐 7.5YR5/4	灰 N4/		
120	231	K5-19	ⅢD	土師器	鉢	10.2	8.9	11.0	—	口縁が鐮状を成す。口縁は内彎気味に上方乃至外上方に立上がる。	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/2	灰 5Y4/1		
120	232	K5-19	ⅢD	土師器	甕	11.3	(7.4)	—	13.3	口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は細く丸く修め、一部で狭い面を成す。底部は押し潰した平底。	にぶい黄橙 10YR5/3	灰黄褐 10YR5/2	オリープ黒 10Y3/1		
120	233	L5-21	ⅢD	土師器	台付鉢	11.1	6.1	—	6.0	低脚鉢。浅い碗形の鉢部。口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。上部は中実で、短く直立する支脚と円盤状の底部で構成。外面台底部と体部の一部に煤が附着。精製胎土。	橙 7.5YR6/6	橙 7.5YR6/6	灰 5Y6/1		
120	234	K5-17	ⅢD	土師器	台付鉢	鉢	13.6	(7.2)	—	—	碗形の鉢部。口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は丸く修める。内外面体部一部に煤附着。	灰白 10YR7/1	にぶい褐 7.5YR6/3	暗灰 N3/	
120	235	K5-20・L5-16	ⅢD	土師器	鉢	15.2	11.4	—	—	瓶?口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は平らな面を成し外側にやや肥厚する。底部は尖底で内外面より穿孔(φ5.5~12mm)する。	灰黄褐 10YR6/2	にぶい黄橙 10YR6/3	オリープ黒 7.5Y3/1	弥生終末期~古墳前期初頭	
120	236	L5-16・17・21	ⅢD	土師器	鉢	11.8	11.1	—	—	深めの碗形。底部に円孔(φ5~6mm)を1個穿つ。口縁は緩く外反して上方に立上がる。口唇は丸く修め外側にやや肥厚する。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 7.5Y5/1		
120	237	K5-18	ⅢD	土師器	甕	11.6	(9.2)	12.0	—	水差し形。口縁は波状を成し、短く外反して外上方に立上がる。口唇は細く丸く修める。胴部は中位で大きく膨らむ。内面胴部一部に煤附着。	にぶい橙 7.5YR6/4	黄灰 2.5Y6/1	灰白 2.5Y7/1		
121	238	K5-20	ⅢD	土師器	甕	10.7	12.1	11.5	—	口縁は内彎気味に外上方へ立上がる。口唇は丸く修める。頸部は緩く曲がる。丸底。内外面底部~胴部下位に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	灰 7.5Y5/1		
121	239	K5-19	ⅢD	土師器	甕	11.7	12.9	12.0	—	器壁薄。口縁は緩く外反して外上方へ立上がる。口唇は丸く修め一部では外傾する面を成し、概ね外側に肥厚する。頸部は緩やかに曲り、部分的にはやや急。胴部は球形指向。丸底。外面胴部中位部分的に煤附着。	黄灰 2.5Y4/1	灰黄褐 10YR6/2	—		
121	240	L5-16	ⅢD	土師器	甕?	12.4	11.8	—	—	口縁は内彎気味に外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成す。頸部は弱く屈曲する。胴部はやや上位で張出す。丸底。外面胴部中位以上部分的に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	灰黄褐 10YR5/2	暗灰 N3/		
121	241	K5-19	ⅢD	土師器	甕	12.1	13.2	11.5	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸味を持った外傾する面を成し、外側にやや肥厚する。胴部はやや長胴形。丸底。内面底部に煤附着。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 7.5Y4/1		

表49 4 B区遺物観察表12

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 Na	出土地点 グリッド	層	器種	器形 部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
121	242	K5-22	ⅢD	土師器	甕	9.6	14.7	13.2	—	口縁は内彎気味に外上方へ立上がる。口唇は丸く修める。頸部は彎曲する。胴部は球形。丸底。内面底部と外面胴部中位以下に煤附着。	灰黄褐 10YR5/2	灰黄褐 10YR5/2	黒褐 2.5Y3/1	
121	243	K5-19	ⅢD	土師器	甕	12.4	13.9	14.4	—	口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修め外側にやや肥厚する。頸部は彎曲する。胴部は球形。丸底。内面底部と外面胴部中位に煤附着。	黄灰 2.5Y5/1	にぶい黄橙 10YR6/3	灰白 N8/	
121	244	K5-20	ⅢD	土師器	甕	12.5	14.8	12.9	—	口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は内傾する面を成す。頸部屈曲はやや急。胴部はやや長胴形。丸底。内面底部と外面胴部中位に煤附着。	灰黄褐 10YR5/2	灰黄褐 10YR5/3		
121	245	K5-19・20	ⅢD	土師器	甕	11.0	(13.6)	13.6	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修め、一部では丸味を持った面を成す。頸部屈曲はやや急。胴部は球形? 内外面口唇一部に煤附着。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい褐 7.5YR5/4	オリープ黒 7.5Y3/1	
121	246	K5-22	ⅢD	土師器	甕	11.8	14.3	13.4	—	口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部はやや長胴形。丸底。内面口縁一部と外面胴部下位以上に煤附着。	黄灰 2.5Y4/1	オリープ黒 5Y3/1	灰 5Y4/1	
121	247	L5-22・L6-1	ⅢD・ⅢD-1	土師器	甕	14.4	(6.6)	—	—	口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は内側(上方)に肥厚する。頸部屈曲は急。外面に煤附着。胎土精緻。	灰黄褐 10YR4/2	黒 10YR2/1	暗灰黄 2.5Y5/2	古墳前期 初頭 搬入品
121	248	K5-20	ⅢD	土師器	甕 口縁	15.0	(7.1)	—	—	口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成し、一部では外側に肥厚する。頸部屈曲はやや急。内面口縁部分的と外面胴部中位以上に煤附着。	褐灰 10YR4/1	褐灰 10YR5/1	灰 N4/	
122	249	K5-16	ⅢD	土師器	甕	15.9	(12.9)	14.5	—	口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成す。頸部屈曲はやや急。外面胴部中位帯状・上位一部に煤附着。	橙 5YR6/6	橙 2.5YR6/6	橙 5YR7/6	
122	250	K5-17・20	ⅢD	土師器	甕 口縁	13.5	(6.9)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。内面胴部部分的と外面胴部中位・口縁に煤附着。	灰黄褐 10YR5/2	にぶい褐 7.5YR5/3	灰 10Y4/1	
122	251	K5-21	ⅢD	土師器	甕	12.7	15.4	15.0	—	口縁は内彎気味に外上方に立上がる。口唇は丸味を持った外傾する面を成す。頸部は彎曲する。胴部は球形。丸底。内面底部・口縁一部と外面底部・口縁・胴部中位帯状に煤附着。	灰黄褐 10YR5/2	灰黄褐 10YR5/2	灰 N4/	
122	252	K5-20	ⅢD	土師器	甕	13.0	(12.9)	14.1	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修め、部分的に外側に肥厚する。頸部はやや急に曲がる。外面胴部中位帯状・口縁部分的に煤附着。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい褐 7.5YR6/3	灰 N5/	
122	253	K5-19	ⅢD	土師器	甕	14.0	(12.4)	15.3	—	器壁薄。口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。外面胴部中位以上部分的に煤附着。	灰黄褐 10YR4/2	にぶい黄橙 10YR6/3	褐灰 10YR4/1	
122	254	L5-16	ⅢD	土師器	甕	11.2	(11.5)	14.6	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成す。頸部屈曲はやや急。外面中位に煤附着。	明赤褐 5YR5/6	明赤褐 5YR5/6	灰 N4/	
122	255	K5-20・L5-21・L6-2	ⅢB-3・ⅢD	土師器	甕	9.8	(15.3)	14.6	—	直口形。器壁薄。口縁は緩く外反して上方乃至外上方に立上がる。口縁は丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部は球形指向? 外面胴部中位帯状に煤附着。	灰黄 2.5Y7/2	灰黄褐 10YR6/2	灰 N4/	
122	256	L5-21・22	Ⅲ・ⅢD	土師器	甕	12.6	17.5	15.6	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は概ね外傾する面を成す。頸部はやや急に曲がる。胴部はやや長胴形。丸底。外面胴部帯状・口縁一部に煤附着。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい褐 7.5YR5/4	灰 N4/	
122	257	K5-19	ⅢD	土師器	甕	11.4	(15.3)	14.9	—	口縁は頸部から連続的に外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する面、又は丸く修め外側にやや肥厚する。胴部は球形。器壁薄。外面胴部と口縁の一部に煤附着。胎土精緻。	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい褐 7.5YR6/3	灰 10Y6/1	
122	258	K5-20	ⅢD	土師器	甕	12.6	17.9	15.6	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修め外側にやや肥厚する。(一部はヘラにより面を成す。頸部はやや急に曲がる。胴部は球形指向。丸底。外面胴部中位以下部分的に煤附着。	褐灰 10YR5/1	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 N4/	
123	259	K5-16	ⅢD	土師器	甕	14.2	18.2	16.7	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部はやや長胴形。丸底。外面胴部中位帯状・口縁一部に煤附着。	にぶい橙 7.5YR6/3	にぶい橙 7.5YR6/4	—	

表50 4 B区遺物観察表13

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 グリッド	器種 層	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
123	260	K5-21	ⅢD	土師器	甕	11.8	17.9	16.4	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。頭部は彎曲する。胴部はやや長胴。丸底。内面底部・口縁と外面胴部中位・口縁に煤附着。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい褐 7.5YR6/3	灰 N5/	
123	261	K5-21	ⅢD	土師器	甕	13.5	(18.4)	17.6	—	口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は丸く修める。頭部屈曲は急。胴部は球形指向?内面胴部中位以下と外面胴部中位以上に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄褐 10YR5/3	灰黄 2.5Y6/2	
123	262	L5-17・ 22・L6-1	ⅢD	土師器	甕	15.5	(17.4)	17.0	—	口縁は頸部から連続的に外反して外斜上方に立上がる。口唇は丸く修める。胴部は球形指向。内面底部・口縁一部と外面胴部中位以上部分的に煤附着。	にぶい褐 7.5YR6/3	にぶい橙 7.5YR7/4	灰 7.5Y5/1	
123	263	K5-22	ⅢD	土師器	甕	14.0	18.8	16.8	—	口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は丸く修める。またはやや外傾する面を成す。頭部は緩やかに曲がる。胴部はやや長胴形。丸底。内面胴部中位以下・口縁と外面胴部中位以上に煤附着。	橙 5YR6/6	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 5Y6/1	
123	264	K5-19	ⅢD	土師器	甕	13.3	18.5	16.3	—	口縁は頸部から連続的に外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修め部分的にはやや外側に肥厚する。胴部はやや長胴形。丸底。器壁薄。外面胴部中位一部に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	オリーブ黒 10Y3/1	
124	265	K5-18・19	ⅢD	土師器	甕	口縁	17.0	(11.9)	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。頭部はやや急に曲がる。	褐灰 10YR5/1	にぶい橙 5YR6/4	灰 N4/	
124	266	K5-16・21	ⅢB-3・Ⅲ D	土師器	甕	口縁	15.2	(8.8)	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。頭部屈曲はやや急。内面口縁一部と外面胴部中位に煤附着。	にぶい黄褐 10YR5/3	赤褐 2.5YR4/6	オリーブ黒 5Y3/1	古墳前期 初頭
124	267	K5-18・19	ⅢB・ⅢD	土師器	甕	口縁	17.2	(8.9)	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める又は外傾する丸味を持った面を成す。頭部屈曲はやや急。	にぶい黄 2.5Y6/3	にぶい黄 2.5Y6/3	黄灰 2.5Y5/1	
124	268	K5-16・18	ⅢD	土師器	甕	13.4	(14.9)	17.5	—	口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は外傾する丸味を持った面を成し、一部は外側に肥厚する。頭部は彎曲する。内面口縁一部と外面胴部中位以上に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	褐灰 10YR4/1	灰 N4/	
124	269	K5-19・24	ⅢD	土師器	甕	口縁	16.0	(11.0)	—	口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は丸く修め一部では面を成す。頭部は彎曲する。	褐灰 10YR4/1	にぶい褐 7.5YR6/3	灰 N4/	
124	270	K5-19	ⅢD	土師器	甕	12.0	(10.2)	16.4	—	口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は丸く修め、外側にやや肥厚する。頭部屈曲はやや急。内面胴部中位部分的と外面胴部上位・口縁に煤附着。	にぶい褐 7.5YR5/4	灰黄褐 10YR4/2	灰 N4/	
124	271	K5-15・ 16・19・ 20	ⅢD	土師器	甕	12.9	(15.6)	19.6	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。または丸味を持った面を成す。頭部は彎曲する。胴部は長胴形?内面中位以下と外面胴部中位帯状に煤附着。	灰黄褐 10YR4/2	にぶい褐 7.5YR5/3	灰 5Y4/1	
124	272	K5-16・21	ⅢB-3・Ⅲ D	土師器	甕	口縁	14.5	(8.0)	—	口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は丸く修め、外側にやや肥厚する。頭部屈曲はやや急。内面口縁部分のと外面胴部中位・口縁に煤附着。	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい赤褐 5YR5/4	にぶい黄橙 10YR7/3	
125	273	K5-20	ⅢD	土師器	甕	15.7	22.3	19.6	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。または外傾する面を成し外側に肥厚する。頭部はやや急に曲がる。胴部はやや長胴形。丸底。内面胴部中位以下と外面胴部中位帯状に煤附着。	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい褐 7.5YR5/3	灰 N4/	
125	274	K5-16・ 21・22	ⅢD	土師器	甕	14.9	23.9	21.2	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。または丸味を持った面を成す。頭部は彎曲する。胴部は長胴形?内面中位以下と外面胴部中位帯状に煤附着。	浅黄橙 10YR8/3	淡黄 2.5Y8/3	灰 7.5Y5/1	
125	275	K5-19	ⅢD	土師器	甕	14.8	(14.8)	19.2	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。又は狭い面を成す。頭部屈曲はやや急。外面胴部中位と口縁に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 N4/	
125	276	K5-19・ 20・24	ⅢB-3・Ⅲ D	土師器	甕	15.8	12.4	—	—	器壁薄。口縁は外反して外斜上方に立上がる。口唇は丸く修める。頭部屈曲はやや急。外面胴部上位に煤附着。	灰黄褐 10YR6/2	にぶい黄褐 10YR5/3	灰白 N7/	
125	277	K5-20	ⅢB-1・Ⅲ B-3・ⅢD	土師器	甕	17.3	(21.4)	19.5	—	口縁は外反して外斜上方に立上がる。口唇は丸味を持った外傾する面を成す。頭部屈曲はやや急。胴部はやや長胴形。内面底部部分的と外面胴部中位帯状に煤附着。	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい橙 7.5YR6/4	オリーブ黒 7.5Y3/1	

表51 4 B区遺物観察表14

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 Na	出土地点 グリッド	層	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
							口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
125	278	L5-16・22	ⅢB-2・ⅢD	土師器	甕		12.1	(12.1)	19.0	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成し、外側にやや肥厚する。頸部屈曲はやや急。外面胴部中位帯状・口縁に煤附着。	灰黄褐 10YR6/2	にぶい橙 7.5YR7/3	灰 7.5YR7/3	
126	279	K5-19・20	ⅢD	弥生土器	甕		16.5	27.3	21.0	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成し、外側に肥厚する。頸部屈曲はやや急。胴部は長胴形。底部は貼付風の狭い平底。内面底部と外面胴部中位以上に煤附着。	にぶい黄褐 10YR5/2	明赤褐 5YR5/6	灰 10Y4/1	
126	280	K5-19	ⅢD	土師器	甕		16.0	25.2	20.0	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修め部分的に外側に肥厚する。頸部屈曲は急。胴部は長胴形。尖底気味の丸底。	褐灰 10YR5/1	にぶい黄橙 10YR6/3	暗灰 N3/	
126	281	K5-17	ⅢD	土師器	甕		17.7	(20.1)	22.8	—	口縁は外反して外斜上方に立上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。内面胴部中位一部と外面胴部中位に煤附着。	橙5YR7/6	にぶい橙 5YR6/4	灰 7.5Y5/1	
126	282	K5-21	ⅢD	土師器	甕		18.4	17.0	22.4	—	丁寧な仕上げ。口縁は緩く外反して外斜上方に立上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲は急。胴部中位で大きく膨らむ。胎土精緻。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 N4/	
127	283	K5-20	ⅢB-1・ⅢD	土師器	甕		15.8	(21.6)	18.8	—	口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部は長胴形。内面底部と外面胴部中位に煤附着。	灰黄褐 10YR5/2	灰黄褐 10YR5/2	灰 5Y4/1	
127	284	L5-21・22	ⅢD・ⅢD-1	土師器	甕		13.8	(21.4)	19.7	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。頸部は彎曲する。内面胴部一部・口縁と外面中・下位・口縁部分的に煤附着。	灰黄褐 10YR5/2	にぶい赤褐 5YR5/3	灰白 7.5Y7/1	
127	285	K5-21・22	ⅢD	土師器	甕		15.0	(20.4)	20.0	—	口縁は緩く外反して外斜上方に立上がる。口唇は丸味を持った面を成す。頸部屈曲は急。内面底部と外面胴部中位帯状に煤附着。	灰 5Y4/1	褐灰 10YR4/1	—	
127	286	K5-20・L5-16	ⅢD	土師器	甕		13.5	(22.6)	19.2	—	口縁は内彎気味に外上方へ立上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部は球形指向。	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい黄橙 10YR6/4	黄灰 5Y5/1	
128	287	K5-21	ⅢD	土師器	甕		12.3	24.2	17.8	—	口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。胴部はやや長胴形。丸底。内面底部と外面胴部中位以上に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/4	黄灰 2.5Y4/1	灰 7.5Y4/1	
128	288	K5-16・21	ⅢD	土師器	甕		13.6	(21.6)	21.8	—	口縁は直線的に外上方へ立上がる。口唇は丸味を持った外傾する面を成す。頸部屈曲はやや急。胴部は球形?外面胴部中位帯状に煤附着。	にぶい黄褐 10YR5/4	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 10Y5/1	
128	289	K5-20	ⅢD	土師器	甕	胴	—	(17.2)	17.8	—	頸部はやや急に曲がる?胴部は球形指向?内面底部に煤附着。	にぶい黄褐 10YR5/3	明黄褐 10YR6/6	灰 10Y5/1	
128	290	K5-22	ⅢD	土師器	甕		19.5	27.0	27.4	—	口縁は頸部から連続的に外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。頸部下にナデによる段を有する。胴部は球形。丸底。内面底部・口縁部分的と外面胴部中位以上に煤附着。	灰黄褐 10YR6/2	にぶい褐 7.5YR6/3	灰 7.5Y5/1	
129	291	K5-19・24	ⅢD	土師器	甕		16.1	30.1	25.3	—	口縁は内彎気味に外上方へ立上がる。口唇は丸味を持った面を成す。頸部は彎曲する。胴部はやや長胴形。丸底。外面胴部に斜位の火襷。内外面口縁一部に煤附着。	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	灰 N4/	
129	292	K5-19	ⅢD	土師器	甕		17.9	32.4	30.6	—	底部に穿孔? (φ2~4.5mm) する。口縁は内彎のち緩く外反して外斜上方に立上がる。口唇は外傾乃至直立する丸味を持った面または丸く修める。胴部は中位で膨らむ。丸底。	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 10Y5/1	
130	293	K5-19	ⅢD	土師器	甕		12.2	(12.1)	18.0	—	口縁は頸部から連続的に外反する。口唇は丸く修める。	にぶい黄橙 10YR6/4	にぶい褐 7.5YR5/3	にぶい黄橙 10YR7/3	
130	294	L6-2	ⅢD	土師器	甕		15.3	18.5	18.0	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修め多くは外側にやや肥厚する。頸部は緩く曲がる。胴部球形。内面底部と外面胴部中位帯状に煤附着。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄橙 10YR6/3	暗灰 N3/	
130	295	L5-21	ⅢD	土師器	甕		14.3	9.2	—	—	器壁薄。口縁は頸部から連続的に外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。内面胴部中位・口縁と外面胴部中位以上に部分的に煤附着。胎土精緻。	にぶい褐 7.5YR6/3	灰褐 7.5YR6/2	灰 10Y5/1	
130	296	K5-20	ⅢD	土師器	甕		16.2	(15.3)	16.9	—	口縁は頸部から連続的に外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する面または丸く修め外側にやや肥厚する。胴部は球形?外面胴部中位・口縁に煤附着。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/3	灰 N4/	

表52 4 B区遺物観察表15

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 グリッド	層	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
							口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
130	297	L5-21	ⅢD	土師器	甕		17.3	26.8	24.0	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修め一部では外側に肥厚する。頸部は緩く彎曲する。胴部は球形指向。丸底。内面底部と外面胴部部分的に煤附着。	灰 5Y5/1	灰黄褐 10YR6/2	灰 5Y4/1	
130	298	L5-22	ⅢD	土師器	甕		16.0	(22.3)	21.6	—	口縁は頸部から連続的に外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修め部分的に外側に肥厚する。胴部は球形。外面胴部下から中位一部に煤附着。	黄灰 2.5Y5/1	黄灰 2.5Y5/1	黄灰 2.5Y5/1	
131	299	K5-21	ⅢD	土師器	甕		17.0	20.5	19.2	—	口縁は頸部から連続的に外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。胴部は球形指向。丸底。胴部中位帯状に煤附着。	灰黄褐 10YR4/2	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 5Y4/1	
131	300	K5-19	ⅢD	土師器	甕		15.5	29.0	21.6	—	口縁は頸部から連続的に外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。胴部は長胴形。丸底。器壁薄。外面胴部部分的に煤附着。	にぶい黄橙 10YR6/3	灰黄褐 10YR6/2	オリーブ黒 5Y3/1	
131	301	K5-18	ⅢD	土師器	甕		15.0	(13.6)	17.1	—	器壁薄。口縁は頸部から連続的に外反する。口唇は丸く修める。外面胴部中位から口縁の一部に煤附着。	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	灰 5Y5/1	
131	302	L6-2	ⅢD	土師器	甕		14.6	(4.9)	—	—	二重口縁。口縁は外反し屈曲後は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい黄褐 10YR5/3	灰 7.5Y5/1	古墳前期 初頭
131	303	K5-20・ 25・L5-16	ⅢB-2・Ⅲ D	土師器	甕	口縁	18.2	(5.5)	—	—	二重口縁。口縁は外反し、屈曲後緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。内面口縁部分的と外面口縁一部に煤附着。	橙 5YR6/6	橙 5YR6/6	黄灰 2.5Y6/1	
131	304	L6-6	ⅢB・Ⅲ B-2・ⅢD	土師器	甕		15.0	(9.5)	—	—	二重口縁。口縁は外反し、屈曲後緩やかに外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。頸部屈曲はやや急。内面口縁と外面胴部上位以上部分的に煤附着。	灰 5Y4/1	にぶい褐 7.5YR5/3	灰 N6/1	古墳前期
131	305	L5-22	ⅢD	土師器	甕	口縁	16.2	(9.4)	—	—	二重口縁。口縁は外反し屈曲し直線的に外上方へ立上がる。口唇は平らな面を成し外側にやや肥厚する。頸部は彎曲する。胎土精緻。	灰黄褐 10YR6/2	灰黄褐 10YR6/2	灰黄 2.5Y6/2	搬入品
132	306	K5-20	ⅢB-1・Ⅲ D	土師器	甕		13.6	(30.9)	25.9	—	口縁は直線的に上方へ立上がる。口唇は丸く修めやや外側に肥厚する。頸部は緩やかに曲がる。胴部は長胴形。器壁薄。内面底部・胴部一部と外面胴部部分的に煤附着。	黄灰 2.5Y5/1	灰黄 2.5Y6/2	灰 5Y4/1	
133	307	K5-17	ⅢD	弥生土器	甕	底	—	(11.3)	—	3.4	底部は狭い平底。	灰 N4/	浅黄橙 7.5YR8/4	灰 N4/	弥生終末 期
133	308	L5-16	ⅢD	土師器	甕		—	(13.7)	—	2.4	底部は弱く突出し狭い平底を成す。	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 5YR6/6	灰 7.5Y4/1	
133	309	K5-19	ⅢD	土師器	甕	底部	—	(8.5)	—	—	丸底。内面底部と外面胴部中位に煤附着。	にぶい黄褐 10YR5/3	灰黄褐 10YR5/2	灰 7.5Y5/1	
133	310	L5-21	ⅢD	弥生土器	鉢	底部	—	(3.6)	—	5.0	底部は平底で高台状に中央が窪む。外面底部・胴部下位に煤附着。	にぶい黄橙 10YR7/3	橙7.5YR6/6	暗灰 N3/	
133	311	L6-2	ⅢD-1	弥生土器	甕	底	—	(3.0)	—	6.5	底部は平底でやや突出する。	灰白 10YR8/2	にぶい黄橙 10YR7/2	オリーブ黒 7.5Y4/1	弥生後期 後半
134	312	L5-20	ⅢD	須恵器	坏身		7.9	(3.2)	立ち 上がり 1.6	受け 口径 12.0	口縁は直線的に内上方へ立上がる(内傾)。口唇は丸く修める。受け部はほぼ水平。胎土は稠密で気孔は見られない。	灰 N4/	灰 N4/	褐灰 7.5YR4/1	
134	313	K5-20	ⅢD	須恵器	甕	胴	4.3	0.9	—	—		灰 5Y6/1	灰 5Y5/1	黄灰 2.5Y6/1	
134	314	K5-20	ⅢD	須恵器	坏蓋		11.2	4.6	12.2	—	口縁は内傾し窪んだ面を成す。頂部は緩い凹面。甲は内彎し口縁は直立乃至やや内傾する。内面部分的と外面体部下位に煤附着。	灰 5Y6/1	灰 5Y6/1	灰 N5/	
134	315	L6-2	ⅢD	須恵器	甕	胴	9.8	0.8	—	—	胎土中の気孔は円・裂孔で密。	灰 10Y5/1	灰 7.5Y5/1	にぶい黄褐 10YR5/3	
137	318	K5-22	ⅢB-3	弥生土器	壺	胴	—	(6.7)	—	—		灰白 2.5Y7/1	灰黄褐 10YR6/2	褐灰 10YR4/1	
137	319	L6-6	ⅢB	弥生土器	壺	胴	—	(3.4)	—	—	胎土中に雲母粒?を含む。	灰白 2.5Y8/2	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/1	
137	320	K5-21	ⅢB-3	弥生土器	壺	胴	—	(3.1)	—	—	胎土中に珉片が残る。	黄褐 2.5Y5/2	暗灰黄 2.5Y5/2	灰黄褐 10YR4/2	弥生前期
137	321	K5-20	ⅢB-3	縄文土器?	深鉢	口縁	—	(5.5)	—	—	口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する丸味を持った面を成す。	にぶい黄褐 10YR5/3	にぶい橙 7.5YR7/4	灰 10Y4/1	
137	322	K5-17	ⅢB-3	縄文土器?	深鉢	口縁	—	(3.6)	—	—	波状口縁?口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成し外側にやや肥厚する。	にぶい黄褐 10YR5/3	灰黄褐 10YR5/2	黄灰 2.5Y5/1	

表53 4 B区遺物観察表16

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 Na	出土地点 グリッド	器種 層	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考	
						口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土		
137	323	K5-18	ⅢB-3	縄文土器?	深鉢	口縁	—	(3.4)	—	—	口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。	黒 5Y2/1	灰 5Y4/1	灰 7.5Y4/1	
137	324	K5-17	ⅢB-3	縄文土器	深鉢	口縁	—	(2.7)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成す。	灰黄 2.5Y7/2	灰白 5Y7/2	灰 N4/	
137	325	K5-17	ⅢB-3	縄文土器?	深鉢	口縁	—	(3.4)	—	—	口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成す。	暗灰黄 2.5Y5/2	暗灰黄 2.5Y5/2	黄灰 2.5Y6/1	
137	326	K5-22	ⅢB-3	縄文土器	深鉢	体	—	(5.1)	—	—		にぶい黄橙 10YR6/3	灰黄 2.5Y6/2	黄灰 2.5Y6/1	
137	327	K5-13	ⅢB-0	弥生土器	甕	口縁	—	(5.3)	—	—	口縁は短く外反して外上方に立上がる。口唇は丸味を持った外傾する面を成す。口縁下の接合部で段を有す。外面口縁一部に煤付着。	にぶい黄橙 10YR7/3	浅黄橙 7.5YR8/6	灰黄 2.5Y7/2	
137	328	K6-4	ⅢB-3	弥生土器	甕	口縁	—	(6.6)	—	—	口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成し、外側にやや肥厚する。	灰黄 2.5Y6/2	橙 7.5YR6/6	灰 5Y5/1	弥生前期
137	329	K5-22	ⅢB-3	弥生土器	甕	口縁	16.8	(10.4)	—	—	口縁は短く外反して外上方に立上がる。口唇は丸味を持った面を成す。	灰黄 2.5Y7/2	黄灰 2.5Y6/1	灰黄 2.5Y7/2	
138	330	K5-19	ⅢB-3	弥生土器	甕	口縁	—	(4.5)	—	—	口縁は緩く外反して外上方へ立上がる。口唇下外側に粘土帯を貼付し肥厚する。口唇は外傾する面を成す。	灰 5Y4/1	灰白 2.5Y8/2	灰 N4/	
138	331	K5-25	ⅢB-3	弥生土器	壺	口縁	16.3	(5.3)	—	—	口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は粘土帯貼付により外側に肥厚し、外傾する面を成す。	にぶい褐 7.5YR5/4	にぶい褐 7.5YR5/4	灰 N5/	弥生中期 ～後期
138	332	K5-22	ⅢB-3	弥生土器	壺	口縁	—	(6.5)	—	—	口縁は緩く外反し、後短く内彎して外上方に立上がる。口縁は外側に粘土帯を貼付し肥厚する。口唇は丸く修める。	灰 N4/	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 N4/	弥生後期
138	333	K5-24	ⅢB-3	弥生土器	壺	口縁	14.6	(5.4)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇下粘土帯を貼付し肥厚する。口唇は中央の窪んだ面を成す。	灰 10Y5/1	灰黄 2.5Y7/2	灰 N4/	
138	334	K5-19	ⅢB-3	弥生土器	壺	口縁	—	(5.9)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。口縁外面に粘土帯を貼付し肥厚する。	灰白 7.5Y7/1	灰黄 2.5Y6/2	灰 N4/	
138	335	K5-19	ⅢB-3	弥生土器	壺	口縁	12.6	(4.7)	—	—	口縁は直線的に外上方に立上がる。口唇は外傾する丸味を持った面を成す。口縁外側に粘土帯を貼付し肥厚する。	灰 5Y6/1	にぶい黄橙 10YR7/3	灰 N4/	
138	336	K5-20	ⅢB-3	弥生土器	壺	口縁	—	(3.9)	—	—	口縁は緩く外反して外斜上方に立上がる。口唇は外傾する面を成し、外側に粘土帯を貼付し肥厚する。	にぶい橙 7.5Y6/4	黄灰 2.5Y6/1	灰 N6/	
138	337	K5-19	ⅢB-3	弥生土器	甕	口縁	14.3	(4.1)	—	—	口縁は緩く外反して外上方へ立上がる。口唇下外側に粘土帯を貼付し肥厚する。口唇は外傾する面を成す。	灰 N5/	橙 7.5YR6/6	灰 N4/	
138	338	K5-20	ⅢB-3	弥生土器	壺	口縁	—	(5.8)	—	—	口縁は外反して外上方へ立上がる。口縁外側に粘土帯を貼付し肥厚する。口唇は外傾する面を成す。	灰 7.5Y6/1	灰黄 2.5Y6/2	灰 5Y5/1	
138	339	K5-19・ 23・24	ⅢB-3	弥生土器	壺	口縁	13.0	(4.6)	—	—	口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成す。口縁外面に粘土帯を貼付し肥厚する。	灰 N4/	橙 5YR6/6	灰 N5/	弥生後期
138	340	K5-19	ⅢB-3	弥生土器	壺?	口縁	—	(2.1)	—	—	口縁は外反して外斜上方に立上がる。外側に粘土帯を貼付し肥厚する。口唇は外傾する面を成す。	褐灰 10YR4/1	灰黄褐 10YR4/2	青灰 5BG5/1	
138	341	K5-19	ⅢB-3	弥生土器	壺	口縁	—	(2.8)	—	—	口縁は内彎して外上方に立上がる。口唇は丸味を持った面を成す。	灰 10Y5/1	灰白 5Y7/1	暗緑灰 7.5GY4/1	
138	342	K5-20	ⅢB-3	弥生土器	壺	口縁	13.8	(4.3)	—	—	口縁は外反のち直線的に内上方に立上がる。口唇は丸く修める。	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/2	黄灰 2.5Y5/1	弥生後期 初頭
138	343	K5-13	ⅢB-0	弥生土器	壺	口縁	—	(2.8)	—	—	口縁は外反して外斜上方に立上がる。外側に粘土帯を貼付し肥厚する。口唇は外傾する面を成す。	灰 7.5Y4/1	灰 5Y4/1	灰 5Y4/1	
138	344	K5-18	ⅢB-3	弥生土器	壺	口縁	—	(1.8)	—	—	口縁は外反して外斜上方に立上がる。口唇下に断面台形の粘土帯を貼付し肥厚する。口唇は外傾する丸味を持った面を成す。	灰 N4/	灰 N4/	灰 N4/	
138	345	K5-20	ⅢB-3	弥生土器	壺	口縁	—	(1.5)	—	—	口縁は外反して外斜上方に立上がる。口唇は直立する面を成し、部分的にはやや肥厚する。	灰黄褐 10YR5/2	灰白 7.5Y7/1	灰 5Y4/1	
138	346	K5-19	ⅢB-3	弥生土器	壺	胴	—	(2.3)	—	—		にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	黄灰 2.5Y5/1	

表54 4 B区遺物観察表17

《土器・土製品》

Fig. No.	遺物 No.	出土地点 グリッド	層	器種	器形	部位	法量 (cm)				特徴	色調			備考
							口径	器高	胴径	底径		内面	外面	胎土	
138	347	K5-20	ⅢB-3	弥生土器	壺	胴	—	(4.8)	—	—	破片の転用?	灰白 10YR7/1	灰白 2.5Y8/2	灰白 10YR7/1	弥生後期
139	348	L6-7	ⅢB	弥生土器	甕	口縁	—	(3.8)	—	—	口縁は緩く外反して外上方に立上がる。口縁外側に粘土帯を貼付し肥厚する。口唇は丸味を持った面を成す。	灰黄 2.5Y7/2	にぶい黄橙 10YR7/2	灰 N4/	
139	349	K5-22	ⅢB-3	弥生土器	甕	口縁	16.0	(5.5)	—	—	口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は粘土帯貼付により外側に肥厚し、外傾する丸味を持った面を成す。下位接合痕。外面口縁部分的に煤附着。	黄灰 2.5Y4/1	灰黄褐 10YR4/2	オリープ黒 5Y3/1	
139	350	K5-20	ⅢB-3	弥生土器	甕	口縁	—	(4.4)	—	—	口縁は外反して外上方に立上がる。口唇外に断面三角形粘土帯を貼付し肥厚する。口唇は丸く修める。外面口縁部分的に煤附着。	暗灰黄 2.5Y5/2	褐灰 10YR4/1	灰 10Y4/1	
139	351	K5-19	ⅢB-3	弥生土器	壺	口縁	15.2	(5.9)	—	—	口縁は外反して外斜上方に立上がる。口唇は外傾する面を成し、外側に断面三角形の粘土帯を貼付して肥厚する。	褐灰 10YR6/1	にぶい褐 7.5YR5/4	灰 N6/	弥生中期 ～後期
139	352	K5-20	ⅢB-3	弥生土器	甕	口縁	—	(5.6)	—	—	口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成す。口唇は丸味を持った外傾する面を成す。	灰 7.5Y5/1	灰 7.5Y5/1	灰 10Y6/1	
139	353	L5-11	ⅢB-0	弥生土器	甕	胴	—	(5.7)	—	—	口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。外傾接合。	橙 7.5YR7/6	橙 7.5YR6/6	灰 5Y5/1	
139	354	K5-22	ⅢB-3	弥生土器	甕	口縁	—	(3.6)	—	—	口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。外傾接合。	にぶい橙 7.5YR6/4	橙 5YR6/6	黄灰 2.5Y5/1	弥生前期
139	355	K5-21	ⅢB-3	弥生土器	甕	口縁	—	(2.4)	—	—	口縁は外反して外上方に立上がる。口唇は外傾する面を成す。	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/3	灰 7.5Y5/1	
139	356	K5-25	ⅢB-3	弥生土器	高坏	口縁	28.8	(3.7)	—	—	口縁はやや外反して外上方に立上がる。口唇は平らな面を成す。頸部下に屈曲部を持つ。	灰黄 2.5Y7/2	灰白 2.5Y7/1	灰 N4/	
139	357	K5-22	ⅢB-3	弥生土器	高坏?	口縁	—	(3.3)	—	—	口縁は直線的に上方へ立上がる。口唇は水平な面を成す。胎土軽量。	灰 10Y6/1	オリープ灰 2.5GY6/1	灰 N5/	搬入品? 弥生中期
139	358	K5-19	ⅢB-3	弥生土器	高坏	—	—	(4.3)	—	—	口縁は直立的。口唇は平らな面を成す。胎土軽量。	灰白 2.5Y8/1	にぶい黄橙 10YR7/3	灰 N4/	弥生後期
139	359	K5-22	ⅢB-3	弥生土器	高坏?	口縁	—	(4.0)	—	—	口縁は横に広がり、口唇は大きく上下に肥厚し直立的な面を成す。胎土軽量。	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	灰 N4/	搬入品? 弥生中期
139	360	K5-17	ⅢB-3	弥生土器	高坏	脚	—	(12.0)	—	—	脚は直線的に小さく開き、裾は緩く屈曲して広がる。1段に3孔を1組とする透し孔(円)を2段?に配置する。	灰白 N7/	淡黄 2.5Y8/3	灰 N4/	
140	361	K5-14	ⅢB-0	土師器	ミニチュア	—	4.4	1.8	—	—	鉢形の手捏ね。口縁は短く外反して外上方に立上がる。口唇は丸く修める。丸底。	灰褐 5YR4/2	にぶい赤褐 5YR5/4	オリープ黒 5Y3/1	
140	362	K5-25	ⅢB-3	土師器	鉢	—	11.9	(7.4)	12.7	—	腕形。口縁は内彎して内上方に立上がる。口唇は丸く修める。	黄灰 2.5Y4/1	にぶい黄橙 10YR6/3	灰 10Y4/1	
140	363	K5-25	ⅢB-3	土師器	壺	胴	—	(9.9)	14.8	—	胴部は中位で大きく外側へ張出す。外面底部に煤附着。	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 5YR6/6	灰 5Y4/1	
140	364	K5-23	ⅢB-3	須恵器	甕	胴	—	(7.2)	—	—	胎土中の気孔は円孔と規模の大きな裂孔が残る。	—	灰 5Y5/1	にぶい黄褐 10YR5/3	
140	365	L5-21	ⅢB	須恵器	甕	胴	全長 12.2	全厚 0.9	—	—	胎土中の気孔は円孔で疎。	青灰 10BG5/1	暗青灰 10BG4/1	にぶい褐 7.5YR5/3	
140	366	K5-15	ⅢB-0	須恵器	甕	胴	全長 9.0	全厚 1.0	—	—	胎土中の気孔は裂孔をやや多く含む。	灰 N6/	灰 N7/	灰 N7/	
140	367	K5-18	ⅢB-1	須恵器	甕	胴	全長 6.2	全厚 1.2	—	—	胎土中の気孔は円孔で密。	灰 10Y5/1	灰白 7.5Y7/1	にぶい橙 7.5YR6/4	
140	368	K5-20・ L5-16	ⅢB-0	土師器	椀	底	—	(1.7)	—	9.1	底部は高台状を成す。高台は「ハ」の字状に開く。高台内は緩い凸面。畳付は丸く修める。精製胎土。	浅黄橙 7.5YR8/6	浅黄橙 7.5YR8/4	灰白 10Y7/1	
140	369	K5-24	ⅢB-0	土師器	皿	底	—	(1.7)	—	7.9	底部端は僅かに立上がる。	灰黄 2.5Y6/2	灰黄 2.5Y6/2	灰黄 2.5Y7/2	
141	370	—	Ⅲ	弥生土器?	高坏?	脚	—	(2.7)	—	—	脚はやや内彎して外下方に開く。端は丸く修める。	橙 5YR6/6	にぶい橙 5YR7/4	灰 5Y5/1	
141	371	—	I	弥生土器?	高坏?	脚	—	(3.0)	—	—	脚は緩く外反して開く。端は丸く修め肥厚する。	にぶい黄橙 10YR6/4	橙 2.5YR6/6	緑灰 5G6/1	
141	372	—	I	須恵器	壺	胴	—	(5.6)	—	—	自然釉がかかる。胎土中に大・小の裂孔が多く見られる。	灰 5Y6/1	灰白 N7/1	灰白 10Y7/1	

表55 4 B区遺物観察表18

《石器・石製品》

Fig. No	図版 No	出土地点 グリッド	層	種類	法量				特徴	その他
					全長 (cm)	全幅 (cm)	全厚 (cm)	重量 (g)		
142	373	K5-20	ⅢE	石斧 (基部)	〈10.8〉	〈6.7〉	1.7	201.7	成形時の剥離痕を残し研磨を施す。側辺は丁寧な研磨。基部は狭く分銅形？	超塩基性岩
142	374	K6-18	ⅢC	石斧 (基部)	〈4.8〉	〈4.7〉	〈1.0〉	34.0	磨製石斧。基部はやや細く彎曲する。表・裏面に研磨痕、擦痕を残す。敲打痕 (整形痕？)を残す。	
142	375	K6-3	ⅢC-1	石斧	〈5.0〉	4.0	0.9	35.8	扁平片刃。前面は成形時の剥離面を残して研磨。後面は丁寧に研磨する。刃部は彎曲し刃毀れ痕を残す。	結晶片岩
142	376	K5-22	ⅢC	石斧	〈8.2〉	〈4.2〉	1.4	81.6	小型の河原石を用いて端部を加工する。刃部は彎曲する。片刃？研磨は側辺の中央部迄及ぶ。	結晶片岩
142	377	K5-18	ⅢC	石斧	〈9.0〉	7.3	〈1.9〉	200.8	扁平片刃。刃部は緩く彎曲する。側面は狭く平らな面を成す。刃部と側面を中心に丁寧な研磨。	超塩基性岩
142	378	K5-23	ⅢC-1	石斧	〈9.5〉	4.4	〈3.1〉	189.4	両刃。河原石を用い敲打により成形したのち研磨を施す。刃部は不均衡な弧状を成す。刃毀れを残す。	
142	379		ⅢC	石包丁	9.2	4.4	1.5	78.3	小型の河原石を用いる。刃部はやや内彎し、表面より調整を加える。背部は粗く割削し、薄く仕上げる。	
142	380	K5-20	ⅢD	叩石	7.1	4.9	3.3	169.0	小型の河原石を用い、端部に敲打痕を残す。緑色チャート	
142	381	K5-17	ⅢC	叩石	9.1	8.4	5.0	529.3	表面中央部と側辺、端部に敲打痕が集中して窪む。裏面の中央付近には滑らか。	
142	382	K5-17	ⅢC		〈18.8〉	5.8	2.1	393.1	刃部 (側辺) に敲打痕を残す。背部 (側辺) 以外にやや強い磨痕が多く残る。	緑泥片岩
142	383	K5-19	ⅢB-3・ ⅢC	叩石	13.1	7.9	6.4	856.0	表面はやや窪んだ自然面で敲打による剥離を残す。	緑色チャート
142	384	K5-19	ⅢC	叩石	12.2	9.8	4.9	880.5	側面の中央部と端部に敲打痕が集中し大きく窪む。一側面には溝状の窪みが存在する。砥石として使用？	
143	385	K5-19	ⅢD	石鏃	〈2.4〉	1.6	0.3	1.3	平基。主に表面から加工する。裏面は端部のみ調整。	
143	386	K5-20	ⅢD	石斧	〈9.5〉	〈6.5〉	3.0	291.7	扁平片刃。刃部の一部が欠損後、再び刃を研ぎ出して使用？叩石として転用。前面中央と側面に敲打痕が残る。	超塩基性岩
143	387	K5-20	ⅢD	石斧 (刃部)	〈4.3〉	2.4	0.5	10.2	自然礫 (河原石) を用いる。刃部を両刃に加工する。小型の鑿状。	
143	388	K5-20	ⅢD	石包丁	〈4.2〉	4.0	〈0.5〉	11.6	刃部は直線的で片刃。背部は彎曲？紐孔はφ6mmの円孔。	泥岩
143	389	K5-16	ⅢD	砥石	〈6.9〉	7.2	3.8	202.9	砥面は2~3面。一面は平坦で滑らか。細かな擦痕を残す。一面は自然面を残し、擦痕が全体に見られる。一部で整形時の敲打痕を残す。	泥質砂岩
143	390	L6-1	ⅢD	叩石	18.9	5.3	1.2	212.8	扁平な河原石を用い、一側辺を剥離により刃部風に仕上げ、他辺は敲打により面を形成する。石包丁？	結晶片岩
143	391	K5-14	ⅢD	砥石	19.8	11.0	6.1	1977.0	表面は滑らか、成形時の敲打痕？を僅かに残す。裏面は敲打痕と粗な筋状痕。一側面は緩く凹んだ砥面を成す。	砂岩
143	392	L6-2	ⅢD-1	砥石	14.1	10.8	2.7	498.2	表面の多くは滑らかな砥面 (仕上げ砥) を成し、細かな擦痕が部分的に残る。裏面は全体に粗な擦痕が主に縦位に残る。側面の一部は敲打による大きな剥離が存在する。	
143	393	K5-18	ⅢD	砥石	16.2	9.3	7.8	1220.0	河原石を用いて1~2面を砥面とする。裏面と端部に敲打痕を残す。	
143	394	K5-20	ⅢD	叩石	12.6	5.4	4.7	461.8	表・裏面の中央部に敲打痕を密に残す。側面は敲打痕を残し一部で大きく抉れる。両端部は敲打により平らな面を成す。	
143	395	L5-22	ⅢD	叩石	15.0	6.5	7.0	1263.0	表面の中央部に敲打痕が集中し、裏面と側面の一部にも敲打痕を残す。	
143	396	L6-2	ⅢD-1	叩石	18.1	6.2	3.5	725.5	全面に敲打痕が残る。両端は剥離を伴い平坦となる。側面は丸味を持った面で敲打が密。	緑色片岩
144	397	L6-2	ⅢD-1	叩石	11.1	8.4	3.1	395.8	表・裏面の中央部と側面の一部に敲打痕が密に残る。	
144	398	L5-16	ⅢD	叩石	10.8	9.8	4.8	662.0	表・裏面の中央部は敲打により大きく窪む。	

表56 4 B区遺物観察表19

《石器・石製品》

Fig. No.	図版 No.	出土地点 グリッド	層	種類	法量			重量 (g)	特徴	その他
					全長 (cm)	全幅 (cm)	全厚 (cm)			
144	399	L6-2	ⅢD-1	叩石	10.1	10.0	4.5	646.0	表・裏面の中央部にやや敲打痕が集中する。側面から端部は一部を除いて敲打痕が帯状に繋がる。	
144	400	L5-21	ⅢD	叩石	14.6	10.2	7.1	1608.0	表面には敲打痕が多く残り、中央部では密で窪む。裏面中央や側面、端面の一部でも敲打痕が密で部分的に剥離する。	
144	401	K5-15	ⅢD	叩石	10.8	9.6	4.1	646.0	表・裏面の中央部には敲打痕が集中し窪む。側面から端部は敲打痕が全周し、部分的には剥離する。	
144	402	K5-15	ⅢD	叩石	<11.1>	10.7	6.0	953.0	表・裏面の中央部は敲打により窪む。側面の中央部も敲打痕が集中する。一部被熱。	
144	403	K5-19	ⅢD	砥石	<9.2>	9.7	1.1	176.7	剥離調整痕？	泥岩
144	404	L5-16	ⅢD	台石	<11.1>	13.6	3.4	820.5	表・裏面は敲打痕が集中して大きく窪む。一部は滑らかでやや規模の大きな筋状痕が残る。砥面？	
144	405	K5-19	ⅢD	台石	16.3	12.5	2.4	817.0	表・裏面には悉く敲打痕が残る。端、側面の一部にも敲打痕が残る。	砂岩
145	406	L5-16	ⅢB-2	有孔円盤	直径4.3		0.5	17.8	表・裏面に擦痕(工具痕)が多く残り。中央部にφ3mmの円孔が2個。端部は丁寧に研磨。	
145	407	K5-17	ⅢB-0	石斧(基部)	<6.5>	<2.1>	<1.1>	22.7	小型の鑿状。表面は滑らか。	結晶片岩
145	408	K5-25	ⅢB-3	打製石包丁	<6.7>	5.0	0.6	24.3	刃部、背部ともに緩く彎曲する。端部を打ち欠いて刃を作り出すが磨滅する。側面中央を打ち欠き紐掛部とする。	結晶片岩
145	409	K5-14	ⅢB-0	磨石	6.9	5.2	3.9	209.2	両端部が著しく磨滅する。	砂岩
145	410	K5-17	ⅢB-3	叩石	9.0	7.6	6.9	607.0	全面に敲打痕、剥離痕を残す。	緑色チャート
145	411	K5-17	ⅢB-0	叩石	10.4	7.5	4.7	542.6	表面中央部、側面の全面に敲打痕を残す。端部は片側に敲打痕が集中する。	
145	412	K5-17	ⅢB-3	叩石	17.7	4.4	4.1	367.3	一端部と表・裏面は敲打により激しく剥落する。	結晶片岩
145	413	K5-18	ⅢB-3	叩石	14.8	6.0	2.9	359.3	表面と側面に敲打痕を多く残す。	
145	414	K5-14	ⅢB-0	叩石	11.0	8.3	5.8	807.5	表・裏面の中央、側面、端部には敲打痕が多く残り。一端部は敲打痕が特に密で平らな面を成す。	砂岩
145	415	K5-21	ⅢB-3	叩石	10.6	9.5	3.1	489.9	表・裏面の中央部と側面に敲打痕が集中する。	
145	416	L5-16	ⅢB-3	叩石	12.1	9.3	5.3	959.0	表・裏面には広く敲打痕が残る。側面と端部は敲打痕が密で平らな面を形成する。	
145	417	K5-20	ⅢB-3	叩石	11.3	10.3	4.5	731.0	表面中央部は敲打により窪む。側面から端部の一部に敲打痕が密。	
146	418	K5-25	ⅢB-3	叩石	11.3	7.8	4.9	675.0	両側面を打割し大きく抉る。部分的には滑らか。端部は片側に敲打痕が密に残る。	
146	419	L5-21	ⅢB-3	叩石	12.7	9.6	5.7	1070.5	表・裏面刃中央部に敲打痕が残る。側面及び端部には敲打痕が密で大きく窪む。	
146	420	K5-17	ⅢB-3	叩石	16.2	8.5	7.3	1298.5	河原石を用い各辺と端部に敲打痕を残す。	砂岩
146	421	K5-19	ⅢB-3	砥石	<9.9>	<8.4>	<4.2>	400.0	表面は緩やかな凹面を成す。一部に敲打痕を残す。裏面には筋状の粗い擦痕が残る。	砂岩
146	422	K5-14	ⅢB-0	叩石	11.4	10.3	3.7	665.5	表・裏面、側面には敲打による？剥離で小規模の浅い凹面が残される。	

表57 4 B区遺物観察表20

《木器・木製品》

Fig No	遺物 No	出土地点		種類	遺物名・用途	法量 (cm)			特徴
		グリッド	層位			全長	全幅	全厚	
147	423		ⅢC	食事具	杓子	34.2	4.9	3.7	身部は緩やかな凹面を成し、中央部で肥厚し最大となる。柄部は徐々に細く成り端部で曲がる。二次的に杭として利用か。
147	424	K5-22	ⅢC	農工具	鍬(柄装着部)	9.7	7.3	2.6	鍬本体と共に厚く削り出され、中央部分に斜位に穿たれた楕円孔がある。
147	425	K5-17	ⅢD	部材	把手状木製品	6.3	3.4	2.2	丁寧加工し、鉤手状に曲がった端部は肥厚する。
147	426	L6-2	ⅢD	部材?	—	4.4	4.1	1.7	平面円形、断面楕円形を呈す。顕著な成形痕を留めない。
147	427	L6-2	ⅢD	部材	—	13.7	6.1	1.7	短冊状、肉厚の板材一端部にホゾを造り出す。端面、側面は調整痕を残し丁寧に仕上げられる。
147	428	L6-2	ⅢD	部材	—	13.8	6.1	1.8	短冊形で肉厚の板材一端部を加工し、ホゾを造り出す。突出部は主に台形成し、先端は薄く仕上げられる。谷部はV字で、浅深があり、4~5.5°の角を持つ。一部被熱炭化。
147	429	L6-2	ⅢD	工具部材	支持部品?	31.0	5.1	1.4	断面舟形を呈する。端部から中央部に向かって浅く削り出され、周囲は厚く残る。
148	430	L6-7	ⅢD	容器	木皿/槽?	37.3	3.4	3.7	やや内湾する。内外面に工具痕を多く残り、端部にφ3~4 ⁵ / ₁₆ の紐孔(補修孔)を残す。二次的に組として使用し、刃痕を留める。一端部を斜め上方に丁寧に削り出す。他端は杭先状に細く加工する。
148	431	L6-6	ⅢD	容器	蓋	24.5	31.4	3.0	丁寧加工し、鉤手状に曲がった端部は肥厚する。
148	432	L6-6	ⅢD	雑具	—	37.4	7.7	1.7	丁寧加工し、鉤手状に曲がった端部は肥厚する。
148	433	L6-2	ⅢD	農工具?	—	34.1	6.7	0.8	丁寧加工し、鉤手状に曲がった端部は肥厚する。
148	434	K5-20	ⅢD	狩猟具	弓	43.1	2.6	1.9	端部は糸掛け部分を浅く抉り、外端を肥厚させる。
149	435	L6-2	ⅢD	農工具	組合せ式犁? / 掘り具	28.0	9.9	2.5	引き具の中央に26×16 ⁵ / ₁₆ のホゾ穴を長軸方向に穿つ。掘り具は高さ10 ⁵ / ₁₆ の四角錐で先端は磨滅する。
149	436	L6-2	ⅢD-1	農工具	鍬	37.2	19.7	5.0	平面分銅形で、刃部はやや膨らむ。柄の取り付け部分は分厚く削り出され、中央部分でコの字状に分かれた後、徐々に低く成る。
150	437	L6-2	ⅢD	農工具	鍬	32.0	19.9	4.6	平面分銅形で、刃部は膨らみを持つ。柄の取り付け部は厚く削り出され、逆三角形を呈し、頂点は中央部に至る。刃部の中央寄りにφ5 ⁵ / ₁₆ の円孔が開く。
151	438	L5-21	ⅢD	部材	—	56.0	34.9	6.3	端部は粗い工具痕を残す面、片面からの斜めの削出しに因る面と断面山形に尖る面がある。
152	439	L6-2	ⅢD	部材	—	80.6	31.6	9.9	一端部は工具に因り粗く斜めに削り出す。中央部にはV字状の深い抉り部とこの部材を斜めに貫通する幅5 ⁵ / ₁₆ 、高さ3.5 ⁵ / ₁₆ の長方形を呈した穿孔部分がある。側面寄りに長さ4.5 ⁵ / ₁₆ 、幅1.7 ⁵ / ₁₆ の不整形長方形を呈した穴が存在する。農工具か。
152	440	L6-2	ⅢD	部材	—	78.0	4.0	2.0	概ね断面多角形に加工する。中央部は肥厚し片側よりφ16×11 ⁵ / ₁₆ の楕円孔を穿つ。一端部はやや肥厚して修め、他端は内寄りで細い抉り部を設けた後、肥厚し端部に向かって細く成る。
152	441	K6-15	ⅢB-3	部材	—	73.7	16.6	3.0	一端部に主面と斜交する幅約20 ⁵ / ₁₆ の孔を穿つ。端面を尖り気味に仕上げる。
153	442	L5-22	ⅢB-3	部材	—	19.3	2.1	1.2	両端部を左右対称に切り欠く(磨滅が激しい)。端面は面取りする。
153	443	K5-25	ⅢB-2	工具	木錘	14.5	5.3	4.1	端部は緩い凸面に加工痕を残して仕上げる。中央部はやや幅狭で、浅く抉り込む。
153	444	K6-5	ⅢB-2	祭祀具	舟形木製品	56.8	7.9	4.6	触先は細く削り出され、舟底は平らな面を成す。
153	445	K6-3	ⅢB-2	農工具	縦杵	41.5	7.5	4.9	端部は工具痕を残し緩い凸面を成す。中央部分へ向かってやや深く抉る。
154	446	L6-7	ⅢB	容器	鉢(椀)	25.8	2.5	1.1	やや内湾する口縁部破片で、口唇は平らな面を成す。内外面に加工痕を残す。
154	447	K5-25	ⅢB	狩猟具	弓(端部)	25.3	2.8	2.2	糸掛け部分を細く削り出す。端部は宝珠状に太く削り出す。
154	448	L6-6	ⅢB	工具	木錘	11.1	6.5	5.3	両端部を緩い凸面に仕上げる。中央部分は幅広にやや浅く抉り取る。
154	449	L6-6	ⅢB	食事具	木皿	17.0	17.6	3.0	平面正方形、側面長方形を呈す。四辺は15 ⁵ / ₁₆ 程度の低い土手状を成し、中央部は平面長方形に削り込む。
154	450	L5-22	ⅢB	容器	底板	19.1	10.0	0.6	φ4×2 ⁵ / ₁₆ の綴り穴(紐穴)?が1個残る。分割式または補修孔か。
154	451	L6-2		農工具	羽口鍬	25.6	27.1	4.3	柄装着部の一部と紐穴(φ12×4 ⁵ / ₁₆)が1個残る。
155	452	K5-20	ⅢB-2	部材	—	110.0	34.3	8.0	一木から、薄く広い台部と断面蒲葺形の主体部を削り出す。主体部端やや中央寄りに、幅10 ⁵ / ₁₆ 、高さ4 ⁵ / ₁₆ の断面長方形を呈した穿孔部分があり、主体部から台部に斜めに貫通する。農工具か。
155	453	L6-7	ⅢB	部材	—	76.6	16.4	4.0	中位に幅広の鑿状工具に因る穿孔を両面から行う。表裏面に成形痕を残す。
156	454	K6-3	ⅢB-3	部材	—	162.0	8.0	6.0	一端部は削り出すことにより長さ12 ⁵ / ₁₆ に渡って片面(主面)が肥厚する。両端部共緩い山形に加工する。
156	455	L6-6	ⅢB	部材	—	109.2	20.0	3.2	成形時の工具痕が主面と側面に残る板状木製品。一端部の内側にホゾ穴状の穿孔か。
	456	L6-2	ⅢD		樹皮	L=8.0/6.5			
	457		SK1		網籠状	40.0	30.0		

居徳遺跡から出土した木製品と木材片の樹種同定

松葉礼子（パレオ・ラボ）

1. はじめに

高知県土佐市高岡町乙にある居徳遺跡から出土した木製品と木材計4点について樹種同定を行った。遺跡は土佐市北東の仁淀川河畔にある水田に位置している。居徳遺跡は縄文時代～室町時代にいたるまでの各時代の遺構が確認されている複合遺跡で日本最古の鋤を含む木製品も多く出土している遺跡である。

今回はこれらの樹種を同定する事により遺物の性格を明らかにする一端となすことを目的として樹種を同定した。

2. 試料と方法

樹種同定を行った試料は漆器の椀の破片、根、蔓製品、木片の計4点である（表1）。

同定には、木製品から直接片歯剃刀を用いて、木材組織切片を横断面、接線断面、放射断面の3方向作成した。これらの切片は、ガムクロラルにて封入し、永久標本とした。樹種の同定は、これらの標本を光学顕微鏡下で観察し、原生標本との比較により樹種を決定した。これらの標本は写真図版にし、同定の証拠とする。なお、作成した木材組織プレパラートは、標本番号（KCH1～4）を付し（株）パレオ・ラボ（埼玉県戸田市下前1-13-22）で保管されている。

表1 居徳遺跡出土木製品と木材の樹種同定結果一覧

プレパラート番号	樹種	製品名	木取り	遺物番号	出土遺構	出土区	層位
KCH1	不明	根	樹皮つき丸木	No.2	祭祀集中	4A区	Ⅲ層
KCH2	モクレン属近似種	漆製品 椀		No.3-②	No.1182	1A区	Ⅲd層
KCH3	ブドウ科近似種	蔓製品	丸木	No.4	No.1305	1A区	Ⅲd層
KCH4	アカガシ亜属	木片	柁目方向	No.18	SR2	4C区	

以下に木材の解剖学的な記載をすることで、同定の根拠とする。

アカガシ亜属 *Quercus* Subgen. *Cyclobalanopsis* Fagaceae

写真図版1a～1c:KCH4

中型で厚壁の円形の道管が単独で、放射方向に幅を持って配列する放射孔材。道管の穿孔は単一。木部柔組織は1～3細胞幅程度の接線方向の帯状を呈す。放射組織は、単列同性で、時に複合状となる。放射組織道管間の壁孔は柵状を呈す。

以上の形質により、ブナ科コナラ属アカガシ亜属の材であると同定した。日本に産するアカガシ亜属には8種が含まれ、いずれも常緑高木。

不明

写真図版2a～2c:KCH1

小型の道管が単独あるいは数個複合している。年輪界は乾燥による細胞壁の癒着により確認できない。道管の穿孔は階段穿孔である。放射組織は単列で集合放射組織も見られる。同性か異性かは確認できない。

以上の確認された形質から類推するにハンノキ属ハンノキ節に近似していると考えられる。しかし、確認できていない形質が多いことから不明にした。

モクレン属近似種 *Magnolia* Magnoliaceae

写真図版3a～3c:KCH2

小型の道管が単独、あるいは放射方向に数個複合して散在する散孔材。道管の大きさは年輪界

付近でやや小さくなる。確認できた道管の穿孔は単一。放射組織は2列で異性。道管放射組織間の壁孔は大きくほぼ円形～楕円形を呈する。

以上の形質からモクレン科のモクレン属の材に近似していることが分かった。しかし、乾燥のため細胞が癒着しており、道管相互の階段状壁孔などが確認できなかったため、同定にはいたらなかった。モクレン属にはホオノキ・オオヤマレンゲ・コブシ・タムシバなどが含まれている。

ブドウ科近似種

写真図版4a～4c:KCH3

大きな道管が単独もしくは数個複合して年輪界に並ぶ環孔材。その後年輪界に向けて急激に径を減じた小道管が放射方向や接線方向に複合して並んでいる。道管の穿孔は単一。放射組織は10細胞幅前後で背が高い。放射組織道管間の壁孔は階段状を呈す。

以上の形質からブドウ科のつる植物に近似していることが分かった。本標本の形質からフジやナンテンカズラ、ツルアジサイ、マタタビ属、イチジク属オオイタビ節、ツルウメモドキ、クマヤナギ属、アケビといったつる植物よりもブドウ科の標本に形質に近い事が確認できたが同定にはいたらなかった。

3. 結果

これらの結果から、アカガシ亜属1種とモクレン属近似種、ブドウ科近似種の一つが確認された。いずれの標本も出土した後乾燥をしている影響で細胞壁が癒着しており、樹種を同定するにあたって必要な形質が確認できなかった試料が多かった。アカガシ亜属は材の比重が高く、材質が堅くて特徴的な構造をしている樹種であるため、乾燥による収縮が起きてはいるものの同定が可能であった。

4. 考察

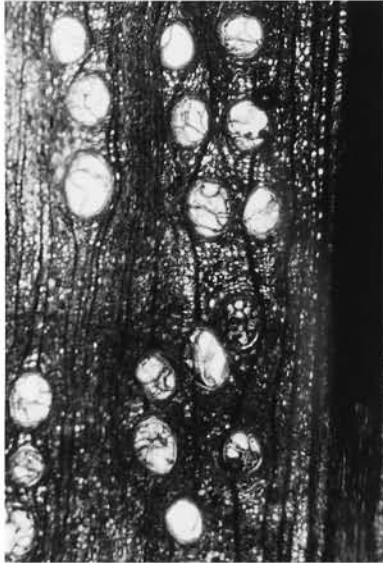
漆器木胎部はモクレン属近似種であった。漆器で確認される樹種はケヤキ、トネリコ属、サクラ属、モクレン属、トチノキ、ブナ属、カエデ属など材質に硬軟差の少ない木材が多い。これは漆器木胎部が挽物で製作されるため、回転整形に適した樹種が選択されていると考えられる。これらの樹種は地域・時代により量比は変化をするが、基本的に樹種構成はこの範疇からあまりでることではない。今回の結果もこれらの全国的な樹種選択の傾向と一致していると考えられる。木片はアカガシ亜属であった。アカガシ亜属は自生している地域では農具に使用されることで知られているが、高知県内の暖帯の自然植生でもあるので、遺跡の所在する高知県土佐市では比較的容易に入手できる樹種である。根材はハンノキ属ハンノキ節の可能性が示唆されるにとどまった。この樹種は低湿地に自生する樹種であるので、遺跡立地が低湿地であることから考えるとこの樹種に整合性があるが木材の形質からは同定にはいたらなかった。根材であるので流路などからの出土でなければ、現地性が高い遺物であると考えられる。蔓製品もブドウ科の近似種であることは確認できたが明瞭な同定までにはいたらなかった。笊、籠、運搬用具などの民具で使用されている材料には「あけび蔓」、「マタタビ蔓」、「やまぶどう蔓」、「藤蔓」、「葛藤蔓」などが挙げられている（諸岡・里深, 1996）。これらのうちマタタビ属やフジ、アケビなどは明らかに本標本とは特徴が異なっている。

引用文献

諸岡青人・里深文彦. 1996. 民具の文化史. アグネ承風社. 175pp. 東京.

図版1 居徳遺跡出土木材組織顕微鏡写真

Bar : 



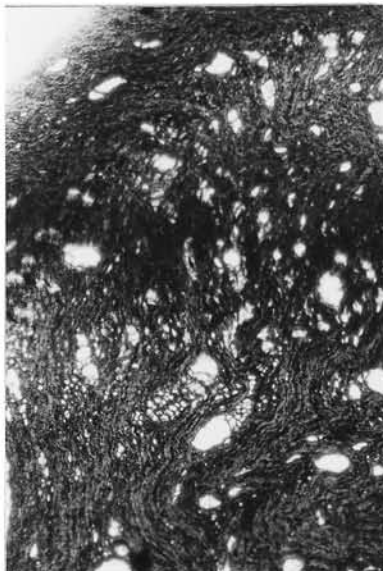
1a アカガン垂属 bar:1mm KCH4



1b 同 bar:0.4mm



1c 同 bar:0.2mm



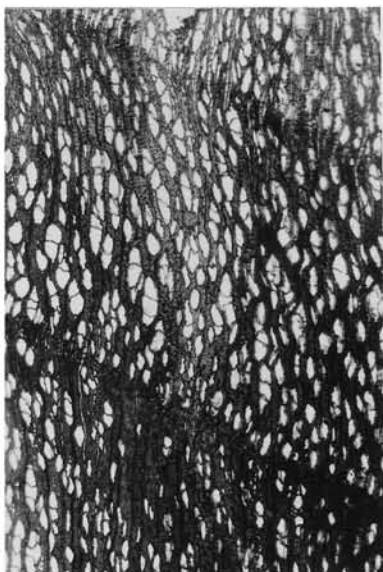
2a 不明 bar:1mm KCH1



2b 同 bar:0.4mm



2c 同 bar:0.2mm



3a モクレン属近似種 bar:1mm KCH2




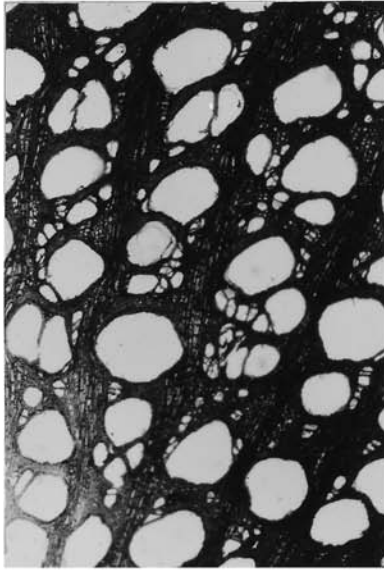
3b 同 bar:0.4mm



3c 同 bar:0.2mm

図版2 居徳遺跡出土木材組織顕微鏡写真

Bar : 



4a bar:1mm KCH3



4b 同 bar:0.4mm



4c 同 bar:0.2mm

高知県居徳遺跡群出土木製品の樹種調査結果

(株)吉田生物研究所 汐見 真
京都造形芸術大学 岡田文男

1. 試料

試料は高知県居徳遺跡群から出土した工具、農具、農工具、運搬具、祭祀具、建築部材、服飾具、容器、紡織具、雑具、用途不明品である。

2. 観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作成した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3. 結果

樹種同定（針葉樹6種、広葉樹7種、樹皮1種、草本類1種）し、各種の解剖学的特徴を記す。

1) マツ科モミ属 (*Abies* sp.)

(4 B 区444)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は比較的ゆるやかで晩材部の幅は狭い。柾目では放射組織の上下縁辺部に不規則な形状の放射柔細胞がみられる。放射柔細胞の壁は厚く、数珠状末端壁になっている。放射組織の分野壁孔はスギ型で1分野に1～4個ある。板目では放射組織は単列であった。モミ属はトドマツ、モミ、シラベがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

2) コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ (*Sciadopitys verticillata* S. et Z.)

(4 A 区659,665,667, 4 B 区430,435,442)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや緩やかで晩材部の幅は極めて狭い。柾目では放射組織の分野壁孔は小型の窓状で1分野に1～2個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。コウヤマキは本州（福島以南）、四国、九州（宮崎まで）に分布する。

3) スギ科スギ属スギ (*Cryptomeria japonica* D. Don)

(4 B 区444)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で1分野に1～3個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね扁平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

4) ヒノキ科ヒノキ属 (*Chamaecyparis* sp.)

(4 A 区654,658,666,668,669,670,671, 4 B 区438,452,455)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行が急であった。樹脂細胞は晩材部に偏在している。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1～2個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。ヒノキ属はヒノキ、サワラがあり、本州（福島以南）、四国、九州に分布する。

5) ヒノキ科アスナロ属 (*Thujopsis* sp.)

(4 A区663, 4 B区427,434,449,450)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で1分野に2～4個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ（ヒバ、アテ）とヒノキアスナロ（ヒバ）があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

6) ヒノキ科クロベ属クロベ (*Thuja standishii* Carr.)

(4 B区426,428,433)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部に偏って接線状に存在する。柾目では放射組織の分野壁孔はスギ型で1分野に2～6個ある。放射柔細胞の水平壁が接線壁と接する際に水平壁は山形に厚くなり、接線壁との間に溝の様な構造（インデンチャー）ができ、よく発達しているのが認められる。板目では放射組織は全て単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。クロベは本州、四国に分布する。

7) ブナ科コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* sp.)

(4 A区653,655,657,660,661,666 4 B区424,429,432,436,437)

放射孔材である。木口では年輪に関係なくまちまちの大きさの道管（～200 μ m）が放射方向に配列する。軸方向柔細胞は接線に1～3細胞幅の独立带状柔細胞をつくっている。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織はおおむね平伏細胞からなり、時々上下縁辺に方形細胞が見られる。道管放射組織間壁孔は大型で柵状の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と放射柔細胞の塊の間に道管以外の軸方向要素が挟まれている集合型と複合型の間となる型の広放射組織が見られる。アカガシ亜属はイチイガシ、アカガシ、シラカシ等があり、本州（宮城、新潟以南）、四国、九州、琉球に分布する。

8) クワ科クワ属 (*Morus* sp.)

(4 B区425)

環孔材である。木口は大道管（～280 μ m）が年輪界にそって1～5列並んで孔圏部を形成している。孔圏外では小道管が2～6個、斜線状ないし接線状、集合状に不規則に複合に複合して散在

している。柾目では道管は単穿孔と対列壁孔を有する。小道管には螺旋肥厚もある。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管内には充填物（チロース）が見られる。板目では放射組織は1～6細胞列、高さ～1.1mmからなる。単列放射組織はあまり見られない。クワ属はヤマグワ、ケグワ、マグワなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

9) クスノキ科クスノキ属クスノキ (*Cinnamomum camphora* Presl)

(4 B区423,431,446,448,451)

散孔材である。木口では中庸の道管（～200 μ m）が単独または2ないし数個が放射方向あるいは斜方向に連続して年輪内に平等に分布する。軸方向柔細胞は道管の周囲を厚く鞘状に取り囲んでおり、その中に見小な道管と見間違えるほどの油細胞（樟脳油貯蔵細胞）がある。柾目では道管は単穿孔と側壁に交互壁孔と螺旋肥厚を有する。放射細胞は平伏と直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔はレンズ状の大型壁孔が階段状に並んでいる。板目では放射組織は1～3細胞列、高さ～800 μ mからなる。放射組織の直立細胞や軸方向柔細胞が油細胞に変化したものが多く見られる。クスノキは本州（関東以西）、四国、九州に分布する。

10) クスノキ科タブノキ属 (*Machilus* sp.)

(4 B区447)

散孔材である。木口は中庸で厚壁の道管（～130 μ m）が単独または2ないし数個が放射方向斜方向に連続して年輪内に平等に分布する。軸方向柔細胞は道管の周囲を厚く鞘状に囲んでいる。柾目では道管は単穿孔とまれに階段穿孔、側壁に交互壁孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管と放射組織間壁孔は円形、レンズ状、篩状の壁孔が並んでいる。板目では放射組織は1～3細胞列、高さ～600 μ mからなる。放射組織の直立細胞や軸方向柔細胞が油細胞（樟脳貯蔵細胞）となったものが見られる。タブノキ属はタブノキ、ホソバタブノキがあり、本州（日本海側は青森、太平洋側は岩手中部以南）、四国、九州、琉球に分布する。

11) バラ科ナシ属 (*Pyrus* sp.)

(4 B区443)

散孔材である。木口は小さい道管（～70 μ m）が単独ないし2、3個複合して分布している。年輪最外部では少ない。軸方向柔細胞は散在状ないし短接線状。ピスフレックがみられる。柾目では道管は単穿孔と側壁に交互壁孔及び螺旋肥厚を有する。放射組織は同性ないし異性で中央部の平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなる。板目では放射組織は1～2（3）細胞列、高さ～0.5mm以下からなる。ナシ属はヤマナシなどがあり、本州、四国、九州に分布する。

12) アワブキ科アワブキ属 (*Meliosma* sp.)

(4 B区445)

散孔材である。木口では中庸な道管（～130 μ m）が、単独ないし柔細胞を間に挟んで2～4個放

射方向に複合して分布している。幅の広い放射組織が幾筋もある。柾目では道管は階段穿孔（バー小数）を持つ。放射細胞は平伏と直立細胞からなり異性である。板目は放射組織は1～4細胞列、高さ～2.5mmからなる。アワブキ属はヤマビワ、アワブキ等があり、本州、四国、九州、琉球に分布する。

13) ツゲ科ツゲ属ツゲ (*Buxus microphylla* S. et Z. var *japonica* Rehd. et Wils.)

(4 A区659)

散孔材である。木口では極めて小さい道管(～40 μ m)が多数平等に分布する。木繊維は厚壁である。柾目では道管は階段穿孔(10本前後)を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔には小型の篩状の壁孔がある。板目では放射組織は2～3細胞列、高さ～600 μ mからなる。ツゲは本州(関東以西)、四国、九州に分布する。

14) ヤマザクラorカバの樹皮

(4 B区456)

木口と柾目ではコルク組織とコルク皮層が交互に並んで密に詰まっている。板目では細胞が放射方向に規則正しく配列している。しかし桜、樺の皮は顕微鏡観察での判別は難しい。

15) イネ科タケ亜科 (Subfam. Bambusoideae)

(4 B区457)

稈の横断面では維管束が不規則に並立して基本組織に配列している。個々の維管束の周囲を多量の厚壁繊維の組織(維管束鞘)がとりまいている。稈の縦断面では維管束、維管束鞘、その他の基本組織の細胞を含むすべての要素が稈軸方向に配列している。タケ亜科は熱帯から暖帯、一部温帯に分布する。

参考文献

島地 謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版(1988)

島地 謙・伊東隆夫「図説木材組織」地球社(1982)

伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載I～V」京都大学木質科学研究所(1999)

木村四郎・村田 源「原色日本植物図鑑木本編I・II」保育社(1979)

深澤和三「樹体の解剖」海青社(1997)

使用顕微鏡

Nikon

MICROFLEX UFX-DX Type 115

許諾手続き中

許諾手続き中

許諾手続き中

許諾手続き中

許諾手続き中

許諾手続き中

許諾手続き中

許諾手続き中

許諾手続き中

許諾手続き中

許諾手続き中

許諾手続き中

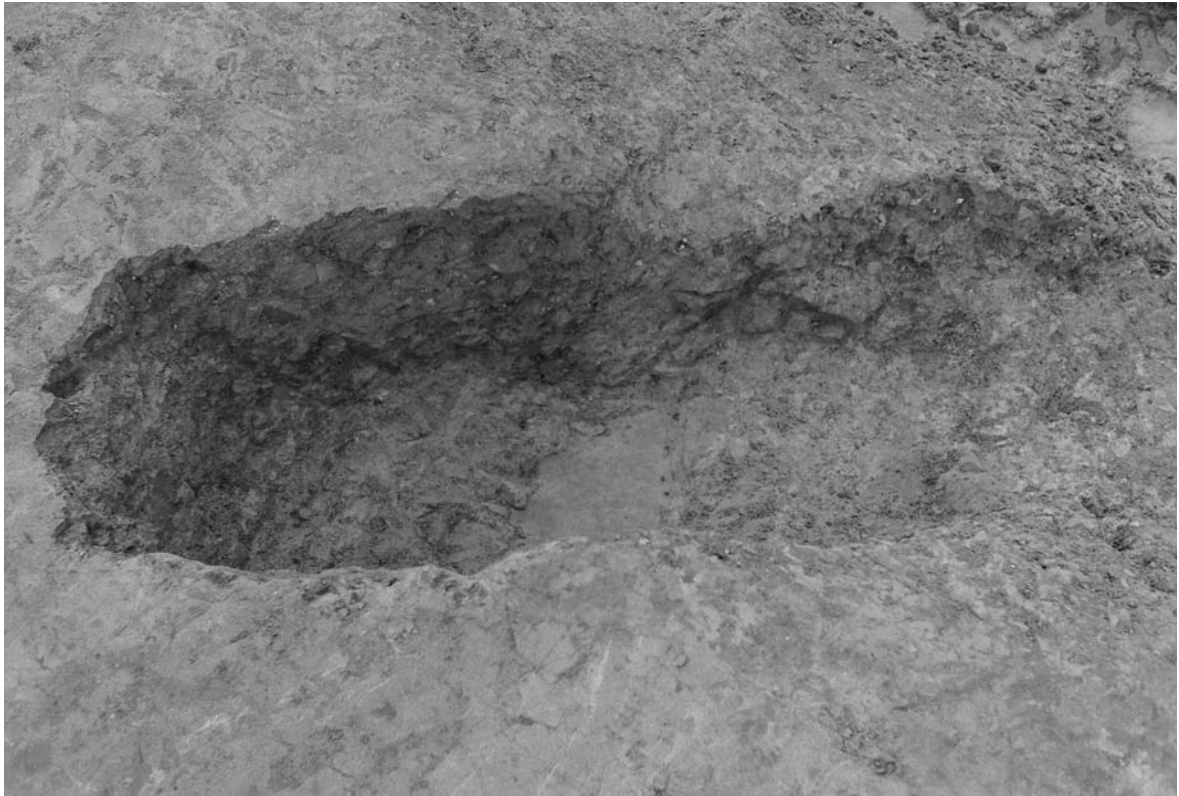
許諾手続き中

許諾手続き中

許諾手続き中

許諾手続き中

写真図版



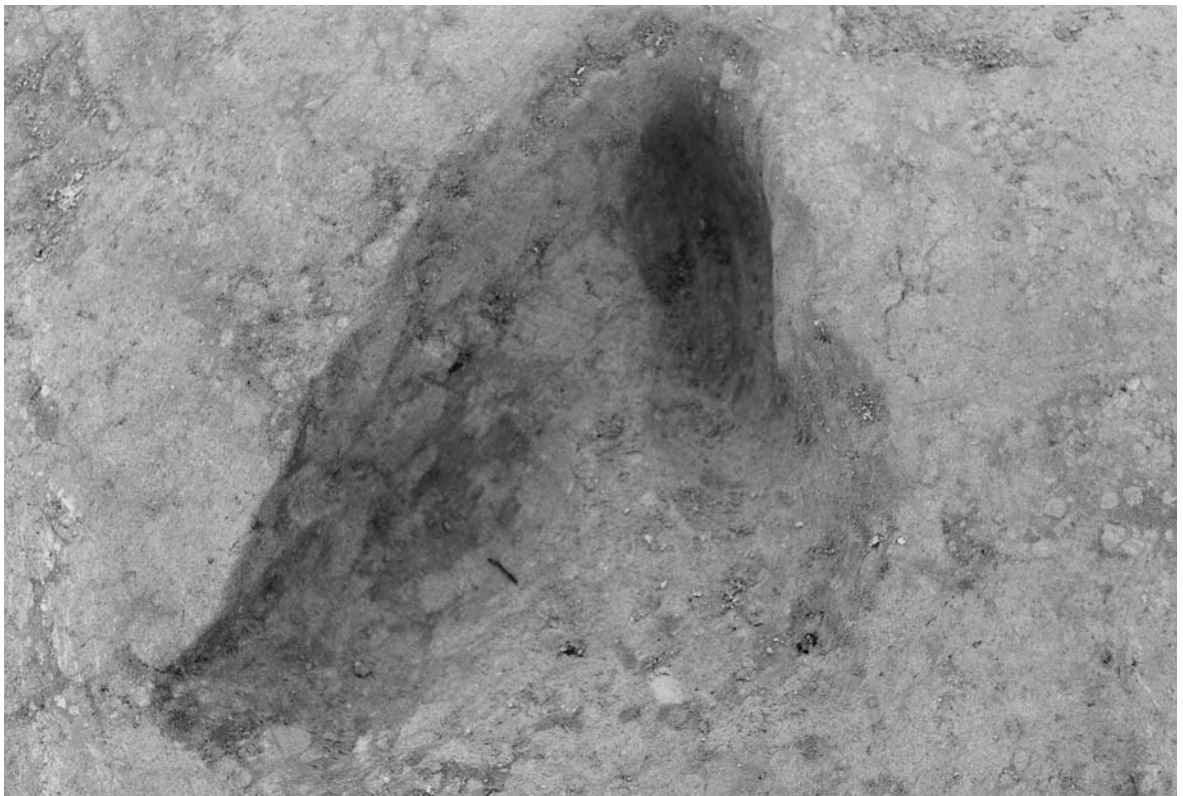
4 A区S K 1 完掘状态



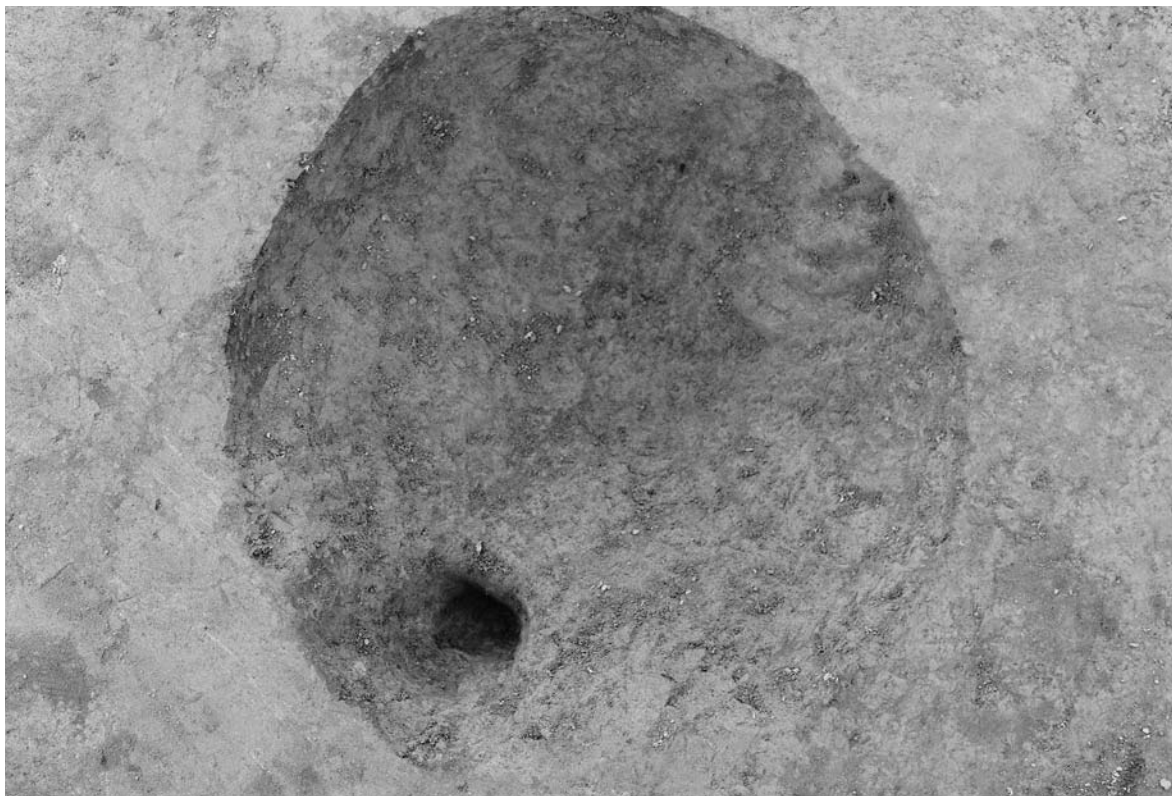
4 A区S K 1 埋積状态



4 A区P 1 完掘状態



4 A区P 2 完掘状態



4 A区P 3完掘状态



4 A区P 4完掘状态



4 A区遺物出土状態



4 A区遺物出土状態



4 A区遺物出土状態



4 A区遺物出土状態



4 A区木根周辺の遺物出土状態



同 上



4 A区木根周辺の遺物出土状態



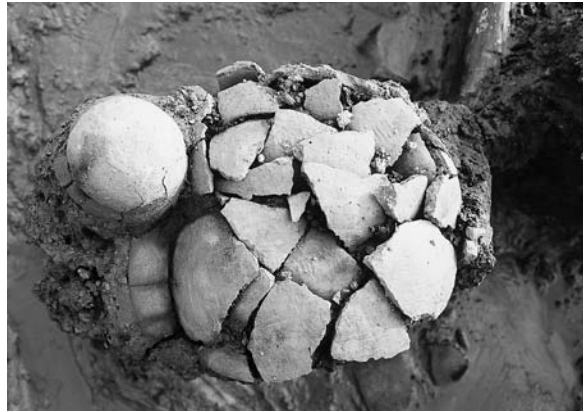
4 A区L6-21・22グリッドⅢd層遺物出土状態



4 A区L6-17グリッドⅢd層遺物出土状態



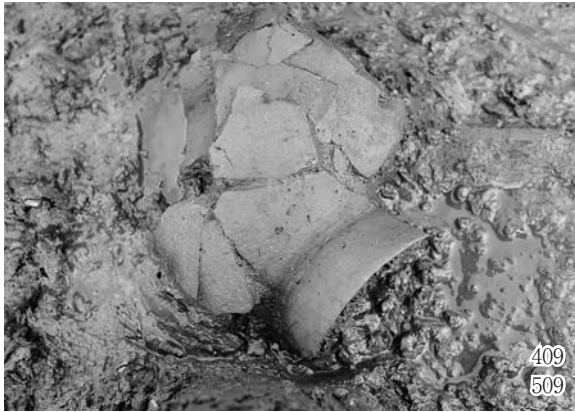
4 A区調査風景



4 A区Ⅲc層・Ⅲd層遺物出土状態



4 A区Ⅲd層群遺物出土状態1



4 A区Ⅲd層群遺物出土狀態 2



4 A区Ⅲb層・Ⅲd層群遺物出土状態



4 A区出土遺物 1



4 A 区出土遺物 2



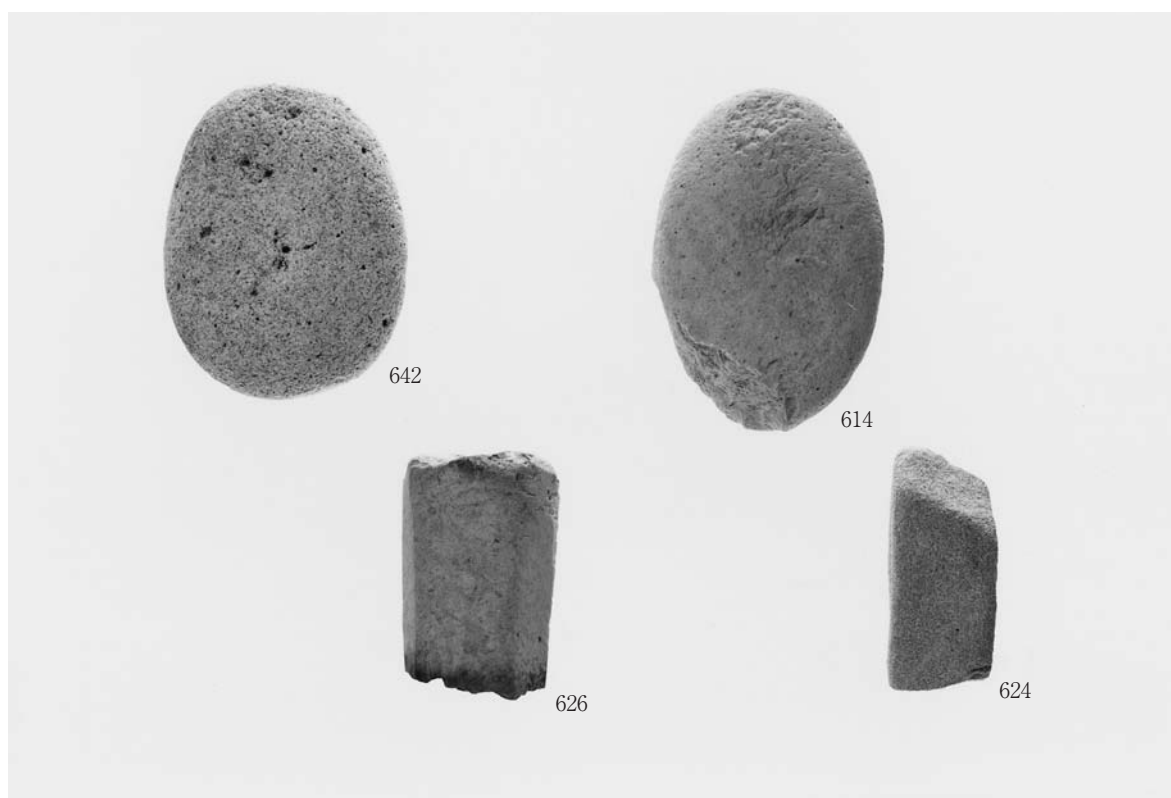
4 A区出土遺物 3



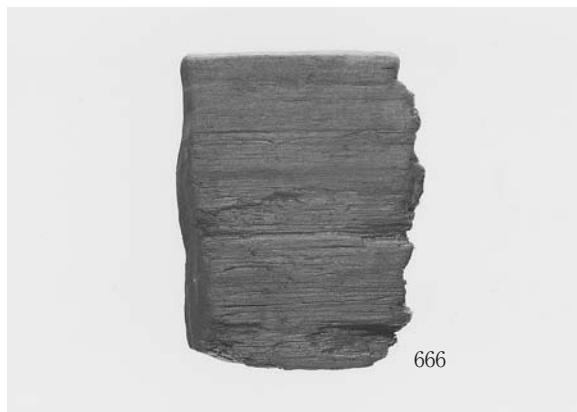
4 A区出土遺物 4



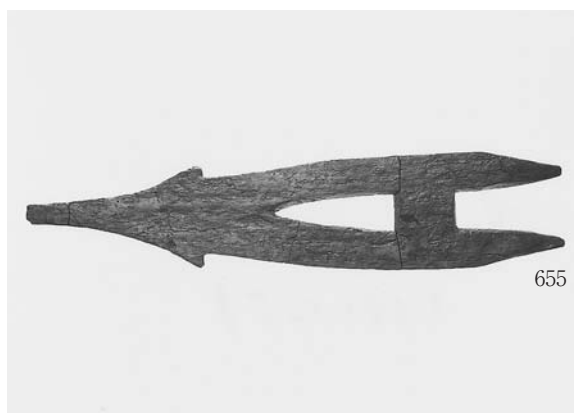
4 A区出土遺物 5



4 A区出土遺物 6



4 A区出土遺物 7



4 A 区出土遺物 8



4 B区完掘状態（南東から）



4 B区完掘状態（南から）



4 B区西完掘状態（手前）・4 A区（奥）



4 B区中央ベルトセクション（西から）



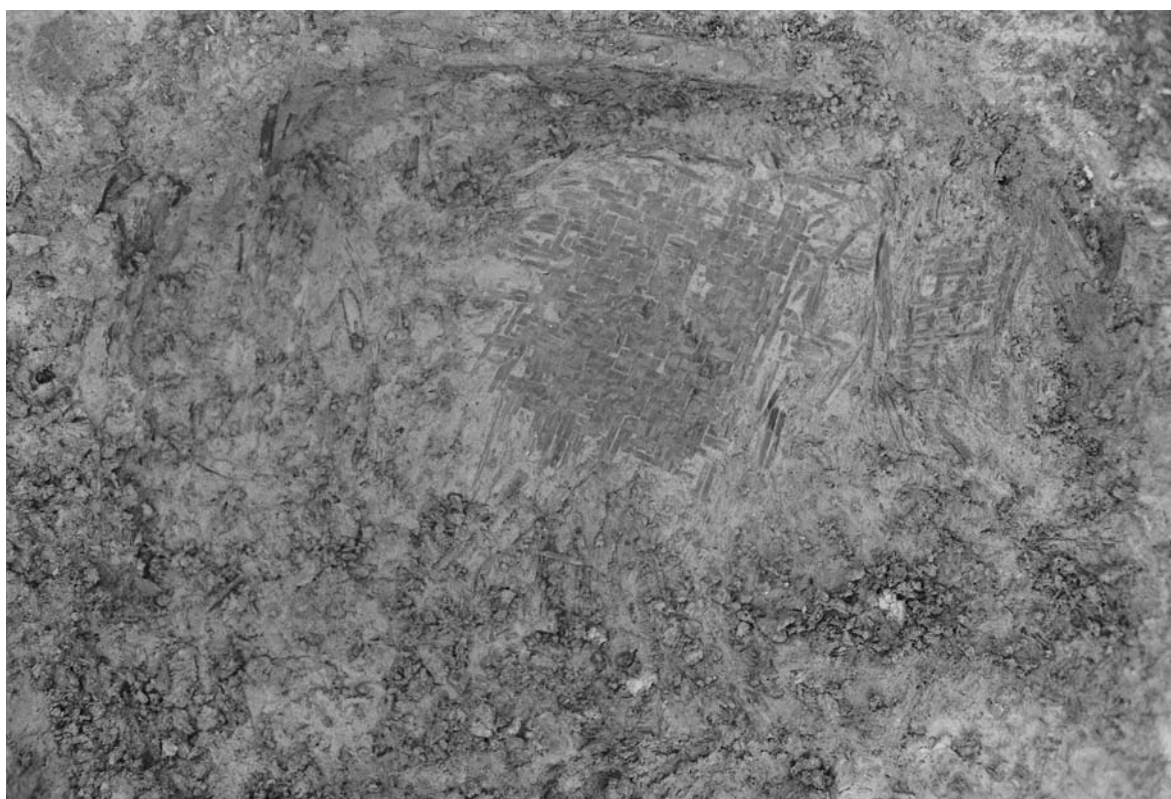
4 B区SK1完掘状态



4 B区SK1坚果类出土状态



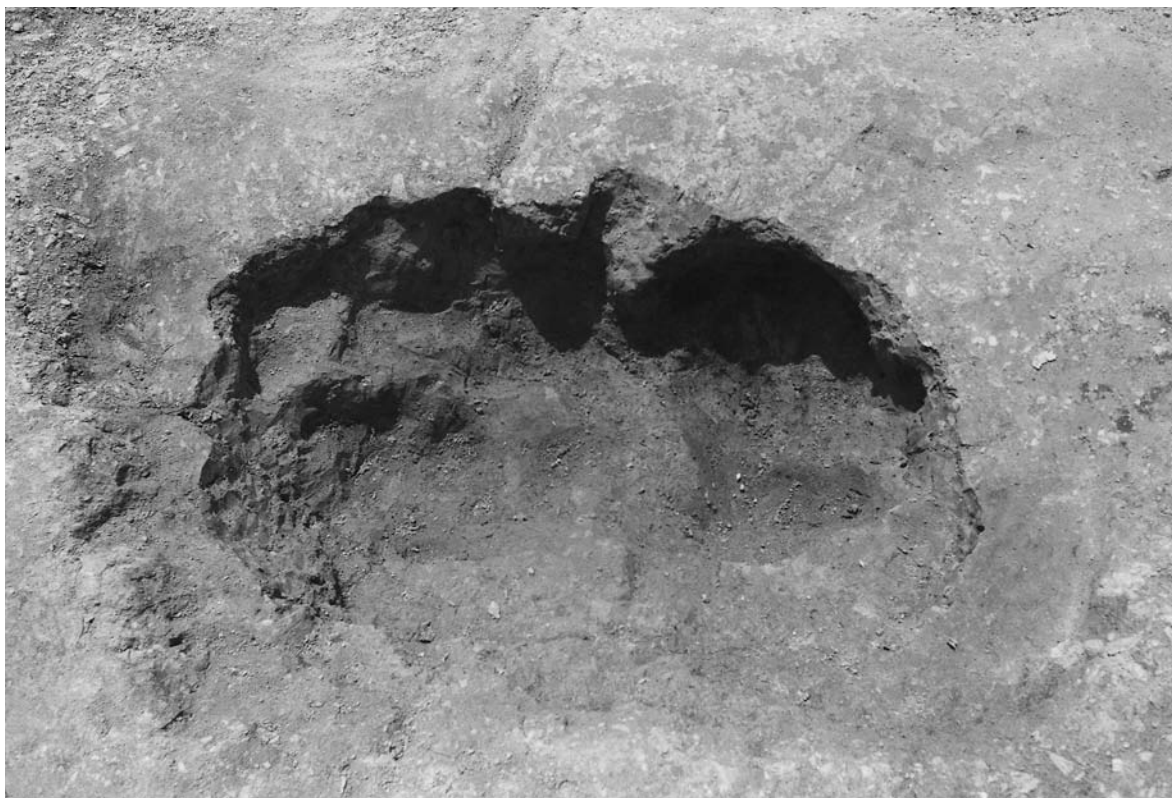
4 B 区 S K 1 出土狀態



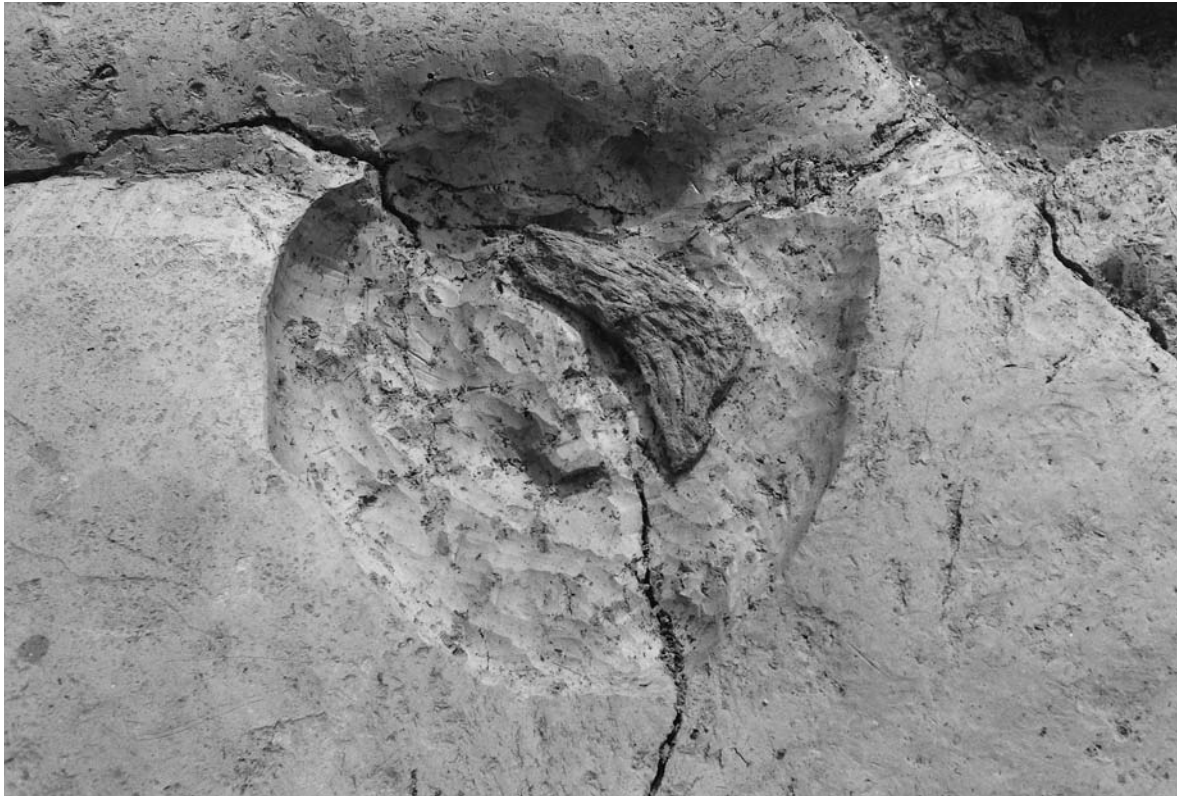
4 B 区 S K 1 網籠狀遺物出土狀態



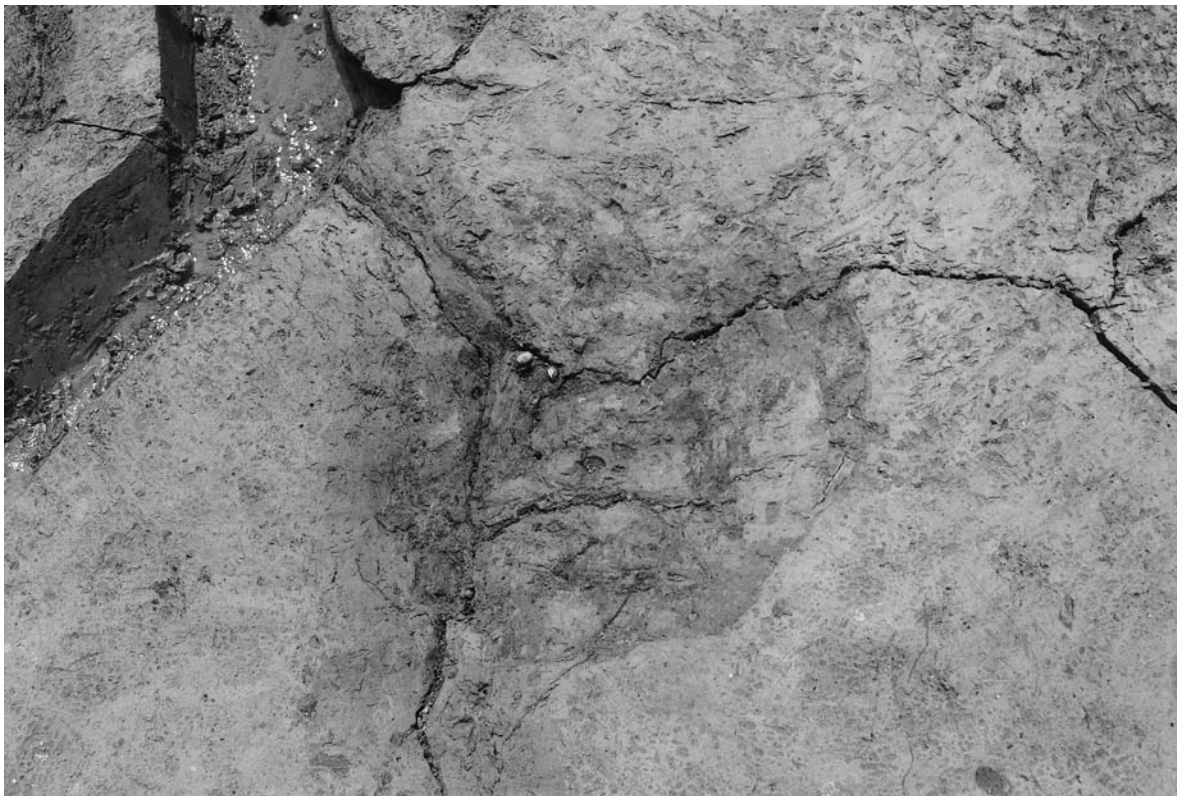
4 B区S K 2堅果類出土狀態



4 B区S K 5完掘狀態



4 B区SK 6 出土状態



4 B区SK 6 検出状態



4 B 区L5-22・L6-1グリッド遺物出土状態



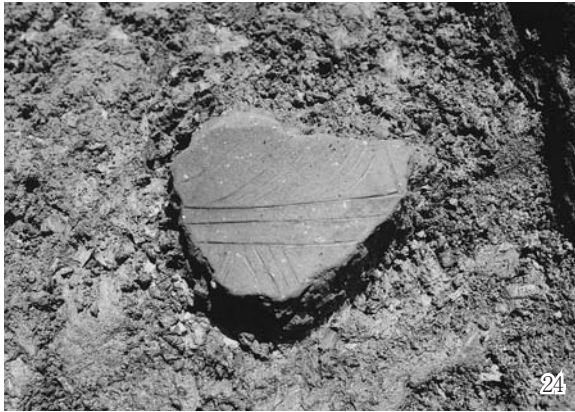
4 B 区K5-19グリッド遺物出土状態



4 B 区表土掘削状態



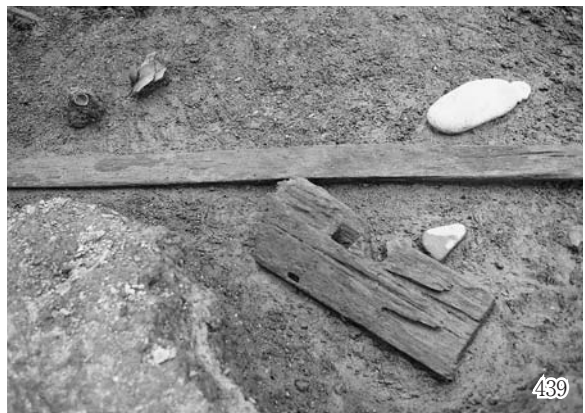
4 B 区調査風景



4 B区ⅢC層・ⅢD層群遺物出土状態



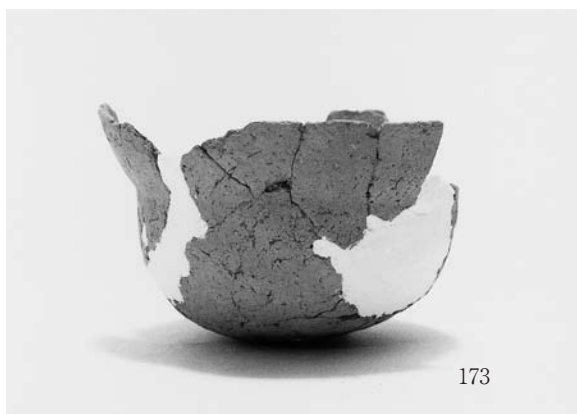
4 B 区ⅢD層群遺物出土狀態



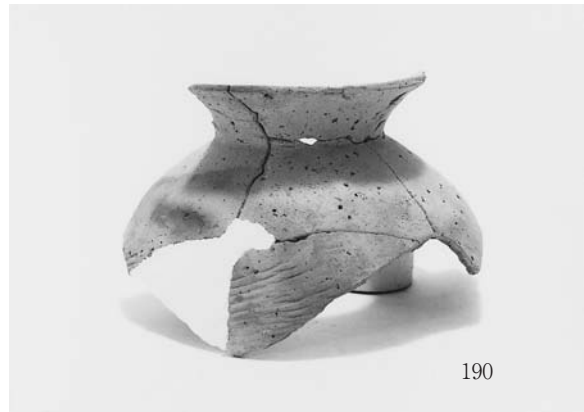
4 B 区木製品・自然遺物出土状態



4 B区出土遺物 1

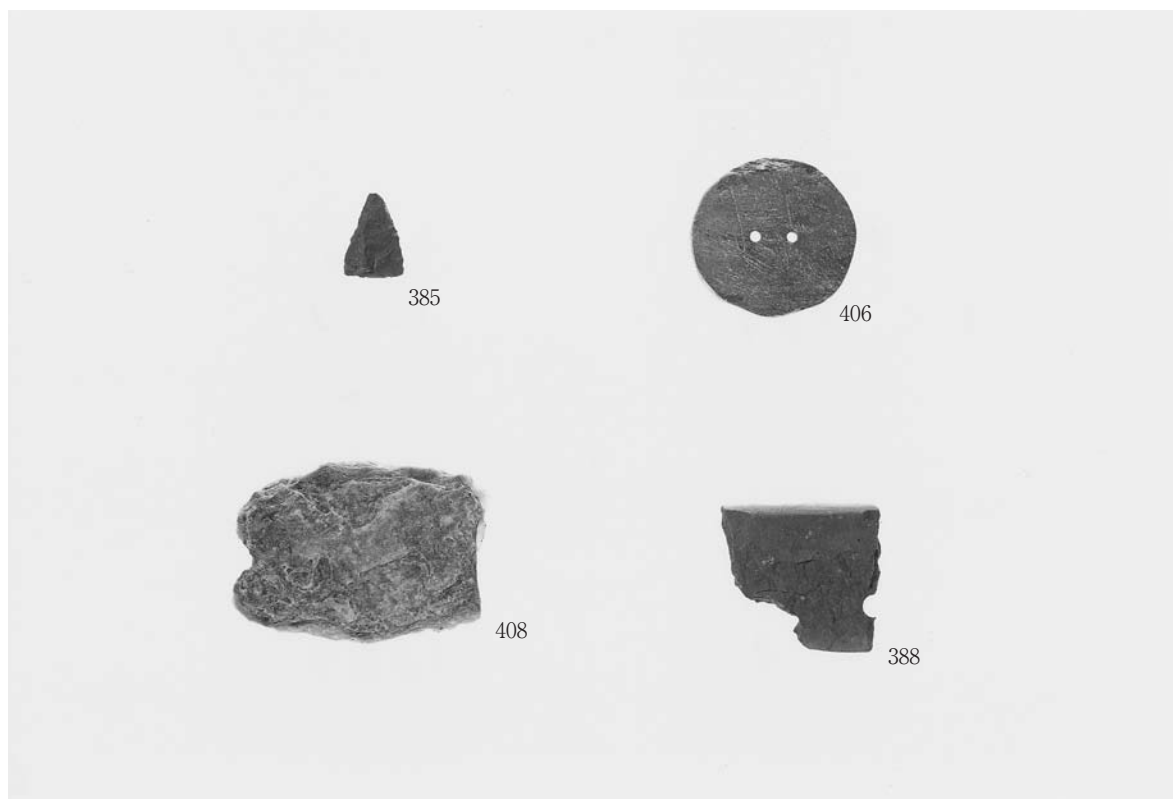


4 B区出土遺物 2

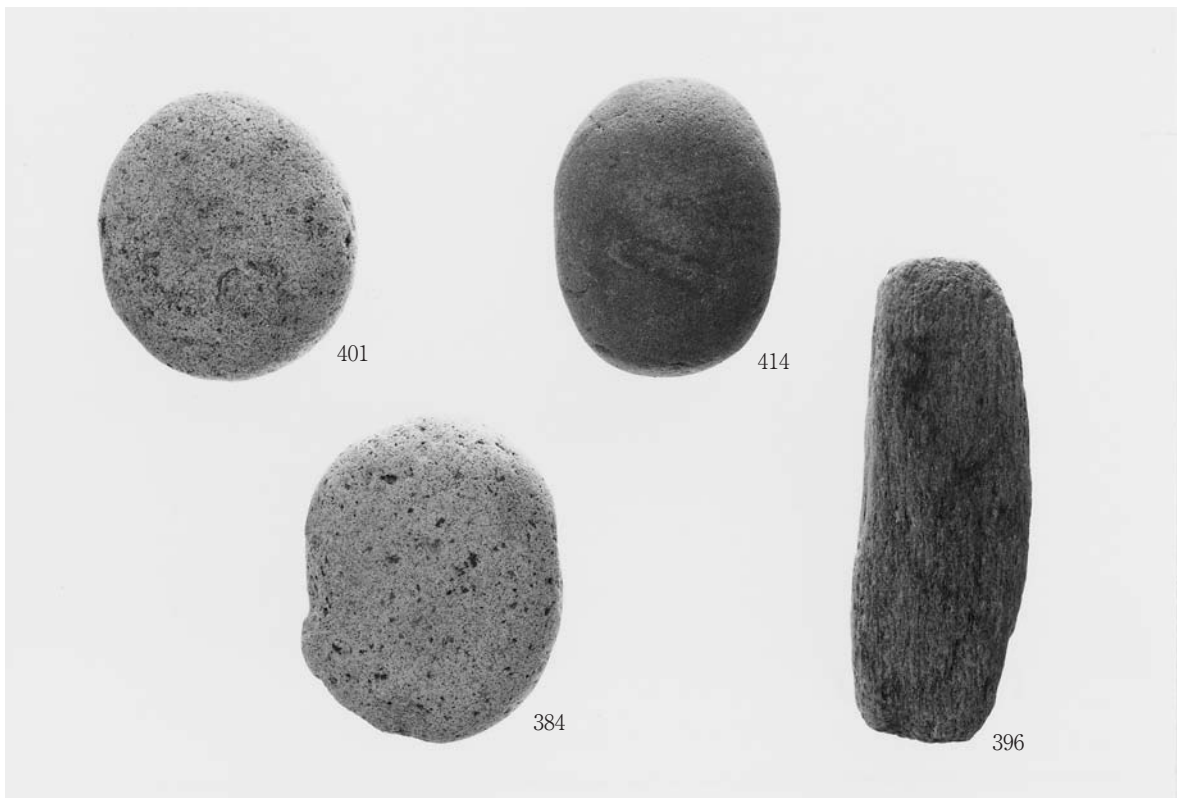
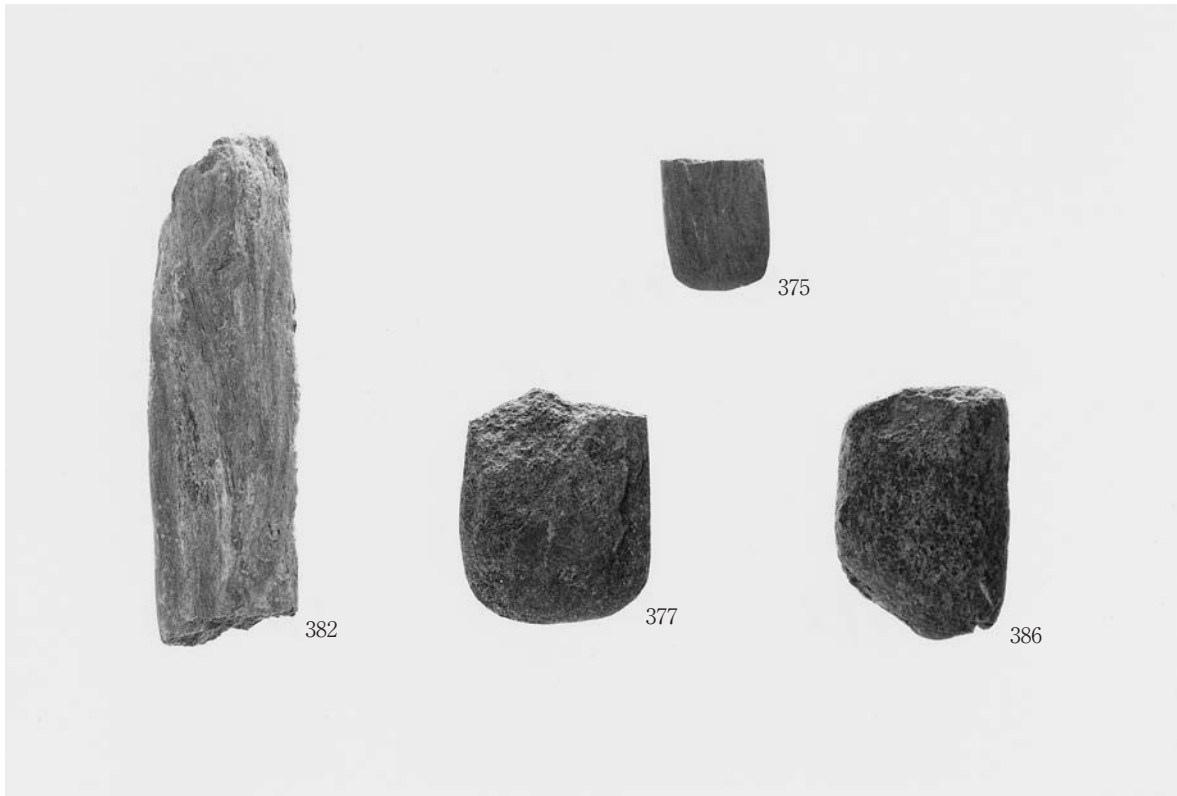




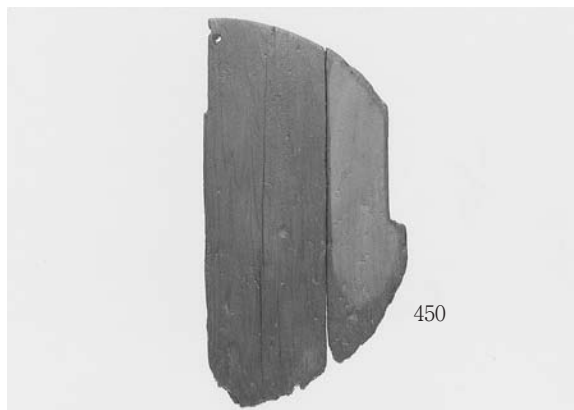
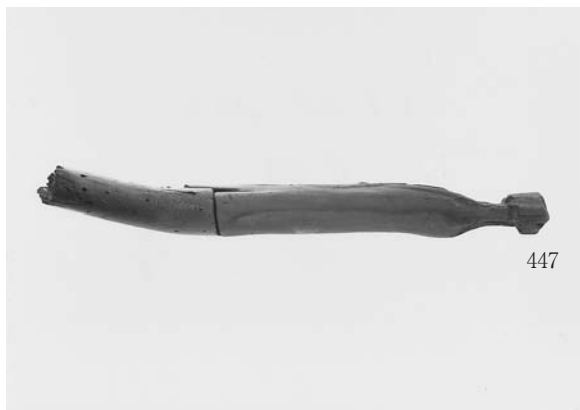
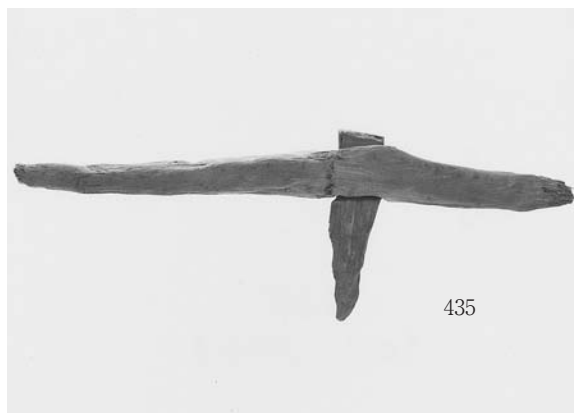
4 B区出土遺物 4

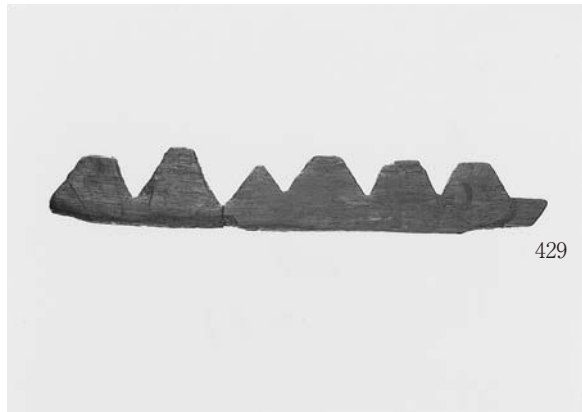


4 B区出土遺物 5



4 B区出土遺物 6



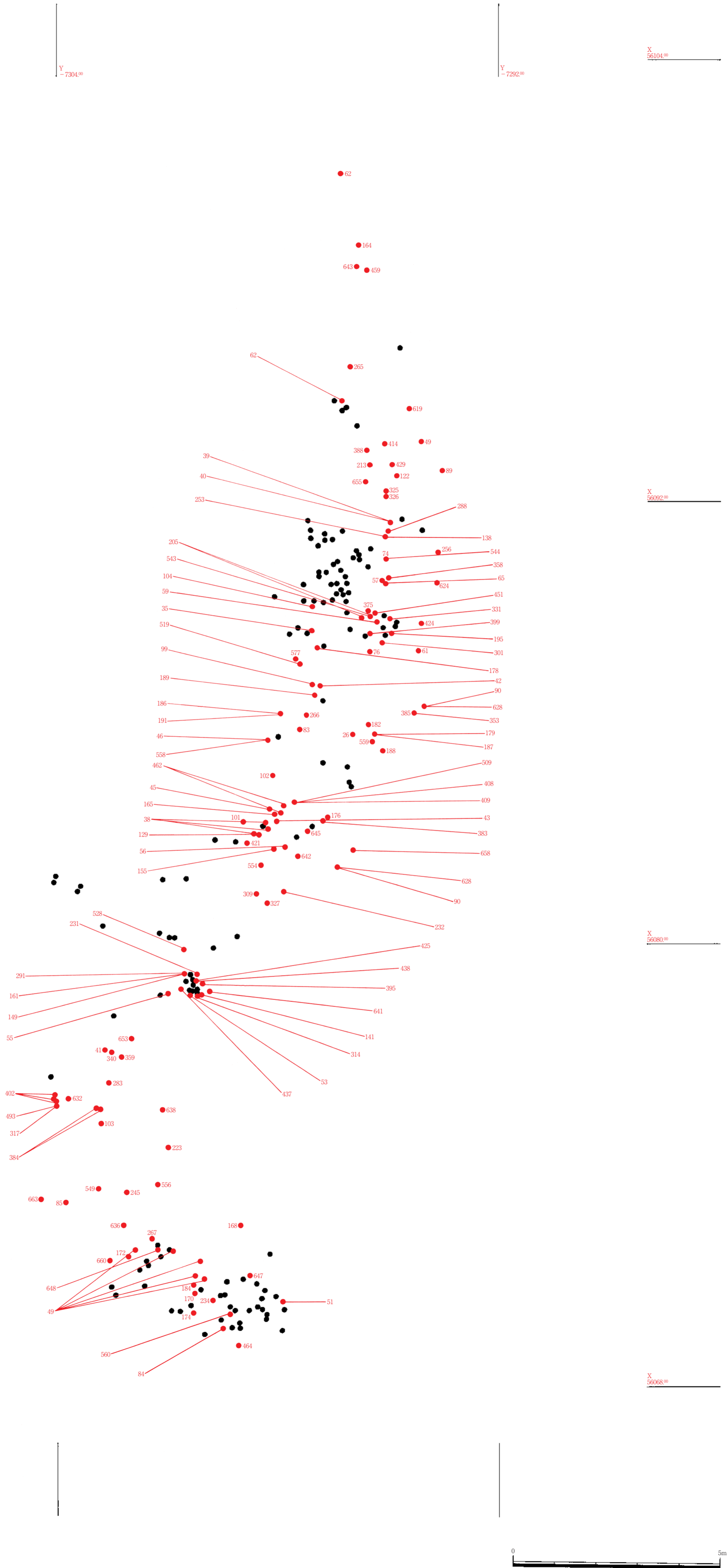


4 B区出土遺物 8

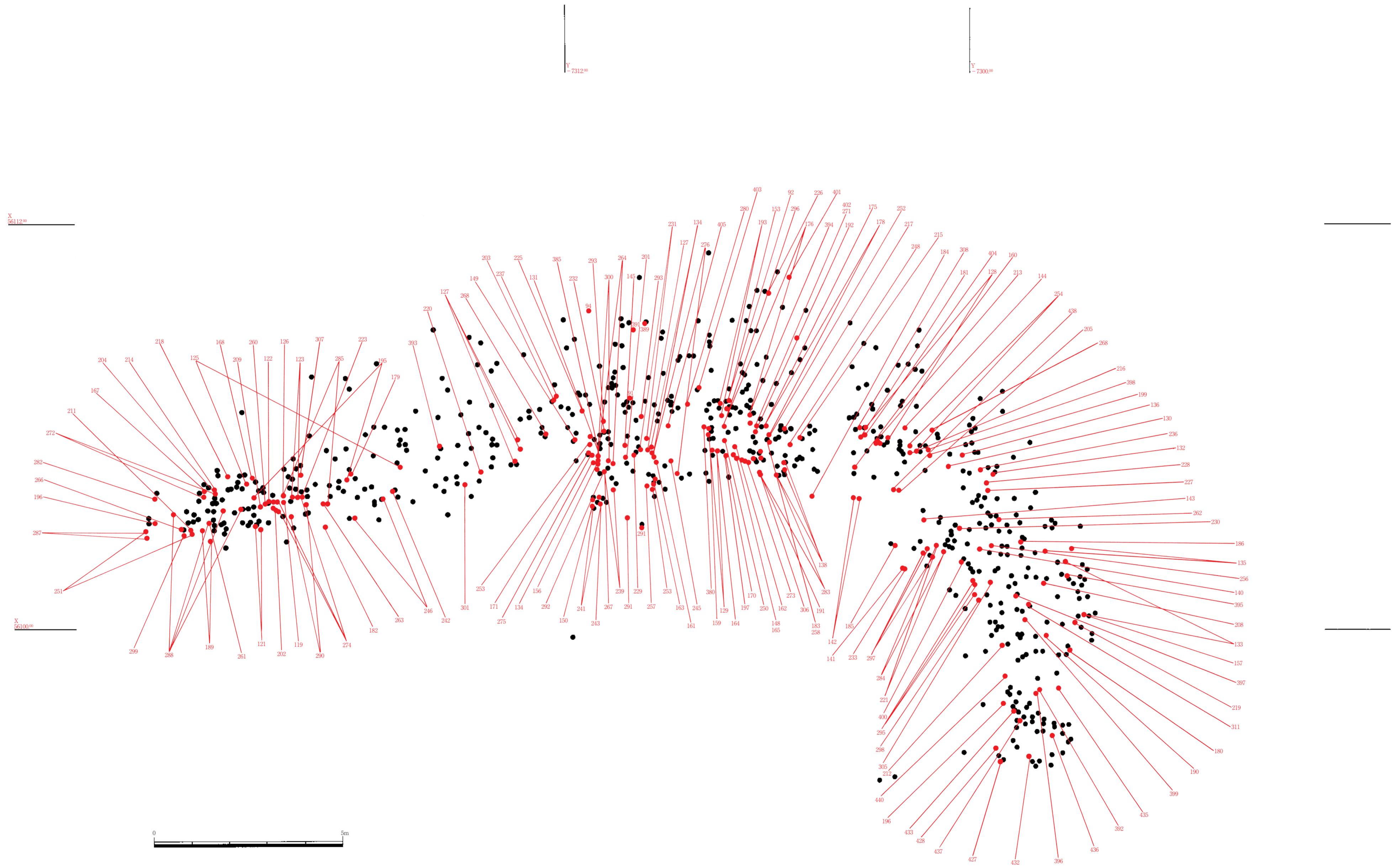


報告書抄録

ふりがな	いとくいせきぐん							
書名	居徳遺跡群 V							
副書名	四国横断自動車道(伊野～須崎間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第86集							
編著者名	松葉礼子・汐見 真・岡田文男・大澤正巳・鈴木瑞穂・藤方正治							
編集機関	財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター							
所在地	〒783-0006 高知県南国市篠原1437-1 TEL088-864-0671							
発行年月日	2003年12月24日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いとくいせきぐん 居徳遺跡群	こうちけん 高知県 とさし 土佐市 たかおからょうおつ 高岡町乙 いとく 居徳ほか	39205	50087	33度 30分 10秒	133度 25分 8秒	19971017 ～ 19990331	3,616m ²	四国横断 自動車道 (伊野～ 須崎間) 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
4A区	祭祀	縄文時代晩期 弥生時代中期末 から後期 古墳時代	土坑	縄文土器、弥生土器、 土師器、須恵器				
4B区	祭祀	縄文時代晩期 弥生時代中期末 から後期 古墳時代	貯蔵穴	縄文土器、弥生土器、 土師器、須恵器				



付图1 4 A区出土遗物分布 III d层 (S: 1/80)



付图2 4 B区出土遗物分布 III D层群 (S: 1/80)

(財)高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第86集

居徳遺跡群 V

四国横断自動車道(伊野～須崎間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2003年12月24日

発行 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原1437-1

Tel. 088-864-0671

印刷 共和印刷株式会社